

令和5年度

決算主要施策の成果報告書

和歌山県紀の川市

地方自治法（昭和22年法律第67号）第233条第5項の規定により、令和5年度紀の川市一般会計及び特別会計決算に係る主要施策の成果等について、次のとおり報告します。

令和6年8月30日

紀の川市長 岸 本 健

目 次

1.	令和5年度会計別決算収支の状況	—————	1
2.	令和5年度会計別歳入歳出決算の状況	—————	1
3.	令和5年度普通会計の状況	—————	3
	1) 決算収支の状況	3
	2) 歳入の状況	5
	3) 歳出の状況	7
4.	職員給与費の状況	—————	11
5.	地方債の状況	—————	14
	1) 地方債現在高の状況	14
	2) 地方債年度別償還予定の状況	15
6.	基金の状況	—————	17
7.	一般会計から他会計への繰出金等の状況	—————	18
8.	その他資料	—————	19
	1) 人口推移	19
	2) 学校別児童生徒数	19
	3) 保育施設別児童数	20
	4) 放課後児童クラブ別児童数	20
9.	一般会計主要施策の成果	—————	21
	[歳入] 市税等収納実績に関する科目	21
	[歳出] 1 款 議会費	28
	2 款 総務費	30
	3 款 民生費	118
	4 款 衛生費	173
	5 款 労働費	209
	6 款 農林業費	212
	7 款 商工費	243
	8 款 土木費	258
	9 款 消防費	294
	10 款 教育費	304
	11 款 災害復旧費	352
10.	特別会計主要施策の成果	—————	357
	国民健康保険事業勘定特別会計	357
	国民健康保険直営診療施設勘定特別会計	362
	後期高齢者医療特別会計	364
	介護保険事業勘定特別会計	368
	財産区特別会計	372

1. 令和5年度会計別決算収支の状況

区 分	歳入総額 (A)	歳出総額 (B)	歳入歳出差引額 (A)-(B) (C)	翌年度繰越 財源 (D)	実質収支 (C)-(D) (E)
一般会計	33,915,406,572	31,877,395,681	2,038,010,891	862,613,700	1,175,397,191
土地取得事業 特別会計	171,599	171,599			
国民健康保険事業 勘定特別会計	7,656,822,942	7,590,904,964	65,917,978		65,917,978
国民健康保険直営診 療施設勘定特別会計	40,399,276	40,399,276			
後期高齢者医療 特別会計	1,792,894,479	1,788,544,314	4,350,165		4,350,165
介護保険事業勘定 特別会計	7,371,463,872	7,193,192,119	178,271,753		178,271,753
財産区特別会計	23,840,513	11,243,274	12,597,239		12,597,239

2. 令和5年度会計別歳入歳出決算の状況

区 分	令和5年度				
	予算現額(A)	歳入決算額(B)	収入率(B)÷(A)	歳出決算額(C)	執行率(C)÷(A)
一般会計	35,269,990,000	33,915,406,572	96.2	31,877,395,681	90.4
土地取得事業 特別会計	200,000	171,599	85.8	171,599	85.8
国民健康保険事業 勘定特別会計	8,070,588,000	7,656,822,942	94.9	7,590,904,964	94.1
国民健康保険直営診 療施設勘定特別会計	41,853,000	40,399,276	96.5	40,399,276	96.5
後期高齢者医療 特別会計	1,804,425,000	1,792,894,479	99.4	1,788,544,314	99.1
介護保険事業勘定 特別会計	7,473,537,000	7,371,463,872	98.6	7,193,192,119	96.2
財産区特別会計	23,256,000	23,840,513	102.5	11,243,274	48.3

(単位：円)

前年度実質収支 (F)	単年度収支 (E)-(F) (G)	積立金積立額 (H)	繰上償還金 (I)	積立金取崩額 (J)	実質単年度収支 (G)+(H)+(I)-(J)
1,044,778,538	130,618,653	22,929,000			153,547,653
48,942,792	16,975,186	173,000		162,315,000	△ 145,166,814
3,601,500	748,665				748,665
194,614,331	△ 16,342,578	42,527,000			26,184,422
5,698,661	6,898,578	977,000		10,264,000	△ 2,388,422

備考：1) 普通会計に属さない特別会計の積立金積立額・取崩額は、全ての基金を考慮しています。

令和4年度		増減比較			
歳入決算額(D)	歳出決算額(E)	歳入増減額(B)-(D)	歳入増減率	歳出増減額(C)-(E)	歳出増減率
33,440,872,616	31,900,651,078	474,533,956	1.4	△ 23,255,397	△ 0.1
172,011	172,011	△ 412	△ 0.2	△ 412	△ 0.2
7,691,438,863	7,642,496,071	△ 34,615,921	△ 0.5	△ 51,591,107	△ 0.7
31,535,954	31,535,954	8,863,322	28.1	8,863,322	28.1
1,794,534,564	1,790,933,064	△ 1,640,085	△ 0.1	△ 2,388,750	△ 0.1
7,235,193,818	7,040,579,487	136,270,054	1.9	152,612,632	2.2
13,564,638	7,865,977	10,275,875	75.8	3,377,297	42.9

3. 令和5年度普通会計の状況（地方財政状況調査の速報値）

1) 決算収支の状況

区 分	歳入総額 (A)	歳出総額 (B)	歳入歳出差引額 (A)-(B) (C)	翌年度繰越 財源 (D)	実質収支 (C)-(D) (E)
令和5年度	33,907,655	31,869,644	2,038,011	862,614	1,175,397
令和4年度	33,433,239	31,893,017	1,540,222	495,443	1,044,779

◇ 普通会計決算における純計決算額の算定明細

	決算額	歳 入	
		左のうち相互重複	
		相手会計名	金額
一 般 会 計	33,907,483		
計	ア 33,907,483		イ
普通会計 を構成する 特別会計		土地取得事業特別会計 172	
計	オ 172		カ
普 通 会 計	(ア-イ+オ-カ) 33,907,655		

備考：1) 後期高齢者医療において、一般会計で処理した一部分が、「地方財政状況調査」の作成要項（取り扱い）と異なるため、歳入決算額および歳出決算額が実質数値と異なっています。

◇ 主な財政分析指標（単位：％）

区 分		令和5年度	令和4年度
実質収支比率		6.6	5.8
経常収支比率		(95.1) 94.6	(93.8) 92.8
うち	人件費	(24.5) 24.4	(24.8) 24.5
	物件費	(14.3) 14.3	(13.7) 13.5
	扶助費	(10.6) 10.6	(9.7) 9.6
	補助費等	(17.1) 17.0	(16.3) 16.1
	公債費	(15.2) 15.2	(16.1) 15.9
財政力指数		0.41	0.41

備考：2) 実質収支比率の算定は、臨時財政対策債発行可能額を含んでいます。

3) 経常収支比率の（ ）は、臨時財政対策債を経常一般財源等から除いた比率です。

4) 標準財政規模の算出は、臨時財政対策債発行可能額を含んでいます。

(単位：千円)

単年度収支 (F)	財政調整基金 積立額 (G)	繰上償還金 (H)	財政調整基金 取崩額 (I)	実質単年度収支 (F)+(G)+(H)-(I)
130,618	22,929			153,547
△ 71,053	557,563			486,510

(単位：千円)

歳 出		左のうち相互重複	
決 算 額	相手会計名		金額
	31,869,472		
ウ			エ
31,869,472			
172			
キ			ク
172			
(ウ-エ+キ-ク)			
31,869,644			

◇ 将来にわたる財政負担

(単位：千円、%)

区 分		令和5年度	令和4年度	増減率
地方債現在高 (A)		23,245,701	23,797,102	△ 2.3
債務負担行為の 翌年度以降支出 予定額 (B)		1,647,009	2,468,513	△ 33.3
積立金現在高 (C)		13,977,420	13,933,216	0.3
うち	財政調整基金	6,145,066	6,122,137	0.4
	減債基金	2,970,682	2,762,126	7.6
	その他目的基金	4,861,672	5,048,953	△ 3.7
(A)+(B)-(C) (D)		10,915,290	12,332,399	△ 11.5
標準財政規模 (E)		17,957,183	17,892,894	0.4
対 標 準 財 政 規 模	((A)+(B))/(E)	1.4	1.5	
	(C)/(E)	0.8	0.8	
	(D)/(E)	0.6	0.7	

2) 歳入の状況

区 分	令和5年度						
	決算額 (A)	うち臨時的なもの(B)		差引経常的 なもの (A)-(B)	左の内訳		決算額 構成比 (%)
		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源	
1. 地方税	6,963,318		354,451	6,608,867		6,608,867	20.5
2. 地方譲与税	294,167			294,167		294,167	0.9
3. 利子割交付金	3,088			3,088		3,088	0.0
4. 配当割交付金	61,532			61,532		61,532	0.2
5. 株式等譲渡所得割交付金	61,547			61,547		61,547	0.2
6. 地方消費税交付金	1,371,750			1,371,750		1,371,750	4.1
7. ゴルフ場利用税交付金	24,028			24,028		24,028	0.1
8. 自動車取得税交付金	3,313			3,313		3,313	0.0
9. 自動車税環境性能割交付金	35,878			35,878		35,878	0.1
10. 法人事業税交付金	78,039			78,039		78,039	0.2
11. 地方特例交付金等	67,097			67,097		67,097	0.2
12. 地方交付税	10,517,226		1,128,521	9,388,705		9,388,705	31.0
13. 交通安全対策特別交付金	3,954			3,954		3,954	0.0
14. 分担金及び負担金	170,269	38,909		131,360	131,360		0.5
15. 使用料	92,214		3,831	88,383	78,673	9,710	0.3
16. 手数料	146,539			146,539	146,539		0.4
17. 国庫支出金	5,149,475	918,499	1,201,238	3,029,738	3,029,738		15.2
18. 県支出金	2,181,847	374,754	11,861	1,795,232	1,795,232		6.4
19. 財産収入	83,757	15,500	35,068	33,189	13,448	19,741	0.3
20. 寄附金	1,912,010		1,912,010				5.6
21. 繰入金	708,269	308,269	400,000				2.1
22. 繰越金	1,540,222	202,764	1,337,458				4.5
23. 諸収入	300,716	8,747	108,646	183,323	108,079	75,244	0.9
内訳	収益事業収入						
	貸付金元利収入	5,851		5,851			0.0
	その他	294,865	8,747	102,795	183,323	108,079	75,244
24. 地方債	2,137,400	2,039,100	98,300				6.3
うち	県貸付金						
	減収補填債特例分						
	臨時財政対策債	98,300		98,300			0.3
歳入合計	33,907,655	3,906,542	6,591,384	23,409,729	5,303,069	18,106,660	100.0
歳入構成比 (%)	100.0	11.5	19.4	69.1	15.7	53.4	

(R4→R5、増減〔＋：増額、△：減額、±0：同額〕、単位：千円)

令和4年度			増減率 (A)-(C) (C) (%)	主な増減内容
決算額 (C)	左のうち 経常一般財源	決算額 構成比 (%)		
6,944,372	6,596,655	20.8	0.3	固定資産税(家屋、現年分)の増 1,367,624→1,417,760 +50,136 法人市民税(法人税割、現年分)の減 233,076→186,916 △46,160
291,326	291,326	0.9	1.0	自動車重量譲与税の増 200,737→203,231 +2,494 地方揮発油譲与税の増 67,065→67,412 +347
3,599	3,599	0.0	△14.2	利子課税額の減少による減
51,402	51,402	0.1	19.7	配当課税額の増加による増
36,670	36,670	0.1	67.8	株式等譲渡所得課税額の増加による増
1,370,948	1,370,948	4.1	0.1	消費税・地方消費税額の増加による増
26,563	26,563	0.1	△9.5	ゴルフ場利用税収入の減少による減
			皆増	自動車取得税交付金の過年度分交付による増
30,131	30,131	0.1	19.1	自動車税環境性能割の増加による増
78,426	78,426	0.2	△0.5	法人事業税の減少による減
62,377	62,377	0.2	7.6	新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特別交付金の増 5,912→12,012 +6,100
10,325,169	9,316,684	30.9	1.9	普通交付税の増 9,316,684→9,388,705 +72,021 特別交付税の増 1,008,485→1,128,521 +120,036
4,362	4,362	0.0	△9.4	交通反則金収入の減少による減
172,021		0.5	△1.0	保育所保育料の減 30,840→25,327 △5,513 老人福祉施設入所者負担金の減 16,851→14,227 △2,624
90,276	9,031	0.3	2.1	貴志川生涯学習センター使用料の増 474→1,448 +974 体育館使用料の増 1,209→2,000 +791
149,968		0.4	△2.3	ごみ処理手数料の減 79,073→76,703 △2,370 開発行為許可申請手数料の減 728→260 △468
5,168,819		15.5	△0.4	電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金給付事業補助金の減 325,450→0 △325,450 住民税非課税世帯等臨時特別給付金給付事業補助金の減 197,800→0 △197,800
2,177,397		6.5	0.2	障害者自立支援給付費負担金の増 342,776→376,153 +33,377 農業水路等長寿命化・防災減災事業補助金の増 33,748→54,500 +20,752 防災重点農業用ため池緊急整備事業補助金の減 140,563→91,186 △49,377
128,397	19,661	0.4	△34.8	土地建物売払収入の減 74,284→32,678 △41,606 財政調整基金預金利子の減 2,371→600 △1,771
1,393,036		4.2	37.3	ふるさとまちづくり寄附金の増 1,392,120→1,909,159 +517,039
620,569		1.8	14.1	減債基金繰入金の増 300,000→400,000 +100,000 公共施設等整備基金繰入金の増 47,000→96,000 +49,000
1,663,217		5.0	△7.4	前年度繰越金の減
326,194	75,345	1.0	△7.8	
5,975		0.0	△2.1	住宅新築資金元利収入の減 4,621→3,712 △909
320,219	75,345	1.0	△7.9	北勢田工業団地専用排水管移設補償金の減 36,806→0 △36,806 一部事務組合負担金前年度精算金の減 40,484→26,923 △13,561
2,318,000		6.9	△7.8	市道等改良事業債の減 190,400→46,900 △143,500 小学校施設長寿命化事業債の減 225,300→97,700 △127,600 収集事務所整備事業債の増 76,000→328,300 +252,300
210,100		0.6	△53.2	臨時財政対策債の減 210,100→98,300 △111,800
33,433,239	17,973,180	100.0	1.4	
100.0	53.8			

3) 歳出の状況

◇ 目的別

区 分	令 和 5 年 度					令 和 4 年 度		
	決 算 額 (A)	左 の 内 訳		一般財源の うち投資的 経費充当額	決算額 構成比 (%)	決 算 額 (B)	左のうち 一般財源	決算額 構成比 (%)
		特定財源	一般財源					
1. 議 会 費	196,335		196,335		0.6	213,921	213,921	0.7
2. 総 務 費	4,839,708	567,626	4,272,082	71,592	15.2	5,393,312	4,789,361	16.9
3. 民 生 費	11,392,804	4,989,141	6,403,663	2,347	35.7	10,659,777	5,386,520	33.4
4. 衛 生 費	3,325,063	807,724	2,517,339	76,029	10.4	3,295,360	2,490,416	10.3
5. 労 働 費	25,816		25,816	2,116	0.1	1,096	1,096	0.0
6. 農林業費	1,204,546	647,390	557,156	103,685	3.9	1,099,137	494,243	3.5
7. 商 工 費	792,846	109,075	683,771	21,489	2.5	1,302,780	917,672	4.1
8. 土 木 費	2,199,504	554,762	1,644,742	313,467	6.9	2,485,174	1,510,712	7.8
9. 消 防 費	1,249,461	147,164	1,102,297	8,836	3.9	1,186,438	1,048,027	3.7
10. 教 育 費	3,186,405	947,818	2,238,587	107,594	10.0	3,346,746	2,240,007	10.5
11. 災害復旧費	683,155	423,885	259,270	259,270	2.1			
12. 公 債 費	2,774,001	15,026	2,758,975		8.7	2,909,276	2,894,206	9.1
13. 諸支出金								
14. 前年度繰上充用金								
歳 出 合 計	31,869,644	9,209,611	22,660,033	966,425	100.0	31,893,017	21,986,181	100.0

(R4→R5、増減〔+：増額、△：減額、±0：同額〕、単位：千円)

増減率 (A)-(B) (B) (%)	主な増減内容
△ 8.2	議会運営事業費の減 165,494→153,909 △11,585 議会秘書事業費の減 2,413→2,310 △103
△ 10.3	財政調整基金積立金の減 557,563→22,929 △534,634 地域振興基金積立金の減 387,186→789 △386,397 ふるさとまちづくり寄附金事業費の増 610,224→992,959 +382,735
6.9	低所得世帯生活支援臨時給付金給付事業費の増 0→676,997 +676,997 障害福祉サービス等給付事業費の増 1,389,588→1,569,780 +180,192 電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金給付事業費の減 341,883→0 △341,883
0.9	収集事務所整備事業費の増 80,100→358,945 +278,845 那賀衛生環境整備組合事業費の増 171,276→216,743 +45,467 新型コロナウイルスワクチン接種事業費の減 482,384→226,936 △255,448
2,255.5	シルバー人材センター運営支援事業費の増 0→24,816 +24,816
9.6	国営総合農地防災事業費の増 46,073→91,607 +45,534 農業活動事業費の増 3,609→30,751 +27,142 県営ため池等整備事業費の増 57,829→84,202 +26,373
△ 39.1	未来応援券事業費の減 645,253→0 △645,253 企業誘致促進事業費の減 83,072→31,375 △51,697 北勢田工業団地専用排水管移設事業費の減 33,950→0 △33,950
△ 11.5	市道等維持修繕事業費の減 344,348→221,339 △123,009 市道等改良事業費の減 222,763→105,326 △117,437 橋りょう維持修繕事業費の減 187,751→85,916 △101,835
5.3	防災施設管理運営事業費の増 35,595→59,707 +24,112 消防団運営事業費の増 132,299→143,511 +11,212 消防施設整備事業費の減 82,524→75,118 △7,406
△ 4.8	中学校空調設備整備事業費の減 138,983→0 △138,983 小学校施設長寿命化事業費の減 248,182→112,177 △136,005 中学校施設長寿命化事業費の増 11,234→293,097 +281,863
皆増	土木施設災害復旧事業費の増 0→518,528 +518,528 農業用施設災害復旧事業費の増 0→121,707 +121,707
△ 4.6	地方債管理事業（元金）費の減 2,819,670→2,688,800 △130,870 地方債管理事業（利子）費の減 89,606→85,201 △4,405
△ 0.1	

◇ 性質別

区 分	令和5年度								
	決 算 額 (A)	左のうち臨時的なもの(B)		差引経常的 なもの (A)-(B)	左 の 内 訳		決算額 構成比 (%)	経常収 支比率 (%)	
		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源			
1. 人件費 (7)	4,805,404	42,006	73,028	4,690,370	254,237	4,436,133	15.1	24.4	
2. 物件費	4,934,866	481,704	1,454,610	2,998,552	401,039	2,597,513	15.5	14.3	
3. 維持補修費	130,186			130,186	21,385	108,801	0.4	0.6	
4. 扶助費	6,793,093	251,939	723,622	5,817,532	3,894,611	1,922,921	21.3	10.6	
5. 補助費等	4,306,420	192,572	857,742	3,256,106	155,040	3,101,066	13.5	17.0	
内 訳	一部事務組合に対するもの	1,439,404	27,770	55,276	1,356,358		1,356,358	4.5	7.5
	その他のもの	2,867,016	164,802	802,466	1,899,748	155,040	1,744,708	9.0	9.6
6. 公債費	2,774,001			2,774,001	15,026	2,758,975	8.7	15.2	
内 訳	元利償還金	2,774,001		2,774,001	15,026	2,758,975	8.7	15.2	
	一時借入金利子								
7. 積立金	746,204	15,328	730,876				2.3		
8. 投資及び出資金・貸付金	711,212	99,400	537,810	74,002		74,002	2.2	0.4	
9. 繰出金	2,884,638	6,398	97,268	2,780,972	561,731	2,219,241	9.1	12.2	
10. 前年度繰上充用金									
計 (1～10)	28,086,024	1,089,347	4,474,956	22,521,721	5,303,069	17,218,652	88.1	94.6	
11. 投資的経費	3,783,620	2,817,195	966,425				11.9	(5.3)	
うち人件費 (4)	93,358		93,358				0.3	(0.5)	
(1) 普通建設事業費	3,100,465	2,393,310	707,155				9.8	(3.9)	
うち補助事業費	854,351	732,419	121,932				2.7	(0.7)	
うち単独事業費	2,099,166	1,519,866	579,300				6.6	(3.2)	
(2) 災害復旧事業費	683,155	423,885	259,270				2.1	(1.4)	
歳 出 合 計	31,869,644	3,906,542	5,441,381	22,521,721	5,303,069	17,218,652	100.0		
うち人件費 (7) + (4)	4,898,762	42,006	166,386	4,690,370	254,237	4,436,133	15.4		
歳出構成比 (%)	100.0	12.2	17.1	70.7	16.6	54.1			

(R4→R5、増減〔+：増額、△：減額、±0：同額〕、単位：千円)

令和4年度			増減率 (A)-(C) (C) (%)	主な増減内容
決算額 (C)	左のうち 経常一般財源	決算額 構成比 (%)		
4,843,535	4,457,337	15.2	△ 0.8	総合事務組合負担金(退職手当)の減 268,832→125,512 △143,320 社会保険料負担金の減 90,885→72,084 △18,801 会計年度任用職員報酬の増 610,974→658,114 +47,140
4,748,629	2,455,975	14.9	3.9	ふるさとまちづくり寄附金特産品等贈呈委託料の増 530,971→908,905 +377,934 基幹系システム構築委託料の増 1,760→45,493 +43,733 妊産婦健康診査委託料の増 0→31,615 +31,615
329,876	188,437	1.0	△ 60.5	市道等維持修繕事業工事請負費の減 207,555→0 △207,555 庁舎管理事業施設・器具修繕料の減 16,068→5,330 △10,738 生涯学習施設管理運営事業施設・器具修繕料の増 10,721→20,593 +9,872
6,201,447	1,736,894	19.4	9.5	低所得世帯生活支援臨時給付金の増 0→653,230 +653,230 障害福祉サービス給付費の増 1,346,874→1,523,938 +177,064 電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金の減 325,450→0 △325,450
4,767,523	2,935,734	15.0	△ 9.7	
1,364,111	1,315,469	4.3	5.5	那賀衛生環境整備組合負担金の増 171,276→216,743 +45,467 紀の海広域施設組合負担金の増 360,510→386,846 +26,336
3,403,412	1,620,265	10.7	△ 15.8	未来応援券事業交付金の減 591,267→0 △591,267 水道事業会計補助金の減 157,733→64,389 △93,344 宿泊施設誘致奨励金の減 60,000→1,050 △58,950
2,909,276	2,894,206	9.1	△ 4.6	
2,909,276	2,894,206	9.1	△ 4.6	地方債管理事業(元金)費の減 2,819,670→2,688,800 △130,870 地方債管理事業(利子)費の減 89,606→85,201 △4,405
1,611,127		5.1	△ 53.7	財政調整基金積立金の減 557,563→22,929 △534,634 地域振興基金積立金の減 387,186→789 △386,397 減債基金積立金の増 559,363→608,556 +49,193
713,532	39,685	2.2	△ 0.3	下水道事業会計出資金の減 551,325→521,717 △29,608 水道事業会計出資金の増 162,207→189,495 +27,288
2,835,891	2,156,966	8.9	1.7	介護保険事業勘定特別会計繰出金の増 1,056,884→1,093,158 +36,274 後期高齢者医療特別会計繰出金の増 1,039,895→1,054,258 +14,363 国民健康保険事業勘定特別会計繰出金の減 535,570→527,478 △8,092
28,960,836	16,865,234	90.8	△ 3.0	
2,932,181		9.2	29.0	
90,342		0.3	3.3	土木施設災害復旧事業人件費の増 0→4,059 +4,059 農業用施設災害復旧事業人件費の増 0→2,310 +2,310
2,932,181		9.2	5.7	
764,724		2.4	11.7	中学校施設長寿化事業費の増 0→172,004 +172,004 市営住宅改修事業費の増 0→86,586 +86,586 市営住宅整備事業費の増 0→58,841 +58,841
1,986,430		6.2	5.7	収集事務所整備事業費の増 80,100→358,945 +278,845 田中小学校改築事業費の増 0→113,778 +113,778 中学校施設長寿化事業費の増 11,234→121,093 +109,859
			皆増	土木施設災害復旧事業費の増 0→518,528 +518,528 農業用施設災害復旧事業費の増 0→121,707 +121,707
31,893,017	16,865,234	100.0	△ 0.1	
4,933,877	4,457,337	15.5	△ 0.7	
100.0	52.9			

4. 職員給与費の状況

〔一般会計〕

(単位：人、円)

区 分		令和5年度	令和4年度	増 減
職員数		828	809	19
	特別職	3	3	0
	一般職	825	806	19
	会計年度任用職員以外の職員	495	496	△ 1
	会計年度任用職員	330	310	20
総額		4,857,540,193	4,889,225,914	△ 31,685,721
	報酬	665,741,898	613,387,104	52,354,794
	会計年度任用職員報酬	665,741,898	613,387,104	52,354,794
	給料	1,946,162,475	1,940,035,929	6,126,546
	特別職給	25,142,400	25,142,400	0
	一般職給	1,921,020,075	1,914,893,529	6,126,546
	手当	1,498,034,088	1,603,646,836	△ 105,612,748
	扶養手当	54,949,619	58,387,224	△ 3,437,605
	住居手当	13,302,188	13,371,419	△ 69,231
	特別職通勤手当	74,400	74,400	0
	通勤手当	27,469,180	27,964,520	△ 495,340
	特殊勤務手当	2,110,500	2,350,000	△ 239,500
	時間外勤務手当	131,644,859	120,328,040	11,316,819
	管理職員特別勤務手当	1,648,500	250,000	1,398,500
	管理職手当	100,110,000	97,280,000	2,830,000
	特別職期末手当	9,973,152	8,958,454	1,014,698
	期末手当	426,994,460	417,946,757	9,047,703
	会計年度任用職員期末手当	127,020,258	114,667,757	12,352,501
	勤勉手当	345,246,222	336,180,672	9,065,550
	児童手当	23,085,000	26,290,000	△ 3,205,000
	総合事務組合負担金（退職手当特別職）	7,039,872	7,039,872	0
	総合事務組合負担金（退職手当）	135,835,833	290,442,140	△ 154,606,307
	総合事務組合負担金（退職手当特別負担金）	90,964,263	82,115,581	8,848,682
	地域手当	565,782	0	565,782
	共済費	747,601,732	732,156,045	15,445,687
	職員共済組合負担金特別職	5,379,458	6,167,204	△ 787,746
	職員共済組合負担金	592,358,199	582,652,167	9,706,032
	職員共済組合負担金追加費用	28,957,236	31,754,448	△ 2,797,212
	職員共済組合負担金払込金	66,241	66,322	△ 81
	職員共済組合負担金特定検診負担金	80,400	91,290	△ 10,890
	会計年度任用職員共済組合負担金	48,032,663	20,209,510	27,823,153
	社会保険料負担金	72,727,535	91,215,104	△ 18,487,569

備考：1) 時間外勤務手当は、選挙事務に係る手当を含んでいます。

〔特別会計〕

(単位：人、円)

区 分	令和5年度	令和4年度	増 減
職員数 (一般職)	39	37	2
会計年度任用職員以外の職員	7	8	△ 1
会計年度任用職員	32	29	3
総額	156,789,309	147,047,165	9,742,144
報酬	74,719,160	63,398,159	11,321,001
会計年度任用職員報酬	74,719,160	63,398,159	11,321,001
給料	27,394,854	29,540,363	△ 2,145,509
一般職給	27,394,854	29,540,363	△ 2,145,509
手当	32,238,099	32,884,768	△ 646,669
扶養手当	376,500	694,500	△ 318,000
住居手当	0	132,500	△ 132,500
通勤手当	373,600	450,400	△ 76,800
時間外勤務手当	1,858,338	1,800,792	57,546
管理職手当	1,560,000	1,200,000	360,000
期末手当	6,200,767	6,356,472	△ 155,705
会計年度任用職員期末手当	14,532,150	12,355,092	2,177,058
勤勉手当	5,127,273	5,109,827	17,446
児童手当	240,000	200,000	40,000
総合事務組合負担金 (退職手当)	1,969,471	4,585,185	△ 2,615,714
共済費	22,437,196	21,223,875	1,213,321
職員共済組合負担金	8,265,293	9,361,391	△ 1,096,098
会計年度任用職員共済組合負担金	5,708,933	2,167,607	3,541,326
社会保険料負担金	8,462,970	9,694,877	△ 1,231,907

備考：2) 国民健康保険事業勘定特別会計および介護保険事業勘定特別会計が対象です。

〔公営企業会計〕

(単位：人、円)

区 分	令和5年度	令和4年度	増 減
職員数 (一般職)	32	32	0
会計年度任用職員以外の職員	30	29	1
会計年度任用職員	2	3	△ 1
総額	239,971,360	244,780,170	△ 4,808,810
報酬	2,576,401	0	2,576,401
会計年度任用職員報酬	2,576,401	0	2,576,401
給料	119,639,948	123,552,056	△ 3,912,108
一般職給	118,959,900	117,760,484	1,199,416
会計年度任用職員給	680,048	5,791,572	△ 5,111,524
手当	80,193,296	84,477,243	△ 4,283,947
扶養手当	4,770,000	4,518,092	251,908
住居手当	2,195,600	1,201,200	994,400
通勤手当	1,779,800	1,496,400	283,400
会計年度任用職員通勤手当	51,600	298,800	△ 247,200
時間外勤務手当	4,156,595	2,471,588	1,685,007
管理職員特別勤務手当	0	0	0
管理職手当	7,200,000	6,480,000	720,000
期末手当	26,899,683	25,843,584	1,056,099
会計年度任用職員期末手当	724,678	1,158,312	△ 433,634
勤勉手当	21,698,147	20,836,817	861,330
児童手当	2,390,000	2,505,000	△ 115,000
総合事務組合負担金 (退職手当)	8,327,193	17,667,450	△ 9,340,257
共済費	37,561,715	36,750,871	810,844
職員共済組合負担金	36,949,298	35,653,320	1,295,978
会計年度任用職員共済組合負担金	250,656	192,953	57,703
社会保険料負担金	361,761	904,598	△ 542,837

備考：3) 水道事業会計、工業用水道事業会計および下水道事業会計が対象です。

〔全会計〕

(単位：人、円)

区 分		令和5年度	令和4年度	増 減
職員数		899	878	21
	特別職	3	3	0
	一般職	896	875	21
	会計年度任用職員以外の職員	532	533	△ 1
	会計年度任用職員	364	342	22
総額		5,254,300,862	5,281,053,249	△ 26,752,387
	報酬	743,037,459	676,785,263	66,252,196
	会計年度任用職員報酬	743,037,459	676,785,263	66,252,196
	給料	2,093,197,277	2,093,128,348	68,929
	特別職給	25,142,400	25,142,400	0
	一般職給	2,067,374,829	2,062,194,376	5,180,453
	会計年度任用職員給	680,048	5,791,572	△ 5,111,524
	手当	1,610,465,483	1,721,008,847	△ 110,543,364
	扶養手当	60,096,119	63,599,816	△ 3,503,697
	住居手当	15,497,788	14,705,119	792,669
	特別職通勤手当	74,400	74,400	0
	通勤手当	29,622,580	29,911,320	△ 288,740
	会計年度任用職員通勤手当	51,600	298,800	△ 247,200
	特殊勤務手当	2,110,500	2,350,000	△ 239,500
	時間外勤務手当	137,659,792	124,600,420	13,059,372
	管理職員特別勤務手当	1,648,500	250,000	1,398,500
	管理職手当	108,870,000	104,960,000	3,910,000
	特別職期末手当	9,973,152	8,958,454	1,014,698
	期末手当	460,094,910	450,146,813	9,948,097
	会計年度任用職員期末手当	142,277,086	128,181,161	14,095,925
	勤勉手当	372,071,642	362,127,316	9,944,326
	児童手当	25,715,000	28,995,000	△ 3,280,000
	総合事務組合負担金(退職手当特別職)	7,039,872	7,039,872	0
	総合事務組合負担金(退職手当)	146,132,497	312,694,775	△ 166,562,278
	総合事務組合負担金(退職手当特別負担金)	90,964,263	82,115,581	8,848,682
	地域手当	565,782	0	565,782
	共済費	807,600,643	790,130,791	17,469,852
	職員共済組合負担金特別職	5,379,458	6,167,204	△ 787,746
	職員共済組合負担金	637,572,790	627,666,878	9,905,912
	職員共済組合負担金追加費用	28,957,236	31,754,448	△ 2,797,212
	職員共済組合負担金払込金	66,241	66,322	△ 81
	職員共済組合負担金特定検診負担金	80,400	91,290	△ 10,890
	会計年度任用職員共済組合負担金	53,992,252	22,570,070	31,422,182
	社会保険料負担金	81,552,266	101,814,579	△ 20,262,313

〔職員給与費を構成する期末手当支給率等〕

区 分	令和5年度	令和4年度	増 減
期末手当支給率	2.45月	2.40月	0.05月
勤勉手当支給率	2.05月	2.00月	0.05月
総合事務組合退職手当負担金率	70/1000	150/1000	△80/1000
職員共済組合負担金率(40歳以上)	199.339/1000	196.5705/1000	2.7685/1000
職員共済組合負担金率(40歳未満)	190.639/1000	187.8705/1000	2.7685/1000
職員共済組合追加費用率	11.1/1000	13.2/1000	△2.1/1000

5. 地方債の状況

1) 地方債現在高の状況

[一般会計]

◇ 事業別

(単位：千円)

区 分	令和4年度末 現在高	令和5年度 発行額	令和5年度 償還額	令和5年度末 現在高
1. 公共事業等債	704,181	71,500	113,552	662,129
2. 防災・減災・国土強靱化緊急対策事業債	137,030	128,600	10,093	255,537
3. 公営住宅建設事業債				
4. 災害復旧事業債	96,490	207,500	46,970	257,020
5. (旧)緊急防災・減災事業債	71,561		71,561	
6. 全国防災事業債	158,948		13,441	145,507
7. 教育・福祉施設等整備事業債	300,040	19,100	73,580	245,560
8. 一般単独事業債	14,170,167	957,400	1,453,851	13,673,716
うち地域活性化事業債	378,850	13,300	64,980	327,170
うち防災対策事業債	9,500		550	8,950
うち合併特例事業債	12,685,780	488,900	1,175,950	11,998,730
うち(新)緊急防災・減災事業債	636,595	87,200	81,411	642,384
うち公共施設等適正管理推進事業債	240,830	349,900	32,390	558,340
うち緊急自然災害防止対策事業債	37,080	18,100	1,935	53,245
9. 辺地対策事業債	39,120	12,400	4,590	46,930
10. 過疎対策事業債	1,431,925	554,900	76,850	1,909,975
11. 公共用地先行取得等事業債				
12. 行政改革推進債				
13. 厚生福祉施設整備事業債				
14. 退職手当債(～平成17年度分)				
15. 退職手当債(平成18年度～)				
16. 国の予算貸付・政府関係機関貸付債				
17. 地域改善対策特定事業債				
18. 財源対策債	323,965	48,100	33,380	338,685
19. 減収補填債	22,200		7,400	14,800
20. 臨時財政特例債				
21. 公共事業等臨時特例債				
22. 減税補填債	42,732		17,868	24,864
23. 臨時税収補填債				
24. 臨時財政対策債	6,220,953	98,300	754,415	5,564,838
25. 調整債(令和1～5年度分)				
26. 減収補填債特例分				
27. 県貸付金				
28. 猶予特例債				
29. 特別減収対策債				
30. その他	77,790	39,600	11,250	106,140
合 計	23,797,102	2,137,400	2,688,801	23,245,701

備考：1) 区分の分類は、地方財政状況調査(決算統計)に準じて作成しています。

◇ 予算説明別

(単位：千円)

区 分	令和4年度末 現在高	令和5年度 発行額	令和5年度 償還額	令和5年度末 現在高
1. 普通債	17,414,727	1,831,600	1,862,148	17,384,179
(1) 総務債	1,734,045	121,100	195,190	1,659,955
(2) 民生債	614,177	22,500	79,679	556,998
(3) 衛生債	2,526,095	396,300	257,995	2,664,400
(4) 農林業債	1,310,094	210,500	121,479	1,399,115
(5) 商工債	41,440		4,165	37,275
(6) 土木債	4,907,327	298,000	492,408	4,712,919
(7) 消防債	512,265	101,300	85,940	527,625
(8) 教育債	5,769,284	681,900	625,292	5,825,892
2. 災害復旧債	96,490	207,500	46,970	257,020
(1) 補助災害復旧事業債	76,710	88,600	31,910	133,400
(2) 単独災害復旧事業債	19,780	118,900	15,060	123,620
3. その他	6,285,885	98,300	779,683	5,604,502
(1) 減収補填債	22,200		7,400	14,800
(2) 減税補填債	42,732		17,868	24,864
(3) 臨時財政対策債	6,220,953	98,300	754,415	5,564,838
合 計	23,797,102	2,137,400	2,688,801	23,245,701

備考：2) 区分の分類は、予算書の付属資料に準じて作成しています。

〔国民健康保険直営診療施設勘定特別会計〕

(単位：千円)

区 分	令和4年度末 現在高	令和5年度 発行額	令和5年度 償還額	令和5年度末 現在高
1. 辺地対策事業債	13,870	18,600	1,420	31,050
合 計	13,870	18,600	1,420	31,050

備考：3) 区分の分類は、地方財政状況調査（決算統計）に準じて作成しています。

2) 地方債年度別償還予定の状況

〔一般会計〕

	令和6年度			令和7年度		
	元 金	利 子	計	元 金	利 子	計
1. 政府資金	1,061,429	23,473	1,084,902	932,843	20,481	953,324
2. 地方公共団体金融機構資金	431,509	10,873	442,382	394,191	9,265	403,456
3. 市中銀行その他金融機関	1,230,130	53,292	1,283,422	1,171,150	49,127	1,220,277
4. 共 済 等						
合 計	2,723,068	87,638	2,810,706	2,498,184	78,873	2,577,057

〔国民健康保険直営診療施設勘定特別会計〕

1. 政府資金	3,280	138	3,418	3,280	144	3,424
合 計	3,280	138	3,418	3,280	144	3,424

特別会計合計	3,280	138	3,418	3,280	144	3,424
--------	-------	-----	-------	-------	-----	-------

総 合 計	2,726,348	87,776	2,814,124	2,501,464	79,017	2,580,481
-------	-----------	--------	-----------	-----------	--------	-----------

備考：1) 償還予定額は、令和5年度までに借り入れた起債を基に算出しています。

2) 資金区分の政府資金には財政融資資金および旧郵政公社資金を、地方公共団体金融機構資金には旧公営企業金融公庫資金および旧公営企業等金融機構資金を、また、ゆうちょ銀行資金は市中銀行欄にそれぞれ分類しています。

3) この表には起債前借を含んでいません。起債前借は事業の進捗度合に応じ、長期資金を正式に借り入れるまでのつなぎ資金として借り入れるものです。

(単位：千円)

令和8年度			令和9年度			令和10年度		
元金	利子	計	元金	利子	計	元金	利子	計
813,160	17,222	830,382	711,508	14,314	725,822	627,535	12,049	639,584
371,667	8,045	379,712	330,522	7,182	337,704	311,700	6,322	318,022
1,150,730	44,027	1,194,757	1,122,200	39,045	1,161,245	1,072,260	33,992	1,106,252
2,335,557	69,294	2,404,851	2,164,230	60,541	2,224,771	2,011,495	52,363	2,063,858

(単位：千円)

3,280	127	3,407	3,280	110	3,390	3,280	93	3,373
3,280	127	3,407	3,280	110	3,390	3,280	93	3,373
3,280	127	3,407	3,280	110	3,390	3,280	93	3,373
2,338,837	69,421	2,408,258	2,167,510	60,651	2,228,161	2,014,775	52,456	2,067,231

6. 基金の状況

(単位：円)

基金名		令和4年度末 現在高	令和5年度 取崩額	令和5年度 積立額	令和5年度末 現在高
財政調整基金		6,122,137,000		22,929,000	6,145,066,000
減債基金		2,762,126,000	400,000,000	608,556,000	2,970,682,000
特定目的 基金	中山間ふるさと水と土保全対策基金	43,704,000		14,000	43,718,000
	都市計画事業基金	0			0
	医聖華岡青洲顕彰事業基金	0		1,987,000	1,987,000
	人材育成基金	37,333,000	6,000,000	12,000	31,345,000
	地域振興基金	2,386,551,000	170,000,000	789,000	2,217,340,000
	地域福祉基金	484,983,000	30,000,000	156,000	455,139,000
	公共施設等整備基金	2,055,372,000	96,000,000	100,675,000	2,060,047,000
	森林環境譲与税基金	41,010,000		11,086,000	52,096,000
定額 運用 基金	土地開発基金	741,559,419		171,599	741,731,018
	うち現金	534,783,919		171,599	534,955,518
	うち土地	206,775,500			206,775,500
普通会計 計		14,674,775,419	702,000,000	746,375,599	14,719,151,018
特別会計	国民健康保険事業運営基金	540,244,000	162,315,000	173,000	378,102,000
	介護給付費準備基金	544,663,000		42,527,000	587,190,000
	池田財産区財政調整基金	148,245,000	4,090,000	47,000	144,202,000
	田中財産区財政調整基金	68,030,000	919,000	17,000	67,128,000
	長田竜門財産区財政調整基金	9,723,000	569,000	1,000	9,155,000
	竜門財産区財政調整基金	270,000	20,000	1,000	251,000
	南北志野財産区財政調整基金	4,079,000	81,000	1,000	3,999,000
	飯盛財産区財政調整基金	8,184,000	461,000	1,000	7,724,000
	静川財産区財政調整基金	2,870,000	40,000	1,000	2,831,000
	最上、神田、市場、元財産区財政調整基金	30,689,000	3,330,000	10,000	27,369,000
	調月財産区財政調整基金	29,229,000	754,000	10,000	28,485,000
	丸栖財産区財政調整基金	20,958,000		436,000	21,394,000
	平池財産区財政調整基金	38,770,000		452,000	39,222,000
	特別会計（普通会計以外） 計		1,445,954,000	172,579,000	43,677,000
総合計		16,120,729,419	874,579,000	790,052,599	16,036,203,018

7. 一般会計から他会計への繰出金等の状況

(単位：千円)

区分	令和5年度	令和4年度	増減
総額	3,891,901	3,934,024	△ 42,123
特別会計	2,686,632	2,641,448	45,184
国民健康保険事業勘定特別会計	527,478	535,570	△ 8,092
繰出金	527,478	535,570	△ 8,092
国民健康保険直営診療施設勘定特別会計	11,738	9,099	2,639
繰出金	11,738	9,099	2,639
後期高齢者医療特別会計	1,054,258	1,039,895	14,363
繰出金	1,054,258	1,039,895	14,363
介護保険事業勘定特別会計	1,093,158	1,056,884	36,274
繰出金	1,093,158	1,056,884	36,274
公営企業会計	1,205,269	1,292,576	△ 87,307
水道事業会計	257,316	325,476	△ 68,160
出資金	189,495	162,207	27,288
負担金	3,432	5,536	△ 2,104
補助金	64,389	157,733	△ 93,344
下水道事業会計	947,953	967,100	△ 19,147
公共下水道事業	901,297	921,741	△ 20,444
出資金	496,977	522,401	△ 25,424
補助金	404,320	399,340	4,980
農業集落排水事業	46,656	45,359	1,297
出資金	24,740	28,924	△ 4,184
補助金	21,916	16,435	5,481

8. その他資料

1) 人口推移（住民基本台帳人口：3月末日現在）

（単位：人）

区 分	人 口			世帯数	1世帯当 たり人口
	男	女	計		
平成17年	33,759	36,786	70,545	24,010	2.94
平成18年	33,568	36,606	70,174	24,306	2.89
平成19年	33,368	36,473	69,841	24,663	2.83
平成20年	33,051	36,159	69,210	24,795	2.79
平成21年	32,749	35,902	68,651	24,978	2.75
平成22年	32,537	35,710	68,247	25,237	2.70
平成23年	32,252	35,471	67,723	25,465	2.66
平成24年	32,011	35,184	67,195	25,624	2.62
平成25年	31,774	35,088	66,862	25,903	2.58
平成26年	31,467	34,784	66,251	26,055	2.54
平成27年	31,249	34,510	65,759	26,196	2.51
平成28年	30,881	34,127	65,008	26,275	2.47
平成29年	30,508	33,621	64,129	26,346	2.43
平成30年	30,115	33,160	63,275	26,412	2.40
平成31年	29,702	32,682	62,384	26,447	2.36
令和2年	29,292	32,210	61,502	26,510	2.32
令和3年	29,011	31,867	60,878	26,576	2.29
令和4年	28,713	31,592	60,305	26,691	2.26
令和5年	28,481	31,322	59,803	26,910	2.22
令和6年	28,278	31,084	59,362	27,159	2.19

2) 学校別児童生徒数（令和5年5月1日 学校基本調査）

〔小学校〕

（単位：人）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
池田小学校	63	59	65	67	61	62	377
田中小学校	81	75	94	71	89	78	488
長田小学校	14	14	11	18	13	17	87
粉河小学校	30	32	46	36	49	38	231
竜門小学校	13	18	10	14	15	14	84
川原小学校	11	4	6	10	6	11	48
名手小学校	21	27	27	31	36	35	177
上名手小学校	7	5	6	5	9	9	41
麻生津小学校	1	3	5	1	2	4	16
安楽川小学校	41	42	43	43	42	58	269
調月小学校	12	7	8	9	15	12	63
中貴志小学校	29	48	46	53	48	48	272
東貴志小学校	18	15	15	18	12	20	98
西貴志小学校	60	41	57	48	55	66	327
丸栖小学校	14	22	27	22	21	31	137
合 計	415	412	466	446	473	503	2,715

〔中学校〕

（単位：人）

	1年	2年	3年	計
打田中学校	135	129	139	403
打田中学校(仙溪分校)	0	1	5	6
粉河中学校	77	67	81	225
那賀中学校	44	40	36	120
荒川中学校	57	49	45	151
貴志川中学校	152	143	151	446
合 計	465	429	457	1,351

3) 保育施設別児童数（令和6年3月1日現在）

〔公立（保育所）〕

（単位：人）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	参考(定員)
なるき保育所			18	27	38	40	123	144
こぼと保育所	5	20	34	45	45	48	197	252
八王子保育所			4	6	11	6	27	52
中貴志保育所			12	20	15	25	72	90
東貴志保育所		12	6	6	4	8	36	90
西貴志保育所				17	9	15	41	72
丸栖保育所		8	11	11	17	19	66	88
合計	5	40	85	132	139	161	562	788

〔私立（保育園）〕

（単位：人）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	参考(定員)
粉河保育園	13	21	31	39	42	46	192	240
名手保育園	7	16	18	30	36	26	133	150
安楽川保育園	3	12	30	30	43	39	157	204
山の子共同保育園		3	2	6	3	4	18	20
合計	23	52	81	105	124	115	500	614

〔私立（認定こども園）〕

（単位：人）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	参考(定員)
レイモンドこども園	9	18	18	21	20	22	108	115
愛の光幼稚園		3	10	22	14	10	59	72
あおば幼稚園			15	27	21	26	89	110
ながやまこども園	9	23	28	30	24	28	142	170
合計	18	44	71	100	79	86	398	467

〔私立（小規模保育施設）〕

（単位：人）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	参考(定員)
未来保育園		9	9				18	18
ニチイキッズきのかわ保育園	7	7	6				20	19
合計	7	16	15	0	0	0	38	37

〔私立（幼稚園）〕

（単位：人）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	参考(定員)
智徳幼稚園			5	20	13	19	57	95
合計	0	0	5	20	13	19	57	95

保育施設合計	53	152	257	357	355	381	1,555	2,001
--------	----	-----	-----	-----	-----	-----	-------	-------

備考：1) 児童数には他市町村からの広域入所を含んでいません。

4) 放課後児童クラブ別児童数（令和6年3月1日現在）

（単位：人）

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計	参考(定員)
てのひら	22	18	13	11	8	3	75	75
太陽の子	25	30	18	7			80	90
粉河アットホームクラブ	18	16	14				48	70
チャレンジ児童クラブ	16	24	9	8	11	2	70	80
あらかわ放課後児童クラブ	19	12	9	4	1	1	46	60
ももやま放課後児童クラブ	5	3	1	6	2	3	20	25
こどもくらぶ	8	14	4	5	1		32	70
ほたるっこ	10	3	3	1	1		18	30
西貴志こどもくらぶ	28	13	8				49	60
丸栖っ子クラブ	4	6	1				11	25
合計	155	139	80	42	24	9	449	585

9. 一般会計主要施策の成果

備考：1)「事務事業の概要」欄において、長期総合計画体系に該当しない場合は、政策目標から基本施策までを「99 ***」、取組方針を「9 その他」で表示しています。

備考：2)「指標の実績」欄の各指標において、事前に目標設定することになじまない事務事業は、目標値を設定していません。

備考：3)「コストの実績」欄は、地方財政状況調査（決算統計）における報告値としています。ただし、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金及び物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金は、調査上、一般財源であるところ、国庫支出金と表示しています。

R5年度決算額（単位：千円）は、節説明ごとに円単位の支出済額を千円単位に調整し集計しているため、決算書に記載の事務事業決算額と若干の差異が生じる場合があります。

[歳入] 市税等収納実績に関する科目

(単位: 円)

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																																																
1-1-1 市民税 個人	税務課	2,488,000,000	2,528,847,304	◎個人市民税 現年課税分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和5年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人均等割</td> <td>102,347,700</td> <td>101,286,824</td> <td>99.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>個人所得割</td> <td>2,451,082,160</td> <td>2,427,560,480</td> <td>99.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>2,553,429,860</td> <td>2,528,847,304</td> <td>99.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和4年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人均等割</td> <td>101,999,000</td> <td>101,346,581</td> <td>99.4%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>個人所得割</td> <td>2,464,052,180</td> <td>2,448,437,947</td> <td>99.4%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>2,566,051,180</td> <td>2,549,784,528</td> <td>99.4%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度0.8%の減、税額にして20,937,224円の減。</p>	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	個人均等割	102,347,700	101,286,824	99.0%	—	—	個人所得割	2,451,082,160	2,427,560,480	99.0%	—	—	合 計	2,553,429,860	2,528,847,304	99.0%	—	—	令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	個人均等割	101,999,000	101,346,581	99.4%	—	—	個人所得割	2,464,052,180	2,448,437,947	99.4%	—	—	合 計	2,566,051,180	2,549,784,528	99.4%	—	—												
	令和5年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																																																											
額					件数																																																															
個人均等割	102,347,700	101,286,824	99.0%	—	—																																																															
個人所得割	2,451,082,160	2,427,560,480	99.0%	—	—																																																															
合 計	2,553,429,860	2,528,847,304	99.0%	—	—																																																															
令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																
				額	件数																																																															
個人均等割	101,999,000	101,346,581	99.4%	—	—																																																															
個人所得割	2,464,052,180	2,448,437,947	99.4%	—	—																																																															
合 計	2,566,051,180	2,549,784,528	99.4%	—	—																																																															
収納対策課	18,300,000	15,291,272	◎個人市民税 滞納繰越分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>45,547,722</td> <td>15,291,272</td> <td>33.6%</td> <td>2,483,126</td> <td>182件</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>48,402,220</td> <td>16,106,563</td> <td>33.3%</td> <td>2,914,721</td> <td>189件</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度5.1%の減、税額にして815,291円の減。</p>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和5年度	45,547,722	15,291,272	33.6%	2,483,126	182件	令和4年度	48,402,220	16,106,563	33.3%	2,914,721	189件																																													
年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																																																												
				額	件数																																																															
令和5年度	45,547,722	15,291,272	33.6%	2,483,126	182件																																																															
令和4年度	48,402,220	16,106,563	33.3%	2,914,721	189件																																																															
1-1-2 市民税 法人	税務課	331,000,000	306,654,700	◎法人市民税 現年課税分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和5年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>法人均等割</td> <td>119,889,200</td> <td>119,739,200</td> <td>99.9%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>法人税割</td> <td>186,915,500</td> <td>186,915,500</td> <td>100.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>306,804,700</td> <td>306,654,700</td> <td>99.9%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和4年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>法人均等割</td> <td>127,860,100</td> <td>127,413,500</td> <td>99.7%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>法人税割</td> <td>233,574,300</td> <td>233,075,700</td> <td>99.8%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>361,434,400</td> <td>360,489,200</td> <td>99.7%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度14.9%の減、税額にして53,834,500円の減。</p>	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	法人均等割	119,889,200	119,739,200	99.9%	—	—	法人税割	186,915,500	186,915,500	100.0%	—	—	合 計	306,804,700	306,654,700	99.9%	—	—	令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	法人均等割	127,860,100	127,413,500	99.7%	—	—	法人税割	233,574,300	233,075,700	99.8%	—	—	合 計	361,434,400	360,489,200	99.7%	—	—												
	令和5年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																																																											
額					件数																																																															
法人均等割	119,889,200	119,739,200	99.9%	—	—																																																															
法人税割	186,915,500	186,915,500	100.0%	—	—																																																															
合 計	306,804,700	306,654,700	99.9%	—	—																																																															
令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																
				額	件数																																																															
法人均等割	127,860,100	127,413,500	99.7%	—	—																																																															
法人税割	233,574,300	233,075,700	99.8%	—	—																																																															
合 計	361,434,400	360,489,200	99.7%	—	—																																																															
収納対策課	500,000	692,256	◎法人市民税 滞納繰越分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>1,709,213</td> <td>692,256</td> <td>40.5%</td> <td>227,700</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>1,146,613</td> <td>192,800</td> <td>16.8%</td> <td>200,000</td> <td>4件</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度259.1%の増、税額にして499,456円の増。</p>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和5年度	1,709,213	692,256	40.5%	227,700	4件	令和4年度	1,146,613	192,800	16.8%	200,000	4件																																													
年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																																																												
				額	件数																																																															
令和5年度	1,709,213	692,256	40.5%	227,700	4件																																																															
令和4年度	1,146,613	192,800	16.8%	200,000	4件																																																															
1-2-1 固定資産税	税務課	3,056,000,000	3,060,731,090	◎固定資産税 現年課税分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和5年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>固定(土地)</td> <td>834,842,021</td> <td>825,803,221</td> <td>98.9%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>固定(家屋)</td> <td>1,432,112,451</td> <td>1,417,759,738</td> <td>99.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>固定(償却)</td> <td>817,351,100</td> <td>817,168,131</td> <td>100.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>3,084,305,572</td> <td>3,060,731,090</td> <td>99.2%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和4年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>固定(土地)</td> <td>838,562,440</td> <td>828,797,018</td> <td>98.8%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>固定(家屋)</td> <td>1,381,055,578</td> <td>1,367,624,418</td> <td>99.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>固定(償却)</td> <td>786,113,367</td> <td>785,861,789</td> <td>100.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>3,005,731,385</td> <td>2,982,283,225</td> <td>99.2%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度2.6%の増、税額にして78,447,865円の増。</p>	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	固定(土地)	834,842,021	825,803,221	98.9%	—	—	固定(家屋)	1,432,112,451	1,417,759,738	99.0%	—	—	固定(償却)	817,351,100	817,168,131	100.0%	—	—	合 計	3,084,305,572	3,060,731,090	99.2%	—	—	令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	固定(土地)	838,562,440	828,797,018	98.8%	—	—	固定(家屋)	1,381,055,578	1,367,624,418	99.0%	—	—	固定(償却)	786,113,367	785,861,789	100.0%	—	—	合 計	3,005,731,385	2,982,283,225	99.2%	—	—
	令和5年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																																																											
額					件数																																																															
固定(土地)	834,842,021	825,803,221	98.9%	—	—																																																															
固定(家屋)	1,432,112,451	1,417,759,738	99.0%	—	—																																																															
固定(償却)	817,351,100	817,168,131	100.0%	—	—																																																															
合 計	3,084,305,572	3,060,731,090	99.2%	—	—																																																															
令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																
				額	件数																																																															
固定(土地)	838,562,440	828,797,018	98.8%	—	—																																																															
固定(家屋)	1,381,055,578	1,367,624,418	99.0%	—	—																																																															
固定(償却)	786,113,367	785,861,789	100.0%	—	—																																																															
合 計	3,005,731,385	2,982,283,225	99.2%	—	—																																																															

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																														
1-2-2 国有資産等所在市町村交付金	収納対策課	23,500,000	23,872,120	◎固定資産税 滞納繰越分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>83,536,533</td> <td>23,872,120</td> <td>28.6%</td> <td>7,430,091</td> <td>609件</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>97,777,343</td> <td>21,579,189</td> <td>22.1%</td> <td>16,149,794</td> <td>827件</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度10.6%の増、税額にして2,292,931円の増。</p>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和5年度	83,536,533	23,872,120	28.6%	7,430,091	609件	令和4年度	97,777,343	21,579,189	22.1%	16,149,794	827件										
	年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																									
					額	件数																												
	令和5年度	83,536,533	23,872,120	28.6%	7,430,091	609件																												
令和4年度	97,777,343	21,579,189	22.1%	16,149,794	827件																													
税務課	5,760,000	5,760,700	◎国有資産等所在市町村交付金 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>5,760,700</td> <td>5,760,700</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>5,857,800</td> <td>5,857,800</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	令和5年度	5,760,700	5,760,700	100%	令和4年度	5,857,800	5,857,800	100%																			
年度	調定額	収入済額	収納率																															
令和5年度	5,760,700	5,760,700	100%																															
令和4年度	5,857,800	5,857,800	100%																															
1-3-1 軽自動車税 環境性能割	税務課	22,000,000	17,443,900	◎環境性能割 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>17,443,900</td> <td>17,443,900</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>18,427,500</td> <td>18,427,500</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度5.3%の減、税額にして983,600円の減。</p>	年度	調定額	収入済額	収納率	令和5年度	17,443,900	17,443,900	100%	令和4年度	18,427,500	18,427,500	100%																		
年度	調定額	収入済額	収納率																															
令和5年度	17,443,900	17,443,900	100%																															
令和4年度	18,427,500	18,427,500	100%																															
1-3-2 軽自動車税 種別割	税務課	269,000,000	276,559,028	◎種別割 現年課税分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>279,752,300</td> <td>276,559,028</td> <td>98.9%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>273,399,800</td> <td>270,035,921</td> <td>98.8%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度2.4%の増、税額にして6,523,107円の増。</p>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和5年度	279,752,300	276,559,028	98.9%	—	—	令和4年度	273,399,800	270,035,921	98.8%	—	—										
年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																														
				額	件数																													
令和5年度	279,752,300	276,559,028	98.9%	—	—																													
令和4年度	273,399,800	270,035,921	98.8%	—	—																													
1-4-1 たばこ税	収納対策課	3,400,000	3,049,444	◎種別割 滞納繰越分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>12,433,876</td> <td>3,049,444</td> <td>24.5%</td> <td>689,700</td> <td>130件</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>13,310,025</td> <td>3,351,393</td> <td>25.2%</td> <td>868,635</td> <td>150件</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度9.0%の減、税額にして301,949円の減。</p>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和5年度	12,433,876	3,049,444	24.5%	689,700	130件	令和4年度	13,310,025	3,351,393	25.2%	868,635	150件										
	年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																									
					額	件数																												
	令和5年度	12,433,876	3,049,444	24.5%	689,700	130件																												
令和4年度	13,310,025	3,351,393	25.2%	868,635	150件																													
税務課	360,000,000	368,762,614	◎たばこ税 現年課税分 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>種 別</th> <th>本数(本)</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">令和5年度</td> <td>製造たばこ・旧3級品紙巻たばこ</td> <td>56,282,451</td> <td>368,762,614</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>手持品課税分</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>56,282,451</td> <td>368,762,614</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">令和4年度</td> <td>製造たばこ・旧3級品紙巻たばこ</td> <td>56,210,417</td> <td>368,290,644</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>手持品課税分</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>56,210,417</td> <td>368,290,644</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度0.1%の増、税額にして471,970円の増。</p>	年度	種 別	本数(本)	収入済額	収納率	令和5年度	製造たばこ・旧3級品紙巻たばこ	56,282,451	368,762,614	100%	手持品課税分	—	—	—	合 計	56,282,451	368,762,614	100%	令和4年度	製造たばこ・旧3級品紙巻たばこ	56,210,417	368,290,644	100%	手持品課税分	—	—	—	合 計	56,210,417	368,290,644	100%
年度	種 別	本数(本)	収入済額	収納率																														
令和5年度	製造たばこ・旧3級品紙巻たばこ	56,282,451	368,762,614	100%																														
	手持品課税分	—	—	—																														
	合 計	56,282,451	368,762,614	100%																														
令和4年度	製造たばこ・旧3級品紙巻たばこ	56,210,417	368,290,644	100%																														
	手持品課税分	—	—	—																														
	合 計	56,210,417	368,290,644	100%																														
1-5-1 入湯税	税務課	300,000	1,203,000	◎入湯税 現年課税分 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>1,203,000</td> <td>1,203,000</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>256,125</td> <td>256,125</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度369.7%の増、税額にして946,875円の増。</p> <p>※入湯税は、観光振興等に要する経費に充てるために課される目的税です。</p> <p>【入湯税の充当事業】 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>充当事業</th> <th>充当額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>観光振興事業</td> <td>1,203</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	令和5年度	1,203,000	1,203,000	100%	令和4年度	256,125	256,125	100%	充当事業	充当額	観光振興事業	1,203														
年度	調定額	収入済額	収納率																															
令和5年度	1,203,000	1,203,000	100%																															
令和4年度	256,125	256,125	100%																															
充当事業	充当額																																	
観光振興事業	1,203																																	

款 項 目	担当課	予算現額	収入済額	事業等実施内容																																																				
1-6-1 都市計画税	税務課	346,000,000	350,806,326	<p>◎都市計画税 現年課税分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和5年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>都計(土地)</td> <td>146,541,614</td> <td>144,915,648</td> <td>98.9%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>都計(家屋)</td> <td>207,918,614</td> <td>205,890,678</td> <td>99.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>354,460,228</td> <td>350,806,326</td> <td>99.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和4年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>都計(土地)</td> <td>147,534,092</td> <td>145,813,594</td> <td>98.8%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>都計(家屋)</td> <td>200,499,223</td> <td>198,589,544</td> <td>99.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>348,033,315</td> <td>344,403,138</td> <td>99.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度1.9%の増、税額にして6,403,188円の増。</p>	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	都計(土地)	146,541,614	144,915,648	98.9%	—	—	都計(家屋)	207,918,614	205,890,678	99.0%	—	—	合 計	354,460,228	350,806,326	99.0%	—	—	令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	都計(土地)	147,534,092	145,813,594	98.8%	—	—	都計(家屋)	200,499,223	198,589,544	99.0%	—	—	合 計	348,033,315	344,403,138	99.0%	—	—
	令和5年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																																															
額					件数																																																			
都計(土地)	146,541,614	144,915,648	98.9%	—	—																																																			
都計(家屋)	207,918,614	205,890,678	99.0%	—	—																																																			
合 計	354,460,228	350,806,326	99.0%	—	—																																																			
令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																				
				額	件数																																																			
都計(土地)	147,534,092	145,813,594	98.8%	—	—																																																			
都計(家屋)	200,499,223	198,589,544	99.0%	—	—																																																			
合 計	348,033,315	344,403,138	99.0%	—	—																																																			
	収納対策課	3,500,000	3,644,532	<p>◎都市計画税 滞納繰越分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>12,327,959</td> <td>3,644,532</td> <td>29.6%</td> <td>1,019,954</td> <td>609件</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>14,104,114</td> <td>3,314,149</td> <td>23.5%</td> <td>2,098,552</td> <td>827件</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度10.0%の増、税額にして330,383円の増。</p> <p>※都市計画税は、都市計画事業等に要する経費に充てるために課される目的税です。</p> <p>【都市計画税の充当事業】 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>充当事業</th> <th>充当額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>街路費</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>公園費(運動公園管理運営事業など)</td> <td>49,309</td> </tr> <tr> <td>下水道費(公共下水道事業など)</td> <td>234,615</td> </tr> <tr> <td>区画整理費等(都市計画推進事業など)</td> <td>11,182</td> </tr> <tr> <td>公債費</td> <td>59,344</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和5年度	12,327,959	3,644,532	29.6%	1,019,954	609件	令和4年度	14,104,114	3,314,149	23.5%	2,098,552	827件	充当事業	充当額	街路費	0	公園費(運動公園管理運営事業など)	49,309	下水道費(公共下水道事業など)	234,615	区画整理費等(都市計画推進事業など)	11,182	公債費	59,344																				
年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																				
				額	件数																																																			
令和5年度	12,327,959	3,644,532	29.6%	1,019,954	609件																																																			
令和4年度	14,104,114	3,314,149	23.5%	2,098,552	827件																																																			
充当事業	充当額																																																							
街路費	0																																																							
公園費(運動公園管理運営事業など)	49,309																																																							
下水道費(公共下水道事業など)	234,615																																																							
区画整理費等(都市計画推進事業など)	11,182																																																							
公債費	59,344																																																							
2-3-1 森林環境譲与税	財政課	23,524,000	23,524,000	<p>◎森林環境譲与税</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>23,524,000</td> <td>23,524,000</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>23,524,000</td> <td>23,524,000</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※森林環境譲与税は、森林整備及びその促進に要する経費に充てています。</p> <p>【森林環境譲与税の充当事業】 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>充当事業</th> <th>充当額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>森林経営管理事業など</td> <td>12,450</td> </tr> <tr> <td>基金積立事業</td> <td>11,074</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	令和5年度	23,524,000	23,524,000	100%	令和4年度	23,524,000	23,524,000	100%	充当事業	充当額	森林経営管理事業など	12,450	基金積立事業	11,074																																		
年度	調定額	収入済額	収納率																																																					
令和5年度	23,524,000	23,524,000	100%																																																					
令和4年度	23,524,000	23,524,000	100%																																																					
充当事業	充当額																																																							
森林経営管理事業など	12,450																																																							
基金積立事業	11,074																																																							
7-1-1 地方消費税交付金	税務課	1,371,750,000	1,371,750,000	<p>◎地方消費税交付金</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> <th>収入済額のうち 社会保障財源化分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>1,371,750,000</td> <td>1,371,750,000</td> <td>100%</td> <td>781,759,000</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>1,370,948,000</td> <td>1,370,948,000</td> <td>100%</td> <td>786,747,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度0.1%の増、税額にして802,000円の増。</p> <p>※地方消費税交付金のうち、社会保障財源化分は、社会保障施策に要する経費に充てています。</p> <p>【地方消費税交付金(社会保障財源化分)の充当事業】 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>充当事業</th> <th>充当額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会福祉(生活保護、児童福祉、障害者福祉事業など)</td> <td>314,663</td> </tr> <tr> <td>社会保険(国民健康保険、介護保険事業など)</td> <td>315,456</td> </tr> <tr> <td>保健衛生(疾病予防対策、健康増進対策事業など)</td> <td>151,640</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	収入済額のうち 社会保障財源化分	令和5年度	1,371,750,000	1,371,750,000	100%	781,759,000	令和4年度	1,370,948,000	1,370,948,000	100%	786,747,000	充当事業	充当額	社会福祉(生活保護、児童福祉、障害者福祉事業など)	314,663	社会保険(国民健康保険、介護保険事業など)	315,456	保健衛生(疾病予防対策、健康増進対策事業など)	151,640																													
年度	調定額	収入済額	収納率	収入済額のうち 社会保障財源化分																																																				
令和5年度	1,371,750,000	1,371,750,000	100%	781,759,000																																																				
令和4年度	1,370,948,000	1,370,948,000	100%	786,747,000																																																				
充当事業	充当額																																																							
社会福祉(生活保護、児童福祉、障害者福祉事業など)	314,663																																																							
社会保険(国民健康保険、介護保険事業など)	315,456																																																							
保健衛生(疾病予防対策、健康増進対策事業など)	151,640																																																							
11-1-1 地方交付税	財政課	普通交付税 9,388,705,000	9,388,705,000	<p>◎普通交付税</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>9,388,705,000</td> <td>9,388,705,000</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>9,316,684,000</td> <td>9,316,684,000</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	令和5年度	9,388,705,000	9,388,705,000	100%	令和4年度	9,316,684,000	9,316,684,000	100%																																								
年度	調定額	収入済額	収納率																																																					
令和5年度	9,388,705,000	9,388,705,000	100%																																																					
令和4年度	9,316,684,000	9,316,684,000	100%																																																					

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																
13-2-2 民生費負担金	保育課	放課後児童クラブ負担金（現年分） 44,029,000	39,202,000	・対前年度0.8%の増、金額にして72,021,000円の増。 【普通交付税の算定】 (単位：千円) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和5年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準財政需要額 ①</td> <td>16,156,674</td> <td>15,978,905</td> </tr> <tr> <td>基準財政収入額 ②</td> <td>6,767,969</td> <td>6,662,221</td> </tr> <tr> <td>交付基準額 ③ (①-②)</td> <td>9,388,705</td> <td>9,316,684</td> </tr> <tr> <td>調整額 ④</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>普通交付税決定額 ⑤ (③-④)</td> <td>9,388,705</td> <td>9,316,684</td> </tr> <tr> <td>臨時財政対策債発行可能額 ⑥</td> <td>98,348</td> <td>210,146</td> </tr> <tr> <td>実質交付税額 ⑤+⑥</td> <td>9,487,053</td> <td>9,526,830</td> </tr> </tbody> </table>	区分	令和5年度	令和4年度	基準財政需要額 ①	16,156,674	15,978,905	基準財政収入額 ②	6,767,969	6,662,221	交付基準額 ③ (①-②)	9,388,705	9,316,684	調整額 ④	0	0	普通交付税決定額 ⑤ (③-④)	9,388,705	9,316,684	臨時財政対策債発行可能額 ⑥	98,348	210,146	実質交付税額 ⑤+⑥	9,487,053	9,526,830								
				区分	令和5年度	令和4年度																														
				基準財政需要額 ①	16,156,674	15,978,905																														
				基準財政収入額 ②	6,767,969	6,662,221																														
				交付基準額 ③ (①-②)	9,388,705	9,316,684																														
				調整額 ④	0	0																														
				普通交付税決定額 ⑤ (③-④)	9,388,705	9,316,684																														
				臨時財政対策債発行可能額 ⑥	98,348	210,146																														
				実質交付税額 ⑤+⑥	9,487,053	9,526,830																														
				◎放課後児童クラブ負担金 現年度分																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>39,346,000</td> <td>39,202,000</td> <td>99.6%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>39,546,750</td> <td>39,329,750</td> <td>99.5%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和5年度	39,346,000	39,202,000	99.6%	—	—	令和4年度	39,546,750	39,329,750	99.5%	—	—																
年度					調定額	収入済額	収納率	不納欠損																												
	額	件数																																		
令和5年度	39,346,000	39,202,000	99.6%	—	—																															
令和4年度	39,546,750	39,329,750	99.5%	—	—																															
◎放課後児童クラブ負担金 滞納繰越分																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>249,000</td> <td>225,000</td> <td>90.4%</td> <td>24,000</td> <td>3件</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>237,000</td> <td>157,000</td> <td>66.2%</td> <td>48,000</td> <td>12件</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和5年度	249,000	225,000	90.4%	24,000	3件	令和4年度	237,000	157,000	66.2%	48,000	12件																
年度					調定額	収入済額	収納率	不納欠損																												
	額	件数																																		
令和5年度	249,000	225,000	90.4%	24,000	3件																															
令和4年度	237,000	157,000	66.2%	48,000	12件																															
◎保育料 現年度分																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>46,477,450</td> <td>46,368,840</td> <td>99.8%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>52,591,896</td> <td>51,795,916</td> <td>98.5%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和5年度	46,477,450	46,368,840	99.8%	—	—	令和4年度	52,591,896	51,795,916	98.5%	—	—																
年度					調定額	収入済額	収納率	不納欠損																												
	額	件数																																		
令和5年度	46,477,450	46,368,840	99.8%	—	—																															
令和4年度	52,591,896	51,795,916	98.5%	—	—																															
一時保育料 2件 22,000円																																				
◎保育料 滞納繰越分																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>1,735,220</td> <td>1,438,910</td> <td>82.9%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>2,082,090</td> <td>1,160,450</td> <td>55.7%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和5年度	1,735,220	1,438,910	82.9%	—	—	令和4年度	2,082,090	1,160,450	55.7%	—	—																
年度					調定額	収入済額	収納率	不納欠損																												
	額	件数																																		
令和5年度	1,735,220	1,438,910	82.9%	—	—																															
令和4年度	2,082,090	1,160,450	55.7%	—	—																															
◎延長保育料 現年度分																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>352,700</td> <td>344,200</td> <td>97.6%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>393,100</td> <td>388,900</td> <td>98.9%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和5年度	352,700	344,200	97.6%	—	—	令和4年度	393,100	388,900	98.9%	—	—																
年度					調定額	収入済額	収納率	不納欠損																												
	額	件数																																		
令和5年度	352,700	344,200	97.6%	—	—																															
令和4年度	393,100	388,900	98.9%	—	—																															
◎延長保育料 滞納繰越分																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>4,200</td> <td>4,200</td> <td>100.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>11,300</td> <td>11,300</td> <td>100.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和5年度	4,200	4,200	100.0%	—	—	令和4年度	11,300	11,300	100.0%	—	—																
年度					調定額	収入済額	収納率	不納欠損																												
	額	件数																																		
令和5年度	4,200	4,200	100.0%	—	—																															
令和4年度	11,300	11,300	100.0%	—	—																															
14-1-6 土木使用料	住宅政策課	31,380,000	29,982,800	◎住宅使用料 現年度分																																
				<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和5年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>駐車場使用料</td> <td>1,718,000</td> <td>1,614,000</td> <td>93.9%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>市営住宅使用料</td> <td>4,372,300</td> <td>3,498,700</td> <td>80.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>改良住宅使用料</td> <td>25,001,400</td> <td>23,428,000</td> <td>93.7%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>31,091,700</td> <td>28,540,700</td> <td>91.8%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	駐車場使用料	1,718,000	1,614,000	93.9%	—	—	市営住宅使用料	4,372,300	3,498,700	80.0%	—	—	改良住宅使用料	25,001,400	23,428,000	93.7%	—	—	合 計	31,091,700	28,540,700	91.8%	—	—
				令和5年度					調定額	収入済額	収納率	不納欠損																								
					額	件数																														
				駐車場使用料	1,718,000	1,614,000	93.9%	—	—																											
				市営住宅使用料	4,372,300	3,498,700	80.0%	—	—																											
				改良住宅使用料	25,001,400	23,428,000	93.7%	—	—																											
				合 計	31,091,700	28,540,700	91.8%	—	—																											
				<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和4年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>駐車場使用料</td> <td>1,873,000</td> <td>1,769,800</td> <td>94.5%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>市営住宅使用料</td> <td>4,178,000</td> <td>3,489,800</td> <td>83.5%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>改良住宅使用料</td> <td>24,647,300</td> <td>23,497,600</td> <td>95.3%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>30,698,300</td> <td>28,757,200</td> <td>93.7%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	駐車場使用料	1,873,000	1,769,800	94.5%	—	—	市営住宅使用料	4,178,000	3,489,800	83.5%	—	—	改良住宅使用料	24,647,300	23,497,600	95.3%	—	—	合 計	30,698,300	28,757,200	93.7%	—	—
				令和4年度					調定額	収入済額	収納率	不納欠損																								
額	件数																																			
駐車場使用料	1,873,000	1,769,800	94.5%	—	—																															
市営住宅使用料	4,178,000	3,489,800	83.5%	—	—																															
改良住宅使用料	24,647,300	23,497,600	95.3%	—	—																															
合 計	30,698,300	28,757,200	93.7%	—	—																															

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																																																																		
15-2-1 総務費国庫補助金	企画経営課	590,881,000	578,532,619	◎住宅使用料 滞納繰越分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和5年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>駐車場使用料</td> <td>632,200</td> <td>28,980</td> <td>4.6%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>市営住宅使用料</td> <td>10,957,204</td> <td>173,220</td> <td>1.6%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>改良住宅使用料</td> <td>24,638,647</td> <td>1,239,900</td> <td>5.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>36,228,051</td> <td>1,442,100</td> <td>4.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和4年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>駐車場使用料</td> <td>556,000</td> <td>27,000</td> <td>4.9%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>市営住宅使用料</td> <td>10,431,204</td> <td>162,200</td> <td>1.6%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>改良住宅使用料</td> <td>24,128,077</td> <td>516,130</td> <td>2.1%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>35,115,281</td> <td>705,330</td> <td>2.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	駐車場使用料	632,200	28,980	4.6%	—	—	市営住宅使用料	10,957,204	173,220	1.6%	—	—	改良住宅使用料	24,638,647	1,239,900	5.0%	—	—	合 計	36,228,051	1,442,100	4.0%	—	—	令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	駐車場使用料	556,000	27,000	4.9%	—	—	市営住宅使用料	10,431,204	162,200	1.6%	—	—	改良住宅使用料	24,128,077	516,130	2.1%	—	—	合 計	35,115,281	705,330	2.0%	—	—																		
				令和5年度					調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																										
額	件数																																																																																					
駐車場使用料	632,200	28,980	4.6%	—	—																																																																																	
市営住宅使用料	10,957,204	173,220	1.6%	—	—																																																																																	
改良住宅使用料	24,638,647	1,239,900	5.0%	—	—																																																																																	
合 計	36,228,051	1,442,100	4.0%	—	—																																																																																	
令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																																		
				額	件数																																																																																	
駐車場使用料	556,000	27,000	4.9%	—	—																																																																																	
市営住宅使用料	10,431,204	162,200	1.6%	—	—																																																																																	
改良住宅使用料	24,128,077	516,130	2.1%	—	—																																																																																	
合 計	35,115,281	705,330	2.0%	—	—																																																																																	
17-2-1 不動産売払収入	公共施設マネジメント課 健康推進課	土地建物売払収入 25,649,000	32,677,525	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 590,881,000 578,532,619 ◎新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>430,811,129</td> <td>430,811,129</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和4年度(繰越)</td> <td>147,721,490</td> <td>147,721,490</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> 【充当事業（令和5年度）】 (単位：円) <table border="1"> <thead> <tr> <th>歳出款項目</th> <th>充当事業</th> <th>充当額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3-1-13</td> <td>低所得世帯生活支援臨時給付金給付事業（住民税非課税世帯等に3万円給付）</td> <td>207,549,129</td> </tr> <tr> <td>3-2-1</td> <td>出産・子育て応援事業（赤ちゃん応援給付金）</td> <td>26,500,000</td> </tr> <tr> <td>7-1-2</td> <td>商工振興事業（子ども未来応援デジタル商品券事業）</td> <td>180,499,000</td> </tr> <tr> <td>10-6-4</td> <td>学校給食運営事業（給食費無償化事業）</td> <td>16,263,000</td> </tr> </tbody> </table> 【充当事業（令和4年度(繰越)）】 (単位：円) <table border="1"> <thead> <tr> <th>歳出款項目</th> <th>充当事業</th> <th>充当額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6-1-2</td> <td>農業活動事業（肥料価格高騰対策補助金）</td> <td>28,045,490</td> </tr> <tr> <td>7-1-2</td> <td>商工振興事業（商工業者原油価格・物価高騰対策補助金）</td> <td>90,776,000</td> </tr> <tr> <td>7-1-2</td> <td>商工振興事業（貨物・旅客業等事業者燃料費高騰対策補助金）</td> <td>28,900,000</td> </tr> </tbody> </table> 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 1,066,068,000 526,631,652 ◎物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>526,631,652</td> <td>526,631,652</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> 【充当事業（令和5年度）】 (単位：円) <table border="1"> <thead> <tr> <th>歳出款項目</th> <th>充当事業</th> <th>充当額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3-1-9</td> <td>障害児通所給付事業（教育・保育施設等物価高騰対策補助金）</td> <td>300,000</td> </tr> <tr> <td>3-1-13</td> <td>低所得世帯生活支援臨時給付金給付事業（住民税非課税世帯等に7万円給付）</td> <td>468,888,008</td> </tr> <tr> <td>3-1-14</td> <td>低所得者支援・定額減税補足給付金給付事業</td> <td>52,143,644</td> </tr> <tr> <td>3-2-6</td> <td>子どものための教育・保育給付事業（教育・保育施設等物価高騰対策補助金）</td> <td>5,300,000</td> </tr> </tbody> </table> ◎土地建物売払収入 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>32,677,525</td> <td>32,677,525</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>74,284,288</td> <td>74,284,288</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> 【土地建物売払の内訳】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>所在地番（施設名称等）</th> <th>面積(㎡)</th> <th>収入済額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土地</td> <td>紀の川市貴志川町長原546番1 地先（法定外公共物（里道））</td> <td>37.94</td> <td>227,905</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	令和5年度	430,811,129	430,811,129	100%	令和4年度(繰越)	147,721,490	147,721,490	100%	歳出款項目	充当事業	充当額	3-1-13	低所得世帯生活支援臨時給付金給付事業（住民税非課税世帯等に3万円給付）	207,549,129	3-2-1	出産・子育て応援事業（赤ちゃん応援給付金）	26,500,000	7-1-2	商工振興事業（子ども未来応援デジタル商品券事業）	180,499,000	10-6-4	学校給食運営事業（給食費無償化事業）	16,263,000	歳出款項目	充当事業	充当額	6-1-2	農業活動事業（肥料価格高騰対策補助金）	28,045,490	7-1-2	商工振興事業（商工業者原油価格・物価高騰対策補助金）	90,776,000	7-1-2	商工振興事業（貨物・旅客業等事業者燃料費高騰対策補助金）	28,900,000	年度	調定額	収入済額	収納率	令和5年度	526,631,652	526,631,652	100%	歳出款項目	充当事業	充当額	3-1-9	障害児通所給付事業（教育・保育施設等物価高騰対策補助金）	300,000	3-1-13	低所得世帯生活支援臨時給付金給付事業（住民税非課税世帯等に7万円給付）	468,888,008	3-1-14	低所得者支援・定額減税補足給付金給付事業	52,143,644	3-2-6	子どものための教育・保育給付事業（教育・保育施設等物価高騰対策補助金）	5,300,000	年度	調定額	収入済額	収納率	令和5年度	32,677,525	32,677,525	100%	令和4年度	74,284,288	74,284,288	100%	区分	所在地番（施設名称等）	面積(㎡)	収入済額	土地	紀の川市貴志川町長原546番1 地先（法定外公共物（里道））	37.94	227,905
年度	調定額	収入済額	収納率																																																																																			
令和5年度	430,811,129	430,811,129	100%																																																																																			
令和4年度(繰越)	147,721,490	147,721,490	100%																																																																																			
歳出款項目	充当事業	充当額																																																																																				
3-1-13	低所得世帯生活支援臨時給付金給付事業（住民税非課税世帯等に3万円給付）	207,549,129																																																																																				
3-2-1	出産・子育て応援事業（赤ちゃん応援給付金）	26,500,000																																																																																				
7-1-2	商工振興事業（子ども未来応援デジタル商品券事業）	180,499,000																																																																																				
10-6-4	学校給食運営事業（給食費無償化事業）	16,263,000																																																																																				
歳出款項目	充当事業	充当額																																																																																				
6-1-2	農業活動事業（肥料価格高騰対策補助金）	28,045,490																																																																																				
7-1-2	商工振興事業（商工業者原油価格・物価高騰対策補助金）	90,776,000																																																																																				
7-1-2	商工振興事業（貨物・旅客業等事業者燃料費高騰対策補助金）	28,900,000																																																																																				
年度	調定額	収入済額	収納率																																																																																			
令和5年度	526,631,652	526,631,652	100%																																																																																			
歳出款項目	充当事業	充当額																																																																																				
3-1-9	障害児通所給付事業（教育・保育施設等物価高騰対策補助金）	300,000																																																																																				
3-1-13	低所得世帯生活支援臨時給付金給付事業（住民税非課税世帯等に7万円給付）	468,888,008																																																																																				
3-1-14	低所得者支援・定額減税補足給付金給付事業	52,143,644																																																																																				
3-2-6	子どものための教育・保育給付事業（教育・保育施設等物価高騰対策補助金）	5,300,000																																																																																				
年度	調定額	収入済額	収納率																																																																																			
令和5年度	32,677,525	32,677,525	100%																																																																																			
令和4年度	74,284,288	74,284,288	100%																																																																																			
区分	所在地番（施設名称等）	面積(㎡)	収入済額																																																																																			
土地	紀の川市貴志川町長原546番1 地先（法定外公共物（里道））	37.94	227,905																																																																																			

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容															
17-2-2 物品売払収入	契約管財課 危機管理消防課 廃棄物対策課 道路河川課	525,000	1,410,400	土地 紀の川市桃山町調月790番1 地先 (法定外公共物 (里道)) 86.05 140,003															
				土地 紀の川市下井阪94番 地先 (法定外公共物 (水路)) 82.13 121,306															
				土地 紀の川市西野山117番 地先、312番1 地先 (法定外公共物 (里道・水路)) 1,074.79 338,257															
				土地 紀の川市北勢田79番1 地先 (法定外公共物 (里道)) 50.38 107,863															
				土地 紀の川市上野9番14、9番2 地先 (法定外公共物 (公衆用道路・里道・水路)) 30.98 295,549															
				土地 紀の川市上野9番13、9番2 地先 (法定外公共物 (公衆用道路・里道・水路)) 28.65 278,907															
				土地 紀の川市桃山町調月708番1 地先 (法定外公共物 (水路)) 64.81 33,053															
				土地 紀の川市桃山町調月2683番 (普通財産 (雑種地)) 594.00 108,642															
				土地 紀の川市杉原310番1 (普通財産 (宅地)) 116.51 363,000															
				土地 紀の川市尾崎297番1 (普通財産 (宅地)) 401.19 2,050,000															
				土地 紀の川市上鞆淵173番3 (普通財産 (宅地：現況 雑種地)) 513.26 868,000															
				土地 紀の川市名手市場1215番40 (普通財産 (宅地)) 38.77 397,183															
				土地 紀の川市粉河1208番20 (普通財産 (宅地)) 56.01 225,317															
				土地 紀の川市畑野上207番2 (普通財産 (雑種地)) 394.00 6,382,000															
				土地 紀の川市王子65番2 (普通財産 (宅地)) 336.37 3,101,000															
				土地 紀の川市名手市場596番1 (普通財産 (雑種地)) 354.00 2,830,000															
				土地 紀の川市桃山町調月2352番、2352番1 (普通財産 (山林・原野)) 2,330.00 910,000															
				土地 紀の川市貴志川町岸小野207番ほか (あおば幼稚園用地、分割納付49回中28回目) 3,310.98 3,000,000															
				土地 紀の川市東大井350番地2 (普通財産 (宅地)) 286.83 10,899,540															
				面積 (㎡) は、土地の地積、建物の総面積です。															
				◎物品売払収入															
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>1,410,400</td> <td>1,410,400</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>3,212,540</td> <td>3,212,540</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>				年度	調定額	収入済額	収納率	令和5年度	1,410,400	1,410,400	100%	令和4年度	3,212,540	3,212,540	100%
				年度	調定額	収入済額	収納率												
令和5年度	1,410,400	1,410,400	100%																
令和4年度	3,212,540	3,212,540	100%																
【物品売払の内訳】																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>数量</th> <th>収入済額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乗用車</td> <td>1台</td> <td>30,000</td> </tr> <tr> <td>消防自動車</td> <td>3台</td> <td>521,400</td> </tr> <tr> <td>清掃運搬車</td> <td>2台</td> <td>518,000</td> </tr> <tr> <td>建設重機</td> <td>1台</td> <td>341,000</td> </tr> </tbody> </table>				区分	数量	収入済額	乗用車	1台	30,000	消防自動車	3台	521,400	清掃運搬車	2台	518,000	建設重機	1台	341,000	
区分	数量	収入済額																	
乗用車	1台	30,000																	
消防自動車	3台	521,400																	
清掃運搬車	2台	518,000																	
建設重機	1台	341,000																	
18-1-1 一般寄附金	地域創生課	ふるさとまちづくり寄附金 1,901,000,000	1,909,159,160	◎ふるさと納税寄附金															
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>収入済額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>1,906,609,160</td> <td>160,771件</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>1,387,749,800</td> <td>117,285件</td> </tr> </tbody> </table>	年度	収入済額	件数	令和5年度	1,906,609,160	160,771件	令和4年度	1,387,749,800	117,285件						
年度	収入済額	件数																	
令和5年度	1,906,609,160	160,771件																	
令和4年度	1,387,749,800	117,285件																	
◎企業版ふるさと納税寄附金																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>収入済額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>2,550,000</td> <td>5件</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>4,370,000</td> <td>3件</td> </tr> </tbody> </table>				年度	収入済額	件数	令和5年度	2,550,000	5件	令和4年度	4,370,000	3件							
年度	収入済額	件数																	
令和5年度	2,550,000	5件																	
令和4年度	4,370,000	3件																	

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																																																	
21-3-1 土木費貸付金元利収入	住宅政策課	3,000	0	【ふるさと納税寄附金の地域別件数】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>令和5年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北海道</td> <td>4,474件</td> <td>2,679件</td> </tr> <tr> <td>東北</td> <td>3,098件</td> <td>2,281件</td> </tr> <tr> <td>関東</td> <td>74,138件</td> <td>52,927件</td> </tr> <tr> <td>中部</td> <td>22,297件</td> <td>16,254件</td> </tr> <tr> <td>近畿</td> <td>38,072件</td> <td>29,099件</td> </tr> <tr> <td>中国・四国</td> <td>6,988件</td> <td>5,208件</td> </tr> <tr> <td>九州・沖縄</td> <td>11,704件</td> <td>8,837件</td> </tr> </tbody> </table>	地域	令和5年度	令和4年度	北海道	4,474件	2,679件	東北	3,098件	2,281件	関東	74,138件	52,927件	中部	22,297件	16,254件	近畿	38,072件	29,099件	中国・四国	6,988件	5,208件	九州・沖縄	11,704件	8,837件																																									
				地域	令和5年度	令和4年度																																																															
				北海道	4,474件	2,679件																																																															
				東北	3,098件	2,281件																																																															
				関東	74,138件	52,927件																																																															
				中部	22,297件	16,254件																																																															
				近畿	38,072件	29,099件																																																															
				中国・四国	6,988件	5,208件																																																															
				九州・沖縄	11,704件	8,837件																																																															
				【ふるさと納税寄附金の返礼品別寄附実績】 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">返礼品</th> <th colspan="2">令和5年度</th> <th colspan="2">令和4年度</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>寄附額</th> <th>件数</th> <th>寄附額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>果物</td> <td>94.7%</td> <td>94.8%</td> <td>93.5%</td> <td>91.7%</td> </tr> <tr> <td> 桃</td> <td>78.5%</td> <td>82.7%</td> <td>75.2%</td> <td>78.5%</td> </tr> <tr> <td> 柿</td> <td>2.7%</td> <td>1.9%</td> <td>2.6%</td> <td>2.1%</td> </tr> <tr> <td> 八朔</td> <td>2.1%</td> <td>1.5%</td> <td>3.0%</td> <td>1.7%</td> </tr> <tr> <td> いちご</td> <td>1.4%</td> <td>0.9%</td> <td>0.6%</td> <td>0.7%</td> </tr> <tr> <td> いちじく</td> <td>1.6%</td> <td>1.4%</td> <td>1.6%</td> <td>1.3%</td> </tr> <tr> <td> キウイ</td> <td>1.4%</td> <td>1.1%</td> <td>1.3%</td> <td>1.0%</td> </tr> <tr> <td> その他</td> <td>7.0%</td> <td>5.3%</td> <td>9.2%</td> <td>6.4%</td> </tr> <tr> <td>飲料類</td> <td>2.3%</td> <td>1.8%</td> <td>2.3%</td> <td>2.0%</td> </tr> <tr> <td>加工品</td> <td>1.1%</td> <td>1.5%</td> <td>2.5%</td> <td>2.7%</td> </tr> <tr> <td>肉類</td> <td>0.2%</td> <td>0.2%</td> <td>0.3%</td> <td>0.4%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1.7%</td> <td>1.7%</td> <td>1.4%</td> <td>3.2%</td> </tr> </tbody> </table>	返礼品	令和5年度		令和4年度		件数	寄附額	件数	寄附額	果物	94.7%	94.8%	93.5%	91.7%	桃	78.5%	82.7%	75.2%	78.5%	柿	2.7%	1.9%	2.6%	2.1%	八朔	2.1%	1.5%	3.0%	1.7%	いちご	1.4%	0.9%	0.6%	0.7%	いちじく	1.6%	1.4%	1.6%	1.3%	キウイ	1.4%	1.1%	1.3%	1.0%	その他	7.0%	5.3%	9.2%	6.4%	飲料類	2.3%	1.8%	2.3%	2.0%	加工品	1.1%	1.5%	2.5%	2.7%	肉類	0.2%	0.2%	0.3%	0.4%	その他
返礼品	令和5年度		令和4年度																																																																		
	件数	寄附額	件数	寄附額																																																																	
果物	94.7%	94.8%	93.5%	91.7%																																																																	
桃	78.5%	82.7%	75.2%	78.5%																																																																	
柿	2.7%	1.9%	2.6%	2.1%																																																																	
八朔	2.1%	1.5%	3.0%	1.7%																																																																	
いちご	1.4%	0.9%	0.6%	0.7%																																																																	
いちじく	1.6%	1.4%	1.6%	1.3%																																																																	
キウイ	1.4%	1.1%	1.3%	1.0%																																																																	
その他	7.0%	5.3%	9.2%	6.4%																																																																	
飲料類	2.3%	1.8%	2.3%	2.0%																																																																	
加工品	1.1%	1.5%	2.5%	2.7%																																																																	
肉類	0.2%	0.2%	0.3%	0.4%																																																																	
その他	1.7%	1.7%	1.4%	3.2%																																																																	
◎貸付金元利収入 現年度分																																																																					
令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																	
				額	件数																																																																
住宅新築資金(国)	223,824	0	0.0%	—	—																																																																
住宅新築資金(県)	95,052	0	0.0%	—	—																																																																
宅地取得資金(国)	120,600	0	0.0%	—	—																																																																
住宅改修資金(国)	161,724	0	0.0%	—	—																																																																
合 計	601,200	0	0.0%	—	—																																																																
令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																	
				額	件数																																																																
住宅新築資金(国)	223,824	0	0.0%	—	—																																																																
住宅新築資金(県)	95,052	0	0.0%	—	—																																																																
宅地取得資金(国)	120,600	0	0.0%	—	—																																																																
住宅改修資金(国)	161,724	0	0.0%	—	—																																																																
合 計	601,200	0	0.0%	—	—																																																																
◎貸付金元利収入 滞納繰越分																																																																					
令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																	
				額	件数																																																																
住宅新築資金(国)	121,651,961	3,591,504	3.0%	—	—																																																																
住宅新築資金(県)	17,327,530	120,000	0.7%	—	—																																																																
宅地取得資金(国)	66,281,446	2,115,028	3.2%	—	—																																																																
宅地取得資金(県)	0	0	—	—	—																																																																
住宅改修資金(国)	12,414,493	24,000	0.2%	—	—																																																																
合 計	217,675,430	5,850,532	2.7%	—	—																																																																
令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																	
				額	件数																																																																
住宅新築資金(国)	132,742,979	4,530,799	3.4%	6,784,043	1件																																																																
住宅新築資金(県)	18,092,887	90,000	0.5%	770,409	1件																																																																
宅地取得資金(国)	72,271,998	1,333,991	1.8%	4,777,161	1件																																																																
宅地取得資金(県)	0	0	—	—	—																																																																
住宅改修資金(国)	12,272,769	20,000	0.2%	—	—																																																																
合 計	235,380,633	5,974,790	2.5%	12,331,613	3件																																																																
		5,693,000	5,850,532																																																																		

[歳出]

事務事業名	議会秘書事業		担当課	議事調査課		事業区分	内部管理事業			
	新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	433			
事務事業の概要	会計	一般会計		長期総合計画体系	政策目標	99	*****			
	予算科目	款	1		議会費	施策目標	99	*****		
		項	1		議会費	基本施策	99	*****		
		目	1		議会費	取組方針	9	その他		
事業概要	議員が円滑に議会活動が行えるように、日程の調整、随行、関連団体への参画を支援する事業									
事務事業を構成する細事業	①	秘書業務		⑤	全国高速自動車道市議会協議会負担金		⑨			
	②	全国市議会議長会負担金		⑥			⑩			
	③	近畿市議会議長会負担金		⑦			⑪			
	④	県市議会議長会負担金		⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	議会交際費支出件数	件	目標						目標値の設定になじまないため、議会交際費の支出件数を実績値とする。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行されたことに伴い、式典・催事が再開され、交際・渉外に要する経費も増加している。
		実績		3	5	14				
	<指標の計算方法>		交際費の支出件数							
	成果指標	議会公務等件数	件	目標						目標値の設定になじまないため、議長等が公務等に出席した件数を実績値とする。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行されたことに伴い、対面形式の会議や催事が再開され、議長等の公務件数は増加している。
		実績		82	80	145				
<指標の計算方法>		議長等が公務等に出席した件数								
			目標							
			実績							
<指標の計算方法>										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
	2,310			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
			2,310							
事業の実績	①秘書業務		⑤全国高速自動車道市議会協議会負担金							
	・慶弔 0件		・定期総会1回							
	・賛助、協賛 0件		・総会2回							
	・会費 7件		・研修会2回							
・接遇、土産 5件										
・その他 2件										
②全国市議会議長会負担金										
・定期総会1回										
・委員会4回										
・研究フォーラム1回										
③近畿市議会議長会負担金										
・定期総会1回										
・研修会1回										
④県市議会議長会負担金										
・総会2回										
・研修会2回										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
			<ul style="list-style-type: none"> 正副議長及び議員が議会を代表して出席する会議・催事等の資料収集、日程調整及び随行による支援をすることで、議会活動が円滑かつ効率的に進められるため、事務局によるサポートは妥当である。 議会交際費は、必要最低限の社会的儀礼を果たすための支出であり、用途を公開することによりその妥当性を示している。 							
	有効性	評価結果	改善の余地がない							
			<ul style="list-style-type: none"> 議会秘書事業は、目標値を設定することに適さないが、性質上、必要不可欠な業務である。 議員が円滑に議会活動を行っていくために適切なサポートができています。 							
効率性	評価結果	改善の余地がない								
			<ul style="list-style-type: none"> 議会秘書業務に要する費用で、必要最小限の経費以外計上していないため、コスト削減は難しい。 							

事務事業の概要	事務事業名	議会運営事業			担当課	議事調査課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	437	
	予算科目	款	1	議会費	長期総合計画体系	政策目標	99	*****				
		項	1	議会費		施策目標	99	*****				
		目	1	議会費		基本施策	99	*****				
取組方針	9	その他										
事業概要	市議会の適正な運営と市民にわかりやすく開かれた議会づくりに取り組むとともに、定例会、委員会等の開催や議会広報紙の発行を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	議員報酬・共済			⑤	議事調査業務		⑨				
	②	本会議運営			⑥			⑩				
	③	委員会等運営			⑦			⑪				
	④	議会広報・HP編集業務			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	本会議・委員会等開催回数	目標	120	120	120	120	120	本会議・委員会等の開催日数は、目標どおりである。			
			実績	148	115	148						
	<指標の計算方法>		定例会、臨時会、議会運営委員会、常任委員会、特別委員会、研修会、その他会議									
	成果指標	委員会・議員提出議案件数	目標	3	3	3	3	3	委員会及び議員提出議案は議員が主体的に立案するものであり、必要とされる後方支援業務は遂行できている。			
			実績	4	1	1						
	<指標の計算方法>		委員会提出議案、議員提出議案									
	活動指標	議会広報紙配布部数	目標	104,000	104,200	104,400	105,600	105,600	議会広報紙配布数は、目標どおりである。			
			実績	104,000	104,400	105,600						
	<指標の計算方法>		年4回発行、1回につき26,400部印刷									
成果指標	傍聴者数	目標	50	50	50	50	50	令和5年度は、地域の身近な問題に係る請願が取り扱われたこともあって傍聴者数が増加した。				
		実績	132	71	166							
<指標の計算方法>		定例会、各種委員会傍聴者数（議員の傍聴は除く。）										
コストの実績	R 5年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
	153,909			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	153,909		
事業の実績	①議員報酬・共済			意見書案 0件		再生回数 3,026件		⑤議事調査業務 ・全議員研修会 2月9日：紀の川市役所				
	・毎月の報酬 議長 460,000円 副議長 410,000円 議員 370,000円			決議案 1件		・会議録検索システムの導入 アクセス数 6,642件						
②本会議運営	・議案等処理状況			③委員会等運営		・総務文教常任委員会行政視察 5月10日～12日：福津市、宮若市、朝倉市		④議会広報・HP編集業務 ・1回につき26,400部印刷 ・年4回発行（5月、8月、11月、2月） ・本会議の録画配信を実施 （6月、9月、12月、3月）				
	予算 39件 条例案（議員提出） 0件 条例案（委員会提出） 0件 条例案（市長提出） 18件 議決案 7件 任命（選任）同意 36件 認定 10件 専決の承認（予算） 3件 専決の承認（条例） 6件 専決の承認（契約等） 0件 諮問案 6件 議会議規則案 0件			市 市 ・産業建設常任委員会行政視察 7月18日～20日：十和田市、黒石市、弘前市 市 市 ・議会広報特別委員会行政視察 5月16日～17日：加東市、洲本市								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・議会は市民の代表者である議員で構成され、議案の審議・調査等を行うことにより、地方公共団体における市民の意思や要望を行政に反映させるための市の最高の意思決定機関であり、施策に結びつけるものではない。 ・議会の果たすべき役割である意思決定機関、また執行機関を監視する機関として必要不可欠な事務事業であり、事務局によるサポートは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない ・各種法令等に基づき適正に事務を執行し、円滑な議会運営を行っていくために適切なサポートができています。 ・成果指標は、市民の議会及び市政への関心が大きく左右する。議会に対する理解を深めていただく重要な手段である議会広報紙の発行は、インターネットを利用する環境にない市民をはじめ、多くの市民に議会に関心を持っていただくきっかけづくりを担うものであり有効である。									
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・議会運営に要する費用で事業費の大部分が議員報酬等の人件費であり、他には経常経費以外計上しておらず、現状以上にコスト削減は難しい。									

事務事業の概要	事務事業名	行政秘書事業		担当課	秘書課		事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	445
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	1 一般管理費			基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進		
取組方針			9	その他						
事業概要	市長、副市長が円滑に公務の遂行が行えるように、日程の調整や随行、関連団体へ参画する事業									
事務事業を構成する細事業	①	秘書・渉外業務			⑤	県市長会負担金			⑨	
	②	栄典・表彰業務（地方自治功労）			⑥				⑩	
	③	全国市長会負担金			⑦				⑪	
	④	近畿市長会負担金			⑧				⑫	

指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析
	活動指標	市長交際費支出件数	件	目標					市政の円滑な運営と発展のため、式典や大会等への市長交際費の支出件数。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、式典や大会等も実施開催が増えたことにより、令和5年度の支出件数は増加となった。
			実績	16	43	61			
	<指標の計算方法>		交際費の年間支出件数						
	活動指標	地方自治功労等に係る栄典及び表彰等の推薦件数	件	目標					叙勲等の受章条件を満たす者が限られるため、推薦件数は少なくなるが、該当者漏れがないよう、各部署と情報を共有し、細心の注意を払い事務をつかさどる。
実績			4	5	2				
<指標の計算方法>		年間の推薦件数							
成果指標	市長会会議随行日数	日	目標	10	10	10	10	10	計画していた市長会会議が開催され、出席に伴い随行ができた。
		実績	11	10	10				
<指標の計算方法>		年間の市長会会議随行日数							
		目標							
		実績							
<指標の計算方法>									

コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)	財源内訳					
		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	8,300						8,300

事業の実績	①秘書・渉外業務 市長、副市長の円滑な公務遂行を補助。	②栄典・表彰業務（地方自治功労） 地方自治功労等に係る栄典及び表彰等の推薦を行う。	③全国市長会負担金 会議随行日数：6日
	④近畿市長会負担金 会議随行日数：1日	⑤県市長会負担金 会議随行日数：3日	※市政の円滑なる運営と進展に資するため、各市との連携を図り、政府等に対して要望活動を行う。
「交際費執行状況」			
	・慶弔 慶祝 3件 30,000円	・叙勲 0	
	・慶弔 弔慰 0件 0円	・褒章 0	
	・慶弔 見舞い 0件 0円	・高齢者叙勲 0	
	・会費 23件 224,500円	・死亡叙勲 0	
	・激励 5件 19,800円	・叙位 1名	
	・賛助、協賛、協力 1件 5,000円	・県知事表彰 1名	
	・渉外、接遇 29件 975,945円	・その他 0	
	・その他 0件 0円		
	合計 61件 1,255,245円	推薦件数合計 2件	

事業の事後評価	妥当性	評価結果 改善の余地がない ・行政秘書事業は、市長、副市長が公務を円滑に遂行するため、市が実施すべき事業である。
	有効性	評価結果 改善の余地がない ・市長、副市長の公務管理・執行補助は的確にできている。 ・突発的な公務が発生した場合であっても、スケジュールを微調整できる体制が構築されている。
	効率性	評価結果 改善の余地がない ・来訪者や対外公務等により、内部調整等の時間確保が難しい時もあるが、効率的に業務をすすめて行くことができています。

事務事業の概要	事務事業名		総務庶務事業				担当課	総務課		事業区分	内部管理事業		
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	448
	予算科目	款	2 総務費				長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費					施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1 一般管理費					基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要		市が効率的な行政運営をするために、庁内総務業務の処理を行う事業											
事務事業を構成する細事業		① 防火管理協議会負担金			⑤ 自動車臨時運行許可			⑨					
		② 平和首長会議メンバーシップ負担金			⑥ 一般寄附金受入			⑩					
		③ 公印・市章管理			⑦ 北方領土返還要求運動和歌山県民会議負担金			⑪					
		④ 自衛官募集			⑧			⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析				
	活動指標	自動車臨時運行許可件数	件	目標						年々減少傾向であったが、令和5年度は微増となった。			
			実績	490	387	397							
	<指標の計算方法>		許可件数										
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	264			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	211			10
事業の実績	①防火管理協議会負担金 消防操法大会実施			⑥一般寄附金受入 2件、865,000円			⑦北方領土返還要求運動和歌山県民会議負担金 ・北方領土返還要求運動和歌山県民会議総会 研修会 和歌山市で開催（職員1名参加） ・北方領土返還要求和歌山県民大会 田辺市で開催（職員2名参加）						
	②平和首長会議メンバーシップ負担金 核のない世界恒久平和の実現に向けた国際 世論を醸成												
	③公印・市章管理 市長印の使用確認、市章の使用申請の許可												
	④自衛官募集 市広報紙へ年4回掲載 (5月号・7月号・11月号・3月号)												
	⑤自動車臨時運行許可 未登録自動車・検査証の有効期間満了車 を、車検・登録などの目的で運行させる必 要があるとき、申請に基づき仮ナンバーを 交付												
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
・市として行わなければならない、又は行った方が望ましい業務である。													
有効性		評価結果	改善の余地がない										
	・市として対外的に必要な業務、内務事務で必要な業務や住民サービス関係の業務等を支障なく運用することができている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・複数の部署で処理するよりも、総務課が取りまとめて処理することにより、無駄のない運用ができている。												

事務事業の概要	事務事業名	法制事業		担当課	総務課			事業区分	内部管理事業							
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	450						
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営								
		項	1	総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成								
		目	1	一般管理費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進								
事業概要	市が法令に基づき適正な事務を執行するために、条例等の制定や改廃についての審査や管理等を行う事業															
事務事業を構成する細事業	①	例規審査	⑤	⑨	②	例規管理	⑥	⑩	③	公示・公告式・官報管理	⑦	⑪	④		⑧	⑫
指標の実績	指標名	単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析							
	成果指標	条例等の制定改廃件数	件	目標						令和5年度は機構改革等の影響により実績値が増加した。						
			実績		511	204	304									
	<指標の計算方法>		条例、規則、訓令、告示等の制定改廃件数													
	成果指標	例規管理システムへの登録件数	件	目標						地域振興施策に関する補助事業の増加等により微増となった。						
			実績		1,023	1,033	1,049									
<指標の計算方法>		例規管理システムに登録している例規の件数														
<指標の計算方法>																
<指標の計算方法>																
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳												
	3,315			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,315						
事業の実績	①例規審査 制定改廃件数 304件															
	②例規管理 システム登録件数 1,049件															
	③公示・公告式・官報管理 紀の川市公告式条例に基づき適正に実施															
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・市の施策及び事業を規程にする事務は行政運営上必要不可欠であり、民間その他の機関で実施できるものではない。														
	有効性	評価結果	改善の余地がない													
・外部の法制研修への参加をはじめ、例規システム委託業者への相談、質問等を積極的に行い、法制知識の向上や例規の充実に努めている。																
効率性	評価結果	改善の余地がない														
	・平成26年度に構築したシステムの使用料及び例規データの更新費用のみのため、経費の大幅な削減は困難である。業務委託先を変更した場合、初期データの構築費並びに過去例規データ、原議データ及び改正履歴データの再構築経費が上乗せとなるため、効率的に実施できている。															

事務事業の概要	事務事業名	顧問弁護士相談事業			担当課	総務課		事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	449
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	1 一般管理費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進		
事業概要	市及び職員が、問題の適切な対応及び解決を図るために、顧問弁護士に法的問題に関連する相談を行い、助言を受ける事業										
事務事業を構成する細事業	①	法律相談			⑤				⑨		
	②	訴訟等対応			⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	法律相談件数	件	目標						相談件数は微減である。	
				実績		28	45	41			
	<指標の計算方法>		法律相談件数								
	成果指標	訴訟等件数	件	目標						件数は減っている。	
				実績			3	1			
	<指標の計算方法>		訴訟、調停、和解等の事件数（提訴した事件を除く。）								
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	1,925			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,925	
事業の実績	①法律相談 18課から相談事案があり相談時間は延べ1,254分										
	②訴訟等対応 提訴された1件について顧問弁護士に代理委任										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・業務を行う上で生じる法的問題に適切に対応するため、本事業は不可欠である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・法の専門家である弁護士の助言を受けて問題に対処することで、最善の方法で、説得力のある対応ができる。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・顧問弁護士に相談した上で案件の解決に取り組むことで、悪化を防ぎ、早期解決に役立っている。										

事務事業の概要	事務事業名	行政手続制度整備事業			担当課	総務課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1045
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	1 一般管理費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進		
事業概要	市が適正な基準をもって各手続に対する審査や行政処分が行えるように、審査基準や不利益処分に係る処分基準等を定める事業										
事務事業を構成する細事業	①	制度整備			⑤				⑨		
	②				⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	法令に基づく申請に対する処分公表件数	件	目標							適正に処理し公表している。
				実績	255	276	287				
			<指標の計算方法>	法令に基づく申請に対する処分公表件数							
	成果指標	法令に基づく不利益処分公表件数	件	目標							適正に処理し公表している。
				実績	254	236	273				
			<指標の計算方法>	法令に基づく不利益処分公表件数							
	成果指標	例規に基づく申請に対する処分公表件数	件	目標							適正に処理し公表している。
				実績	155	163	164				
			<指標の計算方法>	例規に基づく申請に対する処分公表件数							
	成果指標	例規に基づく不利益処分公表件数	件	目標							適正に処理し公表している。
				実績	129	127	134				
<指標の計算方法>			例規に基づく不利益処分公表件数								
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	330			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	330	
事業の実績	①制度整備 ・行政手続制度整備のための点検作業を行うため、委託業者による説明会を実施した。 ・法令及び例規に基づく申請に対する処分と不利益処分の個票を追加、削除、更新し、市ホームページで公表した。										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・行政手続法及び紀の川市行政手続条例に基づき処分基準等を公表する必要がある。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・行政手続法及び紀の川市行政手続条例に基づき処分基準等を公表している。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・各処分担当課による処分の見直し及び更新を行えば業務委託は不要となるが、取りまとめに要する時間及び精度の保持を考慮すると業務委託により実施することが効率的と考える。										

事務事業の概要	事務事業名	行政不服審査事業			担当課	総務課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1064	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1 一般管理費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
取組方針	9	その他										
事業概要	審査請求人の権利が適正に確保されるように、市が行政処分審査請求がされてから裁決までの行程を円滑に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	行政不服審査			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	審査請求件数	回	目標						令和5年度は、審査請求なし。		
				実績	1	1						
	<指標の計算方法>		年間審査請求件数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	260			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	260		
事業の実績	①行政不服審査 ・市の処分等に関して不服があり、審査請求が提出された場合、その処分等について審査を実施する。 審査請求件数 0件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・行政不服審査法に基づき、市が適切に運用する必要がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・市が行う処分に対し、不服を申し立てることができる制度である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・不服申立てを審査する審理員について、弁護士を臨時的に任用することで事務を効率的に進めることができている。											

事務事業の概要	事務事業名	情報公開・個人情報保護事業			担当課	総務課			事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1066	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1 一般管理費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
取組方針	5	情報公開・個人情報保護制度の適正な運用										
事業概要	関連法令等に基づき開示等が適正になされるよう、関係部署への指導や審査会の運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	情報公開			⑤				⑨			
	②	個人情報保護			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	活動指標	公文書開示請求による審査請求に係る審査会開催数	回	目標							公文書開示請求による審査請求に係る情報公開・個人情報保護審査会の開催はなし。	
		実績										
		<指標の計算方法>	公文書開示請求による審査請求に係る審査会の年間開催回数									
	成果指標	公文書開示請求件数	件	目標								公文書開示請求件数は令和4年度に比べて増加した。
		実績		68	41	123						
		<指標の計算方法>	公文書開示請求件数									
	活動指標	個人情報開示請求による審査請求に係る審査会開催数	回	目標								個人情報開示請求による審査請求に係る情報公開・個人情報保護審査会の開催はなし。
		実績										
		<指標の計算方法>	個人情報開示請求による審査請求に係る審査会の年間開催数									
	成果指標	個人情報開示請求件数	件	目標								個人情報開示請求件数は令和4年度と比べて微増した。
		実績		22	22	27						
		<指標の計算方法>	個人情報開示請求件数									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①情報公開 市が保有している公文書についての開示請求書及び任意開示申出書の受付											
	②個人情報保護 市が保有している自己情報についての開示請求書の受付											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・個人情報の保護に配慮しつつ、市が保有している情報を公開している。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・自己情報のコントロール権を保障し、市の説明責任を果たすことは、開かれた市政の実現を目指す手段として有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・必要最小限のコストで事務を行っているため、改善の余地はない。											

事務事業の概要	事務事業名	文書管理事業		担当課	総務課			事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	460	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1 一般管理費			基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
取組方針	9	その他									
事業概要	職員が公文書を迅速に検索、閲覧できるように、登録から所在確認、廃棄までの管理を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	文書等收受・発送・配付			⑤				⑨		
	②	文書管理			⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	文書管理作業日数	日	目標	174	174	174	176	176	作業日数の増加は、機構改革に伴う登録文書のデータ整理によるものである。	
				実績	165	180.5	202				
	<指標の計算方法>		日数								
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	12,433			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	12,433	
事業の実績	①文書等收受・発送・配付 ・各課からの通知文書を取りまとめ発送 ・郵送されてきた文書の收受を行い、各課へ配付し、各支所についてはメール便で配付 ②文書管理 登録13,004件 修正8,180件（機構改革に伴う修正分は除く） 削除1,431件（廃棄分は除く） 書庫移管7,444件（1,210箱） 廃棄12,281件（994箱） 廃棄年度延長2,175件 廃棄年度延長文書の統廃合1,669件（513箱） 機構改革に伴うデータ整備 修正29,222件										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・現状通り継続する必要がある業務である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・事業実施により、職員が公文書を迅速に検索・閲覧することができる。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・職員自ら確認する必要があることから、現状の一部委託の状態が効率的である。										

事務事業の概要	事務事業名	監察業務事業		担当課	人材マネジメント課			事業区分	内部管理事業	
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	840
	予算科目	款	2 総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
	項目	1 総務管理費	施策目標		3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
	目	1 一般管理費	基本施策		5	職員の育成と職場環境の充実				
事業概要	廉潔で透明性のある市政を実現するために、職員の法令遵守を推進し、監察、調査、指導を行い、また、市への不当要求行為対策に協力する事業									
事務事業を構成する細事業	①	監察業務	⑤		⑨					
	②		⑥		⑩					
	③		⑦		⑪					
	④		⑧		⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析
	活動指標	業務指導・相談件数	件	目標						令和4年度と比較して増加している。
			実績		73	24	48			
	<指標の計算方法>		監察監が実施した職員の業務指導・相談の件数							
	活動指標	不当要求行為対応件数	件	目標						令和4年度と比較して増加している。
			実績		4	1	5			
	<指標の計算方法>		監察監が対応した不当要求行為の件数							
			目標							
			実績							
<指標の計算方法>										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
5,493									5,493	
事業の実績	①監察業務 ・業務指導・相談 48件 うち不当要求行為対応 5件 ・新任課長対象公務員倫理等研修 1回 ・新規採用職員対象公務員倫理等研修 1回									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
		・公正かつ民主的な市政の運営のため、職員の法令遵守を推進する事業である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない							
・市政に対する市民の信頼を得るには有効な事業である。										
効率性	評価結果	改善の余地がない								
	・専門知識や経験のある者を任用することで効率性は向上する。									

事務事業の概要	事務事業名	職員人事管理事業		担当課	人材マネジメント課			事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	3	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	2 人事管理費			基本施策	5	職員の育成と職場環境の充実			
事業概要	組織の活性化と限られた人員で最大の成果を得る体制づくりをすすめるために、職員の就業管理、定員管理、人事異動を実施する事業										
事務事業を構成する細事業	①	職員人事管理		⑤				⑨			
	②	職員勤務・休暇管理		⑥				⑩			
	③	年末調整事務		⑦				⑪			
	④			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	平均年次有給休暇取得日数	日	目標	10	10	10	14	14	平均年次有給休暇の取得日数が、年々向上している。	
				実績	10.6	11.03	12.1				
	<指標の計算方法>		全職員の年次有給休暇取得日数÷職員数								
	成果指標	職員数	人	目標	545	541	537	536	536		職員数は、職員適正化計画の計画目標数値内となっている。
				実績	542	534	533				
	<指標の計算方法>		4月1日職員数								
活動指標	職場巡視実施及び周知・啓発回数	回	目標	13	13	13	13	13	災害復旧対応などもあり、過重労働に対する啓発のための夜間職場巡視を4回実施した。		
			実績	2	2	4					
<指標の計算方法>		職場巡視実施及び周知・啓発回数									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	8,006			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	8,006	
事業の実績	①職員人事管理 ・職員の人事異動 225人 (令和6年度に向けての異動準備) ・令和5年度退職者 12人 ・人事院勧告に伴う条例、規則等を改正 ②職員勤務・休暇管理 ・育児休業取得者 16人(内 男性3人) ・産前産後休業取得者 8人 ・病気休業取得者 68人 ③年末調整事務 ・年末調整事務(特別職を含む正職員) 533人 ・年末調整事務(会計年度任用職員) 346人										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・人事異動によって限られた人員で最大の成果を得る体制をつくるための事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・人事異動により適材適所に職員を配置し職員の能力を十分に発揮することは、市民サービスの向上に繋がる。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・年末調整事務などの定型業務については外部委託をしている。										

事務事業の概要	事務事業名	職員給与管理事業			担当課	人材マネジメント課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	451	
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	項目	1	総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
	目	2	人事管理費			基本施策	5	職員の育成と職場環境の充実				
事業概要	職員が適正な給与を受け取れるように、給与、手当の支給を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	特別職報酬等審議会			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名	単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	特別職報酬等審議会開催回数	回	目標	1	3	1	1	1	開催案件がなかった。		
				実績	0	3	0					
	<指標の計算方法>		審議会の開催回数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①特別職報酬等審議会 ・未開催											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・適正な給与及び議員報酬を公正に決定する事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・特別職報酬等審議会については、学識経験者を構成委員としている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・事業自体の効率性を評価すべき事業ではない。											

事務事業の概要	事務事業名	人材育成研修事業		担当課	人材マネジメント課		事業区分	内部管理事業				
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	452		
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	2 人事管理費			基本施策	5	職員の育成と職場環境の充実				
事業概要	職員の能力の向上を図るために、各種研修や人事評価等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 職員採用	⑤ 県市町村職員研修協議会負担金		⑨								
	② 職員研修	⑥		⑩								
	③ 職員派遣	⑦		⑪								
	④ 人事評価	⑧		⑫								
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	職員研修開催回数 (市主催研修)	回	目標	20	20	20	20	20	新型コロナウイルス感染症が感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律上、5類感染症に移行されたことにより、研修会場の受け入れ人数を増加させたことで、令和4年度より回数が減少した。		
			実績	17	31	29						
	<指標の計算方法>		市が主催する研修の回数									
	成果指標	職員研修延べ受講者数	人	目標	2,500	1,000	1,000	1,000	1,000	新型コロナウイルス感染症が感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律上、5類感染症に移行されたことにより、和歌山県市町村職員研修協議会主催の研修会への参加者が増加したことで、令和4年度より大幅に増加した。		
			実績	718	679	1,125						
<指標の計算方法>		市主催研修+和歌山県市町村職員研修協議会主催研修+民間機関等主催研修の受講者数										
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)		財源内訳									
	7,831		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
								236		7,595		
事業の実績	①職員採用		アップ研修、メンター制度 等) 4回									
	<ul style="list-style-type: none"> 事務職 受験者数 99人 採用者数 8人 土木職 受験者数 4人 採用者数 2人 保育士 受験者数 19人 採用者数 2人 保健師 受験者数 6人 採用者数 2人 社会福祉士 受験者数 3人 採用者数 2人 		<ul style="list-style-type: none"> 職員提案制度研修 1回 安全運転研修 1回 									
②職員研修		<ul style="list-style-type: none"> 階層別研修 8回 新規採用職員研修(スタートアップ研修、プレゼンテーション研修、フォロー 		③職員派遣		<ul style="list-style-type: none"> 和歌山県後期高齢者医療広域連合 1人 和歌山県東京事務所 1人 		④人事評価			<ul style="list-style-type: none"> 令和5年4月～令和6年3月にかけて業績評価及び能力評価を実施 	
		⑤県市町村職員研修協議会負担金		<ul style="list-style-type: none"> 一般研修 106人受講 専門研修 157人受講 特別研修 18人受講 								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・地方公務員法により職員に研修機会を提供する義務があるため実施する事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・職員個々の能力向上により、組織力向上を図るため実施する事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・「人材育成体系基本計画」に基づいて階層別研修を実施している。											

事務事業名	職員福利厚生事業		担当課	人材マネジメント課		事業区分	内部管理事業			
	新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	456			
事務事業の概要	会計	一般会計		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
	予算科目	款	2		総務費	施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		項	1		総務管理費	基本施策	5	職員の育成と職場環境の充実		
		目	2		人事管理費	取組方針	3	良好な職場環境の整備・充実		
	事業概要	職員の福利厚生の充実を図るために、共済や公務災害補償に関する諸手続きや健康管理を行う事業								
	事務事業を構成する細事業	①	職員共済組合事務	⑤		⑨				
		②	公務災害補償事務	⑥		⑩				
		③	職員健康・安全管理	⑦		⑪				
		④		⑧		⑫				
	指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析
成果指標		健康診断受検率	目標	100	100	100	100	100	妊娠等以外の職員はほぼ全員が健康診断又は人間ドックを受検した。	
			実績	97	96.4	97				
<指標の計算方法>		職員の健康診断・人間ドックの受検率（3役を含む）								
成果指標		公務災害の発生件数	目標							令和4年度より増加している。
			実績	3	2	8				
<指標の計算方法>		正職員の公務災害発生件数								
成果指標		非常勤公務災害の発生件数	目標						令和4年度より増加している。	
			実績	4	3	4				
<指標の計算方法>		会計年度任用職員（非常勤職員）の公務災害発生件数								
		目標								
		実績								
<指標の計算方法>										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
	12,772			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源 12,772	
事業の実績	①職員共済組合事務 (会計年度任用職員含む) 保険得喪手続き 247件 貸付手続き 9件 貯金手続き 138件 インフルエンザ助成手続き 127件			心の健康相談 22人相談						
	②公務災害補償事務 地方公務員災害補償 8件 非常勤職員公務災害補償 4件 ③職員健康・安全管理 職員健康診断 196人受検 会計年度任用職員健康診断 204人受検 人間ドック・脳ドック 1日人間ドック 170人 2日人間ドック 154人 脳ドック 8人 ストレスチェック 対象職員793人(会計年度任用職員含む) ストレスチェック受検者 618人 高ストレス判定者 69人									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
		・職員の健康確保と福利厚生の充実を図るため、実施する事業である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない							
・職員の健康確保と福利厚生の充実を図るため、実施する事業である。										
効率性	評価結果	改善の余地がない								
	・主に職員の健康管理をする事業で、医療的な専門業務については外部委託をしている。									

事務事業の概要	事務事業名		会計年度任用職員人事管理事業			担当課	人材マネジメント課		事業区分	内部管理事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	455
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	2 人事管理費			基本施策	5	職員の育成と職場環境の充実				
	事業概要		職員が組織の活性化と限られた人員で最大の成果を得る体制づくりをすすめるために、職員（会計年度任用職員）の就業管理、定員管理を行う事業									
	事務事業を構成する細事業		①	会計年度任用職員人事管理		⑤			⑨			
			②	会計年度任用職員給与支払		⑥			⑩			
			③	労働災害補償事務		⑦			⑪			
			④			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	労働災害の発生件数	件	目標							令和4年度より増加した。	
				実績		6	5	6				
	<指標の計算方法>		会計年度任用職員の労働災害発生件数									
	活動指標	会計年度任用職員数	人	目標							市民ニーズの多様化に対応するため、増加傾向にある。	
				実績		317	333	340				
	<指標の計算方法>		4月1日会計年度任用職員数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	21,706			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	21,706		
事業の実績	①会計年度任用職員人事管理 各課の繁忙期や単純業務処理を行い、事務の効率化を図るため機動的配置臨時職員2人を年間15部署へ派遣 ②会計年度任用職員給与支払 ・報酬 12回 ・期末手当 2回 ・人事院勧告等による報酬等 1回 ③労働災害補償事務 ・労働災害補償 6件											
	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・限られた人員で最大の成果を得るための体制を構築する事業である。										
有効性	評価結果	改善の余地がない										
	・機動的配置臨時職員の任用により、繁忙期における職員の定型業務の負担が軽減されている。											
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・定型業務を会計年度任用職員に移行することにより、職員の本来業務の効率を向上させている。											

事務事業の概要	事務事業名	広報事業		担当課	広報課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
目		3 広報費		基本施策		2	市政情報の発信と市政参加の促進			
事業概要	市民、報道機関、市の情報を求める人に必要な情報の入手と市政への理解を深めてもらうために、行政情報や市の魅力を発信する事業									
事務事業を構成する細事業	① 広報紙発行業務			⑤ ラジオ・テレビ等情報発信業務			⑨ 町史（誌）販売管理業務			
	② 広報紙等配布委託			⑥ 日本広報協会負担金			⑩			
	③ メール配信サービス			⑦ 県広報協会負担金			⑪			
	④ HP・Instagram・LINE情報発信業務			⑧ 報道発表・報道機関対応業務			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	ホームページへの年間アクセス数	件	目標			2,100,000	2,200,000	LINEを通じてのアクセス件数や、広報紙に掲載する二次元コードからのアクセス件数が、ホームページのアクセス件数に影響していると考えられる。	
			実績			2,022,892				
	<指標の計算方法>		ホームページへの年間アクセス数							
	成果指標	行政の広報活動の満足率	%	目標	50	50	50	50	50	市民意識調査において、市政の情報源は①広報紙②LINE。市民が必要とされているからこそ、市民が必要とする情報を容易に入手できるように、多様な発信手段を活用し効果的な情報発信を行い、満足率上昇に努める。
			実績	43.9	42.1	28				
	<指標の計算方法>		紀の川市市民意識調査							
	成果指標	メール配信サービス登録者数	人	目標	5,400	5,500	5,600	5,700	5,800	登録チラシ配布など啓発に努めているが、情報入手手段がLINEへと移行し、登録者数に影響していると考えられる。多様な発信手段のひとつとしてメール配信は必要な手段。今後も登録者数増加に努める。
			実績	5,473	5,667	5,628				
	<指標の計算方法>		登録メールアドレス数							
活動指標	報道発表件数	件	目標		120	120	120	120	令和5年度から、各課からの情報発信内容を集約し、市の施策・イベント・魅力などを報道機関や新聞社などに発表することに注力。取材や新聞等の紙面掲載にも繋がり、市内外への情報発信に有効であった。	
		実績	60	64	114					
<指標の計算方法>		報道発表件数								
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
	31,064			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
				2,947			1,262	26,855		
事業の実績	① 広報紙発行業務 広報「紀の川」の発行 ・発行部数 26,700部/月(12回)			⑤ ラジオ・テレビ等情報発信業務 和歌山放送ラジオ(WBS)の番組内で「紀の川とおき情報」のコーナーを設け、イベント・施策・特産品情報などを放送し、紀の川市のPRを実施 第1木曜日 13:30～(約4分間) ・放送回数 12回(年間)			⑨ 町史（誌）販売管理業務 残存する町史（誌）を後世に残すため販売管理を実施 販売1冊 寄贈5冊(年間)			
	② 広報紙等配布委託 業者委託による広報紙の各戸配布 ・配布実績 延べ306,161戸(年間)			⑥ 日本広報協会負担金 国、都道府県、市町村の間を縦と横にたがう広報研究連絡団体(公益社団法人) ・年会費 24,000円			・打田町史 1巻なし 2巻211冊 3巻477冊 ・粉河町史 1巻1,201冊 2巻384冊 3巻371冊 4巻468冊 5巻1,114冊 ・那賀町史 1巻820冊・桃山町誌 526冊 ・貴志川町史 1,2,3巻なし			
	③ メール配信サービス 防災、防犯、交通安全、観光、行政など日常生活に役立つ情報をメールで提供。 ・メールアドレス登録者数 5,628人			⑦ 県広報協会負担金 県内の市町村の広報力の向上を目的として設立された協会 ・年会費 8,000円						
	④ HP・Instagram・LINE情報発信業務 市内外への行政情報配信や紀の川市のPRを実施 ・HP年間アクセス件数 2,022,892件 ・Instagram情報発信件数 42件 ・LINE情報発信件数 155件			⑧ 報道発表・報道機関対応業務 メディアにプレスリリースすることによ						
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
		・ 広報事業は、市民をはじめ、市の情報を求める人に対して情報を発信し、必要な情報の入手と市政への理解を深めてもらう事業であり、市が主体的に行う事業として妥当性がある。 ・ また、市民意識調査では約8割の人が、広報紙により情報を得ており、さらに、第2位は市公式LINEとなっている。このことから、市政情報を知るための事業として妥当である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある							
		・ 広報事業では、情報の発信を広報紙やHPなどを通じて、また、SNSを活用して行っている。市民や市の情報を求める人が、情報を得るために有効な事業である。今後も市の魅力発信や市政への理解を深めてもらえるよう、アクセシビリティに配慮し、見易さや内容の充実を図る必要がある。								
効率性	評価結果	改善の余地がややある								
	・ 広報紙の発行や情報発信については、編集を自課内のパソコンで行いコストを抑えている。 ・ 情報発信ツールの特性を生かした効率的で効果的な情報発信の強化が必要である。									

事務事業の概要	事務事業名	財政運営事業			担当課	財政課		事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	5
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	4 財政管理費				基本施策	3	健全な財政運営の確立		
取組方針	1			財政計画に基づいた計画的な財政運営							
事業概要	市財政を効率的・効果的に健全化を維持するために、財政計画に基づき計画的な財政運営を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	予算編成			⑤	地方債発行		⑨			
	②	予算執行管理			⑥	財政計画		⑩			
	③	決算（決算統計・成果表）			⑦	財政事情の公表（公会計・健全化判断比率）		⑪			
	④	地方交付税・地方譲与税			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	予算編成回数（一般会計）	回	目標	6	6	6	6	6	令和5年度は、エネルギー・食料品価格等の物価高騰、6月の豪雨災害の復旧などに対応する予算を適宜編成する必要が生じたため、既定の予算編成回数を大きく上回った。	
			実績	12	10						
	<指標の計算方法>		当初予算1回、補正予算5回を想定								
	成果指標	経常収支比率	%	目標	91.9	91.3	93.5	94.1	93.2	近年は90%前半で推移している。令和5年度は、地方税、地方交付税の経常一般財源等が増加したものの、委託料などの物件費、扶助費の経常経費も増加したことで、指数が上昇（悪化）した。	
実績			91.2	92.8	94.6						
<指標の計算方法>		地方財政状況調査（経常経費充当一般財源÷経常一般財源）×100									
成果指標	財政力指数（3か年平均）	目標	0.4	0.4	0.41	0.42	0.42	数値に大きな変動はない。令和5年度は、地方消費税交付金や固定資産税の増により基準財政収入額が増加したものの、単位費用の増による包括算定経費などの基準財政需要額も増加したため、指数が横ばいとなった。			
		実績	0.4	0.41	0.41						
<指標の計算方法>		地方交付税算定台帳 基準財政収入額÷基準財政需要額									
成果指標	積立基金現在高比率	%	目標	48.2	47.7	70.4	62.2	53.6	近年は、ふるさとまちづくり寄附金の増加、普通交付税の追加交付など財源超過分を基金に積み立て、比率が上昇（良化）基調であったが、今後、大規模な普通建設事業へ基金を活用することで比率の下降が予測される。		
		実績	68.8	77.9	77.8						
<指標の計算方法>		標準財政規模に対する基金残高の割合									
コストの実績	R 5年度決算額（単位：千円）			財源内訳							
	2,330			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,330	
事業の実績	①予算編成 ・令和5年度補正予算編成 各会計予算が円滑に執行できるよう所要の補正措置を講じた。 一般会計9回 特別会計（6会計）0回～4回 公営企業会計（3会計）水道4回、工業用水道1回、下水道3回 ・令和6年度当初予算編成 長期総合計画後期基本計画に掲げる目標人口6万人をめざすため、重点プロジェクトである「呼び込む」「稼ぐ」「育む」「未来をつくる」の取組について、重点的に配分を行い、「市民生活を守り、将来の成長につなげるための予算」を編成した。 ・令和6年度当初予算書作成 一般会計、特別会計、公営企業会計の当初予算を取りまとめた。 予算書 180部、予算説明書 180部			②予算執行管理 予算執行方針を定め、適宜、庁内に周知することで、予算の適正かつ厳正な執行の確保に努めた。 ③決算（決算統計・成果表） 令和4年度各会計別決算状況、基金・地方債の状況、一般会計・特別会計の主要施策の成果を取りまとめた。 決算主要施策の成果報告書 165部			⑤地方債発行 地方債を財源として行う事業の対象経費を取りまとめ、県との協議を経て、同意を受け、金融機関等から資金の借入れを行った。 ・地方債発行額（一般会計）2,137,400千円				
	④地方交付税・地方譲与税 基礎数値等を県へ報告し、地方交付税・地方譲与税の交付を受けた。 【主な交付実績】 ・地方揮発油譲与税 67,412千円 ・自動車重量譲与税 203,231千円 ・地方特例交付金 55,085千円 ・普通交付税 9,388,705千円 ・特別交付税 1,128,521千円			⑥財政計画 令和4年度に策定した紀の川市財政計画（計画期間：令和5年度～令和8年度）の収支見通しに令和5年10月時点の修正を加え、市ホームページで公表した。			⑦財政事情の公表（公会計・健全化判断比率） 統一的な基準による財務書類や健全化判断比率を調製し、市の財政状況を公表した。				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・地方自治体の行政活動で財政運営は基幹を成す業務であることから、財政部局が内部管理を行い全庁を取りまとめて実施することが適当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・長期総合計画の実現に向け、中長期的な視点に立った財政収支見通しによる財政運営を行っている。 ・持続可能な行政運営をしていく中で、財政状況に応じた効率的な予算編成手法を取り入れる必要がある。 ・財政運営と行政評価の連携を深めることで、各事業の妥当性、有効性、効率性を客観的に把握し、より効果的な予算編成に取り組む必要がある。 ・エネルギー・食料品価格等の物価高騰などへの対応や社会情勢に応じた国の施策への対応など状況に応じて効果的な補正予算を編成した。 ・合併特例債の活用終了を見据え、事業内容に応じて合併特例債に代わる交付税算入率が高い地方債への転換に取り組んだ。とりわけ一部過疎地域を対象とした過疎対策事業債の有効活用を行った。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・地方自治体の基幹業務として内部管理を行う事業であるため、事業全体として代替手段を導入する余地はない。 ・決算成果表の印刷では、外注を行わず職員で作成したことで、業務スケジュールに余裕を持つとともに、費用の抑制に努めた。 ・財務書類の作成は、専門的な知識を要することから作成支援の委託範囲を最小限に留め、費用の抑制に努めた。										

事務事業の概要	事務事業名	出納管理事業		担当課	会計課			事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	6	
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1	総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	5	会計管理費		基本施策	3	健全な財政運営の確立			
取組方針	3	公金の適正な管理の推進									
事業概要	市民（債権者、納税義務者）等に対して公金に係る適正な事務処理を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	出納業務			⑤	日計表作成業務			⑨		
	②	県会計職員連絡協議会負担金			⑥				⑩		
	③	口座振替納入依頼書等受付事務			⑦				⑪		
	④	債権者登録業務			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	収納件数	件	目標						例年通りの数値である。	
				実績	757,347	740,865	731,086				
	<指標の計算方法>		1年間の収納件数								
	活動指標	支払件数	件	目標							災害復旧関連や物価高騰対策関連の支出件数の増加により増えている。
				実績	54,663	53,116	57,458				
	<指標の計算方法>		1年間の支払件数								
	活動指標	口座振替納入依頼書受付件数	件	目標						インターネット口座振替受付サービス利用により減少している。	
				実績	3,454	2,899	2,522				
	<指標の計算方法>		1年間の受付件数								
活動指標	指定金融機関検査件数	件	目標						紀の川市指定金融機関等検査実施要領により実施している。		
			実績	1	1	1					
<指標の計算方法>		1年間の検査件数									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	4,641			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	4,641	
事業の実績	①出納業務 ・全会計歳入処理件数… 731,086件 ・全会計歳出処理件数… 57,458件 ・会計課からのお知らせを職員掲示板に月1回掲示 ・口座振替データ伝送の新しい接続サービスへの移行調整及び環境設定										
	②県都市会計事務連絡協議会負担金 ・会計管理者定例会 R5.5.11開催 ・会計職員事務研修会 R6.2.19開催										
	③口座振替納入依頼書等受付事務 ・受付件数… 2,522件										
	④債権者登録業務 ・登録件数… 3,238件										
	⑤日計表作成業務 ・各会計の収入額と支払額の確定及び残高の確認										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市以外が実施主体になりえない事務事業であり、継続する必要性が高い事業と考える。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・数値化できない事業であるが、会計事務の専門性及び能力開発のための対策として、課員全員で情報共有に努めたと考える。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・実施方法の変更等でコスト削減できない事業であるが、事業過程に無駄がないか定期的に検証し、コスト削減（人件費）に努めたと考える。										

事務事業名	会計審査事業		担当課		会計課		事業区分	内部管理事業	
			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	462	
会計	一般会計		長期総合 計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
予算 科目	款	2 総務費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
	項	1 総務管理費		基本施策	3	健全な財政運営の確立			
	目	5 会計管理費		取組方針	9	その他			
事業概要	公金事務処理の審査を行い、市民等に行政への信頼を高めてもらう事業								
事務事業を構成する細事業	①	会計審査	⑤				⑨		
	②	決算業務	⑥				⑩		
	③	源泉徴収審査・支払業務	⑦				⑪		
	④	監査受検	⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析
	活動指標	決算書作成回数	目標						地方自治法233条第1項に基づき作成。
			実績	1	1	1			
	<指標の計算方法>		作成回数						
	活動指標	源泉徴収票発行件数	目標						例年通りの数値である。
			実績	2,548	2,627	2,577			
	<指標の計算方法>		1年間の発行件数						
	活動指標	支払調書発行件数	目標						例年通りの数値である。
			実績	328	337	368			
	<指標の計算方法>		1年間の発行件数						
活動指標	監査受検回数	目標						紀の川市監査計画に基づき受検。	
		実績	13	13	13				
<指標の計算方法>		例月出納検査・決算審査の受検回数							
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳					
	430			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
事業の実績	①会計審査 ・紀の川市財務規則による支出命令書等の審査 ・新規採用職員研修実施(会計事務について)			支払額 56,103,306円					
	②決算業務 ・決算書の作成… 一般会計 180部 特別会計 115部			④監査受検 ・監査受検のための資料作成					
事業の実績	③源泉徴収審査・支払業務 ・源泉徴収票 発行件数 2,577件 源泉額 138,379,545円								
	・報酬、料金、契約金及び賞金の支払調書 発行件数 261件 源泉額 18,035,007円								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない						
		・市以外が実施主体になりえない事務事業であり、継続する必要性が高い事業と考える。							
事業の事後評価	有効性	評価結果	改善の余地がない						
		・数値化できない事業であるが、会計事務の専門性及び能力開発のための対策として担当者だけでなく、課員全員で情報共有に努めたと考える。							
事業の事後評価	効率性	評価結果	改善の余地がない						
		・実施方法の変更等でコスト削減できない事業であるが、事業過程に無駄がないか定期的に検証し、コスト削減(人件費)に努めたと考える。							

事務事業の概要	事務事業名	庁舎管理事業			担当課	契約管財課		事業区分	内部管理事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	7		
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	6 財産管理費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進				
取組方針	9	その他											
事業概要	市民、職員が庁舎等を安全、快適に利用できるように、庁舎の適正な管理を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	本庁舎等施設管理			⑤					⑨			
	②	職員駐車場料金徴収			⑥					⑩			
	③				⑦					⑪			
	④				⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	日常目視点検	日	目標	242	243	243	243	242	市役所開庁日は、職員もしくは設備管理委託業者による目視点検を実施。			
				実績	242	243	243						
	<指標の計算方法>		市役所開庁日における職員若しくは設備管理員による目視点検実施日										
	活動指標	前年度に対する光熱水費の比率	%	目標	98	98	98	98	98			前年度比は減少している。主な要因は電気料金で、値下がりに加え、令和4年度に実施した打田保健福祉センター空調改修工事による効果が影響していると考えられる。	
				実績	110	124	96						
	<指標の計算方法>		前年度に支出した電気、ガス、水道費の合計に対する割合										
	成果指標	庁舎内無事故日数	日	目標	365	365	366	365	365	年間を通じ、庁舎管理上の瑕疵による事故は発生しなかった。			
				実績	365	365	366						
	<指標の計算方法>		庁舎管理上の瑕疵による事故日のカウント										
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	244,663			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
					6,900	66,000	38,107	133,656					
事業の実績	①本庁舎等施設管理 ・修繕件数40件 ・庁舎総合管理委託業務 ・機械警備委託業務 ・植栽管理委託業務 ・定期清掃委託業務（新型コロナウイルス感染症防止対策等追加事業分） ・ホール田園音響・照明操作管理委託業務 ・トイレ洗浄器賃貸借業務 ・職員駐車場用地借上業務 ・新型コロナウイルス感染症防止対策業務（感染予防対策として飛沫感染防止パネルの配備、手指消毒液の配備補充などを実施） ・本庁舎等照明LED化工事設計業務 ・本庁駐車場拡張測量設計業務 ・本庁舎音響システム更新工事 ・打田保健福祉センター受変電設備改修工事 ・打田保健福祉センターPH屋上防水工事			②職員駐車場料金徴収 収納額 36,702,600円									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・市民、職員等が安全で快適に利用するためには、適正な維持管理が必要であり、妥当性があるとする。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・引き続き現状の庁舎管理業務の仕様にて成果指標の目標達成を図り、施設を適正に維持するため、修繕等の必要が生じた場合は速やかに修繕を行う。													
効率性	評価結果	改善の余地がややある											
	・照明等の設備機器更新による、省エネ化改善の余地がある。												

事務事業名	公用車管理事業		担当課	契約管財課			事業区分	内部管理事業		
	新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	464			
会計	一般会計		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
予算科目	款	2 総務費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
	項	1 総務管理費		基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進				
	目	6 財産管理費		取組方針	9	その他				
事業概要	職員が公用車を安全で快適に使用できるように、公用車の適切な管理を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	公用車管理	⑤				⑨			
	②	マイクロバス運転及び整備管理	⑥				⑩			
	③	自動車保険加入	⑦				⑪			
	④	公用車有料広告掲載	⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	公用車稼働率	目標	77	77	80	80	80	稼働率増加の主な要因は6月の大雨による災害対応や、新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけが5類に移行したことによるイベント等の再開が影響していると考えられる。	
			実績	80	77	80				
	<指標の計算方法>		公用車管理棟で管理している車両（二輪車以外）の稼働率【（毎月：平日稼働日数÷平日日数）の年間平均】							
	成果指標	市保有の公用車台数	目標	340	330	330	330	330		年度末時点の保有台数は減少しているが、これは車両の入庫時期によるもので、実質は横ばいである。
			実績	325	327	326				
<指標の計算方法>		上下水道部車両、特殊車両（乗用草刈機等）、他団体車両を除く市保有の公用車の台数【基準日：年度末3月31日】								
成果指標	自動車保険請求件数	目標						稼働率は増加したが、保険請求件数は減少した。職員の安全運転意識向上のため、安全運転啓発や安全運転講習を継続する。		
		実績	13	18	17					
<指標の計算方法>		事故等（風水害、偶発的事由を除く）により自動車保険を請求した件数【基準日：年度末3月31日】								
<指標の計算方法>										
コストの実績	R 5年度決算額（単位：千円）		財源内訳							
	61,198		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①公用車管理 ・公用車事務（車両情報の管理、リース料や燃料費等支払事務と情報管理、整備業者や燃料業者への連絡等） ・車両運行管理業務（運行前後の点検、清掃と自主点検をはじめ車検や修繕の手配、稼働率の算出、自動車事故の報告や対応等） ・新型コロナウイルス感染症防止対策業務（感染予防対策として乗降時の手指消毒、乗車後の消毒作業を実施） ・アルコール検知器を導入し、運転前後の酒気帯びチェックを実施 ・大雪に備えて、一部スタッドレスタイヤへの入替を実施		（感染予防対策として乗降時の手指消毒、乗車後の消毒作業、乗車人員の制限を実施）							
	②マイクロバス運転及び整備管理 ・マイクロバス運転及び整備管理業務委託（マイクロバスの運転、点検、整備管理および清掃等） ・新型コロナウイルス感染症防止対策業務		③自動車保険加入 ・乗用草刈機等の特殊車両を含む公用車の自動車損害共済保険加入業務							
		④公用車有料広告掲載 ・公用車を媒体とした有料広告事業の募集を実施								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
		・職員が公用車を安全で快適に使用するためには、本事業による適正な管理、運営が必要であるため、妥当性は高い。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある							
・稼働率調査や経過年数、走行距離、使用目的に基づき、車両入替や配車等を行うことで、適正な維持管理を実施している。また、公用車は、災害時等緊急時にも必要なことから有効性は高い。 ・類似団体等の状況を参考に、当市の使用状況等を検証したうえで、適正な保有台数を設置する必要がある。また、職員の安全運転意識の向上や適正な予約の啓発を継続して行う必要がある。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある								
	・老朽化した車両の入替、稼働率や使用目的に応じた配車を行うことで適正な配置を進め、修繕等の縮減を図っているため、効率性は高い。 ・公用車を適正かつ安全に使用するため、車両の管理等に関する知識や技術を有する業者へ業務委託を行っており、引き続き業務内容等を精査し、効率性を高める必要がある。									

事務事業の概要	事務事業名	入札契約事業			担当課	契約管財課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	468	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	6 財産管理費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
取組方針				9	その他							
事業概要	市が入札、契約事務における公平性、透明性、競争性を確保するために、事業者の適正な事業者登録や入札・契約事務を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	工事等検査			⑤				⑨			
	②	指名登録業者管理			⑥				⑩			
	③	入札・契約			⑦				⑪			
	④	契約管理・成績評定システム			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	一般競争（指名競争）入札成立件数	件	目標	300	320	320	320	320	発注課の入札希望数により変動する件数である。令和5年度は建設工事と業務委託が令和4年度に比べ減少した。		
			実績	336	343	295						
	<指標の計算方法>		建設工事等の入札が成立した件数									
	活動指標	工事検査件数	件	目標	200	200	200	200	200	発注課の建設工事の完了数により変動する件数である。令和5年度は、6月の大雨災害の復旧工事が繰越したため令和4年度に比べ減少した。		
			実績	188	223	153						
	<指標の計算方法>		契約管財課に検査依頼があり検査員が工事等検査を行った件数									
	成果指標	入札等参加資格登録業者数	者	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	登録項目において指定の登録期間があり、時期により変動する件数である。		
実績			2,094	1,845	1,995							
<指標の計算方法>		建設工事、測量・建設コンサルタント等、物品・その他製造等の業者数（4/1現在）										
成果指標	建設工事早期発注率	%	目標	60	60	60	60	60	発注課の入札希望数及び契約締結の時期により変動する件数である。令和5年度は、6月の大雨災害の対応により、上半期の工事発注率が大きく低下した。			
		実績	53.5	69.1	44.6							
<指標の計算方法>		上半期（4月から9月）の工事契約件数÷年間の工事契約件数										
コストの実績	R 5年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
	8,979			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	8,979		
事業の実績	①工事等検査 発注課の依頼に基づき契約管財課所属の検査員が工事検査を実施した。 ・工事検査件数 74件			物品購入 20件				物品購入業者 市内 6件、市外 10件				
	②指名登録業者管理 入札等参加資格登録業者の登録・管理を行った。 ・建設工事 623者 ・測量・建設コンサルタント等 362者 ・物品、その他製造等 1,010者			(2)審査会で決定した入札方法及び選定業者により入札を執行した(審査会での取下げ案件1件及び入札取り止め案件2件を除く)。指名業者の入札辞退等により5件が不調、1件が不落で不成立となった。不成立となった案件は、後日、再度入札又は随意契約で対応した。 ・入札執行日数 26日 ・入札執行件数 301件 （内訳）条件付一般競争入札 17件 指名競争入札 284件				④契約管理・成績評定システム ・業者管理、入札・契約関連事務及び工事成績評定を全庁的にシステムで運用した。				
	③入札・契約 (1)発注課の依頼に基づき、事業案件の入札方法、選定業者案等について、建設工事等請負業者選定審査会を開催した。 ・審査会開催日数 25日 ・審査会審査件数 304件 （内訳）工事請負 209件 業務委託 75件			(3)入札において落札した業者と契約を締結した。なお、落札したが契約辞退した案件が1件あった。 ・入札成立件数 295件 ・契約締結件数 294件 （内訳） 工事請負業者 市内 200件、市外 4件 業務委託業者 市内 49件、市外 25件								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・発注課依頼の入札案件等について、入札・契約・検査に関する事務等を適正に執行するものである。実施主体は、関係法令において透明性・公平性・競争性の確保、不正行為の排除、品質の確保等が厳格に義務付けられている事業であることから、市で実施することが妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・発注課からの入札案件等について、適正な事務の執行ができています。令和5年度は、6月の大雨災害に対する復旧工事が下半期に集中したため、早期発注率が前年度と比べ大きく低下した。目標値を達成し維持できるように継続的に早期の入札執行を促していく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・市の適正な予算執行（入札・契約・検査）に直接的に関わるため、業務委託は困難な事業である。 ・事務工程の見直しや契約管理・工事成績評定システムの活用により事業の効率化を進めるとともに人的コストの削減も図っていく。											

事務事業の概要	事務事業名		物品集中調達事業			担当課	契約管財課		事業区分	内部管理事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	466
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	6 財産管理費			基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進				
事業概要		職員が物品を効率的に活用できるように、物品を適正に調達し、管理を行う事業										
事務事業を構成する細事業	① 調達（発注・契約）		⑤		⑨							
	② 物品管理		⑥		⑩							
	③ 事務機器管理		⑦		⑪							
	④		⑧		⑫							
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	コピー用紙発注箱数	箱	目標	2,900	2,900	2,900	2,900	2,900	本庁・南別館で使用するコピー用紙は、コピー機の使用増加により、増加傾向にある。発注数については、在庫数の調整により増加した。		
				実績	2,574	2,342	2,425					
	<指標の計算方法>		本庁・南別館で使用するコピー用紙の発注箱数									
	成果指標	集中調達物品種類数	種類	目標	175	190	200	200	200	物品集中調達の種類は、配付品目の精査及び類似品目の廃止また、要望に応じ追加品目があったため増加した。今後も、要望に応じた品目の増減が見込まれる。		
				実績	166	186	195					
	<指標の計算方法>		契約管財課で集中調達し、各部署へ配付する事務用品・日用品の種類数									
成果指標	事務機器台数（契約管財課管理分）	台	目標	11	7	7	7	7	契約管財課で管理している事務機器台数は、リース期間満了のため1台減少した。			
			実績	11	7	6						
<指標の計算方法>		本庁・南別館で使用する事務機器（コピー機・輪転機）の台数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
	12,907			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		12,907	
事業の実績	① 調達（発注・契約）			・来庁者の利便を図るため、本庁舎1階に有料コピー機を設置している。								
	・物品を集中調達し、各部署の要望に応じ適正に配付した。			モノクロ 4,115枚 カラー 127枚 計 4,242枚								
	再生紙 A 4 (1箱 2,500枚) 2,233箱 A 3 (1箱 1,500枚) 160箱 B 5 (1箱 2,500枚) 2箱 B 4 (1箱 2,500枚) 0箱 兼用紙 A 4 (1箱 2,500枚) 30箱 A 3 (1箱 2,500枚) 0箱 計 2,425箱											
② 物品管理			・集中調達物品の種類を見直し、調達にかかる種類を再構成した。 195種類									
③ 事務機器管理			・職員が効率よく事務機器を使えるよう管理 ・運用及び次年度に向けた台数の調整を行った。6台（契約管財課で予算執行している台数）									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市が各事業に取り組むうえで物品調達及び管理を一括で行うことにより、市全体として事務効率化及び経費削減を図っており、妥当性は十分ある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・物品の調達及び管理を一括で行うことにより、市全体の事務効率化及び経費削減に貢献している事業である。要望等により集中調達物品の種類の実績を図っている。 ・高速プリンターの印刷初期設定を両面印刷することにより、コピー用紙使用の抑制を図っている。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・市の予算執行（契約事務）に直接的に関わるため、業務委託は困難な事業である。 ・コピー用紙の発注数については、在庫数での調整を行っている。 ・職員が使用する物品やコピー用紙をまとめて購入することで、コスト削減でき、効率性を図っている。											

事務事業の概要	事務事業名	公共施設マネジメント推進事業			担当課	公共施設マネジメント課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	962	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	6 財産管理費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
	事業概要	市民に提供する施設サービスを適切に維持するため、施設全体を統括的に企画、管理することで、計画的な保全による長寿命化や施設保有量の最適化を図る事業										
事務事業を構成する細事業	①	公共施設マネジメント検討委員会運営			⑤	指定管理者選定委員会運営			⑨			
	②	公共施設マネジメント計画推進			⑥	市有建築物等の営繕			⑩			
	③	個別施設計画推進			⑦				⑪			
	④	市有施設維持・保全支援			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	公共施設マネジメント検討委員会開催数	目標	3	3	3	3	3	目標開催数以上を開催し、案件付議申請に対しても柔軟に開催対応できている。			
			実績	5	6	5						
	<指標の計算方法>		年間開催数									
	成果指標	解体、統廃合による減少面積	目標	-2,325	-2,412.5	-2,412.5	-2,412.5	-2,412.5	普通財産施設の解体は2件あったが、解体・統廃合による延床面積の減少は目標達成に至らなかった。また、全体では台帳面積の錯誤等により増加となった。			
			実績	-139.55	-55	82						
<指標の計算方法>		目標=公共施設マネジメント計画の縮減目標面積▲96,500㎡÷40年、実績=延床面積の減少面積(財産に関する調査から抽出)										
成果指標	依頼を受けた営繕業務の支援実施率	目標	0	0	100	100	100	営繕班設置初年度であったが、依頼を受けた業務に対して100%の支援を実施した。また、支援業務に加えて各種統一基準、仕様書の整備も並行して進めている。				
		実績	0	0	100							
<指標の計算方法>		依頼を受けた業務件数÷支援業務件数×100										
活動指標	指定管理者選定委員会開催数	目標	3	3	3	3	3	目標開催数どおり開催し、紀の川市国民健康保険直営診療施設に係る指定管理者の候補者選定及び、その他指定管理者制度導入施設のモニタリング検証を実施した。				
		実績	5	3	3							
<指標の計算方法>		年間開催数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	2,549			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,549		
事業の実績	①公共施設マネジメント検討委員会運営 ・開催数 5回 ・案件付議数 7件			・施設保全経費として長寿命化を図るための修繕・更新、大規模改修事業に係る予算要求内容について、専門部会による内容確認と助言を行う。			内訳・・・設計5件、工事13件、事業費等算出55件、企画・検討25件					
	②公共施設マネジメント計画推進 ・各政策分野の施設面の取組について関連する計画や財政運営との連携・調整を行い各施設の実態に応じた整備を推進 (各施設所管課へ利用実態に応じた施設の整備方針についてヒアリングを実施)			・市有施設を適切に建築・維持・保全していくため、計画・設計・工事に際し、営繕班による施設所管課への支援を実施。								
	③個別施設計画推進 ・建物劣化度調査・利用状況調査→施設保全(再配置)計画更新→予算編成→保全(再配置)計画の推進→保全(再配置)実績管理というPDCAサイクルに基づき計画を推進 ・公共施設マネジメントシステムを活用し、各施設のコスト情報や建物劣化度等を管理			⑤指定管理者選定委員会運営 ・開催数 3回 ・案件付議数 3件 ・指定管理者の候補者選定 1件 ・既に指定管理者制度導入施設(4施設)のモニタリング結果を報告(業務履行状況及び評価等)								
	④市有施設維持・保全支援			⑥市有建築物等の営繕 ・市有建築物の新築(改築)工事や改修工事にかかる設計協議、及び工事監督を担う。 ・支援依頼件数 (98件)								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・施設の長寿命化及び施設保有量の最適化を図ることを目的とし、市民に提供する施設サービスを適切に維持するために市が実施することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・各施設の利用実態に応じた施設整理を実施し、施設の最適配置及び財政負担の平準化を図る。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・公共施設マネジメントシステムを共有し、施設の劣化度や維持管理費用(施設カルテ等)を確認することで当該施設の方向性の判断やコスト削減の取組みに繋がる。											

事務事業の概要	事務事業名	市有財産管理事業			担当課	公共施設マネジメント課		事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	465
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	6 財産管理費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進		
事業概要	市が市有財産の効果的な活用を図るために、市有財産の適正な管理を行う事業										
事務事業を構成する細事業	① 保険加入	⑤ 市有財産解体（旧納税協会）			⑨						
	② 市有財産管理	⑥ 公共施設等の利活用に関する民間提案制度の導入			⑩						
	③ 財産処分・払下	⑦			⑪						
	④ 未利用財産の活用	⑧			⑫						
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	不動産鑑定委託件数	目標	5	5	5	5	5	一般競争入札による売払い対象地の不動産鑑定を実施し目標値は上回ったが、随意売却に係る不動産鑑定は無かったため、実績値は令和4年を若干下回った。		
			実績	4	14	10					
	<指標の計算方法>		市有財産の効果的な活用を図るために実施した不動産鑑定委託件数								
	活動指標	公共施設マネジメント検討委員会付議件数	目標	3	3	5	5	5	一般競争入札による市有財産売却について、ルーティン化したことで付議件数は減少したが、令和6年度から民間提案制度の導入により付議件数の増加が見込まれる。		
			実績	9	7	3					
	<指標の計算方法>		公共施設マネジメント検討委員会への市有財産の有効活用に関する付議件数								
	成果指標	効率的に処分・払下した資産の件数	目標	10	10	10	10	10	法定外公共物の払下げと一般競争入札による売却は例年並みであったが、随意売却による売払いが増加したため目標値を上回る結果となった。		
			実績	11	13	18					
	<指標の計算方法>		土地・建物の処分・払下件数のうち有償であったもの								
成果指標	市有財産賃貸借件数	目標	40	30	30	30	30	令和5年度の機構改革により、当課で所管する件数は若干減少したが、今後も賃貸借物件の売払い等を実施する方向性であるため、件数は減少していく見込みである。			
		実績	43	28	27						
<指標の計算方法>		土地及び建物賃貸借件数（事務所、携帯電話基地局等使用許可含むが、電柱、支線等使用許可は除く）									
コストの実績	R 5年度決算額 （単位：千円）			財源内訳							
	45,927			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	31,727	
事業の実績	①保険加入 ・建物総合損害共済保険加入施設数 514件 （一般 428件、水道 59件、下水道 27件） ・総合賠償補償保険への加入			雑木伐採、不法投棄物収集、整地 防草シート敷設 ・長山団地（貴志川町長山地区内） 調整池東側フェンス修繕 ・上瀬市有地（上瀬地区内） 市有地整地、便槽撤去 ・市有地雑木等の伐採（貴志川町地区内） 竹及び大木の伐採（3箇所）			④未利用財産の活用 ・土地 市有地貸付 16件 携帯等基地局 7件 ・建物 庁舎等貸付 4件				
	②市有財産管理 ・財産台帳登録 土地 2,783件 合計 8,220,541.25㎡ 建物 800件 延面積 264,782.11㎡ ・雑草等刈取業務委託 市有地 26箇所 3,116,020円 ・粉河県営住宅跡地（粉河地区内） 防草シート敷設、U字溝設置工事 ・粉河高校下旧集会所（粉河地区内） 法面災害復旧工事 （大雨により崩落した法面の現状復旧） ・貴志川町神戸市有地斜面整備工事 （貴志川町神戸地区内） 法面整形、防草シート敷設 ・荒廃市有地整地業務（名手市場地区内）			③財産処分・払下 ・一般競争入札実施物件数 10件 ・一般競争入札応札件数 3件 ・随意契約による売払い 7件 ・普通財産払下 9件 （うち有償のもの） 8件 ・不動産鑑定委託 10件 ・土地売却に係る調査・登記等業務 3件 （境界点確認、復元測量、分筆、合筆等）			⑤市有財産解体（旧納税協会） （粉河地区内） ・RC造2階建て家屋解体（172.58㎡） ・跡地整地（アスファルト舗装）				
							⑥公共施設等の利活用に関する民間提案制度の導入 ・運用指針の策定 ・募集要項及び年間スケジュールの作成 （R6.4～運用開始）				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市名義の資産管理業務であり、適正な管理・運用処分等を行うためにも市が実施すべき事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・普通財産の一般競争入札を継続的に実施し、未利用財産の更なる処分を推進していく。 ・所管課が判明しない市有財産を明確にするため、関係各課の協力のもと円滑な調査を実施し、適切に財産を分類し、財産台帳システムに反映させることが重要である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・草刈等の委託可能業務について、外部委託することで効率的に業務を進めている。										

事務事業の概要	事務事業名	鞆淵地区公共施設等再編事業			担当課	公共施設マネジメント課		事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R1～R7)	事業番号	1112	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	6 財産管理費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進		
事業概要	鞆淵地区の公共施設の再編を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	鞆淵地区公共施設等再編			⑤				⑨		
	②				⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	集約した施設数	棟	目標		3	3	3	3	3	令和5年度は施設建設に係る造成工事を完了した。 令和7年度事業完了に向け適切に進捗管理を進めている。
				実績		0	0	0			
		<指標の計算方法>	再編し集約した施設数								
			目標								
			実績								
		<指標の計算方法>									
		目標									
		実績									
	<指標の計算方法>										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	46,096			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	4,296	
事業の実績	<p>①鞆淵地区公共施設等再編 令和4年度から5年度にかけ造成工事を実施し、令和5年度に完了した。主な工事と業務の内容は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事請負費=43,467,340円 ・鞆淵地区複合施設建設造成工事(造成工事の主な内容) <ul style="list-style-type: none"> ・土木工事 ・コンクリート工事 ・附帯施設工事 ・水路工事 ・舗装工事 ・給水工事 ・設計業務委託料=1,650,000円 ・令和3年度に完了している設計業務について、資材高騰等に対応するための再積算業務を実施した。 										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・老朽化した各施設を集約し利便性の高い施設を建設するため、妥当性がある。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
		・専門性の高い部屋を効果的に配置することで、施設建設後の運用(施設サービス)の有効性が向上する。									
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
		<ul style="list-style-type: none"> ・複数の担当部署で実施すべき事業を、当課で一括して進めるため効率性がある。 ・事業内容の再考に伴う事業費の増加については、造成工事においてある程度抑制することが出来たが、引続き建築工事においても抑制するための改善、工夫に取り組む必要がある。 									

事務事業の概要	事務事業名	施策計画管理事業		担当課	企画経営課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	479	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
目		7 企画経営費		基本施策		4	将来を見据えた行政経営の推進				
取組方針	1		効率的・効果的な行政サービスの提供								
事業概要	行政評価による行政経営システムを運用し、限りある資源を有効に活用し、計画的に行政経営を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会運営			⑤	市民意識調査業務			⑨	紀の川インターチェンジ周辺地域整備検討業務	
	②	庁議・部長会運営			⑥	施策評価・事務事業評価			⑩	地域ビジネス創出支援業務	
	③	施策調整・調査研究業務			⑦	市長会要望			⑪	大学誘致調査業務	
	④	和歌山社会経済研究所負担金			⑧	パブリックコメント			⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	庁議付議件数	目標						庁議等設置規程に基づき、市政運営の基本方針や重要施策についての審議を行った。		
			実績	20	30	39					
	<指標の計算方法>		庁議へ付議された審議案件の件数								
	活動指標	パブリックコメント実施件数	目標						市政運営に対する市民の参画のひとつの手法として、計画策定時等において市民意見の募集を行った。令和5年度も令和4年度同様に計画の更新が多かった。		
			実績	3	7	7					
<指標の計算方法>		各種計画策定時等に実施したパブリックコメント（市民意見募集手続）の件数									
活動指標	行政評価研修開催回数	目標	1	1	2	2	2	目標に対して計画どおり研修をオンラインで開催することができた。また、参加者は副主任、主査級職員等で56人。			
		実績	1	1	2						
<指標の計算方法>		職員対象に実施した行政評価制度に関する研修会の回数									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	37,095			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	37,095	
事業の実績	①まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会運営 ・第1回審議会（令和5年8月7日） 地方創生推進交付金の効果検証等 ・第2回審議会（令和5年11月6日） 総合戦略改訂の方向性、総合戦略の進捗 ②庁議・部長会運営 ・庁議（13回）部長会（13回）を開催 【庁議における主な審議事項】 ・計画等の策定、改定について（計12件） ・協定の締結について（計10件） ・条例の制定、改正について（計10件） ・令和6年度当初予算編成方針について ・令和6年度当初予算における新規・拡充事業等の方針について ③施策調整・調査研究業務 ・地方創生臨時交付金を活用する施策の調整を行った。 ④和歌山社会経済研究所負担金 ・刊行物等を通じて調査・研究成果の情報提供を受けた。 ⑤市民意識調査業務 ・令和6年1月15日から2月13日まで実施 ・対象者：1,500名（18歳以上75歳未満） ・回答率31.3% ⑥施策評価・事務事業評価 ・行政経営アドバイザーによる行政評価の研修会を開催し、制度への理解度の深化を図った。また、全ての事務事業・施策評価を対象に評価シートの添削・指導を受けた。 ・第2次長期総合計画の40基本施策を対象に施策評価を実施した。 ・事務事業評価は、令和4年度実施事業の正式評価と令和5年度実施事業の仮評価（年度末評価）を実施した。 ・事務事業評価を決算主要施策の成果報告書として活用した。 ⑦市長会要望 ・市単独では解決が難しい課題等について、市長会を通じて、国（省庁）や県に対して要望を実施した。 ⑧パブリックコメント ・市政運営に市民意見を反映させるため、計画策定時等にパブリックコメントを実施した。（実施件数7件、意見20件） ⑨紀の川インターチェンジ周辺地域整備検討業務 ・民間事業者へのヒアリングや意見交換を実施するなど、土地利用計画の検討を進めた。 ⑩地域ビジネス創出支援業務 ・シンポジウム（9/29）、3回のフィールドワーク（11/3、12/2、1/13）、検討会（2/17）を開催したことにより、市内事業者間で連携への機運が高まった。 ⑪大学誘致調査業務 ・農業者及び食品事業者へのアンケート調査、事例調査を実施し、大学誘致に向けた方向性を整理した。										
	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市が策定した計画における施策や成果の進捗管理は、市が実施すべきであり、他の実施主体は考えられないため、妥当性がある。 ・市民意識調査の実施により、施策全般に対する市民ニーズの把握を行っている。 ・先進地視察や先進事例の情報収集により、従来の手法にとらわれない新たな事業方策についての検討を進めている。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・個々の事業については、各部署で取り組んでいるが、複数の部署で連携して取り組むことでさらなる効果を得ることが可能である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・事務事業評価結果を多方面に活用することで、事務の効率化につながる要素があることから、活用方法の検討が必要である。										

事務事業の概要	事務事業名	広域連携事業			担当課	企画経営課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	476	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	7 企画経営費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	広域的な課題の解決や施策の推進を図るために、近隣市町村と共通課題等の情報・意見交換や連携を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	広域連携のあり方に関する意見交換会			⑤	全国半島振興市町村協議会		⑨				
	②	吉野川・紀の川流域協議会			⑥	全国過疎地域連盟		⑩				
	③	自転車を活用したまちづくりを推進する全国市町村長の会			⑦			⑪				
	④	紀淡連絡道路実現期成同盟会			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	広域連携のあり方に関する意見交換会への出席	目標							令和4年度に引き続き、令和5年度も意見交換会は開催されなかった。		
			実績	1								
	<指標の計算方法>		広域連携のあり方に関する意見交換会への出席									
	活動指標	吉野川・紀の川流域協議会定例会等への出席	目標							幹事会はオンラインでの開催となったが、定例総会は本市において開催した。		
			実績	3	2	2						
	<指標の計算方法>		吉野川・紀の川流域協議会定例会等への出席									
	成果指標	吉野川・紀の川流域協議会自主事業への参加者合計	目標	20	20	20	20	20		新型コロナウイルス感染症の影響で開催できていなかった自主事業が、4年ぶりに実施されたが、参加者はなかった。		
			実績	0	0	0						
	<指標の計算方法>		自主事業への参加者の合計									
活動指標	自転車活用に係る会議やイベント等への参加回数	目標							災害対応中である6月7日に総会が開催されたため、参加しなかった。			
		実績	1									
<指標の計算方法>		自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会への参加回数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	257			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	257		
事業の実績	①広域連携のあり方に関する意見交換会 ・広域連携に係る4市1町（和歌山市、海南市、紀の川市、岩出市、紀美野町）での意見交換会であるが、令和5年度は開催されなかった。 ・役員による要望活動 ・負担金を支出 ④紀淡連絡道路実現期成同盟会 ・和歌山県、大阪府、淡路島の16市7町で構成する会 ・課長会（1/29 オンライン開催） ・総会（書面会議） ・役員による要望活動（3/25） ⑤全国半島振興市町村協議会 ・半島振興法の適用を受ける全国の市町村で構成される協議会 ・負担金を支出 ⑥全国過疎地域連盟 ・総会（6/23：書面会議、11/13：欠席） ・負担金を支出											
	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・近隣市町が広域で連携し、共通課題の解決や施策の推進を図ることで、市民サービスの向上につながることを前提とした取組であり、市の関与は妥当である。										
有効性	評価結果	改善の余地がややある										
	・広域連携のあり方については、共通課題の解決につながるため有効性があるが、他の連携項目についても連携するメリットの検証が必要である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・最小限度の費用負担であり、改善の余地はない。											

事務事業の概要	事務事業名	土地利用計画事業		担当課	企画経営課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	475	
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1	総務管理費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
		目	7	企画経営費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備			
取組方針	1	「都市計画マスタープラン」に基づくまちづくりの推進									
事業概要	計画に基づく適正な土地利用を行ってもらうために、土地売買等届出書の受理や無届土地取引の調査等を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	国土利用計画		⑤					⑨		
	②	近郊緑地保全区域		⑥					⑩		
	③	公有地拡大推進		⑦					⑪		
	④			⑧					⑫		
指標の実績	成果指標	土地売買等届出書の届出件数	単位	件	目標						届出は売買契約単位で出す必要があり、令和4年度は1計画で複数の届出があったため多くなったが、令和5年度も比較的活発に土地売買が行われたといえる。
			実績		1	36	7				
	<指標の計算方法>		制度に基づき提出された土地売買等届出書の届出件数								
	活動指標	土地売買等届出制度の周知回数	単位	回	目標	2	2	3	3	3	届出が必要な要件、期限等を周知することで無届取引や遅延届出の防止を図るもので、4月にホームページで、土地月間である10月にホームページと広報紙で周知を行った。
			実績		2	3	3				
	<指標の計算方法>		広報紙・ホームページ等での土地売買等届出制度の周知回数								
	成果指標	無届取引等把握調査で判明した無届件数	単位	件	目標						制度が浸透していることを表す指標になるが、令和5年度は土地取引件数に対して、無届件数が同数となっており、引続き周知が必要となる。また周知方法について検討する必要がある。
			実績		7	9	7				
	<指標の計算方法>		無届取引等把握調査で判明した無届件数								
	活動指標	近郊緑地保全区域内行為(変更)届出件数	単位	件	目標						近畿圏の保全区域の整備に関する法律に基づく届出で、近郊緑地内の開発回数を把握する指標になるが、令和5年度において届出はなかった。
実績					1						
<指標の計算方法>		近郊緑地保全区域内行為(変更)届出件数									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	24			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	<p>①国土利用計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 国土利用計画法に基づく土地売買等届出書の受理、無届土地取引の調査等で、令和5年度は届出件数7件、事務交付金として38,558円の申請手続を行った。また土地月間には広報紙などで制度啓発を行った。 <p>②近郊緑地保全区域</p> <ul style="list-style-type: none"> 近畿圏の保全区域の整備に関する法律に基づき指定される保全区域(和泉山脈)における開発に関する届出書の受理であるが、令和5年度は0件であった。 <p>③公有地拡大推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 公有地の拡大の推進に関する法律に基づく届出等の受理で、令和5年度は7件の届出等があった。 										
	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・国土利用計画法に基づく事業であり、県からの移譲事務であるため、市が実施主体となる必要がある。									
有効性	評価結果	改善の余地がややある									
	・制度の周知に努め、期限後の届出及び無届取引を減らす必要がある。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・不定期に発生する事務に対して効率的に事務を進めることができるようにマニュアルを更新する必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名		空港活性化促進事業				担当課	企画経営課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	489
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営					
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		目	7 企画経営費			基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進					
事業概要		関西国際空港周辺の自治体と連携し、空港活性化のための事業を行い、関西国際空港の利用者数の増加を図る事業											
事務事業を構成する細事業	① 空港活性化促進業務		⑤		⑨								
	② 関西国際空港連絡南ルート等早期実現期成会		⑥		⑩								
	③		⑦		⑪								
	④		⑧		⑫								
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析				
	活動指標	中央要望回数	回	目標	1	1	1	1	1	国土交通省及び衆議院・参議院の大阪・和歌山選出の議員事務所を訪問し、要望内容の説明及び要望書の手渡しに参加するもので南ルート等早期実現期成会の重要事業。			
			実績	1	1	1							
	<指標の計算方法>		地元選出国會議員、国土交通省等への南ルートの実現等に関する要望回数										
	活動指標	空港に関する総会・会議出席回数	回	目標						関西国際空港南ルート等早期実現期成会として開催される総会、幹事会に出席した。			
			実績	2	2	2							
	<指標の計算方法>		空港に関する総会・幹事会等会議への出席回数										
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	84			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
			84										
事業の実績	①空港活性化促進業務 ・関西国際空港全体構想促進協議会総会へは、委任状を提出し、総会は欠席した。												
	②関西国際空港連絡南ルート等早期実現期成会 ・大阪4市2町、和歌山4市で構成する期成会 ・幹事会 (5/18) ・総会 (7/21) ・監事として出席し、監査報告を行った。 ・中央要望 (11/28)												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・関西国際空港は市民にとって一番身近な空港であり、利用促進や空港の活性化自体は運営会社が担うべきものであるが、利用者の増加やインバウンドなど地域経済にもたらす効果、また、中央要望への自治体関与の必要性を考えれば、市の関与は妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・関西国際空港連絡南ルートの実現など、現時点では具体化されていない要望段階であるが、今後も社会的動向に注視しながら活動を継続していく必要がある。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・コスト面では、空港活性化に向けての要望活動など最小限の経費で実施しており、今後も積極的に参加、関与していく必要があるため、効率性は高いといえる。												

事務事業の概要	事務事業名	行財政改革推進事業			担当課	企画経営課		事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	963
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
目	7 企画経営費			基本施策	4		将来を見据えた行政経営の推進				
目				取組方針	2		行財政改革の推進				
事業概要	市が適正かつ効率的な行財政の運営をするために、第4次紀の川市行財政改革大綱に基づき、内部及び外部組織により計画策定や進捗管理を行い、その状況を公表する事業										
事務事業を構成する細事業	① 行財政改革推進委員会運営			⑤ 職員提案制度			⑨				
	② 行財政改革推進本部運営			⑥ 地方分権推進業務			⑩				
	③ 行財政改革専門部会運営			⑦ 組織機構改革業務			⑪				
	④ 民間委託・官民連携推進業務			⑧ 有料広告審査業務			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	行財政改革推進委員会開催回数	目標	1	1	1	1	1	令和4年度は第4次行財政改革大綱の策定等があり、開催回数が増加したが、令和5年度は例年どおりの開催となった。		
			実績	1	4	1					
	<指標の計算方法>		行財政改革推進委員会年間開催回数								
	成果指標	職員提案制度の提案採択件数	目標	4	4	4	4	4	令和4年度は5件（内3件は採用3年目職員の研修）、令和5年度は8件（内6件は採用3年目職員の研修）の提案があり、研修以外では令和4年度と同数の2件であった。		
			実績	0	1	3					
	<指標の計算方法>		職員提案制度の提案採択件数								
	成果指標	行財政改革大綱推進項目の取組件数	目標	5	5	10	10	10	第4次行財政改革大綱の推進項目23項目の内、18項目について重点推進項目を設定し、12項目で目標を達成した。		
			実績	10	10	18					
	<指標の計算方法>		行財政改革大綱推進項目の取組件数								
活動指標	行財政改革の進捗状況の公表	目標	1	1	1	1	1	進捗状況は、市ホームページで公表した。			
		実績	1	1	1						
<指標の計算方法>		行財政改革の進捗状況の公表件数									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	846			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	846	
事業の実績	① 行財政改革推進委員会運営 ・第1回推進委員会（8/29） 令和4年度行財政改革推進計画の進捗状況、第4次行財政改革の推進体制・推進計画、令和5年度行財政改革推進事項について審議し、市長に提言を行った。			改革実施方針、推進項目等について審議した。			⑥ 地方分権推進業務 ・「和歌山県の事務処理の特例に関する条例」に基づき権限移譲を受けた事務について、交付金の交付を受けた。 ・構造改革特区についてホームページを作成した。				
	② 行財政改革推進本部運営 ・第1回推進本部会議（6/1） 令和4年度行財政改革推進計画、第4次行財政改革大綱実施方針・推進項目について審議した。 ・第2回推進本部会議（8/22） 第4次行財政改革推進期間中の計画、令和5年度行財政改革推進計画について審議した。			④ 民間委託・官民連携推進業務 ・国、県が開催するPPP/PFIに関する研修を受講した。			⑦ 組織機構改革業務 ・秘書課の内室として紀の川市東京事務所を、企画経営課にプロジェクト推進班を設置した。（令和6年4月1日施行）				
	③ 行財政改革専門部会運営 ・第1回専門部会（5/29） 第3次行財政改革推進計画、第4次行財政			⑤ 職員提案制度 ・近畿経済産業局と連携した政策立案に向けたデータ活用（RESAS）研修の実施 ・8件の職員提案があり、3件を採択した。（広報紙及び案内チラシを活用したデジタル行政の促進、地域活性化起業者制度を活用した市の魅力発信における公式SNSの運用改善、紀の川市LINE公式アカウントの充実）			⑧ 有料広告審査業務 ・暮らしのガイドブック、総合インフォメーション、市税納税通知書送付用封筒への広告掲載について審査した。				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・今後の人口推移や財政状況、社会情勢に合わせた行財政改革を推進していく。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・業務の質、生産性を向上させる行財政改革の取組を全庁に浸透させる必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・本事業自体のコストはこれ以上削減は困難であるが、行財政改革を着実に推進していくことで、市の業務全体のコスト効率を高めていくことができる。										

事務事業の概要	事務事業名	マイナンバーカード普及促進事業			担当課	企画経営課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R3～R5)		事業番号	1168		
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	7 企画経営費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進				
事業概要	マイナンバー制度のメリットを活用し、安全・安心で利便性の高いデジタル社会を実現するため、マイナンバーカードの普及、その利活用を促進する事業												
事務事業を構成する細事業	①	マイナンバーカード普及促進業務			⑤				⑨				
	②	マイナポイント設定支援業務			⑥				⑩				
	③				⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析				
	活動指標	マイナンバーカード出張申請窓口実施回数	回	目標	96	150	130			乳幼児健診会場、地区公民館、敬老会会場等で実施した。			
			実績	122	162	71							
	<指標の計算方法>		出張申請を実施した回数										
	成果指標	マイナンバーカード交付率	%	目標	40.7	70	80			全国平均78.7%、和歌山県平均79.8% なお、交付業務は市民課において行っている。			
			実績	63.6	76.9	83.4							
	<指標の計算方法>		年度末時点のマイナンバーカード交付済者÷令和5年1月1日時点の人口										
成果指標	マイナポイント設定支援件数	件	目標						令和5年度は4月～9月で実施した。				
		実績	76	4,967	1,835								
<指標の計算方法>		マイナポイントの設定支援を実施した件数											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	25,105			国庫支出金	25,105	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①マイナンバーカード普及促進業務 ・7月から3月において出張申請窓口を50日実施し、73人をサポートした。 (実施内訳) ・南別館 (乳幼児健診会場) 6日 ・各地区公民館 15日 ・敬老会会場 6日 ・名手病院 8日 ・集団検診 5日 ・本庁 8日 ・個別訪問 2日 計50日 ・令和6年3月末現在でマイナンバーカード交付率は83.4% (全国平均78.7%) ②マイナポイント設定支援業務 ・本庁舎1階情報コーナー及び貴志川支所において合計1,835件の設定支援を実施した。												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・国は全国民がマイナンバーカードを保有することを目標にしており、市もその方針に基づき事業を実施する必要がある。											
	有効性	評価結果	改善の余地がややある										
・出張申請窓口の実施場所や出張申請サポートの実施形態など市民のニーズについて、検討する必要がある。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・民間委託が可能な部分は委託しており、効率的に業務を進めることができた。												

事務事業の概要	事務事業名	粉河支所運営事業			担当課	粉河支所		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1052	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市民が市民サービスを受けられるように、粉河支所を開設、運営する事業											
事務事業を構成する細事業	①	窓口対応			⑤					⑨		
	②	各団体支援			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	各種支援団体数	団体	目標	5	6	6	6	6	支所が事務局となっているすべての団体等に対して、支援を行った。		
			実績	5	6	6						
	<指標の計算方法>		区長会、消防団、交通指導員会、民生委員、敬老会実行委員会、民生委員推薦準備会									
	成果指標	支援実施数	回	目標	87	88	119	120	120	各種事業の活発化に伴い、支援回数が増えている。		
			実績	58	100	126						
<指標の計算方法>		各団体への会議、活動等の支援回数										
活動指標	業務対応件数	件	目標	21,000	21,000	22,000	21,000	22,000	前年度に比べ、マイナンバーカード関連業務がマイナポイント受取支援の終了により減少している。			
		実績	34,400	25,423	18,712							
<指標の計算方法>		来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談、苦情等の対応件数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	4,450			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			4,450									
事業の実績	①窓口対応(18,712件) 〔主な業務〕			<ul style="list-style-type: none"> 各種福祉手当の申請受付 要介護等申請受付、相談 福祉医療関係相談、受付 国民健康保険加入受付、各種届出受理 後期高齢者医療各種届出受理 国民年金加入、喪失等各種手続き 								
	<ul style="list-style-type: none"> 交通防犯、消防、区長会関係業務 建設部、農林商工部の各種補助事業相談、申請受付 市道等の維持補修、あき地適正管理指導 農業委員会業務の受付、相談 指定ゴミ袋等販売 出生届、婚姻届、死亡届など各種届出 印鑑登録、印鑑登録証明 戸籍謄・抄本、住民票の発行 埋火葬許可証発行 税関係各種証明書発行、税務相談 学校施設借用申請受付 マイナンバーカード受付 マイナポイント受取支援(～R5.9/30) 選挙関係 生活保護相談 身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付 			<ul style="list-style-type: none"> ②各団体支援(126回) 交通指導員会 31回 消防団 18回 区長会 8回 民生委員児童委員協議会 40回 敬老会実行委員会 29回 民生委員推薦準備会 0回 								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		<ul style="list-style-type: none"> 生活と密着した地域に市役所の出先機関である支所があることは、地域住民にとって必要性が高い。 DXが推進され、窓口業務がスマホやパソコンによる申請等の手続きに代わり来庁者が減少傾向になった場合は、支所の廃止も検討する必要がある。 										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者や身体に不自由がある方など、移動に制限のある方へのサービス提供に特に有効である。 各所管課の窓口業務が事業内容となるため、専門性をもった人材を活用することが難しい。 職員の能力開発についても、多くが各所管課に依存されてしまう。 												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	<ul style="list-style-type: none"> 多岐にわたり複雑化している住民ニーズや事案の初期対応に効果があり、住民にとって利便性は高い。 											

事務事業の概要	事務事業名	粉河支所施設管理事業			担当課	粉河支所		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1053	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市民が支所を安全で快適に利用できるように、粉河支所の適切な維持管理や改修を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	粉河支所施設管理			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	施設目視点検	日	目標	240	243	243	243	242	開庁日の就業時間前に、支所入口付近を中心に安全点検を行っている。		
				実績	240	243	243					
	<指標の計算方法>		開庁日に施設内の目視点検を行う日数									
	成果指標	点検不足による事故件数	件	目標	0	0	0	0	0	支所入口(自動ドア)から窓口カウンターの間をスロープ状に段差を解消しているため、黒黄色の注意喚起シール及び手すりの設置等の安全対策を行っている。		
				実績	0	0	0					
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	678			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			678									
事業の実績	<p>①粉河支所施設管理 粉河ふるさとセンター内にある支所の維持管理を適切に行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年3月31日で不使用となったJA紀の里金融機関ブースの撤去を行った。 ・上記を撤去したことで、ローカウンターを再利用し地域振興係のハイカウンターと変更し、設置した。 ・POSレジの導入及び「書かない窓口」の設置に伴い来庁者の導線とPOSレジの設置位置の検討を実施した。 ・高齢者、車いすでの来庁等を考慮し軽く移動させやすく立ち上がりに便利な肘付の椅子を購入し設置した。 											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・来庁者に安全・快適に支所を利用していただくために必要である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・支所内で事故もなく、来庁者からの施設・設備に関する苦情もない。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・必要に応じて改修・修繕を行いながら計画的に維持管理を行っていく。											

事務事業の概要	事務事業名	那賀支所運営事業			担当課	那賀支所		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1054	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市民が市民サービスを受けられるように、那賀支所を開設、運営する事業											
事務事業を構成する細事業	①	窓口対応			⑤				⑨			
	②	各団体支援			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	各種支援団体数	団体	目標	5	6	5	5	6	支所が事務局となっている全ての団体の支援を行っている。		
			実績	5	6	5						
	<指標の計算方法>		交通指導員会、消防団、区長会、民生児童委員協議会、敬老会実行委員会									
	成果指標	支援実施数	回	目標	80	80	80	80	80	新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い支援実施回数が増え、目標を上回った。		
			実績	70	75	107						
	<指標の計算方法>		各団体への会議、活動等の支援回数									
活動指標	業務対応件数	件	目標	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	マイナンバーカードの申請等により目標を上回った。			
		実績	27,709	24,055	22,911							
<指標の計算方法>		来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談、苦情等の対応件数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	4,523			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	4,523		
事業の実績	①窓口対応 22,911件 (主な業務) ・交通防犯、消防、区長会関係業務 ・建設部、農林商工部の各種補助事業相談、申請受付 ・市道等の維持修繕、あき地適正管理指導 ・農業委員会業務の受付、相談 ・出生届、婚姻届、死亡届など各種届出 ・印鑑登録、印鑑登録証明 ・戸籍簿・抄本、住民票の発行 ・埋火葬許可証発行 ・税関係各種証明書発行、税務相談 ・学校施設借用申請受付 ・指定ゴミ袋等販売 ・生活保護相談 ・身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付 ・各種福祉手当の申請交付 ・要介護等申請受付、相談 ・福祉医療関係相談、受付			・国民健康保険加入受付、各種届出受理 ・後期高齢者医療各種届出受理 ・国民年金加入、喪失等各種手続き ・マイナンバーカード受付 ・浄化槽設置整備事業現場立会い ・期日前投票所の開設・運営								
	②各団体支援 ・交通指導員会 24回 ・消防団 17回 ・区長会 10回 ・民生委員児童委員協議会 51回 ・敬老会実行委員会 5回											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・地域住民生活に直接影響を及ぼす事業であるため、継続して実施すべきである。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・目標を上回る実績であり改善の余地はない。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・多種多様な住民ニーズに対応するため、現体制で可能な限り対応する。											

事務事業の概要	事務事業名	那賀支所施設管理事業			担当課	那賀支所		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1055	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
目	8 支所及び出張所費			取組方針	9		その他					
事業概要	市民が支所を安全で快適に利用できるように、那賀支所の適切な維持管理や改修を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	那賀支所施設管理			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	那賀保健福祉センター施設管理業務	件	目標	9	8	9	8	9	施設のメンテナンスを徹底し、施設内の点検を定期的に行い、優先順位を決め修理し来庁者に快適な環境を提供ができています。		
				実績	11	9	10					
	<指標の計算方法>		施設の維持管理・保守、修繕の件数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	8,079			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	8,079		
事業の実績	①那賀支所施設管理											
	業務委託 <ul style="list-style-type: none"> ・機械警備業務 ・清掃業務 ・空調設備保守点検業務 ・電気保安業務 ・エレベーター保守点検業務 ・消防設備保守点検業務 ・特殊建築物建築設備定期検査業務 ・特殊建築物防火設備定期検査業務 ・貯水槽清掃等業務 ・特定建築物定期調査 施設修繕 <ul style="list-style-type: none"> ・電話機バッテリー修繕 											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市民が安全に施設を利用していくために、施設管理に必要な修繕等を行う事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・施設管理の業務委託を実施していくことで、良好に維持出来ており来庁者からの苦情もない。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・今後も計画的な修繕を実施していくことで効率性を高めると考えられる。											

事務事業の概要	事務事業名	桃山支所運営事業			担当課	桃山支所		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1056
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進		
取組方針				9	その他						
事業概要	市民が市民サービスを受けられるように、桃山支所を開設、運営する事業										
事務事業を構成する細事業	①	窓口対応			⑤			⑨			
	②	各団体支援			⑥			⑩			
	③				⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			

指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	各種支援団体数	団体	目標	8	8	8	8	8	民生委員の交代が無かったため民生委員推薦準備会の実績は無かったが、他の団体については目標通り支援を実施することができた。
			実績	8	8	7				
	<指標の計算方法>		区長会、消防団、交通指導員、民生委員、敬老会実行委員会、あら川の桃振興協議会、中国研修生受入協議会、民生委員推薦準備会							
	成果指標	支援実施数	回	目標	150	150	150	150	150	新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行したことにより、各団体が従来通りの活動を行うことで、ほぼ目標どおりの支援を実施することができた。
			実績	89	127	147				
<指標の計算方法>		各団体への会議、活動等の支援回数								
活動指標	業務対応件数	件	目標	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	期日前投票所の開設日数やマイナンバーカードの交付関連事務が減少したが、災害復旧に係る対応業務もあり、目標に近い対応件数となっている。	
		実績	23,417	19,276	18,139					
<指標の計算方法>		来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談、苦情等の対応件数								
		目標								
		実績								
<指標の計算方法>										

コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)		財源内訳				
	7,217		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他
		7,217					

事業の実績	①窓口対応 18,139件 (主な業務) ・交通防犯、消防、区長会関係業務 ・建設部、農林商工部の各種補助事業相談、申請受付 ・市道等の維持補修、あき地適正管理指導 ・農業委員会業務の受付、相談 ・出生届、婚姻届、死亡届など各種届出 ・印鑑登録、印鑑登録証明 ・戸籍謄・抄本、住民票の発行 ・埋火葬許可証発行 ・税関係各種証明書発行、税務相談 ・学校施設借用申請受付 ・指定ゴミ袋等販売 ・生活保護相談 ・身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付 ・各種福祉手当の申請受付 ・要介護等申請受付、相談 ・福祉医療関係相談、受付	・国民健康保険加入受付、各種届出受理 ・後期高齢者医療各種届出受理 ・国民年金加入、喪失等各種手続き ・マイナンバーカード受付 ・期日前投票所の開設・運営	②各団体支援 (147回) 交通指導員会 23回 消防団 17回 区長会 12回 民生委員児童委員協議会 32回 あら川の桃振興協議会 36回 中国研修生受入協議会 21回 敬老会実行委員会 6回 民生委員推薦準備会 0回
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない
	・桃山地区において行政サービスを行うため、市が実施する以外に考える余地はない。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない
・目標を上回る件数を実施しており、桃山地区の住民へのサービスは充分できている。			
効率性	評価結果	改善の余地がない	
	・各団体への支援を行いながら、現状の職員で出来る限り各種の業務に対応している。		

事務事業の概要	事務事業名	桃山支所施設管理事業			担当課	桃山支所		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1057	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市民が支所を安全で快適に利用できるように、桃山支所の適切な維持管理や改修を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	桃山支所施設管理			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	桃山支所施設管理業務	件	目標	10	10	10	10	10	支所利用者に不便をかけないように、専門資格の必要な業務については業務委託を行い、修繕が必要な箇所は早急に対応した。		
				実績	14	12	13					
	<指標の計算方法>		施設維持管理のための対応件数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	4,427			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	4,427		
事業の実績	①桃山支所施設管理 業務委託 定期清掃業務 機械警備業務 電気保安業務 エレベーター保守点検業務 消防設備保守点検業務 修繕 エアコン修繕 3回 非常用誘導灯修繕 電話回線用UPS取替修繕 火災報知器取替修繕 支所屋上防水シート修繕 事務所照明器具修繕											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・行政サービスの出先機関として、利用者に快適に安心して支所を利用いただくために必要である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・利用者が安心して施設を利用するために必要な業務である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・最低限の予算内で施設の維持管理を実施出来ている。											

事務事業の概要	事務事業名	桃山支所改修整備事業			担当課	桃山支所		事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	新規	事業期間	単年度のみ		事業番号	1230	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市民がより快適に支所を利用し、行政サービスを受けられるように、桃山支所の改修整備を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	桃山支所整備			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	桃山支所外壁改修工事	目標				1			市民が快適に安心して行政サービスを受けることができるよう、工期どおり工事を完了することができた。		
			実績				1					
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	33,902			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,902		
事業の実績	①桃山支所整備 外壁改修工事 外壁タイル改修工事 ・既設タイル浮き部分改修 ・既設下地モルタル浮き部分改修 外壁塗装改修工事 ・コンクリート打放し面再塗装 防水改修工事 ・クラック処理 ・シーリング打ち替え 外壁改修工事監理業務											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・老朽化する庁舎の改修工事を計画的に行うために必要である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・利用者が快適に安心して施設を利用するために必要な業務である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・長期的な改修工事の計画を立てることにより効率良く進めることができる											

事務事業の概要	事務事業名	貴志川支所運営事業			担当課	貴志川支所		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1059	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市民が市民サービスを受けられるように、貴志川支所を開設、運営する事業											
事務事業を構成する細事業	①	窓口対応			⑤					⑨		
	②	各団体支援			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	各種支援団体数	団体	目標	5	6	6	6	6	支所が事務局となっている団体の支援をしている。民生委員児童委員の改選がなかったため民生委員推薦準備会は開催されていない。		
				実績	5	5	5					
	<指標の計算方法>		区長会、消防団、交通指導員会、民生委員児童委員協議会、敬老会実行委員会、民生委員推薦準備会									
	成果指標	支援実施数	回	目標	100	100	100	100	100	新型コロナウイルス感染症が5月から5類移行されたため、各団体の会議、活動がほぼ従来の状態に戻つつある。		
				実績	37	49	58					
	<指標の計算方法>		各団体への会議、活動等の支援回数									
成果指標	業務対応件数	件	目標	43,000	43,000	43,000	43,000	43,000	令和4年度と比較し実績値が減少した理由としては、主にマイナンバーカード交付関連事務及び期日前投票所の開設、運営の対応が減少したためである。			
			実績	57,840	48,645	38,299						
<指標の計算方法>		来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談、苦情等の対応件数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	4,845			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	4,845		
事業の実績	①窓口対応 38,299件 (主な業務) ・交通防犯、消防、区長会関係業務 ・建設部、農林商工部の各種補助事業相談、申請受付 ・市道等の維持補修、あき地適正管理指導 ・農業委員会業務の受付、相談 ・出生届、婚姻届、死亡届など各種届出 ・印鑑登録、印鑑登録証明 ・戸籍謄・抄本、住民票の発行 ・マイナンバーカード受付 ・埋火葬許可証発行 ・税関係各種証明書発行、税務相談 ・学校施設借用申請受付 ・指定ごみ袋等販売 ・生活保護相談 ・身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付 ・各種福祉手当の申請受付 ・要介護等申請受付、相談			・福祉医療関係相談、受付 ・国民健康保険加入受付、各種届出受理 ・後期高齢者医療各種届出受理 ・国民年金加入、喪失等各種手続き ・期日前投票所の開設・運営			②各団体支援 58回 ・区長会 8回 ・消防団 5回 ・交通指導員会 21回 ・民生委員児童委員協議会 21回 ・敬老会実行委員会 3回					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・生活と密着した地域に市役所の出先機関があることは地域住民にとって必要性が高く、市が実施するのは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・年少者や高齢者など移動に制約のある方へのサービス提供に特に有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・サービス拠点を分散して身近に設けることは周辺住民の利便性を高め効率的である。											

事務事業の概要	事務事業名		貴志川支所施設管理事業		担当課		貴志川支所		事業区分		ソフト事業		
	新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1060		
	会計		一般会計		政策目標		5		地域づくり・行政経営				
	予算科目		2 総務費		施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
	款	1 総務管理費		基本施策		4		将来を見据えた行政経営の推進					
	項	8 支所及び出張所費		取組方針		9		その他					
事業概要	市民が支所を安全で快適に利用できるように、貴志川支所の適切な維持管理や改修を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	貴志川支所施設管理		⑤				⑨					
	②	未利用財産の活用		⑥				⑩					
	③			⑦				⑪					
	④			⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析				
	成果指標	貴志川支所施設管理業務	件	目標	15	15	25	25	25	施設の長寿命化と経費削減を図りつつ、安全かつ快適に利用できるよう維持管理及び修繕等を行っている。			
			実績	24	36	31							
	<指標の計算方法>		支所の維持管理とメンテナンス										
成果指標		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
成果指標		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
		21,298										21,298	
事業の実績	①貴志川支所施設管理 【業務委託等】 ・定期清掃業務 ・貯水槽清掃業務 ・機械警備業務 ・電気保安管理業務 ・空調設備保守点検業務 ・エレベーター保守点検業務 ・消防設備保守点検業務 ・浄化槽保守点検業務 ・浄化槽法定検査 ・雑草等刈取業務 【施設修繕等】 支所（貴志川保健福祉センター） ・貴志川保健福祉センター放流槽フロート取替え ・貴志川支所駐車場ライン修繕 ・貴志川支所2階男子トイレ換気扇取替修繕 ・貴志川支所1階男子トイレ土間排水修繕			・貴志川支所西側玄関（外）自動ドア装置更新修繕 ・貴志川支所カーテンウォールガラス割替修繕 ・貴志川支所1階ドアチェック修繕 ・貴志川支所3階内線増設及び電話機修繕 ・貴志川支所1階女子トイレ及び2階多目的トイレ小便器センサー修繕 ・貴志川支所電話機2台修繕（1階内線103、2階212） 河南図書館 ・河南図書館浄化槽制御盤修繕 ・河南図書館駐輪場屋根波板張替修繕 ・河南図書館（2階）プレーカー取替修繕 ・河南図書館（3階）プレーカー取替修繕			【備品購入】 ・貴志川支所1F用パーティション ・庁舎設置消火器（更新）12本 ・貴志川支所事務所用スツールサイドチェア4脚 ・貴志川支所事務椅子1脚 ・冷蔵庫（買い替え） ・掃除機 ②未利用財産の活用 ・建物 庁舎等貸付7件 河南図書館2階3階 4件 公文書庫 2件 支所 1件						
	【工事請負】 ・河南図書館2階事務室Aの空調機取替工事												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
			・施設を有効に活用するための維持管理及び修繕は必要である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある										
		・施設の長寿命化のため、貴志川支所LED照明化が必要である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない											
		・必要に応じて修繕等を実施しながら計画的に維持管理することが効果的である。											

事務事業の概要	事務事業名		貴志川支所改修整備事業			担当課	貴志川支所		事業区分	ハード事業		
	会計		一般会計			新規・継続	新規	事業期間	単年度のみ		事業番号	1061
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	8 支所及び出張所費			基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進				
事業概要		市民がより安全に支所を利用し、行政サービスを受けられるように、貴志川支所の改修を行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	貴志川支所改修整備		⑤					⑨		
		②			⑥					⑩		
		③			⑦					⑪		
		④			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	貴志川保健福祉センター外壁等改修工事監理業務契約数	目標				1			貴志川保健福祉センター外壁等改修工事の監理業務を委託し実施した。		
			実績				1					
	<指標の計算方法>		貴志川保健福祉センター外壁等改修工事監理業務契約数									
	活動指標	貴志川保健福祉センター外壁等改修工事契約数	目標				1			貴志川保健福祉センター外壁等改修工事を実施した。		
			実績				1					
	<指標の計算方法>		貴志川保健福祉センター外壁等改修工事契約数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	40,194			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	11,994		
事業の実績	①貴志川支所改修整備 ・貴志川保健福祉センター外壁等改修工事 ・貴志川保健福祉センター外壁等改修工事 監理業務											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・生活と密着した地域に市役所の出先機関があることは地域住民にとって必要性が高く、施設の老朽化した箇所の改修を市が実施するのは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・公共施設の維持管理にあたり定期的に劣化状況を調査し、把握することにより、保全工事の時期等の計画や実施に必要な情報を得ることで、部位や設備の劣化による第三者被害や施設運営停止等を生じさせない予防保全の実施、施設の長寿命化（LED照明化等）を図ることを継続的に行う必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・地域の拠点的機能を有する施設として、行政サービスの向上や作業の効率化に配慮しながら事業を進めることができている。											

事務事業の概要	事務事業名	河南図書館改修整備事業		担当課	貴志川支所			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計		新規・継続	新規	事業期間	単年度のみ		事業番号	1232	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	8 支所及び出張所費			基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	貴志川支所で管理する河南図書館（旧貴志川分庁舎）の老朽化した建具等を改修する事業										
事務事業を構成する細事業	①	河南図書館改修整備		⑤				⑨			
	②			⑥				⑩			
	③			⑦				⑪			
	④			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	河南図書館建具改修工事監理業務契約数	目標				1			河南図書館建具改修工事（主たる事務室及び階段室、便所その他） ・その他の付帯工事の監理業務を委託し実施した。	
			実績				1				
	<指標の計算方法>		河南図書館建具改修工事監理業務契約数								
	活動指標	河南図書館建具改修工事契約数	目標				1			河南図書館建具改修工事（主たる事務室及び階段室、便所その他） ・その他の付帯工事を実施した。	
			実績				1				
	<指標の計算方法>		河南図書館建具改修工事契約数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	10,727			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,127	
事業の実績	①河南図書館改修整備 ・河南図書館建具改修工事 ・河南図書館建具改修工事監理業務										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・生活と密着した公共施設は地域住民にとって必要性が高く、維持管理を市が実施するのは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・公共施設の維持管理にあたり定期的に劣化状況を調査し、把握することにより、保全工事の時期等の計画や実施に必要な情報を得ることで、部位や設備の劣化による第三者被害や施設運営停止等を生じさせない予防保全の実施、施設の長寿命化を図ることを継続的に行う必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・公共施設の維持管理にあたり定期的に劣化状況を調査し、把握することにより、保全工事の時期等の計画や実施に必要な情報を得ることで、部位や設備の劣化による第三者被害や施設運営停止等を生じさせない予防保全の実施、施設の長寿命化を図ることを効率良く行う必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	鞆淵出張所運営事業			担当課	鞆淵出張所		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1062	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市民が市民サービスを受けられるように、鞆淵出張所を開設、運営する事業											
事務事業を構成する細事業	①	窓口対応			⑤					⑨		
	②	各団体支援			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	各種支援団体数	団体	目標	3	3	3	3	3	鞆淵地域特有の団体を含め、目標どおりの団体支援を実施できている。		
			実績	3	3	3						
	<指標の計算方法>		区長会、県道かつらぎ桃山線大改修期成同盟会、真国川を美しくする会									
	成果指標	支援実施数	回	目標	110	110	200	200	200	新型コロナウイルスの感染症法での位置づけが5類に移行されたことから、各種支援団体の活動や会議はほぼ予定通り行なわれた。		
			実績	296	220	241						
	<指標の計算方法>		各種団体等への会議、活動等の支援回数									
活動指標	業務対応件数	件	目標	2,700	2,700	2,700	2,700	2,700	マイナンバー関連の対応は減ったが、6月の大雨による災害の対応件数が多かった。			
		実績	3,636	3,162	3,122							
<指標の計算方法>		来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談等の対応件数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	4,147			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		4,147	
事業の実績	①窓口対応 3,122件 (主な業務) ・交通防犯、消防、区長会関係業務 ・建設部、農林商工部の各種補助事業相談申請受付 ・市道等の維持補修、あき地適正管理指導 ・農業委員会業務の受付、相談 ・出生届、婚姻届、死亡届など各種届出 ・印鑑登録、印鑑登録証明 ・戸籍謄・抄本、住民票の発行 ・埋火葬許可証発行 ・税関係各種証明書発行、税務相談 ・学校施設借用申請受付 ・指定ゴミ袋等販売 ・生活保護相談 ・身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付 ・各種福祉手当の申請受付 ・要介護等申請受付、相談 ・福祉医療関係相談、受付			②各団体支援 ・区長会(民生委員児童委員、招魂祭、敬老会関係含む) 202回 ・県道かつらぎ桃山線大改修期成同盟会 25回 ・真国川を美しくする会 14回								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・鞆淵地区において、行政サービスを行なうため市が実施する以外に考える余地はない。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・他の施設まで遠く交通も不便、また高齢化が進む地域において、窓口を設置することにより地域住民へのサービスは十分できている。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・多岐にわたる業務を一般職員2名、会計年度任用職員1名の体制で対応している。 ・窓口対応で高齢者の多い中、『書かない窓口』の対応は、高齢者の負担を減らすことになる。											

事務事業の概要	事務事業名	鞆淵出張所施設管理事業			担当課	鞆淵出張所		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1063		
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進				
事業概要	市民が出張所を安全で快適に利用できるように、鞆淵出張所の適切な維持管理や改修を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	鞆淵出張所施設管理			⑤				⑨				
	②				⑥				⑩				
	③				⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析				
	活動指標	出張所施設管理業務	件	目標	20	20	3	3	3	来庁者に安全で快適に利用していただけるよう、保守点検や修繕等を実施しながら施設の維持や管理を行っている。また、敷地内植栽の手入れを職員にて実施している。			
		<指標の計算方法>		実績	22	4	3						
			目標										
			実績										
			<指標の計算方法>	出張所の維持管理実施件数									
			目標										
		実績											
		<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	1,240			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,240			
事業の実績	①鞆淵出張所施設管理 業務委託 ・消防設備保守点検業務委託 ・浄化槽保守点検業務委託 ・浄化槽法定検査												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
			・行政サービスの出先機関として、来庁者に快適に安心して出張所を利用していただくために必要である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
		・利用者が安心して施設を利用するために必要な業務である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない											
		・随所老朽化が目立つ施設を必要最小限の経費で維持管理を行なっている。											

事務事業の概要	事務事業名	山村留学センター解体整備事業			担当課	輻射出張所#			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	新規	事業期間	期間限定複数年度 (R5～R6)	事業番号	1231		
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	事業廃止が決定したことにより、山村留学センターの解体整備を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	解体整備事業			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	山村留学センター解体整備設計業務	目標				1	0	0	設計業務が完了した。		
			実績				1					
	<指標の計算方法>											
	成果指標	山村留学センター解体整備工事	目標				0	1	0	令和5年度の設計業務の成果に基づき令和6年度に解体工事を完成させる。		
			実績				0					
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
1,194										1,194		
事業の実績	①解体整備事業											
	解体整備工事設計業務を実施											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・老朽化し使用されない当施設について解体整備を行うことは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・取り壊し後、有効に土地を活用することが出来る。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・老朽化に伴う解体のためコスト削減は難しいと考える。											

事務事業の概要	事務事業名	公平委員会運営事業			担当課	総合行政委員会事務局			事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	10	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	99 ****				
		項	1 総務管理費				施策目標	99 ****				
		目	9 公平委員会費				基本施策	99 ****				
	事業概要	職員の利益の保護と公正な人事権が行使保障されるように、公平委員会に審査請求や措置要求がされてから裁決までの行程を円滑に行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	公平委員会運営			⑤					⑨		
	②	全国公平委員会連合会負担金			⑥					⑩		
	③	近畿公平委員会連合会負担金			⑦					⑪		
	④	県公平委員会連合会負担金			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	審査請求件数	回	目標						令和3年度以降審査請求なし。		
				実績								
	<指標の計算方法>		審査請求件数									
				目標								
				実績								
<指標の計算方法>												
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	100			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	100		
事業の実績	①公平委員会運営 係争中の案件及び審議案件がないため、委員会の開催はなし。 ②全国公平委員会連合会負担金 ③近畿公平委員会連合会負担金 新型コロナウイルス感染症の影響により、書面決議。 ④県公平委員会連合会負担金 新型コロナウイルス感染症の影響により、書面決議。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・地方自治法で設置が定められている委員会である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・職員の利益の保護と公正な人事権の行使・保障に寄与している。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・公平委員に対する報酬のため、これ以上のコスト削減は難しい。											

事務事業名	自治振興事業		担当課	総務課		事業区分	ソフト事業					
	新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	504					
事務事業の概要	会計	一般会計		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営					
	予算科目	款	2		総務費	施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興				
		項	1		総務管理費		基本施策	1	地域コミュニティの充実と協働の推進			
		目	10		自治振興費		取組方針	1	自治会活動における持続可能性の向上			
事業概要	自治区が「地域の絆」を強め、地域コミュニティの分野で中心的な役割を担えるように、自治区や認可地縁団体の運営への支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	集会所整備補助金		⑤	自治区運営補助金		⑨					
	②	自治連絡協議会運営		⑥	区長会補助金		⑩					
	③	区長会運営		⑦	自治区加入促進		⑪					
	④	一般行政事務委託		⑧	認可地縁団体活動支援		⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	自治区加入率	目標	80	80	80	80	80	自治区加入率については、人口減少・高齢化による加入世帯の減少だけでなく、分母となる総世帯数が世帯分離などにより増加傾向(R4年度26,691世帯 R5年度26,910世帯)であるため減少している。			
			実績	73.8	73	71.8						
	<指標の計算方法>		自治区加入世帯数/住民基本台帳世帯数									
	活動指標	自治区補助団体数	目標	199	199	199	199	199		198自治区に対し、自治区運営補助金の交付を実施した。		
			実績	199	199	198						
	<指標の計算方法>		自治区補助団体数									
	活動指標	集会所整備補助件数	目標	28	28	28	28	28			自治区の前年度からの要望分全てと、緊急対応分に対し、地区集会所整備事業補助金の交付を実施した。	
			実績	25	21	23						
	<指標の計算方法>		集会所整備補助件数									
活動指標	補助事業の啓発回数	目標	6	6	6	6	6	各地区区長会、全区区長会資料において、啓発を実施した。				
		実績	6	6	6							
<指標の計算方法>		補助事業の啓発回数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)		財源内訳									
	47,850		国庫支出金	29	県支出金	地方債	繰入金		その他	89		一般財源
事業の実績	①集会所整備補助金 地区集会所の整備に対する補助 23件(改修17件、備品5件、耐震診断1件)		交付した。									
	②自治連絡協議会運営 ・自治連絡協議会を年3回開催し、協議を行った。 ・視察研修会を行った。		⑦自治区加入促進 転入者に対しチラシを活用し、啓発活動を実施した。									
	③区長会運営 5地区区長会の運営・支援を行った。		⑧認可地縁団体活動支援 51団体に対し告示事項変更の支援、1団体に設立の支援を行った。									
	④一般行政事務委託 198自治区区長に周知文書の配布等の委託											
	⑤自治区運営補助金 198自治区に地域活動への補助											
	⑥区長会補助金 5地区区長会の運営・支援に係る補助金を											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・一般行政事務委託事業、自治区運営補助事業については、市から自治区へ市政情報などの伝達、自治区から市へ各種要望などの伝達をスムーズに行うため、市が実施するのが妥当である。 ・集会所整備事業は、改修等整備に対する補助事業であるため、市が実施するのが妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・自治区加入率については、人口減少・高齢化による加入世帯の減少だけでなく、分母となる総世帯数が世帯分離などにより増加傾向であるため減少している。 ・自治区運営補助金は集会所の維持費や行事の開催費など「地域の絆」形成に寄与している。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・自治区の内滑りな運営に寄与し、効率的であると考えます。											

事務事業の概要	事務事業名	シティプロモーション事業		担当課	地域創生課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1071	
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1	総務管理費		施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興			
目		11	地域創生費	基本施策		2	地域の活性化と移住・定住環境の充実				
事業概要	自分に関わるまちへの誇り・共感を高め、まちをより良くしようという意欲や行動を促す事業										
事務事業を構成する細事業	①	シティプロモーション推進業務			⑤				⑨		
	②	和歌山県人会業務			⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	地域推奨意欲	点	目標			6	6	6	6	市民意識調査の結果である。意欲の度合いを0～10の数字から選んでもらい、選んだ人数の多さを加味した値である。「5」を選んだ人が最も多く、次いで「7」が選ばれている。
				実績			5.3	5.4			
	<指標の計算方法>		市民意識調査で「紀の川市の魅力を誰かにおすすめしたいと思う」に対する回答の平均(0～10点)								
	活動指標	きのかわ市民クリエイター養成塾参加者数	人	目標				35	40	45	地域の魅力を市民自らが発信できるような取組を始め、募集定員に達する参加者を得た。
				実績				35			
	<指標の計算方法>		フォトライター、動画制作などの講座の参加者数								
	成果指標	住み続けたい人の割合	%	目標	60	60	60	60	60	60	「これからも住み続けたい」と思う人の割合はわずかに減少したが、「当分住み続けたい」と回答した人との合計では、80%を超える高い水準となっている。
				実績	55.2	55	51.8				
	<指標の計算方法>		市民意識調査で「これからも紀の川市に住み続けたい」と回答した人の割合								
成果指標	紀の川市のことを誇りに思う人の割合	%	目標		90	90	90	90	90	シビックプライドを高めるための情報発信に取り組み、前年度と同じく80%を超える高い水準となっている。	
			実績		82	81.9					
<指標の計算方法>		市民意識調査で「誇りに思う」「どちらかといえば誇りに思う」と回答した人の割合									
コストの実績	R 5年度決算額(単位:千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			4,690							4,690	
事業の実績	①シティプロモーション推進業務 ・きのかわ市民クリエイター養成塾 ○フォトライターコース 参加者数:14人 開催期間:7月8日～10月7日 全8回 写真や文章の技術を実践形式で学び、成果物を移住定住のホームページに記事として掲載。 ○動画制作コース 参加者数:16人 開催期間:8月19日～12月9日 全12回 TikTokやYouTube動画の制作方法を映像制作のプロから学び、課題として2チームに分かれて市内の店舗のPR動画を制作。 ○ポッドキャストコース 参加者数:5人 開催期間:2月20日～3月14日 全3回 スマホなどで聞くことのできる音声配信プラットフォーム「ポッドキャスト」の配信のための技術を学び、実際に番組を制作。			市民自身による市の魅力発信がより共感を生むことに繋がると考え、写真や文章、動画、音声配信のそれぞれの技術を学ぶとともに、市民クリエイター相互の人脈形成に繋がった。			・フリーペーパー「紀の川人」2,000部増刷 ②和歌山県人会業務 ・8月1日(火)東海和歌山県人会に参加場所:名古屋ガーデンパレスホテル 参加者:市長、観光協会会長、秘書課、商工労働課、観光振興課、地域創生課 観光、ふるさと納税等を中心に市のPRを行った。				
	・フリーペーパー「まいなあが」PR記事掲載 紀の川市・岩出市で発行部数40,000部 10月号「はぐくみサポート紀の川」 11月号「紀の川暮らしのオンとオフ」 12月号「学校給食」 1月号「紀の川市のここが好き」 2月号「図書館がアツい」 3月号「粉河まちづくりプロジェクト」 4月号「子育て支援施策」 ・フリーペーパー「紀の川スタイル」2,000部制作										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・移住・定住人口の増加に繋がるよう、市に対する誇りや共感を育む本事業は、市が主体となって行う必要がある。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・市民クリエイター養成塾の参加者が継続して関わってもらえるようにするためにチームワークの醸成を意識して事業を実施したが、参画意欲の低い人もおり、講座の運営方法やコミュニケーション方法などに改善の余地がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・紀の川市のが気に入って住み続けってもらえる、移り住んでもらえるようにするために、共感や愛着を生むようなPRの手法を工夫しつつ、コストの削減に努めながら効果を向上させていく必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	移住・定住推進事業			担当課	地域創生課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	990	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興			
		目	11 地域創生費				基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実			
事業概要	移住・定住を促すための補助金の交付、相談や情報を提供するほか、空き家の利活用を促進し地域の活性化を図る事業											
事務事業を構成する細事業	①	移住・定住推進協議会運営			⑤	移住・定住推進補助金		⑨				
	②	移住・定住推進業務			⑥			⑩				
	③	空き家バンク登録・管理業務			⑦			⑪				
	④	空き家利活用促進業務			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	ワンストップ窓口を活用した移住者数	人	目標	5	10	25	30	30	子育て支援策等の充実や住居、仕事等、移住希望者のニーズに対応した情報発信を行ったが、ワンストップ窓口を活用した移住者数は減少した。		
			実績	19	37	16						
	<指標の計算方法>		ワンストップ窓口を活用した移住者数									
	活動指標	ワンストップ窓口を活用した移住相談件数	件	目標	130	150	300	300	300	わかやま移住定住支援センター等からの誘導、移住促進ポータルサイト等による情報発信を行ったが、令和4年度に比べて相談件数は減少した。		
			実績	173	291	269						
	<指標の計算方法>		ワンストップ窓口を活用した移住相談件数									
	活動指標	空き家バンクへの空き家登録件数	件	目標	10	15	20	20	20	「空き家の窓口」の開設により相談件数は飛躍的に増加したが、空き家バンク登録件数はやや減少した。		
			実績	22	19	18						
	<指標の計算方法>		空き家バンクへの空き家登録件数（単年）									
成果指標	売買・賃貸契約成立件数	件	目標	5	5	5	5	5	「空き家の窓口」の開設により、きめ細やかな内覧対応が可能となったことで、契約成立件数の減少幅を抑えることができた。			
		実績	6	14	11							
<指標の計算方法>		売買・賃貸契約成立件数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	65,189			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	60,464		
事業の実績	①移住・定住推進協議会運営 ・関係人口と移住による定住人口の拡大を図るために設置（平成28年2月） ・3/18開催			10/7オンライン対応 3件 ・地域創生課窓口 66件対応 ワンストップ窓口を活用した移住者数16名			(1名途中退職) 粉河エリア 1名（株式会社エンジョイワークス） ・地域おこし協力隊 打田エリア 3名（株式会社CASE紀の川支社） (1名途中退職) 粉河エリア 2名（株式会社エンジョイワークス紀の川支店）					
	②移住・定住推進業務 移住相談件数269件 メール、電話での相談158件 面談件数111件 ・お盆UIターン移住相談会 8/12フォルテワジマ 4件対応 ・市町村合同移住相談会（県主催） 4/22シティプラザ大阪 5件対応 8/26シティプラザ大阪 6件対応 10/28シティプラザ大阪 5件対応 12/23シティプラザ大阪 7件対応 ・マイナビ就農フェスト 9/23グランフロント大阪 8件対応 ・おいでや！いなか暮らしフェア 7/22大阪天満OMMビル 7件対応 ・移住相談会（東京）			③空き家バンク登録・管理業務 ・登録18件 打田5件、粉河2件、那賀6件、桃山2件 貴志川3件 ・空き家対策相談会開催 (所有者対象) 10/9 紀の川市役所本庁 相談件数4組 12/16 粉河ふるさとセンター 相談件数3組 1/13 貴志川生涯学習センター 相談件数2組			⑤移住・定住推進補助金 ・移住支援金3件 6,300,000円 ・移住促進支援事業補助金3件 23,320円 ・空き家流通促進奨励金7件 210,000円 ・空き家仲介手数料補助金0件 ・定住促進支援事業補助金 リフォーム補助4件 2,400,000円 引っ越し補助4件 384,150円 空き家片付け支援3件 217,600円					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		内容	・人口減少が進む中、関係人口の創出、定住人口の増加といった効果が見込める本事業の必要性は高く、市が取り組むことが妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
内容		・空き家バンク登録物件数と比べて利用希望件数が圧倒的に多く、需要に供給が追いついていないため、「空き家の窓口」のPR方法を工夫する等、空き家情報の掘り起こしを強化する必要がある。 ・関係各課との連携を強化し、移住希望者の求める一元的な情報発信について進める必要がある。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	内容	・空き家バンク運営などでは専門的なノウハウを持った民間事業者を活用できているため、より多くの分野・地域で団体等との連携を模索し、施策を推進していく必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	若者定住促進住宅取得奨励事業		担当課	地域創生課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R2～R6)	事業番号	1151			
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1 総務管理費			施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興				
		目	11 地域創生費			基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実				
事業概要	市内で住宅を取得する若年層を対象に奨励金を交付することで、若者の転入促進と転出抑制を図り、市内定住を促す事業											
事務事業を構成する細事業	①	若者定住促進住宅取得奨励事業			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の分析		
	活動指標	奨励金交付件数	件	目標	120	240	240	240		物価高騰など様々な要因から持家の住宅着工数が令和4年度と比較して減少しているためか、交付件数は目標値を下回り令和4年度と比較して微減した。		
				実績	199	187	183					
	<指標の計算方法>		交付件数									
	成果指標	本事業が住宅取得の誘因となったと回答した交付者数	人	目標	20	100	100	100		アンケートでは「本事業が住宅取得の誘因となった」との回答が目標値をわずかに下回り微減したが、依然として本事業が若年層の住宅取得気運の上昇に好影響を与えたと考えられる。		
				実績	85	101	93					
<指標の計算方法>		アンケートで「本事業が住宅取得の誘因となった」と回答した人数										
成果指標	交付対象年(暦年)における転入数-転出数	人	目標	10	10	10	10		本事業の効果以外にも様々な要因があると思われるが、令和4年度と比較し大幅に増加した。			
			実績	-56	8	62						
<指標の計算方法>		交付対象年における転入数-転出数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R5年度決算額 (単位:千円)			財源内訳								
	78,845			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	58,445		
事業の実績	①若者定住促進住宅取得奨励事業 ・交付件数 183件 交付金額78,800,000円 基本交付のみ: 300,000円×11件 = 3,300,000円 児童加算のみ: 400,000円×59件 = 23,600,000円 転入加算のみ: 400,000円×46件 = 18,400,000円 児童及び転入加算: 500,000円×67件 = 33,500,000円 ・交付対象世帯員数 564人 うち児童 203人 うち転入者 253人 ・住宅種別 新築167件 中古16件 (うち空き家バンク活用0件) ・住宅所在地 打田地区 80件 粉河地区 17件 那賀地区 16件 桃山地区 15件			貴志川地区 55件 ・住宅取得者の年齢層 24歳以下 9人 25歳～29歳 39人 30歳～34歳 60人 35歳～39歳 39人 40歳～44歳 36人 ・広報紀の川5月号、1月号で周知 ・アンケート結果(抜粋) Q:奨励金制度を知った時期 A:契約前 59% 契約～登記前 20% 登記後 14% 未回答 7% Q:奨励金制度の情報入手元(上位3位) A:ホームページ 28% 不動産業者 22% 親 10%			Q:直近の住所(上位3位) A:紀の川市 42% 和歌山市 13% 岩出市 9% Q:最終的に紀の川市に決めた理由(上位3位、複数回答可) A:実家がある 78% 施策が充実している 69% 親しい友人がいる 66% Q:本制度は紀の川市での住宅取得のきっかけとなったか A:きっかけとなった 51% きっかけとならなかった 42% 未回答 7%					
	・若者世代の転入促進と転出抑制を図る市の施策として、市内に住宅を購入しようとする若者層を対象に奨励金を交付することは妥当性がある。											
事業の事後評価	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・本奨励金が住宅取得のきっかけになったと答えた割合が半数以上であり、若者世代の住宅取得において一定の有効性が認められる。また空き家バンクに係る移住定住支援制度との併用もでき、相乗効果が期待できる。										
事業の事後評価	効率性	評価結果	改善の余地がない									
		・近隣自治体の類似事業と比較しても奨励金は妥当な金額といえる。また事務執行にかかるコストも最低限に抑えられている。										

事務事業の概要	事務事業名	奨学金返還支援事業		担当課	地域創生課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R2～R6)	事業番号	1150		
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費			施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興			
		目	11 地域創生費			基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実			
事業概要	奨学金返還者の就労初期における経済的負担を軽減することにより、市内定住を促す事業										
事務事業を構成する細事業	①	奨学金返還支援事業		⑤				⑨			
	②			⑥				⑩			
	③			⑦				⑪			
	④			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	奨学金返還助成金交付件数	目標	45	75	140	180		例年と同様に紀の川市内の高校から進学実績のある大学等にチラシを配布し、令和5年度からオンライン申請を導入したことにより、目標値には達しなかったが、令和4年度との比較で交付件数は増加した。		
			実績	46	96	118					
	<指標の計算方法>		交付件数								
	成果指標	事業の満足度	目標	100	100	100	100			アンケートのすべての回答で「役に立った」旨の回答を得ており、奨学金を返還する若年層の市民を効果的に支援できていると考えられる。	
			実績	100	100	100					
<指標の計算方法>		アンケートで本事業が「とても役に立った」「少し役に立った」と回答があった割合									
成果指標	居住、または居住し続ける要因となった割合	目標	85	85	85	85		アンケートの回答では「本事業が紀の川市居住の要因となった」との回答が86%を占め、若年層市民の市外転出抑制に一定の効果があったと考えられる。			
		実績	78	85	86						
<指標の計算方法>		アンケートで「本事業が紀の川市居住の要因となった」と回答があった割合									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)		財源内訳								
	9,668		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	9,668		
事業の実績	①奨学金返還支援事業 ・対象…大学などを卒業し、令和2年4月1日以降に奨学金の返還を開始し、市内在住で就業している等の要件を満たす者 ・交付者数…118人 (初回40人、2回目38人、3回目38人、4回目2人) ・交付決定額…9,599,000円 ・チラシ配布依頼先 大学等69校 (県内27校、県外42校) 独立行政法人日本学生支援機構 和歌山県教育委員会 ・広報紀の川5月号、12月号で周知 ・アンケート結果 (抜粋) Q:奨学金返還に対する負担意識 A:とても負担に感じる 65% 少し負担に感じる 27% 負担ではない 4%		未回答 4% Q:返還支援事業の情報入手元 (上位3位) A:友人・知人 29% ホームページ 23% 親 14% ・平均年間返還額 173,279円 ・平均借入額 3,319,341円 ・勤務先住所 市内29%、市外71%								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・奨学金返還者の就労初期における経済的負担を軽減し、若年層市民の市内定住を促すことを目的としており、妥当性は高い。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・本事業が紀の川市居住の要因になったとするアンケートの回答が非常に多いことから、若年層市民の市外転出抑制に効果があったと考えられ、有効性は高い。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
・同様の事業を展開する他自治体との比較、奨学金返還額に対する経済的支援割合を鑑みると現在の助成額は適正といえ、事務執行にかかるコストも最小限に抑えられている。											

事務事業の概要	事務事業名	ふるさとまちづくり寄附金事業			担当課	地域創生課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	971	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興			
		目	11 地域創生費				基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実			
事業概要	ふるさと納税の寄附の獲得を通じ、市民の稼ぐ力を高め、市の魅力を発信する事業											
事務事業を構成する細事業	①	寄附額増加対策業務			⑤				⑨			
	②	寄附者管理業務			⑥				⑩			
	③	企業版ふるさと納税業務			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	寄附申出件数	件	目標	54,000	80,000	120,000	140,000	140,000	ふるさと納税市場は依然として拡大の傾向にあり、申出件数は概ね順調に増加している。		
				実績	60,708	117,285	160,771					
	<指標の計算方法>		寄附申出件数の実績を計上									
	成果指標	ふるさと納税寄附金額	千円	目標	700,000	1,000,000	1,400,000	1,700,000	1,700,000	令和5年のリピート率が20.1%と上昇（前年19.6%）しており、寄附額増加対策が奏功している。		
				実績	770,744	1,387,750	1,906,609					
<指標の計算方法>		ふるさと納税の寄附金額										
活動指標	返礼品取扱事業者数（各年度末時点）	件	目標	65	120	150	220	230	令和4年度に続きロコモでの新規登録が増加。全国的に悪質事業者への対応が急務であり、適宜対策を講じ説明会等を開催している。			
			実績	103	165	213						
<指標の計算方法>		寄附者に対し返礼品を送付している事業者数										
活動指標	返礼品数	品	目標	500	700	800	1,100	1,200	登録事業者増加に比例した返礼品数増加に加え、寄附傾向分析による新規格（イチジク1箱2パック入）も増加している。			
			実績	543	711	1,096						
<指標の計算方法>		登録返礼品数（総務省への申請数）										
コストの実績	R 5年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
	992,959			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	992,959		
事業の実績	①寄附額増加対策業務			-9月1日～10月31日森トラスト (CoCo Lounge)				対応件数：53,974件（1～12月分）				
	<ul style="list-style-type: none"> ポータルサイト（15サイト） ふるさとチョイス 188,920千円 楽天 984,310千円 さとふる 494,294千円 ANA 18,322千円 ふるなび 91,695千円 ふるさとプレミアム 13,245千円 au PAY 22,140千円 三越伊勢丹 41,110千円 ふるさとパレット 475千円 JAL 13,009千円 JR東日本 5,857千円 ふるさと納税百選 20,176千円 ふるさと本舗 868千円 ポケットマルシェ 2,017千円 きののちよく等（直接寄附） 10,172千円 			<ul style="list-style-type: none"> -9月6～10日八芳園 (MuSuBu) ・手渡返礼品による1,000円寄附促進 -9月4～7日森トラスト(いちじく) -10月10～13日森トラスト(柿) -11月3～5日南紀白浜マリオットホテル(柿) ・サンクスレターの作成・発送 -寄附者約1万人に対し送付 対象者は以下の条件を満たす前年からのリピーター (1)令和5年に2回以上寄附をした方 (2)令和5年に12,000円以上寄附をした方 (3)直接寄附等での高額寄附者 				<ul style="list-style-type: none"> -うち、オンラインワンストップ 対応件数：35,179件 -うち、書面申請 対応件数：18,795件 				
<ul style="list-style-type: none"> ・事業者対象の説明会開催 -4月11日（2部制）44組参加 ・関東圏での返礼品プロモーション 			<ul style="list-style-type: none"> ②返礼品覆面調査（返礼品Gメン）の実施 ②寄附者管理業務 ・寄附金受領証明書の送付 ・ワンストップ特例制度の対応 				<ul style="list-style-type: none"> ・寄附金額 2,550,000円 ・寄附件数 5件 					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市民の稼ぐ力を高めるとともに市の歳入に関する重要な事業であり、市以外が主体となり得ない事業であることから妥当性には問題がない。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
<ul style="list-style-type: none"> ・長期総合計画の目標（令和8年度に17億円）を達成できた。 ・目標額を下回らないよう、返礼品取扱事業者や中間管理事業者といった専門性を持った主体との連携を継続する。 ・産地偽装等で全国的にネガティブな話題が多かったが、本市では返礼品覆面調査（返礼品Gメン）や返礼品マルシェ等のポジティブな話題で注目され、適正に事務を実施できた。 												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附管理システムの活用により、効率化が図られている。 ・寄附金額は好調に伸長しているが、効率化により業務量の増加は緩やかである。 											

事務事業の概要	事務事業名	大学連携事業			担当課	地域創生課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	8
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興		
		目	11 地域創生費				基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実		
取組方針	5	大学との連携と高等教育機関の誘致									
事業概要	地域・大学が共に活性化できるように、大学と各種取組で連携する事業										
事務事業を構成する細事業	①	連携推進業務			⑤				⑨		
	②				⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		

指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	大学と連携している事業数	目標	83	100	100	100	100	2大学（和歌山信愛女子短期大学（8/7）、和歌山大学（2/5））と新たに包括連携協定を締結した。これにより、連携による取組が増加した。			
			実績	21	24	30						
	<指標の計算方法>		市の事業のうち大学の教職員や学生が参画もしくは定例的に参加する事業数（インターン受入れは総じて1）									
	活動指標	大学との連携会議の開催回数	目標	10	10	10	10	10	会議の場だけでなく、適宜メールや電話等でも意思疎通が出来ており、新たに連携協定を締結した大学とは、連携初年度から実績を出すことができた。			
			実績	11	10	10						
<指標の計算方法>		連携強化のための大学・地域創生課間における会議開催回数										
活動指標	大学生が参画した地域活動の数	目標	5	5	5	5	5	学生による調査活動数がこれまで以上に多くなった。イベント等での協力だけでなく、研究機関としての大学との連携の成果が出ている。				
		実績	8	9	15							
<指標の計算方法>		大学生と市民等（市民、企業、市）の交流が生まれた取組の数										
成果指標	市の活動に参加した大学生の延べ人数	目標			260	260	260	前年度までは就職者数だったが令和5年度から変更。連携大学の学生が市内で活動する機会を十分に創出できた。				
		実績			300							
<指標の計算方法>		市と連携した事業や取組に携わった学生数（1人の学生でも活動日や活動内容が違えば延べで計算）										

コストの実績	R 5年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
	281		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源

事業の実績	①連携推進業務	・和歌山信愛女子短期大学	(9)市内活動 JA紀の里(1/25)
	<ul style="list-style-type: none"> ▼会議の内容と回数 ・近畿大学 <ul style="list-style-type: none"> (1)1年生を対象とした企業見学実施協議 -デュプロ精工(株)にて受入れ (2)3年生を対象とした企業による講義 -デュプロ精工(株)が講義を実施 (3)就職情報室との連携協議 -2月22日学内業界研究会に参加 (4)次年度の連携内容協議 -(1)と(2)に記載の取組が3年目を迎え取組を見直す方向で協議を実施 ・和歌山大学 <ul style="list-style-type: none"> (5)連携の模索・検討協議 -連携協定締結に向けた事前調整 (6)連携プロジェクトの実施協議 -連携協定締結を前提とした学生活動の支援協議 (7)次年度の連携内容協議 -地域課題解決に向けた事業委託予定 	<ul style="list-style-type: none"> (8)連携の模索・検討協議 -連携協定締結に向けた事前調整 (9)和歌山電鐵沿線での活動 -「貴志川線に日本一の〇〇」をつくるプロジェクトの実施支援協議 (10)次年度の連携内容協議 -今年度に続き講義を担当予定（講義名：プロジェクト実践演習） ▼学生が参画した地域活動 ・近畿大学 <ul style="list-style-type: none"> (1)市内企業見学 デュプロ精工(7/26, 8/7) ・和歌山大学 <ul style="list-style-type: none"> (2)市内調査 市内全域(9/28-29) (3)市内調査 JA紀の里他(10/3) (4)市内調査 JA紀の里他(11/4) (5)市内調査 市内施設(11/7) (6)市内調査 JA紀の里(11/29) (7)市内調査 市内飲食店(12/22) (8)市内調査 市内飲食店(12/27) 	<ul style="list-style-type: none"> (10)調査報告 市役所(2/5) ・和歌山信愛女子短期大学 <ul style="list-style-type: none"> (11)市内調査 貴志川線(9/16) (12)市内講義 西貴志コミセン(9/30) (13)市内講義 西貴志コミセン(10/7) (14)提案報告 市役所(11/1) ・共通 <ul style="list-style-type: none"> (15)ふるさと納税ワンストップ特例申請書 受付協力員 ▼市の活動に参加した大学生の延べ人数 ・交流できた学生の延べ数は300人 近畿大学：158人 和歌山大学：92人 和歌山信愛女子短大：50人 ・ふるさと納税との事業横断にも取り組んだ ・和歌山大・和歌山信愛女子短大はいずれもメディア露出し、市の認知拡大にも寄与

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	・コンサルタントのような企業に地域課題解決の調査を委託するわけではないため、学生の意識・能力はもちろん、市職員や大学教職員の関わり方によっても成果が左右される。 ・評価は難しいが、本市をフィールドに学生が活動することで市の取組・事業のメディア露出に繋がっており、社会貢献を主眼に置いた非営利的な学生活動の支援として市が関わる妥当性は充分にある。
	有効性	評価結果	改善の余地がややある	・学生の大半が他自治体出身者であるため、本市に関わる基本理解を醸成するまでに多少の時間を要する。 ・指導教員がいる大学との連携であるため、市職員だけでなく専門性を持つ様々な関係者の視点から本市の状況を学生に指導することができ、有効性は高い。 ・成果が出るまでにある程度の時間を要するものの、多様な分野での連携を効果的に進めることで有効性を更に向上させる余地はあると思われる。
	効率性	評価結果	改善の余地がない	・限られた講義（調査）回数、予算の中で成果が出ており、効率性は非常に高い。

事務事業の概要	事務事業名		市民活動支援事業			担当課	地域創生課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	12
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1 総務管理費			施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興				
		目	11 地域創生費			基本施策	1	地域コミュニティの充実と協働の推進				
事業概要		市民、市民団体が自主的な社会貢献活動を活発に実施してもらえるように、活動の支援や補助を行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	NPO団体活動支援		⑤						⑨	
		②	花いっぱい運動推進		⑥						⑩	
		③	花いっぱい運動補助金		⑦						⑪	
		④	市民協働提案事業		⑧						⑫	
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	認証NPO法人数	法人	目標	20	23	23	23	23	市内に主たる事務所を置く県認証NPO法人数は令和4年度から増減がなかった。		
			実績	15	16	16						
	<指標の計算方法>		市内に主たる事務所を置く県認証NPO法人数									
	成果指標	花いっぱい運動参加団体数	団体	目標	33	35	35	35	35	構成員の高齢化により、活動を維持できなくなった6団体が活動を休止、新規に活動を始めた4団体との差、2団体の減少となった。		
			実績	26	31	29						
	<指標の計算方法>		花いっぱい運動参加団体数									
	成果指標	花いっぱい運動参加人数	人	目標	640	630	630	630	630	花いっぱい運動参加人数は、参加団体数の変動に伴い、昨年度と比較して減少した。		
			実績	405	591	540						
	<指標の計算方法>		花いっぱい運動参加人数									
成果指標	市民活動団体登録数	団体	目標	20	20	20	20	20	令和5年度から市民活動団体登録要綱を施行し、既存の団体にも再登録の手続きを依頼したところ、7団体が再登録しない旨回答があったが、新規に3団体より登録手続きがなされ、結果4団体の減少となった。			
		実績	19	20	16							
<指標の計算方法>		市民活動団体登録数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			1,368							1,368		
事業の実績	①NPO団体活動支援		市ホームページ掲載16団体（県認証NPO8法人、その他8団体）が対象			・市民協働提案事業募集 提案件数1件 採択件数1件 採択事業：「多文化共生」まちづくり事業…多文化オアシス☆にほんごおしゃべり会						
	②花いっぱい運動推進		・花を愛する県民の集い (10/14、有田川町) 功労者感謝状 「すみれ会」受賞									
	③花いっぱい運動補助金		・補助金交付申請受付、交付決定など ・プリンター等の配布 ・現地確認									
	④市民協働提案事業		令和5年度に要綱制定。市民活動団体が提案し実施する事業を募集、公開プレゼンテーションにより採択した事業に補助金を交付する。									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・多様化する住民のニーズ全てに対応していくのは、今後ますます困難になると予想される。ゆえに、市が目指す協働の視点に立ち、主体的に活動する市民団体を支援することは必要であり妥当性がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・公共施設の花壇管理を行う団体が増加したが、構成員の高齢化により花いっぱい運動の参加団体数と参加人数について減少傾向が続くことが予想されるため、継続して新規団体の参入を促す必要がある。 ・花いっぱい運動は市の美化推進活動としてだけでなく、地域コミュニティの推進にもつながる取組として有効である。 ・市民団体やその活動内容の把握に努めるとともに、行政と市民の協働を積極的に進めていかなければならない。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・花いっぱい運動に対する補助では、花苗代や肥料等を補助対象としており、団体の活動はボランティアである。また、一部の団体は、市庁舎を含む公共施設において事業を行っており、施設管理上においても効率的に実施できている。 ・NPO団体の活動支援では、市公共施設の使用に伴う減免措置や輪転機の無料利用といった活動の支援を行っている。											

事務事業の概要	事務事業名	国際交流事業			担当課	地域創生課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	470	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 総務管理費				施策目標	3 観光・交流				
		目	11 地域創生費				基本施策	2 国際交流・多文化共生の推進				
事業概要	姉妹都市、友好都市等と良好な関係を築くとともに、外国人住民と市民が互いに地域の一員として尊重しあえるよう交流を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	姉妹都市・友好都市等との交流			⑤					⑨		
	②	国際交流員受入			⑥					⑩		
	③	多文化共生の推進			⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	姉妹都市・友好都市等との交流事業開催回数	回	目標	6	6	6	6	6	新型コロナウイルス感染症が沈静化し、交流の機運が高まったことにより、相互訪問等が再開し、それに伴い公式行事の回数も増加した。		
				実績	4	9	12					
	<指標の計算方法>		公式行事の回数									
	成果指標	姉妹都市・友好都市等への訪問団（職員等を除く）の人数	人	目標			20	20	20	新型コロナウイルス感染症が沈静化し、交流の機運が高まって、相互訪問等の機会が増加したことに伴い、訪問団の派遣者数が増加した。		
				実績			25					
<指標の計算方法>		公式行事による姉妹都市・友好都市等への訪問団（職員等を除く）の人数										
活動指標	日本語教室等開催支援補助金交付団体数	団体	目標			5	5	5	外国人住民に対し日本語教室を実施している団体の支援を目的として、令和5年度に要綱を制定し、初年度は2団体に対し補助金を交付した。			
			実績			2						
<指標の計算方法>		日本語教室等開催支援補助金を交付した団体の数										
成果指標	多文化共生事業への参加者数	人	目標			200	200	200	外国人住民が増えていることから、各教室やイベント等の参加者にも増加の傾向が見られる。			
			実績			204						
<指標の計算方法>		市が主催もしくは協力する日本語教室等のイベントへの延べ参加者数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	6,567			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①姉妹都市・友好都市等との交流 (西帰浦市) ・西帰浦市防災団(34名)視察受入 4/17 ・西帰浦市環境美化係員(16名)視察受入5/24 ・中学生交流事前オンライン交流会 7/28 ・紀の川市中学生訪問団派遣 8/19~22 16名(うち中学生12名) ・西帰浦市商工会(22名)商工会間交流 9/1 ・西帰浦市中学生訪問団(17名)受入 9/7~10 ・西帰浦市グローバルフェスタ派遣 10/26~28 8名(うち民間事業者2名) 10/26~29 13名(うち市民団体11名) ・中学生交流オンライン事業報告会 12/22 (濱州市) ・友好都市写真展開催にあたり祝賀ビデオメッセージの送付 9月 (クアンナム省) ・クアンナム省高校生等訪問団(25名)受入 7/26~30 ・クアンナム省訪問団派遣 1/25~28 7名			(その他) ・西帰浦女子高校(26名)と和歌山県立貴志川高等学校及び和歌山県立粉河高等学校の交流 1/10 ②国際交流員受入 ・姉妹都市韓国西帰浦市から国際交流員受入 帰国 令和5年3月~令和6年1月 オ・スンウン氏 受入 令和6年3月~令和6年12月予定 カン・ムンギョ氏 ③多文化共生の推進 ・日本語教室実施団体の運営を支援する目的で令和5年度に補助金要綱を整備、2団体に補助金交付を行った。 「多文化オアシス☆にほんごおしゃべり会」 「にほんで日本語~てにをは」 ・外国人住民を対象に相談や地域の方々との			交流を目的とした市民主体の「ZERO YEN MARKET」の実施に協力 5/14(第3回：粉河山崎邸・とんまかスクエア) 10/22(第4回：西貴志コミュニティセンター)					
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある								
・姉妹都市・友好都市等と築いてきた友好関係のもと、身近な国際交流の機会を市民に提供できるため、市が実施することに一定の妥当性がある。 ・事業について市民の認知度は低く、活動の更なる周知と市民ニーズの把握に努め、関係都市と協議しながら事業を実施する必要がある。 ・外国人住民が国籍に関係なく地域の一員として、安心して暮らせるよう多文化共生を推進することは、市の取組として妥当性がある。												
評価結果			改善の余地がややある									
有効性	効率性	・新型コロナウイルス感染症の影響下で抑制されていた訪問活動は、感染症の沈静化に伴い積極的に行われた。 ・市民が積極的に事業に参加し、国際感覚の醸成に繋がる事業内容を検討する必要がある。										
		評価結果	改善の余地がややある									
・効果を向上させる観点からは、市が主催となる事業に限らず、より多くの市民が参加できる交流事業が実施されることが望ましい。 ・地域のボランティア団体が外国人住民を対象に開催する日本語教室について、継続的に開催できる会場を市が確保するなどの支援を行うことで、外国人住民の日本語学習の機会を効率的に提供できている。												

事務事業の概要	事務事業名	細野簡易郵便局運営事業			担当課	地域創生課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	494	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興			
		目	11 地域創生費				基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実			
事業概要	市民（細野地区）が郵便局関連のサービスの提供が受けられるように、細野郵便局の運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	細野簡易郵便局運営			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	郵便取扱い件数	件	目標	50	50	50	50	50	細野簡易郵便局を利用する地域における人口減少や高齢化の影響を受けるが、一定数の取扱い件数がある。		
				実績	24	21	27					
	<指標の計算方法>		取扱い件数を計上									
	活動指標	貯金取扱い件数	件	目標	1,100	1,000	1,000	1,000	1,000	細野簡易郵便局を利用する地域における人口減少や高齢化の影響を受け、取扱い件数は減少の傾向にある。		
				実績	884	883	853					
	<指標の計算方法>		取扱い件数を計上									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,157			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,157		
事業の実績	①細野簡易郵便局運営 郵便取扱い件数 27件 貯金取扱い件数 853件 事務取扱者として臨時職員が交代で郵便局運営を行っており、令和5年度は当初の3名に1名を追加した。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地が大きい									
		・昭和24年に開局した細野簡易郵便局は、かねてより地域住民の生活インフラとして重要な役割を担ってきたが、自治体が運営する簡易郵便局は和歌山県内では当局のみ、近畿地方内でも7ヶ所のみである。 ・簡易郵便局のある細野生活改善センター施設の地元への移管協議や郵便及び貯金取扱い件数の減少から、市による簡易郵便局事業の運営を見直すこととし、地元での運営への転換を提案した。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・地域住民にとっての唯一の金融機関として利用されているが、郵便及び貯金の取扱い件数は減少傾向にある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・郵便業務の研修を受講した臨時職員が円滑に事務を行っており、日本郵便株式会社からの取扱い手数料で人件費や施設の維持管理費を賄えている。											

事務事業の概要	事務事業名	バス運行支援事業		担当課	交通政策課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	485		
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	1 総務管理費			施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	12 交通政策費			基本施策	3	公共交通ネットワークの充実				
事業概要	市民がバスや乗合タクシーでスムーズに移動できるように、バス会社やタクシー会社に対し運行支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	紀の川コミュニティバス運行補助金		⑤	モビリティマネジメント実施			⑨				
	②	地域巡回バス運行補助金(乗合タクシー路線含む)		⑥				⑩				
	③	粉河・熊取線バス運行補助金		⑦				⑪				
	④	バス利便性向上促進補助金		⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	年間利用者数(地域巡回バス)	人	目標	41,000	41,000	27,000	27,000	27,000	新型コロナウイルス感染症の5類移行や令和3年10月1日のダイヤ改正以後の利用方法の浸透等により利用者が増加したが、令和元年度実績35,434人と比較すると大幅減となっている。		
				実績	26,161	25,851	28,474					
	<指標の計算方法>		地域巡回バスの年間利用者数									
	成果指標	年間利用者数(紀の川コミュニティバス)	人	目標	24,000	24,000	20,600	20,600	20,600	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴って利用者が増加したが、令和元年度実績31,874人と比較すると大幅減となっている。		
				実績	20,120	19,873	20,635					
	<指標の計算方法>		紀の川コミュニティバスの年間利用者数									
	成果指標	年間利用者数(粉河熊取線)	人	目標	70,000	70,000	70,000	51,000	51,000	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴って利用者が増加したが、令和元年度実績54,217人と比較すると大幅減となっている。		
				実績	37,164	41,139	48,386					
	<指標の計算方法>		粉河熊取線の年間利用者数									
活動指標	モビリティマネジメント実施回数	回	目標		6	6	6	6	地域交通計画策定に関連した説明・意見交換の機会が増加した。			
			実績		3	9						
<指標の計算方法>		バス等に関する理解醸成及び利用促進に資する取組の実施回数										
コストの実績	R 5年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
	111,944			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	111,944		
事業の実績	①紀の川コミュニティバス運行補助金		・和歌山バス那賀株式会社 紀北巡回線:24,385,906円 ※共同運行している岩出市との協議により補助対象期間を見直し 令和4年10月~令和6年3月		<デマンド型乗合タクシー運行補助金>			・株式会社有交紀北:39,650円 赤沼田名手駅前路線 年間利用者数:16人			<ul style="list-style-type: none"> 意見交換会:1回 12月18日:紀の川市に乗り合いタクシーを走らせる会 シンポジウム:1回 2月18日:紀の川市の地域公共交通を考える会開催 市内高校の新生活へ時刻表配布:2回 粉河高校・貴志川高校 NP0法人フレイルサポート紀の川連携:2回 NP0法人フレイルサポート紀の川作成のフレイル予防バスマップの地域巡回バス車内への設置協力 バスマップを活用したイベント開催支援 	
	②地域巡回バス運行補助金(乗合タクシー路線含む)		<地域巡回バス運行補助金>		③粉河・熊取線バス運行補助金			・和歌山バス那賀株式会社:16,191,061円 ※JR粉河駅とJR熊取駅を結ぶ路線バス				
	・和歌山バス那賀株式会社:56,715,541円 全10コース (名手上那賀支所・川原西脇・赤尾藤井・長田竜門・北勢田・三谷・黒土高野・打田貴志川・東貴志丸瀬・西貴志)		※令和5年4月1日~和歌山バス那賀が東貴志丸瀬・西貴志コースを運行		④バス利便性向上促進補助金			・和歌山バス那賀株式会社:712,000円 ※一般路線バスの運行状況をWEB上で提供できるシステムの導入費用の一部補助				
	・株式会社有交紀北:13,900,040円 全2コース (桃山瀬瀬コース・細野貴志川コース)		⑤モビリティマネジメント実施			・区長説明会:3回 12月13日:那賀地区区長会 3月1日:那賀地区区長会 3月13日:粉河地区区長会						
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
		・地域巡回バス及び紀の川コミュニティバス等の路線は、地域住民や来訪者の移動手段確保のための路線であり収益性が低いため、市が支援を行い運行を維持することは妥当である。 ・地域公共交通の再編等は地域住民に与える影響が大きく、路線の調整や合意形成手続きなどに相当な時間を要することから、迅速な対応とまでは困難な状況である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・紀の川市地域公共交通計画に基づき、地域特性に応じた適材適所のサービスの導入を進めることが有効であり、少子高齢化や人口減少により利用者が減少傾向となることが予想される中、運行の見直しによる利便性の向上や、情報発信・利用促進等により利用者の増加を図る必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・本市における地域公共交通の担い手である交通事業者は限られており、事業者と良好な関係性を構築することは持続可能な公共交通網の形成には不可欠である中、限られた資源(運転士・車両など)を効率的に活用し、サービスを提供できるように費用対効果を検証しながら支援する必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名		鉄道運行支援事業			担当課	交通政策課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	488
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	1 総務管理費			施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	12 交通政策費			基本施策	3	公共交通ネットワークの充実				
事業概要		市民が鉄道でスムーズに移動できるように、鉄道事業者、関係機関と協力、連携して運行に対する支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業		① 貴志川線運営協議会	⑤ 貴志川線安全輸送に係る設備整備支援事業補助金	⑨								
		② 和歌山線活性化検討委員会	⑥	⑩								
		③ 貴志川線存続支援事業補助金	⑦	⑪								
		④ 貴志川線運営委員会	⑧	⑫								
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	1日当たりの乗降客数(和歌山線)	人/日	目標	5,400	5,400	5,400	4,800	4,800	令和3年度と比較すると令和4・5年度は微増となったが、令和元年度実績5,066人と比較すると大幅減となっている。		
			実績	4,506	4,716	4,670						
	<指標の計算方法>		事業者から提供された資料を基に市内5駅の合計値を算出									
	成果指標	1日当たりの乗降客数(貴志川線)	人/日	目標	2,600	2,600	2,600	1,800	1,800	令和3年度と比較すると令和4・5年度は微増となったが、令和元年度実績2,301人と比較すると大幅減となっている。		
			実績	1,428	1,460	1,516						
	<指標の計算方法>		事業者から提供された資料を基に市内4駅の合計値を算出									
	活動指標	貴志川線運営委員会出席回数	回	目標	12	12	12	12	12	貴志川線の運営状況など、和歌山電鉄・県・和歌山市・関係委員と協議した。		
			実績	10	11	12						
	<指標の計算方法>		毎月1回開催される運営委員会の出席回数									
活動指標	和歌山線活性化検討委員会担当者会議開催回数	回	目標	1	1	1	6	6	和歌山線活性化に向けJR・沿線自治体担当者と協議した。令和6年度以降の目標数値を6回に変更した。			
		実績	4	1	6							
<指標の計算方法>		和歌山線活性化検討委員会の担当者会議開催回数										
コストの実績	R 5年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
	56,133			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	10,000	その他	一般財源	46,133	
事業の実績	① 貴志川線運営協議会 ・負担金:100,000円 ・事業内容 会計監査 幹事会:1回(書面) 総会:1回(書面) 利用促進事業の実施 ・構成団体 和歌山市(会長) 紀の川市(副会長) 和歌山県(参事)			利用促進事業の実施 ・構成団体 紀の川市(会長) 和歌山市(副会長) 橋本市(副会長) 和歌山県(理事) JR西日本和歌山支社(理事) 岩出市(監事) かつらぎ町(監事)				和歌山商工会議所 紀の川市商工会 和歌山県立和歌山東高等学校 和歌山県立貴志川高等学校 貴志川線の未来をつくる会 和歌山の交通まちづくりを進める会 和歌山電鉄株式会社 (オブザーバー) 山東まちづくり会				
	② 和歌山線活性化検討委員会 ・負担金:200,000円 令和5年度への繰越額が例年より多額であったため、負担金を1団体あたり250,000円から減額 ・事業内容 幹事会:随時開催 総会:1回			③ 貴志川線存続支援事業補助金 ・県及び和歌山市と共同で補助金を交付 交付実績金額:10,920,000円 ④ 貴志川線運営委員会 ・毎月1回開催される運営委員会に出席 ・委員 和歌山県総合交通政策課 和歌山市都市計画部交通政策課 紀の川市企画部交通政策課				⑤ 貴志川線安全輸送に係る設備整備支援事業補助金 ・貴志川線の安全な運行継続を図るための設備修繕に係る費用に対して、県及び和歌山市と共同で補助金を交付 交付実績金額:44,912,745円				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・和歌山電鉄貴志駅は多くのインバウンドが来訪する重要な観光拠点であり、地域公共交通において鉄道は広域軸として必要不可欠な移動手段であることから、市が存続支援することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・沿線人口の減少や道路網の整備等により、鉄道を取り巻く状況は依然として厳しい状態が続くことが予想される。 ・鉄道事業者と定期的に会議を開いており、利用者数などその運営状況は適切に把握している中、今後の鉄道維持のためには、鉄道事業者や沿線自治体、沿線住民が一体となった利用促進に向けた更なる取り組みが必要である。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・貴志川線は新型コロナウイルス感染症の5類移行によりインバウンドは回復しつつあるものの、通勤通学の利用者の減少が著しく、運営状況は厳しさを増している。県・和歌山市とともに支援している中、貴志川線存続のためには、今後も運営状況の把握や支援内容の研究・検討を行っていく必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	パークアンドライド推進事業			担当課	交通政策課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	490
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境				
		項	1 総務管理費				施策目標	1 都市基盤整備・公共交通				
		目	12 交通政策費				基本施策	3 公共交通ネットワークの充実				
取組方針	3 利用環境の充実											
事業概要	市民が電車、バスを利用しやすくするために、駐輪場、駐車場の整備、管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	粉河駅前市営駐車場管理運営			⑤				⑨			
	②	駅前駐輪場管理運営			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	市営駐車場使用料	円	目標	2,059,200	2,059,200	2,107,200	2,683,200	2,683,200	令和3年度から増加傾向であり、令和3年度に白線や照明の修繕を行ったことにより、利便性が向上したと考えられる。		
				実績	1,845,100	2,368,800	2,406,200					
	<指標の計算方法>		市営駐車場使用料の年間合計									
	成果指標	月極駐車場使用率	%	目標	50	50	50	45	45	令和3年度から上昇傾向であり、令和3年度に白線や照明の修繕を行ったことにより、利便性が向上したと考えられる。		
				実績	30.2	38.5	38.7					
	<指標の計算方法>		1ヶ月あたりの駐車台数の平均値/収容台数×100(少数第二位を四捨五入)									
	活動指標	利用促進年間啓発回数	回	目標	1	1	1	1	1	市営駐車場の利用及びパークアンドライドの利用促進のため、広報紙により市民に向けた周知・啓発を行った。		
				実績	1	1	2					
	<指標の計算方法>		パークアンドライドの推進に関する啓発活動の実施回数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,291			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,291		
事業の実績	①粉河駅前市営駐車場管理運営			30代：16%、40代：12%、50代：24%、60代：12%、70歳以上：8%、不明：4%			甘露寺前駅自転車駐車場：50台 西山口駅第1自転車駐車場：6台 第2自転車駐車場：20台 大池遊園駅自転車駐車場：25台					
	<ul style="list-style-type: none"> 管理委託 委託先：紀の川市商工会 委託内容：使用料の収納、施設管理等 駐車台数(1ヶ月あたりの平均値) 市営第1駐車場(月極)：26.9台(収容台数：64台) 市営第2駐車場(月極)：10.3台(収容台数：32台) 市営第2駐車場(日極)：14.5台(収容台数：3台) 月極契約者にアンケート調査実施(有効回答数：25件) 利用目的 通勤(鉄道)：52%、(バス)：4% (近隣)：8% 通学(鉄道)：4%、(バス)：0% 自宅等駐車場：20%、その他：12% 利用者年代 20歳未満：4%、20代：20%、 			<ul style="list-style-type: none"> 駐輪場維持修繕 駐輪場除草：2回 駐輪場樹木伐採：1回 利用促進の年間啓発回数：2回(広報10月号、3月号に掲載) 			<ul style="list-style-type: none"> ②駅前駐輪場管理運営 駐輪場収容台数 打田駅第1自転車駐車場：100台 第2自転車駐車場：70台 下井阪駅自転車駐車場：150台 粉河駅第1自転車駐車場：70台 第2自転車駐車場：10台 紀伊長田駅自転車駐車場：20台 名手駅第1自転車駐車場：100台 第2自転車駐車場：150台 貴志駅自転車駐車場：130台 					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・地域住民の長距離移動手段である鉄道や路線バスを利用しやすくするため、市が駅前の駐車場及び駐輪場を確保して運営管理することは妥当である。										
		評価結果	改善の余地がややある									
有効性	有効性	・市営駐車場の利用者数が令和3年度から増加傾向にある中、更なる利用に向け日極駐車場の利用についても有効に活用してもらえるように、周知・啓発による利用促進を図る必要がある。										
		評価結果	改善の余地がややある									
効率性	効率性	・粉河駅前市営駐車場について、場所が近く管理の目が届きやすい紀の川市商工会に委託することは効率的である中、利用者の増加による利用料の増収を図る必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	地域公共交通活性化再生事業			担当課	交通政策課			事業区分	ソフト事業	
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	1125	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境			
		項	1 総務管理費				施策目標	1 都市基盤整備・公共交通			
		目	12 交通政策費				基本施策	3 公共交通ネットワークの充実			
目				取組方針	1 公共交通の維持・確保・充実						
事業概要	地域公共交通の活性化及び再生に関する利用促進等を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	紀の川市地域公共交通活性化再生協議会（法定協議会）			⑤				⑨		
	②	紀の川市地域公共交通計画			⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	紀の川市地域公共交通活性化再生協議会（法定協議会）開催回数	回	目標	2	3	3	3	3	書面開催2回、対面開催3回実施（うち部会1回）。地域公共交通計画の策定や地域巡回バスの見直しの方向性等について協議した。	
			実績	3	3	5					
	<指標の計算方法>		法定協議会の開催回数								
	成果指標	日常生活において交通手段に不便と感じている市民の割合	%	目標		54	53	52	51	令和4年度と比較して向上したが、年代や居住地を問わず不便と感じている割合が比較的高い状況にある。	
			実績		54.1	51.8					
	<指標の計算方法>		市民意識調査で「感じる」「どちらかといえば、感じる」と回答した市民の割合								
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額（単位：千円）			財源内訳							
	10,068			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			10,068								
事業の実績	①紀の川市地域公共交通活性化再生協議会（法定協議会） ・協議会：4回開催 6月26日（書面） 「国庫補助申請に係る承認事項について」等 9月1日（対面） 「外国人観光客を対象とした事業者協力型自家用有償旅客運送事業について」等 1月22日（対面） 「紀の川市地域公共交通計画(素案)について」等 3月21日（書面） 「紀の川市地域公共交通計画の策定について」等 ・協議会部会：1回開催 11月6日（対面） 「地域巡回バスの見直しの方向性について」等					②紀の川市地域公共交通計画 ・協議会において協議を重ねながらパブリックコメントを経て計画策定 ・2月18日開催の「紀の川市の地域公共交通を考える会」の中で、計画案の概要を説明し、併せて先進地事例紹介やパネルディスカッションを実施して理解醸成・利用促進（来場者：約100名）					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・人口減少や高齢化社会が進行する中、市民が利用しやすく、かつ持続可能な公共交通ネットワークの実現に向けて、市が地域情勢の変化に伴う市民ニーズの変化に対応した地域公共交通のあり方について、関係自治体と関係機関が連携して検討・見直していくことは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・市民意識調査で「公共交通ネットワークの充実」に対し、「不満」「やや不満」と回答した市民の割合が高い状態が続いている。 ・地域公共交通の関係者間で、現在の利用状況や地域ニーズを踏まえて協議を重ね、利用しやすい公共交通ネットワークとなるよう見直しを行い、満足度の向上に取り組む必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・より多くの方に地域公共交通を利用してもらえるように利便性の向上や利用促進を図りながら、費用対効果について検討し続ける必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	電算システム管理運営事業			担当課	デジタル推進室			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	11		
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	13 情報システム管理費				基本施策	1	デジタル化の推進				
事業概要	電算システムを安全かつ安定的に稼働させることで、職員が効率的に業務を行い、市民に安定した行政サービスを提供する事業												
事務事業を構成する細事業	①	情報系システム管理			⑤				⑨				
	②	基幹系システム管理			⑥				⑩				
	③	セキュリティ対策			⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	情報系システム停止件数	件	目標	0	0	0	0	0	指標の実績から安定稼働していると判断できる。			
				実績	0	0	0	0					
	<指標の計算方法>		実数による件数										
	成果指標	基幹系システム停止件数	件	目標	0	0	0	0	0	指標の実績から安定稼働していると判断できる。			
実績				0	0	0	0						
<指標の計算方法>		実数による件数											
成果指標	情報漏えい事故発生件数	件	目標	0	0	0	0	0	指標の実績から職員が情報セキュリティポリシーを意識して安全にシステムを利用できており、情報セキュリティマネジメントシステムも機能していると判断できる。				
			実績	0	0	0	0						
<指標の計算方法>		実数による件数											
活動指標	サービスデスク受付件数	件	目標	3,450	3,400	3,350	3,300	3,250	受付件数が目標値より少なかったことから安定したシステム運用ができてしていると判断できる。				
			実績	3,419	3,379	3,346							
<指標の計算方法>		実数による件数											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	103,170			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	103,170			
事業の実績	①情報系システム管理 ・京セラ製プリンタ修繕 18台 ・mouseパソコン修繕 27台 ・ハードウェア保守の実施 ・ソフトウェア保守の実施 ・ネットワーク保守の実施 ・システム運用支援の実施 ・サービスデスク業務の外部委託実施 ②基幹系システム管理 ・ハードウェア保守の実施 ・ソフトウェア保守の実施 ・帳票印刷の外部委託実施 ・自治体共同クラウドの利用 ・サービスデスク業務の外部委託実施 ③セキュリティ対策 ・ISMS認証の維持(更新含む) ・自治体情報セキュリティクラウドの利用												
	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・基幹系及び情報系システムの安定稼働は、本市の業務の根幹を成すものであり、効率的な行政運営や質の高い行政サービスを提供するためには必要不可欠であるため事業実施の妥当性がある。											
有効性	評価結果	改善の余地がない											
	・セキュリティ事故も発生しておらず、システムも安定稼働しているため有効性がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある											
	・サービスデスク業務(市職員からの問合せや要望対応の業務)を外部委託に出していること、SLA(サービスレベルアグリーメント)により基本システムについては安定した稼働が保証されているため効率性がある。一方で、サービスデスク業務を行う委託業者の要員は1名しかいないため、職員もサービスデスク業務を行うことがあり、更なる効率化などを考える必要がある。												

事務事業の概要	事務事業名	電算システム更新事業			担当課	デジタル推進室			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	497	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	13 情報システム管理費				基本施策	1	デジタル化の推進			
事業概要	電算システムを安全に、安定的に稼働させ、市民に安定した行政サービスを提供できるように電算システムを更新する事業											
事務事業を構成する細事業	①	情報系システム更新			⑤				⑨			
	②	基幹系システム更新			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	情報系システム停止件数	件	目標	0	0	0	0	0	指標の実績から安定稼働していると判断できる。		
				実績	0	0	0	0				
	<指標の計算方法>		実数による件数									
	成果指標	基幹系システム停止件数	件	目標	0	0	0	0	0	指標の実績から安定稼働していると判断できる。		
				実績	0	0	0	0				
	<指標の計算方法>		実数による件数									
	成果指標	情報漏えい事故発生件数	件	目標	0	0	0	0	0	指標の実績から職員が情報セキュリティポリシーを意識して安全にシステムを利用できており、情報セキュリティマネジメントシステムも機能していると判断できる。		
				実績	0	0	0	0				
	<指標の計算方法>		実数による件数									
活動指標	基幹システム稼働業務数	業務	目標	53	53	53	57	57	指標の実績から安定稼働していると判断できる。			
			実績	53	53	57	57					
<指標の計算方法>		稼働業務数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
7,643			891						6,752			
事業の実績	①情報系システム更新 ・収集事務所の移転 ・庁内WEB会議システム構築 ・庁外WEB会議環境整備											
	②基幹系システム更新 ・標準準拠システム移行準備（文字同定） ・基幹系システムに、浄化槽台帳管理、生活保護返還金管理、就学援助、マイナンバーカード管理を追加											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・市の業務継続に直結する事業であるため、市が実施することは妥当である。									
		有効性	評価結果	改善の余地がない ・指標が示すように、安定したシステムを導入したという成果が出ており有効である。								
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・電算システムに係る機器については、機器の消耗具合等の状況を見ながら法定耐用年数よりも2年長く使用する場合が多いため、コスト削減ができており効率性がある。									

事務事業の概要	事務事業名	行政情報化推進事業		担当課	デジタル推進室		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号		
	予算科目	款	2 総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1 総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	14 デジタル推進費		基本施策	1	デジタル化の推進				
事業概要	行政分野への情報通信技術の活用により、市民の利便性の向上と行政運営の効率化を図り、また関係団体、関係機関に負担金の支出や運営へ参加する事業										
事務事業を構成する細事業	①	県情報化推進協議会負担金		⑤	統合型G I S管理		⑨	デジタル化推進			
	②	地方公共団体情報システム機構負担金		⑥	テレワーク促進		⑩				
	③	県電子自治体推進協議会参画		⑦	電子申請推進		⑪				
	④	業務自動化促進		⑧	デジタルデバйд対策		⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	業務自動化による削減業務時間数	目標	750	800	850	900	950	書かない窓口において業務自動化ソフトウェアの運用を令和6年1月から開始したことで、173時間の削減効果が追加できた。一方で、令和4年度に実施していた一部の業務自動化ソフトウェアの運用を取りやめたため、令和4年度の実績値と比較すると減少しているが、目標値は上回っている。		
			実績	759	3,124	960					
	<指標の計算方法>		削減された業務時間数の合計								
	活動指標	継続実施している情報化推進施策数	目標	3	4	5	6	7		統合型地図情報システム、業務自動化ソフトウェア(RPA)の研修・運用、オープンデータ用カタログサイト運営、テレワークシステム運用、電子申請、スマートフォン教室・相談窓口、書かない窓口を継続実施。	
			実績	6	6	7					
	<指標の計算方法>		実施中の情報化施策数(前年度以前からの継続実施を含む)								
	成果指標	電子申請件数	目標	15	150	180	180	180			目標値を上回っており、電子申請が浸透してきていると言える。
			実績	12	158	220					
	<指標の計算方法>		住民票の写しや戸籍謄本等の証明書交付を電子申請で受けた件数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
	115,285			27,712					87,573		
事業の実績	①県情報化推進協議会負担金			身分証明書 30件							
	②地方公共団体情報システム機構負担金			課税証明書 32件							
事業の実績	③県電子自治体推進協議会参画			納税証明書 7件							
	④業務自動化促進			⑧デジタルデバйд対策							
	・障害福祉課 420時間削減			スマートフォン教室							
	・教育総務課 210時間削減			・アプリ操作編 40回開催 150人参加							
	・高齢介護課 85時間削減			・スマホ操作編 4回開催 44人参加							
	・公共施設マネジメント課 44時間削減			・キャッシュレス決済編 3回開催 10人参加							
	・国保年金課 28時間削減			・ケータリザイタル教室 1回開催 12人参加							
	・企画経営課 173時間削減			スマートフォン相談窓口							
	⑤統合型G I S管理			22回開催 111人参加							
	⑥テレワーク促進			⑨デジタル化推進							
・年間2,928日分の貸出実績 (内訳) モバイル 601日分 在宅 2,327日分			・庁内各課に設置したDX推進員を対象に計6回の研修会を開催。様々なデジタルツールの活用方法を学んでもらい、デジタル人材の育成に取り組んだ。								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・DX等の情報化施策は、職員の生産性向上や業務効率化、住民サービスの向上に寄与し、庁内外への影響も大きいため、本事業を実施する妥当性がある。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・デジタル推進監(民間のデジタル人材)からの助言に基づき情報化推進施策を実施している。また、指標の通り、継続実施している情報化推進施策が計画値を上回っているため有効性がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・DXを進める上では複数のサービス等を比較検討し、コストとパフォーマンスのバランスのとれたサービスを選定しているため効率性がある。ただし、本分野は変化が著しいため、選定後のサービスについても定期的な見直しや再評価が求められている。										

事務事業の概要	事務事業名	地域情報通信基盤管理運営事業			担当課	デジタル推進室		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	402	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	14 デジタル推進費				基本施策	1	デジタル化の推進			
事業概要	市民（難視聴エリア）の市内における情報格差の是正を図るために、施設整備や情報・通信サービスの提供、対策を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	設備管理	⑤		⑨							
	②	設備更新	⑥		⑩							
	③	難視聴・不感対策	⑦		⑪							
	④		⑧		⑫							
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	設備適正管理施設数	箇所	目標	5	5	5	5	5	難視聴地域にテレビ放送を提供するため、5箇所には放送用機材を設置している。故障や老朽化を未然に防ぐため、定期保守や機器更新を行う必要がある。		
			実績	5	5	5						
	<指標の計算方法>		管理施設の内、耐用年数超えの機器が存在しない施設数									
	成果指標	ケーブルテレビ放送送信停止	回	目標	0	0	0	0	0	轄内地区において、光ケーブルの幹線が断線したことによる放送停止が発生した。		
			実績	0	1	1						
<指標の計算方法>		ケーブルテレビ放送機器故障等による放送停止回数										
成果指標	1人あたりコスト	円	目標	28,380	28,380	28,380	28,380	28,380	目標値はフレッツテレビとケーブルテレビの年間視聴料の差額で、実績値が上回れば代替手段の検討が必要となる。令和3年度から地方債の充当がなく、世帯数も減少傾向にもあるため実績値が増加している。			
		実績	17,681	19,463	24,839							
<指標の計算方法>		一般財源支出額/ケーブルテレビ加入者数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	28,575			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績		<p>①設備管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ケーブルテレビ加入世帯数 (加入率：加入世帯数/地域世帯数) 609世帯 (78.9%) インターネット加入世帯数 (加入率：加入世帯数/地域世帯数) 258世帯 (33.4%) ※地域世帯数772世帯 設備保守 スポット保守 9件 支障移転 13件 材料購入 1件 芯線貸出 NTTドコモ 5芯 ソフトバンク 8芯 吊線貸出 ZTV 329箇所 オペテージ 44箇所 KDDI 86箇所 <p>②設備更新</p> <ul style="list-style-type: none"> 光ファイバー回線監視装置、無停電電源装置 <p>③難視聴・不感対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 携帯電話鉄塔管理 不感エリア3箇所 (中畑・鳥淵・久保地区) 										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・未だに民間事業者が採算性の点から事業展開しておらず、地域情報通信基盤施設がないとテレビ、インターネットが利用できないなど大きな情報格差が発生するため、設備を管理運営しサービスを安定的に提供する必要がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・インターネット接続事業者及びケーブルテレビ会社に地域情報通信基盤施設を貸し出し、市民に必要な通信・情報サービスを実施している。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・現時点では、提供地域に住む住民にとっては代替手段がない。											

事務事業の概要	事務事業名	地域防犯推進事業		担当課	危機管理消防課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	500	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1 総務管理費			施策目標	1	防災・防犯			
		目	15 地域安全対策費			基本施策	4	防犯・交通安全対策の推進			
目	15 地域安全対策費		取組方針	3		地域防犯対策の推進					
事業概要	市民、自治区の防犯力の向上を図るために、防犯啓発、防犯教室の実施や防犯設備の設置に対する補助を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	防犯灯設置費補助金			⑤	県水上安全協会負担金			⑨		
	②	防犯カメラ設置費補助金			⑥	那賀地区防犯協議会負担金			⑩		
	③	防犯カメラ管理			⑦	生活安全・暴力追放推進協議会補助金			⑪		
	④	行方不明者対応			⑧	電気用品安全法			⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	防犯啓発実施回数	目標	3	3	3	3	3	地域安全運動に伴う啓発活動実施		
			実績	1	1	1					
	<指標の計算方法>		実施回数								
	活動指標	防犯教室実施回数	目標	5	5	5	5	5		防犯に関する窓口等での相談対応は実施したが、団体等からの開催要望は無かった。	
			実績	0	0	0					
	<指標の計算方法>		実施回数								
	活動指標	補助事業の啓発回数	目標	6	6	6	6	6	補助事業の啓発を各地区区長会（6回）で実施		
			実績	6	5	6					
	<指標の計算方法>		啓発活動の延べ回数								
成果指標	LED防犯灯設置基数	目標	622	622	622	622	622	蛍光灯からLED灯への器具取替えが主な補助対象となる。令和4年度に比べて164基減少した。			
		実績	500	562	398						
<指標の計算方法>		防犯灯新規(LED化)の設置延べ基数									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	8,720			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	8,720	
事業の実績	①防犯灯設置費補助金 ・新設 既設電柱等に設置 40基 支柱も同時に設置 5基 ・取替え 既設蛍光灯から取替え 346基 支柱も同時に取替え 5基 既設LED灯の支柱取替え 2基			⑤県水上安全協会負担金 295,000円 水の事故防止を呼び掛けるための横断幕を作成。竹房橋、諸井橋に横断幕の設置を行った							
	②防犯カメラ設置費補助金 設置区 6区、設置台数 8台			⑥那賀地区防犯協議会負担金 414,000円 通学路パトロールや特殊詐欺被害防止、犯罪被害防止、薬物乱用防止、万引き防止のための街頭啓発活動や、小学校における防犯訓練などを実施							
	③防犯カメラ管理 設置台数 7台 設置場所 打田駅、粉河駅、名手駅、下井阪駅(2台)、貴志駅、甘露寺前駅			⑦生活安全・暴力追放推進協議会補助金 214,000円 啓発 1回、教室 0回							
	④行方不明者対応 10件			⑧電気用品安全法 立ち入り店舗 1店舗 該当品目取扱なし							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・公共性が有り、市が率先する事業として妥当である									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・市民の防犯意識の更なる向上を図る方法を検討する必要がある											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・関係機関と連携を図り継続的に実施する必要がある										

事務事業の概要	事務事業名	交通安全推進事業		担当課	交通政策課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	496	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 総務管理費			施策目標	1 防災・防犯				
		目	15 地域安全対策費			基本施策	4 防犯・交通安全対策の推進				
取組方針	1 交通安全対策の推進										
事業概要	市民が交通安全意識を高め、円滑な道路交通で生活できるように、市民(特に児童・高齢者)に街頭啓発や交通安全教室等の開催を行う事業										
事務事業を構成する細事業	① 交通指導員設置		⑤ 那賀地方交通指導員会連絡会負担金			⑨ 紀の川市交通大学					
	② 交通安全啓発		⑥ 交通安全母の会補助金			⑩					
	③ 交通安全施設整備申請		⑦ 交通安全推進連絡協議会補助金			⑪					
	④ 地域交通安全活動推進委員協議会負担金		⑧ 交通安全教室			⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	交通安全教室実施回数	目標	10	10	10	10	10	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、市内保育所での交通安全教室を再開した。		
			実績	3	0	9					
	<指標の計算方法>		交通安全教室実施回数								
	活動指標	交通安全啓発実施回数	目標	12	12	12	12	12	四季の交通安全運動に伴う啓発活動などを実施した。		
			実績	1	5	7					
	<指標の計算方法>		交通安全啓発実施回数								
	成果指標	交通事故発生件数	目標	190	180	90	90	90	近年では減少傾向にある中、100件程度で推移している。		
			実績	98	90	100					
	<指標の計算方法>		紀の川市管内の人身交通事故件数								
成果指標	交通事故発生件数(うち高齢者)	目標			40	40	40	高齢者及び高齢ドライバーの割合は、増加が予想される。			
		実績	44	26	40						
<指標の計算方法>		紀の川市管内の人身交通事故件数(うち高齢者)									
コストの実績	R 5年度決算額(単位:千円)			財源内訳							
	3,707			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,707	
事業の実績	①交通指導員設置 指導員数:51名 (地区別内訳) 打田地区:14名、粉河地区:15名、 那賀地区:10名、桃山地区:6名、 貴志川地区:6名		<ul style="list-style-type: none"> 交通安全運動への参加 幼児・児童に対する安全教育 				⑨紀の川市交通大学 7回開催:学生18名 ・開校式 ・交通安全講話(岩出警察署) ・認知機能体験等(岩出自動車学院) ・救急救命講習(那賀防災センター) ・夜間視認性実験 ・反射神経体験(和歌山県交通センター) ・修了式実施				
	②交通安全啓発 啓発実施:7回 (啓発内訳) 四季の交通安全運動啓発:6回 (岩出警察署管内商業施設等) ヘルメット着用啓発:1回 (打田中学校)		⑥交通安全母の会補助金 ・交通安全運動への参加 ・各支部での啓発活動								
	③交通安全施設整備申請 飛び出し注意看板要望:30件 (看板54枚、土台43個配付)		⑦交通安全推進連絡協議会補助金 ・交通安全運動への参加 ・交通大学の実施 ・啓発物資の作製								
	④地域交通安全活動推進委員協議会負担金		⑧交通安全教室 市内保育所:9回 ・横断歩道や踏切の渡り方等の指導								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市が主体となって交通安全の関係機関・各種団体との連携を維持・向上させ、交通安全活動を共助・活性化させていくことは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・交通情勢の変化に合わせて事業内容を調整しつつ、関係機関・各種団体と連携を図りながら交通ルールや交通マナーを守ってもらう啓発を継続的に実施する必要がある。 ・市職員での対応だけでは専門的な知識・能力が不十分な場合もあることから、警察などとの強い連携が必要である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・関係各課や警察などの関係機関との連携を図りながら交通安全対策の取り組みを継続的に実施していく必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	放棄車両対策事業			担当課	交通政策課			事業区分	ソフト事業	
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	15
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 総務管理費				施策目標	1 防災・防犯			
		目	15 地域安全対策費				基本施策	4 防犯・交通安全対策の推進			
事業概要	市民が放棄車両の無い円滑な道路交通で生活できるように、放置車両の所有者に啓発、警告を行い、放置車両の撤去、保管、廃棄を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	放棄自動車等対策			⑤				⑨		
	②				⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	車両調査台数	台	目標	3	3	3	3	3	令和4年度と比較し増加したが、比較的少ない台数で推移している。	
				実績	5	1	5				
	<指標の計算方法>		通報があり調査対応した自動車と原動機付自転車の台数								
	活動指標	放置自転車警告台数	台	目標	180	180	160	100	100	令和3・4年度は減少していたが、令和5年度は増加した。	
				実績	76	65	94				
	<指標の計算方法>		警告札を取り付けた放置自転車の台数								
	成果指標	放棄自動車台数	台	目標	1	1	1	1	1	放棄自動車2台のうち1台の所有者が判明しなかったため撤去保管を行った。	
				実績	0	0	1				
	<指標の計算方法>		放棄自動車の撤去保管台数								
成果指標	放置自転車台数	台	目標	90	90	80	80	80	令和3・4年度は減少していたが、令和5年度は増加した。		
			実績	52	30	78					
<指標の計算方法>		放置自転車の移動保管台数									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	3			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3	
事業の実績	①放棄自動車等対策 ・処分した放棄自動車等 自転車：67台、処分費：0円 (場所の内訳) 打田駅：9台、下井阪駅：9台、 粉河駅：12台、紀伊長田駅：2台、 名手駅：22台、貴志駅：2台、 甘露寺前駅：9台、その他：2台 原動機付自転車：3台、処分費：3,300円 (場所の内訳) 打田駅：2台、その他：1台										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市が主体となって地域の美観を保持するとともに、市民の快適な生活環境の維持を図ることは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・放置自転車について、各駅駐輪場などの見回りの強化により盗難防止や放置されにくい環境づくりに取り組む必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
・放置自転車について、市職員による移動保管等の作業は負担となっているが、業務委託等は費用対効果のうえで効率的であるとは言えないことから、関係支所に一部業務を依頼することにより負担の分散を図っている。											

事務事業の概要	事務事業名	税務行政推進事業		担当課	税務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	510	
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	2	徴税費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
目		1	税務総務費	基本施策		3	健全な財政運営の確立				
取組方針	9	その他									
事業概要	市の円滑な税務行政を推進するために、関連団体への負担金支出やその運営に参画する事業										
事務事業を構成する細事業	①	近畿都市税務協議会負担金		⑤	橋本・伊都・那賀租税教育推進協議会負担金		⑨	資産評価システム研究センター負担金			
	②	県租税教育推進連絡協議会負担金		⑥	確定申告書発送経費負担金		⑩				
	③	伊那税務協議会負担金		⑦	年末調整関係書類封入発送経費負担金		⑪				
	④	軽自動車税申告事務経費負担金		⑧	地方税共同機構負担金		⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	租税教室開催件数 (粉河税務署管内)	回	目標	50	50	50	50	50	社会科教育の一環として小中学校に対し租税教室の開催を要請し、講師の派遣等を行っている。新型コロナウイルス感染症の影響で減少していたが、徐々に回復してきている。	
			実績	34	43	48					
	<指標の計算方法>		小中学校へ税務署・県・市の職員、税理士等が講師となり開催した教室の回数								
	成果指標	税についての作文 応募件数(粉河税務署管内)	件	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	税に関心を持ち、理解を深めるきっかけとして作文の募集を行っている。減少傾向にあるため、各学校との連携の強化や新たな取組の検討をすすめる。	
			実績	1,922	1,763	1,511					
	<指標の計算方法>		税の作文に応募があった件数(中学生の部・高校生の部の合計)								
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	4,767			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	4,767	
事業の実績	①近畿都市税務協議会負担金 適正な都市税務制度の確立とその運営に関する相互の円滑な連絡を図ることを目的として設立された団体への負担金(2,000円)			て、市町村の登録台数に応じて負担(960,000円)			⑧地方税共同機構負担金 地方公共団体の相互協力を基本理念として地方税の電子化を推進することにより、納税者の利便性の向上を図るとともに地方税務行政の高度化及び効率化に寄与することを目的として設立された団体への負担金(3,579,000円)				
	②県租税教育推進連絡協議会負担金 粉河税務署の管轄区域内における児童・生徒及び一般社会人に対して、租税教育を推進することを目的として設立された団体への負担金(16,300円)			⑤橋本・伊都・那賀租税教育推進協議会負担金 次代を担う児童・生徒を中心に租税教室の開催や税に関する作文の募集等を通じて、税の意義や役割の正しい理解を促進するために設立された団体への負担金(10,365円)			⑨資産評価システム研究センター負担金 固定資産に係る課税及び評価に関する調査研究事業、地方公共団体における固定資産評価技術の向上のための研修事業等を中心とした事業を実施し、固定資産評価の均衡化、適正化を推進することを目的として設立された団体への負担金(90,000円)				
	③伊那税務協議会負担金 粉河税務署の管轄区域内における税務行政の運営に当たり緊密な協働体制を確立し、併せてその連絡協調を図ることを目的として設立された団体への負担金(23,750円)			⑥確定申告書発送経費負担金 確定申告書の発送経費について、国、市町村において発送数に応じて負担(22,945円)							
	④軽自動車税申告事務経費負担金 軽自動車税の申告事務に要する経費について、国、市町村において発送数に応じて負担(62,838円)			⑦年末調整関係書類封入発送経費負担金 年末調整関係書類の封入・発送経費について、国、市町村において発送数に応じて負担(62,838円)							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・次の世代を担う子供たちに税の役割や使い道について考え、関心を深めてもらう機会づくりは、将来の納税意識の醸成に寄与するため、市が関連団体の活動に参画(負担金支出)することは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・関連団体の調査研究成果を活用することで、市の課税業務の適正化や高度化につながっている。 ・関連団体の活動により、地方税の電子化が推進されており、納税者の利便性向上につながっている。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・確定申告書や年末調整等の関連書類を共同で作成・発送することで事務経費の節減につながっている。										

事務事業の概要	事務事業名	固定資産評価審査委員会運営事業		担当課	総合行政委員会事務局			事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	509	
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	99	*****			
		項	2	徴税費		施策目標	99	*****			
		目	1	税務総務費		基本施策	99	*****			
事業概要	固定資産の評価に不服がある者の評価が適正か否かを判断するため、固定資産評価審査委員会へ審査の申出がされてから裁決までの行程を円滑に行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	固定資産評価審査委員会運営			⑤				⑨		
	②				⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	固定資産評価審査委員会運営研修会への参加	回	目標		1	1	1	1	年1回開催される運営研修会へ参加した。	
				実績	1		1				
	<指標の計算方法>		研修会参加件数								
	活動指標	審査の申出に係る固定資産評価審査委員会の開催	回	目標						審査請求に係る固定資産評価審査委員会の開催はなし。	
				実績							
	<指標の計算方法>		審査委員会開催件数								
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	71			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	71	
事業の実績	①固定資産評価審査委員会運営 ・運営研修会への参加 (オンライン：職員2名)										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・地方税法に基づき設置が義務付けられている委員会である。								
		評価結果	改善の余地がない ・固定資産評価審査委員会が中立的な立場から審査・採決を行うことで、公平・適正な価格の決定を保証している。								
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・固定資産評価審査委員に対する報酬のため、これ以上のコスト削減は難しい。								

事務事業の概要	事務事業名	賦課総務事業		担当課	税務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	520	
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	2	徴税費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	2	賦課費		基本施策	3	健全な財政運営の確立			
取組方針	9	その他									
事業概要	市が円滑に賦課業務をすすめられるように庶務業務の調整を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	賦課総務事業		⑤				⑨			
	②			⑥				⑩			
	③			⑦				⑪			
	④			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	専門研修派遣人数	人	目標	3	3	3	3	3	専門的知識の習得のため研修に参加し、実務遂行能力の向上に努めている。2名参加を予定していたが、うち1名は開催時期が災害対応と重なったため参加を見送った。	
		実績	0	0	1						
	<指標の計算方法>		全国市町村国際文化研修所における研修参加人数								
		目標									
		実績									
	<指標の計算方法>										
	目標										
	実績										
<指標の計算方法>											
	目標										
	実績										
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	7,704			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
							2,217	5,487			
事業の実績	①賦課総務事業 ・各税に共通する庶務業務の調整										
	・職員研修 全国市町村国際文化研修所（大津市） 参加1名。										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・ 地方税法に基づく課税事務を円滑に行うために必要となる事業であり、市が関与することは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・ 専門職員研修等を通じて、担当職員の専門的知識の習得及び実務遂行能力の向上につながっている。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・ 公的機関を活用することで、最小限の経費で研修に参加できている。 ・ 賦課業務に必要な消耗品等を一括して購入するなど、効率的な経費の執行に努めている。										

事務事業の概要	事務事業名	個人市県民税賦課事業			担当課	税務課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	511
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	2	徴税費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	2	賦課費		基本施策	3	健全な財政運営の確立			
取組方針	9	その他									
事業概要	市が歳入を適正に確保するために、納税義務者（市民）の申告に基づき、適正な課税を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	個人市県民税賦課			⑤					⑨	
	②				⑥					⑩	
	③				⑦					⑪	
	④				⑧					⑫	

指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	市県民税申告書送付件数	件	目標	6,500	6,500	5,500	5,500	5,500	前年度に市県民税申告書及び国保税用申告書を提出した市民に対して送付している。人口減少と高齢化による公的年金受給者の増加に伴い申告が不要になった方が増加したことで減少傾向にあるものと考えられる。		
			実績	5,453	5,299	5,125						
	<指標の計算方法>		市県民税申告を促した数									
	活動指標	申告会場における申告書受付件数	件	目標	3,500	3,300	3,300	3,300	3,300	電子申請の普及により、申告会場での受付件数は減少傾向にある。		
実績			3,123	3,071	2,885							
<指標の計算方法>		申告相談にて受け付けた数										
活動指標	給与支払総括表送付件数	件	目標	7,000	7,000	7,000	7,000	6,800	前年度に給与支払報告書の提出があった事業者に対して送付している。ほぼ横ばいで推移している。			
		実績	6,805	6,797	6,802							
<指標の計算方法>		特別徴収義務者に課税資料（給与支払報告書）の提出を促した数										
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												

コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)		財源内訳				
	17,110		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他
						150	16,960

事業の実績	①個人市県民税賦課 ・令和5年分所得税確定申告・市県民税申告事務の対応	・納税義務者数 29,178人 特別徴収納税義務者数（給与） 19,015人 特別徴収納税義務者数（年金） 5,465人 普通徴収納税義務者数 4,698人
	税務課、収納対策課、国保年金課、支所職員及び税務経験職員による協力体制を確立し、2月7日から3月15日まで本庁及び各地域会場で申告相談事務を行った。 【受付件数】 打田会場 1,203件 粉河会場 170件 那賀会場 217件 桃山会場 286件 貴志川会場 986件 鞆瀬会場 23件 総受付件数 2,885件 【従事職員数】 266人	・特別徴収義務者数（事業所） 5,495社 ・納税通知書作成及び封入封緘業務（普通徴収） 11,016件

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	・自主財源確保のため地方税法に基づいて行う事務事業である。
	有効性	評価結果	改善の余地がない	・国税連携による確定申告データ取り込み数を増やすため、税務署と連携して電子申告を推進している。 ・公平な課税ができるよう所得の内容確認や扶養重複確認などを実施し、適正な課税に努めている。 ・適正課税のもと、自主財源の比率向上に貢献している。
	効率性	評価結果	改善の余地がややある	・電子申告の普及により、徐々に申告相談会場の来場者数も減少しているが、スマホ申告などの推進による来場者数の減を図り、職員負担の軽減に取り組む必要がある。 ・市基幹システムへの給与支払報告書や確定申告書等のデータ入力作業を外部委託することで、事務の効率化をすすめているが、入力後の確認作業も膨大であり、繁忙期における職員負担の軽減に取り組む必要がある。

事務事業の概要	事務事業名	法人市民税賦課徴収事業			担当課	税務課		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	512		
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	2 徴税費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	2 賦課費				基本施策	3	健全な財政運営の確立				
事業概要	市が歳入を適正に確保するために、納税義務者（法人）の申告に基づき、適正な課税や徴収を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	法人市民税賦課事業			⑤					⑨			
	②	法人市民税徴収事業			⑥					⑩			
	③				⑦					⑪			
	④				⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	申告依頼書送付件数	件	目標	1,300	1,300	1,300	1,300	1,350	各法人の決算時期に応じて適時に申告依頼書を送付し、申告納付を促している。他の官公庁等からの様々な情報を活用し、未登録法人の捕捉に努めており、微増傾向にある。			
				実績	1,384	1,432	1,490						
	<指標の計算方法>		対象法人に対し、申告を促した件数										
	活動指標	未申告法人に対する申告依頼書送付件数	件	目標	20	20	20	20	20			未申告の法人に対し、申告期限の翌々月10日前後に申告案内を再送し、適正な申告納付を求めている。	
				実績	19	14	23						
	<指標の計算方法>		申告期限までに申告がない法人に対し、再度申告を促した件数										
	活動指標	督促状送付件数	件	目標	40	40	40	40	40	申告後、納期限までに納付がない法人に対して、納期限の翌月に督促状を送付している。			
				実績	47	59	33						
	<指標の計算方法>		納期限までに納付がない法人に対し、納付を促した件数										
成果指標	法人税調定額	千円	目標						全体としての調定額は社会経済情勢に左右されることから、納税義務者は増加したものの法人市民税は減少となった。				
			実績	346,478	361,434	306,805							
<指標の計算方法>		現年課税分の調定額											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	12,510			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	12,510			
事業の実績	①法人市民税賦課事業 ・納税義務者数1,109社												
	【内訳】 9号 (50億円超・50人超) 10社 8号 (10億円超50億円以下・50人超) 1社 7号 (10億円超・50人以下) 46社 6号 (1億円超10億円以下・50人超) 6社 5号 (1億円超10億円以下・50人以下) 29社 4号 (1千万円超1億円以下・50人超) 19社 3号 (1千万円超1億円以下・50人以下) 198社 2号 (1千万円以下・50人超) 10社 1号 (上記以外の法人) 790社 ②法人市民税徴収事業												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		<ul style="list-style-type: none"> ・自主財源確保のため、地方税法に基づいて行う事務である。 ・適正課税による自主財源の確保は、効率的な行政運営を行うために必要な事業である。 											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
<ul style="list-style-type: none"> ・適正に課税事務を行うことで歳入確保につながり、自主財源比率の向上に貢献している。 													
効率性	評価結果	改善の余地がややある											
	<ul style="list-style-type: none"> ・納税者の利便性向上と事務の効率化を図るため、電子申告を推進している。 ・電子申告データの取込等により効率化できるが、精度の低い申告データも多く課題となっている。 												

事務事業の概要	事務事業名	固定資産税・都市計画税賦課事業			担当課	税務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	517	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	2 徴税費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	2 賦課費				基本施策	3	健全な財政運営の確立			
事業概要	市が歳入を適正に確保するために、納税義務者（土地・家屋・償却資産所有者）の固定資産所有状況を確認し、適正な課税を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	固定資産税・都市計画税（土地）賦課			⑤					⑨		
	②	固定資産税・都市計画税（家屋）賦課			⑥					⑩		
	③	固定資産税（償却資産）賦課			⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	固定資産評価審査委員会への審査申出件数	件	目標	0	0	0	0	0	申出がなかったことから市民からの信頼を得た適正課税が行えたことと言える。		
			実績	0	0	0						
	<指標の計算方法>		審査申出がないことは、市民からの信頼を得た適正評価ができていていることに繋がる									
	活動指標	新増築家屋件数	件	目標						旧打田町及び旧貴志川町地区を中心に建築されており、令和5年中に評価した物件の課税への反映は令和6年度からとなる。		
			実績	327	267	301						
	<指標の計算方法>		1月から12月中に新増築され、評価した件数（概要調書より）									
活動指標	滅失家屋件数	件	目標						建替えや老朽により取壊された件数であり、令和5年中に滅失された物件の課税への反映は令和6年度からとなる。			
		実績	462	313	299							
<指標の計算方法>		1月から12月中に滅失された件数（概要調書より）										
成果指標	固定資産税・都市計画税調定額	千円	目標						新増築家屋および償却資産の増により増加となった。			
		実績	3,177,398	3,353,765	3,438,766							
<指標の計算方法>		現年課税分の調定額										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	37,683			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	37,683		
事業の実績	①固定資産税・都市計画税（土地）賦課 ・地番図更新（令和5年中異動分） ・令和6年度用標準宅地時点修正鑑定（R5.7.1基準日） ・令和6年度評価替えに向けた路線価更新 ・納税義務者数（令和5年度） （土地：免税点未満含む） 固定資産税：32,578人 都市計画税：24,238人			③固定資産税（償却資産）賦課 ・納税義務者数（令和5年度） （償却：免税点未満含む） 固定資産税：1,333人								
	②固定資産税・都市計画税（家屋）賦課 ・家屋図更新（令和5年中異動分） ・家屋評価件数（令和6年度課税に反映） 木造：228棟 非木造：73棟 ・納税義務者数（令和5年度） （家屋：免税点未満含む） 固定資産税：26,392人 都市計画税：25,025人											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・自主財源確保のため地方税法に基づいて行う事務である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・適正な課税事務を行うことで歳入確保につながっている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・登記異動に係る課税への反映や土地、家屋評価のシステムの導入により事務の効率化に取り組んでいる。											

事務事業の概要	事務事業名	軽自動車税賦課事業			担当課	税務課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	18
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	2 徴税費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	2 賦課費				基本施策	3	健全な財政運営の確立		
事業概要	市が歳入を適正に確保するために、納税義務者（軽自動車所有者）の軽自動車所有状況を確認し、適正な課税を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	軽自動車税賦課			⑤					⑨	
	②				⑥					⑩	
	③				⑦					⑪	
	④				⑧					⑫	

指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	小型特殊車両の登録啓発回数	回	目標	1	1	2	2	2	周知徹底のため年度内に2回、市広報への掲載を実施している。	
			実績	1	2	2					
	<指標の計算方法>		広報紙等を通じて登録啓発を行った回数								
	成果指標	小型特殊車両の登録台数	台	目標	1,180	1,180	1,300	1,300	1,300	農耕用（トラクター等）を中心に小型特殊車両は登録義務があるといった認識が徐々に浸透し、増加しているものと思われる。	
			実績	1,216	1,255	1,286					
	<指標の計算方法>		小型特殊車両登録台数（決算時）								
	成果指標	課税台数	台	目標						農耕用（トラクター等）を中心に小型特殊車両は登録義務があるといった認識が徐々に浸透した結果微増した。	
			実績	41,054	40,942	40,978					
	<指標の計算方法>		課税台数（決算時）								
成果指標	軽自動車税調定額	千円	目標						重課税率の影響により増加しているものと思われる。		
		実績	266,459	273,400	279,752						
<指標の計算方法>		現年課税分の調定額									

コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
	4,637		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源

事業の実績	①軽自動車税賦課	小型特殊（その他）	162台
	・原動機付自転車等標識登録・廃車 2,072件	小型二輪	971台
事業の実績	・陸運支局・軽自協での登録・廃車 9,832件	・登録台数のうち非課税、免除台数 836台	
	・軽自動車減免申請受付件数 595件	【内訳】	
事業の実績	・登録台数 41,219台	非課税	222台
	【内訳】	課税保留	19台
事業の実績	原付 50cc以下 5,528台	身体障害者減免（税条例90条）	476台
	原付 90cc以下 631台	施設減免（税規則55条）	105台
事業の実績	原付125cc以下 1,037台	構造減免（税条例90条）	14台
	ミニカー 80台	・納税通知書作成・封入封緘業務 35,893件	
事業の実績	軽二輪 936台	・地方税共通納税システムによる軽自動車税納付書QRコード対応について、適正に導入を図ることができた。	
	軽三輪 1台		
事業の実績	軽四輪乗用（営業用） 7台		
	軽四輪乗用（自家用） 19,799台		
事業の実績	軽四輪貨物（営業用） 101台		
	軽四輪貨物（自家用） 10,842台		
事業の実績	小型特殊（農耕用） 1,124台		

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない
		・自主財源の確保のため地方税法に基づいて行う事業である。	
	有効性	評価結果	改善の余地がない
・適正な課税事務を行うことで歳入確保につながっている。 ・小型特殊車両は、公道走行の有無に関わらず課税対象となることから、周知徹底のため広報に取り組んでいる。			
効率性	評価結果	改善の余地がない	
	・軽四輪と自動二輪については、軽自動車検査協会や市長会から送付されるデータの電子化により、迅速かつ確実な申告書情報の收受ができており、賦課誤りを軽減するとともに事務の効率化が図られている。		

事務事業の概要	事務事業名	市税等収納事業			担当課	収納対策課		事業区分	ソフト事業					
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	523			
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営					
		項	2 徴税費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		目	3 徴税費				基本施策	3	健全な財政運営の確立					
事業概要	市が歳入を適正に確保するために、市税等の収納状況の管理を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①	収納管理業務			⑤				⑨					
	②	口座振替・コンビニ収納等業務			⑥				⑩					
	③				⑦				⑪					
	④				⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析				
	成果指標	市税収納率	%	目標	95.3	97.4	97.5	97.6	97.7	納付しやすい環境の整備及び効果的な滞納整理を行うことで、納税意識が高まり、収納率が向上したと考える。				
				実績	97.3	97.5	97.7							
	<指標の計算方法>		市税現年分、過年分を合算した収納率											
			目標											
			実績											
	<指標の計算方法>													
		目標												
		実績												
<指標の計算方法>														
		目標												
		実績												
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	25,503			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	25,503				
事業の実績	①収納管理業務 ・市税等の収納管理 ・地方税共通納税システムの運用管理													
	②口座振替・コンビニ収納等業務 ・口座振替利用件数及び利用率 利用件数 21,662件 利用率 26.41% (参考：R4 27.04%) ・コンビニ収納利用件数及び利用率 利用件数 57,583件 利用率 39.77% (参考：R4 28.13%) ・スマホ収納利用件数及び利用率 利用件数 6,517件 利用率 4.50% (参考：R4 4.07%)													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・自主財源の根幹となる市税を確保するために収納管理を的確に行う事業であり、事業の妥当性は高く、改善の余地はない。												
	有効性	評価結果	改善の余地がややある											
・納付方法の多様化に対応し、納付環境は充実してきているが、今後も引き続き納付方法の周知や口座振替の推進を図る必要がある。														
効率性	評価結果	改善の余地がややある												
	・収納管理業務について、更に外部委託できる業務がないか、再度検討する必要がある。													

事務事業の概要	事務事業名	市税等滞納整理事業			担当課	収納対策課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	521	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	2 徴税費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
目		3 徴税費			基本施策		3	健全な財政運営の確立				
事業概要	市民の税等の公平性を確保するとともに、市の自主財源の確保を図るために、滞納者に滞納処分を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 督促・催告業務	⑤ 債権管理対策本部運営業務			⑨							
	② 財産調査業務	⑥ 納税意識向上対策業務			⑩							
	③ 滞納整理業務（市税分）	⑦ 納税猶予関連業務			⑪							
	④ 滞納整理業務（強制徴収公債権分）	⑧			⑫							
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	市税収納率	%	目標	95.3	97.4	97.5	97.6	97.7	納付しやすい環境の整備及び効果的な滞納整理を行うことで、納税意識が高まり、収納率が向上したと考える。		
				実績	97.3	97.5	97.7					
	<指標の計算方法>		市税現年分、過年分を合算した収納率									
	成果指標	強制徴収公債権収納率	%	目標	30	30	30	30	30	保育料、公共下水道使用料、公共下水道受益者負担金、介護保険料、後期高齢者医療保険料、国民健康保険税の滞納繰越収納率		
				実績	29.58	33.38	31.94					
	<指標の計算方法>		強制徴収公債権過年分の収納率									
	活動指標	滞納処分の執行停止処理件数	件	目標	40	40	40	40	50	地方税法第15条の7第1項他（3年執行及び即時消滅）		
				実績	83	82	53					
	<指標の計算方法>		滞納処分の執行停止（3年執行停止、即時消滅）の合計件数									
活動指標	強制徴収公債権滞納処分件数	件	目標	65	65	90	100	100	R4年度以前は移管引受件数 R5年度以降は滞納処分件数			
			実績	72	83	153						
<指標の計算方法>		強制徴収公債権について滞納処分を行った件数										
コストの実績	R 5年度決算額 （単位：千円）			財源内訳								
	5,520			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	95		
事業の実績	①督促・催告業務 ・催告書発送件数 （6.7月：2,216通、12月：2,814通） ・督促状発送件数 12,773通			・捜索件数 11件（差押：6件） ・滞納処分執行停止件数 53件 （内訳）即時：36件 3年：17件 ・夜間納付相談窓口の開設 利用者 109人 納付額 1,418,952円 ※上記の全ての額は、県民税を含む額			・債権管理対策本部会議 実施せず ・強制徴収公債権検討部会 実施せず ・債権管理研修会 実施せず ・各債権担当者打合せ 随時 ・ヒアリング（7所管課）					
	②財産調査業務 ・預貯金等調査延べ件数：26,648件 ・生命保険調査延べ件数：22,420件 ③滞納整理業務（市税分） ・差押件数 769件 （内訳 単位：件） 給与：16、年金：5、所得税還付金：10 生命保険等解約金：96、動産：6、 不動産：29、無体財産権：7、 預貯金等：559、報酬：39、その他：2 換価額 35,335,127円 差押解除の効果額 12,163,560円 ※効果額とは、差押することで完納となった額 ・交付要求の配当件数 12件			④滞納整理業務（強制徴収公債権分） ・滞納処分件数 153件 （内訳 単位：件） 介護：111、後期：37、保育：3、下水：1 生活保護費返還金：1 ・差押債権数 142件 （内訳 単位：件） 預貯金：104、生命保険：12、年金：8、 給与：4、無体財産権：13、報酬：1 ・執行停止 5件 （内訳 単位：件） 即時：2、3年：3			⑥納税意識向上対策業務 ・中学生及び高校生を対象とした税についての作文の優秀作品の掲示 ・市長賞として中学生及び高校生各1名を表彰 ⑦納税猶予関連業務 ・徴収の猶予 許可件数 0件 猶予額 0円					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市税及び強制徴収公債権の負担の公平性を確保するとともに、自主財源の確保を図るための事業であり、改善の余地はない。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・市税全体の収納率は年々上昇しており、健全な財政運営の確立及び税負担の公平性の確保の観点からも本事業の有効性は高い。 ・さらなる成果向上のため、基本業務を徹底して行い、滞納処分の執行停止及び納税猶予についても適切に対応する必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・遠方の滞納者に対する滞納処分について、検討の余地がある。											

事務事業の概要	事務事業名	和歌山地方税回収機構連携事業			担当課	収納対策課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	19	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	2 徴税費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	3 徴税費				基本施策	3	健全な財政運営の確立			
取組方針	2	歳入確保のための取組の推進										
事業概要	市民の税の公平性を確保するとともに、市の自主財源の確保を図るために、和歌山地方税回収機構の運営へ参画する事業											
事務事業を構成する細事業	①	和歌山地方税回収機構負担金			⑤				⑨			
	②	移管業務			⑥				⑩			
	③	合同公売業務(不動産等)			⑦				⑪			
	④	和歌山地方税回収機構運営会議			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	市税収納率	%	目標	95.3	97.4	97.5	97.6	97.7	納付しやすい環境の整備及び効果的な滞納整理を行うことで、納税意識が高まり、収納率が向上したと考える。		
				実績	97.3	97.5	97.7					
	<指標の計算方法>		市税現年分、過年分を合算した収納率									
	成果指標	回収機構徴収金額(本税)	千円	目標	9,000	12,000	12,000	12,000	12,000	徴収金額が前年度を上回ったのは移管金額の増額と移管者選考を十分に行ったことが要因と考える。		
				実績	18,361	9,255	12,622					
	<指標の計算方法>		回収機構移管分の徴収実績(本税)									
	活動指標	滞納者移管数	人	目標	45	45	45	45	45	当初予定人数を移管した。		
				実績	45	45	45					
	<指標の計算方法>		市より回収機構へ移管した滞納者の人数									
活動指標	実務研修(派遣)人数	人	目標	2	1	1	1	1	1名の短期派遣を実施した。			
			実績	2	0	1						
<指標の計算方法>		回収機構へ実務研修に派遣した職員数(短期派遣含む)										
コストの実績	R 5年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
	6,966			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	6,966		
事業の実績	①和歌山地方税回収機構負担金 ・移管人数 45人 ・徴収実績 16,981,303円 (内訳) 市県民税 : 5,639,326円 固定資産税 : 2,139,458円 軽自動車税 : 115,589円 (参考 国民健康保険税 : 4,728,125円) <小計> 12,622,498円 督促手数料 : 53,554円 (うち国保 39,164円) 延滞金 : 4,305,251円 (うち国保 : 1,749,145円) 《合計》 16,981,303円 ・不動産公売 3回 3件 令和5年5月30日(火) 1件(再1件) 入札あり 落札額 3,900,000円 令和5年11月21日(火) 1件 入札なし 令和6年2月20日(火) 1件(再1件) 入札なし											
	④和歌山地方税回収機構運営会議 ・第1回運営会議(R5.4.28)、書面開催 令和4年度活動状況、令和5年度予算概要、活動報告ほか ・第2回運営会議(R6.2.6) 令和6年度移管提示件数、令和6年度活動方針ほか											
	②移管業務 ・移管催告の発送 153件 ・45件(人)の移管データを作成 ③合同公売業務(不動産等)											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・困難な滞納案件を解消することで市税負担の公平性が確保でき、市の自主財源の確保を図るためにも、本事業の実施には妥当性がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・地方税回収機構への移管催告及び移管が、新規滞納者への抑止力となっている。 ・地方税回収機構が主となり不動産公売を実施することで、市は広報や会場手配の負担がなく、容易に参加できる。また、定期的に実施されるため、市としても公売の計画が立てやすい。 ・調査や搜索等の滞納処分が困難な遠方の滞納者について、移管することにより、市の負担が少なく滞納処分をすることができる。 ・派遣された職員が滞納整理を実務研修できる場となっている。また、市が抱える困難案件について、相談することができる。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・負担金は発生するが、徴収実績や移管催告の効果など、効率性の面でも必要不可欠な事業である。 ・実務研修の機会の確保のため、職員を派遣しており、地方税回収機構のノウハウを実践できる職員が増えることにより、長期的には効率性は向上する。 ・徴収できる可能性の高い案件を厳選して移管することにより、コストに対する効率性は向上する。											

事務事業の概要	事務事業名	住民基本台帳事業			担当課	市民課		事業区分	ソフト事業					
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	439			
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営					
		項	3 戸籍住民基本台帳費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		目	1 戸籍住民基本台帳費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進					
事業概要	市民（異動者）が住民異動に関する諸手続きなどが円滑に行えるように、住民基本台帳を適正に登録をして、証明書等の発行を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①	住民基本台帳管理			⑤	マイナンバーカード交付		⑨						
	②	証明書発行・閲覧			⑥			⑩						
	③	特別永住者・中長期在留者管理			⑦			⑪						
	④	住民基本台帳ネットワークシステム管理			⑧			⑫						
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析					
	活動指標	住民票の写しの交付件数（公用を含む）	件	目標						証明書交付件数は、減少傾向にある。				
			実績	26,889	26,486	25,449								
	<指標の計算方法>		住民票の写しの交付件数（公用を含む）											
	活動指標	戸籍附票の写しの交付件数（公用を含む）	件	目標						証明書交付件数は、横ばい傾向にある。				
実績			3,887	4,211	3,972									
<指標の計算方法>		戸籍附票の写しの交付件数（公用を含む）												
活動指標	マイナンバーカードの交付数	枚	目標						マイナンバーカード普及促進と、今後健康保険証として利用されることが決定したことにより交付数は増加している。					
		実績	38,835	46,575	50,040									
<指標の計算方法>		市区町村別全申請件数及び交付件数（地方公共団体情報システム機構）												
コストの実績	R 5年度決算額（単位：千円）			財源内訳										
	46,385			国庫支出金	33,681	県支出金	地方債	繰入金	5,305	その他	7,399	一般財源		
事業の実績	①住民基本台帳管理		住民異動 転入者数（県外798人・県内845人）1,643人		転出者数（県外770人・県内727人）1,497人		出生者数 300人		死亡者数 881人		転居件数 585件		世帯変更等 3,200件	
	②証明書発行・閲覧		住民票の写し等の交付		窓口 18,756件		内公用 1,305件		郵送 2,281件		内公用 933件		コンビニ 4,344件	
			戸籍附票の写しの交付		窓口 1,843件		内公用 922件							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
	有効性	評価結果	改善の余地がややある											
	効率性	評価結果	改善の余地がややある											
		<ul style="list-style-type: none"> ・住民基本台帳法、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等に定める事務である。 ・コンビニでの証明書発行サービスやオンライン申請システム、マルチコピー機での証明書交付により、市民サービスの利便性の向上につながっている。 ・令和4年4月からマイナンバーカードの休日・夜間サービスの予約と管理を簡単にできるシステムの運用を開始した。 ・令和4年11月からすでに交付されているマイナンバーカードの管理についてシステム化し、管理しやすい環境を整えた。 ・令和6年1月に導入した書かない窓口については、庁内関係課が連携し、より市民の利便性を高める取組を進める必要がある。 ・窓口での住民票等の交付や申請手続きにおいて、市民の利便性の向上と事務の効率化を図るため、書かない窓口のシステムを令和6年1月に導入した。今後このシステムの効果や運用方法を庁内関係各課で検証し、発展させていく必要がある。 												

事務事業の概要	事務事業名	印鑑登録事業		担当課	市民課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	440	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	3 戸籍住民基本台帳費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1 戸籍住民基本台帳費			基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
取組方針			9	その他							
事業概要	市民が目的に応じて証明書を利用できるように、印鑑の登録・管理を行い、証明書の発行を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	印鑑登録管理		⑤			⑨				
	②	印鑑証明発行		⑥			⑩				
	③			⑦			⑪				
	④			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	印鑑登録証明書交付件数(公用を含む)	件	目標						証明書交付数は、横ばい傾向にある。	
			実績		15,209	15,100	15,161				
	<指標の計算方法>		印鑑登録証明書交付件数(公用を含む)								
	活動指標	印鑑登録証無料交換件数	件	目標							劣化の激しい印鑑登録証の交換は順調に進んでいる。
			実績		1,576	1,028	594				
<指標の計算方法>		印鑑登録切替申請数									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額(単位:千円)			財源内訳							
	70			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①印鑑登録管理 令和6年3月31日現在 40,949人										
	②印鑑証明発行 窓口 11,858件 内公用 204件 コンビニ 3,237件 マルチコピー機 66件										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・紀の川市印鑑条例に基づき、印鑑登録証明書を必要とする市民のための事業である。 ・市が行わなければならない事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・あらかじめの予約により、日曜日に証明書を交付している。 ・コンビニでの証明書発行サービスやマルチコピー機の導入により、市民サービスの利便性の向上につながっている。 ・令和6年1月に書かない窓口を導入し、また同時期に印鑑証明書申請時に、本人に限りマイナンバーカードを提示することにより申請が可能とし、市民の負担軽減及び利便性の向上につながっている。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・窓口での印鑑証明書の交付や申請手続きにおいて、書かない窓口の運用により事業の効率性が更に高まっている。										

事務事業の概要	事務事業名	戸籍事業		担当課	市民課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	441	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	3 戸籍住民基本台帳費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1 戸籍住民基本台帳費			基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
取組方針			9	その他							
事業概要	本籍人及びその親族・利害関係人が諸手続きなどを円滑に行えるように、本籍人（親族）、利害関係人の戸籍を適正に登録をして、証明書の発行を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	戸籍管理			⑤	戸籍システム管理			⑨		
	②	戸籍謄・抄本等発行			⑥	県連合戸籍事務協議会負担金			⑩		
	③	埋火葬許可証発行			⑦	和歌山戸籍事務協議会負担金			⑪		
	④	人口動態事務			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	戸籍謄抄本等の交付件数（公用を含む）	件	目標						証明書交付数は、長期的に横ばいである。	
			実績		25,255	27,724	27,151				
	<指標の計算方法>		戸籍謄抄本等の交付件数（公用を含む）								
	活動指標	埋火葬許可証の交付件数	件	目標						令和5年度においては、若干の減少が見られるが長期的には横ばいである。	
			実績		787	913	828				
	<指標の計算方法>		埋火葬許可証の交付件数								
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 （単位：千円）			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
		18,647		4,466	52			13,431	698		
事業の実績	①戸籍管理			オンライン申請 152件 マルチコピー機 22件			477,840円				
	戸籍届出処理件数			③埋火葬許可証発行 828件			戸籍附票システム中継サーバ設置に係る施設借上料 2,376,000円				
	出生 480件（内送付 173件）			④人口動態事務			戸籍事務遠隔入力支援サービス導入委託料 2,046,000円				
	婚姻 580件（内送付 426件）			令和5年度分 1,408件			戸籍事務遠隔入力支援サービス入力業務委託料 369,600円				
	離婚 189件（内送付 89件）			⑤戸籍システム管理			⑥県連合戸籍事務協議会負担金 負担金支払い 47,209円				
	死亡 1,173件（内送付 315件）			戸籍システムの維持管理			⑦和歌山戸籍事務協議会負担金 負担金支払い 16,055円				
	他 669件（内送付 244件）			戸籍総合システムクラウド利用料							
	計 3,091件（内送付 1,247件）			法改正に伴うシステム開発委託料							
	新戸籍編製 398戸籍			4,466,000円							
	戸籍全部消除 644戸籍			戸籍附票システム中継サーバの維持管理							
	令和6年3月31日 現在			（紀の川市・岩出市の共同利用）							
	本籍数 30,638戸籍			※岩出市負担分を共同利用負担金として							
	本籍人口 71,653人			1,333,486円受入							
				戸籍附票システム中継サーバ保守業務委託料							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・戸籍法、墓地・埋葬法等に定める事務である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・コンビニでの証明書発行サービスやオンライン申請システム、マルチコピー機での証明書交付により、市民サービスの利便性の向上につながっている。 ・戸籍記載チェック体制の充実が必要である。 ・令和6年1月に導入した書かない窓口については、庁内関係課が連携し、より市民の利便性を高める取組を進める必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・窓口での戸籍証明書の交付や申請手続きにおいて、市民の利便性の向上と事務の効率化を図るため、書かない窓口のシステムを令和6年1月に導入した。今後このシステムの効果や運用方法を庁内関係各課で検証し、発展させていく必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名		市民窓口事業			担当課		市民課		事業区分	ソフト事業	
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	443
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	3 戸籍住民基本台帳費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	1 戸籍住民基本台帳費			基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進				
事業概要		市民が持つ様々な問題の解決につなげてもらうために、各種相談、相談案内を行う事業										
事務事業を構成する細事業	① 弁護士相談		⑤		⑨							
	② 行政相談		⑥		⑩							
	③ 住民相談		⑦		⑪							
	④		⑧		⑫							
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	弁護士相談開催回数	回	目標	12	12	12	12	12	目標どおり達成した。		
			実績	12	12	12						
	<指標の計算方法>		月1回開催している無料法律相談の回数									
	成果指標	弁護士相談件数	人	目標	84	84	84	84	84	目標との差は、キャンセルがあったため。		
			実績	77	72	81						
	<指標の計算方法>		無料法律相談の相談者数									
	活動指標	弁護士相談開催広報回数	回	目標	12	12	12	12	12	目標どおり達成した。		
			実績	12	12	12						
	<指標の計算方法>		広報紙への掲載回数									
活動指標	行政相談開催広報回数	回	目標	12	12	12	12	12	目標どおり達成した。			
		実績	12	12	12							
<指標の計算方法>		広報紙への掲載回数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	554			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		554	
事業の実績	① 弁護士相談 年12回開催 相談件数 81人											
	② 行政相談 総務大臣に委嘱された行政相談委員による 相談業務 相談件数 26件											
	③ 住民相談 11件 (市民課にて相談を受けた分のみ)											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市民が持つ様々な問題解決につなげてもらうため、市が主体となって行う必要がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・無料法律相談は、市の顧問弁護士に委託し、ほぼ毎回予約開始日中には定員に達している。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・無料法律相談の市顧問弁護士への委託料は、他市町村と比較して同程度である。 ・行政相談は、総務大臣から委嘱を受けた行政相談委員が対応しているが、市の費用負担はない。 ・住民相談は、市職員が対応しているため、直接的な費用負担はない。											

事務事業の概要	事務事業名	コンビニ証明書交付事業			担当課	市民課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1029	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	3 戸籍住民基本台帳費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1 戸籍住民基本台帳費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市民、本籍人が目的に応じた証明書を市役所外で取得できるように、住民票写し、印鑑証明書、戸籍証明書をコンビニで交付するシステムの維持管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	J-LIS負担金			⑤				⑨			
	②	システム管理			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	システム稼働日数	日	目標	359	359	360	359	359	メンテナンス等によるシステムの停止があったため、目標を達成できなかった。		
				実績	345	358	358					
	<指標の計算方法>		年末年始（12/29～1/3）を除く毎日									
	成果指標	コンビニ証明書交付件数	件	目標							マイナンバーカードの普及に伴いコンビニ証明書交付件数は、増加傾向にある。	
				実績	3,407	6,126	8,914					
<指標の計算方法>		住民票・戸籍附票の写し、印鑑登録証明書、戸籍謄抄本のコンビニ証明書交付件数										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	12,265			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
								2,943	9,322			
事業の実績	①J-LIS負担金 J-LIS証明書交付センターに運営負担金を支払う。 2,728,000円											
	②システム管理 コンビニ交付に関係するシステム会社に利用料及び保守料等を支払う。 ・コンビニ交付クラウドサービス利用料 3,564,000円 ・コンビニ交付システム保守委託料 858,000円 ・システム機器更新委託料 4,070,000円 ・コンビニ交付手数料 1,044,638円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・証明書のコンビニ交付サービスは、市民・本籍人の証明書取得の利便性向上のための行政サービスであり、市しか実施できない。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・証明書のコンビニ交付サービスを提供するため、システムを維持管理する事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・国民の94.0%が享受している住民サービスに対する維持管理費用であり、これ以上の負担軽減は困難である。											

事務事業の概要	事務事業名	選挙管理委員会運営事業			担当課	総合行政委員会事務局		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	525	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	99 ****				
		項	4 選挙費				施策目標	99 ****				
		目	1 選挙管理委員会費				基本施策	99 ****				
目				取組方針	9 その他							
事業概要	選挙権を有する者の意思を正しく政治・行政に反映するために、選挙管理委員会が適正な選挙の管理・執行を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	選挙管理委員会運営			⑤					⑨		
	②	全国市区選挙管理委員会負担金			⑥					⑩		
	③	近畿都市選挙管理委員会連合会負担金			⑦					⑪		
	④	県都市選挙管理委員会連絡協議会負担金			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	選挙執行回数	目標	5	3	2	1	4	和歌山県議会議員一般選挙、鎌垣財産区議会議員一般選挙が執行された。			
			実績	6	3	2						
	<指標の計算方法>		選挙が執行された回数（無投票を含む）									
	活動指標	選挙管理委員会開催回数	目標	8	10	5	5	12	定時登録・選挙時登録等を行うため委員会を開催した。			
			実績	15	10	5						
	<指標の計算方法>		定時登録、選挙時登録等の委員会を開催した回数									
	成果指標	選挙管理執行上のミス	目標	0	0	0	0	0	なし。			
			実績	2	0	0						
	<指標の計算方法>		管理執行上の問題となったミスの件数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,581			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		1,576	
事業の実績	①選挙管理委員会運営 ・選挙管理委員会の開催 5回 ・11/29 和歌山県選挙管理委員会大会 委員2名、職員2名出席 ②全国市区選挙管理委員会負担金 ③近畿都市選挙管理委員会連合会負担金 ・近畿都市選挙管理委員会連合会総会（新型コロナウイルス感染症の影響により、書面決議） ④県都市選挙管理委員会連絡協議会負担金 ・県都市選挙管理委員会連絡協議会及び総会（新型コロナウイルス感染症の影響により、書面決議） ・8/17 県都市選挙管理委員会連絡協議会事務研究会 職員1名出席 ・10/25 県都市選挙管理委員会連絡協議会事務局長会議											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・公職選挙法に定められた義務的事業であり妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・適正に管理執行されており、現状を維持することが有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・選挙管理委員会委員に対する報酬のため、これ以上のコスト削減は難しい。											

事務事業の概要	事務事業名	県議会議員一般選挙事業			担当課	総合行政委員会事務局		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R 4 ~ R 5)	事業番号	374	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	99	*****		
		項	4 選挙費				施策目標	99	*****		
		目	2 県議会議員一般選挙費				基本施策	99	*****		
目	2 県議会議員一般選挙費			取組方針	9		その他				
事業概要	県議会議員一般選挙が適正に管理・執行できるように、選挙事務を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	県議会議員一般選挙運営			⑤				⑨		
	②				⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	投票率	%	目標			52				前回投票のあった選挙(平成23年4月10日執行)の投票率51.69%から低下している。
				実績			44.1				
	<指標の計算方法> 当日有権者数に対する投票者数の割合										
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位:千円)			財源内訳							
	18,924			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①県議会議員一般選挙運営 ・県議会議員一般選挙 令和5年4月9日執行 有権者数: 50,906人 投票者数: 22,449人 44.10 (%)										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・公職選挙法に基づく選挙執行であり、妥当である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
		・目標として設定している投票率を下回っているため、向上に向けて取り組む必要がある。									
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
		・投開票事務のプロセスや手法を継続的に見直し、必要経費の削減に取り組む必要がある。									

事務事業の概要	事務事業名	鎌垣財産区議会議員一般選挙事業			担当課	総合行政委員会事務局		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度のみ		事業番号	380	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	99	*****			
		項	4 選挙費				施策目標	99	*****			
		目	3 鎌垣財産区議会議員一般選挙費				基本施策	99	*****			
目	3 鎌垣財産区議会議員一般選挙費			取組方針	9		その他					
事業概要	鎌垣財産区議会議員一般選挙が適正に管理・執行できるように、選挙事務を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	鎌垣財産区議会議員一般選挙運営			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名	単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	投票率	%	目標			52			立候補者数が議員定数(9人)を超えなかったため無投票となった。		
				実績								
	<指標の計算方法> 当日有権者数に対する投票者数の割合											
				目標								
				実績								
<指標の計算方法>												
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	213			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①鎌垣財産区議会議員一般選挙運営 ・鎌垣財産区議会議員一般選挙 令和5年11月12日執行 ・令和5年11月7日立候補受付の結果、無投票となる。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・公職選挙法による選挙執行であり、妥当である。									
		評価結果	改善の余地がややある ・今後も無投票となる見込みが高いが、投票となった場合は、目標値を上回るよう投票率向上を目指す。									
	効率性	評価結果	改善の余地がややある ・選挙が無投票になることも想定し、投票が実施される際には投開票プロセスや手法を継続的に見直し、必要経費の削減に取り組む必要がある。									

事務事業の概要	事務事業名	統計行政推進事業			担当課	総務課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	528
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
	項目	5	統計調査費	施策目標		3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
	目	1	統計調査総務費	基本施策		4	将来を見据えた行政経営の推進				
事業概要	市の統計行政の推進を図るために、関連団体の活動へ参画する事業										
事務事業を構成する細事業	①	近畿都市統計協議会負担金	⑤		⑨						
	②	県市長会統計部会負担金	⑥		⑩						
	③	県統計協会負担金	⑦		⑪						
	④		⑧		⑫						
指標の実績	指標名	単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	近畿都市統計協議会講習会への参加	回	目標	1	1	1	1	1	オンライン研修に参加	
				実績	0	0	1				
	<指標の計算方法>		近畿都市統計協議会講習会への参加回数								
	活動指標	県市長会統計部会講習会への参加	回	目標	1	1	1	1	1	オンライン研修に参加	
				実績	0	0	1				
	<指標の計算方法>		県市長会統計部会講習会への参加回数								
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	5			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	5	
事業の実績	①近畿都市統計協議会負担金 総会：書面開催 講習会：オンライン研修 ※議案の承認に伴い令和5年度負担金はなし										
	②県市長会統計部会負担金 理事会：書面開催 講習会：オンライン研修 ※議案の承認に伴い令和5年度負担金はなし										
	③県統計協会負担金 「和歌山県統計年鑑」等の統計関係図書を作成 令和5年度負担金 5,000円										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・統計資料を通して、各行政施策の基礎資料とするため、各関連団体に参画することは妥当性がある。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・各行政施策の基礎資料として、関連団体が取りまとめる資料を提供している。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・関連団体の総会が書面で開催されたことにより、送付資料等で負担金の運用状況を確認している。										

事務事業の概要	事務事業名	基幹統計調査事業		担当課	総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	26	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	99	*****			
		項	5 統計調査費			施策目標	99	*****			
		目	2 基幹統計調査費			基本施策	99	*****			
事業概要	市、統計情報を必要とする者が統計情報を活用できるように、各種基幹統計の調査を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	学校基本調査		⑤					⑨		
	②	住宅・土地統計調査		⑥					⑩		
	③			⑦					⑪		
	④			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	統計調査実施中の事故件数	件	目標	0	0	0	0	0	住宅・土地統計調査では県知事より委嘱された60人の調査員に対して、説明会を実施し、事故等の注意喚起を行ったが、調査員証紛失の事故が1件起きた。	
			実績	0	0	1					
	<指標の計算方法>		統計調査実施中に問題となった事故件数								
	成果指標	基幹統計実施件数	件	目標							国・県の指定するスケジュールどおりに調査を完了することができた。
			実績	2	2	2					
<指標の計算方法>		基幹統計を実施した件数									
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	3,671			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①学校基本調査 (令和5年5月1日調査基準日) 調査対象：小学校17、中学校7 幼稚園等5										
	②住宅・土地統計調査 (令和5年10月1日調査基準日) 調査対象：130調査区から選定した2,142世帯										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・統計法に基づき継続して実施する必要がある事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・各統計調査において得た情報は、国の各種施策の立案等の重要な資料となる。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・各種統計調査実施時に、回答者の負担軽減及び調査員・事務担当者の業務量削減を目的とし、インターネットの回答率を高めるよう調査員等と協力していくことが必要である。 なお、各年度により統計調査の内容や規模が異なることから、回答率の推移を一連の指標として出すことは困難である。										

事務事業の概要	事務事業名	監査事業		担当課	総合行政委員会事務局			事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	27	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	99 ****				
		項	6 監査委員費			施策目標	99 ****				
		目	1 監査委員費			基本施策	99 ****				
目	1 監査委員費		取組方針	9 その他							
事業概要	市が適正に予算・事務の執行を図るために、監査委員が出納検査や監査を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	監査事務		⑤					⑨		
	②	全国都市監査委員会負担金		⑥					⑩		
	③	近畿地区都市監査委員会負担金		⑦					⑪		
	④	県下都市監査委員会負担金		⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	例月出納検査回数	目標	12	12	12	12	12	月1回例月出納検査を実施している。		
			実績	12	12	12					
	<指標の計算方法>		例月出納検査実施回数								
	活動指標	定期監査回数	目標	5	5	5	5	5	各課に対する定期監査を実施している。		
			実績	5	5	5					
	<指標の計算方法>		定期監査実施回数								
	活動指標	監査結果報告書等の発行回数	目標	20	20	20	20	20	各監査等（例月出納検査12回、決算審査1回、定期監査5回、財政援助団体等監査1回、工事監査1回）を実施した結果の報告等を行っている。		
			実績	19	20	20					
	<指標の計算方法>		各監査・審査・検査等の報告書等発行回数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	2,610			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,610	
事業の実績	①監査事務 ・例月出納検査 12回 ・令和4年度決算審査・健全化判断比率審査 1回 ・定期監査（財務審査）5回 ・財政援助団体等監査 1回 ・工事監査 1回 ・10/19～10/20：東海・近畿・北陸三地区共催都市監査事務研修会 ②全国都市監査委員会負担金 ③近畿地区都市監査委員会負担金 ・総会（書面決議） ・研修会参加（オンライン・職員3名） ④県下都市監査委員会負担金 ・5/18 定例会及び研修会 ・11/6 事務局長会議及び研修会										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・地方自治法等により、監査委員が実施するよう定められている事務である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・適正な財務処理に寄与している。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・監査委員に対する報酬のため、これ以上のコスト削減は難しい。										

事務事業名	地域福祉推進事業			担当課	社会福祉課			事業区分	ソフト事業		
	新規・継続	継続		事業期間	単年度繰返し			事業番号	587		
	会計	一般会計			政策目標	1 安全・安心					
	予算科目	款	3 民生費		施策目標	3 福祉					
	項	1 社会福祉費		基本施策	1 地域福祉の推進						
	目	1 社会福祉総務費		取組方針	2 地域におけるつながりの構築・強化						
事業概要	市民が地域福祉の理解を深め、支え合い助け合う社会を築いてもらうために、市民、職員、社会福祉協議会等が地域福祉計画に基づき、普及・啓発活動や経営支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業	① 第3次紀の川市地域福祉計画の推進			⑤ 社会福祉協議会補助金			⑨				
	② 社会福祉法人監査			⑥ 市民団体活動支援事業補助金			⑩				
	③ 近畿ブロック都市福祉事務所長連絡協議会負担金			⑦ ボランティア連絡協議会補助金			⑪				
	④ 県都市福祉事務所長連絡協議会負担金			⑧ 赤十字奉仕団補助金			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	社会福祉協議会 住民相談件数	目標	150	150	150	150	150	毎週火曜日、心配ごと相談を開設し、弁護士相談をそれぞれ年12回開催している。例年どおり防災行政無線、広報紙、メール配信サービスにより周知を行った。		
			実績	106	129	120					
	<指標の計算方法>		年間延べ件数（心配ごと相談・弁護士相談）								
	成果指標	ボランティア団体 活動回数	目標	110	110	110	180	180	新型コロナウイルス感染症の感染法上の分類が第5類相当に変更されたことに伴い活動を行ったため、令和4年度より回数が増加した。		
			実績	88	99	175					
	<指標の計算方法>		市・各支部の年間活動回数								
	成果指標	赤十字奉仕団活動 回数	目標	50	50	50	70	70	新型コロナウイルス感染症の感染法上の分類が第5類相当に変更されたことに伴い活動を行ったため、令和4年度より回数が増加した。		
			実績	31	45	69					
	<指標の計算方法>		市・各地区赤十字奉仕団の年間活動回数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	153,161			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①第3次紀の川市地域福祉計画の推進 「みんなが安心して暮らせる きのかわ～みんなではぐくむ地域のつながり～」を基本理念として令和5年3月に策定された計画に基づき、それぞれの施策に取り組む。			県内の市福祉事務所の協議会であり、福祉に関する国への要望事項を集約し、課題の検討を行う。 総会 1回 研修会 1回			を行う。 565,000円 会員数 672名（令和5年度末）				
	②社会福祉法人監査 紀の川市が所管する社会福祉法人を対象に指導監査を実施する。 実施件数 3件			⑤社会福祉協議会補助金 運営費及び事業費に対する補助を行い地域における福祉の向上を図る。 123,305,230円			⑧赤十字奉仕団補助金 日本赤十字奉仕団規則の定めるところに基づき、すべての人々の幸せを願い、明るく住みよい社会を築き上げていくための活動に対し、各赤十字奉仕団に補助を行う。 273,000円 団員数 1,398名（令和5年度末）				
	③近畿ブロック都市福祉事務所長連絡協議会負担金 近畿の市福祉事務所の協議会であり、福祉に関する国への要望事項を集約し、検討課題についての研修を行う。 総会 1回 研修会 1回			⑥市民団体活動支援事業補助金 社会福祉協議会による福祉団体支援を目的とするために補助を行う。 26,461,663円							
	④県都市福祉事務所長連絡協議会負担金			⑦ボランティア連絡協議会補助金 市内ボランティア団体のつながりを強めるとともに、地域福祉の理解を深め、支え合い助け合う社会の構築のための活動に対し補助							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある								
		・第3次紀の川市地域福祉計画に基づく事業である。 ・少子高齢化や核家族化、地域の支え合いが希薄化する中で、福祉問題が増加、複雑化する可能性があることから、市民のニーズを的確に把握し、適切に反映させる必要性がある。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・社会福祉協議会が行う相談の目標値は、指標の性質上設定しづらいが、今後も相談件数は増加すると考えられるため、継続が必要である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・地域福祉事業については、市が推進すべき事業であるが、事務分担や委託についても検討、実施が必要である。 ・補助金事業については、会員数の減少により事業等の運営が困難になることも考えられるため、補助金が有効活用され、目的に沿って事業を推進しているか常に検証する必要性がある。										

事務事業の概要	事務事業名	民生委員児童委員活動支援事業			担当課	社会福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	577	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉				
		目	1 社会福祉総務費				基本施策	1 地域福祉の推進				
事業概要	市民が適切な福祉サービスを受けられるように、民生委員児童委員の円滑な活動を支援する事業											
事務事業を構成する細事業	①	市民生委員児童委員連絡協議会活動			⑤				⑨			
	②	単位民生委員児童委員協議会活動			⑥				⑩			
	③	単位民生委員児童委員協議会活動費補助金			⑦				⑪			
	④	民生委員児童委員協議会の互助事業			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	民生委員児童委員協議会定例会・研修会の開催回数	回	目標	60	60	60	60	60	新型コロナウイルス感染症の感染法上の分類が第5類相当に変更されたことに伴い、令和4年度から引続き新型コロナウイルス感染症拡大前の水準に戻すことができた。		
			実績	36	59	58						
	<指標の計算方法>		市民生委員児童委員連絡協議会・各単位民生委員児童委員協議会の年間活動回数									
	成果指標	民生委員児童委員数	人	目標	181	181	181	181	181	退任する委員もいたが、速やかに後任者を決めることができた。		
			実績	181	181	181						
	<指標の計算方法>		紀の川市民生委員児童委員定数181人、委嘱委員数181人、欠員なし									
成果指標	民生委員児童委員年間相談・支援件数	件	目標						各民生委員児童委員からの毎月の活動報告書の合計件数であり、横ばい傾向である。			
		実績	2,412	2,221	2,223							
<指標の計算方法>		各民生委員児童委員からの活動報告書に基づく										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	19,327			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	6,972		
事業の実績	①市民生委員児童委員連絡協議会活動 各単位民生委員児童委員協議会の情報や意見交換を行うため役員会、研修会を行う。			交換を行う。								
	②単位民生委員児童委員協議会活動 委員それぞれの活動を通じて把握する地域の課題を共有し、解決方法について検討する。定例会、研修会を開催し、地域福祉の推進に取り組む。											
	③単位民生委員児童委員協議会活動費補助金 ・打田 3,906,000円 ・粉河 3,123,000円 ・那賀 3,332,000円 ・桃山 3,323,000円 ・貴志川 3,662,000円											
	④民生委員児童委員協議会の互助事業 県が主催する会議、研修に参加し、他市町村の民生委員児童委員協議会と情報や意見											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・社会福祉協議会が事務局を担当している市町村もあるが、民生委員法に基づき委嘱された民生委員児童委員の活動を支援するための事業であり、市が実施主体となることは妥当である。									
		評価結果	改善の余地がややある ・地域を見守り、地域住民の身近な相談相手、専門機関へのつなぎ役として活動しているが、社会情勢の変化とともに問題が複雑化し、住民の相談内容が多岐にわたっている。民生委員児童委員が相談・支援という本来の活動を充実できるように、活動内容を検討する必要がある。									
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・民生委員児童委員協議会が、組織として委員を支え、その活動の強化を図るために関係機関、団体と連携、協働できるように支援するとともに、各種研修会等を開催し委員の資質の向上にも努めているため、その効率性は高い。									

事務事業の概要	事務事業名	戦争被害者等援護事業			担当課	社会福祉課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	585
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉			
		目	1 社会福祉総務費				基本施策	1 地域福祉の推進			
事業概要	戦没者を追悼し、市民（戦争被害者）の福祉の増進を図るため、式典運営を委託する事業										
事務事業を構成する細事業	①	戦没者追悼式			⑤			⑨			
	②	遺族会補助金			⑥			⑩			
	③	原子爆弾被爆者見舞金			⑦			⑪			
	④	戦傷病者等支援・恩給業務			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	戦没者追悼式参加率	目標	20	20	20	20	20	戦没者追悼式は、新型コロナウイルス感染症拡大前の通常開催で行った。第2部に、語り部による「戦争体験談」の平和学習を行った。		
			実績		14.5	17.9					
	<指標の計算方法>		戦没者追悼式参加者（遺族会会員）／遺族会の会員数								
	活動指標	遺族会活動回数	目標	50	50	50	50	50	市遺族会と各支部（5支部）で活動している回数である。令和4年度より活動回数が増加した。		
			実績	26	22	37					
	<指標の計算方法>		市・各支部の年間活動回数（重複事業は除く）								
	成果指標	原子爆弾被爆者見舞金支給率	目標	100	100	100	100	100	岩出保健所へ対象者を確認し、申請から支給までの事務を円滑に実施している。		
			実績	100	100	100					
	<指標の計算方法>		支給件数／対象件数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	2,352			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			11							2,341	
事業の実績	①戦没者追悼式・平和学習 日時：令和5年10月6日（金） 場所：貴志川生涯学習センター かがやきホール 参加者：171名 平和学習：語り部による戦争体験談			保健所へ調査依頼している。							
	②遺族会補助金 856,000円 会員数 809人（令和5年度末） *戦没者家族の福利増進、感謝救済の途を講ずるとともに平和日本の建設に貢献することを目的とした遺族会の活動を補助する。			④戦傷病者等支援・恩給業務 第30回特別給付金受付件数 3件 *戦没者等の妻から申請受付を行い、県へ進達し、裁定後、国債を交付する。							
	③原子爆弾被爆者見舞金 1件あたり 20,000円 支給件数 4件 支給額計 80,000円 *7月1日現在の被爆者健康手帳所持者を岩出										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		理由	・市として先の大戦で犠牲となられた方々に追悼の意を表し、市民に対し平和の尊さを訴え、市民意識の醸成を図ることは必要と考える。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
理由		・終戦から長い年月が経過し、遺族の参加が減少傾向であり、1人でも多く参加してもらう工夫が必要である。 ・遺族が参加するだけでなく、式典等について市民に広報し、広く市民に平和の尊さを訴える機会となるよう検討する余地がある。									
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	理由	・追悼式典等を委託することにより、事務の効率化を図ることが出来ている。									

事務事業の概要	事務事業名	心身障害児（者）医療費助成事業			担当課	国保年金課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	30	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 社会福祉費				施策目標	2 健康・医療				
		目	2 障害者医療費				基本施策	2 地域医療体制・医療保険制度の充実				
取組方針				3 福祉医療費助成の実施								
事業概要	市民（心身障害児・者）の経済的負担を軽減し、受診機会の拡大を図るために、医療費の自己負担分に対し助成を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	受給資格管理			⑤						⑨	
	②	心身障害児（者）医療費助成			⑥						⑩	
	③				⑦						⑪	
	④				⑧						⑫	
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	1人あたりの医療費助成額	円	目標						医療費助成額の増加及び助成対象者数の減少に伴い、1人あたりの医療費助成額は増加した。		
				実績	129,759	131,845	143,498					
	<指標の計算方法>		医療費助成額÷助成対象者数									
	活動指標	助成対象者数	人	目標						令和4年度と比較して減少している。		
				実績	1,777	1,752	1,696					
	<指標の計算方法>		助成対象者数									
活動指標	医療費助成額	千円	目標						令和4年度と比較して増加している。			
			実績	230,582	230,992	243,373						
<指標の計算方法>		医療費助成額										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	251,793			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	185,359		
事業の実績	①受給資格管理 ・助成対象者数			市単独対象								
	県補助対象	769人		(入院)	793件	31,764,922円						
	市単独対象	927人		(外来)	15,195件	44,359,302円						
	合計	1,696人		(歯科)	1,961件	7,551,461円						
				(調剤)	8,916件	25,681,150円						
				(訪問看護)	729件	9,473,161円						
				(その他)	695件	1,626,535円						
				(戻入)		△5,685,454円						
				(合計)	28,289件	114,771,077円						
				総合計	52,177件	243,372,996円						
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市条例及び県要綱に基づき行う事業であり、助成対象者の自己負担分に対し助成を行うことで、安心して医療機関を受診していただくことができるため、心身障害児(者)の福祉向上の観点から妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・医療費助成は、心身障害児(者)世帯の経済的負担の軽減につながっており、障害者の福祉向上の観点から有効な事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・助成対象者が窓口で負担する自己負担分について、医療機関から保険者負担分と自己負担分を合わせて国民健康保険団体連合会又は社会保険診療報酬支払基金に対して診療請求し、保険者から一括して支払う効率的な事務に努めている。また、大量印刷物（受給者証の年次更新）の印刷、封入作業などを外部委託しており、事業効率の改善については余地がない状況である。											

事務事業の概要	事務事業名	老人医療費助成事業		担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	33
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心		
		項	1	社会福祉費		施策目標	2	健康・医療		
		目	3	老人医療費		基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実		
取組方針	3	福祉医療費助成の実施								
事業概要	市民（老人）の経済的負担を軽減し、受診機会の拡大を図るために、医療費の自己負担分の一部に対し助成を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	受給資格管理		⑤			⑨			
	②	老人医療費助成		⑥			⑩			
	③			⑦			⑪			
	④			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析
	活動指標	1人あたりの医療費助成額	円	目標						助成対象者はなかった。
				実績		29,603	27,226			
	<指標の計算方法>		医療費助成額÷助成対象者数							
	活動指標	助成対象者数	人	目標						助成対象者はなかった。
				実績		1	2			
	<指標の計算方法>		助成対象者数							
	活動指標	医療費助成額	円	目標						助成対象者はなかった。
				実績		29,603	54,452			
	<指標の計算方法>		医療費助成額							
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)		財源内訳							
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①受給資格管理									
	・助成対象者数 0人									
事業の実績	②老人医療費助成									
	・医療費助成内訳									
事業の実績	(入院)	0件	0円							
	(外来)	0件	0円							
事業の実績	(歯科)	0件	0円							
	(調剤)	0件	0円							
事業の実績	(その他)	0件	0円							
	(合計)	0件	0円							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
		・市条例及び県要綱に基づき行う事業であり、助成対象者の自己負担分の一部に対し助成を行うことで、安心して医療機関を受診していただくことができるため、老人の福祉向上の観点から妥当な事業である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない							
・医療費助成は、助成対象者の経済的負担の軽減につながっており、老人の福祉向上の観点から有効な事業である。										
効率性	評価結果	改善の余地がない								
	・助成対象者が窓口で負担する自己負担分について、医療機関から保険者負担分と自己負担分を合わせて国民健康保険団体連合会又は社会保険診療報酬支払基金に対して診療請求し、保険者から一括して支払う効率的な事務に努めている。事務効率の改善については余地がない状況である。									

事務事業の概要	事務事業名	国民年金受付事業			担当課	国保年金課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	469	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	社会福祉費		施策目標	2	健康・医療				
		目	4	国民年金費		基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実				
取組方針	9	その他										
事業概要	国民年金制度に基づき、市民が年金を安心して受給できるように、各種届出・申請書の受付等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	国民年金受付			⑤						⑨	
	②	国民年金等相談対応			⑥						⑩	
	③				⑦						⑪	
	④				⑧						⑫	
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	受付進達件数	件	目標						受付進達件数は減少傾向にある。		
				実績	3,480	3,327	3,282					
		<指標の計算方法>	受付件数									
	活動指標	相談件数	件	目標						令和4年度と比較して減少している。		
				実績	4,906	6,225	6,153					
		<指標の計算方法>	相談件数									
				目標								
				実績								
				<指標の計算方法>								
			目標									
			実績									
			<指標の計算方法>									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)				財源内訳							
	645				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①国民年金受付 各種届出・申請書の受付を行った。				◎年金受給者に関する届の受付、送付 ・住所変更届等 78件 ・障害状態確認届（現況届含む） 31件							
	◎国民年金第1号被保険者の異動届・免除申請等の受付、送付 ・異動に関する届 1,261件 ・免除等に関する申請 1,188件 ・死亡一時金請求 7件 ※免除等に関する申請のうち、新型コロナウイルス感染症による特例は14件				◎年金生活者支援給付金請求の受付、送付 ・異動・裁定等による給付金請求 122件 <国民年金受付・送付件数計> 3,282件							
事業の実績	◎国民年金裁定請求の受付、送付 ・裁定請求（高齢・障害・遺族） 65件				②国民年金等相談対応 各種相談に対応した。							
	◎年金受給者死亡後の未支給請求の受付、送付 ・未支給請求（死亡届含む） 530件				◎国民年金に関する相談対応等 5,998件 ◎年金生活者支援給付金に関する相談対応等 155件 <国民年金等相談対応件数計> 6,153件							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・国民年金市町村事務処理基準に基づき実施する事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・国民年金市町村事務処理基準に基づき実施する事業である。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		・事務処理はシステム化され効率化が図られているが、社会保険オンラインシステム可搬型窓口装置を導入予定であり、より一層効率化が見込まれる。										

事務事業の概要	事務事業名	高齢者保健事業			担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1220	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	社会福祉費		施策目標	2	健康・医療				
		目	5	高齢者保健費		基本施策	1	健康づくりと疾病予防				
取組方針	9	その他										
事業概要	和歌山県後期高齢者医療広域連合との委託契約に基づき、高齢者の保健事業と介護予防を庁内関係課が連携し一体的に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	高齢者保健事業			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	高齢者に対する個別の支援（ハイリスクアプローチ）指導利用率	%	目標		30	30	30	30	専門職による健康状態に応じた個別指導等により、健康状態の改善や重症化予防に繋げることが出来た。今後も対象者本人またはその家族に対し指導利用に繋がるようアプローチしていく必要がある。		
				実績		11.2	14					
	<指標の計算方法>		指導利用人数÷対象者									
	成果指標	高齢者に対する個別の支援（ハイリスクアプローチ）健康状態把握率	%	目標		100	100	100	100	関係課と連携し、アンケート調査や個別訪問等により健康状態を把握し、健康課題等がある人に対しては、必要な支援や関係機関に繋げることが出来た。		
実績					69.8	68.3						
<指標の計算方法>		健康状態把握人数÷対象者										
活動指標	通いの場等への積極的な関与（ポピュレーションアプローチ）実施回数	回	目標		30	40	40	40	新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、サロン等の高齢者の集まりが増加したことや、関係課と連携し事業内容の周知を強化するためのチラシを作成したことにより、目標値には達しなかったが各講座開催数の増加に繋がった。			
			実績		15	28						
<指標の計算方法>		講座等開催回数										
コストの実績	R 5年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
	5,450			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	70		
事業の実績	①高齢者保健事業 ②ハイリスクアプローチ（個別相談・指導） 対象者：93人 利用者：13人（14.0%） （内訳） ・低栄養に関する相談・指導 対象者：20人 利用者：2人 ・口腔に関する相談・指導 対象者：62人 利用者：7人 ・服薬に関する相談・指導 対象者：0人 ・糖尿病性腎症重症化予防に関する相談・指導（受診勧奨） 対象者：0人（保健指導） 対象者：11人 利用者：4人			③ハイリスクアプローチ（健康状態不明者の状態把握） 対象者：164人 ・アンケート調査、訪問等による把握：112人（68.3%） ④ポピュレーションアプローチ（集団健康教育） 実施回数：28回 参加人数：延べ277人 （内訳） ・栄養に関する講座：12回 105人 ・口腔に関する講座：4回 27人 ・服薬に関する講座：4回 48人 ・疾病に関する講座：8回 97人								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・医療保険制度の適正かつ効率的な運営を図るための健康保険法等の一部を改正する法律が施行されたことに伴い、和歌山県後期高齢者医療広域連合より委託を受けて実施する事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・和歌山県後期高齢者医療広域連合からの受託により、庁内関係課や関係機関と連携し、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に取り組むことは高齢者の健康の保持増進に有効である。また、高齢者本人に対する事業への参加勧奨、地域で共に暮らすその他の世代にもあわせて事業内容を周知することで、家族等周りの人からの勧めによる事業への参加にも繋がるよう周知用チラシを関係課と連携を取り作成し、全戸配布することで有効性を高めた。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
・和歌山県後期高齢者医療広域連合からの受託により、庁内関係課や関係機関と連携し、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に取り組むことは効率性が高い。												

事務事業の概要	事務事業名	後期高齢者医療事業			担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	463	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 社会福祉費				施策目標	2 健康・医療				
		目	7 後期高齢者医療費				基本施策	2 地域医療体制・医療保険制度の充実				
目				取組方針	9 その他							
事業概要	和歌山県後期高齢者医療広域連合が円滑で安定的な運営が行えるように、事務費等を負担する事業											
事務事業を構成する細事業	①	後期高齢者医療広域連合負担金			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	後期高齢者医療広域連合事務費負担金	千円	目標							県内30市町村の負担額における本市の負担割合は6%台で推移している。	
				実績	10,334	10,149	11,508					
	<指標の計算方法>		負担金額									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	11,508			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			11,508									
事業の実績	<p>①後期高齢者医療広域連合負担金 ・和歌山県後期高齢者医療広域連合の事務的運営経費（一般会計分）として、均等割・後期高齢者人口割・人口割で算出される負担割合で負担金を拠出する。</p> <p>※和歌山県後期高齢者医療広域連合一般会計の事務的運営経費所要額は、189,375,000円で、県内30市町村が負担割合に応じて按分し負担している。</p>											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・和歌山県後期高齢者医療広域連合規約に基づく事務であり、高齢者の医療を確保するために実施する事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・和歌山県後期高齢者医療広域連合規約に基づく事務であり、高齢者の医療を確保するために実施する事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・和歌山県後期高齢者医療広域連合規約に基づく事務であり、高齢者の医療を確保するために実施する事業である。											

事務事業の概要	事務事業名	障害児者支援事業			担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	601
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉			
		目	8 障害者福祉費				基本施策	3 障害者の自立支援			
事業概要	障害児者、障害児者の家族が快適に地域生活を送ってもらえるように、各種サービスの給付・助成を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	障害者手帳等交付			⑤	身体障害者自動車操作訓練費助成		⑨			
	②	福祉タクシー利用・自動車燃料費助成			⑥	身体障害者自動車改造費助成		⑩			
	③	訪問理容サービス利用助成			⑦			⑪			
	④	難聴児補聴器購入費助成			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	障害者手帳所持者数	人	目標	4,650	4,650	4,650	4,650	4,650	身体障害者手帳の所持者数は減少傾向だが、精神障害者保健福祉手帳や療育手帳の所持者数は増加傾向にある。	
			実績	4,642	4,603	4,594					
	<指標の計算方法>		毎年3月31日現在の3障害（身体・療育・精神保健）手帳所持者の合計								
	成果指標	福祉タクシー利用・自動車燃料費助成券申請者数	人	目標	900	950	950	980	980	広報やホームページ、手帳交付時に周知を図り、申請に繋げている。	
			実績	931	913	896					
	<指標の計算方法>		助成券の交付申請をした人数								
	成果指標	訪問理容サービス利用申請者数	人	目標	5	10	11	11	11	対象者が限定されているため、年度初めに広報等で周知を図るが、新規申請者数の拡大には繋がらなかった。	
			実績	10	11	8					
	<指標の計算方法>		訪問理容サービスの利用申請をした障害のある人の人数								
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	6,746			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	6,669	
事業の実績	①障害者手帳等交付 ・障害者手帳所持者数 身体障害者手帳 3,145人 療育手帳 824人 精神障害者保健福祉手帳 625人 計 4,594人			⑤身体障害者自動車操作訓練費助成 ・受給者数 0人							
	②福祉タクシー利用・自動車燃料費助成 ・申請者数 福祉タクシー利用券 133人 (初乗り料金20回分/人) 自動車燃料券 763人 (ガソリン40L分/人) 計 896人			⑥身体障害者自動車改造費助成 ・受給者数 0人							
	③訪問理容サービス利用助成 ・申請者数 8人(延利用回数13回)										
	④難聴児補聴器購入費助成 ・受給者数 3人(購入2人、修理1人)										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・障害のある人が住み慣れた地域で日常生活を営むため、利用者のニーズに寄り添えるように必要なサービスを提供している。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・障害のある人の社会参加と生活の質の向上、またその家族の自己負担減につながっている。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・地域や社会情勢の変化に応じ、障害のある人の社会参加と生活の質の向上に必要なサービスの提供体制を整える必要がある。 ・福祉タクシー及び自動車燃料費助成について助成要件を変更することにより、対象者を広げ障害福祉サービスの向上を図る。										

事務事業の概要	事務事業名	障害児者手当等給付事業			担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	605
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉			
		目	8 障害者福祉費				基本施策	3 障害者の自立支援			
事業概要	障害児者、障害児者の家族の経済的負担の軽減を図り、自立した生活を送ってもらえるように、各種手当の給付を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	特別障害者手当給付			⑤	特別児童扶養手当給付		⑨			
	②	福祉手当給付（経過措置分）			⑥			⑩			
	③	障害児福祉手当給付			⑦			⑪			
	④	心身障害児扶養手当給付			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	特別障害者手当受給者数	人	目標	50	50	50	50	50	重複障害者など、重度の障害を持つ人に限定されている。令和5年度は、長期入院のために喪失となる件数が多く、一方で新規申請については却下となる割合も高かった。よって、例年と比べ受給者数の減少となった。	
			実績	46	46	42					
	<指標の計算方法>		特別障害者手当受給者数(3月末現在)								
	成果指標	障害児福祉手当受給者数	人	目標	25	23	23	20	20	重度の障害を持つ児童が対象で、受給者は限定されている。令和5年度は新規申請が無く、死亡や20歳到達により受給資格喪失となり、受給者数の減少となった。	
			実績	18	17	13					
	<指標の計算方法>		障害児福祉手当受給者数(3月末現在)								
	成果指標	心身障害児扶養手当受給者数	人	目標	145	145	145	145	145	小児慢性特定疾病等の対象者は、保健所との連携が上手く図れており申請に繋がっている。人口は減少しているが、受給者数は大きな増減はない。	
			実績	156	136	140					
	<指標の計算方法>		心身障害児扶養手当受給者数(3月末現在)								
活動指標	特別児童扶養手当受給者数	人	目標	130	130	130	140	140	障害者手帳判定時や病院等で障害の状況に応じて手当の案内があり、新規認定申請に繋がっている。		
		実績	123	137	148						
<指標の計算方法>		特別児童扶養手当事務取扱交付金の算定対象件数(12月31日現在)									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	24,443			国庫支出金	12,799	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	11,644
事業の実績	①特別障害者手当給付 「特別児童扶養手当等の支給に関する法律」に基づく特別障害者手当を支給 ・受給者数(3月末現在)：42人		身体3～6級、療育B1・B2、精神2・3級：110人 指定難病、小児慢性特定疾患等：29人								
	②福祉手当給付（経過措置分） 「国民年金法等の一部を改正する法律」に基づく福祉手当を支給 ・受給者数(3月末現在)：0人		⑤特別児童扶養手当給付 申請書の受理及び受給者証等の交付の事務を処理 ・受給者数(12月末現在)：148人								
	③障害児福祉手当給付 「特別児童扶養手当等の支給に関する法律」に基づく障害児福祉手当を支給 ・受給者数(3月末現在)：13人(内1人停止中)										
	④心身障害児扶養手当給付 障害等のある人の経済的負担を軽減するため、市単独の手当を支給 ・受給者数(3月末現在)：140人 身体1・2級、療育A1・A2、精神1級：1人										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・特別障害者手当、福祉手当（経過措置）、障害児福祉手当、特別児童扶養手当は、それぞれ法定手当であり実施は妥当である。 ・心身障害児扶養手当は、法定手当の受給資格に該当しない障害児やその家族の経済的負担の軽減に繋がっている。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・障害を持ちながら在宅で生活している障害児者や障害児者の家族の経済的負担が軽減される。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・受給資格を有する障害児者に対し、手当の申請案内を確実に実施するとともに、申請時には手帳の判定や意見書を精査することで、適正な手当の支給に繋がることができている。										

事務事業の概要	事務事業名	障害者団体運営支援事業			担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	611
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉			
		目	8 障害者福祉費				基本施策	3 障害者の自立支援			
事業概要	障害児者、障害児者の家族が各種団体活動や社会活動に参画できるように、障害者団体の活動に対する補助や支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	身体障害者連盟補助金			⑤				⑨		
	②	精神障害者家族会補助金			⑥				⑩		
	③	障害児者父母の会補助金			⑦				⑪		
	④	聴覚障害者協会補助金			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	身体障害者連盟への交付補助金額	円	目標	1,150,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行となり、予定していたスポーツ大会や研修会等が開催された。会員相互や地域の小・中学校の児童と交流を図れ、事業に要する費用が増加となった。	
			実績	439,000	485,000	673,000					
	<指標の計算方法>		身体障害者連盟への補助金額								
	活動指標	障害児者父母の会への交付補助金額	円	目標	1,388,000	1,388,000	1,388,000	1,388,000	1,388,000	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行となり、県親子のつどい・市親子のつどいや研修会等が開催された。会員相互の交流、親睦を活発に行った。	
			実績	359,000	1,380,000	1,379,000					
	<指標の計算方法>		障害児障害者父母の会への補助金額								
	成果指標	身体障害者連盟の会員数	人	目標	550	550	550	550	550	会員の高齢化に伴い会員数は減少傾向にある。地域の小・中学校や、各種大会での啓発活動を行っているが会員数増加には繋がっていない。今後も会員数増加に向けて啓発活動に取り組む予定である。	
			実績	426	393	328					
	<指標の計算方法>		身体障害者連盟の会費徴収対象となる会員数								
成果指標	障害児者父母の会の会員数	家族	目標	60	60	60	60	60	支援学校等での啓発活動等を実施しているが、会員数増加には繋がっていない。今後も会員数増加に向けて啓発活動に取り組む予定である。		
		実績	51	50	50						
<指標の計算方法>		障害児者父母の会の会費徴収対象となる会員数									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	2,340			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,340	
事業の実績	①身体障害者連盟補助金 ・会員数 328人										
	②精神障害者家族会補助金 ・会員数 31人										
	③障害児者父母の会補助金 ・会員数 50人										
	④聴覚障害者協会補助金 ・会員数 14人										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・障害者の会員相互の交流や親睦を図り、社会参加の促進と福祉の向上に繋がる事業である。								
		評価結果	改善の余地がややある ・障害者の社会参加の促進と福祉の向上に一定の効果をあげている。 ・「身体障害者連盟」「障害児者父母の会」への若年層の参加を促す活動内容について、地域の学校や支援学校等での啓発活動を見直し、更なる充実等を促進していく必要がある。								
	効率性	評価結果	改善の余地がややある ・各団体の会員数が減少している状況を鑑み、事務局と協議しながら事業内容等を見直し、障害者の社会参加の促進と福祉の向上に向けた活動を推進する必要がある。								

事務事業の概要	事務事業名	障害福祉計画等策定事業			担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度のみ		事業番号	981	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	社会福祉費		施策目標	3	福祉				
		目	8	障害者福祉費		基本施策	3	障害者の自立支援				
取組方針	2	地域で自立した生活をするための支援										
事業概要	紀の川市障害者基本計画の基本理念を実現するため、障害児者福祉施策の推進についての取組を定めた障害福祉計画と障害児福祉計画を一体化した計画策定を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	障害福祉計画策定事業			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	障害福祉計画・障害児福祉計画策定	件	目標				1			前計画の進捗状況などについて把握、分析を行い、障害福祉サービス等の具体的な数値目標を設定。	
				実績				1				
	<指標の計算方法>		障害福祉計画及び障害児福祉計画の策定件数									
	活動指標	障害福祉計画・障害児福祉計画配布部数	部	目標				300				関係機関に配布するとともに、ホームページ等を通じて広く一般に周知した。
				実績				280				
	<指標の計算方法>		障害福祉計画及び障害児福祉計画の配布部数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	341			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	341		
事業の実績	①障害福祉計画策定事業 ・第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画策定(計画年度：令和6年度～令和8年度) 作成部数：500部 配布先：関係官公庁、障害福祉サービス事業所、障害児通所施設ほか											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・国の基本方針や「第2次紀の川市障害者基本計画」など関連する計画とも連携して、障害福祉サービス等の提供に関する具体的な体制づくりやサービス等を確保するための方策等を示す実施計画であるため妥当性がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・障害児者施策に対するニーズが多様化する中、障害福祉サービスの具体的な体制づくりやサービス等の確保、障害児の支援の方策を定め、本計画を推進する必要がある。 ・計画の進捗状況などについて把握、分析を行うとともに、事業の改善内容を次回の福祉計画へ反映させる取組の強化が必要である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・コスト削減のため事業を委託せず実施したが、策定した計画を着実に推進していくことで市全体の障害福祉サービス等向上が図られる。											

事務事業の概要	事務事業名	障害福祉サービス等給付事業		担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	614	
	予算科目	款	3 民生費		長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 社会福祉費			施策目標	3 福祉				
		目	9 障害者総合支援費			基本施策	3 障害者の自立支援				
事業概要	障害児者が地域で自立した生活を送ってもらえるように、障害福祉サービスの給付を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	障害支援区分認定審査会運営		⑤	障害者補装具給付		⑨				
	②	認定調査業務		⑥			⑩				
	③	障害福祉サービス給付		⑦			⑪				
	④	高額障害福祉サービス等給付		⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	認定調査件数	目標	200	200	200	210	220	区分更新による認定調査の件数が例年より多かったため全体的に調査件数が増加している。		
			実績	193	186	234					
	<指標の計算方法>		年間認定調査件数								
	成果指標	障害福祉サービスの延利用者数	目標	8,900	9,200	10,200	10,500	11,000	生活介護、就労継続支援B型やグループホームで事業所の増加、また就労系サービスの在宅利用により利用者が増加している。		
実績			9,616	10,120	10,950						
<指標の計算方法>		障害福祉サービスの延利用者数									
成果指標	就労移行支援の利用者数	目標		21	21	25	25	障害のある人の社会参加の状況を図る指標であり、事業内容が広く認知されてきたことで一定数が利用し増加となっている。			
		実績	16	18	26						
<指標の計算方法>		就労移行支援の実利用者数									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)		財源内訳								
	1,569,780		国庫支出金	750,739	県支出金	392,501	地方債	繰入金	その他	一般財源	426,540
事業の実績	①障害支援区分認定審査会運営		居宅介護	177人・1,550人	④高額障害福祉サービス等給付						
	<ul style="list-style-type: none"> 審査委員 10人 (1班 5人、2班 5人) 開催回数 12回 (月1回) 審査件数 189件 (内訳) 身体 41件、知的 83件、精神 63件、難病 2件 主治医意見書依頼件数 189件 		<ul style="list-style-type: none"> 重度訪問介護 6人・65人 行動援護 1人・12人 同行援護 12人・114人 生活介護 167人・1,875人 療養介護 (福祉分) 15人・171人 短期入所 35人・244人 共同生活援助 87人・892人 施設入所支援 64人・735人 就労移行支援 26人・175人 就労継続支援A型 110人・1,032人 就労継続支援B型 205人・2,049人 就労定着支援 3人・34人 自立訓練 (機能訓練) 1人・9人 自立訓練 (生活訓練) 27人・177人 宿泊型自立訓練 0人・0人 自立生活援助 0人・0人 計画相談支援 597人・1,816人 地域相談支援 0人・0人 	<ul style="list-style-type: none"> 高額の障害福祉サービス等給付 実受給者 4人 (延受給者 43人) 新高額障害福祉サービス等給付 実受給者 11人 (延受給者 108人) 							
事業の実績	②認定調査業務		<ul style="list-style-type: none"> 認定調査員 (職員) 5人 (内会計年度任用職員 1名) 認定調査件数 (児童除く) 234件 (内相談事業所委託分 152件) (内訳) 一次判定分 42件 二次判定分 192件 (審査会) 			⑤障害者補装具給付		<ul style="list-style-type: none"> 補装具給付件数 購入・修理・借受 義肢 (義足、義手等) 2件・4件・0件 装具 (下肢、体幹等) 11件・13件・0件 座位保持装置 (椅子含む) 8件・9件・0件 視覚障害者安全つえ等 2件・0件・0件 眼鏡 2件・1件・0件 補聴器 20件・18件・0件 車いす (電動含む) 7件・20件・0件 その他補装具 4件・0件・0件 			
	③障害福祉サービス給付		<ul style="list-style-type: none"> 障害福祉サービス利用者数 実利用者・延利用者 								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス給付事業である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
		<ul style="list-style-type: none"> 障害児者が地域社会で自立した生活を営めるよう、それぞれの実情に合わせた最適なサービスを見極め提供されており、サービス利用者の増加につながっている。 障害福祉サービス利用について、その人が必要とするサービスを聞き取り、適したサービス量を提供するとともに、サービス提供事業所からの請求等を精査することで、不適切もしくは過剰なサービス提供を防止し、事業効果を向上させる。 									
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
		<ul style="list-style-type: none"> 障害福祉サービスの受給者が年々増加しており、専門的な知識を有する業務については、外部業者に委託し業務の効率化を図る必要がある。 									

事務事業の概要	事務事業名	障害児通所給付事業			担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	847	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉				
		目	9 障害者総合支援費				基本施策	3 障害者の自立支援				
事業概要	障害児が早期からの療育を受け、自立した生活を送ってもらえるように、支援施設への通所サービスの給付を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	障害児通所給付			⑤				⑨			
	②	高額障害児通所給付			⑥				⑩			
	③	児童発達支援センター利用者負担減額助成			⑦				⑪			
	④	教育・保育施設等物価高騰対策補助金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	児童調査件数	件	目標	60	70	70	70	70	令和5年度の新規申請件数は前年度より増加している。乳幼児期からの発達支援として早期の療育につながっている。		
			実績	69	51	62						
	<指標の計算方法>		障害児通所給付の新規申請児童に対する調査件数									
	成果指標	児童発達支援利用者数	人	目標	115	140	140	130	130	児童発達支援事業の利用者数は前年度に比べると減少したが、療育が必要な児童が早期に利用できている。		
			実績	136	115	99						
	<指標の計算方法>		児童発達支援を利用した実人数									
	成果指標	障害児相談支援利用者数	人	目標	157	190	190	200	200	障害児相談支援利用者数は年々増加傾向にあり、個人にあった障害児通所給付につながっている。		
			実績	189	217	257						
	<指標の計算方法>		障害児相談支援を利用した実人数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
		456,355		223,950	111,825					120,580		
事業の実績	①障害児通所給付 障害または発達に遅れのある児童に、通所等による適正な療育サービスを給付 ・児童調査件数 62件 ・障害児通所給付利用者数 実利用者(延利用者) 児童発達支援 99人(988人) 放課後等デイサービス 196人(2,081人) 保育所等訪問支援 42人(74人) 障害児相談支援 257人(607人)											
	②高額障害児通所給付 ・実受給者 5人(延受給者 44人)											
	③児童発達支援センター利用者負担減額助成 ・実受給者 0人											
	④教育・保育施設等物価高騰対策補助金 ・児童発達支援センター 2園											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・児童福祉法で定められている事業である。									
		評価結果	改善の余地がない ・障害児または発達の遅れのある児童の早期療育に繋がられている。									
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・障害児または発達に遅れのある児童の早期療育や発達支援として適切な支援内容であり、適切に障害児通所支援サービス等を利用できるようサービス利用計画にて精査し、事業コストの効率化に繋げる。									

事務事業の概要	事務事業名	障害者地域生活支援事業		担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号		
	予算科目	款	3 民生費		長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心		982		
		項	1 社会福祉費			施策目標	3 福祉				
		目	9 障害者総合支援費			基本施策	3 障害者の自立支援				
目	9 障害者総合支援費		取組方針	2 地域で自立した生活をするための支援							
事業概要	障害児者、障害児者の家族が住み慣れた地域で自立した生活を送ってもらえるように、相談、各種サービス給付等を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	地域生活支援事業給付		⑤	巡回支援専門員整備		⑨				
	②	高額地域生活支援給付		⑥	重度障害者日常生活用具給付		⑩				
	③	障害者相談支援事業委託		⑦	訪問入浴サービス事業		⑪				
	④	障害者地域活動支援センター運営委託		⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	地域生活支援事業支給決定者数	人	目標	290	290	290	290	290	新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、利用者が増加した。	
			実績	250	191	262					
	<指標の計算方法>		地域生活支援事業支給決定者数（移動支援・日中一時支援・生活支援それぞれの12月時点における決定者数の合計）								
	成果指標	地域生活支援事業実利用者数	人	目標	220	220	220	220	220	決定者数に対して実利用者に差が生じるのは、自立に向かい利用を必要としなくなった者、精神障害等の悪化、難病や障害により入院して利用を中断した者と考えられる。	
			実績	156	154	156					
	<指標の計算方法>		地域生活支援事業を利用した人数（移動支援・日中一時支援・生活支援それぞれの利用人数の合計）								
	活動指標	巡回支援専門員整備事業巡回回数	回	目標	27	30	30	30	30	巡回を希望した保育所（園）、幼稚園の全てに対応でき、新型コロナウイルス感染症の影響で実施されなかった研修を令和5年度は実施できた。今後も同様の目標値を見込む。	
			実績	8	13	17					
	<指標の計算方法>		巡回支援専門員が巡回した保育所（園）・幼稚園の延べ箇所数								
成果指標	基幹相談センター相談人数	人	目標	7,900	7,900	7,900	7,900	7,900	基幹相談支援センターとして、必要に応じ、各指定特定相談支援事業所の相談に応じている。また、例年相談件数が増え、相談内容も社会情勢に合わせ複雑化・多様化してきている。		
		実績	8,939	6,346	6,649						
<指標の計算方法>		年間延べ相談人数									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
	100,867			25,069	20,649				55,149		
事業の実績	①地域生活支援事業給付		・設置場所 麦の郷紀の川生活支援センター		・人員体制 5人 (常勤専従3人、常勤兼務2人)		等の支援を行う。				
	・障害者移動支援事業 実利用者 112人 延利用時間 9,526H		④障害者地域活動支援センター運営委託		創作的活動や生産活動、地域との交流促進等の活動を支援する場として、地域活動支援センターを開設し、その運営を委託。		⑥重度障害者日常生活用具給付				
	・日中一時支援事業 実利用者 27人 延利用時間 2,355H		・開所日数 242日		・実利用者 77人(延利用者 7,036人)		・給付件数				
・障害者生活支援事業 実利用者 17人 延利用時間 1,189H		・委託先 (社福)一麦会		・設置場所 麦の郷紀の川生活支援センター		・人員体制 8人 (常勤専従3人、常勤兼務2人、非常勤専従3人)		ストーマ用器具 1,128件 紙おむつ 447件 電気式たん吸引器 3件 入浴補助用具 6件 情報通信支援用具 4件 特殊寝台 3件 その他生活用具 9件 合計 1,600件			
②高額地域生活支援給付 実受給者 1人(延受給者 2人)		⑤巡回支援専門員整備		発達障害の専門知識を有する専門員が、保育所等の施設を巡回し、施設の担当職員に対し、障害の早期発見や早期対応のための助言		⑦訪問入浴サービス事業 ・実人数 3人(延 202回)					
③障害者相談支援事業委託 障害者地域生活相談支援業務及び紀の川市基幹相談支援センター業務を委託。		・開所日数 241日		・実相談者 378人(延相談者 6,649人)		・委託先 (社福)一麦会					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・障害者総合支援法に基づき市町村が実施する事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・障害児者の自立と社会参加の促進、障害児者を抱える家族の負担軽減に繋がっている。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・障害児者への支援内容や請求内容等について、サービス提供事業所へ適宜指導を行うことで、不適切なサービス提供を防止し、事業コストの効率化につなげる。										

事務事業の概要	事務事業名	障害者権利擁護事業			担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	631
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉			
		目	9 障害者総合支援費				基本施策	3 障害者の自立支援			
事業概要	障害児者の権利や財産を擁護するために各種支援を行い、市民に対し障害者理解のための広報や啓発を行う事業										
事務事業を構成する細事業	① 成年後見制度利用支援			⑤ 障害者差別解消			⑨ 相談員設置				
	② 障害者虐待防止対策支援事業			⑥ 障害者意思疎通支援			⑩				
	③ 理解促進研修・啓発事業			⑦ 手話奉仕員養成・手話啓発普及			⑪				
	④ 自発的活動支援事業			⑧ 障害者相談			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	成年後見人市長審判請求件数	目標	2	2	2	2	2	令和5年度は市長審判請求の実績はなかった。市長申立てまではいかないものの、支援者や家族等のいない障害者に関する相談は増加している。		
			実績	1	0	0					
	<指標の計算方法>		市長審判による請求した件数								
	活動指標	手話奉仕員養成に関する講座数	目標	3	3	4	4	4	令和5年度より入門課程と基礎課程は岩出市との協働で受講者を受け入れ実施し、また市単独でステップアップコースを2コース実施。講座を通して聴覚障害者や手話に対する理解を広めていく必要がある。		
			実績	3	4	4					
<指標の計算方法>		入門講座、基礎講座、ステップアップ講座などの講座数									
成果指標	手話奉仕員養成講座修了者の割合	目標	100	100	100	100	100	開催の周知方法や開催方法を工夫し、岩出市との協力体制により相互に受講者を受け入れたことにより、受講者の確保につながった。8割以上の受講生は学習意欲が高く、修了することが出来ている。			
		実績		87	89						
<指標の計算方法>		手話奉仕員養成講座（入門課程・基礎課程）の受講修了者／受講者数									
成果指標	理解促進研修・啓発事業の参加者数	目標	0	800	800	800	800	障害のある人への理解促進を図るため、啓発方法や内容を工夫することで参加者数を増やしていく必要がある。			
		実績	184	206	282						
<指標の計算方法>		理解促進研修・啓発事業の参加合計人数									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
3,480			707	594					2,179		
事業の実績	①成年後見制度利用支援 ・市長審判請求支援件数 0件 ・成年後見人等報酬助成金給付 1件			・防災部会展示会 ○開催日 令和6年2月22日 テーマ みんなの防災展示会 ～災害への備え2024～ 参加者 121名			手話通訳士(者)支援件数 115件 要約筆記者支援件数 11件				
	②障害者虐待防止対策支援事業 ・紀の川市障害者虐待防止センターの設置 通報件数6件(内虐待認定件数2件)			④自発的活動支援事業 ・協議会運動会 ○開催日 令和5年10月25日 場 所 紀の川市民体育館 参加者 70名			⑦手話奉仕員養成・手話啓発普及 ・手話奉仕員養成講座入門課程 受講者 23人(内修了者20人) ・手話奉仕員養成講座基礎課程 受講者 23人(内修了者21人) ・ステップアップ講座 受講者 木曜コース 11人 土曜コース 17人 ・夏休み手話教室(2日間) 受講者 8人 ・手話出前講座 延22件 受講者 延383人				
③理解促進研修・啓発事業 ・講演(研修)会の開催 ○開催日 令和6年1月16日 テーマ 高次脳機能障害の理解と就労支援について 参加者 35名 ○開催日 令和6年3月9日 テーマ 医療的ケア児って、どんな子どもなの? 参加者 72名 ○開催日 令和6年3月18日 テーマ あなたにも知ってほしいピアサポーターのこと 参加者 54名			⑤障害者差別解消 ・那賀圏域障害者差別解消支援地域協議会 ○開催日 令和5年11月30日 テーマ 医療観察制度を通じて障害者差別を考える 参加者 41名			⑧障害者相談 ・来所：延30件、訪問：延3件、電話：延303件 ⑨相談員設置 ・身体障害者相談員 7人(延相談件数 18件) ・知的障害者相談員 5人(延相談件数 14件)					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・地域社会全体に、障害児者の理解を促進することで、障害者差別の解消や障害者虐待の防止につなげ、障害児者の人権擁護と福祉の向上を図る事業である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある ・障害児者の権利擁護を促進するため、中核機関である紀の川市社会福祉協議会と連携し、より有効的な成年後見制度の普及啓発を行うことが求められる。 ・手話を続けて学ぼうとする意欲を持ち続けてもらうために、定期的な周知および学習機会の場を提供していく必要がある。								
	効率性	評価結果	改善の余地がややある ・外部講師に依頼することで、準備等に時間をとられることなく効率的に手話学習の場を提供できる。ステップアップ講座の内容をより充実させるためには、継続して外部講師に依頼し、講師自身のスキルアップも求めなければならない。								

事務事業の概要	事務事業名	障害者自立支援医療費等給付事業			担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	638	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉				
		目	9 障害者総合支援費				基本施策	3 障害者の自立支援				
事業概要	障害児者が必要な治療を受け、地域で健康的に暮らしているように、医療費の一部助成を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 更生医療給付		⑤					⑨				
	② 育成医療給付		⑥					⑩				
	③ 療養介護医療給付		⑦					⑪				
	④ 精神通院医療給付		⑧					⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	更生医療給付決定件数	目標	430	430	430	430	430	医療機関と連携を図りながら給付決定を行っている。更生医療を必要とする申請者数はやや減少傾向にある。			
			実績	410	385	384						
	<指標の計算方法>		更生医療給付決定件数（実績報告）									
	成果指標	育成医療給付決定件数	目標	30	20	20	20	20	疾患や治療内容で給付対象が限定されており、育成医療を必要とする申請者数は申請状況によって増減する。			
実績			7	21	12							
<指標の計算方法>		育成医療給付決定件数（実績報告）										
成果指標	療養介護給付受給者数	目標	13	14	14	14	14	病院等で長期入院による医療に加え、常時介護が必要な重度の障害者が受給対象者と限定されており、目標値及び実績値に大きな増減はない。				
		実績	14	14	15							
<指標の計算方法>		療養介護給付受給者数（実績報告）										
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
58,249			27,215	13,867						17,167		
事業の実績	① 更生医療給付 身体上の障害を取り除いたり軽減して日常生活を容易にする医療等にかかる費用について、利用者の自己負担を軽減するための給付・給付決定件数（実受給者） 内臓障害(心臓) 74件 (52人) 内臓障害(透析) 283件 (218人) 肢体不自由 21件 (24人) 免疫機能障害 6件 (4人)			③ 療養介護医療給付 医療機関で機能訓練や療養上の管理、看護、介護及び日常生活支援を受けた場合の医療にかかる費用を給付 ・受給件数 168件（実受給者 15人）			④ 精神通院医療給付 各種申請を受け付け、県の支給認定を受けた後、受給者証の交付を実施 ・申請等受付状況 新規 131件 更新 775件 変更 237件					
	② 育成医療給付 児童の身体上の障害を取り除いたり軽減して日常生活を容易にする医療等にかかる費用について、利用者の自己負担を軽減するための給付・給付決定件数（実受給者） 視覚障害 0件 (3人) 聴覚・平衡機能障害 0件 (0人) 音声・言語・そしゃく機能障害 8件 (7人)											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・障害者総合支援法に基づく事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・心身上の障害を取り除いたり、軽減して日常生活を容易にするための医療費に係る自己負担が軽減できている。										
効率性	評価結果	改善の余地がない										
		・申請書だけではなく医療機関からの意見書及び所得等により、市で判定を行っている。また、内容によっては県へ判定依頼等を行い、適正に実施することが出来ている。										

事務事業の概要	事務事業名	障害者施設運営等支援事業			担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	634	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉				
		目	9 障害者総合支援費				基本施策	3 障害者の自立支援				
事業概要	ひきこもり状態にある人や障害者等の相談に応じるとともに、居場所を確保するための障害者等の施設の運営支援や補助を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	ひきこもり支援ステーション事業			⑤					⑨		
	②	障害者グループホーム等整備事業補助金			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	ひきこもり支援ステーション事業の居場所利用者数	人	目標	15	20	20	20	20	ひきこもり者の居場所として、個々の状態に合わせた様々な取り組みが実施されている。居場所利用者数は若干減少した。		
				実績	11	19	13					
	<指標の計算方法>		市が委託するひきこもり支援ステーション事業の居場所を利用した実人数									
	活動指標	ひきこもり支援ステーション事業における相談等延べ人数	人	目標	450	500	600	600	600	ひきこもり者やその家族からの相談内容は様々であり、長時間のかかりが必要である。今後も相談のニーズは高いと考えられるが、相談等延べ人数は若干減少した。		
				実績	543	592	588					
	<指標の計算方法>		市が委託するひきこもり支援ステーション事業の相談・支援延べ人数									
	成果指標	障害者グループホーム定員数	人	目標	65	75	110	110	110	市内に新規設立のグループホームは0件で、既存のグループホームの増設も0件である。		
				実績	88	107	107					
	<指標の計算方法>		市内の障害者グループホームの定員数									
成果指標	障害者グループホーム新設数	箇所	目標	1	1	1	1	1	市内に新規設立のグループホームは0件で、障害者グループホーム等整備事業補助金の申請はなかった。			
			実績	2	1	0						
<指標の計算方法>		市内の障害者グループホーム新設数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	7,993			国庫支出金	3,997	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,996	
事業の実績	①ひきこもり支援ステーション事業 ひきこもり状態にある者及びその家族に対する支援を実施 ・事業内容 ひきこもり相談、居場所提供、地域ネットワークの構築 自立・就労コーディネーター ・事業委託先 (社福)一麦会 ・設置場所 麦の郷 ハートフルハウス創 (粉河853-3) ・利用者数 ひきこもり相談 (実) 37人 (延) 588人 居場所の利用 (実) 13人 (延) 312人											
	②障害者グループホーム等整備事業補助金 補助件数 0件 ※補助対象外のグループホーム新設 0箇所 既存のグループホーム増設 0箇所											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・ひきこもり状態にある人の居場所としての役割は大きい。今後も多様な相談に応じ、ひきこもり状態にある人の社会参加を支持する事業として継続していく必要がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・ひきこもり状態にある人とその家族への支援は、面談だけでなく訪問やメールなど個々のニーズに応じて様々な方法で実施しているが、長期的なかかりが必要であり、関係機関と連携しながら継続して支援していく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・生活困窮者就労準備支援事業等補助金の国庫補助を活用し、ひきこもり支援ステーション事業として効率的に事業実施ができています。											

事務事業の概要	事務事業名	老人福祉施設入所支援事業			担当課	高齢介護課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	640	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉				
		目	10 老人福祉費				基本施策	2 高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進				
取組方針	3 高齢者の尊厳への配慮と安全・安心な生活環境の確保											
事業概要	市民（入所対象者等）が安心して生活を送れるように、老人福祉施設への入所に関する支援や拠点施設の運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	老人ホーム入所判定委員会運営			⑤	高齢者向け優良賃貸住宅家賃減額補助金		⑨				
	②	老人福祉施設入所者負担金徴収			⑥			⑩				
	③	生活支援ハウス運営事業委託			⑦			⑪				
	④	老人福祉施設入所者措置			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	生活支援ハウス利用率	目標						令和5年度は入居者が1名増えたが3名の退去者がいたため入所率は減少した。			
			実績	54.9	46.9	33.8						
	<指標の計算方法>		年間延べ利用日数 ÷ (365日 × 施設定員数 (10人))									
	活動指標	高齢者向け優良賃貸住宅利用率	目標						令和5年度は11名が退去し13名が入居したため、利用率は増加した。3月末時点では、16/20(部屋)の利用である。			
			実績	67.3	56	73.9						
<指標の計算方法>		年間延べ利用日数 ÷ (365日 × 施設定員数 (20人))										
活動指標	養護老人ホーム入所者措置数	目標						死亡による退所者が6名となり措置数は減少となったが、虐待や緊急処置により急増することも考えられる。				
		実績	44	41	37							
<指標の計算方法>		養護、特別養護老人ホームへの入所措置数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	87,694			国庫支出金	1,420	県支出金	地方債	繰入金	14,227	その他	72,047	
事業の実績	①老人ホーム入所判定委員会運営 入所措置、措置継続の要否判定 委員数 8人・入所措置 4人			退所者 8人 ⑤高齢者向け優良賃貸住宅家賃減額補助金 高齢者向け優良賃貸住宅家賃減額補助金交付 ・3月末実人数 16人 ・延べ利用日数 5,399日								
	②老人福祉施設入所者負担金徴収 収入申告による負担金決定と徴収											
	③生活支援ハウス運営事業委託 利用者承認、生活支援ハウス運営委託 ・3月末実人数 2人 ・実利用人数 5人 ・延べ利用日数 1,233日											
	④老人福祉施設入所者措置 3月末措置者数(4施設) 37人 ・養護老人ホーム 白水園 30人 ・養護老人ホーム 喜望園 2人 ・養護老人ホーム 橘寮 1人 ・養護老人ホーム 大日山荘 4人 年間入所者 4人											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・老人福祉法に基づき事業を実施しており、市が事業主体となるのは妥当である。 ・「地域包括ケアシステム」の構築には、「医療」「介護」「介護予防」「住まい」「生活支援」のサービスが一体的に切れ目なく提供される必要があるが、本事業においては「住まい」の部分で欠かすことの出来ない事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・高齢者虐待や家庭事情などにより、居宅での生活が困難と判断した高齢者に対し、安心安全な生活を確保する上で有効である。 ・生活全般に自立している方は、本人の自立度により「生活支援ハウス」を活用してもらえるように支援していく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・措置費等については、国や県の基準に基づき設定され、収入等に応じた受益者負担を求めている。 ・事業実施にあたっては、必要最小限の人員で対応している。											

事務事業の概要	事務事業名	介護予防・高齢者自立支援事業		担当課	高齢介護課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	649	
	予算科目	款	3 民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1 社会福祉費		施策目標	3	福祉				
目	10 老人福祉費	基本施策	2		高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進						
目	10 老人福祉費	取組方針	1		高齢者の生きがいづくりと社会参加の推進						
事業概要	市民（高齢者）が住み慣れた地域で自立した日常生活を送れるように、各種サービスの提供を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	生活管理指導短期宿泊			⑤	高齢者居宅改修補助金			⑨	認知症高齢者等賠償責任保険事業	
	②	外出支援サービス			⑥	老人日常生活用具給付			⑩	就労的活動支援事業	
	③	防災力向上事業			⑦	高齢者訪問理髪サービス利用助成券給付			⑪	自立支援型介護予防通所介護事業所認定	
	④	緊急通報体制整備			⑧	介護予防事業委託			⑫	フレイル予防推進事業	
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	外出支援サービス利用者数	人	目標	50	50	50	50	50	一般公共交通機関を利用することができない要介護4・5と認定された方を自宅から医療機関へ送迎するサービス。目標値は実績を元に設定したが、令和5年度は事業所から人員不足による事業縮小の報告を受け、利用者数が微減したと考える。	
			実績	47	42	33					
	<指標の計算方法>		年間利用実人数								
	活動指標	救急情報キット配布数	世帯	目標	11,500	11,500	11,500	11,500	11,500	防災力向上のため、新しく65歳到達者の介護保険被保険者証送付時に案内チラシを同封し、希望者に緊急キットを配布。今後も目標値を達成できるように周知啓発を行っていく。	
			実績	8,081	8,124	8,155					
	<指標の計算方法>		年度末配布済累計数（65歳以上の高齢者がいる全世帯対象）								
	活動指標	緊急通報システム設置数	台	目標	350	350	350	350	350	設置台数は減少傾向。見守り付き高齢者住宅や有料老人ホームの整備が進んできたことや、近所付き合いが希薄な方が増えてきているので協力が確保できないことが考えられる。令和5年度から協力がなくても申請できるICTによる見守り事業を開始。ICTの見守り事業利用者となわせると、令和4年度より利用者は増加した。	
			実績	268	258	256					
	<指標の計算方法>		年度末設置台数								
活動指標	高齢者訪問理容サービス利用助成券給付	人	目標	20	20	30	30	30	要介護3～5の在宅生活をする高齢者宅を訪問して理容サービスを提供する事業。例年利用していた人が入所・死亡したことで利用者が減少したと考える。		
		実績	17	23	16						
<指標の計算方法>		年間利用実人数									
コストの実績	R 5年度決算額（単位：千円）			財源内訳							
	37,850			国庫支出金	4,441	県支出金	地方債	繰入金	4,898	その他	一般財源
事業の実績	①生活管理指導短期宿泊利用者数 6人			⑦高齢者訪問理髪サービス利用助成券給付 実人数 16人 延べ利用回数 27回			6件			⑫フレイル予防推進事業	
	②外出支援サービス 延べ人数 97人 延べ利用回数 144回			⑧介護予防事業委託 介護予防拠点施設「螢の里」において、生きがい活動支援等の介護予防活動を社会福祉協議会に委託して実施。 延べ利用者数 992人						・歩行基礎力測定委託 2カ所 4回 56人（栄養士・理学療法士の相談ブースを設置） ・きのかわフレイル予防ポイント（アプリ）登録者数（R5.10.2から開始）597人（内退会者8人）	
	③防災力向上事業 希望者に救急情報キット配布 31個			⑨認知症高齢者等賠償責任保険事業 保険加入決定者数 63人							
	④緊急通報体制整備 3月末設置台数 256台 延べ利用回数 86回			⑩就労的活動支援事業 ・介護事業所等に高齢者等の雇用のニーズや介護助手・ボランティアの受入調査委託 マッチング実績 3件（内1件継続中）							
	⑤高齢者居宅改修補助金 実績 0件			⑪自立支援型介護予防通所介護事業所認定 自立支援型介護予防通所介護事業所認定							
	⑥老人日常生活用具給付 実績 5件（電磁調理器2件、布団乾燥機3件）										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・対象者の審査に関して、所得状況、身体状況、家族形態等の個人情報が必要となるため、市が事業主体となるのは妥当である。 ・認知症高齢者等個人賠償責任保険事業実施要綱に基づき、認知症の方またその家族が地域で安心して生活することができるよう環境づくりし、支援することは妥当である。 ・高齢者等に対し、就労やボランティア活動等、活躍できる場を確保する取組は妥当である。 ・積極的に自立支援重度化防止に取組む市指定通所事業所を認定、公表し、適正な評価と成果に応じたインセンティブを付与することはサービス提供体制の充実とサービスの質の向上をさせるためには有効である。 ・高齢者等への健康づくり支援とフレイル予防対策に取組むことは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・介護保険事業での給付費、保険料の抑制を図るための事業で有効性は高い。 ・認知症の方やその家族が地域で安心して生活することができる環境を整備することは有効である。 ・高齢者等に対し、就労やボランティア活動の場を確保し、社会参加を促すことは、自身の健康維持・増進に有効である。 ・積極的に自立支援重度化防止に取組む市指定通所事業所を認定、公表し、適正な評価と成果に応じたインセンティブを付与することはサービス提供体制の充実とサービスの質の向上をさせるためには有効である。 ・心身機能や運動機能の低下がみられる高齢者等に対し、健康づくりやフレイル予防等を強化するための取組を充実させることにより有効性を高めた。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・事業実施については、すべて社会福祉法人等に民間委託し効率化を図っているが、利用が極端に少ない事業については、広報等で周知利用を図っていく。 ・認知症高齢者等個人賠償責任保険加入の場合は、地域支援事業で実施のほつと安心ネットワーク事業への登録を必須としていることから、早期発見、早期対応等事故等の未然防止につながるため効率性は非常に高い。 ・高齢者等に対し、就労やボランティア活動の機会を提供することは、介護分野においても介護助手等の人材確保にもつながるため効率性は非常に高い。 ・事業所と保険者が一体的に自立支援重度化防止を進める事業であり、適正な介護保険運営をしていく上で効率性は非常に高い。 ・高齢者等に対し、継続して効率的にフレイル予防の取組の推進ができた。										

事務事業の概要	事務事業名	高齢者生きがいづくり事業			担当課	高齢介護課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	668	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	社会福祉費		施策目標	3	福祉				
		目	10	老人福祉費		基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進				
取組方針	1	高齢者の生きがいづくりと社会参加の推進										
事業概要	市民（高齢者）に更なる健康と長寿の意欲を持ってもらえるように、長寿祝金の支給、敬老会の開催補助、高齢者団体の活動支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	長寿祝金支給			⑤					⑨		
	②	敬老会補助金			⑥					⑩		
	③	老人クラブ補助金			⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	長寿祝金等支給人数	人	目標							対象者（88歳・100歳・最高齢者男女各1名）に「長寿祝金」等を郵送や訪問により贈呈し、更なる健康と長寿を目指す。	
			実績		439	388	400					
	<指標の計算方法>		年度末人数									
	成果指標	敬老会参加者数	人	目標							旧町単位で実行委員会を中心としてイベント形式での敬老会を開催した。イベントの参加人数は各地区行動制限前と比べると減少したが、にぎわいがあり高齢者の生きがいに繋がったと考える。	
			実績		1,117	3,794	2,903					
	<指標の計算方法>		敬老会行事（旧町単位開催）への参加者数									
活動指標	老人クラブ補助金対象者数	人	目標							対象者が生きがいを持ち、健康で生き生きとした活動ができるよう、対象人数に応じた補助金を交付。高齢者の生活様式の変化により会員数が減少していると考え。		
		実績		9,324	9,282	9,139						
<指標の計算方法>		老人クラブ会員数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	24,823			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	10,864		
事業の実績	①長寿祝金支給 対象者（88歳 374人） （100歳 24人） （最高齢 男女各1名） ・88歳（5千円相当商品券） ・100歳（3万円と記念品） ・最高齢（5万円と記念写真）											
	②敬老会補助金 実行委員会を中心とした敬老行事实施に対する補助金を交付 70歳以上対象者 16,803人											
	③老人クラブ補助金 老人クラブ会員が行う活動（清掃活動やペタンク・グラウンドゴルフ大会等）に対する補助金を交付 162クラブ (30人以上121クラブ、30人未満41クラブ)											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・今日の日本社会の礎を築き、多年にわたり社会に貢献されてきた高齢者に対し、感謝の意を表し、敬意の心を持って、その長寿を祝うための行事を催すことは、行政として一定の妥当性がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・高齢者が清掃やスポーツ大会を通じて自ら地域福祉の増進を目的とし、活性化を図る事業であり有効である。 ・新型コロナウイルス感染症が、5類に移行後、旧町単位で行われる敬老会の参加者数は、増加すると見込んでいたが、他の感染症と重なり人が大勢集まる場所への参加は、懸念した方もいたと思われる。参加者が今後も安心して参加できるよう取り組む必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・敬老会補助金は、高齢化が進むにつれて、補助対象者の範囲の縮小等の見直しの検討が必要である。											

事務事業の概要	事務事業名	地域見守り支援事業			担当課	高齢介護課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1114
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉			
		目	10 老人福祉費				基本施策	2 高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進			
事業概要	市民が地域で支え合い、安全・安心に暮らせるように、地域見守り協力員による見守り活動を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	地域見守り活動準備事業			⑤			⑨			
	②	地域見守り活動事業			⑥			⑩			
	③				⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	見守り活動（フレイルチェック）実施回数	回	目標	125	135	145	45	45	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りながら、体操拠点でのフレイルチェックによる見守り活動を行った。	
			実績	0	12	40					
	<指標の計算方法>		紀の川歩（てくてく）体操活動拠点においてフレイルチェックを実施した回数								
	成果指標	地域見守り協力員数	人	目標	180	190	200	200	200	広報等での事業内容の周知やフレイルサポーター養成講座の開催等で新たな協力員の加入に繋がった。	
			実績	81	116	121					
<指標の計算方法>		フレイルサポーター数、募集による協力員登録者数									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	632			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①地域見守り活動準備事業 ・広報等で事業内容の周知 ・フレイルサポーター養成講座の開催 ・地域見守り協力員数 121人（内フレイルサポーター数 82人）										
	②地域見守り活動事業 ・日常生活の中で地域の見守りをしていただき、気付いた点を報告してもらおう等、連携を取った。 ・地域見守り活動委託料 ・見守り活動実施回数 40回（フレイルチェックによる地域の見守り活動を行った） ・地域見守り協力員報償金										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・県地域見守り協力員制度実施要綱により、市町村実施に関する役割が定められている。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・広報等で事業内容を広く周知したことや、フレイルサポーター養成講座を開催しサポーターを確保したことにより新たな見守り協力員の増員につながり有効性を高めたが、目標値を下回っているため引き続き周知して必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・県補助金を活用した事業であり効率性は非常に高い。										

事務事業の概要	事務事業名	災害時要援護者対策事業			担当課	高齢介護課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	672
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉			
		目	10 老人福祉費				基本施策	2 高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進			
目				取組方針	3 高齢者の尊厳への配慮と安全・安心な生活環境の確保						
事業概要	要援護者が円滑に避難できるように、対象者の把握と受入施設の確保を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	災害時要援護者把握			⑤			⑨			
	②	災害時要援護者受入対策			⑥			⑩			
	③				⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	災害時要援護者登録者数	人	目標	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	登録者の死亡や施設入所が多い一方で、例年に比べて事業の問い合わせが増加しており、市内の水害や県外の震災があったため、本事業に対しての注目が高まっていると考えることから結果として微増となった。	
			実績	1,054	1,034	1,064					
	<指標の計算方法>		年度末登録者数								
	活動指標	登録者名簿提供に関する説明回数	回	目標	10	10	10	10	10	民生委員定例会は委員任期途中で交代がない年であったため、区長会については交代区長が少ないことを鑑み、書面での案内と説明にて依頼を行った。	
			実績	1	5	1					
<指標の計算方法>		区長会、民生委員定例会開催時説明回数									
活動指標	協定施設数	施設	目標						協定先は福祉施設等であり、新規に増設される場合を除き、資源数は限られる。		
		実績	1								
<指標の計算方法>		年度内協定締結数									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	667			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			667								
事業の実績	<p>①災害時要援護者把握 災害時要援護者避難支援システム保守 4回/年(6月・9月・12月・3月)更新 対象者の異動情報等により、名簿や自宅位置の地図の更新作業を実施。 令和5年度、水害を受けた地域の要援護者を対象として、個別避難計画作成意思の確認を実施。 ハザードマップを元に危険地域にいる要援護者数を把握した。</p> <p>②災害時要援護者受入対策 令和5年度末協定施設数 22施設 受入可能人数 長期 28人、短期 104人</p>										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市の地域防災計画に基づく事業であるため、市が実施主体となるのが妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・平常時から地域において、要援護者の避難行動を事前に地域内や関係機関と情報共有することにより、災害時には迅速な対応につなげることができるため有効である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	<p>・システムの整備により、要援護者の把握はできている。個別避難計画については時間を要するため、整備をすすめるのは容易ではないが、危険度の高い浸水想定地域や、土砂災害地域に居住する対象者から優先的にすすめていく必要がある。</p> <p>・本来は災害時要援護者名簿に登録されるべき要介護3以上等の住民であっても、本人及び家族の同意がない場合は、名簿に登録されないため、潜在的な要援護者が多く存在すると思われる。</p>										

事務事業の概要	事務事業名	高齢者福祉施設管理運営事業			担当課	高齢介護課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	35	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	社会福祉費		施策目標	3	福祉				
		目	10	老人福祉費		基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進				
取組方針	1	高齢者の生きがいがいづくりと社会参加の推進										
事業概要	市民が高齢者福祉施設を安全で快適に利用できるように、適正な維持管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	介護予防施設管理（蛭の里）			⑤					⑨		
	②	老人憩の家施設管理			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	介護予防拠点施設利用者数	人	目標	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い開催される事業が増えたが、利用者の増加に繋がらなかった。また、6月から9月にかけて空調設備の不具合が利用者数の減少に繋がった理由の1つと考えられる。		
				実績	660	1,100	992					
	<指標の計算方法>		年間延べ利用者数									
	成果指標	老人憩の家利用者数	人	目標	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、利用を控えていた方の再開等も含め利用者は増加した。		
				実績	381	259	403					
	<指標の計算方法>		年間延べ利用者数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,318			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,318		
事業の実績	①介護予防施設管理（蛭の里） ・電気設備点検 ・施設劣化調査 ・各種施設管理委託 ・警備機器交換修繕 ・延べ利用者数 992人 ②老人憩の家施設管理 ・延べ利用者数 403人											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・地域福祉を目的とした事業を実施する施設であるため、施設の維持管理等を市が主体となって実施するのは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・高齢者の生きがいがいづくりの場として、地域に密着した事業を実施していくために必要な施設である。 ・施設の適正な維持管理を行うことにより、地域住民が安心して集まることができる場所を確保することができるため、有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・随時必要に応じた維持管理を実施しているため効率性はよい。											

事務事業の概要	事務事業名	社会福祉法人利用者負担助成事業			担当課	高齢介護課		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1077		
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心					
		項	1	社会福祉費		施策目標	3	福祉					
		目	11	介護保険費		基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進					
事業概要	市民（低所得の高齢者）が安心して介護サービスを利用できるように、社会福祉法人等が行う介護サービスの利用者負担の軽減に対する支援を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	社会福祉法人利用者負担助成事業補助金			⑤			⑨					
	②				⑥			⑩					
	③				⑦			⑪					
	④				⑧			⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	利用法人数	法人	目標	5	5	5	5	5	助成事業を利用した法人等の数は令和4年度と同じであった。法人等として利用者負担の軽減を実施しているが、事業の助成要件を満たさず申請しなかった場合や社会福祉法人等がその社会的役割として軽減分を負担している場合があると思われる。			
				実績	3	1	1						
	<指標の計算方法>		社会福祉法人利用者負担助成事業補助金の交付法人数										
	活動指標	社会福祉法人等利用者負担軽減対象確認証発行数	件	目標								低所得で生計困難な利用者であるか等、市において要件を確認し、該当する場合は確認証を発行・交付する。近年交付状況に大きな変化は見られないが、軽減率の高い生活保護受給者の割合が増加傾向にある。	
				実績	19	18	24						
	<指標の計算方法>		年度末発行数										
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	176			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	113			
事業の実績	①社会福祉法人利用者負担助成事業補助金												
	<ul style="list-style-type: none"> ・交付法人及び対象者数 社会福祉法人健正福祉会 1名 ・補助金交付 社会福祉法人健正福祉会 												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		<ul style="list-style-type: none"> ・低所得で生計困難である利用者に対し、介護サービスを提供する社会福祉法人等がその社会的役割として利用者負担の軽減を図ることにより、利用者の介護サービスの利用促進が図られている。その際の財政的な負担を軽減するため、市で助成を行う事業であり、妥当である。 											
	有効性	評価結果	改善の余地がややある										
<ul style="list-style-type: none"> ・低所得で生計困難な利用者がサービス利用時に確認証を提示することにより、利用する社会福祉法人等がその負担を軽減することで利用者の必要なサービスが利用者の経済的な制限なく利用することが可能となっている。 ・軽減対象である利用者数は横ばいながらも一定数あるが、補助金の交付を申請した法人等は数年前と比較すると少ないため、周知に努める。 													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	<ul style="list-style-type: none"> ・軽減を受ける利用者は、社会福祉法人等から利用者負担額（自己負担額）を請求される際、すでに軽減を受けた分が請求されるため、利用者の手間の負担はない。 ・社会福祉法人等から市への助成申請等については、申請から交付までの手順の効率化を図っている。 ・助成には、国費及び県費を活用し、市の財政的負担の軽減を図っている。 												

事務事業の概要	事務事業名	人権推進事業			担当課	人権施策推進課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	684	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 社会福祉費				施策目標	1	人権尊重			
		目	12 人権推進費				基本施策	1	人権が尊重された差別のない社会の実現			
事業概要	差別のない明るいまちづくりを目指すために、関係団体、関係機関と連携、協力を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	人権施策推進懇話会運営			⑤	人権委員会補助金			⑨			
	②	人権委員会運営			⑥				⑩			
	③	人権推進活動			⑦				⑪			
	④	和歌山人権研究所負担金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	人権委員会理事会・代議員会の開催回数	目標	4	4	4	4	4	人権講演会が開催できなかったため、会議開催数も目標を下回った。			
			実績	3	4	2						
	<指標の計算方法>		年間開催回数									
	成果指標	人権推進活動における参加者数	目標		150	500	750	750	目標値には及ばないが、活動回数も参加者数も増加している。			
			実績	89	124	238						
	<指標の計算方法>		年間参加者数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	7,089			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	6,437		
事業の実績	①人権施策推進懇話会運営 ・第1回(5/25)：人権施策基本方針に基づいた施策の取組状況について各課からのヒアリング報告とフィードバック ・第2回(7/10)：紀の川市人権尊重のまちづくり条例の全部改正について ・第3回(9/26)：紀の川市人権尊重のまちづくり条例の全部改正について			修を実施 ・5/15 庁内人権推進検討委員会 ・5/23 新任課長研修 ・9/29 新規採用職員研修 ・11/13・20 デュプロ精工(株)研修 ・11/28 立地企業連絡協議会研修 ・12/13 社会福祉協議会老人福祉大会 ・12/25 小・中学校新任教職員研修 ・2/9 農業委員会研修 ・2/22 人権委員会桃山支部研修 ・3/23 しらゆり保育園職員研修								
	②人権委員会運営 ・人権委員会運営 駅頭・街頭啓発および市内企業を訪問して啓発を実施：137社 ・懸垂幕およびのぼりの設置(市内53ヶ所) ・同和運動推進月間(11/1～11/30) ・人権を考える強調月間(11/11～12/10)			④和歌山人権研究所負担金 15,000円								
	③人権推進活動 人権教育指導員、インターネットモニタリング専門員、井阪文化会館長による人権研			⑤人権委員会補助金 1,460,239円								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・人権意識の高揚を図るための施策、その他人権尊重のまちづくりに関する施策を積極的に推進する必要があるため、関係機関等と連携・協力し、事業を行うことは妥当である。									
		評価結果	改善の余地がややある ・人権委員会による企業啓発や人権教育指導員等による人権研修を実施し、人権教育・人権啓発の推進を図りたい。									
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・教育委員会や関係団体等と連携し、人権施策の推進に取り組んでいる。									

事務事業の概要	事務事業名	人権啓発活動事業		担当課	人権施策推進課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	527	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1	社会福祉費		施策目標	1	人権尊重			
目		12	人権推進費	基本施策		1	人権が尊重された差別のない社会の実現				
事業概要	市民の人権意識の高揚を図るために、啓発活動や学習機会の提供を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	人権啓発活動			⑤	人権教育啓発推進センター負担金			⑨		
	②	人権講演会・映画会			⑥	インターネット上の人権侵害情報のモニタリング			⑩		
	③	人権講座			⑦				⑪		
	④	県人権啓発センター負担金			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	人権擁護委員の日並びに人権週間時の啓発箇所	箇所	目標	18	18	16	16	16	6/1と12/5の特設人権相談終了後、市内8ヶ所において啓発活動を実施した。(打田2、粉河2、那賀2、桃山1、貴志川1) ×2回	
				実績	8	16	16				
	<指標の計算方法>		人権擁護委員による啓発活動の実施回数								
	活動指標	人権を考える強調月間及び同和運動推進月間時の啓発箇所	箇所	目標	10	10	10	10	10		人権を考える強調月間および同和運動推進月間に駅頭等で啓発活動を実施した。(打田4、粉河1、那賀1、桃山1、貴志川3)
				実績	0	10	10				
	<指標の計算方法>		人権委員による啓発活動の実施								
	成果指標	人権講演会・映画会参加延べ人数	人	目標	800	800	800	800	800	ホール田園が新型コロナウイルスワクチン接種会場として使用されていたため、使用状況が不透明であり、人権講演会の開催を断念した。	
				実績	0	0	292				
	<指標の計算方法>		人権講演会参加者数								
成果指標	市内イベント啓発活動延べ動員人数	人	目標	150	150	150	150	150	令和5年度は全てのイベントが開催され、多くの人が啓発活動に参加してくれたが、目標には届かなかった。		
			実績	0	15	90					
<指標の計算方法>		イベント時の人権委員啓発活動数									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	4,144			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,805	
事業の実績	①人権啓発活動		参加者：81人								
	・全てのイベント等で啓発活動を実施		④県人権啓発センター負担金 78,000円								
	②人権講演会・映画会		⑤人権教育啓発推進センター負担金 40,000円								
・新型コロナウイルスワクチン接種会場としてホール田園を長期にわたり使用していたため、人権映画会のみ開催		⑥インターネット上の人権侵害情報のモニタリング実施状況 削除依頼件数：2件									
・11/11 人権映画会「破戒」ホール田園参加者：292人											
③人権講座											
・5/26 「女性の人権」-夫婦別姓問題を中心にしてジェンダー問題を考える-											
講師：源 淳子氏 (世界人権問題研究センター研究員) 参加者：110人											
・11/17 「和歌山県水平社創立100周年と紀の川筋の部落と歴史」-中尾靖軒に学ぶ-											
講師：小田 直寿 (大阪電気通信大学非常勤講師)											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・紀の川市人権尊重のまちづくり条例に定めているとおり、人権意識の高揚を図るための施策、その他人権尊重のまちづくりに関する施策を積極的に推進する必要があるため、市が実施する事は妥当である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
		・インターネット上における悪質な書き込み等の早期発見、拡散防止に努め、インターネット上での人権侵害を防止するための啓発活動を実施している。									
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
		・県の助成制度を活用して啓発物資の購入を行っており、啓発活動等については人権委員会と協力して実施している。また、教育委員会や関係団体とも連携し、効率的な事業を実施していく必要がある。									

事務事業の概要	事務事業名	人権擁護事業			担当課	人権施策推進課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1069	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1	社会福祉費		施策目標	1	人権尊重				
		目	12	人権推進費		基本施策	1	人権が尊重された差別のない社会の実現				
取組方針	1	人権擁護・保護の充実										
事業概要	市民を人権侵害から守るために、関係団体、関係機関の活動支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	人権相談			⑤	更生保護女性会補助金			⑨			
	②	県人権擁護委員協議会負担金			⑥	人権擁護委員会補助金			⑩			
	③	県更生保護協会負担金			⑦				⑪			
	④	保護司会補助金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	人権相談開設日数	日	目標	22	22	22	22	22	目標どおり開催できた。		
				実績	12	22	22					
	<指標の計算方法>		人権擁護委員による人権相談日数									
	成果指標	人権相談件数	件	目標						相談内容は、家族（親子）関係の相談6件。		
				実績	5	3	6					
	<指標の計算方法>		人権擁護委員による相談件数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,176			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,176		
事業の実績	①人権相談 人権擁護委員による人権相談の実施 相談件数 6件											
	②県人権擁護委員協議会負担金 357,000円											
	③県更生保護協会負担金 10,800円											
	④保護司会補助金 452,000円											
	⑤更生保護女性会補助金 251,000円											
	⑥人権擁護委員会補助金 105,000円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・相談支援体制の充実は、人権尊重のまちづくり条例にも謳われており、市が積極的に関与していくことは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・インターネット上への差別書き込み等の対応は課題となっているが、関係機関と連携しながら人権相談を開催し、事業を進めている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・複雑、多様化する人権課題の解決に取り組むため、関係団体への支援を行うことで協力、連携を図っている。											

事務事業の概要	事務事業名	男女共同参画推進事業			担当課	人権施策推進課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	474	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1	社会福祉費		施策目標	1	人権尊重				
		目	12	人権推進費		基本施策	1	人権が尊重された差別のない社会の実現				
事業概要	市民の男女共同参画意識の醸成を図るために、啓発活動や研修会の開催を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	女性会議運営	⑤		⑨							
	②	女性会議補助金	⑥		⑩							
	③		⑦		⑪							
	④		⑧		⑫							
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	市の行政機関等における委員会等の女性登用率	%	目標	35	35	35	35	35	地方自治法第180条の5に基づく委員会等のうち女性委員数に変更はなかった。		
				実績	14.3	8.8	8.8					
	<指標の計算方法>		市で設置している審議会・委員会委員の総数に対する女性の割合									
	成果指標	研修会等の参加者数	人	目標	50	50	50	50	50	目標の人数には及ばなかったが、各団体の交流と男女共同参画推進への意識向上につながった。		
				実績	0	17	23					
	<指標の計算方法>		紀の川市女性会議が開催する研修会に参加した人数（延べ人数）									
	活動指標	啓発活動	回	目標	2	2	2	2	2	6月の男女共同参画週間、11月の女性に対する暴力をなくす運動月間ともに、県と合同で店頭啓発を実施した。		
				実績	2	2	2					
	<指標の計算方法>		県と合同で実施する啓発活動の回数									
活動指標	研修会の開催回数	回	目標	2	2	2	2	2	講義型および視察研修を計画どおり開催でき、各団体の交流と男女共同参画推進への意識向上につながった。			
			実績	0	1	2						
<指標の計算方法>		紀の川市女性会議が開催した回数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	168			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	168		
事業の実績	①女性会議運営 ・9/13講義型研修実施（6名参加） ・12/7県外研修実施（17名参加） ・県と合同で市内店頭啓発を実施 男女共同参画週間（6月） 女性に対する暴力をなくす運動月間（11月）											
	②女性会議補助金 135,000円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある ・あらゆる世代の男女が、性別に関わりなく、社会の一員としてお互いを認め、それぞれの個性と能力を發揮できる社会の実現のため、市民や女性団体が主体的に活動を実施していくことが妥当である。									
		評価結果	改善の余地がややある ・男女共同参画のまちの実現に向け、広報紙・ホームページなどを活用し、広く情報提供していくとともに、市民への理解や意識改革を浸透させるよう、創意工夫し啓発活動を推進していく必要がある。									
	効率性	評価結果	改善の余地がややある ・関連各課との情報の共有及び連携の強化を図り、効率的に取り組んでいく。									

事務事業の概要	事務事業名	隣保館運営事業			担当課	人権施策推進課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	685
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	5 地域づくり・行政経営			
		項	1 社会福祉費				施策目標	1 人権尊重			
		目	12 人権推進費				基本施策	1 人権が尊重された差別のない社会の実現			
事業概要	市民の生活や文化の向上につなげるために、各種教室の開催や相談業務等を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	隣保館運営			⑤	県隣保館連絡協議会負担金		⑨			
	②	隣保館施設管理			⑥			⑩			
	③	地域交流業務			⑦			⑪			
	④	県社会福祉協議会負担金			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	受講者数	人	目標	2,040	2,040	2,040	2,040	2,040	新型コロナウイルス感染症の影響も解消され、受講者数も増加傾向となった。	
			実績	1,221	1,478	1,523					
		<指標の計算方法>		古和田会館・井阪文化会館における各教室の受講者数(延べ人数)							
	活動指標	各教室開催数	回	目標	180	180	180	180	180	新型コロナウイルス感染症の影響も解消され、目標値通りの講座を開催することができた。	
		実績	140	174	179						
	<指標の計算方法>		古和田会館・井阪文化会館における各教室の開催数								
成果指標	健康増進機器利用者数	人	目標	7,700	7,700	7,700	7,700	7,700	新型コロナウイルス感染症の影響の解消に加え、新規の利用者数も増加し、目標値に近づいてきた。		
		実績	4,975	6,303	7,308						
	<指標の計算方法>		古和田会館・井阪文化会館における健康増進機器の利用者数(延べ人数)								
		目標									
		実績									
	<指標の計算方法>										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	13,067			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①隣保館運営 ・各種相談事業 職業相談の実績 古和田会館 12回 2件 井阪文化会館 12回 1件 ・「会館だより」の発行(年4回) 6月 187部 9月 187部 12月 187部 3月 187部			ストレッチ：24回 130人 男性料理：12回 102人 女性料理：12回 94人 健康教室：11回 215人 英会話教室：13回 139人 歩き方教室：12回 138人 ※井阪文化会館 編み物：12回 76人 料理：12回 72人 手芸：12回 69人 子ども硬筆：24回 151人			換				
	②隣保館施設管理 ・古和田会館施設管理委託 12件 ・井阪文化会館施設管理委託 10件			・健康増進機器の利用者数 ※古和田会館 4,708人 ※井阪文化会館 2,600人							
	③地域交流業務 ・各種教室を開催 ※古和田会館 書道：11回 99人 太極拳：24回 238人			④県社会福祉協議会負担金 ・他の行政機関との連携を図る			⑤県隣保館連絡協議会負担金 ・隣保館事業についての調査研究及び情報交				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・隣保館は部落差別をはじめとするあらゆる人権問題の解決に向けて、人権啓発の推進、周辺地域との交流や相談事業、各種事業を展開していくことが目的であるため、市が運営していくことが望ましい。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
		・新型コロナウイルス感染症の影響を受けることもなく、各教室を開催することができ、受講者も令和4年度より増加した。 ・職業相談や人権相談などの事業について、利用者を増やすために周知方法を工夫する必要がある。									
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
		・隣保館事業については、補助金を活用することで効果的に実施した。 ・効果的かつ効率的な運営を心掛け、コストの削減を図りながら、多様化する住民のニーズにも対応した事業の展開が必要である。									

事務事業の概要	事務事業名	低所得世帯生活支援臨時給付金給付事業			担当課	社会福祉課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	新規	事業期間	期間限定複数年度 (R5～R6)	事業番号	1236	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉			
		目	13 低所得世帯生活支援臨時給付金給付事業費				基本施策	1 地域福祉の推進			
事業概要	電力・ガス・食料品等の価格高騰による負担増を踏まえ、特に家計への影響が大きい低所得世帯である住民税非課税世帯等に対して、給付金を支給する事業										
事務事業を構成する細事業	①	低所得世帯生活支援臨時給付金給付事業 (3万円給付)			⑤			⑨			
	②	低所得世帯生活支援臨時給付金給付事業 (7万円給付)			⑥			⑩			
	③				⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			
指標の実績	成果指標	指標名	単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
		住民税非課税世帯 (3万円)	世帯	目標							住民税非課税世帯に3万円を給付した。
				実績			6,501				
	<指標の計算方法>	住民税非課税世帯支給対象世帯数 (3万円)									
	成果指標	家計急変世帯 (3万円)	世帯	目標							家計急変世帯に3万円を給付した。
				実績			11				
		<指標の計算方法>	家計急変支給対象世帯数 (3万円)								
	成果指標	住民税非課税世帯 (7万円)	世帯	目標							住民税非課税世帯に7万円を給付した。
				実績			6,517				
		<指標の計算方法>	住民税非課税世帯支給対象世帯数 (7万円)								
	成果指標	家計急変世帯 (7万円)	世帯	目標							家計急変世帯に7万円を給付した。
				実績			24				
<指標の計算方法>		家計急変支給対象世帯数 (7万円)									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)				財源内訳						
	676,997				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	560
事業の実績	①低所得世帯生活支援臨時給付金給付事業 (3万円給付) ・住民税非課税世帯 (3万円) 給付世帯件数 6,501件 ・家計急変世帯 (3万円) 給付世帯件数 11件										
	②低所得世帯生活支援臨時給付金給付事業 (7万円給付) ・住民税非課税世帯 (7万円) 給付世帯件数 6,517件 ・家計急変世帯 (7万円) 給付世帯件数 24件										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・国が実施する事業であるため、市が実施主体となることは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
		・電力・ガス・食料品の価格高騰の影響を受けた住民税非課税世帯、家計急変世帯に給付することは、経済的負担を軽減する。									
	効率性	評価結果	改善の余地がない								
		・支給額、事務費については、全額が国からの補助でありコスト面での改善の余地はない。									

事務事業の概要	事務事業名	低所得者支援・定額減税補足給付金給付事業			担当課	社会福祉課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	新規	事業期間	期間限定複数年度 (R5～R7)	事業番号	1244	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉			
		目	14 低所得者支援・定額減税補足給付金給付事業				基本施策	1 地域福祉の推進			
事業概要	物価高の影響を受けている低所得者及び定額減税の恩恵を十分に受けられないと見込まれる低所得者等に対して給付金を給付する事業										
事務事業を構成する細事業	①	低所得者・定額減税補足給付事業 (均等割のみ課税)			⑤			⑨			
	②				⑥			⑩			
	③				⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	住民税均等割のみ課税世帯		世帯	目標						住民税均等割のみ課税世帯に給付した。
					実績			490			
	<指標の計算方法>		住民税均等割のみ課税世帯数								
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			52,144	52,144							
事業の実績	①低所得者支援・定額減税補足給付金給付事業 (均等割のみ課税) ・住民税均等割のみ課税世帯給付件数 490世帯										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・国が実施する事業であるため、市が実施主体となることは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・エネルギー・食料品等の価格高騰により影響を受けている住民税均等割のみ課税世帯に給付することで、経済的負担の軽減につながっている。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・支給額、事務費については全額が国からの補助であり、コスト面での改善の余地はない。										

事務事業の概要	事務事業名	児童相談・虐待防止事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	708	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	2 児童福祉費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	1 児童福祉総務費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援				
取組方針	2 児童虐待防止対策の強化											
事業概要	児童への虐待を防止するために、家庭児童相談・支援、防止啓発を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	児童相談			⑤			⑨				
	②	児童虐待防止対策			⑥			⑩				
	③	子育て支援プログラム			⑦			⑪				
	④	要保護児童支援ネットワーク事業			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	要保護児童支援ネットワーク会議	回数	目標	7	7	11	13	13	令和5年度から和歌山児童家庭支援センターによるアドバイザー事業を導入し、会議を実施した。児童虐待通告人数の増加に合わせて会議の開催回数を増やした。		
			実績	7	7	11						
	<指標の計算方法>		会議の開催回数									
	活動指標	児童虐待防止・子育て支援講演会	回数	目標	1	1	1	1	1	要保護児童対策地域協議会の委員を対象に、児童虐待についての基礎知識と協議会の役割などについての講演会を実施した。		
			実績	1	1	1						
	<指標の計算方法>		講演会の開催回数									
	成果指標	子育て支援プログラム(トリプルP)受講者	人	目標	13	6	6	6	6	公募により7人の応募があり実施した。新型コロナウイルス感染症の影響で集団での実施が4年ぶりであったため、募集人数も8名と少なめの募集とした。		
			実績	0	0	7						
	<指標の計算方法>		受講人数									
成果指標	児童虐待新規受理人数	人	目標	0	0	0	0	0	新型コロナウイルス感染症の流行以降、新規受理人数は増加傾向である。			
		実績	140	168	222							
<指標の計算方法>		年度内新規受理人数										
コストの実績	R 5年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
	15,163			5,403	434					9,326		
事業の実績	①児童相談 ・職員体制 保健師2名(内1名は管理職) 家庭児童相談員3名(週5日勤務) 学齢期児童相談員1名(週2日勤務) 事務職1名			育成相談 3人 不登校相談 1人 適正相談 0人 発達相談 0人 その他 0人			ミュージアム屋外 期間:令和5年11月1日~11月30日					
	児童虐待新規受理人数 222人 新規受理人数は増加しており、令和4年度の受理人数を上回った。 ・新規相談受理人数(種別)(人数) 身体的虐待 86人 心理的虐待 52人 性的虐待 2人 ネグレクト 82人 養護相談 110人 保健相談 0人 障害相談 0人 非行相談 0人			②児童虐待防止対策(実施状況) ・リーフレット配布 虐待予防の啓発チラシを紀の川市内の幼稚園・保育園等、小・中学校の全児童の保護者宛に配布 ・ポスター掲示 ・啓発コーナー設置 場所:紀の川市役所本庁舎本館1階道の駅「青洲の里」フラワーヒルミュージアム掲示コーナー ・オレンジリボンライトアップ 場所:紀の川市役所本庁舎本館7階道の駅「青洲の里」フラワーヒル			③子育て支援プログラム 公募で申し込みがあった7名の市民を対象に前向き子育てプログラムを実施 ④要保護児童支援ネットワーク事業 ・代表者会議と実務者会議の合同会議を1回開催 ・実務者会議を10回開催 合同会議の際に令和5年度から運営についてのアドバイザー契約を結んだ和歌山児童家庭支援センターきずなによる講演会(受講者48人)を実施					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・児童福祉法において、市が第一主義的に児童の福祉に関する家庭相談に応じ、必要な虐待対応を行うことが義務であり、児童虐待の防止に関する法律に規定された事業として妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・家庭児童相談とその対応には、対応できる知識と多様な経験が求められ、その要因も多様化、複雑化しているため、今後さらなる専門性を持った人材の配置が必要であり、相談体制の充実と専門性の強化に取り組んでいく必要があるため見直す余地がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・増加し続ける児童虐待の対応に追われ、事業全体の見直しを持つことが難しい。研修への参加もできず、有効で効率的なケースワークへつなぐことが難しい。児童虐待防止の啓発については、外部委託することなく職員が手作りすることで費用を抑えた形で、児童虐待防止推進月間(令和5年11月)にオレンジリボンライトアップ実施や情報誌への掲載などを行うことができた。											

事務事業の概要	事務事業名		子育て支援事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	704		
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育					
		項	2 児童福祉費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス					
		目	1 児童福祉総務費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援					
事業概要	安心して子育てができる環境整備を図るため、子育て支援センターやファミリーサポートセンターを拠点に、地域の団体や市民と協働で、相談や教室、子どもの送迎や預かり等を行う事業												
事務事業を構成する細事業	① 地域子育て支援センター運営			⑤ ファミリーサポートセンター運営			⑨						
	② 地域子育て支援センター事業補助金			⑥ 助産扶助			⑩						
	③ 子育てサークル支援補助金			⑦ 子ども・子育て会議運営			⑪						
	④ 子育て短期支援			⑧			⑫						
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析				
	成果指標	ファミリーサポートセンター登録会員数	人	目標	420	430	430	430	430	スタッフ養成講座や各種講座をオンラインでも開催し、スタッフ会員数の増加に努めている。また、相談があれば積極的に案内することで利用者の増加に繋がっている。			
			実績	432	463	490							
	<指標の計算方法>		利用会員+スタッフ会員+両方会員										
	成果指標	子育て支援センター年間利用延べ人数	人	目標	10,700	10,700	10,700	10,700	10,700	新型コロナウイルス感染症の影響で減少していたが、5類移行に伴い利用制限を解除したこともあり、令和4年度より倍増した。			
			実績	4,270	4,620	9,307							
	<指標の計算方法>		子育て支援センター（3箇所）の年間延べ利用人数										
	成果指標	ファミリーサポートセンター利用件数	件	目標	560	570	650	650	650	会員数は増えているが、病児の一時保育が可能な企業型保育所等が増えていることもあり、利用件数は減少した。			
			実績	627	650	493							
	<指標の計算方法>		ファミリーサポートセンターのサービス利用件数										
成果指標	子育て短期支援事業利用日数	日	目標	28	28	28	28	28	長期利用があった令和4年度と比べると利用日数は半減しているが、母子保健班や児童相談班と連携し、必要な世帯に事業の利用を提案し、適切な利用に繋がっている。				
		実績	22	70	30								
<指標の計算方法>		子育て短期支援事業（ショート・ステイ）の利用日数											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
	42,913			10,630	10,610			7,444	14,229				
事業の実績	① 地域子育て支援センター運営 子育て支援センター年間延利用者数 ・桃山子育て支援センター 延べ 3,223人 (1,485組) ・那賀子育て支援センター 延べ 2,045人 (962組) ・レイモンド子育て支援センター 延べ 4,039人 (1,972組) ・子育て教室 46回 262組 ・赤ちゃん広場 43回 316組 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を図る事業：各子育て支援センターに交付金を支給			④ 子育て短期支援 延利用日数 30日			⑤ ファミリーサポートセンター運営 (会員状況) <R6,3月現在> 利用会員 400人 スタッフ会員 73人 両方会員 17人 (活動状況) ・病児・病後児の預かり 1人 ・宿泊を伴う預かり 0人 ・緊急度の高い預かり 1人 ・緊急度の高い送迎 0人 ・保育施設の保育開始時や終了後の子どもの預かり 84人 ・保育施設までの送迎 191人 ・放課後児童クラブ終了後の子どもの預かり 0人			・保育施設の休日の預かり 27人 ・未就園児の預かり 78人 ・習い事の送迎 108人 ・その他 3人 (活動件数) 493件			
	② 地域子育て支援センター事業補助金 ながやまこども園子育て支援センターへの運営補助金									⑥ 助産扶助 経済的に困窮し、健康保険等に加入していない妊婦に対し、出産にかかる費用を公費負担する制度 1件 100,000円			
	③ 子育てサークル支援補助金 1サークルに補助									⑦ 子ども・子育て会議運営 第1回 10月31日開催			
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・地域における子育て支援施策を充実させ、必要なときに安心して利用できる子育て環境や支援活動を充実させるには、市が実施主体となるのは妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
		・地域における子育て支援活動が広がってきており、子育ての悩みや負担感の軽減に繋がっているため有効性は高い。											
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・子育て支援センター事業やファミリーサポートセンター事業は市で運営を行うより、事業開始当初から継続して運営を委託している法人へ事業委託するほうが効率的に実施できる。												

事務事業の概要	事務事業名		在宅育児支援事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業						
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度(～R6)		事業番号	1098				
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育								
		項	2 児童福祉費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス								
		目	1 児童福祉総務費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援								
事業概要			子育て世帯の経済的負担を軽減し、子どもを安心して生み、育てることができるよう、第二子以降の0歳児の保育を家庭で行う保護者に対し、給付金を支給する事業													
事務事業を構成する細事業			①	在宅育児支援事業給付			⑤			⑨						
			②				⑥			⑩						
			③				⑦			⑪						
			④				⑧			⑫						
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析							
	活動指標	給付金支給者	人	目標	130	130	100			県の事業が終了することにより令和6年度は新規受付を行わないため、令和6年度以降目標設定はしない。少子化により在宅育児支援事業給付金対象者数は、年々減少している。						
			実績	102	99	68										
	<指標の計算方法>		受給対象者の申請者数													
	成果指標	給付金実績額	円	目標	9,360,000	9,360,000	7,650,000						県の事業が終了することにより令和6年度は新規受付を行わないため、令和6年度以降目標設定はしない。少子化により在宅育児支援事業給付金実績額は、年々減少している。			
			実績	8,670,000	7,650,000	5,760,000										
	<指標の計算方法>		受給対象者の給付決定合計額(目標額:予算額×60%)													
		目標														
		実績														
<指標の計算方法>																
<指標の計算方法>																
コストの実績	R 5年度決算額 (単位:千円)			財源内訳												
	6,120			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	50						
事業の実績	①在宅育児支援事業給付 受給対象者から在宅育児支援事業給付の申請受付及び給付															
	受給者数	新規	37人									継続	31人			
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・県が実施する事業であるため、市が実施主体となることは妥当である。														
	有効性	評価結果	改善の余地がない													
・在宅で子育てをする世帯に給付金を支給することは、子育て世帯の経済的負担を軽減するため有効性が高い。																
効率性	評価結果	改善の余地がない														
	・県からの委託事業であるため、和歌山県在宅育児支援事業給付金業務委託仕様書に基づき対象者に支給する。															

事務事業の概要	事務事業名	ひとり親家庭支援事業			担当課	子ども課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	739	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	2 児童福祉費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	1 児童福祉総務費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援				
事業概要	市民（ひとり親世帯）が自立した生活を営めるように、就業支援や経済的援助を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	母子生活支援施設措置			⑤			⑨				
	②	母子寡婦福祉連合会補助金			⑥			⑩				
	③	母子家庭自立支援給付			⑦			⑪				
	④	養育費確保支援給付			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	母子生活支援施設入所世帯数	目標	3	3	6	6	6	入所後2年以内での退所に向け、施設において社会的自立を目指しての指導及び支援を行っているため世帯数の変動は少ない。			
			実績	3	4	2						
	<指標の計算方法>		母子生活支援施設へ入所措置している世帯数（各年度末）									
	成果指標	母子寡婦福祉連合会 会員数	目標	250	250	250	250	250	会員数は年々減少しているが、ひとり親家庭の会員同士の親睦や情報交換等を図り、安定した生活のため自立を目的とした推進活動を行い会員増加に努めている。			
			実績	211	206	206						
<指標の計算方法>		年度末会員数										
成果指標	ひとり親家庭自立支援給付金 受給者数	目標	6	6	6	10	10	安定した職業への就業を目指し、給付対象講座の受講を希望するひとり親に対しホームページや窓口での説明等で周知に努めており、年々増加している。				
		実績	9	10	10							
<指標の計算方法>		高等職業訓練促進給付金・自立支援教育訓練給付金										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
	26,256			国庫支出金	14,251	県支出金	3,294	地方債	繰入金	その他	107	一般財源
事業の実績	①母子生活支援施設措置											
	・令和4年度末在籍者数 4世帯 11人											
	・令和5年度入所者数 1世帯 4人											
	・令和5年度退所者数 3世帯 11人											
・令和5年度末在籍者数 2世帯 4人												
②母子寡婦福祉連合会補助金												
交付実績額 199,000円												
③母子家庭自立支援給付												
・高等職業訓練促進給付金 9件												
(支給月数 延べ 95ヶ月)												
・自立支援教育訓練給付金 1件												
・ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業（受講開始時給付金）1件												
④養育費確保支援給付												
・公正証書等作成費用 7人												
・養育費保証契約締結費用 0人												
・養育費強制執行費用 1人												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・近年のひとり親家庭を巡る社会状況の変化に対し、ひとり親家庭の自立を支援できるよう、多様な相談に対応し、自立の促進に繋げていくため、現行の実施方法は妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・就業に結びつけやすい資格を取得するため、養成訓練の受講期間の経済的負担の軽減を目的に給付金として支給することは、ひとり親家庭への自立を進めるためには有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・事業費の大半が扶助費であり、コスト面で改善の余地はない。また、ひとり親家庭への支援という性質から、受益者負担を求めることはできない。											

事務事業の概要	事務事業名	那賀児童福祉施設組合事業			担当課	こども課			事業区分	一部事務組合		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	712
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	2	児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス				
		目	1	児童福祉総務費		基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援				
取組方針	9	その他										
事業概要	経済的支援を受けることのできない母子家庭の自立を支援するため、生活拠点となる母子生活支援施設を、岩出市と共に組織した那賀児童福祉施設組合で運営管理する事業											
事務事業を構成する細事業	①	那賀児童福祉施設組合負担金			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	入所世帯数	世帯	目標	18	18	18	18	18	措置の判断については慎重におこなわれているが、虐待等の件数が年々増加しており、常に一定数の世帯が措置されている状態である。		
				実績	15	17	19					
	<指標の計算方法>		那賀児童福祉施設組合、母子生活支援施設「粉河むつみホーム」の入所世帯数（3月1日現在）									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,266			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,266		
事業の実績	①那賀児童福祉施設組合負担金 紀の川市負担率 75.81%											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・紀の川市と岩出市で那賀児童福祉施設組合として運営している事業であるため、負担割での支出は妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・母子生活支援施設は、生活困窮の母子家庭やDV被害者の母子家庭の生活の安定と自立を支援するのに欠かせない施設であり、体制を整え運営を行うために必要な事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・紀の川市、岩出市の負担割合は【均等割20%、人口割30%、利用数割50%】に両市の人口割と、施設の利用割合を乗じた金額で両市が負担し、施設組合の運営を行っているため、効率性については妥当である。											

事務事業の概要	事務事業名	子育て計画策定・推進事業			担当課	こども課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	709	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	2 児童福祉費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	1 児童福祉総務費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援				
事業概要	幼児期の学校教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進し、子育て世帯に適切なサービスを提供するために、子育てに関する事業計画を策定し、進捗状況の管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	子ども・子育て会議運営			⑤				⑨			
	②	子ども・子育て支援事業計画進行管理			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	子ども・子育て会議の開催	回	目標	2	2	3	3	2	会議は年1~2回開催している。計画策定の2年間以外は子育て支援事業として実施している。		
			実績	1	1	1						
	<指標の計算方法>		会議の開催回数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,177			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			3,177									
事業の実績	①子ども・子育て会議運営 令和5年10月31日開催 ②子ども・子育て支援事業計画進行管理 令和5年12月 ニーズ調査実施 令和6年 3月 ニーズ調査結果報告書作成											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・子ども・子育て支援事業計画の策定は義務付けられており、妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・子ども・子育て会議において計画の策定から事業の進捗まで審議しており、有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・専門的な知識等も必要であるため、時間・コスト両面において計画策定業務を委託することが最善である。											

事務事業の概要	事務事業名	出産・子育て応援事業		担当課	こども課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1233	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2	児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス			
		目	1	児童福祉総務費		基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援			
取組方針	3	子育て世帯への経済的負担の軽減									
事業概要	妊娠届出時から妊婦や低年齢期の子育て家庭に寄り添い、出産・育児の面談等を通じて必要な支援につなぐ伴走型相談支援の充実を図るとともに、妊婦や子育て家庭への経済的支援を一体的に実施する事業										
事務事業を構成する細事業	①	伴走型相談支援			⑤				⑨		
	②	出産応援給付金			⑥				⑩		
	③	子育て応援給付金			⑦				⑪		
	④	赤ちゃん応援給付金			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	出産応援給付金支給件数	件	目標						性質上、目標は設定しない。対象の妊娠届出者一人につき5万円を支給。	
				実績		369	353				
	<指標の計算方法>		出産応援給付金の実支給件数								
	成果指標	子育て応援給付金支給件数	件	目標						性質上、目標は設定しない。対象の出生者一人につき5万円を支給。	
				実績		205	320				
	<指標の計算方法>		子育て応援給付金の実支給件数								
	成果指標	赤ちゃん応援給付金支給件数	件	目標						性質上、目標は設定しない。対象の出生者一人につき10万円を支給。	
				実績			282				
	<指標の計算方法>		赤ちゃん応援給付金の実支給件数								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
	66,558			51,607	6,624				8,327		
事業の実績	①伴走型相談支援			・支給件数 282名							
	・相談対応助産師 1名			・支給金額 28,200,000円							
	・事務職 1名										
	②出産応援給付金										
・支給件数											
R4届出分 68名											
R5届出分 285名											
計 353名											
・支給金額 17,650,000円											
③子育て応援給付金											
・支給件数											
R4出生分 30名											
R5出生分 290名											
計 320名											
・支給金額 16,000,000円											
④赤ちゃん応援給付金											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・国により実施依頼のある事業であり、市以外では実施できない。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・給付対象者、給付金額など実施要綱により定まった事業である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・現時点では現金給付が最適な支給方法である。										

事務事業の概要	事務事業名	放課後児童健全育成事業			担当課	保育課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	740	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	2	児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス				
		目	1	児童福祉総務費		基本施策	2	保育環境の充実				
事業概要	昼間保護者のいない家庭の小学生の健全な育成を図るため、遊びを主とする活動を行う地域組織として児童クラブ（学童保育）を設置し、運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	放課後児童健全育成事業運営			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			

指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	学童保育クラブ数	クラブ	目標	10	10	10	10	10	那賀・粉河地区に1クラブずつ、打田・桃山・貴志川地区は学校単位に1クラブずつ、合計10クラブ。		
			実績	10	10	10	10					
	<指標の計算方法>		放課後児童健全育成事業の実施箇所数（学童クラブ数）									
	活動指標	年間開設日数	日	目標	280	280	280	280	280	日・祝・盆正月休み以外に開所。		
			実績	284	284	275	275					
	<指標の計算方法>		合計年間開設日数/10クラブ									
成果指標	学童保育クラブ入所児童数	人	目標	590	590	590	590	590	低学年の入所希望者は多いが、学年が大きくなると、入所希望者が減ってきている。地域によっても差があり。			
		実績	593	480	449	449						
<指標の計算方法>		目標値：入所受付時の定員、実績値：3月現在の児童数										
成果指標	障害児受入人数	人	目標	5	5	5	5	5	毎年、障害児の利用申し込みがある。療育手帳等の認定はされないが、診断書等で支援の必要な児童が増加している。			
		実績	9	12	12	12						
<指標の計算方法>		障害児受入人数：3月実績数										

コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	208,820		42,823	42,823			39,427	83,747

事業の実績	①放課後児童健全育成事業運営 ・児童クラブの年間開設日、月平均児童数 てのひら 289日、80人 太陽の子 290日、87人 粉河アットホームクラブ 286日、55人 チャレンジ児童クラブ 287日、73人 あらかわ放課後児童クラブ 288日、53人 ももやま放課後児童クラブ 241日、23人 こどもくらぶ 267日、37人 ほたるっこ 271日、27人 西貴志こどもくらぶ 287日、50人 丸栖っ子クラブ 242日、17人 ・新型コロナウイルス感染症対策事業：感染対策用品を購入、感染症対策のための改修費用を補助する交付金										
-------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	・ひとり親家庭の増加や保護者の就労形態の多様化により、年々学童保育のニーズが高まっており、児童の放課後の居場所づくりの観点からも事業は妥当である。
	有効性	評価結果	改善の余地がややある	・支援員研修を受講した指導員により、近年の傾向や専門知識を習得して保育に携わり、日頃の保育に活かされている。 ・指導員の高齢化が進んでいるため、今後、指導員確保に向けた対策が必要である。 ・放課後の遊びや生活を支援することで、子どもの健全育成にも繋がり有効である。
	効率性	評価結果	改善の余地が大きい	・法人委託することにより、指導員や保護者への運營業務による負担を軽減できる余地は充分にあると考えられる。

事務事業の概要	事務事業名	子ども医療費助成事業		担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号		
	予算科目	款	3 民生費		長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	2 児童福祉費			施策目標	2 健康・医療				
		目	2 子ども医療費			基本施策	2 地域医療体制・医療保険制度の充実				
事業概要	市民（子育て世代）の経済的負担を軽減し、受診機会の拡大を図るために、医療費の自己負担分（大学生等は入院に係る医療費の自己負担分）に対し助成を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	受給資格管理		⑤			⑨				
	②	子ども医療費助成		⑥			⑩				
	③			⑦			⑪				
	④			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	1人あたりの医療費助成額（大学生等を除く）	円	目標						医療費助成額及び助成対象者数が増加したが、医療費助成額の増加幅が助成対象者数の増加幅より大きかったため、1人あたりの医療費助成額は増加した。	
				実績	26,696	28,307	30,855				
	<指標の計算方法>		医療費助成額÷助成対象者数（大学生等を除く）								
	活動指標	1人あたりの医療費助成額（大学生等を除く）	円	目標						助成対象を令和5年8月1日から拡充し、大学生等が新たに助成の対象となった。	
				実績			71,570				
	<指標の計算方法>		医療費助成額÷助成者数								
	活動指標	助成対象者数（大学生等を除く）	人	目標						助成対象を令和5年8月1日から拡充し、高校生相当が新たに助成の対象となったため、令和4年度と比較して増加している。	
				実績	6,454	6,337	7,495				
	<指標の計算方法>		助成対象者数（大学生等を除く）								
	活動指標	医療費助成額	千円	目標						助成対象を令和5年8月1日から拡充し、高校生相当及び大学生等が助成の対象となったため、令和4年度と比較して増加している。	
				実績	172,294	179,381	231,545				
<指標の計算方法>		医療費助成額									
コストの実績	R 5年度決算額（単位：千円）			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			242,959		41,672		150,000			51,287	
事業の実績	①受給資格管理				(外 来)	24,466件	46,751,521円	(戻 入)	△993円		
	・助成対象者数				(歯 科)	3,733件	7,092,409円	(合 計)	16,198件	41,275,517円	
	未就学児(入院・通院助成)		2,333人			(調 剤)	11,993件	11,470,037円	高校生相当		
	小学生(入院・通院助成)		2,474人			(その他)	101件	725,028円	(入 院)	40件	2,538,464円
	中学生(入院・通院助成)		1,343人			(戻 入)		0円	(外 来)	4,672件	13,048,875円
	高校生相当(入院・通院助成)		1,345人			(合 計)	40,611件	76,604,552円	(歯 科)	898件	3,298,730円
	合 計		7,495人			小学生			(調 剤)	2,153件	4,399,075円
	・助成者数				(入 院)	51件	3,638,701円	(その他)	327件	536,815円	
	大学生等(実績/入院助成)		4人			(外 来)	20,640件	45,443,920円	(戻 入)		0円
	※令和5年8月1日より、制度を拡充し高校生相当（入院・通院）及び大学生等（入院）を対象とした。				(歯 科)	8,030件	23,078,160円	(合 計)	8,090件	23,821,959円	
	※大学生等については、実際に申請のあった人数を記載している。				(調 剤)	9,967件	15,196,223円	大学生等を除く合計		104,303件	231,258,705円
					(その他)	716件	2,199,673円	大学生等		(入 院)	5件
				(戻 入)		0円	大学生等		(戻 入)		△43,420円
				(合 計)	39,404件	89,556,677円	大学生等		(合 計)	5件	286,280円
②子ども医療費助成				中学生			総合計		104,308件	231,544,985円	
・医療費助成内訳				(入 院)	25件	1,652,463円					
未就学児				(外 来)	8,841件	21,537,060円					
(入院)		318件	10,565,557円	(歯 科)	2,285件	7,026,408円					
				(調 剤)	4,217件	9,530,104円					
				(その他)	830件	1,530,475円					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市条例及び県要綱に基づき行う事業であり、助成対象者の自己負担分に対し助成を行うことで、安心して医療機関を受診していただくことができるため、子どもの福祉の向上と子育て支援の観点から妥当な事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・医療費助成は、子育て世帯の経済的負担の軽減につながっており、子どもの福祉の向上と子育て支援の観点から有効な事業である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・助成対象者が窓口で負担する自己負担分について、医療機関から保険者負担分と自己負担分を合わせて国民健康保険団体連合会又は社会保険診療報酬支払基金に対して診療請求し、保険者から一括して支払う効率的な事務に努めている。また、大量印刷物（受給者証の区分更新）の印刷、封入作業などを外部委託しており、事業効率の改善については余地がない状況である。										

事務事業の概要	事務事業名	ひとり親家庭医療費助成事業			担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	45	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	2	児童福祉費		施策目標	2	健康・医療				
目		3	ひとり親家庭医療費	基本施策		2	地域医療体制・医療保険制度の充実					
取組方針	3	福祉医療費助成の実施										
事業概要	市民（ひとり親家庭）の経済的負担を軽減し、受診機会の拡大を図るために、医療費の自己負担分に対し助成を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	受給資格管理			⑤					⑨		
	②	ひとり親家庭医療費助成			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	1人あたりの医療費助成額	円	目標						医療費助成額の増加及び助成対象者数の減少に伴い、1人あたりの医療費助成額は増加した。		
				実績	37,466	39,628	42,985					
	<指標の計算方法>		医療費助成額÷助成対象者数									
	活動指標	助成対象者数	人	目標						令和4年度と比較して減少している。		
				実績	1,390	1,297	1,278					
	<指標の計算方法>		助成対象者数									
活動指標	医療費助成額	千円	目標						令和4年度と比較して増加している。			
			実績	52,078	51,398	54,935						
<指標の計算方法>		医療費助成額										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	56,578			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	26,326		
事業の実績	①受給資格管理											
	・助成対象世帯数		506世帯									
・助成対象者数		1,278人										
(内訳)												
保護者		499人										
未就学児		150人										
小学生		273人										
中学生		176人										
高校生相当		180人										
②ひとり親家庭医療費助成												
・医療費助成内訳												
(入院)		65件 3,029,927円										
(外来)		10,815件 27,989,330円										
(歯科)		2,660件 9,619,877円										
(調剤)		5,217件 11,749,318円										
(その他)		973件 2,549,256円										
(戻入)		△3,203円										
(合計)		19,730件 54,934,505円										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市条例及び県要綱に基づき行う事業であり、助成対象者の自己負担分に対し助成を行うことで、安心して医療機関を受診していただくことができるため、福祉の向上とひとり親家庭支援の観点から妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・医療費助成は、ひとり親家庭の経済的負担の軽減につながっており、福祉の向上とひとり親家庭支援の観点から有効な事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・助成対象者が窓口で負担する自己負担分について、医療機関から保険者負担分と自己負担分を合わせて国民健康保険団体連合会又は社会保険診療報酬支払基金に対して診療請求し、保険者から一括して支払う効率的な事務に努めている。また、大量印刷物（受給者証の年次更新）の印刷、封入作業などを外部委託しており、事業効率の改善については余地がない状況である。											

事務事業の概要	事務事業名		児童手当給付事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	43
	予算科目	款	3	民生費		長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2	児童福祉費			施策目標	1	子育て環境・保育サービス			
		目	4	児童手当費			基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援			
事業概要		児童を養育する家庭や施設の子育てにかかる経費の負担を軽減し、あわせて児童の健やかな成長に資することを目的に児童手当の給付を行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	児童手当給付		⑤					⑨		
		②			⑥					⑩		
		③			⑦					⑪		
		④			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	児童手当等受給者数	人	目標						性質上、目標は設定しない。少子化により児童手当受給者数は、年々減少している。		
				実績	3,548	3,436	3,356					
	<指標の計算方法>		支給状況報告（一般・施設受給者）の受給者数（2月末現在）									
	活動指標	児童手当等支給対象児童数	人	目標						性質上、目標は設定しない。少子化により支給対象児童数は、年々減少している。		
				実績	6,103	5,891	5,713					
<指標の計算方法>		支給状況報告（一般・施設受給者）の支給対象児童数（2月末現在）										
<指標の計算方法>												
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 （単位：千円）			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
749,476			517,272	115,654						116,550		
事業の実績	①児童手当給付											
	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳未満児童受給延べ月数 <ul style="list-style-type: none"> 被用者 7,787月 非被用者 1,777月 特例給付者 129月 ・3歳以上児童受給延べ月数 <ul style="list-style-type: none"> 被用者 31,892月 非被用者 9,239月 特例給付者 793月 ・中学生児童受給延べ月数 <ul style="list-style-type: none"> 被用者 11,958月 非被用者 3,565月 特例給付者 492月 											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・児童手当法に基づく法定受託事務であるため、対象者に手当を給付することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・子育ての経済的負担を軽減しているため有効性は高い。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・現況届の現況確認処理・入力作業を会計年度任用職員の協力を得る等、事務作業について効率を図っている。											

事務事業の概要	事務事業名		児童扶養手当給付事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	44
	予算科目	款	3	民生費		長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2	児童福祉費			施策目標	1	子育て環境・保育サービス			
		目	5	児童扶養手当費			基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援			
事業概要		父または母と生計を同じくしていない児童が育成される家庭の生活の安定と自立を助け、児童の福祉の増進を図ることを目的として児童扶養手当の給付を行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	児童扶養手当給付			⑤					⑨	
		②				⑥					⑩	
		③				⑦					⑪	
		④				⑧					⑫	
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	受給資格者数	人	目標						性質上、目標は設定しない。受給者数は年々減少している。		
				実績		565	543	539				
	<指標の計算方法>		福祉行政報告例第61表 (3月末現在)									
	活動指標	受給対象児童数	人	目標						性質上、目標は設定しない。受給者数に比例して、受給対象児童数も年々減少している。		
				実績		747	730	709				
<指標の計算方法>		福祉行政報告例第61表 (3月末現在)										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
255, 117			84, 374						170, 743			
事業の実績	①児童扶養手当給付 ・受給資格者数 539人 ・受給対象児童数 709人											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・児童扶養手当法に基づく法定受託事務であるため、対象者に手当を給付することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・ひとり親家庭等の経済的負担を軽減する支援事業であり、こどもの貧困対策としても有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・事務費はほとんどなく、経費の大半は扶助費であり、コスト面での削減余地はない。											

事務事業の概要	事務事業名	教育・保育施設入所管理事業			担当課	保育課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	743	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	2 児童福祉費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
目		6 保育所費			基本施策		2 保育環境の充実					
事業概要	就学前の児童に対し、教育・保育施設への適正な入所管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	入所			⑤	第2子以降保育料等無料化		⑨				
	②	支給認定（保育所・幼稚園・こども園）			⑥			⑩				
	③	広域保育			⑦			⑪				
	④	保育料賦課・徴収			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	入所児童数	人	目標	1,600	1,600	1,500	1,500	1,500	少子化により、利用者数全体では減少傾向である。		
			実績	1,614	1,570	1,531						
		<指標の計算方法>		対象児童数（各年3月1日現在）広域保育委託分含む								
	活動指標	広域入所児童数(受託)	人	目標	15	15	15	15	15	広域入所については、受託市町村と協議を行い、受け入れを進めているが、低年齢児の受け入れは厳しいものがある。		
			実績	18	23	18						
		<指標の計算方法>		対象児童数（年間総受託者数）								
	成果指標	待機児童数	人	目標	0	0	0	0	0	紀の川市全体での待機児童は生じていない。		
			実績	0	0	0						
		<指標の計算方法>		対象児童数（各年3月1日現在）								
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	32,067			国庫支出金	10,824	県支出金	6,086	地方債	繰入金	その他	926	一般財源
事業の実績	①入所			(2子) 3歳未満 37人								
	②支給認定（保育所・幼稚園・こども園）			(3子以降)3歳未満 90人、3歳以上 153人								
	公立保育所 562人											
	私立保育園 500人											
	小規模保育事業所 38人											
認定こども園 398人												
※R6.3.1現在（広域保育受託分除く）												
③広域保育												
委託分 38人 ※年間総委託者数												
(R6.3.1現在 33人)												
④保育料賦課・徴収												
保育料徴収額												
・現年度分 46,539,040円 (1,868件)												
・過年度分 1,438,910円 (76件)												
※R6.3.31時点												
⑤第2子以降保育料等無料化												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
		・共働き世帯の増加や保護者の疾病など、家庭において保育が困難な児童を受け入れるため、保育の実施は妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・入所児童数は年々減少しているが、転入世帯や低年齢児の保育ニーズが高くなっており、特定の施設に申込が集中するなど、希望保育所への入所ができない可能性がある。 ・入所希望保育所への入所に向けて、定員数の調整等による改善の余地がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・支援が必要な児童も増える中、安全な保育を実施するための加配保育士を含め、職員の配置基準に準じた人員配置をしており、人件費の削減の余地はない。											

事務事業の概要	事務事業名	子どものための教育・保育給付事業			担当課	保育課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	750	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	2	児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス				
		目	6	保育所費		基本施策	2	保育環境の充実				
目	6	保育所費	取組方針	2		保育サービスの充実						
事業概要	子ども・子育て支援新制度に基づき、私立教育・保育施設に対する財政支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	認可業務・指導監査			⑤	私立保育園障害児保育補助金			⑨	一時預かり補助金		
	②	私立保育園運営委託			⑥	延長保育事業補助金			⑩	補足給付費		
	③	地域型保育給付			⑦	病児保育事業補助金			⑪	教育・保育施設等物価高騰対策補助金		
	④	施設型給付			⑧	私立保育園自動車借上補助金			⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	私立入所園児数	人	目標	1,099	1,099	1,099	1,099	1,099	少子化により入所児童数は減少傾向である。		
				実績	1,001	987	965					
				<指標の計算方法>	対象児童数（各年3月1日現在）広域保育受託分含む							
	活動指標	私立教育・保育施設数	園	目標	10	10	10	11	11	認可保育施設数については増減はない。		
				実績	10	10	10					
				<指標の計算方法>	対象施設数							
				目標								
				実績								
				<指標の計算方法>								
			目標									
			実績									
			<指標の計算方法>									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,167,262			国庫支出金	549,745	県支出金	231,739	地方債	22,500	繰入金	26,278	一般財源
事業の実績	①認可業務・指導監査 ・認可施設 粉河保育園、名手保育園、安楽川保育園、山の子共同保育園、未来保育園、ニチイキッズきのかわ保育園、レイモンドこども園、愛の光幼稚園、あおば幼稚園、ながやまこども園 ・認可外施設 イチゴ保育所、貴志川センター保育室、ひかり保育園、ふたば保育園、そらな保育園、だるま保育園			レイモンドこども園、愛の光幼稚園、あおば幼稚園、ながやまこども園			⑤私立保育園障害児保育補助金 粉河保育園、名手保育園、安楽川保育園、レイモンドこども園、愛の光幼稚園、未来保育園、ながやまこども園 対象園児 56名			⑨一時預かり補助金 レイモンドこども園、愛の光幼稚園、ながやまこども園、たから幼稚園、聖心幼稚園		
	②私立保育園運営委託 粉河保育園、名手保育園、安楽川保育園、山の子共同保育園			⑥延長保育事業補助金 粉河保育園、名手保育園、レイモンドこども園、ながやまこども園			⑦病児保育事業補助金 粉河保育園、名手保育園			⑩補足給付費 智徳幼稚園、おのみなと紀泉台幼稚園、和歌山中央幼稚園、和歌山信愛女子短期大学附属幼稚園		
	③地域型保育給付（小規模保育施設） 未来保育園、ニチイキッズきのかわ保育園			⑧私立保育園自動車借上補助金 粉河保育園、名手保育園、安楽川保育園、レイモンドこども園、愛の光幼稚園、ながやまこども園			⑪教育・保育施設等物価高騰対策補助金 認可保育施設 10施設 認可外保育施設 6施設					
	④施設型給付（認定こども園）											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・民間保育施設の安定運営を図るために市が補助を行うことは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・民間保育施設の安定運営を図ることにより、園児の安定した受け入れ人数を確保している。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・国の基準に基づき、給付費等を支給しているため改善の余地はない。											

事務事業の概要	事務事業名	保育所運営管理事業			担当課	保育課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	744	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	2 児童福祉費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	6 保育所費				基本施策	2 保育環境の充実				
事業概要	保育所施設の運営維持管理を行い、市民（児童・保護者）が円滑に利用できるよう、保育サービスの提供を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	保育職員研修・管理育成			⑤	県社会福祉協議会保育士会負担金		⑨	保育業務支援システム運用			
	②	給食管理			⑥	施設整備		⑩				
	③	送迎バス運行			⑦	備品購入		⑪				
	④	災害共済加入			⑧	LINEを活用した保護者向け情報配信		⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	保育職員研修受講者数	人	目標	0	126	200	200	200	多くの保育士が受講出来るよう、録画配信にて実施した。		
			実績	0	126	226						
	<指標の計算方法>		受講者数									
	成果指標	各保育所LINE登録児童数	人	目標	0	570	570	170	150	各保育所の連絡事項をLINEを用いて保護者に配信した。		
			実績	0	570	562						
	<指標の計算方法>		登録者数（3月末現在）									
	成果指標	保育業務支援システム登録児童数	人	目標	0	0	390	370	350	こばと、なるき、中貴志3保育所で保育業務支援システムを導入し、保護者の利便性を向上した。		
			実績	0	0	392						
	<指標の計算方法>		登録者数(3月末現在)									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	60,011			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	739	54,069	
事業の実績	①保育職員研修・管理育成 録画配信にて1回実施			登録件数 562件								
	②給食管理			⑨保育業務支援システム運用 利用者数 392件(こばと、なるき、中貴志)								
	③送迎バス運行 鞆淵地区送迎バス運行											
	④災害共済加入 日本スポーツ振興センター負担金											
	⑤県社会福祉協議会保育士会負担金											
	⑥施設整備 修繕 59件											
	⑦備品購入 49件											
	⑧LINEを活用した保護者向け情報配信											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・各園の児童数や施設の特徴を踏まえ必要な改修等を行い、児童が安心して保育生活を送れる環境を整えている。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・児童福祉法により、市町村は保育を必要とする児童を保育しなければならないとされており、職員配置や施設整備の実施により、安定した児童の受け入れが来ている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・予算内で費用対効果を考慮し、業務等を実施しており効率性は改善の余地がない。											

事務事業の概要	事務事業名	公立保育所保育事業			担当課	保育課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	752	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2 児童福祉費				施策目標	1	子育て環境・保育サービス			
		目	6 保育所費				基本施策	2	保育環境の充実			
事業概要	市民（児童・保護者）に適切な教育・保育を提供するために、各公立保育所が効率的な保育所運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	こばと保育所運営			⑤	東貴志保育所運営			⑨			
	②	なるき保育所運営			⑥	西貴志保育所運営			⑩			
	③	八王子保育所運営			⑦	丸栖保育所運営			⑪			
	④	中貴志保育所運営			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	公立保育所数	目標	7	7	7	7	7	施設数に増減はないが、貴志川地区の児童数は減少してきているため、再編、統廃合を進める必要がある。			
			実績	7	7	7						
	<指標の計算方法>		対象施設数									
	活動指標	公立入所園児数	目標	788	788	788	788	788	年々減少傾向にある。			
			実績	599	570	564						
	<指標の計算方法>		対象園児数（各年3月1日現在）広域保育受託分含む									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 （単位：千円）			財源内訳								
	416,009			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
				2,453				31,005	382,551			
事業の実績	①こばと保育所運営 ②なるき保育所運営 ③八王子保育所運営 ④中貴志保育所運営 ⑤東貴志保育所運営 ⑥西貴志保育所運営 ⑦丸栖保育所運営											
	各施設の運営 会計年度任用職員の任用、健康診断の実施、施設の維持管理、消耗品の購入等											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・公立保育所として利用者のニーズは高く、今後も公立保育所の運営は必要と考える。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・公立保育所の特徴を活かしながら多様な保育ニーズに対応し、民間保育施設と連携を図りながら積極的に運営を行うことは有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地が大きい										
	・施設の統廃合によりコストの削減が見込まれる。打田、貴志川地区においても今後、公立保育所の再編を進めることが必要。											

事務事業の概要	事務事業名		児童館管理運営事業				担当課	保育課		事業区分	ソフト事業	
	会計	一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	47
	予算科目	款	3 民生費				長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育			
		項	2 児童福祉費					施策目標	1 子育て環境・保育サービス			
		目	7 児童館費					基本施策	2 保育環境の充実			
事業概要	児童が児童館を安全で快適に利用できるように、児童館の維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 西井阪児童館施設管理		⑤		⑨							
	② 粉河児童館施設管理		⑥		⑩							
	③ 竜門児童館施設管理		⑦		⑪							
	④ 名手児童館施設管理		⑧		⑫							
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	開館日数	日	目標	900	600	600	600	0	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、感染症防止対策を行いながら開館できた。		
				実績	880	596	612					
	<指標の計算方法>		粉河・竜門児童館の開館日数計（名手児童館は児童利用がないため除く）（西井阪は令和4年度から休館）									
	成果指標	年間利用者数	人	目標	2,000	1,000	1,000	500	0	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、児童の利用者数は増加している。		
				実績	611	200	749					
	<指標の計算方法>		粉河・竜門児童館の延べ児童利用者数（名手児童館は児童利用がないため除く）（西井阪は令和4年度から休館）									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
3,328									3,328			
事業の実績	①西井阪児童館施設管理 ・西井阪児童館 令和4年度から休館											
	②粉河児童館施設管理 ・粉河児童館 開館日数 307日 利用者(大人) 3,473人 利用者(小人) 665人											
	③竜門児童館施設管理 ・竜門児童館 開館日数 305日 利用者(大人) 1,357人 利用者(小人) 84人											
	④名手児童館施設管理 ・名手児童館 開館日数 96日 利用者(大人) 1,082人 利用者(小人) 0人											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地が大きい ・社会環境や市民ニーズの変化により、公民館活動での利用がほとんどであり、児童館としての活用がされていない。地元自治会への移管や公民館への移管が必要である。									
		評価結果	改善の余地が大きい ・児童の利用が減少する一方で、大人の利用数の方が圧倒的に多いなど、児童館としてのニーズや役割は果たしていない。									
	効率性	評価結果	改善の余地が大きい ・屋根及び外壁改修工事を行った竜門児童館を除き、各施設の老朽が激しく、旧耐震基準である建物もあるので、今後の利用方法やあり方を検討する。									

事務事業の概要	事務事業名	低所得の子育て世帯生活支援特別給付金給付事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度のみ		事業番号	1169	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	2	児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス				
		目	8	低所得の子育て世帯生活支援特別給付金給付		基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援				
事業概要	物価高騰の影響を受けた子育て世帯を支援する取組の一つとして、低所得の子育て世帯及びひとり親世帯に一時金を支給する事業											
事務事業を構成する細事業	①	低所得の子育て世帯生活支援特別給付金(ひとり親世帯分)			⑤					⑨		
	②	低所得の子育て世帯生活支援特別給付金(その他世帯分)			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	給付金支給対象者	目標								性質上、目標は設定しない。 対象児童1人につき5万円を支給。	
			実績		904	865	976					
	<指標の計算方法>		支給実績報告の支給対象者数									
	成果指標	給付金支給対象児童者数	目標								性質上、目標は設定しない。 対象児童1人につき5万円を支給。	
			実績		1,456	1,437	1,647					
	<指標の計算方法>		支給実績報告の対象児童数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
		100,551	93,420							7,131		
事業の実績	①低所得の子育て世帯生活支援特別給付金 (ひとり親世帯分)											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・国が実施する突発的かつ迅速対応が必要な事業であるため、市が実施主体となることは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・物価高騰の影響を受けた子育て世帯に給付金を支給することは、子育て世帯への経済的負担を軽減するため有効性が高い。										
効率性	評価結果	改善の余地がない										
		・国からの補助金で支出する事業であるため、コスト面での改善の余地がない。										

事務事業の概要	事務事業名	生活保護適正実施推進事業			担当課	社会福祉課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	758
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	3 生活保護費				施策目標	3 福祉			
		目	1 生活保護総務費				基本施策	1 地域福祉の推進			
事業概要	市が生活保護制度の適正運用を図るために、調査や審査、システムの運営等を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	生活保護適正実施推進			⑤			⑨			
	②				⑥			⑩			
	③				⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	生活保護受給者の就労支援件数	件	目標	60	60	60	60	60	生活保護受給者数が令和4年度より増加しており、就労支援件数も増加している。	
				実績	58	73	75				
	<指標の計算方法>		担当職員による延べ件数								
	活動指標	レセプト点検	件	目標						生活保護受給者数が令和4年度より増加しており、レセプト点検件数も増加している。	
				実績	8,372	9,093	9,660				
	<指標の計算方法>		延べ点検件数								
	成果指標	担当職員の研修会参加	回	目標	6	6	6	6	6	令和4年度と同じ3回研修会に参加を行った。	
実績				7	3	3					
<指標の計算方法>		職員の参加回数									
成果指標	就労支援により自立(保護を廃止)した世帯数	世帯	目標	5	5	5	5	5	社会の経済状態悪化が継続し、就職難状態のため、就労支援により自立に繋がったケースが1件となった。		
			実績	7	2	1					
<指標の計算方法>		実世帯数									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位:千円)			財源内訳							
	18,079			国庫支出金	7,883	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	10,196
事業の実績	①生活保護適正実施推進 ・生活保護の開始・廃止の状況 (統計基準日における件数の累計)			死亡	22世帯						
	保護開始	71世帯	107人	施設入所	0世帯						
開始理由			他管内へ転出	17世帯							
世帯主・員の傷病			手持金の増加	3世帯							
離婚・世帯分離			就労収入の取得・増加	1世帯							
収入の減少			保護辞退	9世帯							
失業・倒産			扶養義務履行	2世帯							
仕送りの減少			他法他施策	2世帯							
手持金の減少			その他	3世帯							
職務権限			・就労支援件数	75件							
施設入所等			自立件数	1世帯 1人							
他管内からの転入			・研修会参加								
葬祭扶助のみ			全国ケースワーカー研修会								
その他			生活保護担当指導員会議								
			都市福祉事務所長連絡協議会特別研修会								
保護廃止											
廃止理由											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・法定受託事務であるので、市が実施主体となる。法律に従い適性に業務を遂行出来ている。 ・本事業の意図は、適正な生活保護運営であり、その対象、手段、意図ともに妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・就労支援員の配置により、保護受給者等に対する自立・就労支援が総合的に実施出来ている。 ・開催された研修会(オンライン含む)には積極的に参加により学習し、業務を効率よく遂行することに努めた。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・法に基づく適正な実施により、受益者負担は生じないため、生活保護者に不利益が生じないよう引続き事務の適正に努める。										

事務事業の概要	事務事業名	生活保護扶助事業		担当課	社会福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	49	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	3	生活保護費		施策目標	3	福祉			
		目	2	扶助費		基本施策	1	地域福祉の推進			
取組方針	4	さまざまな問題を抱える世帯に対する自立支援と生活保護									
事業概要	市民（生活困窮者）の自立を支援するために、生活保護法に基づく扶助費の支給を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	生活保護扶助		⑤			⑨				
	②			⑥			⑩				
	③			⑦			⑪				
	④			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	人口1千人あたりの生活保護受給者数	人	目標						令和4年度までは、微増であったが、令和5年度は0.49%の増加となった。	
				実績	6.92	7.05	7.54				
	<指標の計算方法>		年度末における人口1千人あたりの生活保護受給者数								
	活動指標	生活保護受給世帯数	世帯	目標						令和4年度までは、微増であったが、令和5年度は15世帯の増加となった。	
				実績	332	336	351				
	<指標の計算方法>		年度末生活保護受給世帯数								
活動指標	生活保護受給人員	人	目標						令和4年度までは、微増であったが、令和5年度は24人の増加となった。		
			実績	404	411	435					
<指標の計算方法>		年度末生活保護受給人員									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	769,244			国庫支出金	571,609	県支出金	1,067	地方債	繰入金	その他	一般財源
事業の実績	①生活保護扶助 ・生活保護受給状況（令和6年3月31日） 351世帯 435人										
	人口1千人あたりの生活保護受給者数 7.54人										
事業の実績	・各扶助実施状況 (令和6年3月現在)										
	生活扶助 287世帯 358人 住宅扶助 229世帯 284人 教育扶助 11世帯 17人 介護扶助 99世帯 104人 医療扶助 315世帯 375人 生業扶助 5世帯 6人 施設事務費 21世帯 21人 (令和5年度分) 出産扶助 0世帯 0人 葬祭扶助 1世帯 1人										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・生活保護に関する業務は、法定受託業務である。また、経済の状況や雇用の情勢など地域の状況について、身近な立場から実態を把握し、客観的な対応が出来るため妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・法令に基づき運用を実施し、ケースワーカーや就労支援員など専門性を持った人材を活用し、生活保護受給者に対する生活の向上や自立に向け支援を行っている。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・生活保護業務に関わるケースワーカーは、社会福祉法により、被保護世帯80世帯に所員の定数を1名とし配置している。 ・被保護者の増加が予想されるため、相談・調査・訪問等を効率よく進める必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	生活困窮者自立支援事業		担当課	社会福祉課			事業区分	ソフト事業	
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	944
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心		
		項	3	生活保護費		施策目標	3	福祉		
目		3	援助費	基本施策		1	地域福祉の推進			
取組方針	4	さまざまな問題を抱える世帯に対する自立支援と生活保護								
事業概要	市民（生活困窮者）の自立を包括的に支援するとともに、給付金の支給を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	生活困窮者支援			⑤				⑨	
	②	住居確保給付金の支給			⑥				⑩	
	③				⑦				⑪	
	④				⑧				⑫	
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析
	活動指標	生活困窮者相談	件	目標	20	20	20	20	20	令和4年度より生活困窮者の相談件数は減少した。相談内容の多くは例年と同様に生活福祉資金であった。
				実績	195	120	107			
	<指標の計算方法>		相談受付数							
	活動指標	支援プラン作成数	人	目標	5	5	5	5	5	令和4年度より相談件数が減少し、他法他施策に繋げることにより、支援プランの作成までには至らなかった。
				実績	2	0	0			
	<指標の計算方法>		支援プラン作成数							
	活動指標	住居確保給付金支給件数	件	目標	3	3	3	3	3	支給件数は、0件であった。
				実績	7	4	0			
	<指標の計算方法>		住居確保給付金支給件数							
活動指標	生活困窮者・被保護者就労準備支援件数	人	目標	1	1	1	1	1	支給件数は、0件であった。	
			実績	0	0	0				
<指標の計算方法>		生活困窮者・被保護者就労準備支援件数								
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
17,068			11,082						5,986	
事業の実績	①生活困窮者支援 ・相談支援件数 107件			するもの。						
	【生活】 生活福祉資金貸付に関すること 61件 家計相談に関すること 2件 生活保護制度に関すること 4件 借金に関すること 2件 その他（住居確保給付金・生活困窮者自立支援金等）に関すること 34件 【就労】 求職活動に関すること 3件 その他 1件 ・支援プラン作成に至った件数 0件			②住居確保給付金の支給 0件 65歳未満の離職後2年以内の者であって就労意欲のある者のうち、住宅を喪失または喪失するおそれのある者に対して住居確保給付金を支給するとともに、就労支援を実施することにより、住宅及び就労機会の確保に向けて支援を行う事業。						
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
		・生活困窮者自立支援法に基づき実施すべき事業である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない							
・法に定めた事業に取組むことで支援の幅が広がり、委託先である社会福祉協議会の専門的な知識を持った支援員により自立に向けた支援プランの実効性が高まる。										
効率性	評価結果	改善の余地がない								
	・生活困窮者自立支援事業を社会福祉協議会に委託することで、専門的な知識を持った支援員により、自立に向けた支援プランを立て関係機関と連携をとることにより幅広い事業の展開が出来る。									

事務事業の概要	事務事業名	行旅人援護事業			担当課	社会福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	768	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	3	生活保護費		施策目標	3	福祉				
		目	3	援助費		基本施策	1	地域福祉の推進				
取組方針	4	さまざまな問題を抱える世帯に対する自立支援と生活保護										
事業概要	行旅人・行旅病人・行旅死亡人へ最低限の援護を行うために、旅費の支給、医療費の支給、葬祭の執行等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	法定外援助			⑤			⑨				
	②	行旅死亡人対応			⑥			⑩				
	③	墓地、埋葬等に関する法律による死亡人対応			⑦			⑪				
	④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	行旅人旅費支給件数	件	目標						行旅人旅費支給件数はなかった。		
				実績		1						
	<指標の計算方法>		行旅人旅費支給件数									
	活動指標	行旅死亡人等取扱件数	件	目標						行旅死亡人取扱件数はなかった。		
				実績		1	1					
	<指標の計算方法>		行旅病人・行旅死亡人取扱件数									
活動指標	墓地、埋葬等に関する法律による死亡人取扱件数	件	目標						墓地、埋葬等に関する法律による死亡人取扱件数は1件であった。			
			実績		1	7	1					
<指標の計算方法>		墓地、埋葬等に関する法律による死亡人取扱件数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	161			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		161	
事業の実績	①法定外援助 ・行旅人に対して、最低限の旅費を支払う。 旅費支給件数 0件											
	②行旅死亡人対応 ・行旅中、住所不明者が病気で倒れ、又は死亡した時は、救護、葬祭を行う。 行旅病人取扱件数 0件 行旅死亡人葬祭件数 0件											
	③墓地、埋葬等に関する法律による死亡人対応 ・取扱件数 1件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・目的の地まで旅行する者で、旅行や食費に困窮している者（旅行人）については、法外援護金（行旅人旅費）取扱要綱、旅行中病気等により医療費の支払いに困窮している者（旅行病人）については生活保護法、市内で身元不明のまま発見された者（行旅死亡人）については、行旅病人及び行旅死亡人取扱法に基づく事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・行旅人、行旅病人、行旅死亡人の対応の必要がある場合は、人道的見地から対象者の福祉を優先的に考え、救護及び火葬を効果的にやっている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・当該事業は、いつ発生するか予測のつかないものであるため、案件が発生した時に担当者が効果的に事業を進めており、コスト面では、行旅死亡人に遺留品があれば、法に基づいた取扱いにより費用に充当することになっている。											

事務事業の概要	事務事業名	災害被害者援護事業			担当課	社会福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	52	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	4	災害救助費		施策目標	3	福祉				
		目	1	災害救助費		基本施策	1	地域福祉の推進				
取組方針	1	多様なニーズに対応できる支援体制の構築										
事業概要	市民（災害被害者）の経済的負担を軽減するために、災害見舞金の支給を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	災害見舞金支給			⑤	住家被害認定士の派遣			⑨			
	②	災害救助法事務			⑥				⑩			
	③	義援金			⑦				⑪			
	④	住家被害認定士研修			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	災害見舞金取扱件数	件	目標							火災、台風2号の豪雨の影響で床上浸水以上の被災者に対し支給した。	
			実績		1	3	123					
	<指標の計算方法>		年間取扱件数									
	活動指標	災害見舞金支給率	%	目標							災害見舞金対象世帯に迅速に支給することができた。	
			実績		100	100	100					
	<指標の計算方法>		支給件数/対象件数									
	活動指標	義援金箱設置場所数	箇所	目標							市役所本庁（1ヶ所）・各支所（4ヶ所）・出張所（1ヶ所）の窓口に災害義援金箱を設置し、義援金の受付を行った。	
			実績		6	6	6					
	<指標の計算方法>		義援金箱設置場所数									
成果指標	住家被害認定士研修参加者数	人	目標							研修希望者にばらつきがあるため増減がある。		
		実績		6	6	3						
<指標の計算方法>		住家被害認定士研修参加者数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	14,204			国庫支出金	県支出金		地方債		繰入金	その他	一般財源	10,454
事業の実績	①災害見舞金支給 ・火災9件 （全焼4件、半焼1件、部分焼2件、死亡2件） ・台風2号接近による豪雨被害 114件 （全壊1件、大規模半壊3件、中規模半壊3件、半壊72件、準半壊26件、準半壊に至らない9件） ②災害救助法事務 災害に対して国に急急に必要の救助を行ってもらうために、被害状況を把握し、県に適用申請を行う。 ・災害弔慰金 1件 ③義援金 ・ウクライナ人道危機に対する義援金箱を設置し、義援金を受付、送金した。 ・トルコ・シリア地震災害義援金箱を設置し、義援金を受付、送金した。 ・令和5年台風第2号等大雨災害義援金箱を設											
	置し、義援金を受付、送金した。 ・令和6年能登半島地震災害義援金箱を設置し、義援金を受付、送金した。 ④住家被害認定士研修 ・県住家被害認定士養成研修に3名参加。 ・県住家被害認定士スキルアップ研修に参加予定であったが、中止となった。 ⑤住家被害認定士の派遣 ・能登半島地震における被災市町へ派遣職員延 2名											
	事業の実績											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・令和5年度は台風第2号の影響により大きな水害があったが、対象世帯に見舞金を支給できた。 ・地震や風水害の災害により被災した住家の被害の程度を、国が示した判断基準に基づき認定を行う。 ・被災者の早期生活再建のため、迅速な処理が必要であり、改善の余地がない。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・災害の発生や規模によって異なるので、一概に他年度との比較はできない。 ・国が示している判断基準に基づき認定を行い、速やかに見舞金を支給している。 ・県や関西広域連合主催の住家被害認定業務研修に参加し、専門性を持った人材の確保や知識向上を図ることで、より事業の有効性を高めることができる。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・県や関西広域連合主催の住家被害認定業務研修に参加し、住家被害認定士のスキルアップを図ることで、災害時の調査においてより効率性を高めることができる。											

事務事業の概要	事務事業名	医療体制整備構築事業			担当課	健康推進課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	776	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 保健衛生費				施策目標	2 健康・医療				
目	1 保健衛生総務費			基本施策	2 地域医療体制・医療保険制度の充実							
事業概要	市民が安心して医療を受けられるように、医療機関、関係機関と医療体制の整備、構築を行う。献血事業を実施し必要な血液製剤の確保に努める。また、骨髄移植等のドナーになる方の経済的負担を軽減することで、ドナー登録者の拡大、ドナー提供を行うやすい環境の整備を行う事業。											
事務事業を構成する細事業	① 災害時医療（医薬品備蓄）			⑤ 那賀歯科医師会負担金			⑨ 骨髄等移植ドナー登録の広報活動					
	② 献血			⑥ 小児救急医療支援事業負担金			⑩ 産婦人科医院の誘致					
	③ 県救急医療情報システム負担金			⑦ 骨髄等移植ドナー助成			⑪ 妊婦通院支援給付金の支給					
	④ 那賀救急医療対策協議会負担金			⑧ 献血併行型ドナー登録会			⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	年間献血受付者数	人	目標	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことに伴い、受付者数が増加している。		
				実績	1,818	1,940	2,155					
	<指標の計算方法>		年間の献血の受付者数									
	活動指標	年間献血箇所数	箇所	目標	60	60	60	60	60	新型コロナウイルス感染症の影響もほぼなくなり、近年献血場所も増加している。献血に協力いただける企業や回数を維持することが必要である。		
				実績	43	47	49					
<指標の計算方法>		年間の献血実施箇所数										
成果指標	妊婦通院支援給付金助成率	%	目標			100	100	100	対象者全員に制度の案内を行った。申請が遅れている方に対しては、速やかに申請してもらえよう勧奨を行っている。			
			実績			99.3						
<指標の計算方法>		助成率の計算方法：申請者数/母子健康手帳交付者および転入者のうち妊産婦健康診査受診票交付者										
活動指標	献血併行型ドナー登録会開催回数	回	目標	10	10	10	10	10	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことに伴い、登録会説明員である岩出保健所との調整が円滑に行えたため、開催回数が増加した。			
			実績	1	1	5						
<指標の計算方法>		献血併行型ドナー登録会の開催回数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	12,714			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	12,714		
事業の実績	①災害時医療（医薬品備蓄） 医療救護所用医薬品期限切れ対応			⑥小児救急医療支援事業負担金 公立那賀病院の休日などの小児二次救急にかかる小児科医師の人件費の負担金			め、開設に要する費用を一部助成する制度を構築。 医師会、県産婦人科医会等へ個別事業説明に加えて、全国の産婦人科医会、国保連合会等計105カ所へ制度周知ポスター及び案内チラシを配布。 助成件数：0件 ⑩妊婦通院支援給付金の支給 市内に分娩可能な医療機関がないため、市外で妊婦健診を受診する際の交通費助成として、令和5年度より実施 助成人数：295人 対象者数：297人					
	②献血 採血者合計人数 1,946人 200cc 81人 400cc 1,865人 不採血者人数 209人			⑦骨髄等移植ドナー助成 助成人数：0人								
	③県救急医療情報システム負担金 救急医療体制を情報面から支援するための救急医療情報システム運営負担金			⑧献血併行型ドナー登録会 実施回数：5回 登録者数：21人 実施場所：MEGAドン・キホーテ紀の川店、近畿大学生物理工学部、紀の川市役所南別館								
	④那賀救急医療対策協議会負担金 紀の川市、岩出市における救急体制の整備及び円滑な運営を目的とした会の運営負担金			⑨骨髄等移植ドナー登録の広報活動 事業周知チラシを献血併行型ドナー登録会での説明時に配布 広報「紀の川」への掲載（5・10月号）								
	⑤那賀歯科医師会負担金 休日の歯科救急診療にかかる人件費の負担金			⑩産婦人科医院の誘致 令和5年度より、産科医療施設の整備のた								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
	効率性	評価結果	改善の余地がない									
		<ul style="list-style-type: none"> ・広域的に地域医療体制の充実及び救急医療体制を構築し、市民が安心して暮らせるように努める必要がある。 ・献血事業は、血液センターが事業者として実施しており、市は場所の確保、広報活動、粗品の提供等が主な業務であり、赤十字奉仕団の協力は得られるが、生命と直結する血液を集める業務は救急医療体制のひとつであり、公的にも取り組む必要がある。 ・骨髄等移植ドナー助成は、ドナーの負担を軽減し移植に用いる骨髄等の適切な提供を推進するため妥当である。 ・産婦人科医院誘致開業支援補助金制度について、市内に分娩可能な医療機関がない現状を踏まえ、開設に係る費用の一部助成を行うことは妥当である。 ・妊婦通院支援給付金制度について、市外での妊婦健診受診の際の交通費助成として、市が妊婦の経済的負担の軽減に努めることは必要である。 										
		<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で、献血箇所数と受付者数が減少したが、令和4年度より増加傾向にあり、今後も献血人数の維持・増加に努める。 ・新規採用職員研修時に岩出保健所職員による献血に係る研修を実施し、献血者数の割合が比較的小さい若年層の献血への意識を高めることができた。 ・近年新型コロナウイルス感染症の影響によりドナー登録会開催数が減少していたが、令和5年度は5回実施することができた。登録者が急激に増えることではないため、継続して開催することが重要である。 ・市内に分娩可能な医療機関がない状態が続いており、市民が安心して産み育てる環境づくりのため、効果的な取り組みについて検討が必要である。 										
		<ul style="list-style-type: none"> ・献血の箇所数が減ることは、献血者数の減少に繋がるため、今後も継続的に献血可能な若年層へ献血の必要性を啓発し、箇所数を増やしていく必要がある。 ・今後もドナーの負担を軽減し、またドナー登録者を増加させることで、移植に用いる骨髄等の適切な提供を推進していく必要がある。 ・和歌山県赤十字血液センターや岩出保健所と連携し、継続的に実施する必要がある。 ・妊婦通院支援給付金の申請については、母子健康手帳交付時または転入者への妊産婦健康診査受診票交付時に受け付けることで、できる限り漏れなく申請を促すことができています。 										

事務事業の概要	事務事業名	いのち支える自殺対策推進事業			担当課	健康推進課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1128	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 保健衛生費				施策目標	2 健康・医療				
		目	1 保健衛生総務費				基本施策	1 健康づくりと疾病予防				
事業概要	誰も自殺に追い込まれることのない社会を実現するため、自殺者の防止、自死遺族等の支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 地域におけるネットワークの強化		⑤				⑨					
	② 人材の養成及び確保		⑥				⑩					
	③ 啓発及び教育の充実		⑦				⑪					
	④ 相談体制の充実		⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	自殺死亡率	率	目標	16.5	16.5	16.5	16.5	13.4	自殺死亡率は、20.0と令和4年よりやや減少したが、過去10年間、5年間の平均は19.2、19.7であり目標値（16.5以下）に至っていない。		
				実績	21.3	21.5	20					
	<指標の計算方法>		厚生労働省の地域における自殺の基礎資料による数値(暦年)									
	活動指標	ゲートキーパー養成講座受講者数	人	目標		50	50	50	50	令和5年度の目標数は達成したが、現在の養成者数の累計は92人であり、当初計画の目標値の令和6年度末250人に近づける様、令和6年度も講座を実施する。		
				実績		28	64					
	<指標の計算方法>		職員・民生児童委員・社会福祉協議会職員等の研修参加者数									
活動指標	紀の川市いのち支える自殺対策担当委員会開催回数	回	目標	1	1	1	1	1	会議としての委員会は開催しなかったが、自治体職員用に作成されたYouTubeによる「傾聴」「連携」の動画をメールにて共有し対応についての理解を深めた。			
			実績									
<指標の計算方法>		年間開催回数										
活動指標	いのち支える自殺対策協議会開催回数	回	目標	1	1	1	2	1	各機関における事業実績と実状について、情報共有する機会となっている。			
			実績	1	1	1						
<指標の計算方法>		いのち支える自殺対策協議会開催回数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	317			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	154		
事業の実績	①地域におけるネットワークの強化 ・いのち支える自殺対策協議会並びに本部会を各1回開催した。			知ってもら「いのちの授業」を実施した。								
	②人材の養成及び確保 ・民生児童委員や人権擁護委員（粉河・那賀地区）を対象にNPO心のSOSサポートネットワーク理事長や保健師にて、ゲートキーパー養成講座を実施した。			④相談体制の充実 ・全庁体制で情報共有できる手段となる「つながりシート」の作成。 ・自殺対策に関連した情報や相談先・対応方法をメールや庁内掲示板にて発信。								
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がややある								
		・個人情報保護法の関係で、市民のニーズの把握や迅速な対応に困難な状況もある。市民の潜在的なニーズに迅速に対応するには、多機関との連携による体制づくりが必要であり、関係機関と協力しながら推進する必要がある。										
有効性		評価結果		改善の余地がややある								
		・毎年、自殺死亡率には増減がある。市民のニーズを把握し、そのニーズに答えるためには、施策の検討や情報共有等を職員全員が全庁体制で取り組む必要がある。										
効率性		評価結果		改善の余地がややある								
		・和歌山県自殺対策強化補助金を活用し事業を実施している。市の相談体制の充実に向けて、全庁体制で実施できるようにしていきたい。また、SNSでの個別相談や消防・警察・医療機関との連携など広域的な多機関連携については、市単独で実施することは困難であり、県と情報共有しながら取り組んでいく必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	公立那賀病院経営事務組合事業			担当課	健康推進課			事業区分	一部事務組合		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	1073
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 保健衛生費				施策目標	2 健康・医療				
		目	1 保健衛生総務費				基本施策	2 地域医療体制・医療保険制度の充実				
取組方針	1 地域医療体制の充実											
事業概要	市民が安心して医療を受けられるように、公立那賀病院の運営に参画する事業											
事務事業を構成する細事業	①	公立那賀病院経営事務組合負担金			⑤						⑨	
	②	病院運営の審査事務			⑥						⑩	
	③	一部事務組合定例会（議会）			⑦						⑪	
	④				⑧						⑫	
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	入院患者数(全体)	人	目標	95,000	95,000	95,000	95,000	95,000	新型コロナウイルス感染症流行前の数値より低い、新型コロナウイルス感染症の収束により、令和4年度と比べ徐々に増加している。		
				実績	77,044	76,787	77,896					
	<指標の計算方法>		公立那賀病院へ入院された市民(紀の川市・岩出市、管外)の年間患者数(延)									
	成果指標	外来患者数(全体)	人	目標	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	新型コロナウイルス感染症の検査者数の減少により、外来患者数が減少した。		
				実績	108,312	108,525	106,623					
	<指標の計算方法>		公立那賀病院へ外来通院された市民(紀の川市・岩出市、管外)の年間患者数(延)									
	成果指標	入院患者数(紀の川市)	人	目標	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	新型コロナウイルス感染症流行前の数値より低い、新型コロナウイルス感染症の収束により、令和4年度と比べ徐々に増加している。		
				実績	37,510	37,280	37,316					
	<指標の計算方法>		公立那賀病院へ入院された紀の川市民の年間患者数(延)									
	成果指標	外来患者数(紀の川市)	人	目標	66,000	66,000	66,000	66,000	66,000	新型コロナウイルス感染症の検査者数が減少したことにより、外来患者数が減少した。		
				実績	56,713	57,119	55,841					
<指標の計算方法>		公立那賀病院へ外来通院された紀の川市民の年間患者数(延)										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	594,355			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	594,355		
事業の実績	①公立那賀病院経営事務組合負担金 紀の川市と岩出市の負担割合等を精査し支出した。 紀の川市負担率 57.61%											
	②病院運営の審査事務											
	③一部事務組合定例会（議会） 8月、3月 定例会（議会）開催											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・公立那賀病院は那賀保健医療圏域において唯一の総合病院であり、地域医療の確保に大きな役割を果たしている。県が策定する地域医療構想を基に効率的かつ質の高い医療提供体制を構築することが求められる中において、負担は妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・公立那賀病院は、地域に安心を与える財産であることから、有効性において改善の余地がない。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・岩出市とともに共同で適正に業務の処理ができており、効率性において改善の余地がない。											

事務事業の概要	事務事業名	那賀休日急患診療所経営事務組合事業			担当課	健康推進課		事業区分	一部事務組合		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1074
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	健康・医療			
		目	1	保健衛生総務費		基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実			
事業概要	市民が安心して医療を受けられるように、休日急患診療所の運営に参画する事業										
事務事業を構成する細事業	①	那賀休日急患診療所経営事務組合負担金			⑤					⑨	
	②	一部事務組合定例会（議会）運営			⑥					⑩	
	③	那賀休日急患診療所経営事務の審査			⑦					⑪	
	④	那賀医師会との連絡調整			⑧					⑫	
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	診療所利用者数(紀の川市民・岩出市民・その他)	人	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	令和5年5月より新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行となったが、夏場のインフルエンザとの同時流行等もあり、全体的に利用者数は増加した。	
				実績	561	1,859	2,277				
	<指標の計算方法>		休日、祝祭日及び季節性インフルエンザ流行期の土曜日を追加した夜間に一次救急として利用される市民(紀の川市・岩出市)の診療所年間利用者数								
	成果指標	診療所利用者数(紀の川市民)	人	目標	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	令和5年5月より新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行となったが、夏場のインフルエンザとの同時流行等もあり、全体的に利用者数は増加した。	
				実績	290	1,007	1,170				
	<指標の計算方法>		休日、祝祭日及び季節性インフルエンザ流行期の土曜日を追加した夜間に一次救急として利用される紀の川市民の診療所年間利用者数								
	活動指標	診療所開設の広報掲載回数	回	目標	12	12	12	12	12	診療所の診療時間及び電話番号を市広報誌(毎月)に掲載して案内できている。	
				実績	12	12	12				
	<指標の計算方法>		診療所開院期間及び時間の案内を紀の川広報等を利用した啓発回数								
活動指標	夜間診療の開設日数	日	目標	40	40	40	40	40	委託先的那賀医師会の判断により、新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ流行期の対応として、令和5年12月23日から令和6年2月25日までの土日祝日と年末年始の期間、夜間診療の実施となった。		
			実績	26	26	26					
<指標の計算方法>		季節性インフルエンザ等流行期の土曜日・日曜日・祝祭日(年末年始含む)の夜間診療開設日数									
コストの実績	R 5年度決算額(単位:千円)			財源内訳							
	18,490			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	18,490	
事業の実績	①那賀休日急患診療所経営事務組合負担金・那賀休日急患診療所経営事務組合の運営に対し負担金を支出した。 計上し対応した。										
	紀の川市負担率 54.99%										
	②一部事務組合定例会(議会)運営 ・8月、3月の組合議会に事務局員として出席。										
	③那賀休日急患診療所経営事務の審査 ・那賀休日急患診療所経営事務組合事務局として、診療所運営に係る予算及び決算を精査し、両市財政部局の予算ヒアリングにおいて説明を行った。										
④那賀医師会との連絡調整 ・休日急患診療所の運営に関して、那賀医師会長と連絡を密にし、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ流行期に看護師等の増員対応に対する人件費増のため、補正予算を											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・那賀休日急患診療所は、休日の一次救急において大きな役割を担っており、市民が安心して生活する上で必要不可欠なサービスである。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・公立那賀病院の二次救急の負担軽減につながっている。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・那賀休日急患診療所経営事務組合負担金については、両市(紀の川市・岩出市)で取り決めた「規約」に基づいて負担し、運営の補助を行っている。										

事務事業の概要	事務事業名	那賀広域事務組合事業			担当課	健康推進課		事業区分	一部事務組合		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1075
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	健康・医療			
		目	1	保健衛生総務費		基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実			
取組方針	2	救急医療体制の充実									
事業概要	市民が安心して医療を受けられるように、那賀広域事務組合の運営に参画する事業										
事務事業を構成する細事業	①	那賀広域事務組合負担金			⑤					⑨	
	②	病院群輪番制運営の審査事務			⑥					⑩	
	③	一部事務組合定例会（議会）			⑦					⑪	
	④				⑧					⑫	
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	病院群輪番制病院利用者数(全体)	人	目標	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	新型コロナウイルス感染症の収束により、徐々に利用者数が増加した。	
				実績	744	861	890				
	<指標の計算方法>		病院群輪番制病院の年間利用者数(紀の川市・岩出市・他地区)								
	成果指標	病院群輪番制病院利用者数(紀の川市)	人	目標	500	500	500	500	500	新型コロナウイルス感染症の収束による増加と新型コロナウイルス感染症の検査者数の減少の相殺により、全体的に利用者数が微減した。	
				実績	336	433	425				
	<指標の計算方法>		病院群輪番制病院の年間利用者数(紀の川市)								
	活動指標	病院群輪番制病院数	医院	目標	7	6	6	6	6	公立那賀病院を含む那賀地域(紀の川市・岩出市)の6病院輪番制で二次救急に対応している。	
				実績	6	6	6				
	<指標の計算方法>		病院群輪番制病院の数								
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	4,588			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			4,588								
事業の実績	①那賀広域事務組合負担金 ・病院群輪番制による休日及び祝祭日の二次救急医療提供のため、負担金の支出を実施した。 紀の川市負担率 53.18%										
	②病院群輪番制運営の審査事務 ・病院群輪番制参加医療機関 6ヶ所 (1) 公立那賀病院 (2) 医療法人 殿田会 殿田胃腸肛門病院 (3) 医療法人 富田会 富田病院 (4) 医療法人 共栄会 名手病院 (5) 社会医療法人 三車会 貴志川リハビリテーション病院 (6) 医療法人 稲穂会 稲穂会病院										
	③一部事務組合定例会（議会） 8月、3月定例会（議会）開催										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・病院群輪番制是那賀保健医療圏域における休日の二次救急医療確保に必要不可欠であり、市費による負担（負担金）は妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・休日における診療体制の確保は必要不可欠であり、有効性が高い。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・病院群輪番制是那賀保健医療圏域における休日の二次救急医療確保に必要不可欠であり、現状の制度を維持する必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	母子健康管理事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	781
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育			
		項	1 保健衛生費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス			
		目	2 母子保健費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援			
事業概要	妊産婦、乳幼児の健康管理を支援するために、乳幼児健診や妊産婦健康診査等を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	妊産婦健診等助成			⑤			⑨			
	②	乳幼児健診・訪問指導			⑥			⑩			
	③	母子健康手帳交付			⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	乳幼児健診受診率	%	目標	98	98	99	99	99	未受診者へ個別に電話連絡をするなど丁寧な対応により、受診率は目標値に近い高い水準を維持している。	
				実績	96	98.5	98.2				
	<指標の計算方法>		乳幼児健診受診者/乳幼児健診対象者								
	成果指標	乳幼児健診において子育てに支援を要する子ども家庭の件数	件	目標	320	310	310	310	310	伴走型相談支援など、妊娠期からの切れ目ない支援により、子育て支援を要する家庭は減少した。	
				実績	257	278	217				
<指標の計算方法>		すこやか親子アンケートに基づく子育てに支援を要する子ども家庭の件数									
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
49,816			3,363	1,106					45,347		
事業の実績	①妊産婦健診等助成			・乳児家庭全戸訪問 296件							
	・妊婦健診 受診件数 6,484件 受診実人数 444人 ・妊婦歯科健診 受診件数 133件 ・産婦健診 受診件数 381件 受診実人数 297人			・ブックスタート 絵本配付 284件 ③母子健康手帳交付 ・妊娠届出数 277件							
②乳幼児健診・訪問指導											
・乳幼児健診 対象者数 1,240人 受診者数 1,218人 受診率 98.2%											
・訪問指導 妊産婦 585件 (延件数) 新生児 93件 乳児 489件 幼児 53件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・自治体関与が求められる法定対象の事業で妥当性がある。 ・法定以外の市独自の対象者についても社会環境の変化に対応しており、実施可能であるのは市のみである。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・乳幼児健診受診率は高水準を推移しており、母子の健康状態の把握や疾病の早期発見・治療につなげるための必要な手段である。 ・一方で妊娠期からの伴走型支援がうたわれており、保健師等の知識や技術の向上を図ると共に、専門職の人材確保が必要である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・乳幼児健診の実施体制（会場レイアウト、スタッフ人数、指導内容等）を常に見直し、内容を充実させるとともに効率化を図っている。										

事務事業の概要	事務事業名	母子保健医療給付事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	857
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育			
		項	1 保健衛生費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス			
		目	2 母子保健費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援			
事業概要	未熟児、疾病のある子どもが安心して医療を受けられるように、医療費、日常生活用具の給付を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	未熟児養育医療給付			⑤			⑨			
	②	小児慢性特定疾病児童日常生活用具給付			⑥			⑩			
	③				⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	未熟児養育医療給付件数	件	目標	25	25	25	25	25	公費負担医療である未熟児養育医療での治療が必要な新生児等が対象となるため、治療を受けるために必要となる公費負担医療の給付件数のみでの指標となり、実績値にばらつきがある。	
			実績	20	15	22					
	<指標の計算方法>		未熟児養育医療給付件数								
	成果指標	小児慢性特定疾病児童日常生活用具給付件数	件	目標	2	2	1	1	1		小児慢性特定疾病医療受給者が日常生活において生活用具の給付が必要な場合のみ給付を行うため、給付件数が極めて少なく、年度によって実績値にばらつきがある。
			実績	0	2	0					
	<指標の計算方法>		小児慢性特定疾病児童日常生活用具助成件数								
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
2,445			902	427			293	823			
事業の実績	①未熟児養育医療給付 給付実人員 9人 医療給付件数 22件										
	②小児慢性特定疾病児童日常生活用具給付 給付実人員 0人(申請無し)										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・国及び県制度に基づく事業である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
		・公費負担医療の制度である。									
効率性	評価結果	改善の余地がない									
		・公費負担医療の制度であり、事業内容の改善余地はなく、事務手順についても件数も少ないため、改善は困難である。									

事務事業の概要	事務事業名	母子健全育成事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	782
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育			
		項	1 保健衛生費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス			
		目	2 母子保健費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援			
事業概要	乳幼児が健やかに成長できるように、保護者に親子教室、発達相談等を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	親子教室			⑤			⑨			
	②	発達相談			⑥			⑩			
	③	小児成育医療支援			⑦			⑪			
	④	母子保健推進員活動の補助			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	親子教室参加率	%	目標	37	37	50	50	50	避難所の設置等による開催場所の急な変更が影響し、参加率が減少したため目標値を下回った。	
				実績	47.8	44.7	42.6				
	<指標の計算方法>		親子教室参加者数/親子教室述べ対象者数								
	成果指標	発達相談利用者延べ人数	人	目標	300	300	300	300	300		目標値は下回ったが、保育所等で保護者が子どもの様子を把握する機会が増えたことで、就園児の発達相談が増加した。
				実績	252	258	285				
	<指標の計算方法>		発達相談利用者の延べ人数								
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	9,069			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	9,069	
事業の実績	①親子教室 1歳児 参加延べ人数 448人 2歳児 参加延べ人数 410人 (※親と子の参加人数の合計)										
	②発達相談 新規相談数 107件 継続相談数 178件										
	③小児成育医療支援 新規相談件数 13件 継続相談件数 116件										
	④母子保健推進員活動の補助 令和5年度実績無し										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・法に基づく乳幼児健診後のフォローアップの位置づけであり、市以外が主体と成り得ない事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・子どもの成長発達に支援が必要であったり、育児不安を抱える保護者に対し、必要な相談や支援を行うことにより、子どもの成長を促し保護者の育児不安の軽減につながる事業である。 ・母子保健推進員の活動について、近年の社会情勢の変化に応じた内容に見直しているところである。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・親子の成長や気持ちに寄り添った丁寧な支援が必要であるが、対応可能人数に限りがあり、専門的な知識を持つ発達相談員の維持確保すると共に、新たな委託事業所の開拓や発達相談員の増員についても検討が必要である。										

事務事業の概要	事務事業名		不妊治療助成事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業			
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	835	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育					
		項	1 保健衛生費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス					
		目	2 母子保健費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援					
事業概要		市民が安心して不妊治療を受けられるように、不妊治療に要する費用の一部の助成を行う事業											
事務事業を構成する細事業		①	一般不妊治療費助成金			⑤			⑨				
		②	生殖補助医療先進医療費助成金			⑥			⑩				
		③				⑦			⑪				
		④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析				
	活動指標	一般不妊治療費助成申請数	件	目標	35	35	35	35	35	令和4年度からの制度改正により保険適用となった治療があり、申請数が減少した。			
			実績	43	30	29							
	<指標の計算方法>		一般不妊治療費の助成申請件数										
	活動指標	生殖補助医療費助成申請数	件	目標	30	30	30	1	1	対象治療に対する自己負担分の大半が県事業の助成範囲内で収まっているため、市への申請件数は少ない。			
			実績	49	17	1							
	<指標の計算方法>		生殖補助医療先進医療費助成申請件数										
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	1,281			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	897			
事業の実績	①一般不妊治療費助成金 助成件数 29件												
	②生殖補助医療先進医療費助成金 助成件数 1件												
※県事業の生殖補助医療に上乗せ給付として市事業を行っているが、対象数は少ない。													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・国、県、市で財源負担しながら実施している事業であり、市が実施すべき事業である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・不妊治療にかかる費用は高額であり経済的負担が大きいため、負担軽減のために有効な事業である。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・助成費用については、県費対象分と市単独分とがありコスト効率は考えにくい。												

事務事業の概要	事務事業名	子育て世代包括支援センター運営事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1030
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育			
		項	1 保健衛生費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス			
		目	2 母子保健費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援			
事業概要	妊産婦、子育て中の親子が妊娠・子育てに関し切れ目のない支援を受けられるように、支援プランに基づく包括的な支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	子育て世代包括支援センター運営			⑤			⑨			
	②				⑥			⑩			
	③				⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			

指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析
	活動指標	妊娠届出時の妊婦アンケートに基づく妊婦の心身等の状況把握率	目標	100	100	100	100	100	妊娠届出時全ての妊婦に対して面談を実施できたため、全妊婦の状況把握を行うことができている。
			実績	100	100	100	100		
	<指標の計算方法>		妊婦アンケート時の面談数/妊娠届出数						
	成果指標	妊産婦、乳幼児への支援・相談件数	目標	570	570	1,500	1,500	1,500	出生数は減少しているが、子育て世代包括支援センターが市民に定着してきたこともあり相談件数は増加傾向である。
実績			1,568	1,707	1,818				
<指標の計算方法>		子育て世代包括支援センターが実施した妊産婦、乳幼児への支援・相談等の件数							
成果指標	産後の産婦・乳児に係る訪問率	目標	98	98	99	99	99	子育て応援給付金の申請に必要な面談を同時に実施していることもあり、訪問率は高い水準を維持している。	
		実績	99.7	99.3	99				
<指標の計算方法>		助産師・保健師による訪問数/出生した世帯数							
		目標							
		実績							
<指標の計算方法>									

コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	27,129	11,223	2,334					13,572

事業の実績	①子育て世代包括支援センター運営		
	<p>妊娠届出時の面談数 306件 (内) 転入時の面談数 29件</p> <p>相談件数 電話(着) 246件 電話(発) 693件 来所相談 879件</p> <p>産前産後サポート事業 訪問相談 80件</p> <p>プレパパママ教室(個別実施) 参加者数(組) 67組</p> <p>産後ケア事業 ・宿泊型 利用人数 5人 利用日数 9日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デイサービス型 利用人数 19人 利用回数 79回 ・訪問型 利用人数 32人 利用回数 136回 	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	・法定事業であり、設置運営は市町村の努力義務とされている。市以外が実施主体と成りえない事業である。
	有効性	評価結果	改善の余地がない	・専門職(助産師・保健師)が妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を行い、妊娠出産や子育てなどの様々な不安に対応することで、児童虐待のリスクの早期発見、安心して子育てできる相談体制の受け皿としても有効性の高い事業である。
	効率性	評価結果	改善の余地がややある	・社会情勢の変化とともに相談内容も複雑化し、相談対応に専門性を必要としている。専門職の確保や支援体制を充実していく必要がある。

事務事業の概要	事務事業名	感染症対策事業			担当課	健康推進課		事業区分	ソフト事業					
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	54			
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心						
		項	1 保健衛生費				施策目標	2 健康・医療						
目		3 予防費			基本施策		1 健康づくりと疾病予防							
目				取組方針	2 がん対策の推進									
事業概要	市民の感染症の予防、拡大防止につなげるために、予防接種の実施、予防接種に対する助成を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①	定期接種（子ども、高齢者）			⑤	予防接種副反応報告		⑨	食中毒、感染症の注意報対応					
	②	風しん追加的対策事業			⑥	予防接種後健康被害救済		⑩						
	③	予防接種受診勧奨			⑦	予防接種補助金事務		⑪						
	④	予防接種検討委員会			⑧	感染症対策物品の整備		⑫						
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析					
	成果指標	MR2期の接種率	目標	95	95	95	95	95	蔓延を防ぐとされている85%の接種率を上回ることができたが、国内において麻しんの流行がみられるため、流行が起きないように引き続き95%の目標を掲げて進めていく必要がある。					
			実績	96.5	93.8	94.7								
	<指標の計算方法>		接種率の計算方法：接種者数/対象者数(年長児)											
	成果指標	2種混合(DT)の接種率	目標	85	85	85	85	85				新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの流行により、病院受診を避ける傾向にあったため接種率が低下したが、接種期間が13歳迄のため令和6年4月以降の接種に先延ばししたと考えられる。		
			実績	85.2	91	80.3								
<指標の計算方法>		接種率の計算方法：接種者数/対象者数(小学6年生)												
活動指標	広報掲載回数	目標			24	21	15	新型コロナウイルスワクチンの特例臨時接種が令和6年3月末で終了するため、特例的に掲載回数を増やし市民への周知に努めた。						
		実績			24									
<指標の計算方法>		広報「紀の川」への感染症対策事業に関する記事掲載回数												
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	173,177			国庫支出金	366	県支出金	7,100	地方債	繰入金	20,000	その他	一般財源	145,711	
事業の実績	①定期接種（子ども、高齢者） 予防接種名 対象者数(延べ人数) 接種者数(人) 接種率			水痘 620 608 98.1% B型肝炎 903 872 96.6% ロタウイルス 791 731 92.4%			<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者インフルエンザ勧奨通知 1回 ・高齢者肺炎球菌勧奨通知 1回 ④予防接種検討委員会 ・令和6年2月22日（那賀医師会、岩出市、紀の川市） ・令和6年3月1日（那賀病院、岩出市、紀の川市） 							
	<ul style="list-style-type: none"> (MR2期, DT2期, 子宮頸がんの対象者数は接種案内数の延べ人数, その他の予防接種対象者数は年度末の対象年齢者の延べ人数) BCG 301 296 98.3% MR1期(麻しん, 風しん) 310 321 103.5% MR2期(麻しん, 風しん) 416 394 94.7% 4種混合(ジフテリア, 百日せき, 破傷風, 不活化ポリオ) 1,213 1,259 103.8% 2種混合(DT:ジフテリア, 破傷風) 513 412 80.3% 日本脳炎 1,599 1,472 92.1% ヒブ 1,213 1,169 96.4% 小児用肺炎球菌 1,213 1,175 96.9% 子宮頸がん(定期) 3,633 278 7.7% 子宮頸がん(キャッチアップ) 5,609 348 6.2% 			<ul style="list-style-type: none"> *子宮頸がんワクチンの積極的勧奨の再開に伴い、キャッチアップ接種対象者は、令和6年度末まで接種機会を確保し救済措置を行う。 ・高齢者の予防接種 実施状況 対象者数(人) 受検・接種者数(人) 接種率 高齢者インフルエンザ 20,505 12,737 62.1% 高齢者肺炎球菌 2,945 666 22.6% ②風しん追加的対策事業 対象者数(人) 受検・接種者数(人) 接種率 風しん抗体検査 4,596 57 1.2% 風しん第5期定期接種 93 13 14.0% ③予防接種受診勧奨 ・MR2期、2種混合(DT)勧奨通知 各3回 ・日本脳炎2期勧奨通知 2回 			<ul style="list-style-type: none"> ⑤予防接種副反応報告 1件 ⑥予防接種後健康被害救済 申請1件 ⑦予防接種補助金事務 定期37件、任意3件(県外医療機関等での接種費用の助成) ⑧感染症対策物品の整備 ・追加物品(アルコール等)の購入 ・避難所の感染症対策物品の入替 54か所 ⑨食中毒、感染症の注意報対応 【食中毒】 ・市広報掲載 2回 ・メール配信 4回 ・防災行政無線放送 3回 【感染症】 ・メール配信(インフルエンザ) 1回 							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
	有効性	評価結果	改善の余地がややある											
		<ul style="list-style-type: none"> ・接種勧奨への継続的な取組の中ではあるが、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなどの感染症の影響により、接種率が低くなったと考えられる。 ・感染症の流行が起きないように、接種率の向上に向けた啓発に努める必要がある。 ・子宮頸がんワクチンのキャッチアップ及び風しん追加的対策事業は、令和6年度までの措置となるため、令和6年度も対象者が接種できる体制整備を引き続きおこなう。 												
効率性	評価結果	改善の余地がない												
<ul style="list-style-type: none"> ・短期間に接種案内を大量発送する必要がある予防接種（高齢者インフルエンザ、高齢者肺炎球菌ワクチン、子宮頸がんワクチン）について、予診票の発送を外部委託することで事務の効率化を図っている。 														

事務事業の概要	事務事業名	新型コロナウイルスワクチン接種事業			担当課	健康推進課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	完了	事業期間	期間限定複数年度 (R2～R5)	事業番号	1166	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	健康・医療			
		目	3	予防費		基本施策	1	健康づくりと疾病予防			
事業概要	市民の新型コロナウイルス感染症による重症化を防ぐために、接種体制の整備を行い、接種を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	接種体制整備	⑤		⑨						
	②	集団接種関連業務	⑥		⑩						
	③	個別接種関連業務	⑦		⑪						
	④		⑧		⑫						
指標の実績	指標名		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の分析		
	活動指標	集団接種協力医療機関数	カ所	目標	26	35	35			令和4年度と同様、医療機関からの協力を得た。一部医療機関からは複数の医師と看護師の派遣協力を得た。	
			実績	38	37	37					
	<指標の計算方法>		集団接種協力医療機関数（紀の川市内58医療機関中の協力医療機関数）								
	活動指標	個別接種協力医療機関数	カ所	目標	27	40	40			令和4年度より減少し目標値を下回った。減少理由は通常診療に専念するため継続が困難というものであった。	
			実績	44	42	39					
<指標の計算方法>		個別接種協力医療機関数（紀の川市内58医療機関中の協力医療機関数）									
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	226,936	181,643		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	74	一般財源 45,219	
事業の実績	①接種体制整備 包括事務委託 1カ所 ・接種券の印刷、郵送 ・コールセンターの運営 年間受付件数 22,120件 ・集団接種会場の設置、運営			◎参考資料 <一般接種率：12歳以上> ・1回目接種率 全体 85.5% 65歳以上 94.5% 60歳～64歳 90.8% 20歳～59歳 82.6% 12歳～19歳 54.2%			・7回目接種率 全体 17.2% 65歳以上 40.6% 60歳～64歳 11.0% 20歳～59歳 2.8% 12歳～19歳 0%				
	②集団接種関連業務 本庁南別館で実施(土・日) ・延べ実施回数 26回 ・延べ接種回数 2,126回			・2回目接種率 全体 85.1% 65歳以上 94.3% 60歳～64歳 90.7% 20歳～59歳 82.2% 12歳～19歳 53.6%			<小児接種率：5歳～11歳> ・1回目 8.0% ・2回目 7.6% ・3回目 4.4% ・4回目 1.9% ・5回目 0.9%				
③個別接種関連業務 市内39医療機関にて実施 ・延べ接種回数 22,576回			・3回目接種率 全体 72.2% 65歳以上 91.1% 60歳～64歳 83.5% 20歳～59歳 62.5% 12歳～19歳 30.0%			<乳幼児接種率：6カ月～4歳> ・1回目 2.5% ・2回目 2.3% ・3回目 2.1% ・4回目 1.0%					
			・4回目接種率 全体 50.7% 65歳以上 82.2% 60歳～64歳 64.0% 20歳～59歳 30.5% 12歳～19歳 10.6%			<市外医療機関での接種> ・延べ接種回数 1,470回 ・全接種回数に占める割合 5.6%					
			・5回目接種率 全体 35.6% 65歳以上 71.0% 60歳～64歳 41.6% 20歳～59歳 12.6% 12歳～19歳 2.0%								
			・6回目接種率 全体 24.2% 65歳以上 53.9% 60歳～64歳 23.1% 20歳～59歳 5.3% 12歳～19歳 0.1%								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・予防接種法に基づき実施しており事業の妥当性は高い。接種時期（春夏または秋冬）による対象者および使用ワクチンの変更等にも適宜対応し、平日の個別接種と土日の集団接種を継続して実施したことにより、市民が接種しやすい体制づくりを行った。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・ワクチン接種について市単独で効果の検証を行うことが難しい。国は5月8日以降、新型コロナウイルス感染症を5類感染症に移行したため、重症化リスクが高い高齢者以外の接種が著しく減少した。 ・5類感染症移行および感染者減少等により関心が希薄となっているが、接種による重症化予防等のメリットを市民に説明しながら事業をすすめた。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・国の方針変更により、急な計画の見直しが必要となることがあるが、適宜対応し事業を行った。 ・5類感染症移行により接種者が減少したが、その都度接種体制を見直しながら事業をすすめた。										

事務事業の概要	事務事業名	健康づくり事業		担当課	健康推進課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心		
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	健康・医療		
		目	4	保健事業費		基本施策	1	健康づくりと疾病予防		
取組方針	1	健康づくりの推進								
事業概要	市民が健康的な生活を送れるように、紀の川市健康増進計画に基づき、地域と連携しながら健康づくりを行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	身体活動向上事業			⑤	食生活改善推進協議会補助金		⑨		
	②	健康推進員活動支援			⑥	健康増進計画策定・進行管理		⑩		
	③	保健師研修・育成			⑦	がん教育事業		⑪		
	④	市町村保健師協議会負担金			⑧	紀の川市ピンクリボンキャンペーン推進本部		⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	食生活改善推進事業参加者数	人	目標	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	新型コロナウイルス感染症拡大で自粛となっていた食育フェアや、調理を伴うイベントの再開等により、参加者数が増加傾向にある。
			実績	149	212	320				
	<指標の計算方法>		食生活改善推進事業の一般参加者の合計人数							
	成果指標	健康増進に係る事業参加者数(チャレンジ100万歩事業)	人	目標	500	500	500	500	500	参加者数は令和4年度に比べて増加したが、10月のみのイベントとなっており、継続した健康づくりのきっかけとなる事業が必要である。
			実績	503	538	599				
	<指標の計算方法>		チャレンジ100万歩参加者数							
	活動指標	紀の川市民健康づくり11か条(概要版)配布部数	部数	目標	500	500	500	26,150	500	チャレンジ100万歩の参加者や集団検診時等に配布した。令和6年度は、第3次紀の川市健康増進計画概要版を全戸配布予定。
			実績	577	715	810				
	<指標の計算方法>		健康づくり11か条(概要版)配布部数							
<指標の計算方法>										
コストの実績	R 5年度決算額(単位:千円)			財源内訳						
	8,684			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
			122							8,562
事業の実績	①身体活動向上事業			・健康づくり推進庁内会議の開催 1回			・健康づくり推進協議会の開催 3回			
	・チャレンジ100万歩2023事業 実施期間 令和5年10月(1か月間) 申込者・参加者 152チーム 599人(内結果返送者583人、目標達成者395人)			⑦がん教育事業			・紀の川市立中学校4校の2年生にオンラインでがん教育を実施。			
	②健康推進員活動支援			⑧紀の川市ピンクリボンキャンペーン推進本部			・10月乳がん月間の集団検診や各まつり、チャレンジ100万歩にて啓発活動を実施。			
	・健康推進員登録者数 63人									
	③保健師研修・育成									
	・研修参加回数 6回									
④市町村保健師協議会負担金										
・30,000円+2,000円×19人(保健師数)										
⑤食生活改善推進協議会補助金										
・会員60人										
⑥健康増進計画策定・進行管理										
・第3次紀の川市健康増進計画策定										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
		・健康づくり事業は、国の健康日本21を基に和歌山県健康増進計画に整合した紀の川市健康増進計画に基づく健康増進事業であり、市民が健康づくりに関心を持ち、市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組むきっかけとなるよう、市全体での環境づくりが重要となるため、市が主体となって実施することは妥当である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある							
		・市民一人ひとりが、楽しみながら、主体的かつ継続的に健康づくりに取り組むことが紀の川市健康増進計画の基本理念であり、継続的な健康づくり活動のきっかけとして、チャレンジ100万歩を実施してきたが、10月の事業実施期間のみ活動する人が多いため、継続的な健康づくりができるよう、事業実施方法について検討する必要がある。								
効率性	評価結果	改善の余地がややある								
	・新型コロナウイルス感染症拡大で中止となっていた祭りやイベントが再開され、直接市民にがん検診の必要性や健康づくりについて伝えられる機会が増えた。各種団体と協働し、市民の参加意欲が高まる健康イベントを計画、実施していきたい。									

事務事業の概要	事務事業名	がん対策事業			担当課	健康推進課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	792	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	健康・医療			
目		4	保健事業費	基本施策		1	健康づくりと疾病予防				
事業概要	市民のがんの予防や早期発見につなげるために、がん検診や受診啓発を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	がん検診			⑤	検診部会運営		⑨	関係機関との業務調整事務および会議		
	②	胃内視鏡検診二重読影事業			⑥	がん検診受診勧奨		⑩	アピアランスケア助成金		
	③	肺がん検診二重読影事業			⑦	がん検診結果入力・確認		⑪	妊孕性温存後生殖補助医療費助成金		
	④	乳がん検診精度管理委員会運営			⑧	がん検診精密検査受診勧奨		⑫	和歌山県がん検診推進支援事業補助金		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	集団検診申込者数	人	目標	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	集団検診を1ヶ所に集約したことで、申込者数は減少したが、個別検診で全ての検診が受診できる体制を整えている。	
			実績	18,566	14,319	12,584					
	<指標の計算方法>		集団検診(胃・肺・大腸・乳がん検診)の申込者数の合計								
	成果指標	集団検診受診者数	人	目標	17,500	17,500	17,500	17,500	17,500	集団検診を熱中症対策により空調設備のある施設1ヶ所に集約したことで、受診者数は減少したが、個別検診の受診者数は増加している。	
			実績	10,926	9,904	8,827					
	<指標の計算方法>		集団検診(胃・肺・大腸・乳・子宮頸がん検診)の受診者数の合計(令和5年度から子宮頸がん検診追加)								
	成果指標	個別検診受診者数	件	目標	11,500	11,500	11,500	11,500	11,500	個別検診で全ての検診が受診できる体制を整えており受診者数は増加している。特に子宮頸がん検診の受診率は、受診・未受診者勧奨により、令和4年度13.6%から令和5年度19.0%に上がった。	
			実績	10,531	9,667	11,350					
	<指標の計算方法>		個別検診(胃・肺・大腸・乳・子宮頸がん検診)の受診者数の合計								
成果指標	乳がん検診受診率	%	目標	30	30	30	30	30	定期的な受診勧奨と未受診者勧奨、また10月のピンクリボン月間での日曜日検診もあり、受診率は上がっている。		
		実績	17	18.6	21.8						
<指標の計算方法>		乳がん検診(集団・個別)の受診者数÷対象年齢の全住民×100									
コストの実績	R 5年度決算額(単位:千円)			財源内訳							
	104,995	485	2,742	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
101,768											
事業の実績	①がん検診 〔集団検診〕〔受診者数/対象者数〕 胃がん検診(40～74歳) 1,320人/28,853人 大腸がん検診(40歳以上) 3,040人/40,021人 肺がん検診(40歳以上) 3,241人/40,021人 喀痰検診(50歳以上・喫煙指数600以上) 24人/458人 乳がん検診(40歳以上偶数年齢) 1,160人/10,881人 子宮頸がん検診(20歳以上偶数年齢) 66人/13,399人 〔個別検診〕〔受診者数/対象者数〕 胃がん検診(40歳以上) 1,672人/40,021人 大腸がん検診(40歳以上) 3,082人/40,021人 肺がん検診(40歳以上) 2,916人/40,021人 喀痰検診(50歳以上・喫煙指数600以上) 196人/423人 乳がん検診(40歳以上偶数年齢) 1,207人/10,881人 子宮頸がん検診(20歳以上偶数年齢)			2,473人/13,399人 (※内108人は妊婦健診で受診) 〔総受診者数、受診率、がん発見者数〕 ・胃がん検診 2,992人(7.5%) (7人) ・大腸がん検診 6,122人(15.3%) (10人) ・肺がん検診 6,157人(15.4%) (6人) ・乳がん検診 2,367人(21.8%) (11人) ・子宮頸がん検診 2,539人(19.0%) (1人) ②胃内視鏡検診二重読影事業 ・二次読影は、一次検査データを受け取ってから、おおむね10日以内に完了できている。 ③肺がん検診二重読影事業 ・二次読影は、一次検査データを受け取ってから、おおむね20日以内に完了できている。 ④乳がん検診精度管理委員会運営 1回 ⑤検診部会運営 1回 ⑥がん検診受診勧奨 ・集団検診(胃がん・肺がん・大腸がん)申込者でいずれかの検診未受診者856人に実施し、129人受診した。			・乳がん検診未受診者(40～69歳)5,021人に実施し、823人が受診した。 ・子宮頸がん検診未受診者(20～69歳)7,565人に実施し、1,284人が受診した。 ⑦がん検診結果入力・確認 ・検診受診履歴等をデータベースで経年蓄積管理している。 ⑧がん検診精密検査受診勧奨 3回/年 ⑨関係機関との業務調整事務および会議 ・検診事業の評価等、関係機関と情報共有を図った。 ⑩アピアランスケア助成金 ・ウィッグ 12件 ・乳房補整具 4件 ⑪妊孕性温存後生殖補助医療費助成金 ・0件 ⑫和歌山県がん検診推進支援事業補助金 ・要綱に則り、補助金の交付申請をした。				
	事業の事後評価										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
		・がんの予防、早期発見・治療は、市民の身体的・経済的負担を軽減するものであり、紀の川市民のがんによる死亡率の低下に繋がる。健康増進法第19条の2に基づく健康増進事業として、がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針に基づき、検診の種類、対象年齢、実施頻度を設定しているため、対象者が受診機会に確実に受診するよう勧奨していく必要がある。引き続き、受診率向上に向けた取り組みが求められる。 ・今後はさらにイベント等にてがん検診の受診勧奨、ナッジ理論を活用した個別勧奨の実施を行い、受診率のさらなる向上を図る必要がある。									
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
・検査結果のデータ入力・報告等でも人と時間が必要であるが、電子システムをより活用する等し、職員が、受診率向上のための計画や受診勧奨等に業務を割けるよう検討していく。											

事務事業の概要	事務事業名	成人保健事業			担当課	健康推進課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	791	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 保健衛生費				施策目標	2 健康・医療				
		目	4 保健事業費				基本施策	1 健康づくりと疾病予防				
取組方針	2		がん対策の推進									
事業概要	健康増進法に基づき、市民の健康維持と生活習慣病予防を目的として実施する健康増進事業											
事務事業を構成する細事業	①	肝炎ウイルス検診			⑤	ヘルスアップ健診		⑨				
	②	歯周疾患検診			⑥	健康増進事業費補助金		⑩				
	③	健康教室・相談			⑦			⑪				
	④	健康手帳発行			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	歯周疾患検診受診率	目標	10	10	10	10	10	受診率は、令和4年度よりやや低下した。しかし、令和4年度のアンケート調査にて市の検診以外で歯科へ定期的に受診している人も一定数あることが分かった。			
			実績	6.8	11.3	10.8						
	<指標の計算方法>		年間歯周疾患検診受診者数/年間歯周疾患検診の対象者数*100									
	活動指標	肝炎ウイルス検診申込者数	目標	1,600	1,000	1,000	600	600	申込者数は減少しているが、かかりつけ医からの勧奨による受診者と集団検診の毎年受診者は受診済の方が多くと考える。今後は、新規対象者への周知が必要である。			
			実績	738	669	477						
	<指標の計算方法>		年間肝炎ウイルス検診申込者数									
	成果指標	肝炎ウイルス検診受診者数	目標	1,000	500	500	500	500	受診者数は減少しているが、かかりつけ医からの勧奨による受診者と集団検診の毎年受診者は受診済の方が多くと考える。今後は、新規対象者への周知が必要である。			
			実績	2,007	333	251						
	<指標の計算方法>		年間肝炎ウイルス検診の受診者数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	6,881			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
				1,502					5,379			
事業の実績	①肝炎ウイルス検診 実施内容：血液検査によるB型・C型肝炎ウイルス抗体検査 自己負担：無料 対象者：40歳以上で過去に肝炎ウイルス検査を受けたことのない者 〔個別検診〕 受診者：33人 申込者：78人 40歳全員(583人)に個別勧奨実施し、63人受診 〔集団検診〕 受診者：155人 申込者：399人 受診率：38.9%			③健康教室・相談 電話や面談等で個別相談にて対応(随時)								
	②歯周疾患検診 実施期間：R5年4月1日～R6年3月31日 実施場所：県内協力医療機関 自己負担：無料 対象者：40歳、50歳、60歳、70歳 受診者：352人 対象者：3,262人 受診率：10.8%			④健康手帳発行 検診の記録等を自己管理してもらうため、集団検診時、希望者に健康手帳を発行。			⑤ヘルスアップ健診 受診者：6人 対象者：334人(令和6年3月31日現在) 40歳以上の生活保護受給者			⑥健康増進事業費補助金 要綱に則り、補助金の交付申請をした。		
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・国の健康増進事業に基づく事業であり、市が実施する事業として妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・歯周疾患検診では、対象者への個別通知や広報での周知を実施したが、歯周疾患検診の対象者は、40・50・60・70歳と10歳毎であり、対象者を受診行動へ導くための効果的な勧奨方法について検討する必要がある。 ・肝炎ウイルス検診は、40歳になる方への個別通知に加え、40歳以上の未受診者への受診勧奨も必要と考える。 ・ヘルスアップ健診(生活保護受給者対象)は、令和5年度から個別検診を開始した。効果的な健診とするために社会福祉課と協力して、受診勧奨や結果に応じた保健指導を実施していきたい。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・肝炎ウイルス検診や歯周疾患検診、ヘルスアップ健診は、健康増進事業であり、県の補助事業である。 ・令和5年度から個別健診を開始したヘルスアップ健診は、生活保護受給者の健康管理を行うことで、生活習慣の改善や疾病の重症化予防につなげていくことができるが、健診受診者が少ないため、受診勧奨の方法について検討していく必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	保健福祉センター管理運営事業			担当課	健康推進課			事業区分	ソフト事業	
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	57	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	健康・医療			
		目	5	保健福祉センター費		基本施策	1	健康づくりと疾病予防			
	取組方針	1	健康づくりの推進								
事業概要	市民が保健福祉センターを安全で快適に利用できるように、施設の維持管理を適切に行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	桃山保健福祉センター維持管理業務			⑤				⑨		
	②	桃山保健福祉センターピーチホール等施設の貸出業務			⑥				⑩		
	③	桃山保健福祉センター各種委託業務			⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	ピーチホールの使用回数	回	目標	215	215	215	215	215	新型コロナウイルス感染症の影響により使用回数が減少していたが、収束によって令和4年度と比べて増加した。	
				実績	232	161	194				
	<指標の計算方法>		ピーチホールの使用回数（午前・午後・夜間：各1回、全日利用：3回）								
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	11,240			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
							3,181	8,059			
事業の実績	①桃山保健福祉センター維持管理業務 <ul style="list-style-type: none"> ・消防用設備保守点検で要是正となった誘導灯の取替修繕の実施 ・街灯タイマーの取替の実施 ・浄化槽曝気槽攪拌ポンプ修繕の実施 ・2階男子トイレ水漏れ修繕の実施 ・破損した屋根の修繕の実施 										
	②桃山保健福祉センターピーチホール等施設の貸出業務 <ul style="list-style-type: none"> ・ピーチホール貸出回数 2回 										
	③桃山保健福祉センター各種委託業務 <ul style="list-style-type: none"> ・清掃委託業務 ・機械警備委託業務 ・貯水槽清掃等委託業務 ・電気保安管理委託業務 ・冷熱機器設備保守点検委託業務 ・エレベーター保守点検委託業務 ・消防用設備保守点検委託業務 ・防火設備点検委託業務 ・敷地内管理委託業務 ・調理室害虫駆除委託業務 ・特殊建築物設備定期検査委託業務 ・特殊建築物定期調査委託業務 ・既設給湯チラー冷媒ガス回収委託業務 ・フロン排出抑制法に基づく点検委託業務 										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・災害による避難所の役割も兼ねているため、市民が安全で快適に利用できるように、市が施設管理を行うことは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地が大きい								
・施設の利活用について、今後の維持管理を踏まえ、関係各課と協議を継続していく必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・今後も施設の老朽化や設備の経年劣化による工事および修繕が増えてくると予想されるが、定期検査や設備の保守点検を適切に実施し、施設の維持管理を効率的に進めていくことが重要である。										

事務事業の概要	事務事業名	環境保全事業		担当課	環境衛生課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	804	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会			
		目	6	環境衛生費		基本施策	1	快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進			
取組方針	1	環境保全の推進									
事業概要	市民に快適な環境の中で生活を営んでもらうために、産業廃棄物処理施設等の設置申請の意見具申やあき地の適正管理の指導、周知、啓発を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	環境保全審議会運営			⑤	空き地管理			⑨		
	②	そ族昆虫対策			⑥	休廃止鉱山鉱害防止等工事補助金			⑩		
	③	公害対策・発生防止			⑦	騒音・振動・悪臭対策			⑪		
	④	温暖化・省エネルギー対策			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	空き地管理指導に対する対応件数	目標	130	130	170	170	170	近年180件程度の対応件数であり、同程度の件数となった。今後も引き続き粘り強く適正管理について指導に努めていく。		
			実績	144	182	179					
	<指標の計算方法>		指導に対する対応件数								
	成果指標	空き地管理指導に対する対応率	目標	100	100	85	85	85	近年70%程度の対応率であり、令和5年度は上昇した。		
			実績	75.4	68.9	81					
	<指標の計算方法>		対応件数/管理指導件数								
	活動指標	空き地管理指導件数	目標	200	200	200	200	200	近年200件程度の苦情が寄せられており、同程度の件数となった。減少しない要因として、土地所有者の高齢化や相続人の市外流出等による管理不足があり、土地所有者の意識改善に努めていく。		
			実績	191	264	221					
	<指標の計算方法>		空き地管理指導件数								
活動指標	地球温暖化対策に係る啓発回数	目標			2	5	5	広報紙に定期的な掲載を行うことで、地球温暖化対策に係る啓発を行っている。			
		実績			2						
<指標の計算方法>		地球温暖化対策に係る啓発回数									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	1,287			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,287	
事業の実績	①環境保全審議会運営 ・令和5年12月26日開催 産業廃棄物処理施設設置許可申請 粉河地区 1件			・エネルギー使用量 (熱量) 101,179GJ (原油換算値) 2,610k1			・計画の目的 紀の川市自身が計画に基づく率先垂範活動として省エネ・省CO2に取り組むことで、市民及び市内事業者等の自主的なGHG排出量の削減促進を目的				
	②そ族昆虫対策 ・蜂の防護服貸出状況 46件 (打)19、(粉)8、(那)7、(桃)5、(貴)5、(靴)2			・温室効果ガス排出量 (二酸化炭素換算) 3,859t-CO2 (定期報告書) 国へ提出 (中長期報告書) 国へ提出 (排出抑制・計画等報告書) 県へ提出			⑤空き地管理 ・対応数 179件/指導数 221件 ・対応率 81.0%				
	③公害対策・発生防止 ・各種苦情対応 56件 (大気汚染)8、(水質汚濁)11、(騒音)11、(悪臭)8、(不法投棄)1、(動物)7、(土地管理)0、(その他)10			・ゼロカーボンシティ宣言 ・令和6年2月22日 令和6年第1回定例会において市長表明 「地球温暖化対策の推進として、2050年までに二酸化炭素実質排出ゼロに向け、今後も電力使用量の削減などに取り組み、環境に優しい紀の川市を目指します」			⑥休廃止鉱山鉱害防止等工事補助金 ・坑廃水処理補助対象経費 6,398,466円 ・紀の川市補助金 533,000円 (補助率) 国：9/12、県：2/12、市：1/12				
	④温暖化・省エネルギー対策 ・事業所として紀の川市役所の年間エネルギー使用量合計の原油換算値が1,500k1以上のため提出			・紀の川市地球温暖化防止実行計画を更新 ・計画期間 2024~2027年度			⑦騒音・振動・悪臭対策 ・騒音調査委託事例 0件 ・臭気調査委託事例 0件				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市民からの申し出や相談により、周辺の生活環境を損なっている土地所有者への改善の指導、悪臭や騒音等の生活環境を損なう様々な要因に対し、現状改善に向けて中立の立場で対応することで、市民がより良い環境で生活できるようにするため、市が実施することは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・土地所有者に対する指導や、様々な現場に出向き、現状改善を図ることは有効性がある。 ・土地所有者に現状改善の指導通知を郵送する際、シルバー人材センターのチラシを同封し、改善手段の参考になるように周知している。 ・近年、土地所有者の高齢化、相続人の市外流出等により現状改善が図られない土地が多くなってきており、そのような土地の管理、現状改善のための対応等の指導が課題となっている。 ・「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の構築」に向け、「ゼロカーボンシティ宣言」のもと次世代エネルギーを題材にした体験機会を提供することや各世帯への啓発チラシの配布、広報紙へ定期的に啓発記事を掲載することで市民・事業者の意識の高揚に取り組む必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・土地所有者の連絡先が土地登録簿に記載されている住所以外不明な事例が多く、「自身が所有する土地は、自身において適正管理しなければならない」という意識を強く持ってもらえるよう郵送による通知により指導を行っている。しかしながら、即効性があるとは言い難く、現在の郵送による通知を継続し、粘り強く指導していく必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	地域美化事業			担当課	環境衛生課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	809	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1 保健衛生費				施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会			
		目	6 環境衛生費				基本施策	1	快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進			
取組方針	2			地域環境美化の推進								
事業概要	市民が快適な環境の中で生活を営んでもらうために、市民、行政が連携して地域環境の美化活動を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	都市下水道管理			⑤	地域一斉清掃補助金			⑨			
	②	廃棄物処理（汚泥・死骸）			⑥				⑩			
	③	美化啓発			⑦				⑪			
	④	廃棄物処理負担金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	水路清掃参加世帯数	世帯	目標	15,200	15,200	15,600	15,600	15,600	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和4年度までは清掃参加自治区が大幅に減少し、自治区1区あたりの参加世帯数も激減した。令和5年度においては参加自治区及び自治区1区あたりでの参加世帯数も増加し、今後も増加すると見込んでいる。		
			実績	9,274	10,961	12,172						
	<指標の計算方法>		水路清掃参加世帯数									
	活動指標	水路清掃補助件数	件	目標	199	199	199	199	199	自治区の補助件数は令和4年度と比較して増加した。今後も参加自治区は増加し、自治区に対する補助件数も増加すると見込んでいる。		
			実績	94	100	113						
	<指標の計算方法>		水路清掃補助件数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	10,544			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	10,544		
事業の実績	①都市下水道管理			・動物死骸処理 53件、野焼き対応 10件			⑤地域一斉清掃補助金 ・各自治区水路清掃 ・[打田・粉河・那賀]自治区 搬入期間：令和5年4月23日～7月17日 ※年間通し受入可 搬入場所：大栄環境(株) 粉河リサイクルセンター 実績：(土砂)120.90t(草木)5.05t ・[桃山・貴志川]自治区 搬入期間：令和5年4月23日～5月28日 ※年間通し受入可 搬入場所：(土砂)旧貴志CC不燃物処理場 (草木)紀の海クリーンセンター 実績：(土砂)98.08t(草木)20.51t ・各自治区水路清掃補助 ※参加1世帯につき、100円を補助 ・参加世帯数 12,172世帯 ・参加自治区数 113自治区					
	②廃棄物処理（汚泥・死骸） ・20kg以上の大型動物死骸処理業務を委託 委託先：和歌山市西浜(株)岸化学 5頭処理(猪 0頭、鹿 5頭、犬 0頭) ・休日の動物死骸収集運搬業務及び野焼き 苦情現場確認業務を委託 委託先：(株)共立リユージョンス 中日本事業部和歌山オフィス 63回出動(63回処理)			③美化啓発 ・「犬のフン防止看板」や「ごみポイ捨て禁止看板」等を購入し、再発防止と地域環境美化の啓発 ④廃棄物処理負担金 ・自治区水路清掃から出る土砂について、受託業者の最終処分場が三重県伊賀市及び大阪府和泉市となり、両処分場に地方公共団体から搬入される一般廃棄物に対し、環境保全負担金を支出 ・伊賀市(R2年度より)1,000円/t ・和泉市(R元年度より)1,000円/t 処理実績： ・(土砂)218.98t：伊賀市へ搬入処分 ・(草木)5.05t：和泉市へ搬入処分 ※緊急対応時のために、伊賀市へ粹取り(土砂:350t、草木:30t)の協定を締結								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・各自治区が実施する水路清掃は、地域住民と行政がともにきれいで衛生的なまちづくりを行うための意識を共有することを目的とし、清掃時に生じる土砂、草等は自治区において処分することが困難であるため、市が処分費等を支出し支援するとともに水路清掃参加世帯数に応じて補助金を交付することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・各自治区において実施される水路清掃に対し、参加世帯数に応じて補助金を交付し、衛生的な生活環境への意識の高揚を促すための事業として位置付けている。 ・今後、高齢化等により清掃が困難となってくる自治区も予想されることから、より官・民の連携を深めるとともに自治区を超えた地域美化・環境保全について検討する必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・自主的に行われる地域住民の水路清掃活動に対し、支援する土砂・草等の処理費及び参加補助金は、官・民連携による地域美化の活動費であり、活動実績に応じた補助費用であることから効率的に実施できている。											

事務事業の概要	事務事業名		不法投棄防止事業			担当課		環境衛生課		事業区分	ソフト事業	
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	815
	予算科目	款	4 衛生費		長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	1 保健衛生費			施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	6 環境衛生費			基本施策	1	快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進				
事業概要		市民に自然環境や生活環境の保全された中で生活を営んでもらうために、不法投棄の未然の防止や迅速な回収を行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	不法投棄防止啓発・パトロール		⑤			⑨				
		②	不法投棄物撤去・処理		⑥			⑩				
		③	監視カメラ貸出		⑦			⑪				
		④			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	不法投棄発見件数	件	目標	300	300	150	150	150	パトロール中の不法投棄物発見数は、近年同程度となっている。パトロール実施による一定の啓発効果が出ているためと考える。		
				実績	143	148	143					
	<指標の計算方法>		不法投棄発見件数									
	活動指標	不法投棄監視パトロール件数	件	目標	400	400	250	250	250	会計年度任用職員による不法投棄パトロールは随時行っているが、令和5年度から2名体制となったことにより、正規職員によるパトロール件数は減少し、会計年度任用職員によるパトロール件数が増加した。		
				実績	265	250	255					
<指標の計算方法>		不法投棄監視パトロール件数										
活動指標	不法投棄防止広報紙掲載回数	回	目標	3	3	3	3	3	近年は、年に3回広報紙に掲載することで、不法投棄防止の啓発を行っている。			
			実績	3	3	3						
<指標の計算方法>		広報紙掲載回数										
活動指標	監視カメラ貸出回数	回	目標	8	8				不法投棄防止のため監視カメラを貸出・設置していたが、貸出回数は少なかった。			
			実績	8	28	2						
<指標の計算方法>		監視カメラ貸出回数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	7,917			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	7,917		
事業の実績	①不法投棄防止啓発・パトロール ・広報紙による不法投棄防止啓発 ・不法投棄防止啓発看板・のぼりを配布 ・会計年度任用職員・正職員でパトロール ・年2回(6月・12月)、岩出保健所、各支所 合同でパトロール ②不法投棄物撤去・処理 ・会計年度任用職員撤去回数 91回 ・正職員撤去回数 52回 ③監視カメラ貸出 ・カメラ貸出回数 2回 (自治区 0回、庁内 2回)											
	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・不法投棄は依然として多く、通行の妨げや新たな不法投棄を誘発する可能性のあるものには早期発見・早期撤去が望ましく、市がきれいな街づくりをすることは妥当である。										
有効性	評価結果	改善の余地がややある										
	・不法投棄パトロールを実施することにより、不法投棄を未然に防止し、再発を抑制することで環境保全が維持できるだけでなく、事故防止・事件防止にも繋がるため、有効性は高い。 ・過去の実績をもとに手法やコースの再検討を行い、より効果的な不法投棄パトロールにする必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・一人でのパトロールには限界があり、不法投棄物の見落としや応援を呼んでからの再撤去など時間のロス等に繋がる。また安全面を考慮し、2名体制でのパトロールの実施がより効率的である。 ・パトロールの実績をもとに、警察など関係機関と情報共有を図るとともに連携を強化し、更なる不法投棄防止に努めていく必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	水質保全事業		担当課	環境衛生課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	813	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会			
		目	6	環境衛生費		基本施策	1	快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進			
取組方針	3	生活衛生の向上									
事業概要	市民が公共用水域の水質汚濁の防止がされた衛生的な生活ができるように、市内河川等の水質検査及び浄化槽維持管理の適正化を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	水質検査		⑤				⑨			
	②	貴志川水質保全対策連絡協議会負担金		⑥				⑩			
	③			⑦				⑪			
	④			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	水質検査箇所数（紀の川市内河川33箇所）	箇所	目標	33	33	33	33	33	水質検査箇所数は紀の川市内33箇所予定どおりの箇所で行われてきている。	
				実績	33	33	33				
	<指標の計算方法>		水質検査箇所数（紀の川市内河川33箇所）								
	活動指標	水質検査箇所数（貴志川水質保全対策連絡協議会）	箇所	目標	6	6	6	6	6	水質検査箇所数は紀の川市内6箇所予定どおりの箇所で行われてきている。	
				実績	6	6	6				
	<指標の計算方法>		水質検査箇所数（貴志川水質保全対策連絡協議会）								
	活動指標	浄化槽の適正な維持管理の啓発回数	回	目標	6	6	4	4	4	浄化槽の適正な維持管理は、管理講習会等で啓発を行っており、予定の全て開催することができ、十分に啓発することができた。	
				実績	3	6	4				
	<指標の計算方法>		浄化槽の適正な維持管理の啓発回数								
成果指標	汚水処理人口普及率	%	目標	80	80	80	80	80	市の汚水処理人口普及率は、合併処理浄化槽設置及び公共下水道の供用開始区域の拡充に伴い年々上昇している。		
			実績	73.1	76.7	79.6					
<指標の計算方法>		総人口に占める汚水処理施設の処理人口の割合									
コストの実績	R 5年度決算額（単位：千円）			財源内訳							
	621			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①水質検査 ・水質検査の実施（夏季分） ・令和5年8月22日、23日 ・紀の川市内河川 33箇所 （水質検査の結果） 全ての検査項目で基準値内 ・水質検査の実施（冬季分） ・令和6年3月21日、22日 ・紀の川市内河川 33箇所 （水質検査の結果） 全ての検査項目で基準値内			2箇所 他の検査項目は基準値内			・水質検査の実施（冬季分） （貴志川水質保全対策連絡協議会として） ・令和5年12月11日 ・貴志川水系（紀の川市内分）6箇所 ※ただし、6箇所中2箇所はふん便性大腸菌群数のみ検査 （水質検査の結果） 大腸菌数が基準値を少し上回る箇所が2箇所 他の検査項目は基準値内				
	②貴志川水質保全対策連絡協議会負担金 ・水質検査の実施（夏季分） （貴志川水質保全対策連絡協議会として） ・令和5年6月19日 ・貴志川水系（紀の川市内分）6箇所 （水質検査の結果） 大腸菌数が基準値を少し上回る箇所が										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		評価結果	改善の余地がややある								
		有効性	・水質検査は、ほぼ全ての箇所において検査項目が基準値内となっている。なお、33箇所のうち数箇所が河川の水の透視度が若干悪い箇所が見受けられたが、特に問題がない状況である。 ・貴志川水系は検査時において、水浴に不適な箇所が全くなく、河川の環境基準値を十分に満たしており清浄な状態である。今後も引き続き良好な水質保全を保ち続けていくために、市のホームページで検査結果を公表し、良好な河川の水質保全について、更なる通知・啓発をしていく必要がある。								
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	効率的	・より良い水環境の保全に向けて、汚水処理人口普及率の向上及び合併処理浄化槽の適正管理に向けた啓発等に取り組むとともに、常に河川の状況を把握しておくことは重要なことである。 ・民間業者に水質検査を委託することで精度の高い検査を実施することができ、また検査結果の状況を確認できることで、より良い水環境の保全に努めることができるため効率性が高い。									

事務事業の概要	事務事業名	浄化槽普及促進事業			担当課	環境衛生課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	810
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境			
		項	1 保健衛生費				施策目標	2 生活環境・環境保全・循環型社会			
		目	6 環境衛生費				基本施策	3 適切な生活排水対策の推進			
事業概要	市民が公共用水域の水質汚濁の防止がされた衛生的な生活ができるように、市民（合併処理浄化槽設置者）に合併浄化槽設置に関する補助金の交付を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	浄化槽普及促進協議会負担金			⑤				⑨		
	②	浄化槽設置整備事業補助金			⑥				⑩		
	③	浄化槽台帳整備			⑦				⑪		
	④	県水質保全センター負担金			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	合併処理浄化槽人口普及率	目標	%	51	52	60	61	62		新築及び単独処理浄化槽またはくみ取り便槽から合併処理浄化槽への転換に伴い普及率が年々上昇している。
			実績		56	59.2	61.6				
	<指標の計算方法>		合併処理浄化槽人口普及率								
	活動指標	浄化槽補助基数	目標	基	230	230	230	230	230	合併処理浄化槽の普及が進んでいるが、令和4年度と比べて減少した。	
			実績		214	214	196				
	<指標の計算方法>		浄化槽補助基数								
	活動指標	単独転換補助基数	目標	基	10	10	10	10	10	単独処理浄化槽を合併処理浄化槽に転換してもらえぬかが課題となっており、令和4年度と比べて減少した。	
			実績		5	11	7				
	<指標の計算方法>		単独転換補助基数								
活動指標	配管工事補助基数	目標	基	85	85	85	85	85	単独処理浄化槽またはくみ取り便槽から、合併処理浄化槽への転換が促進されている。		
		実績		51	47	51					
<指標の計算方法>		配管工事補助基数									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	84,903			国庫支出金	25,871	県支出金	28,205	地方債	繰入金	その他	一般財源
事業の実績	①浄化槽普及促進協議会負担金			配管工事補助件数・補助金額							
	・基本会費 20,000円			・5人槽 4件、7人槽 4件							
	・事業割会費 51,000円			計 8件 2,400,000円							
	②浄化槽設置整備事業補助金			・くみ取り便槽から合併処理浄化槽への配管工事補助件数・補助金額							
	・浄化槽設置整備補助件数・補助金額			・5人槽 23件、7人槽 20件							
	・5人槽 166件 55,112,000円			計 43件 12,900,000円							
・7人槽 29件 12,006,000円			③浄化槽台帳整備								
・10人槽 1件 548,000円			・浄化槽管理システム利用料 148,500円								
計 196件 67,666,000円			④県水質保全センター負担金								
・単独処理浄化槽撤去補助件数・補助金額			・会費 10,000円								
・5人槽 4件、7人槽 3件											
計 7件 840,000円											
・くみ取り便槽撤去補助件数・補助金額											
・5人槽 4件、7人槽 5件											
計 9件 810,000円											
・単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・合併処理浄化槽設置を推進し普及促進することにより、生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止するとともに、市民が快適で衛生的な生活が行えるようにすることを目的としている。 ・新たな住宅へ合併処理浄化槽を設置する者、また既存便槽を合併処理浄化槽へ転換する者に対し補助金を交付することは、設置者の費用負担の軽減が図られるため、市で実施することは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
		・浄化槽補助件数は減少傾向であったが、平成30年度より単独処理浄化槽又はくみ取り便槽から合併処理浄化槽へ転換する場合の配管工事が補助対象となったことから補助件数は増加傾向にある。 ・補助金申請者には浄化槽講習会の受講を義務付け、浄化槽の保守点検・清掃・法定検査（水質検査）を遵守し適正な管理に努めていただくよう指導・啓発を行い、生活排水による公共用水域の水質汚濁の防止を図るとともに汚水処理人口普及率の向上に努めていく必要がある。									
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・単独処理浄化槽やくみ取り便槽の方々に対して、従来からの補助金に加え、平成30年度から導入した配管工事の補助金を活用して合併処理浄化槽に転換してもらえよう普及・啓発に取り組んだことにより、合併処理浄化槽への転換が進んでいる。今後も、汚水処理人口普及率の向上に向け、引き続き合併処理浄化槽への転換、普及啓発が必要である。										

事務事業の概要	事務事業名	畜犬管理事業			担当課	環境衛生課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	814
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	6	環境衛生費		基本施策	1	快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進				
取組方針	3	生活衛生の向上										
事業概要	市民（飼い主）にペットの衛生的に適切な飼育を行ってもらうために、飼い犬の登録、予防接種を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	犬登録・管理			⑤						⑨	
	②	狂犬病予防注射			⑥						⑩	
	③				⑦						⑪	
	④				⑧						⑫	

指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	予防注射接種件数	目標	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	令和4年度と比べ減少となった。狂犬病予防注射の必要性を飼い主に理解してもらうための啓発を行っている。		
			実績	2,039	2,129	2,091					
	<指標の計算方法>		畜犬の予防接種件数								
	活動指標	新規犬登録件数	目標	240	240	240	240	240	新たに犬の登録がされる場合、予防接種の必要性をはじめ、飼育に関するモラルについて啓発を行っている。		
			実績	260	274	246					
	<指標の計算方法>		新規犬登録件数								
	活動指標	予防注射通知件数	目標	3,800	3,800	3,600	3,600	3,600	狂犬病予防集合注射の実施2週間前を目途に、登録のある畜犬の飼い主に案内はがきを送付している。		
			実績	3,544	3,486	3,459					
	<指標の計算方法>		はがき発送件数								
成果指標	予防注射接種率	目標	100	100	100	100	100	接種率は依然として低いため、飼い主の意識の高揚を促すための啓発を行なっている。			
		実績	52.44	54.96	55.64						
<指標の計算方法>		予防注射接種件数/犬総登録件数									

コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)		財源内訳						
	1,049		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
						1,049			

事業の実績	①犬登録・管理 ・畜犬登録手数料（3,000円）を徴収し、鑑札を交付 ・紀の川・岩出市内の動物病院でも登録可能 ・総登録件数 3,758頭										
	②狂犬病予防注射 ・狂犬病予防集合注射を令和5年4月中旬に、各地区1日、延べ5日間：36箇所を実施 ・狂犬病予防注射済票交付手数料（550円）を徴収し、年度ごとの注射済票を交付										

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・狂犬病予防法に則った事業であるため、市が実施することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・狂犬病予防注射の接種率が低く、飼い主の意識の高揚を促すための更なる啓発等が必要であり、市が狂犬病予防集合注射を実施することによって、飼い主に注射接種の機会を提供することになるため、接種箇所の見直しを行いながら、市が実施することは有効である。 ・近年獣医師が不足してきており、集合注射に協力していただく獣医師の確保が問題になってきていることから、獣医師会と協議のうえ、確実に実施できるよう調整していく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・動物病院が近くにない方や移動手段がない方のために市内を巡回して実施する集合注射は効率性が高い。											

事務事業の概要	事務事業名	墓地管理運営事業			担当課	環境衛生課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	59
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会			
		目	6	環境衛生費		基本施策	1	快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進			
取組方針	3	生活衛生の向上									
事業概要	市民が墓地等を安心して快適に利用できるように、施設の維持管理や運営を適切に行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	市営墓地運営			⑤					⑨	
	②	市営墓地施設管理			⑥					⑩	
	③				⑦					⑪	
	④				⑧					⑫	

指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	市営墓地草刈委託回数	回	目標	5	5	6	6	6	安心して快適な環境で市営墓地を使用してもらうため、草刈・修繕による維持管理を実施している。		
			実績	5	6	6						
	<指標の計算方法>		市営墓地草刈委託回数									
	成果指標	市営墓地公募区画数	区画	目標	5	8					市営墓地台帳更新整備中のため、令和4年度から公募を中断している。墓地台帳の整備状況を見ながら公募の再開を検討する。	
			実績	4								
<指標の計算方法>		市営墓地公募区画数										
成果指標	改葬許可件数	件	目標						現在使用している紀の川市内の墓地から遺骨を移動させる必要が生じた際、申請に基づいて改葬許可証を発行している。			
		実績	25	41	63							
<指標の計算方法>		改葬許可件数										
<指標の計算方法>												

コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
	1,231		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
							29	1,202

事業の実績	①市営墓地運営	<ul style="list-style-type: none"> 墓地、納骨堂又は火葬場経営等の許可及び変更・廃止許可申請 0件 市営墓地の承継 5区画 <ul style="list-style-type: none"> 那賀第1墓地 2区画 那賀第2墓地 1区画 矢倉墓地 2区画 改葬許可申請 63件 (146名分) <ul style="list-style-type: none"> 埋葬した死体を他の墳墓に移し、又は埋蔵し、若しくは収蔵した焼骨を、他の墳墓又は納骨堂に移すために市町村長が許可 市営墓地台帳更新整備 <ul style="list-style-type: none"> 使用者調査票の送付、とりまとめ 連絡先不明区画への立て札設置、回収 墓地台帳の入力、更新 	<ul style="list-style-type: none"> 修繕工事 0件 墓地区画整備 0区画 市営墓地草刈業務委託 6回 <ul style="list-style-type: none"> 矢倉墓地 (進入路) 1回 矢倉墓地 (地内) 1回 小坂墓地 (夏季) 1回 小坂墓地 (冬季) 1回 那賀第2墓地 1回 那賀斎場跡地 1回
	②市営墓地施設管理		

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	<ul style="list-style-type: none"> 市営墓地内を適切に清掃管理して良好な状態に保つことは、快適な環境維持及び生活衛生の向上と密接に結びついている。 墓地経営には継続性・非営利性が求められることから、市(地方公共団体)が市営墓地の経営を行うことは、安定的な墓地経営に取り組むうえで妥当である。
	有効性	評価結果	改善の余地がややある	<ul style="list-style-type: none"> 市営墓地の維持管理は、適切な管理運営のために不可欠である。 墓地管理台帳の完成後も、墓地使用者が安心して快適な環境で墓所を永続的に使用できる体制づくりの継続的な検討が必要である。 公募による市営墓地空き区画の使用を目指すうえで、日々の維持管理・台帳更新を適宜実施していくことは有効である。
	効率性	評価結果	改善の余地がややある	<ul style="list-style-type: none"> 墓地の維持管理に必要な不可欠な草刈・修繕を実施しており、実施費用は可能な限り削減されたものである。 市営墓地の運営全般について、今後の業務効率を考慮した検討が必要である。

事務事業の概要	事務事業名	五色台広域施設組合事業			担当課	環境衛生課		事業区分	一部事務組合		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	819
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境			
		項	1 保健衛生費				施策目標	2 生活環境・環境保全・循環型社会			
		目	6 環境衛生費				基本施策	1 快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進			
取組方針	3 生活衛生の向上										
事業概要	市民が滞りなく葬祭、火葬を行えるように、五色台広域施設組合の運営に参画する事業										
事務事業を構成する細事業	①	五色台広域施設組合負担金			⑤			⑨			
	②				⑥			⑩			
	③				⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			

指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	火葬件数（紀の川市管内）	件	目標						令和5年度は令和4年度と比べ1割程度減少した。	
			実績		759	896	851				
	<指標の計算方法>		五色台聖苑にて実施した紀の川市管内の火葬件数								
	成果指標	火葬件数（五色台聖苑全体）	件	目標						令和5年度は令和4年度と比べ1割程度減少した。これは構成市町全体でも同様の傾向である。	
			実績		1,525	1,716	1,659				
	<指標の計算方法>		五色台聖苑にて実施した火葬総件数								
	成果指標	葬祭件数（紀の川市管内）	件	目標						新型コロナウイルス感染症の影響で減少傾向にあったが、令和4年度以降は通常時の水準に戻りつつある。	
			実績		18	28	28				
	<指標の計算方法>		五色台聖苑にて実施した紀の川市管内の葬祭件数								
	成果指標	葬祭件数（五色台聖苑全体）	件	目標						新型コロナウイルス感染症の影響で減少傾向にあったが、令和4年度以降は通常時の水準に戻りつつある。これは構成市町全体でも同様の傾向である。	
			実績		184	221	230				
<指標の計算方法>		五色台聖苑にて実施した葬祭総件数									

コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)		財源内訳						
	62,133		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
								62,133	

事業の実績	①五色台広域施設組合負担金	・均等割 (15%) 15%×1/3=5.00%
	・紀の川市負担金 62,133,000円	紀の川市 1/3、海南市 1/3
	・紀の川市負担率 54.42%	紀美野町 1/3
(内訳)	・管理運営負担金(負担率54.56%)	・人口割 (85%) 85%×56.05%=47.64%
	105,684,000円×(28.33%+26.23%)	令和2年国調人口 (104,935人)
	=57,661,000円	紀の川市 58,816人、海南市 37,863人
	・人口割 (50%) 50%×56.66%=28.33%	紀美野町 8,256人
	令和4年9月末住基人口 (106,013人)	・参加会 3回
	紀の川市 60,072人、海南市 37,781人	(R5.7.4、R5.11.9、R6.2.1)
	紀美野町 8,160人	・管理者会 3回
	・使用割 (50%) 50%×52.46%=26.23%	(R5.7.25[臨時]、R5.11.24、R6.2.15)
	令和3年度使用件数 (1,447件)	
	紀の川市 759件、海南市 517件	
	紀美野町 171件	
	・施設建設負担金 (負担率52.64%)	
	8,496,000円×(5.00%+47.64%)	
	=4,472,000円	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	・市内に火葬を行う施設がなく、五色台聖苑で執り行っていることから、五色台広域施設組合が適正に運営されるよう、負担金を支出して事業経営に参画することは妥当である。
	有効性	評価結果	改善の余地がない	・市内に火葬を行う施設がなく、五色台聖苑で執り行っていることから、五色台広域施設組合が適正に運営されるよう、負担金を支出して事業経営に参画することは有効的である。
	効率性	評価結果	改善の余地がない	・市内に火葬を行う施設がなく、五色台聖苑で執り行っていることから、五色台広域施設組合が適正に運営されるよう、負担金を支出して事業経営に参画することは効率的である。

事務事業の概要	事務事業名	地元管理飲料水供給施設整備補助事業			担当課	環境衛生課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	60	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1 保健衛生費				施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会			
		目	7 水道事業費				基本施策	1	快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進			
取組方針				3	生活衛生の向上							
事業概要	市民（飲料水供給施設利用者）が安全・安心な飲料水の確保と安定供給を享受するために、飲料水供給施設の新設・改修及び維持管理について補助金の交付を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	地元管理飲料水供給施設事業補助金			⑤				⑨			
	②	飲料水供給施設定期巡回指導			⑥				⑩			
	③	地元管理飲料水供給施設運営特別助成金			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	飲料水安定供給世帯数	目標	315	315	315	315	315	地元管理飲料水供給施設の給水世帯数は、ほぼ横ばい傾向にある。			
			実績	296	313	317						
	<指標の計算方法>		飲料水安定供給世帯数									
	活動指標	飲料水供給施設補助件数	目標	4	4	4	4	4	地元管理飲料水の安全かつ安定した供給を行うため、施設の運営管理に要する補助を行っている。			
			実績	4	4	3						
	<指標の計算方法>		飲料水供給施設補助件数									
	活動指標	飲料水供給施設定期巡回指導件数	目標	6	6	6	6	6	地元飲料水供給施設組合の状況把握及び安心・安全な飲料水供給のため、岩出保健所主導により巡回指導を行っている。			
			実績	2	2	4						
	<指標の計算方法>		飲料水供給施設定期巡回指導件数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	2,834			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		2,834	
事業の実績	①地元管理飲料水供給施設事業補助金			・助成金額 1,102,500円								
	・施設改修補助金											
	・荒見東地区簡易水道組合 1,210,000円 ・東杉原水道組合 370,000円											
・維持管理補助金												
・中尾飲料水供給施設組合 151,800円												
②飲料水供給施設定期巡回指導												
・岩出保健所の立入検査に同行												
・露谷水道組合												
・遠方中垣内水道組合												
・東垣内水道組合												
・名手上大松水道組合												
③地元管理飲料水供給施設運営特別助成金												
・物価高騰の影響を受けた地元管理飲料水供給施設の運営の継続にかかる費用の一部を申請に基づき助成												
・交付組合 15組合 (294戸)												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・水道未普及地域において、地元管理飲料水供給施設は地域住民の重要なライフラインであり、地元のみでの事業実施及び施設の運営管理となると負担が大きくなることから、飲料水を安心・安全に供給するために市が事業を補助することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・各施設の改修・維持管理補助は、要望件数の全てに補助しており、施設の運営管理に寄与できていると考える。しかしながら、施設の老朽化等による大規模修繕が多発している状況にある。 ・岩出保健所主体で地元管理飲料水供給施設組合に対して定期巡回指導を行い、受益者が安心・安全な飲料水を供給できるようするための啓発を行っていることは有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・地元管理飲料水供給施設の経年劣化又は突発的な故障により改修が必要となった場合、修復には緊急を要することから改修などは地元で行うのが望ましいが、飲料水を安心・安全に供給するため、地元の費用負担も考慮して施設改修費等に要する費用の一部補助は効果的である。											

事務事業の概要	事務事業名	ごみ適正排出推進事業			担当課	廃棄物対策課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	828	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境				
		項	2 清掃費				施策目標	2 生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	1 清掃総務費				基本施策	2 ごみや資源物の効率的な収集・処理				
取組方針	1 ごみの減量や資源化の推進											
事業概要	市が効率的にごみ処理ができるように、市民にごみの適正な処理・排出方法の啓発や周知を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	指定ごみ袋作成管理			⑤	資源ごみ持ち去りパトロール		⑨				
	②	啓発物資作成（カレンダー等）			⑥			⑩				
	③	啓発活動			⑦			⑪				
	④	ごみ集積施設設置補助金			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	ごみ集積所箇所数	箇所	目標	2,620	2,600	2,600	2,600	2,600	集約した数が宅地開発に伴って設置した数を上回ったことにより、集積所数が減少した。		
			実績	2,643	2,649	2,624						
	<指標の計算方法>		ごみ集積所の箇所数									
	成果指標	ごみ集積所設置補助基数	基	目標	50	50	50	50	50	補助金を交付した自治区数は減少し、それに伴い交付した補助金額も令和4年度を下回った。		
			実績	16	24	20						
	<指標の計算方法>		補助金交付を行った集積所ボックス新設・修繕基数（目標：建て替え修繕30基/年、集約新設20基/年）									
	活動指標	資源ごみパトロール回数	回	目標	80	80	80	80	80	資源ごみ持ち去りについての通報も例年に比べ少なく、また災害対応もありパトロールの回数が減少した。		
			実績	62	67	52						
	<指標の計算方法>		資源ごみパトロール回数									
成果指標	ごみ資源化率	%	目標	13	13	13	13	13	近年、横ばい傾向にある。			
		実績	11.2	10.8	10.8							
<指標の計算方法>		ごみ資源化量÷ごみ処理量（集団回収量を含む、事業系ごみは除く）										
コストの実績	R 5年度決算額 （単位：千円）			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			59,715							59,715		
事業の実績	①指定ごみ袋作成管理 ごみ袋を作成しました。 ・家庭用もやす(大) 2,150,000枚 ・家庭用もやす(小) 770,000枚 ・家庭用資源(大) 360,000枚 ・家庭用資源(小) 308,000枚 ・家庭用セトモノ 40,000枚			進んでいない自治区に対し、集約化の協力依頼を行いました。								
	②啓発物資作成（カレンダー等） 家庭用ごみ収集日程表(カレンダー)を作成し、各家庭に配布しました。 ・印刷部数 27,500部			④ごみ集積施設設置補助金 各自治区から申請のあったごみ集積施設設置費用の1/2の補助を行いました。 (新設 12基、建替 4基、改修 4基) 上記のうち、ごみ集積施設集約化設置補助4地区（那賀 4地区 12基）								
	③啓発活動 ・出前講座開催数 4回 ふれあい収集事業や小学生を対象にごみの分別方法・リサイクルの啓発を行いました。 ・集約化協力依頼通知 78地区 ごみ集積所の集約化に向けて、集約化が			⑤資源ごみ持ち去りパトロール ・パトロール回数 52回 ・パトロール実施日数 22日 ・パトロール実施者数 93人								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・廃棄物処理法では、一般廃棄物の処理は市町村の責務であると規定されており、ごみの適正な処理及び排出方法やごみの排出量の抑制、ごみ集積所の集約化は一般廃棄物処理基本計画に基づいて取り組むもので、市で実施すべきものであり、啓発、周知を行うことは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・ごみの分別について、「ごみの出し方ルールとマナー」やごみ収集カレンダー等で周知を行っており、家庭から出るごみの適正排出及び資源の有効活用につながっている。しかし、未だ分別不十分なごみの排出が発生しているため、引き続き市民への周知を行っていく必要がある。 ・出前講座による啓発活動は市民の分別意識の向上に有効であると考えられるので、引き続き実施し、ごみ資源化率の向上に努めていく必要がある。 ・ごみ集積所の集約は市民の理解と協力が不可欠であるため、区長会等を通じて集約の依頼を行っている。しかし、依然として地域によって集約状況に格差が生じているため、市民の理解と協力を得られるよう引き続き推進していく必要がある。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
・ごみ集積所の集約化はごみ収集の効率化や費用抑制につながるものであり、市民の理解と協力が不可欠なため、引き続き推進していく必要がある。												

事務事業の概要	事務事業名	ごみ対策事業			担当課	廃棄物対策課			事業区分	ソフト事業					
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	829			
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境						
		項	2 清掃費				施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会						
		目	1 清掃総務費				基本施策	2	ごみや資源物の効率的な収集・処理						
取組方針				4	ごみの適正処理										
事業概要	市が循環型社会の構築に寄与するために、一般廃棄物処理計画に基づく施策の推進を行う事業														
事務事業を構成する細事業	①	廃棄物処理業許認可業務			⑤				⑨						
	②	一般廃棄物処理計画進行管理			⑥				⑩						
	③	汚染負荷量賦課金負担金			⑦				⑪						
	④				⑧				⑫						
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析						
	活動指標	事業系一般廃棄物収集量	トン	目標	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	令和4年度と比較して横ばいとなっている。令和3年度以前は新型コロナウイルス感染症に伴う自粛要請により企業の経済活動が制限されていたが、再開に伴い排出されるごみが増加したと思われる。					
			実績	1,636.82	1,741.19	1,758.3									
	<指標の計算方法>		事業系一般廃棄物を収集運搬許可業者が収集し、紀の海クリーンセンターへ搬入した量												
		目標													
		実績													
	<指標の計算方法>														
		目標													
		実績													
	<指標の計算方法>														
	目標														
	実績														
<指標の計算方法>															
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳											
	123			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	123					
事業の実績	①廃棄物処理業許認可業務 ・一般廃棄物処理業許可更新 1件														
	②一般廃棄物処理計画進行管理 紀の川市一般廃棄物（ごみ）処理実施計画を策定し、告示しました。														
	③汚染負荷量賦課金負担金 公害健康被害の補償等に関する法律に基づき、公害健康被害者への補償給付等のための負担金を支払いました。 74,000円														
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない												
		・紀の川市一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の策定や汚染負荷量賦課金負担金の支払いは各法で定められていることから、市で実施することは妥当である。													
	有効性	評価結果	改善の余地がややある												
・紀の川市一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の策定や汚染負荷量賦課金負担金の支払いについて、各法で定められているとおり適正に処理できている。 ・ごみの効率的な収集・処理の検討は、今後も引き続き行っていく必要がある。															
効率性	評価結果	改善の余地がややある													
	・紀の川市一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の策定や汚染負荷量賦課金負担金の支払いについて、各法で定められているとおり適正に処理できている。 ・一般廃棄物の処理は、廃棄物処理法において市町村の責務とされていることから、ごみ処理事業(収集運搬も含む。)は、適正かつ能率的な運営に取組む必要がある。														

事務事業の概要	事務事業名	最終処分事業		担当課	廃棄物対策課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1068	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2	清掃費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会			
		目	1	清掃総務費		基本施策	2	ごみや資源物の効率的な収集・処理			
取組方針	4	ごみの適正処理									
事業概要	市が最終処分場の整備や確保を進めるために、関連団体の運営に参画する事業										
事務事業を構成する細事業	①	大阪湾広域廃棄物埋立処分場建設工事負担金			⑤				⑨		
	②				⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	最終処分量		トン	目標	2,565	2,565	2,535	2,505		令和5年6月2日大雨災害により発生した災害廃棄物の処分量を含めており、それに伴い令和4年度と比較すると増加した。
					実績	2,364	2,255				
	<指標の計算方法>		焼却灰、不燃粗大ごみ、ばいじん量								
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	4,402			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	4,402	
事業の実績	①大阪湾広域廃棄物埋立処分場建設工事負担金										
	<ul style="list-style-type: none"> ・上半期分 1,358,000円 ・下半期分 906,000円 ・建設工事負担金(2期追加分) 2,138,000円 ※委託量増量分3,846㎡に係る平成9年度～平成29年度建設工事負担金 										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		<ul style="list-style-type: none"> ・一般廃棄物の処理は廃棄物処理法において市町村の責務とされ、ごみ処理事業を適正かつ能率的に運営するよう努めなければならない事が定められており、処分場を確保しなければならないため、大阪湾広域臨海環境整備センターで実施することは妥当である。 									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
<ul style="list-style-type: none"> ・複数の市町村が広域的に連携してごみ処理に取り組むことで、より高度で効率的な処理や環境負荷の軽減が可能となるため有効である。 											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省、港湾管理者が主体となる事業であり、市町村や府県域を超えた関係者が共同で利用することができる廃棄物の最終処分場を確保し、圏域全体の長期的で安定的な廃棄物の処分を図ることができ、かつ、民間の処分場と比較すると安価で処分することができることから、コスト面において効率的である。 										

事務事業の概要	事務事業名	紀の海広域施設組合事業			担当課	廃棄物対策課		事業区分	一部事務組合		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	830
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2	清掃費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会			
		目	1	清掃総務費		基本施策	2	ごみや資源物の効率的な収集・処理			
取組方針	4	ごみの適正処理									
事業概要	市民が滞りなくごみ処理を行えるように、紀の海広域施設組合の運営に参画する事業										
事務事業を構成する細事業	①	紀の海広域施設組合負担金			⑤						⑨
	②				⑥						⑩
	③				⑦						⑪
	④				⑧						⑫

指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	もやすごみ処理量	トン	目標						分別についての細分化に伴い、収集量が適正化され、令和4年度と比較すると減少した。	
				実績		15,447	15,102	14,827			
	<指標の計算方法>		年間処理量								
	活動指標	資源ごみ処理量	トン	目標						令和4年度と比較すると44t減少し、分別が適正化されているように見えるが、民間でのリサイクルの推進が進んでいるため、民間に資源ごみが流れている状況も考えられる。	
				実績		1,325	1,238	1,194			
	<指標の計算方法>		年間処理量								
	活動指標	粗大ごみ処理量	トン	目標						令和4年度と比較すると横ばい傾向にある。	
				実績		1,322	1,177	1,192			
	<指標の計算方法>		年間処理量								
活動指標	埋立ごみ処理量	トン	目標						令和4年度と比較すると横ばい傾向にある。		
			実績		102	103	104				
<指標の計算方法>		年間処理量									

コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
	380,098		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源

事業の実績	①紀の海広域施設組合負担金	・ 災害復旧負担金(公債費) 10,528,000円(48.52%) ※熱回収施設管理運営負担割合 均等割 10% 人口割 20% 処理量割 70%
	◎ 施設管理運営負担金、市負担率 ・ 熱回収施設 226,687,000円(48.52%) ・ 焼却施設 133,541,000円(82.84%) ・ 洗車施設 2,439,000円(50.73%) ※管理運営負担割合 均等割 10% 人口割 20% 処理量割 70%	
	◎ 施設建設負担金、市負担率 周辺整備 ・ 熱回収施設 6,903,000円(45.94%) ※建設負担割合 均等割 15% 人口割 50% 処理量割 35%	
	◎ 災害復旧負担金、市負担率	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	・ 一般廃棄物の処理は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において市町村の責務とされ、ごみ処理事業を適正に効率的に運営することに努めなければならないことが定められている。複数の市町村が広域的に連携してごみ処理に取り組むことで、より高度かつ効率的な処理、また環境負荷の低減及びごみ処理コストの縮減が可能となることから、紀の海広域施設組合で実施することは妥当である。
	有効性	評価結果	改善の余地がない	・ 一般廃棄物の処理は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において市町村の責務とされ、ごみ処理事業を適正に効率的に運営することに努めなければならないことが定められている。複数の市町村が広域的に連携してごみ処理に取り組むことで、より高度かつ効率的な処理、また環境負荷の低減及びごみ処理コストの縮減が可能となることから、紀の海広域施設組合で実施することは有効である。
	効率性	評価結果	改善の余地がない	・ 一般廃棄物の処理は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において市町村の責務とされ、ごみ処理事業を適正に効率的に運営することに努めなければならないことが定められているが、複数の市町村が広域的に連携してごみ処理に取り組むことで、より高度かつ効率的な処理、また環境負荷の低減及びごみ処理コストが縮減となり効率的である。

事務事業の概要	事務事業名	ごみ収集事業			担当課	廃棄物対策課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	821	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2 清掃費				施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会			
		目	2 塵芥処理費				基本施策	2	ごみや資源物の効率的な収集・処理			
取組方針	1	ごみの減量や資源化の推進										
事業概要	市民が衛生的な生活を送れるように、市民、企業等が排出したごみの収集を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	ごみ収集（もやす・資源）			⑤	ごみ出し困窮家庭支援			⑨			
	②	ごみ収集（粗大）			⑥	ごみ収集車管理			⑩			
	③	ペットボトル拠点回収			⑦	ごみ収集事務所施設管理			⑪			
	④	廃油回収			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	1人1日当たりのごみ搬出量	g	目標	780	780	780	780	780	令和3年度から連続して減少している。市民のごみ減量に対する意識が高まっているため、家庭から排出されるごみの量が減少したと考えられる。		
				実績	826	807	797					
	<指標の計算方法>		ごみの総搬出量÷365日÷人口									
	成果指標	もやすごみ収集量	トン	目標	16,600	16,600	16,400	16,200	16,000	分別についての細分化に伴い、収集量が適正化されるとともに年々減少傾向にあり、例年目標値を達成できている。		
				実績	15,447	15,102	14,827					
	<指標の計算方法>		もやすごみ収集量									
	成果指標	資源ごみ収集量	トン	目標	1,490	1,490	1,480	1,480	1,480	分別についての細分化に伴い収集量が適正化されているように見えるが、民間でのリサイクルの推進が進んでいるため、民間に資源ごみが流れている状況も考えられる。		
				実績	1,325	1,238	1,194					
	<指標の計算方法>		資源ごみ収集量									
成果指標	粗大ごみ収集量	個	目標	5,700	5,700	5,700	5,700	5,700	令和3年度以前は新型コロナウイルス感染症防止による外出自粛に伴い粗大ごみの量が増加していたが、令和4年度以降は例年並みで推移している。			
			実績	5,657	5,077	5,243						
<指標の計算方法>		粗大ごみ戸別回収収集個数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	239,776			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
					10,200		78,298	151,278				
事業の実績	①ごみ収集（もやす・資源）			⑤ごみ出し困窮家庭支援								
	<ul style="list-style-type: none"> 年間収集日数 257日 防災力向上及び知識スキルアップ向上として重機免許取得講習及び研修を受講した。 フォークリフト運転技能講習 1人 テールゲートリフター特別教育 29人 			<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度からふれあい収集事業を開始した。 令和5年度に対象要件を一部見直した。 令和5年度申請件数 17件（累計55件） 利用件数 35件（令和5年度末） 								
	②ごみ収集（粗大）			⑥ごみ収集車管理								
	<ul style="list-style-type: none"> 粗大ごみ戸別回収実績 収集件数 1,761件 収集個数 5,243個 うち30個をリユース品として産業まつりにて無償提供した。 			<ul style="list-style-type: none"> 収集車両購入 購入額 2tパッカー車 2台 15,356,000円 軽四ダンプ車 1台 1,811,590円 収集車両売却 売却額 2tパッカー車 1台 450,000円 軽四ダンプ車 1台 68,000円 								
③ペットボトル拠点回収			⑦ごみ収集事務所施設管理									
<ul style="list-style-type: none"> 拠点回収回収箇所 36箇所 			<ul style="list-style-type: none"> 事務所内エアコン修繕 96,800円 重機類修繕（4台分） 114,235円 									
④廃油回収												
<ul style="list-style-type: none"> 廃油回収量 4,5360 												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		<ul style="list-style-type: none"> 一般廃棄物の処理等に関しては、法令等により市で行わなければならないため妥当である。 市民の生活環境の維持及び限られた資源の有効活用を図るため、「ごみの出し方ルールとマナー」をもとに、分別を徹底し、排出量の抑制や効率化等を図るうえで必要な事業である。 高齢化等によるごみ出し困窮家庭に対する支援策について、全国的に高齢化社会に対応した廃棄物処理体制にシフトしていく必要性が生じているため、令和4年度から紀の川市ふれあい収集事業を実施している。 										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		<ul style="list-style-type: none"> ごみの排出量は年々減少傾向にあり、ごみの排出抑制の効果は見受けられている。令和2年度には新型コロナウイルス感染症拡大防止による外出自粛などの影響から家の片付けをする人が多くなったことにより、直接、紀の海クリーンセンターへ持ち込まれる粗大ごみなどの量が一時的に増加したが、令和3年度以降は例年並みに減少している。 ごみの排出抑制に向けた取組は、ごみ収集業務に携わる職員に年数回研修を行い、スキルの向上を図っている。また、今後はより一層講習会及び研修会を受講及び実施し、より一層住民サービスの向上を図りたい。 ペットボトルの消費量及び収集量の増加に対応するため、ペットボトルの収集回数増加を図る必要がある。 										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	<ul style="list-style-type: none"> ごみ収集業務を民間委託しても必ずしもコストダウンに繋がらない。さらに、住民サービスの低下に繋がる可能性があり、費用対効果を含めて慎重に検討していく必要がある。 効率性及び人件費を含めたコスト削減について、様々な点に考慮しながら、収集計画及び収集体制の見直しを検討していく必要がある。 											

事務事業の概要	事務事業名	廃棄物処理施設跡地管理事業			担当課	廃棄物対策課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	1147
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	2	清掃費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	2	塵芥処理費		基本施策	2	ごみや資源物の効率的な収集・処理				
事業概要	市で運営していた一般廃棄物処理施設の跡地を適正かつ安全な管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	旧施設管理			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	跡地管理施設箇所数	箇所	目標	3	2	2	3	1	跡地管理が必要な施設を適正に管理した。		
				実績	3	2	2					
	<指標の計算方法>		跡地管理施設箇所数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,292			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			1,292									
事業の実績	①旧施設管理											
	<ul style="list-style-type: none"> 旧粉河クリーンセンター跡地植林管理 生育巡視等年6回、肥料・農薬散布年2回、草刈等年3回等 委託金額 990,000円 雑草等刈取作業委託 麻生津中地内5,231㎡ 委託金額 86,944円 旧粉河クリーンセンター河川水測定分析 年2回 委託金額 214,500円 											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市の廃棄物処理施設の跡地管理は市が責任を持って安全かつ適正に管理する必要があり妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・市の廃棄物処理施設の跡地を近隣の環境に配慮して安全かつ適正に管理することが有効にできている。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・市の廃棄物処理施設の跡地を今後も長期間にわたり安全かつ適正に管理していくにあたり、効率的な管理方法について適宜検討していく必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	収集事務所整備事業			担当課	廃棄物対策課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R2～R5)	事業番号	956		
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2 清掃費				施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会			
		目	2 塵芥処理費				基本施策	2	ごみや資源物の効率的な収集・処理			
取組方針				2	効率的な収集体制の構築							
事業概要	収集業務の一元化による経費削減等が図られた収集体制を構築することを目的に、効率化された収集事務所を整備する事業											
事務事業を構成する細事業	①	収集事務所整備			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	収集事務所整備工事の進捗率	%	目標	5	25	100			工期スケジュールどおり工事が進み、工期内に工事が完成した。		
				実績	7.2	32.4	100					
	<指標の計算方法>		収集事務所整備工事の出来高率									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	358,945			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	30,645		
事業の実績	①収集事務所整備 ・収集事務所整備工事 出来高100.0%、支払額328,028,100円 ・収集事務所整備工事施工監理 出来高100.0%、支払額17,650,000円 ・主な施工内容 土木造成工事 土工、法面工、排水工、舗装整備工等 建築工事 事務所棟、倉庫棟、車庫兼災害ごみ仮置場棟建築工事（建築、電気設備、機械設備） 屋外工事（駐車場、駐輪場、門扉等）											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・一般廃棄物の処理は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において市町村の責務とされ、ごみ処理事業を適正に効率的に運営することに努めなければならないことが定められており、市が必要な施設を整備することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・収集業務の一元化された収集事務所を整備することにより、収集業務の効率化等を図ることができることから有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・収集業務の一元化による収集体制を構築することにより、収集業務の効率化及び経費削減を図ることができる。											

事務事業の概要	事務事業名	災害廃棄物処理事業			担当課	廃棄物対策課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	新規	事業期間	単年度のみ		事業番号	1035	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	2	清掃費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	2	塵芥処理費		基本施策	2	ごみや資源物の効率的な収集・処理				
取組方針	9	その他										
事業概要	市が処理すべき災害廃棄物について、紀の海クリーンセンター及び民間処理業者で処分を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	災害廃棄物処理			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	災害廃棄物処理量	t	目標						令和5年6月2日大雨災害により発生した災害廃棄物の処理量。市民の衛生的な生活を維持するため、できるだけ短期間で処理を行った。		
				実績			365					
	<指標の計算方法>		災害により発生した災害廃棄物の収集処理量									
	活動指標	災害廃棄物処理率	%	目標			100			収集した災害廃棄物は、民間業者も活用しすべて処分できている。		
				実績			100					
	<指標の計算方法>		災害廃棄物処理量/災害廃棄物収集量×100									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
		11,123		5,541							5,582	
事業の実績	①災害廃棄物処理											
	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年6月2日の大雨により発生した災害廃棄物の処理 紀の海クリーンセンターでの処理 <ul style="list-style-type: none"> 可燃ごみ 269.4t 不燃ごみ 53.17t 紀の海クリーンセンターで処理できないものの処理 <ul style="list-style-type: none"> 廃プラ類 22.89 t 家電リサイクル対象品 435台 被災地区に臨時集積所開設 (6月3日～6月18日、延べ6カ所) 											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・災害廃棄物は市が主体で処理を行う必要があり、適正に処分することにより、市民の衛生的な生活を維持するために必要な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・紀の海クリーンセンター及び民間処理業者において災害ごみを処理することにより市民の衛生的な生活を維持することが出来た。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・適切な箇所に災害ごみ仮置場を確保し、市民が災害ごみの排出しやすい環境を整えたことにより、迅速に災害ごみの処理を行うことが出来た。 ・より迅速、的確に市民のニーズに応えられる体制を整備する必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	し尿処理事業		担当課	那賀支所			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	817		
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	2	清掃費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	3	し尿処理費		基本施策	3	適切な生活排水対策の推進				
取組方針	2	し尿の適正処理										
事業概要	市民が衛生的な生活を送れるように、那賀地区のし尿の処理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	し尿収集			⑤				⑨			
	②	し尿処理収集車管理			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	し尿汲取り件数	件	目標	4,500	4,500	3,900	3,800	3,800	合併浄化槽の普及や人口の減により減少傾向にある。		
				実績	4,103	3,997	3,881					
	<指標の計算方法>		し尿汲取り件数									
	活動指標	し尿収集車保有台数	台	目標	4	4	4	4	4	老朽化した車両を入れ替え、4台を維持する。		
				実績	4	4	4					
	<指標の計算方法>		し尿収集車保有台数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
19,865								19,865				
事業の実績	①し尿収集 (し尿汲取り件数) ・一般(普通)便槽：3,320件 ・合併浄化槽：366件 ・単独浄化槽：195件 (那賀衛生環境整備組合処理量) ・生し尿：1,138.95k1 ・浄化槽汚泥：1,829.20k1											
	②し尿処理収集車管理 ・4台(3トン車2台、2トン車2台)											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・地域住民・企業等の浄化槽清掃・維持管理の為、し尿収集業務を行い、公衆衛生の向上に努める。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・地域住民・企業等の浄化槽のし尿収集申込に対し、迅速に対応することにより満足度が高く、衛生的な生活環境を満たしている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・現状の実績等からすれば、人員については適正と考える。申込に対する電話対応は、支所職員全員で行っている。											

事務事業の概要	事務事業名		那賀衛生環境整備組合事業			担当課		環境衛生課		事業区分	一部事務組合		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	818	
	予算科目	款	4 衛生費		長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境					
		項	2 清掃費			施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会					
		目	3 し尿処理費			基本施策	3	適切な生活排水対策の推進					
取組方針		2		し尿の適正処理									
事業概要		市民が衛生的な生活を送れるように、那賀衛生環境整備組合の運営に参画する事業											
事務事業を構成する細事業	①	那賀衛生環境整備組合負担金		⑤					⑨				
	②			⑥					⑩				
	③			⑦					⑪				
	④			⑧					⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	し尿搬入量	kl	目標	18,000	17,100	16,800	16,200	16,200	年々減少傾向にあり、合併処理浄化槽の普及と公共下水道への接続が要因である。今後も合併処理浄化槽への転換、公共下水道への接続により減少すると予想される。			
				実績	15,509.13	15,410.26	14,888.46						
	<指標の計算方法>		し尿搬入量										
	活動指標	浄化槽汚泥搬入量	kl	目標	21,900	21,900	21,900	21,900	21,900	令和4年度は減少したが、今後も合併処理浄化槽へ転換する世帯が増加すると考えられることから増加すると予想される。			
				実績	21,666.31	21,265.64	21,749.38						
	<指標の計算方法>		浄化槽汚泥搬入量										
				目標									
				実績									
	<指標の計算方法>												
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	216,743			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	216,743			
事業の実績	①那賀衛生環境整備組合負担金			紀の川市 37,175kl、岩出市 26,337kl									
	<ul style="list-style-type: none"> ・紀の川市負担金 216,743,000円 ・紀の川市負担率 55.08% (交付税算入分を除く) 												
事業の実績	(内訳)												
	<ul style="list-style-type: none"> ・均等割 (20%) 393,520,000円×20%×1/2=39,352,000円 紀の川市 1/2、岩出市 1/2 ・人口割 (30%) 393,520,000円×30%×52.71% =62,227,000円 令和4年3月末住基人口 (114,410人) 紀の川市 60,305人、岩出市 54,105人 ・利用割 (50%) 393,520,000円×50%×58.53% =115,164,000円 令和3年度処理実績 (63,512kl) 												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・し尿、浄化槽汚泥を適正に処理する処理施設は那賀衛生環境整備組合であり、那賀衛生環境整備組合へ負担金を支出し適正な運営が行われるよう経営に参画して実施することは妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・し尿、浄化槽汚泥を適正に処理する処理施設は那賀衛生環境整備組合であり、那賀衛生環境整備組合へ負担金を支出し適正な運営が行われるように経営に参画して実施することは有効である。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・し尿、浄化槽汚泥を適正に処理する処理施設は那賀衛生環境整備組合であり、那賀衛生環境整備組合へ負担金を支出し適正な運営が行われるように経営に参画して実施することは効率的である。												

事務事業の概要	事務事業名	し尿くみ取り料補助事業			担当課	環境衛生課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	新規	事業期間	単年度のみ		事業番号	1238	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2 清掃費				施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会			
		目	3 し尿処理費				基本施策	3	適切な生活排水対策の推進			
取組方針				2	し尿の適正処理							
事業概要	市内に居住する者のし尿便槽（浄化槽を除く）が雨水や河川氾濫等の災害により浸水した場合に限り、その被災世帯に対し、補助金の交付を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	し尿くみ取り料補助金			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	くみ取り料金補助件数	件	目標						令和5年6月の豪雨によるくみ取り世帯の浸水被害により、くみ取りを要する世帯が発生し補助を行った。		
				実績			63					
	<指標の計算方法>		くみ取り料金補助件数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	312			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	312		
事業の実績	①し尿くみ取り料補助金											
	<ul style="list-style-type: none"> ・1世帯につき、5,000円を限度に補助 ・地区別・補助件数・補助金額 <ul style="list-style-type: none"> ・打田地区 3件 15,000円 ・粉河地区 14件 67,900円 ・那賀地区 1件 5,000円 ・桃山地区 21件 105,000円 ・貴志川地区 24件 118,700円 計 63件 311,600円 											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		<ul style="list-style-type: none"> ・し尿をくみ取るにより、公共用水域の水質汚濁を防止するとともに、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図り、市民が快適で衛生的な生活が行えるようにすることを目的としている。 ・浸水被害により被災した世帯に対し補助金を交付することは、くみ取り料金の費用負担の軽減が図る災害支援となり、市で実施することは妥当である。 										
		評価結果	改善の余地がない									
有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に対する補助であるため、浸水被害を把握し浸水したことによりくみ取りを実施した世帯に対し、補助金を交付する災害支援は有効である。 ・紀の川市職員マニュアルや被災受援計画シートに掲載し、災害が発生した場合、市職員が迅速に対応できるように準備することは有効である。 											
	評価結果	改善の余地がない										
効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も災害支援の補助として、浸水被害が発生した場合、広報紙やホームページなどに掲載し、市民に周知啓発を進め、対象となる世帯に対し一日でも早く補助金を交付できるように努めることが必要である。 											
	評価結果	改善の余地がない										

事務事業の概要	事務事業名	雇用対策事業			担当課	商工労働課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	64	
	予算科目	款	5 労働費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 労働諸費				施策目標	2	雇用・就労			
目	1 労働諸費			基本施策	1		就労支援の充実と雇用創出の振興					
事業概要	市民の就業を支援するために、職業相談室の開設や運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	キャリア教育推進事業			⑤	合同説明会(就職フェア開催事業)		⑨				
	②	地元企業見学事業(バスツアー)			⑥	紀の川市合同企業説明会		⑩				
	③	ママジョブマルシェ開催事業			⑦	マザーズ就活準備セミナー		⑪				
	④	地域職業相談室開設事業			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	地域職業相談室年間紹介成功率	目標	35	35	35	40	40	求職者と雇用のマッチングが高まり、就職促進につながった			
			実績	35.2	40.5	38.7						
	<指標の計算方法>		地域職業相談室で紹介した求人先に就職した割合									
	活動指標	市内実施の企業説明会における参加者数	目標	100	100	100	100	100	県下全般的に相談会への参加者数が減少傾向。民間の就職支援ツールが主流になりつつある。			
			実績	41	69	43						
	<指標の計算方法>		合同開催した企業説明会参加者に加え、市単独で開催した企業説明会参加者数									
	成果指標	市内実施の企業説明会における市内在住者の内定者数	目標	15	15	15	15	15	内定者数は低水準で推移しており市内事業者の人材が不足している背景が伺える。			
			実績	0	2	3						
	<指標の計算方法>		合同開催した企業説明会時の内定者に加え、市単独で開催した企業説明会時の内定者数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	950			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①キャリア教育推進事業			参加人数 8人(市内在住6人)				参加者 30人(市内在住者 11人) 内定者 6人(市内在住者 3人) 募集人員 233人(市内企業募集人員102人)				
	②地元企業見学事業(バスツアー)			④地域職業相談室開設事業				⑥紀の川市合同企業説明会				
	③ママジョブマルシェ開催事業			⑤合同説明会(就職フェア開催事業)				⑦マザーズ就活準備セミナー				
粉河中学校2年生 9月19日 2クラス 58人 那賀中学校1年生 12月15日 2クラス 38人 荒川中学校1年生 12月13日 2クラス 52人 計 6クラス 148人 ※中学1、2年生を主対象とする 打田中学校は学校側と日程調整とれず 貴志川中学校は学校側と日程調整とれず 鞆淵中学校はR5より休校			・ワークサロン貴志川職業相談 職業相談件数 3,194件 紹介件数 799件 就職件数 309件(成功率38.7%)				開催日 3月8日 13:00~16:00 会場 打田生涯学習センター 参加企業 10社(全て市内企業) 参加者 5人(市内在住者0人)					
開催日 12月4日 8:10~12:45 訪問先 株式会社丸和 和歌山ノーキョー食品工業株式会社 社桃山工場 参加人数 貴志川高校2年生 25人			開催日 10月20日 14:00~15:30 会場 紀の川市役所401会議室 参加者 7人 テーマ 第1部 他の人とは違う!と思わせる志望動機の組み立て方 第2部 面接トーク術 ・岩出・紀の川就職フェア				開催日 3月10日 10:00~12:00 会場 紀の川市役所 市民協働スペース 第1部 就職活動の進め方 書類・面接対策 ハローワークの利用方法 「給与と税金」～自分にあった働き方は?～ 参加者 6人(市内在住者2人)					
開催日 3月10日 9:30~12:00 参加企業 8企業(全て市内事業者)			開催日 10月29日 13:00~16:00 会場 岩出市総合保健福祉センター 参加企業 39社(市内企業 20社)									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・雇用施策の充実と拡充について和歌山労働局と雇用対策協定に基づき事業計画を策定していることから、市が関与することが妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・令和5年度の内定者数は目標値を達成していないが、市民の就業には繋がっており、有効性はあると考えられる。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		・求人求職イベントへの関心を高め、参加者数を増加させる必要がある。 ・求職者が望む雇用条件を提示できる市内企業の情報を集約する必要がある。 ・市内事業者に通務する外国人の語学力を高める必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	働き方改革推進支援事業			担当課	商工労働課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1121	
	予算科目	款	5 労働費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 労働諸費				施策目標	2	雇用・就労			
		目	1 労働諸費				基本施策	1	就労支援の充実と雇用創出の振興			
事業概要	労働環境の改善と雇用問題に対して、ワークライフバランスの必要性を啓発するとともに、働き方改革への取組を一層強化する事業											
事務事業を構成する細事業	①	一般事業主行動計画策定支援事業			⑤					⑨		
	②	優良取組事例選定事業			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	一般事業主行動計画策定事業者数	事業者	目標		5	5	2	2	2	職場環境の向上をすすめた事業所数は目標を達成しなかった。	
				実績		1	1	1				
	<指標の計算方法>		一般事業主行動計画を市の補助により策定した事業者の数									
	成果指標	「くるみん」認定事業者数	事業者	目標		1	1	1	1	1		全国レベルに達する優れた職場環境を整備した事業者はいなかった。
				実績		0	0	0				
	<指標の計算方法>		実績値による									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	50			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	50		
事業の実績	①一般事業主行動計画策定支援事業 申請者 特定非営利活動法人 三敬福祉会 業 種 サービス業（訪問看護など） 社員数 23人(男15人 女8人) 期 間 令和5年3月1日～令和8年2月28日 (3年間) 目 標 ・「育休復帰支援プラン」を策定し、円滑な育休取得、職場復帰をサポートする。											
	②優良取組事例選定事業 「くるみん」の認定は確認できなかった。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・国が取り組んでいる働き方改革の一環であることから、市の関与が妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・市内事業者に対し事業趣旨と取り組み意義への理解を求めたことで、補助制度に関する浸透率は高まっていると考えられるが、引き続き和歌山労働局と連携しながら、働き方改革を推進する必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・事業経費を最大限抑制しているため効率性は高い。											

事務事業の概要	事務事業名	シルバー人材センター運営支援事業			担当課	商工労働課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	726	
	予算科目	款	5 労働費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 労働諸費				施策目標	2	雇用・就労			
		目	1 労働諸費				基本施策	1	就労支援の充実と雇用創出の振興			
取組方針	2			労働人材確保と就労の支援								
事業概要	市民（高齢者）の就業機会の創出と生きがいづくりを促進するために、シルバー人材センター、関係機関に運営に対する補助や負担金の支出を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	シルバー人材センター運営支援事業			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	加入会員数	374人	目標	400	400	400	400	400	岩出市510人 橋本市489人 入会説明会や入会促進チラシの配布を行った結果、微増だが加入促進につながった。		
			実績	364	366	374						
	<指標の計算方法>		シルバー人材センターへ入会登録している会員（3月31日時点）									
	成果指標	加入会員の就業率	75.4%	目標	85	85	85	85	85	岩出市86.5% 橋本市79.7% 会員が希望する業種を受注できたことにより就業率が上がった。		
			実績	70.3	72.4	75.4						
	<指標の計算方法>		会員数に対する就業実人員の割合									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	24,816			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①シルバー人材センター運営支援事業			・新規会員の入会動機				（請負、委任就業人数225人＋労働派遣就業人数90人＝重複就業人数33人＝282人）				
	<ul style="list-style-type: none"> ・運営補助金22,500,000円 5月23日 第1回理事会 6月24日 総会及び第2回理事会 9月28日 第3回理事会 2月 2日 第4回理事会 3月22日 第5回理事会 ・組織概要(R6. 3. 31現在) 職員10人(事務局長1人/職員2人/嘱託6人/臨時1人) ・会員状況 会員数 374人(男性246人/女性128人) 会員の平均年齢 74.0才 年会費 4月～9月加入 月2,000円 10月～3月加入 月1,000円 会員の職歴 事務系 92人 技術系 126人 その他 122人 自営業 29人 無職 5人 			<ul style="list-style-type: none"> 社会的 74%(男性19人/女性17人) 健康的 10%(男性 4人/女性 1人) 経済的 16%(男性 4人/女性 4人) ・受注状況 請負、委任 2,629件 (121,039,633円) 労働派遣 134件 (42,005,106円) 計 2,763件 (163,044,739円) ・契約状況 公共事業 150件 一般企業 400件 個人 2,213件 計 2,763件 ・就業率 請負、委任 就業人数 225人÷会員数374人=60.2% 労働派遣 就業人数 90人÷会員数141人=63.8% 総合 就業人数282人÷会員数374人=75.4% 				<ul style="list-style-type: none"> ・就業年間延べ人数 27,208人 ・事故発生件数 16件(傷害保険 10/賠償責任保険 6件) 				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・高齢者の自立支援と生きがい対策の一環として行っている福祉的要因を含む就労対策であり、本市の高齢化率を踏まえれば市が関与することが妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
<ul style="list-style-type: none"> ・加入会員数と加入会員の就業率は、掲げている目標値を達成できなかったが、令和4年度実績値より微増しており、就業機会の創出に寄与している。 ・加入会員数や就業率を高めるため、新規取扱い業務の検討、創出する必要がある。 												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者と事務局に対する、デジタル化の導入の可能性と効果を検証する必要がある。 ・加入会員数や就業率を高めるため、会員が求める業種を把握する必要がある。 											

事務事業の概要	事務事業名	農業委員会運営事業			担当課	農業委員会事務局			事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	811	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	99 ****				
		項	1 農業費				施策目標	99 ****				
		目	1 農業委員会費				基本施策	99 ****				
取組方針				9	その他							
事業概要	農地の権利移動の許可、転用許可の意見決定業務や「農地等の利用の最適化」に関する業務（農地の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進）などを行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	農業委員会運営			⑤	許認可事務			⑨			
	②	農地利用最適化推進委員会運営			⑥				⑩			
	③	農地情報整備管理			⑦				⑪			
	④	県農業会議負担金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	総会開催	目標	12	12	12	12	12	計画どおり月1回の総会を開催することができた。			
			実績	12	12	12						
	<指標の計算方法>		総会開催回数									
	活動指標	農地の権利移動及び転用の審査	目標							農地法第3条の権利移動が64件増加、農地法第4条の転用件数が12件で変わらず、農地法第5条の転用許可が2件減少した。		
			実績	220	217	279						
	<指標の計算方法>		農地の権利移動（農地法3条）及び転用（農地法第4条・第5条）の審査件数									
活動指標	利用権設定	目標	400	400	400	400	400	利用権設定の設定件数が25件増加した。				
		実績	497	428	453							
<指標の計算方法>		利用権設定件数										
活動指標	農地の適正管理指導	目標						適正管理の指導件数は、気象条件により変動している。				
		実績	268	330	323							
<指標の計算方法>		農地の適正管理指導件数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	21,176			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	18,494		
事業の実績	①農業委員会運営 総会 12回開催											
	②農地利用最適化推進委員会運営 ・推進委員会 打田地区 12回開催 粉河地区 12回開催 那賀地区 12回開催 桃山地区 12回開催 貴志川地区 12回開催											
	③農地情報整備管理 ・農家台帳等の整備を行った。											
	④県農業会議負担金 ・農業委員等に対する講習及び研修、その他農業委員会への支援などを行う和歌山県農業会議に負担金を支出した。											
	⑤許認可事務 ・法令等に基づき適正な事務処理を行った。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・法定事務であり、市民ニーズや社会環境の変化に影響を受ける事業ではない。 ・耕作者の地位の安定と農業生産の増大を図り、食糧の安定供給の確保を目的に、農地法に基づき農地を農地以外のものにすることを規制し、農地を効率的に利用する耕作者へ権利の取得の促進など農業上の利用を確保するための措置を講じる事業であるため、農業者を代表する公的機関として農業委員会が実施していることは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・許認可事務等の処理件数を数値目標として設定することは適していないと考える。 ・農業生産力の向上による農業経営の安定、農地の有効利用など農業経営の健全な発展に寄与するため有効な事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・事務処理にかかるコストは、殆どが人件費のため削減の余地はない。 ・許認可事務については、個人情報を多く含む事務であり、公平性や守秘義務の観点から民間等への委託は適さない。なお、遊休農地の適正管理指導については、民間委託をし、職員の負担を軽減することが可能である。											

事務事業の概要	事務事業名	農業者年金事業			担当課	農業委員会事務局			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1079		
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	99 ****					
		項	1 農業費				施策目標	99 ****					
		目	1 農業委員会費				基本施策	99 ****					
目	1 農業委員会費			取組方針	9 その他								
事業概要	市民（農業者・農業者年金加入者、受給者）が農業者年金に加入し、将来適正に受給し、安定した生活を送ることができるように、加入促進、各種届出の受付を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	農業者年金加入・相談			⑤						⑨		
	②	資格管理			⑥						⑩		
	③	農業者年金業務委託手数料			⑦						⑪		
	④				⑧						⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	新規加入者数	人	目標	8	8	10	10	10	農業委員や推進委員からの情報や、また広報等の制度内容周知により加入推進を実施した。農業者年金の特徴とメリット等の理解は得られたと思うが、保険料の負担が課題として加入者が目標に至らなかった。			
				実績	9	5	1						
	<指標の計算方法>		県農業会議より割り振りされた数字										
	活動指標	受給手続説明会開催回数	回	目標	1	1	1	1	1			県農業会議と連携して受給者説明会を計画どおり開催した。	
				実績	1	1	1						
	<指標の計算方法>		受給手続説明会開催回数										
	活動指標	現況届受付件数	件	目標						対象件数351件全体を受付、受給資格の確認を行った。			
				実績	437	386	351						
	<指標の計算方法>		現況届受付件数										
活動指標	新年金加入推進PR活動回数	回	目標	1	1	1	1	0	加入推進を強化するため、DM発送によるPR活動を実施した。				
			実績	0	0	0							
<指標の計算方法>		新年金加入推進PR活動回数											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	81			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	81			
事業の実績	<ul style="list-style-type: none"> ①農業者年金加入・相談 <ul style="list-style-type: none"> ・農業委員や農地利用最適化推進委員とともに個別訪問を実施し、加入推進を図った。 ②資格管理 <ul style="list-style-type: none"> ・被保険者の資格及び保険料関係書類の受付や農業者年金受給のための裁定請求の手続きを行った。 ③農業者年金業務委託手数料 <ul style="list-style-type: none"> ・農業者年金業務委託契約に基づき、独立行政法人農業者年金基金に手数料の請求を行った。 												
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			<ul style="list-style-type: none"> ・独立行政法人農業者年金基金法の規定による委託契約に基づく事業で、農業者の老後の安定した生活のために必要な事業であり、妥当性が高いといえる。 										
事業の事後評価	有効性	評価結果	改善の余地がない										
		<ul style="list-style-type: none"> ・加入の相談に適切に対応できるよう農業委員会で制度についての研修を行い、農業委員、農地利用最適化推進委員とともに加入推進を実施している。 ・農業者年金の特徴とメリット等の理解は得られたと思うが、保険料の負担が課題として加入者が目標に至らなかった。 											
事業の事後評価	効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		<ul style="list-style-type: none"> ・独立行政法人農業者年金基金の定めた事務取扱要綱に基づき、適切に事業を実施しており、コスト削減や実施手段の最適化の余地はない。 											

事務事業の概要	事務事業名	農業活動事業			担当課	農業振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	805
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興			
		目	2 農業総務費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興			
事業概要	那賀地方の農業従事者等が活気に満ち、持続可能な安定した農業経営ができるように、協議会への負担金の交付や、様々な普及活動や農業者支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業	① 農業振興事務			⑤ クビアカツヤカミキリ防除対策補助金			⑨				
	② 那賀農業改良普及推進協議会負担金			⑥ 肥料価格高騰対策事業補助金			⑩				
	③ 都市農村交流（民泊）事務			⑦			⑪				
	④ 那賀地方病害虫防除対策協議会負担金			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	農業士の新規認定者数	人	目標	3	3	3	3	3	県が認定する農業士は、指導農業士、地域農業士、青年農業士の3分野があり、近年では新規認定を受ける農業士数は目標値を上回っている。	
			実績	7	9	5					
	<指標の計算方法>		農業振興と農村社会の活性化を図るため、地域農業の中核者として活動している農業者に対し、県が毎年認定する農業士数								
	成果指標	農業士の総数	人	目標	120	120	120	120	120	農業士の総数は、新規認定者が一定数いるなか、高齢による退任者数が増えているため減少傾向にある。	
			実績	109	110	105					
<指標の計算方法>		指導農業士、地域農業士、青年農業士の総数									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
30,751			28,046					499	2,206		
事業の実績	① 農業振興事務		木の伐採や伐根、ネット被覆等の措置に対して補助金を交付した。								
	指導農業士 新規認定 0名 地域農業士 新規認定 5名 青年農業士 新規認定 0名		被害状況 32園地91本（桃 22園地72本、スモモ 3園地4本、梅 7園地15本）								
	② 那賀農業改良普及推進協議会負担金		補助件数 11件75本（伐採抜根38本、伐採根覆い21本、ネット被覆16本）								
	農業振興や農業改良普及推進のため、那賀地方で構成された協議会に負担金を支出した。		⑥ 肥料価格高騰対策事業補助金 化学肥料原料の国際価格が大幅に上昇し、肥料価格が急騰したことから、農業者に対して肥料購入費用の一部を助成することで農業経営に及ぼす影響を緩和し、持続可能な農業経営の安定化に向けて支援した。 交付件数 569件 交付金額 25,179,000円								
	③ 都市農村交流（民泊）事務 農家民泊施設 4施設										
④ 那賀地方病害虫防除対策協議会負担金		農業振興や農業改良普及推進のため、那賀地方で構成された協議会に負担金を支出した。									
⑤ クビアカツヤカミキリ防除対策補助金		クビアカツヤカミキリの被害を受けた樹									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・当該事業は、本市を含む那賀地方の農業振興に資するものであるため、市が実施することは妥当であると考えます。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・農業士数は、年齢要件があるため、認定を受けても一定の年齢に達すると認定解除となるが、毎年、県に推薦した新規候補者が認定を受けているため、現状としては一定数が確保できている。 ・本市として農業を振興していくうえで、今後は農業士数を増加させる必要があると考えます。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・当該事業に要する事業費は、事務費や負担金、補助金であるため、これ以上の削減の余地はないものとする。 ・職員の業務量（人件費）についても、当該事業の遂行にかかる最低限度であることから、現時点で効率性を改善する余地はないものとする。										

事務事業の概要	事務事業名	畜産・水産事業		担当課	農業振興課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	808	
	予算科目	款	6 農林業費		長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費			施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	2 農業総務費			基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興				
事業概要	畜産農家に安定した経営をしてもらうために、畜産農家、関係団体に負担金の交付や関連事務を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	畜産振興事務		⑤			⑨				
	②	県畜産協会負担金		⑥			⑩				
	③			⑦			⑪				
	④			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	肉用子牛個体登録頭数	頭	目標	50	50	50	50	50	令和5年度は子牛価格の下落により各畜産農家が例年以上の頭数を導入したため大幅に増加した。また、令和5年度中に1戸が廃業したため、今後は減少傾向になると想定する。	
			実績	73	60	117					
	<指標の計算方法>		肉用子牛の個体登録を行った頭数								
	活動指標	畜産農家訪問回数	回	目標	12	12	12	12	12		肉用牛の保留確認を畜産農家が来庁された際に実施したため訪問回数が減少した。
			実績	15	10	9					
	<指標の計算方法>		牛舎等へ訪問を行った回数								
成果指標	肉用牛飼養農家数	軒	目標	7	7	7	6	6	畜産農家1戸が高齢化により廃業するなど、他の畜産農家においても高齢化や後継者問題が懸念されるため経営継続の支援に努めることが必要である。		
		実績	7	7	6						
<指標の計算方法>		市内で肉用牛を飼養している農家の数									
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	57			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	57	
事業の実績	①畜産振興事務 熊野子牛市場出荷頭数 64頭										
	②県畜産協会負担金 家畜・畜産物を生産する事業者の経営診断や各種基金等を安定的に運営するため、また、消費者へ「食の安全・安心」を正しく啓発することなどを目的に、県下市町村、関係機関及び会員団体に構成された協会に負担金を支出した。										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・畜産協会が指定する事務委託先の一つが市町村であるため妥当といえる。 ・畜産の振興を図るものであり、畜産農家の自助努力では足りないため、市が実施することは妥当であるといえる。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・畜産農家の戸数は横ばいを維持していたが高齢化により令和5年度末で1戸減少した。大きな振興策は実施できていないが、訪問などを通じて困窮内容の把握や助言を行うことで経営維持の一助になっているものとする。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・事業費は少額の負担金であり、事務量も少ないので削減の余地はないと考える。										

事務事業の概要	事務事業名	農業振興団体活動支援事業			担当課	農業振興課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	69	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	3 農業振興費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興				
事業概要	農業振興団体の自立を促し、地域農業の振興や活性化を図るために、補助金の交付や団体活動の支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 農業士会活動支援補助金		⑤ 生活研究グループ連絡協議会補助金		⑨							
	② 4Hクラブ活動支援補助金		⑥ あら川の桃振興協議会補助金		⑩							
	③ 青年農業経営者協議会活動支援補助金		⑦ 中国実習生受入協議会補助金		⑪							
	④ 営農研究会活動支援補助金		⑧ 靛洲地域活性化実行委員会活動支援		⑫							
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	補助団体の会員数	人	目標	926	926	926	926	926	全体的には会員の高齢化や後継者不足などにより減少傾向であるが、環境保全型農業グループ補助金が令和5年度から別事業での交付となったことにより今回の数値に含まれていないことが減少した要因である。		
			実績	835	796	782						
	<指標の計算方法>		各農業振興団体の会員数総計									
	成果指標	補助団体の活動数	回	目標	164	164	164	164	164	令和5年度から環境保全型農業グループ補助金が別事業での交付となったことにより今回の数値に含まれていないことが減少した要因である。		
			実績	89	131	110						
<指標の計算方法>		各農業振興団体の年間活動数総計										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	2,699			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①農業士会活動支援補助金 補助金額 335,000円 会員数 105人 活動数 21回			止が継続しているため補助金を交付しなかった。			支援を行った。					
	②4Hクラブ活動支援補助金 補助金額 230,000円 会員数 17人 活動数 9回			⑤生活研究グループ連絡協議会補助金 補助金額 545,000円 会員数 8団体(95人) 活動数 37回								
③青年農業経営者協議会活動支援補助金 補助金額 216,000円 会員数 24人 活動数 4回			⑥あら川の桃振興協議会補助金 補助金額 673,000円 会員数 616人 活動数 22回									
④営農研究会活動支援補助金 補助金額 0円 会員数 8団体(1,068人) 活動数 0回			⑦中国実習生受入協議会補助金 補助金額 700,000円 会員数 4人 活動数 17回									
新型コロナウイルス感染症により活動中			⑧靛洲地域活性化実行委員会活動支援 黒豆の収穫体験等のイベント時に運営活動									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市が団体に対して活動補助金を交付することで、それぞれの農業振興団体の主体的活動が活発化することは、団体のみならず地域農業の活性化と農業生産性の向上にもつながるため、市が実施することは妥当であると考えます。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・農業従事者の高齢化や担い手不足などにより会員数は減少傾向にあるが、農業を取り巻く厳しい状況の中では、団体活動を通じて市の農業振興に一定の効果をもたらしている。 ・会員数を増加させるためにも、定例となっている活動を見直し、新しい事業活動を取り入れるなど、団体活動をより魅力的なものにしていく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・各団体において、会員数、活動回数、活動内容によって補助金額を見直していく必要がある。 ・団体に自主性を持たせるためにも、市職員の役割を見直して行くことも必要である。											

事務事業の概要	事務事業名	農業経営安定化事業			担当課	農業振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	797
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興			
		目	3 農業振興費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興			
事業概要	農業従事者等の融資負担軽減に対する利子補給、ハウス整備に対する補助及び水田活用を推進する経営所得安定対策事業を行い、農業経営の安定化を図る事業										
事務事業を構成する細事業	①	農業経営基盤強化資金利子補給金			⑤	モモせん孔細菌病対策事業補助金		⑨			
	②	生活営農資金利子補給金			⑥	ハウス整備支援事業補助金		⑩			
	③	特別融資制度推進会議運営			⑦	農業再生協議会補助金		⑪			
	④	農業振興資金利子補給金			⑧	経営所得安定対策等事業		⑫			
指標の実績	指標名	単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標 生活営農資金利子補給件数	目標						平成30年度台風被害による利子補給金の償還期間満了や繰上償還があったため件数が減少した。			
		実績	127	123	113						
	<指標の計算方法>	紀の川市生活営農資金利子補給金交付要綱に基づき利子補給した件数									
	活動指標 ハウス整備支援事業補助件数	目標						農業用ハウスの建設については、例年、申請件数に増減がある。			
実績		7	10	20							
<指標の計算方法>	補助対象となった事業の件数										
成果指標 経営所得安定対策等事業交付金の申請者数	目標						農地が交付対象でなくなった方や農業者数の減少により申請者数も減少傾向にある。				
	実績	699	637	600							
<指標の計算方法>	経営所得安定対策等事業交付金（水田活用の直接支払交付金）の申請者数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)	財源内訳									
		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
	18,642		5,236			3,319	10,087				
事業の実績	①農業経営基盤強化資金利子補給金 2件			⑦農業再生協議会補助金			農業経営の安定と地域農業の発展に向けた取組をしている紀の川市農業再生協議会に対して補助金を交付しました。				
	②生活営農資金利子補給金 H30年台風20, 21, 24号対策 109件 R5年台風2号対策 4件			⑧経営所得安定対策等事業 交付申請者数 600名							
	③特別融資制度推進会議運営 対象となる融資がなかったため会議を開催しなかった。			推進事業補助金 国庫 5,236千円 市 200千円							
	④農業振興資金利子補給金 H30年台風20, 21号対策 1件										
	⑤モモせん孔細菌病対策事業補助金 申請件数 0件 受益面積 0ha										
	⑥ハウス整備支援事業補助金 申請件数 20件 整備面積 62.6a										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・農業経営の安定化を図るために農業用施設の整備支援や融資の利子補給金を補助することは、長期総合計画の基本計画にも貢献するものであるため妥当といえる。 ・防風ネットの設備や農業用ハウスの整備は、国においても補助制度があるが、採択要件が異なるため重複するものではない。 ・固定資産税等の個人情報の取り扱いや市の農業関連業務とも関連が深いため、市が関与することは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・モモせん孔細菌病の最も有効的な対策であり生産性の確保につながる桃の防風ネットの設置や台風による甚大な被害を減少し農業の効率化を高める農業用ハウスの導入は、市が補助金を交付して支援を図ることは有効であるといえる。 ・農業者からの営農計画書の提出を受け、営農状況の把握及び水田台帳の整備や管理ができています。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・要綱に基づき運用しているため、コスト削減等について改善の余地がない。 ・農業用ハウスの整備及び桃の防風ネットは県事業と合わせて2分の1の補助率であり、負担割合は適正なものとする。 ・事業対象である水田の筆数が非常に多く業務量も膨大であるため、データ入力や単純作業において会計年度任用職員の任用が必然であり、効率的な活用ができています。また、繁忙期のみ追加の非常勤職員任用についても検討していく必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	農産物等ブランド推進事業			担当課	農業振興課		事業区分	ソフト事業	
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流	
		項	1 農業費				施策目標	1	農業振興・産業振興	
		目	3 農業振興費				基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興	
取組方針	4			農を起点としたブランド創出の推進						
事業概要	農業従事者等の新商品の開発、販路開拓の促進及び国内外に向けて効果的に情報発信を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	産業まつり補助金			⑤	認定ブランド支援事業		⑨		
	②	農産物等販売促進事業			⑥			⑩		
	③	6次産業化支援事業補助金			⑦			⑪		
	④	6次産業化スクール			⑧			⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	産業まつり来場者数	人	目標	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	新型コロナウイルス感染症による中止から4年ぶりの開催であったが、以前と同水準の来場者数であった。
			実績	0	0	6,500				
	<指標の計算方法>		産業まつり会場への来場者数							
	活動指標	農産物等の販売促進イベント実施回数	回	目標	9	9	10	10	10	トップセールスに加え、直売イベントや他部署と連携したイベントの実施など、令和4年度を大幅に超える実施回数となった。
			実績	2	7	13				
<指標の計算方法>		農産物等の販売促進イベント年間実施回数								
成果指標	市認定ブランド商品の販売金額	千円	目標	0	0	1,925	3,000	4,000	令和5年度より成果指標に設定し、認定商品の本格販売を開始したが当初の目標金額を達成することができなかった。	
		実績	0	730	1,136					
<指標の計算方法>		市認定ブランド商品の販売金額の総額								
成果指標	農産物等の海外輸出金額	千円	目標	0	0	300,000	320,000	340,000	令和5年度より成果指標に設定し、管内JAの輸出金額は増加傾向であるが、引き続き目標金額が達成できるよう努める。	
		実績	208,931	294,054	316,235					
<指標の計算方法>		管内JA等の海外輸出金額の総額								
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
	21,240			国庫支出金	3,526	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
			17,714							
事業の実績	①産業まつり補助金 開催：11/26 場所：貴志川体育館・駐車場 来場者数：6,500人 出店数：55団体			【(株)八芳園】 ・ふるさと納税と連携し、いちじく(9/6～10)のPR販売を実施 場所：八芳園MuSuBu(東京)			【(株)セブンイレブンジャパン】 ・桃、八朔を使用した期間限定商品を発売 【セガフレードザネットイージャパン(株)】 ・桃を使用した期間限定メニューを開発			
	②農産物等販売促進事業 ■トップセールス ・桃(6/29)、いちじく(8/22)実施 場所：大阪市中央卸売市場 ・柿(9/26)、キウイ・中晩柑(1/27)実施 場所：東京都中央卸売市場大田市場 ■農産物等直売・PRイベント 【紀の川マルシェ(市主催)】 ・桃(6/27)、苺(3/12)のPR販売を実施 場所：大阪駅地下デイズスクエア(大阪) 【Peach Aviation(株)】 ・アジア各国から関西空港に到着した乗客を対象に桃配布PRイベント(7/12)を実施 【森トラスト(株)】 ・ふるさと納税と連携し、いちじく(9/4～7)、柿(10/10～13)のPR販売を実施 場所：神谷町・丸の内トラストタワー(東京)			【農林水産祭「実りのフェスティバル」】 ・農林水産省主催イベント(11/10～11)に参加し、柿のPR販売を実施 場所：池袋サンシャインシティ(東京) 【聖地リゾート和歌山東京レセプション】 ・和歌山県主催イベント(11/30)に参加し、観光と連携した農産物PRブースを設置 場所：ホテルニューオータニ(東京) 【大阪・関西万博JALマルシェ】 ・羽田空港で開催された日本航空(株)主催イベント(12/3～4)で、柿、苺のPR販売を実施 ■企業等と連携した商品・メニュー開発 【(株)高島屋】 ・新宿タカシマヤタイムズスクエアレストラ ンズパーク(東京)内の4店舗で八朔を使用し た期間限定メニュー(3/20～4/2)を開発			③6次産業化支援事業補助金 新商品開発や販路開拓に対し補助金を交付 ・商品開発 2件 販路開拓 1件 ④6次産業化スクール 農家でもできるマーケティングを題材に開催 ・講演会(1回) 参加者数：27名 ・スクール(全3回) 参加者数：17名 ・個別相談(全3回) 参加者数：延べ16名 ⑤認定ブランド支援事業 認定ブランドISSEKIに4商品を新規認定し、 展示会等に出展 ・第35回グルメ&ダイニングスタイルショー 春2024(2/6～8) 場所：東京ビッグサイト(東京) ・新宿マルイPOPUP(2/8～14) 場所：新宿マルイ本館(東京)			
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある							
		・市産農産物の認知度を向上させ、ブランド化や産地化の推進を図ることは、農業従事者の生産力および所得向上に繋がるとともに、市の主要産業である農業の振興を図るうえでも市の関与は必要である。 ・農業従事者の多くが出荷するJA紀の里と連携することは、実施主体としても適当である。 ・6次産業化は農産物の価値を高め、農業従事者の所得向上に繋がる取組であるため、市の支援が必要である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある							
		・市場や小売店との信頼関係を築く市場セールスや消費者の認知度向上、消費拡大を図る直売イベントの実施は、農業従事者の所得向上に繋がるため、継続して実施することが有効である。 ・国内人口の減少による国内市場の縮小を見据え、海外販路の拡大に取り組んでいくことが必要である。 ・6次産業化スクールの実施や、市認定ブランドの立ち上げは6次産業化ビジネスの実践に繋がっているため、引き続き効果的な事業を展開していくことが必要である。 ・商工業者や加工関連会社等と連携し、より6次産業化ビジネスを実践しやすい環境にしていくことが必要である。								
効率性	評価結果	改善の余地がややある								
	・シティプロモーションやふるさと納税、観光施策等と連携し、効率的・効果的な事業を継続して実施していくことが必要である。 ・市認定ブランドの認知度向上や販路拡大には、外部組織の形成や業務委託により効率化を図っていくことも必要である。									

事務事業の概要	事務事業名	農業経営基盤強化促進事業			担当課	農業振興課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	787
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	3 農業振興費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興				
事業概要	意欲ある農業従事者及び新たに就農する青年等の農業経営基礎の確立を図るために、農業経営の改善及び安定化・効率化の促進等の支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	農業経営改善計画等認定審査会運営			⑤	農地集積協力金			⑨			
	②	認定農業者・認定新規就農者支援			⑥				⑩			
	③	農地利用促進			⑦				⑪			
	④	農業経営管理合理化推進事業補助金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	農業経営改善計画等認定審査会の開催回数	目標	4	4	4	4	4	認定農業者及び認定新規就農者の計画認定申請を受け、年4回認定審査会を開催した。			
			実績	4	4	4						
	<指標の計算方法>		認定農業者及び認定新規就農者の決定機関（法第12条第4項及び第14条の4第3項）である審査会の開催回数									
	成果指標	認定農業者数	目標	279	279	279	279	279	近年、高齢化等で認定農業者数が減少傾向にあるが、令和5年度は農業経営管理合理化推進事業の拡充等により、自身の農業経営の改善に取り組もうとする意欲のある農業者が計画認定申請したことで増加したものと考えられる。			
			実績	279	253	275						
	<指標の計算方法>		市等から農業経営改善計画の認定を受けた農業者数									
活動指標	農業経営管理合理化推進事業の実施件数	目標	40	40	40	40	40	令和5年度から補助対象や補助率、補助上限額を拡充したことにより、申請件数が増加したものと考える。				
		実績	20	21	53							
<指標の計算方法>		認定農業者等が農業経営改善計画等の目標達成に必要な農業用機械や設備の導入に対して補助金を交付した件数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	14,484			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		14,484	
事業の実績	①農業経営改善計画等認定審査会運営 認定審査会を4回開催											
	②認定農業者・認定新規就農者支援 農業経営や新規就農の相談や支援制度の説明などを随時行った。											
	③農地利用促進 農用地利用集積計画の公告 12回											
	④農業経営管理合理化推進事業補助金 農業用機械 46件 農業用設備 7件 スマート農業用機械 0件											
	⑤農地集積協力金 0件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・持続可能な農業を実現させるためには、人と農地の問題を一体的に考える必要がある。さらに地域農業の担い手となる農業者を育成し確保していくためには、市が積極的に関与する必要がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・令和5年度から農業経営管理合理化推進事業補助金の拡充を行ったことで申請件数が大幅に増加したが、農業経営の強化促進については今後も継続し、実績等による効果検証を行いながら事業展開を図っていく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・新規就農や支援制度などで多くの方が相談に来庁され、対応には農業における専門的知識が必要であるため会計年度任用職員等への置換は困難であると考えられる。											

事務事業の概要	事務事業名	担い手育成支援事業			担当課	農業振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1129
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流		
		項	1 農業費				施策目標	1	農業振興・産業振興		
		目	3 農業振興費				基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興		
事業概要	農業の担い手の確保・育成や、就農後の定着支援など就農者数の増加を目指した取組によって、地域農業の振興を図る事業										
事務事業を構成する細事業	①	親元就農助成金			⑤	農業次世代人材投資資金の交付			⑨		
	②	受入体制の基盤整備			⑥				⑩		
	③	紀の川アグリカレッジ事業			⑦				⑪		
	④	新規就農者育成総合対策事業			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	担い手育成支援事業審査委員会の開催回数	目標	2	2	2	2	2	経営開始資金、親元就農助成金の交付を採択するための審査委員会が定期的に開催できている。		
			実績	2	1	2					
	<指標の計算方法>		経営開始資金、親元就農助成金の採択を審査する審査委員会の年間開催回数								
	活動指標	研修生受入数	目標	0	3	3	3	3	紀の川アグリカレッジにおいて研修生の確保が出来ている。		
			実績	0	5	3					
	<指標の計算方法>		紀の川アグリカレッジ研修生の受入人数								
	成果指標	経営開始資金の新規採択者数	目標	0	10	10	10	10	目標値に達していないが、新規就農者が一定数いること等、今後も申請が見込まれる。		
			実績	0	9	7					
	<指標の計算方法>		新規就農者育成総合対策（経営開始資金）の新規採択者数								
成果指標	親元就農助成金の新規採択者数	目標	8	8	8	8	8	年度によって申請者数にばらつきがあるが令和5年度は目標値を上回った。			
		実績	6	1	9						
<指標の計算方法>		親元就農助成金の新規採択者数									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	62,040			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	15,045	
事業の実績	①親元就農助成金 ・親元就農助成金の交付 交付対象者数 11名（うち新規9名）			④新規就農者育成総合対策事業 ・経営開始資金の交付 交付対象者数 10名（うち新規1名） ・経営開始支援資金の交付（補正） 交付対象者数 6名（うち新規6名）							
	②受入体制の基盤整備 ・JA紀の里、紀ノ川農協、市がそれぞれ実施する農業研修機関が連携を図り、一体となって新規就農希望者の受入れに取り組み、研修生への支援を行った。研修生と新規就農者との条報告緩解など交流の場を設けた。 ・研修生を受け入れるための基盤整備に係る検討委員会の開催回数 3回			⑤農業次世代人材投資資金の交付 ・経営開始型の交付 交付対象者数 13名（継続者のみ）							
事業の事後評価	③紀の川アグリカレッジ事業 ・いちご農家として本市で就農を目指す方を募集し、研修生として受入れを行った。 令和5年度（第2期生） 3名 研修期間 2年間										
	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・新たな担い手農業者の育成と確保を図る事業であり、長期総合計画の基本施策に適合している。 ・新規就農者の就農初期の不安定な経営を支えるため、国の制度を活用して市が資金の交付等を行う事業であり、市の関与は妥当である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある ・親の農業を継承する者に対して支援を図ることで、農業経営を円滑に継承し地域農業の新たな担い手となることが期待できるため、有効的な事業である。 ・他産業からの就農希望者を積極的に確保するため、引き続き、紀の川アグリカレッジ事業を実施し、令和5年度は10名の応募者の中から2名の受入を決定した。今後も研修生が将来、新規就農者として安定した農業経営ができるよう支援を図る。 ・資金の交付については、国の要綱に準じて運用しており、国が事業の有効性を検証して制度の見直しや改善などを行っているため、市の裁量はない。								
効率性	評価結果	改善の余地がややある ・新規就農希望者や親元就農者からの問合せや相談対応、助言等の支援、県や関係団体との連携が必要であり、農業の専門的な見識を要するため、対応できる人員の確保が必要である。									

事務事業の概要	事務事業名	地産地消・食育推進事業			担当課	農業振興課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	74	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
目		3 農業振興費			基本施策		1 地域の特性を生かした農業振興					
取組方針	1 魅力ある農業の振興											
事業概要	市民に市産農産物を使った健全な食生活を実践してもらうために、地産地消と食育推進の普及啓発を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 食育推進会議運営				⑤				⑨			
	② 食育フェアの開催				⑥				⑩			
	③ 食育料理教室の開催				⑦				⑪			
	④ 野菜フェスタ参加負担金				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	食育料理教室の開催数	回	目標	7	7	7	7	0	新型コロナウイルス感染症の影響により、開催を希望する保育園が少なかったため、開催回数が目標値より少ない結果となった。令和5年度から私立保育園も対象に拡大したところ、2保育園で計3回開催することができ好評であった。		
			実績	0	0	5						
	<指標の計算方法>		紀の川市立保育所での親子料理教室の開催回数									
	成果指標	食育フェア来場者数	人	目標	7,000	7,000	7,000	7,000	0	新型コロナウイルス感染症による中止から4年ぶりの開催であったが、以前と同水準の来場者数であった。		
			実績	0	0	6,500						
	<指標の計算方法>		合同で開催している産業まつりへの集客も含んだ来場者数									
	成果指標	食育に関心を持っている成年の割合	%	目標	90	90	90	90		中間年評価として令和3年度に実施したアンケート結果と比較してほぼ横ばいであった。引き続き、食育推進の取組や周知が必要である。		
			実績	80.1		81						
	<指標の計算方法>		紀の川市食育推進計画におけるアンケート調査結果より算出									
成果指標	三食規則正しく食べる成年の割合	%	目標	80	80	80	80		中間年評価として令和3年度に実施したアンケート結果と比較して数値が上昇した。引き続き、食育推進に関する周知が必要である。			
		実績	60.5		73.8							
<指標の計算方法>		紀の川市食育推進計画におけるアンケート調査結果より算出										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	2,850			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,850		
事業の実績	①食育推進会議運営 2回開催 ・第1回 前年度実績報告、収支決算報告及び当年度事業計画、収支予算について ・第2回 第4次食育推進計画の策定について			イベント自体が開催されなかった。								
	②食育フェアの開催 開催日：令和5年11月26日（日） 来場者数：6,500人 取組内容：各種体験ブース ステージイベント等											
	③食育料理教室の開催 親子料理教室 回数：5回（公立2回・私立3回） 参加人数：160人（保護者含む）											
	④野菜フェスタ参加負担金											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・海外からの輸入農産物の増加や食品の産地偽装など、食を取り巻く環境が大きく変化する中、食への関心は依然として高く、本事業継続の必要性は高いと考える。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・本市の食育推進への取組として、広く市民を対象とした事業が少なく、新規事業の実施を検討する必要がある。また、食育推進の啓発や広報についても様々なツールを活用した取り組みを行う必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・関係団体との連携強化により、効率的な事業の実施が考えられる。											

事務事業の概要	事務事業名	環境保全型農業推進事業			担当課	農業振興課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	831	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	3 農業振興費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興				
事業概要	化学肥料や農薬の使用低減に向けたエコ農業や環境保全型農業など環境にやさしい農業に取り組む農業者に対して支援を図る事業											
事務事業を構成する細事業	①	環境保全型農業直接支払交付金事業			⑤				⑨			
	②	環境保全型農業直接支払推進事業			⑥				⑩			
	③	環境保全型農業グループ補助金			⑦				⑪			
	④	オーガニックビレッジ準備会補助金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	取組団体数	件	目標	3	4	5	5	5	取組団体数については、令和4年度より変動はないが、各団体内での取組面積は増加傾向にある。		
			実績	4	5	5						
	<指標の計算方法>		環境保全型農業直接支払交付金を受け活動を行う団体等の総数									
	成果指標	取組面積	a	目標	700	1,000	1,300	1,300	1,300	取組者の高齢化で取組人数は減少傾向にあるが、各取組団体構成員において農地の新規取得等により取組面積は増加傾向にある。		
			実績	980	1,275	1,296						
	<指標の計算方法>		各団体等の取組総面積									
成果指標	推進活動回数	回	目標	9	9	9	9	9	取組回数は横這いであるが、新しい活動に内容を変更するなど積極的に推進活動が行われている。			
		実績	6	8	9							
<指標の計算方法>		各団体等の推進活動の総回数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	2,492			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,286		
事業の実績	①環境保全型農業直接支払交付金事業 地球温暖化防止、生物多様性保全等に貢献していくため、より環境保全に効果の高い営農活動を行う農業者団体等に補助を行った。 ・取組団体数：5件 ・構成員人数：26人 ・取組み面積：1,296 a ・推進活動数：9回			補助金額 390,000円 会員数 99人 活動数 41回								
	②環境保全型農業直接支払推進事業 環境保全型農業直接支払交付金事業の適正かつ円滑な実施の促進に資するため、推進事業を実施した。 ・実施状況の確認事務 26件 ・有機質肥料施用、低農薬防除の推進			④オーガニックビレッジ準備会補助金 有機農業の推進や普及活動を行うために関係機関や団体で構成した「紀の川市オーガニックビレッジ準備会」を設立した。 補助金額 438,000円 会員数 10人(団体) 活動数 5回								
	③環境保全型農業グループ補助金											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律では、農業の有する多面的機能は国民に多くの恵沢をもたらすものであり、国、県、市が集中的かつ効果的に支援を行うこととされている。 ・法令に基づき、農業の持続的発展と多面的機能の発揮を図るために、環境保全に効果の高い営農活動に対して支援を行っている。 ・国施策の「みどりの食料システム戦略」に掲げる目標の達成に向けて、有機農業への転換に係る農家負担の低減を図るため本事業の積極的な活用を行う必要がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・本市ではまだまだ慣行栽培が主流で、リスクを伴う環境保全型農業に取り組む農業者が少ないことが現状であるが、農業の有する多面的機能の発揮を促進するためにも、積極的な事業周知を図っていく必要がある。 ・有機農業の推進を通じて農業に由来する環境負荷の低減を図るとともに、有機農業の普及の推進に努めていく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・事業の実施は、国の定める実施要綱、要領に基づき実施している。 ・負担割合についても要綱に基づき実施している。											

事務事業の概要	事務事業名	農業振興地域整備計画事業			担当課	農業振興課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	77	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	3 農業振興費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興				
事業概要	農地の無秩序な開発の防止や良好な営農環境の確保を図るために、農業振興地域内の農用地の変更申出の審査及び農用地利用計画の変更を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	農業振興地域整備促進協議会運営			⑤				⑨			
	②	農業振興地域整備計画管理			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	農用地区域変更件数	件	目標	0	0	0	0	0	土地所有者からの申し出が主であるため、年度毎でばらつきがある。		
				実績	58	25	51					
	<指標の計算方法>		農用地区域変更申出を精査し受付した件数の内、県同意を得て変更した件数									
	成果指標	農用地区域除外面積	a	目標						土地所有者からの申し出が主であるため、年度毎でばらつきがある。		
				実績	503	234	695					
	<指標の計算方法>		農用地区域からの変更で除外した農用地面積									
成果指標	農用地区域編入面積	a	目標						土地所有者からの申し出が主であるため、年度毎でばらつきがある。			
			実績	11	134							
<指標の計算方法>		農用地区域からの変更で編入した農用地面積										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,006			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①農業振興地域整備促進協議会運営 農業振興地域整備促進協議会 2回開催											
	②農業振興地域整備計画管理 計画変更回数 2回 農用地区域への編入 0件 0 a 農用地区域から除外 51件 695 a											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・本事業は、農業振興地域の整備に関する法律及び関連法令に基づく義務的事務であるため、市が実施主体となることは妥当である。 ・良好な農業環境を守りながら市民の農地転用のニーズに適正に応えるため、農地と農地以外の土地の合理的な利活用の調整を図る業務でもあり、継続する必要性が高い業務である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・宅地化が進んでいる地域では、年々、計画と現況との乖離が大きくなるため、農業振興地域整備計画の定期的な見直しが必要である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		・専門的な業務以外の事務処理を会計年度任用職員に置き換えるなどコスト削減の余地はある。										

事務事業の概要	事務事業名	有害獣被害防止対策事業			担当課	林務課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	798
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興			
		目	3 農業振興費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興			
事業概要	有害鳥獣による農作物被害を防止し、農家の経営安定と生産振興を図るため、紀の川市内の農地に設置する防護柵等の設置費用の一部に補助を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	有害獣被害防止対策事業補助金			⑤			⑨			
	②	農作物鳥獣被害対策アドバイザー育成			⑥			⑩			
	③	野生鳥獣による農作物の被害状況調査			⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	農作物鳥獣被害対策アドバイザー取得者数	人	目標	1	1	1	1	1	令和5年度も2名のアドバイザーを育成したことにより、農作物の被害軽減のための知識を習得し、職員も有害捕獲対応が可能となった。	
			実績	2	2	2					
	<指標の計算方法>		市職員の農作物鳥獣被害対策アドバイザー取得者数								
	活動指標	防護柵等設置面積(市単・県単)	ha	目標	50	50	50	50	20	豚熱発生によりイノシシの生息数が一時的に減ったと推測されるため設置面積が減少している。	
			実績	12.8	9.84	10.03					
	<指標の計算方法>		市補助及び県補助により防護柵等を設置した面積								
成果指標	有害獣による農作物被害額(イノシシ)	千円	目標	29,661	28,103	11,209	10,619	10,029	鳥獣被害防止計画の被害実績値を毎年5%減少を目標値と設定して猟友会協力のもとで相当数の捕獲を行っているが、依然として高い被害額で推移している。		
		実績	11,799	12,663	19,907						
<指標の計算方法>		野生鳥獣による農作物の被害状況調査票による									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額(単位:千円)			財源内訳							
	1,731			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,731	
事業の実績	①有害獣被害防止対策事業補助金(市単) 41件 10ha										
	②農作物鳥獣被害対策アドバイザー育成アドバイザー取得者数 2名										
	③野生鳥獣による農作物の被害状況調査 J A紀の里・和歌山県農業共済組合より被害状況聞き取り結果 イノシシによる農作物被害額 19,907千円										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		<ul style="list-style-type: none"> 有害鳥獣による農作物の被害軽減を図ることは、農業経営の安定化につながり長期総合計画の基本施策に適合している。 農作物の被害防止対策は、農業従事者の自主的な取組だけでは限界があり、行政や地域での一体となった取組が必要である。 									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
<ul style="list-style-type: none"> 農作物の被害状況は依然として高い数値となっているため、防護柵の有効性や補助事業を広報等で周知し、防止対策を推進していくことが必要である。 防護柵の設置は被害対策として有効であるため、農業従事者の生産意欲の低下につながらないよう継続していく必要がある。 											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	<ul style="list-style-type: none"> 地域一体で被害対策に取組むことで、より効果が向上することが見込まれる。 										

事務事業の概要	事務事業名	農業振興施設管理運営事業			担当課	農業振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	790
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興			
		目	4 農業施設費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興			
事業概要	農業振興施設が農業振興と住民の公共の福祉に寄与するために、施設管理を適切に行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	桃源郷学習体験館施設管理			⑤	西の池かんがい用水施設管理		⑨			
	②	農村改善センター施設管理			⑥			⑩			
	③	農村婦人の家施設管理			⑦			⑪			
	④	共同栽培施設管理			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	桃源郷学習体験館施設利用回数	目標	170	170	170	170	170	利用団体構成員の高齢化等により利用回数や利用者数は減少傾向にある。		
			実績	133	138	109					
	<指標の計算方法>		有料施設使用許可申請書受付枚数								
	成果指標	農村改善センター施設利用回数	目標	380	380	380	380	0	通年で決まった曜日に利用する団体と随時利用の団体があるが、利用回数については減少傾向にある。		
			実績	279	436	393					
	<指標の計算方法>		農村改善センター貸出予定及び実績報告書における施設利用回数								
	成果指標	農村婦人の家施設利用回数	目標	190	190	190	190	0	既存利用団体に加え新規の利用団体も増え、利用回数は増加傾向にあるが、生活研究グループのみそ作り以外のほとんどが集会所や公民館的利用となっている。		
			実績	125	128	211					
	<指標の計算方法>		農村婦人の家使用予定表における施設利用回数								
成果指標	桃源郷学習体験館一般来場者数	目標	1,900	1,900	1,900	1,900	1,900	施設(調理室等)の利用回数の減少により、来場者数も減少傾向にある。			
		実績	1,696	1,837	1,580						
<指標の計算方法>		桃源郷学習体験館一般来場者数による来場者数									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	49,548			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	42,919	6,629
事業の実績	①桃源郷学習体験館施設管理 施設利用回数 109回 一般来場者数 1,580名										
	②農村改善センター施設管理 施設利用回数 393回										
	③農村婦人の家施設管理 施設利用回数 211回										
	④共同栽培施設管理 養液栽培施設撤去工事等を実施した。										
	⑤西の池かんがい用水施設管理 電気設備の保安管理を委託した。										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地が大きい								
		・農村改善センターは粉河公民館長田分館と併設され、農村婦人の家は近隣に粉河公民館川原分館が存在する。利用実態は生涯学習及び生涯スポーツ活動が多いが、耐震性が無く老朽化が進んでいることもあり、統廃合の検討が必要である。 ・両施設とも地域住民には必要な集会所等の地域コミュニティ機能を有していることから、統廃合には自治区を含めた慎重な検討が必要である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
		・農村改善センターと農村婦人の家は、農業経営や生活の改善、農村在住者の健康増進と住民相互の親睦を図り、住みよい地域づくりを目的に設置されているが、建設当初と比べ農村における生活環境も大きく変化していることから、農業振興施設と位置づけた効果に疑問がある。									
効率性	評価結果	改善の余地が大きい									
	・農村改善センターと農村婦人の家は、耐震性が無く老朽化が進んでいることもあり、今後のあり方について検討を行っている。										

事務事業の概要	事務事業名	青洲の里管理運営事業			担当課	農業振興課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	972	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1	農業振興・産業振興			
		目	4 農業施設費				基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興			
事業概要	利用者に情報発信・休憩・地域交流をはじめとする各種サービス・機能の提供を行うために、青洲の里の施設管理及び広報活動を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	青洲の里施設管理			⑤				⑨			
	②	青洲の里管理運営委託			⑥				⑩			
	③	全国道の駅連絡会負担金			⑦				⑪			
	④	近畿道の駅連絡会負担金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	フラワーヒルミュージアム年間入場者数	人	目標	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	令和元年度の実績を上回った。(令和元年度：33,404人)		
			実績	24,853	31,779	35,514						
	<指標の計算方法>		青洲の里フラワーヒルミュージアムへの年間入場者数									
	成果指標	春林軒年間入場者数	人	目標	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	令和4年度の実績を若干下回ったが、令和元年度よりは多い。(令和元年度：7,441人)内訳として団体の入場者数は令和4年度の164%だったが、令和元年度の74%。		
			実績	7,645	8,579	8,286						
	<指標の計算方法>		春林軒・展示室の年間入場者数									
	成果指標	EV充電器利用回数	回	目標	1,380	1,380	1,380	1,380	1,380	利用ユーザー数は横ばい(令和4年度：216、令和5年度：217)だが、利用回数100回を超えるユーザー数は減少(令和4年度：2名、令和5年度：1名)した。		
			実績	1,373	1,309	971						
	<指標の計算方法>		青洲の里駐車場EVステーション利用回数									
活動指標	情報発信回数	回	目標	100	100	100	100	100	華岡青洲の顕彰事業、各種イベントなど情報発信が増えている。(Instagram：116回、X：21回)			
		実績	96	139	162							
<指標の計算方法>		青洲の里フェイスブック等更新回数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	24,889			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	663 24,226		
事業の実績	①青洲の里施設管理 ・修繕 青洲の里事務所電話機修繕 春林軒裏門壁塗替え 障害者駐車場屋根修繕 ・管理 EV急速充電機、Wi-Fi等			④近畿道の駅連絡会負担金 負担金 27,000円								
	②青洲の里管理運営委託 ・一般財団法人青洲の里と青洲の里の管理及び運営に関する協定を締結し、指定管理者による管理運営業務を実施した。 期間：令和3年4月1日～令和8年3月31日 ・紀の里農業協同組合と農産物直売所の管理及び運営に関する協定を締結し、指定管理者による管理運営業務を実施した。 期間：令和3年12月1日～令和8年3月31日											
	③全国道の駅連絡会負担金 負担金 20,000円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・農業振興と地域住民のコミュニティ活動及び市民と都市住民の交流等の拠点としての位置づけのもと、医聖華岡青洲の顕彰拠点であり、市が管理運営することは妥当である。 ・道の駅に登録された施設であることから、借地を購入することで継続的に公共の用に供することができる。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・指定管理者制度の導入により民間のノウハウや経営手腕が発揮されつつある状況である。 ・さらなる集客力を高める取組を実施していく必要がある。 ・春林軒及び展示室の活用について、関係機関と協議し、企画展示等を発案していく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・道の駅としての機能を確保し、施設の適正管理を図り、集客のための取組を一体として運営するため、指定管理者制度を導入している。 ・指定管理料は、指定管理者の自主事業収入の増加や経常的経費の低下などができれば縮減の余地がある。											

事務事業の概要	事務事業名	農業施設整備事業		担当課	農地整備課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	
	予算科目	款	6 農林業費	長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 農業費		施策目標	1	農業振興・産業振興			
		目	5 農地費		基本施策	2	均衡の取れた農村や農地の整備			
事業概要	農業従事者等が利用する農業用施設の長寿命化や農業基盤の整備充実を図るために、関連団体への補助金の交付や農道の維持管理を行う事業									
事務事業を構成する細事業	① 県土地改良事業団体連合会負担金		⑤ 冬期通水負担金		⑨					
	② 国営造成施設管理体制整備促進事業負担金		⑥ 農業用施設整備補助金		⑩					
	③ 県ため池保全整備連絡協議会負担金		⑦		⑪					
	④ 県棚田等保全連絡協議会負担金		⑧		⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	農業用施設整備補助金の補助件数	件	目標	46	50	50	50	50	年度途中の追加認定及び申請取り下げにより変動するが、令和5年度は計画予定箇所が6月災害で被災し災害復旧市単に切り替える施設もあった。
			実績	69	77	59				
	<指標の計算方法>		交付要綱に基づき補助金を交付した件数							
	成果指標	整備箇所全体延長【農道・水路】	m	目標	1,123	1,000	1,000	1,000	1,000	年度途中の追加認定及び申請取り下げにより変動した。
			実績	1,519	2,056	1,296				
	<指標の計算方法>		整備した農道、水路の延長							
	成果指標	整備箇所全体箇所【ため池・農業用施設】	箇所	目標	5	7	7	7	7	年度途中の追加認定及び申請取り下げにより変動した。
			実績	21	19	13				
	<指標の計算方法>		整備したため池、農業用施設の箇所数							
		目標								
		実績								
<指標の計算方法>										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
	42,347			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
			42,347							
事業の実績	① 県土地改良事業団体連合会負担金 ② 国営造成施設管理体制整備促進事業負担金 ③ 県ため池保全整備連絡協議会負担金 ④ 県棚田等保全連絡協議会負担金 ⑤ 冬期通水負担金 ・小田井土地改良区、荒見井土地改良区、藤崎井土地改良区、安楽川井土地改良区、貴志川土地改良区に冬季通水負担金を支出した。 ⑥ 農業用施設整備補助金 ・補助金交付件数 59件 整備実績 農道 20件 681m 水路 26件 615m ため池 6件 6箇所 施設 7件 7箇所									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
		・農業用施設を維持するにあたり、国・県の採択条件に満たない事業であり、施設の老朽化や豪雨により破損した箇所を早急に修繕したい旨の要望が多く、迅速に対応ができる事業である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない							
・緊急性が高い地元要望については、年度途中においても追加事業採択を行い早急に改修し、農産物の生産性・農業経営の安定が図られている。										
効率性	評価結果	改善の余地がない								
	・本事業は農業用施設補修等の工事に対し補助金を交付する事業であり、地元関係者の認知度は高く要望も多い。修繕箇所の早期解消に向けて、手順良く事業活用を進めている。									

事務事業の概要	事務事業名	農村公園管理事業			担当課	農地整備課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1085	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 農業費				政策目標	1	農業振興・産業振興			
		目	5 農地費				基本施策	2	均衡の取れた農村や農地の整備			
事業概要	市民の憩いの場として有効活用するために、農村公園の施設管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	農村公園等管理業務			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	現地確認回数	目標	24	24	24	24	24	各公園の点検を月2回行うことで、故障等不具合箇所の早期発見、早期対応することができた。			
			実績	24	24	24						
	<指標の計算方法>		現地確認回数									
	活動指標	修繕件数	目標						公園施設を安全かつ快適に利用できるように、トイレや円形ベンチなど3件修繕を行った。			
			実績	3	3	3						
	<指標の計算方法>		公園施設の修繕件数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	4,376			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		4,376	
事業の実績	①農村公園等管理業務 ○桜づつみ公園・北浦農村公園 場所：名手西野・北浦地内 業務内容：草刈(年2回) 消毒(年2回) トイレ清掃・施設清掃 修繕箇所： ・桜づつみ公園 多目的トイレ修繕 ○南中ふれあい公園 場所：南中地内 業務内容：草刈(年3回) 消毒(年2回) トイレ清掃・施設清掃 修繕箇所： ・南中ふれあい公園 円形ベンチ修繕 ○曾池ふれあい公園 場所：桃山町調月地内 業務内容：清掃・草刈・消毒											
	○はりま池公園 場所：貴志川町丸栖地内 修繕箇所： ・浄化槽ブロワー取替 工事請負 ○南中ふれあい公園 ・門扉取替工事 ○はりま池公園 ・遊具取替補修工事 すべり台・パネ遊具											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市が設置している公園施設であり、公園利用者に快適に利用してもらえるよう維持管理は必要である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・月2回の定期点検を目標として行うことにより、故障箇所の早期発見と早期対応することができ、安全かつ快適に利用することが出来る。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・はりま池公園の管理については、地元で管理しており、定期点検時に消耗品の補給と修繕を行っている。 ・北浦農村公園、桜づつみ公園、南中ふれあい公園の管理については、シルバー人材センターに委託しているため、公園での問題点が発生した場合には早急に対応している。 ・曾池ふれあい公園の維持管理については、清掃、草刈り、消毒作業を地元へ委託している。											

事務事業の概要	事務事業名	県営ため池等整備事業			担当課	農地整備課		事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	763
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 農業費				施策目標	1 防災・防犯			
		目	5 農地費				基本施策	3 災害に強いまちの形成			
事業概要	ため池下流の市民に対して地震、豪雨等の災害による被害を未然に防止出来るよう、県営工事により、ため池の改修を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	県土地改良事業団体連合会負担金			⑤			⑨			
	②	県営ため池等整備事業負担金			⑥			⑩			
	③				⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	年度毎事業実施地区数	地区	目標	7	13	11	15	全面改修工事11箇所、また早期着手するため測量設計1箇所を追加し、令和5年度は12箇所を実施した。県の動向に合わせて進めているため、令和7年度の目標設定を行わない。		
			実績	14	16	12					
	<指標の計算方法>		測量設計及び改修工事を実施した地区数								
	成果指標	年度毎改修工事完了地区数	地区	目標	1	4	4	7	令和5年度については、改修工事完了地区は野上大池・三ツ池下池2箇所実施した。県の動向に合わせて進めているため、令和7年度の目標設定を行わない。		
			実績		1	2					
	<指標の計算方法>		改修工事が完了した地区数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	84,202			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	5,709	
事業の実績	①県土地改良事業団体連合会負担金 ・事業費に応じた負担金を支出した。 改修ため池 12箇所			・地獄谷池（貴志川町西山） 仮設工・取水施設		一式					
	②県営ため池等整備事業負担金 ◎全面改修工事 ・熊ノ倉池（貴志川町国主） 堤体工・取水施設・仮設道路 一式			・滝谷池（貴志川町北山） 堤体工・洪水吐工 一式		一式					
	・上広野池（赤尾） 堤体工・洪水吐工 一式			・髭谷池（貴志川町高尾） 仮設工・取水施設 一式		一式					
	・上新池（麻生津中） 堤体工 一式			◎測量設計業務 (全面改修)							
	・知谷池（北勢田） 仮設工・取水施設 一式			・月差池（馬宿） 仮設工・取水施設 一式		一式					
	・あさお池（東三谷） 仮設工・取水施設 一式			・名手下池（名手下） 測量設計 一式							
	・竹の池（北長田） 仮設工・取水施設 一式										
	・山田池（切畑） 仮設工・取水施設 一式										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・近年多発する集中豪雨や近い将来発生が懸念されている大地震によるため池の決壊を防止する目的として、ため池の各施設の改修や防災対策等のハード事業としては効果的である。 ・令和2年度より防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法に基づき防災工事を受益面積5ha以上、貯水量1,000m ³ 以上のため池について県営事業で実施している。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・本事業は県営事業であり、県の各種事業計画で定められた計画に基づいて実施している。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・ため池の改修及び防災対策事業の中で受益者及び市の負担が最も軽減できる事業であり、事業効果も大きいことから現状で妥当と考える。県主体で事業を行っており、地元調整についても県・市が連携しながら効果的に行っている。										

事務事業の概要	事務事業名	県営農業競争力強化基盤整備事業（尼寺地区）			担当課	農地整備課		事業区分	ハード事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度（H30～R8）		事業番号	1011		
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1	農業振興・産業振興				
		目	5 農地費				基本施策	2	均衡の取れた農村や農地の整備				
取組方針				1	農業生産基盤整備の推進								
事業概要	農業従事者等が農業競争力の強化を図れるように、県営工事で尼寺地区のほ場整備や農道整備を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	県土地改良事業団体連合会負担金			⑤				⑨				
	②	県営農業競争力強化基盤整備事業負担金			⑥				⑩				
	③				⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	事業進捗率	%	目標	45	52.2	58.5	77.4		事業の早期完了に向け、国の補正予算の活用や地元委員会と事業量の調整を図った結果、目標値を達成することが出来た。県の動向に合わせて進めているため、令和7年度の目標設定を行わない。			
				実績	46.7	52.5	68.8						
	<指標の計算方法>		実施事業費÷全体事業費×100										
		目標											
		実績											
	<指標の計算方法>												
		目標											
		実績											
	<指標の計算方法>												
	目標												
	実績												
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 5年度決算額 （単位：千円）			財源内訳									
	41,937			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
					19,600		20,625	1,712					
事業の実績	①県土地改良事業団体連合会負担金 ・事業費に応じて負担金を支出した。												
	②県営農業競争力強化基盤整備事業負担金 ・ほ場整備工 17.4ha												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・本地区は、まとまりのある未整備農地を区画整理して、農業経営の担い手への農地利用集積を図ることで地域農業の安定を目指すものであり、農業者の営農作業効率を高めることで生産性向上を目指すことを目的とした事業である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・長期間継続していく事業であり、事業計画による事業効果発現の面からも早急に事業を完了することが有効な効果を生むため、現状を維持し事業を進めることが必要である。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・本事業については県営事業であり、県と市が連携をとりながら調整することにより、事業の進捗率向上が図られている。												

事務事業の概要	事務事業名	国営総合農地防災事業			担当課	農地整備課		事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (H26 ~ R10)	事業番号	905	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 農業費				施策目標	1 防災・防犯			
		目	5 農地費				基本施策	3 災害に強いまちの形成			
事業概要	市民が農業地域の湛水被害から安全が確保されるように、国営事業により湛水被害の軽減を図る事業										
事務事業を構成する細事業	①	水路清掃委託料			⑤				⑨		
	②	県土地改良事業団体連合会負担金			⑥				⑩		
	③	国営総合農地防災事業負担金			⑦				⑪		
	④	国営総合農地防災関連事業（県営）負担金			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	年度事業実施箇所数	箇所	目標	3	2	1	1	1	事業計画を基に改修工事に着手し、県営事業（丸栖北地区）排水機場が順調に進んでいる。	
				実績	3	2	1				
		<指標の計算方法>		測量設計及び改修工事実施数							
			目標								
			実績								
		<指標の計算方法>									
			目標								
			実績								
		<指標の計算方法>									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	91,607			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,607	
事業の実績	①水路清掃委託料 ・岡田排水路清掃業務委託 排水路内土砂等清掃 1.8m ³										
	②県土地改良事業団体連合会負担金 事業費に応じた負担金を支出した。										
	③国営総合農地防災事業負担金 事業費に応じた負担金を支出した。										
	④国営総合農地防災関連事業（県営）負担金 ・県営丸栖北地区 排水路工 L=201.1m 県道改修 L=191.0m 排水ポンプ 2台										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・国主体の防災事業及び関連県営事業であり、近年頻発する豪雨による湛水被害の軽減を目的とした事業であるため必要である。また、県営附帯事業として丸栖北地区排水機場事業についても湛水被害の軽減を図るため、国営・県営事業に対して負担金の支出が必要。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
		・本事業は国営・県営事業であり、国・県の計画事業で定められた計画に基づき実施されている。現在の進捗も計画どおり進んでいる。									
効率性	評価結果	改善の余地がない									
		・国・県の防災対策事業で市の負担が少なくなる事業であり、国・県の同時施工により事業効果が大きく影響する。									

事務事業の概要	事務事業名		多面的機能支払交付金事業			担当課		農地整備課		事業区分	ソフト事業	
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	770
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1	農業振興・産業振興			
		目	5 農地費				基本施策	2	均衡の取れた農村や農地の整備			
事業概要		農業従事者等が農業・農村が有する多面的機能を適切に維持・発揮できるように、対象地域の各活動組織に対して交付金の交付を行い、地域の共同活動の支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	多面的機能支払推進事業			⑤			⑨			
		②	多面的機能支払交付金事業			⑥			⑩			
		③				⑦			⑪			
		④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	事業認定面積	目標	188,000	188,000	188,800	188,800	188,800	3組織が活動を始めたことにより、認定面積が増加している。			
			実績	188,061	188,794	196,222						
	<指標の計算方法>		事業認定面積の実績（農地維持支払）									
	活動指標	活動組織数	目標	55	56	56	56	56	再認定組織1組織、新規組織3組織が活動を始めた。			
			実績	56	55	58						
<指標の計算方法>		活動組織数										
活動指標	個別説明会、個別相談の開催回数	目標	5	5	5	5	5	再認定を行う予定であった32組織へ制度の説明及び再認定の手続きについて説明を行った。事業の周知のおかげで、新規に活動を検討している組織へ事業の説明を行うことが出来た。また、新規活動組織に対し事務説明も行った。今後も事業への周知に取り組んでいく必要がある。				
		実績	6	7	6							
<指標の計算方法>		個別説明会、個別相談の開催回数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)		財源内訳									
	115,541		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	30,132			
事業の実績	①多面的機能支払推進事業 ・活動内容の指導 58組織 ・現地確認の実施 58組織 R5年度【再認定1、新規組織3】											
	②多面的機能支払交付金事業 活動内容 組織数 認定面積 ・農地維持支払 58組織 196,222a ・資源向上支払 (共同活動) 53組織 184,054a ・資源向上支払 (長寿命化) 53組織 185,844a											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・法制化された国の事業であり、地域の農業用施設の草刈りや泥上げ改修等に交付金を交付するもので、地域の環境保全活動に対して市が支援することは必要である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・農業用施設の維持管理や補修更新、花の植栽などの景観活動が地域で行われており、有意義な事業となっている。また、地域住民の参加による一体感や農業者と非農業者とのコミュニケーションの機会が増加するなど、地域の結びつきも強くなっている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・国からの要綱・要領に基づいて事業を行っているので、事業費の削減の余地はない。 ・活動組織の事務処理能力を向上させることで、提出された書類の審査などの時間は削減できる。											

事務事業の概要	事務事業名	中山間地域等直接支払事業			担当課	農地整備課		事業区分	ソフト事業																													
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	73																											
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流																														
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興																														
		目	5 農地費				基本施策	2 均衡の取れた農村や農地の整備																														
事業概要	中山間地域の協定者が農業生産活動の促進を図るために、交付金の交付を行う事業																																					
事務事業を構成する細事業	①	中山間地域等直接支払推進事業			⑤				⑨																													
	②	中山間地域等直接支払交付金			⑥				⑩																													
	③				⑦				⑪																													
	④				⑧				⑫																													
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析																												
	成果指標	協定面積	a	目標	40,922	41,832	42,095	42,109			集落協定に参加者の増員と面積の拡大を呼びかけたことにより、協定面積は微増となった。																											
				実績	41,832	42,095	42,109																															
	<指標の計算方法>		制度の対象農用地の合計面積																																			
	活動指標	協定件数	件	目標	43	43	44	44			令和6年度が5期対策の最終年度になるため、協定数を維持できるように推進が必要である。																											
				実績	43	44	44																															
<指標の計算方法>		中山間地域の農用地を維持・管理していくための協定を締結している集落数																																				
活動指標	協定参加人数	人	目標	527	529	532	528			集落協定拡充を推進したものの、協定参加者の高齢化が進んでおり、参加者の死亡、病气怪我により農地管理が難しくなり、参加者が減少した。																												
			実績	529	532	528																																
<指標の計算方法>		5年間農業生産活動等を継続する農業者の合計数																																				
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳																																		
	55,901			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	14,765																												
事業の実績	①中山間地域等直接支払推進事業																																					
	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容の指導 44件 現地確認の実績 44件 																																					
事業の実績	②中山間地域等直接支払交付金																																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>地区名</th> <th>協定数</th> <th>参加人数</th> <th>協定面積</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>打田</td> <td>3件</td> <td>21人</td> <td>1,461a</td> </tr> <tr> <td>粉河</td> <td>29件</td> <td>332人</td> <td>23,385a</td> </tr> <tr> <td>那賀</td> <td>8件</td> <td>161人</td> <td>15,528a</td> </tr> <tr> <td>桃山</td> <td>2件</td> <td>9人</td> <td>1,277a</td> </tr> <tr> <td>貴志川</td> <td>2件</td> <td>5人</td> <td>458a</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>44件</td> <td>528人</td> <td>42,109a</td> </tr> </tbody> </table>											地区名	協定数	参加人数	協定面積	打田	3件	21人	1,461a	粉河	29件	332人	23,385a	那賀	8件	161人	15,528a	桃山	2件	9人	1,277a	貴志川	2件	5人	458a	合計	44件	528人
地区名	協定数	参加人数	協定面積																																			
打田	3件	21人	1,461a																																			
粉河	29件	332人	23,385a																																			
那賀	8件	161人	15,528a																																			
桃山	2件	9人	1,277a																																			
貴志川	2件	5人	458a																																			
合計	44件	528人	42,109a																																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない																																			
	有効性	評価結果	改善の余地がない																																			
		<ul style="list-style-type: none"> 国の要綱・要領において、市の役割が位置づけられているため、事務事業のやり方や進め方の見直しが出来ない。 協定期間である5年間は、新たな耕作放棄地の発生防止に繋がっている。 																																				
効率性	評価結果	改善の余地がない																																				
<ul style="list-style-type: none"> 国の要領において、対象農用地の条件により面積あたりの支払い額が定められており、事業費の削減の余地がない。 																																						

事務事業の概要	事務事業名	農業水路等長寿命化・防災減災事業			担当課	農地整備課			事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	1111		
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心					
		項	1 農業費				施策目標	1	防災・防犯					
		目	5 農地費				基本施策	3	災害に強いまちの形成					
事業概要	農業活動の基盤となる農業水利施設の長寿命化及び防災減災対策を推進する事業													
事務事業を構成する細事業	①	ため池廃止事業			⑤					⑨				
	②	農業用ため池管理システム事業			⑥					⑩				
	③	県土地改良事業団体連合会負担金			⑦					⑪				
	④				⑧					⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析				
	活動指標	ため池廃止数	箇所	目標	2	2	2	2	2	びわの池・箕谷池の廃止工事を完了した。				
				実績	2	2	2							
	<指標の計算方法>		不用なため池の廃止件数											
	成果指標	ため池管理システム設置箇所数	箇所	目標	0	0	1	0	0			管理システム設置に向けて地元調整を行い完了した。		
				実績	0	0	1							
	<指標の計算方法>		農業用ため池で管理システムを設置したため池数											
			目標											
			実績											
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
54,774				54,500				183	91					
事業の実績	①ため池廃止事業													
	委託料 荒見下池・上池（荒見） 横谷大池（横谷） 蛭池（貴志川町岸小野）													
	【R4繰越明許】 工事請負費 2箇所 びわの池（下鞆淵） 箕谷池（桃山町最上）													
②農業用ため池管理システム事業 1箇所 上の池（北長田）														
③県土地改良事業団体連合会負担金 事業費に応じて負担金を支出した。														
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・利用していない農業用ため池について廃止を行い少しでも災害リスクを少なくする。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
・農家戸数の減少に伴い利用していない農業用ため池については増加傾向にあり、このようなため池の貯水機能を廃止することにより下流域の浸水被害が軽減されることから必要である。														
効率性	評価結果	改善の余地がない												
	・測量設計時において、現地特性・設計書籍に沿った内容で実施し、効果的な事業の実施に努めている。													

事務事業の概要	事務事業名	防災重点農業用ため池緊急整備事業			担当課	農地整備課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1160
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 農業費				施策目標	1 防災・防犯			
		目	5 農地費				基本施策	3 災害に強いまちの形成			
事業概要	防災重点農業用ため池について、堤体や洪水吐、樋管などの劣化状況評価及び豪雨耐性評価をするとともに、防災工事が必要と判断したため池について推進計画を策定し、整備を推進する事業										
事務事業を構成する細事業	①	調査業務	⑤					⑨			
	②	測量設計委託	⑥					⑩			
	③	工事請負費	⑦					⑪			
	④	県土地改良事業団体連合会負担金	⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	劣化状況評価等の実施ため池数	箇所	目標	60	60	32	199	防災重点農業用ため池の構造・水利機能等の低下状況を把握し、防災工事の必要性を判断するための評価を31箇所実施した。令和6年度が事業の区切りの年になるため、令和7年度は目標値を設定しない。		
			実績		84	84	31				
	<指標の計算方法>		調査を実施したため池数								
	成果指標	ため池改修計画策定箇所数	箇所	目標	5	13	11	1	ため池10箇所について、事業計画書を作成した。要望していた補助金が付かなかった為、1箇所減となる。県の動向に合わせて実施するため、令和7年度からは目標値を設定しない。		
			実績		5	14	10				
	<指標の計算方法>		ため池改修計画書を作成した箇所数								
成果指標	ため池管理システム設置箇所数	箇所	目標	1	1	0	0	0	令和5年度は設置を予定していなかったため、実績は0件である。		
		実績		1	1	0					
<指標の計算方法>		防災重点農業用ため池で管理システムを設置したため池数									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	91,187			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1	
事業の実績	①調査業務 ため池評価調査 紀の川市全域 31箇所			霧谷池 [貴志川町岸宮] 尼寺皿池 [貴志川町尼寺] 一字池 [貴志川町西山] 籠池 [貴志川町長山]							
	【令和4年度繰越明許】 紀の川市全域 15箇所 【令和5年度】 紀の川市全域 16箇所			③工事請負費 当該年度は工事がなかった。	④県土地改良事業団体連合会負担金 負担金の支出なし。						
事業の実績	②測量設計委託 ため池整備計画策定										
	【令和4年度繰越明許】 10池 小田ノ池 [古和田] 柏原池 [西大井] 高井谷池 [藤井] 半像池 [江川中] 平野上池 [平野] 宮ノ池 [貴志川町岸宮]										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・ため池改修計画を進めるために、ため池の現状を評価し、効果的・効率的な防災減災対策を計画するための重要な基礎資料であるため必要。 ・ため池の改修事業の基礎となる事業計画策定を推進することで災害リスクを軽減する。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・評価内容を基に、今後の改修事業の優先順位を検討出来ることから必要である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・市民の安全・安心を確保していく上でため池の現状を知ることが重要であり、調査過程において管理者の方々に施設の聞き取りを行うことで、日常の維持管理の啓発にも繋がっている。 ・測量設計時において、現地特性・設計書籍に沿った内容で実施し、積算時においてもコスト比較を行い安価で効果的な事業の実施に努めている。										

事務事業の概要	事務事業名	小規模土地改良事業			担当課	農地整備課		事業区分	ハード事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	80		
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流					
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興					
		目	5 農地費				基本施策	2 均衡の取れた農村や農地の整備					
事業概要	農業従事者等の営農労力の軽減を図り農業経営を改善するために、地域の実情に即した生産基盤の整備を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	改良工事			⑤				⑨				
	②				⑥				⑩				
	③				⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	改良地区数	箇所	目標	3	3	3			国の採択要件に満たない改良等の事業について、地元から要望を受け施工した。地元からの要望に基づき実施するため、令和6年度からは目標値を設定しない。			
				実績	3	3	3						
	<指標の計算方法>		実施箇所										
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	27,492			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
				7,181	13,300		5,498	1,513					
事業の実績	①改良工事 ・下丹生谷農道舗装工事(下丹生谷) 舗装工 L=1,609m ・杉原水路改良工事(杉原) 水路工 L= 20m ・上田井農道測量設計業務(上田井) 農道工 L= 142m												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
			・国の採択要件に満たない事業であり、県からの補助金を受けることで地元負担の軽減を図り、農業施設の改修を行うことが出来ている。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
		・事業を進める上で既存施設の改修については、地元要望に沿った柔軟で適切な計画が検討でき、また、早期着手による効果が発揮できることから事業を実施することが必要である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない											
		・地元要望事業であり、県費補助を活用することで地元負担の軽減も図り、また、早期事業に取り掛かれることが可能なため、緊急的な事業については効率的に解消することが出来ている。											

事務事業の概要	事務事業名		緑化推進事業		担当課		林務課		事業区分		ソフト事業			
	会計		一般会計		新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し			
	予算科目	款	6 農林業費		長期総合計画体系		政策目標		4 都市基盤・生活環境		事業番号		741	
			2 林業費				施策目標		3 自然環境					
1 林業総務費		基本施策		1 豊かな自然環境の保全										
		取組方針		1 森林環境の保全										
事業概要		市民が緑ある環境づくりを進めることができるように、緑の募金等を通じて、緑化の推進を行う事業												
事務事業を構成する細事業		① 緑化推進（緑の募金）		⑤ キノピー教室		⑨								
		② 紀の国ふるさとづくり協議会負担金		⑥		⑩								
		③ 企業の森		⑦		⑪								
		④ 市町村民の森		⑧		⑫								
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析					
	成果指標	緑の募金額	千円	目標	1,800	1,700	1,700	1,700	1,700	少子高齢化や地域のつながりが希薄になっていることに加え、募金に協力していただける家庭が減少してきているため目標は達成できていないが、県内2番目の募金額で協力いただいている。				
			実績	1,696	1,655	1,643								
	<指標の計算方法>		自治会等よりの募金額											
	活動指標	キノピー教室実施回数	回	目標	17	17	17	17	17	目標を達成できていないが新型コロナウイルス感染症緩和に伴い4年ぶりに開催できた。				
			実績	0	0	14								
	<指標の計算方法>		保育所でのキノピー教室の実施回数											
	成果指標	企業の森協定件数	件	目標	1	1	1	1	1	企業単位のレクリエーションより個人の時間が優先される昨今の情勢もあり現状に至っている。				
			実績	0	0	0								
	<指標の計算方法>		協定件数											
成果指標	緑の募金活用事業数	件	目標	1	1	1	1	1	1団体ではあるが、令和4年度関心を示してくれていた団体が実施したので緑化の広域な景観が期待されることになった。					
		実績	0	1	1									
<指標の計算方法>		事業件数												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	103			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	103				
事業の実績	①緑化推進（緑の募金） ・緑の募金（家庭募金）を実施した。 ・緑の募金活用事業として、龍王財産区が龍王神社および林道重谷線沿いで紅葉植林事業を実施し、植林を行った。													
	②紀の国ふるさとづくり協議会負担金 ・山村の役割・魅力を普及・啓発するため、和歌山県内の市町村及び和歌山県で構成された協議会に負担金を支出し、運営に参画した。													
	③企業の森 ・「切畑・津田工業の森」について、津田工業株式会社が森林保全活動を行った。													
	④市町村民の森 ・和歌山県で開催された第62回全国植樹祭において植樹した田中財産区有林内の植栽地について、看板の撤去を行い、活動を終了した。													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・豊かな自然環境を保全し次世代につなげていくため市民と行政が一体となって取組む必要があり、長期総合計画の基本施策とも合致している。												
	有効性	評価結果	改善の余地がややある											
・緑化推進は緑の募金事業を活用して、自治区や団体等の自主活動が主な推進事業となっている。効果を向上させる観点からは、緑の募金事業の活用の啓発を図っていくことが考えられる。														
効率性	評価結果	改善の余地がない												
	・当該事業に要する事業費は、事務費や負担金などの少額であることから、これ以上の削減の余地はないものとする。 ・職員の業務量（人件費）についても、当該事業の執行にかかる最低限度の業務量であることから、現時点で効率性を改善する余地はないものとする。													

事務事業の概要	事務事業名	林業対策事業			担当課	林務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	734	
	予算科目	款	6	農林業費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	2	林業費		施策目標	3	自然環境				
目	2	林業振興費	基本施策	1		豊かな自然環境の保全						
事業概要	市民、森林所有者、林業従事者が林業の活性化による森林の健全化や森林の多面的機能の維持を図れるように、森林の適切な整備・管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 森林病虫害防除委託			⑤ 間伐材流通支援補助金			⑨ 和歌山県森林クラウドシステム運用負担金					
	② 林業労働力確保支援センター負担金			⑥ 森林保全対策			⑩ ハイランドパーク粉河イベント補助金					
	③ 山村振興対策協議会負担金			⑦ 森林台帳整備・管理			⑪					
	④ 葛城高原まつり補助金			⑧ 林業担い手社会保障制度等充実対策事業補助金			⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	防除面積	ha	目標	121	121	121	121	121	面積及び伐採材積は、県知事命令により指示されているので、増減はない。		
			実績	121	121	121	121	121				
	<指標の計算方法>		松くい虫の防除面積									
	活動指標	伐倒材積	m ³	目標	50	50	50	50	50	県の予算により増減するが、令和5年度においては増額となったことから駆除材積が増加した。		
			実績	50	15	26						
<指標の計算方法>		松くい虫の伐倒駆除材積										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	15,933			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			9,529			1,158		5,246				
事業の実績	① 森林病虫害防除委託			様、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により神事のみ執り行ったため、龍王財産区と実行委員会への補助金の交付はなかった。				守を行った。				
	・鎌垣・龍王両財産区有林内の松林の松枯れを防止するため、松くい虫の防除作業を実施した。			⑤ 間伐材流通支援補助金				⑧ 林業担い手社会保障制度等充実対策事業補助金				
	特別防除 116 ha 地上散布 5 ha 伐倒駆除 26m ³			・紀の川市産間伐材の販売量を向上させ、間伐を促進することにより山林の荒廃を解消し、地球温暖化防止及び災害防止を図ることを目的に補助金を交付した。 搬出材積 2,305m ³ (2団体の計)				・林業事業者の体質強化を図り、林業労働者の社会保障の充実を促進し、労働力の確保のため、事業主が負担しなければならない社会保険料等に補助金を交付した。				
	② 林業労働力確保支援センター負担金			⑥ 森林保全対策				⑨ 和歌山県森林クラウドシステム運用負担金				
・林業労働者の安定した雇用の促進と林業の健全な発展のため、負担金を支出し運営に参画した。			・森林法に定められている次の届出を受け、県に提出した。 伐採関係：29件 所有者届出関係：49件				・県内の森林管理や事務手続きの簡素化等のため構築されたシステムで、その利活用や運用のために負担金を支出した。					
③ 山村振興対策協議会負担金			⑦ 森林台帳整備・管理				⑩ ハイランドパーク粉河イベント補助金					
・山村のあり方と安全で快適な生活基盤を形成するため、協議会に負担金を支出し運営に参画した。			・財産区物件管理及び収納管理システムの保				・森林に親しみを持ち、コミュニケーションの活性化につなげるためイベントを実施し実行委員会に補助金を交付した。					
④ 葛城高原まつり補助金			・和泉葛城山の山開きについては、昨年と同									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・林業経営体の所得向上を促し、担い手確保を図ることは、自然環境を保全し森林の持つ水源の涵養、土砂災害防止等の多目的機能の発揮に繋がることから、市が関与することの妥当性は大きいといえる。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・林業労働者の社会保障の充実や木材利用の啓発等、担い手の育成、確保に努めているが、長引く木材価格の低迷等の林業環境を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあり、顕著な効果は現れていない。 ・森林病虫害防除による森林環境の維持や間伐の促進対策など、森林の維持管理に繋がる取組みは荒廃を防止する効果が見込まれる。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・森林環境の維持や間伐の促進対策などによって、林業の産業成長化や森林の適正な維持管理、木材利用の普及が見込まれる。											

事務事業の概要	事務事業名	森林経営管理事業			担当課	林務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1126	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2 林業費				施策目標	3	自然環境			
		目	2 林業振興費				基本施策	1	豊かな自然環境の保全			
事業概要	経営管理が行われていない森林について、市が所有者の委託を受け経営管理したり、意欲と能力のある林業経営者に再委託することにより、森林管理の適正化を促進する事業											
事務事業を構成する細事業	①	意向調査業務			⑤	境界等測量業務			⑨			
	②	経営管理集積計画の作成			⑥				⑩			
	③	経営管理伐採業務			⑦				⑪			
	④	経営管理実施配分計画の作成			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	森林経営管理意向調査面積	ha	目標	402.44	100	100	100	100	令和5年度は、調査後の業務を円滑に進めるため、個人所有の山林を対象に桃山38林班の意向調査を行った。6年度は引き続き桃山36林班の意向調査を行う。		
			実績	61.84	65.59	55.7						
	<指標の計算方法>		意向調査を行った人工林の面積合計									
	成果指標	森林経営管理権集積計画面積	ha	目標	15.73	35	35	35	35	令和4年度の意向調査を行った地域は、財産区所有地で貸与している区画を確認した上で、集積計画を策定する必要があるため、対象区域の集積計画策定には数年を要するものと思われる。		
			実績	4.78	43.03	6.96						
	<指標の計算方法>		経営管理権集積計画を公告・縦覧した面積									
成果指標	森林経営管理事業伐採面積	ha	目標	22.22	50	50	35	35	集積計画が設定された山林については、順次間伐を行っている。集積計画に基づき、間伐後の管理も課題である。			
		実績	5.73	9.75	13.12							
<指標の計算方法>		経営管理権集積計画に則り間伐等を実施した面積										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	10,455			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		10,455	
事業の実績	①意向調査業務 調査実施面積：55.70ha 調査実施者：54名(105件) 回答率：68.57%(内、市に経営管理を委託することを検討すると回答した割合：70.83%)			間伐対象31.08haのうち 除地測量1.99haとプロット調査								
	②経営管理集積計画の作成 計画作成面積：6.96ha 計画作成件数：8件											
	③経営管理伐採業務 実施面積：13.12ha											
	④経営管理実施配分計画の作成 計画対象面積：0ha 作成面積：0ha											
	⑤境界等測量業務											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・実施主体は市町村と定められており、森林経営管理法において制度概要が制定されている。県内自治体の状況を見つつ、県の指導を仰ぎながら事業を進めていく必要がある。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・法に定められたとおりに実施しなければならないが、山林所有者が誰か分からないなどの問題があり、進捗については、遅れている。										
効率性	評価結果	改善の余地がない										
		・令和5年度から会計年度任用職員を活用し、業務を進めている。所有者調査のための登記簿謄本の取得や相続人の追跡など、外部に委託できない事務が多く、現状の進め方が最善と考えている。										

事務事業の概要	事務事業名	有害鳥獣捕獲対策事業			担当課	林務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	737	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2 林業費				施策目標	3	自然環境			
		目	2 林業振興費				基本施策	1	豊かな自然環境の保全			
取組方針	2			有害鳥獣の捕獲対策								
事業概要	農業従事者等の農作物被害の軽減を図るために、猟友会等と有害鳥獣対策を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	鳥獣被害防止対策協議会運営			⑤				⑨			
	②	鳥獣被害対策実施隊運営			⑥				⑩			
	③	有害鳥獣捕獲事業等補助金			⑦				⑪			
	④	猟友会補助金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	実施隊捕獲出動回数	目標	15	15	15	15	20	紀の川市鳥獣被害対策実施隊の協力のもと目標を達成することができた。			
			実績	21	25	37						
	<指標の計算方法>		実施隊が捕獲活動に出動した回数									
	活動指標	有害鳥獣捕獲数	目標	1,500	1,650	1,800	1,800	1,800	目標に達成していないが、令和2年度に豚熱が発生したことでイノシシの生息数が一時的に減少したことが原因だと考えられる。また、シカ及びカラスについては、過去5年間で最大の捕獲数となった。			
			実績	793	1,176	1,396						
	<指標の計算方法>		年間の有害鳥獣（イノシシ・シカ・カラス・アライグマ）の捕獲頭（羽）数									
活動指標	狩猟免許取得者の補助人数	目標	20	20	20	20	20	目標を達成していないが、農業被害への関心から免許取得者が一定数維持している傾向にある。				
		実績	7	12	15							
<指標の計算方法>		補助金申請者数										
成果指標	有害獣による農作物被害額（イノシシ）	目標	29,661	28,013	11,209	10,619	10,029	鳥獣被害防止計画の被害実績値を毎年5%減らすため、目標値を設定して相当数の捕獲を行っているが、依然として高い被害額で推移している。				
		実績	11,799	12,663	19,907							
<指標の計算方法>		野生鳥獣による農作物の被害状況調査票による										
コストの実績	R 5年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
	17,942			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	9,391		
事業の実績	①鳥獣被害防止対策協議会運営 協議会総会 1回											
	②鳥獣被害対策実施隊運営 捕獲活動 37回											
	③有害鳥獣捕獲事業等補助金 イノシシ 359頭 シカ 211頭 アライグマ 502頭 カラス 324羽											
	④猟友会補助金 ・市内6分会で構成される猟友会の団体活動支援として補助金を交付した。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・有害鳥獣の捕獲対策を実施し、農作物の被害を軽減することにより、農業経営の安定化を図るものであり長期総合計画の基本施策に貢献するものである。 ・近年では、民家付近へのイノシシの出没が増加しており、市民生活の安全・安心のため市が積極的に関与する必要がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・有害鳥獣捕獲や実施隊での捕獲を実施し、相当数（豚熱の影響でイノシシの捕獲数は減っている。）の捕獲を行っているが、農作物被害額には顕著に現れていない状況である。 ・捕獲従事者の増加を図るため、引き続き狩猟免許取得支援を実施するとともに、狩猟免許の取得者に対して狩猟登録を継続してもらう対策を併せて実施していく必要がある。 ・さらなる成果を向上させるためには、実施隊の活動回数の増加が必要である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・事業を実施するには猟友会との連携・協力が不可欠な事業であり、今後も猟友会の協力を得て進めていく。 ・今後、国、県と連携できる事業等を模索していく必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	森林公園管理運営事業			担当課	林務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	729	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2 林業費				施策目標	3	自然環境			
		目	3 林業施設費				基本施策	1	豊かな自然環境の保全			
事業概要	市民、観光客が自然環境を保護し、自然公園等を安全に利用できるようにするために、管理・清掃を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	葛城山公衆トイレ施設管理			⑤	和泉葛城山保全活用対策協議会負担金		⑨				
	②	龍門山ハイキングコース施設管理			⑥	自然公園管理		⑩				
	③	ハイランドパーク粉河管理運営委託			⑦			⑪				
	④	葛城高原環境保全委託			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	ハイランドパーク粉河年間利用者数	人	目標	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	6月の線状降水帯による水害でアクセス道の通行止めになっている期間があったことや、土日祝日の行楽日和に雨等の天候不良により来場者が減少した。また、新型コロナウイルスが5類に移行され、余暇の過ごし方が都市部へ戻ったことも要因であると思われる。		
				実績	16,550	16,436	13,323					
	<指標の計算方法>		ハイランドパーク粉河における年間の利用者数									
	成果指標	葛城高原環境保全活動日数	日	目標	50	50	50	50	50	新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたため通常の作業回数を実施できるようになった。		
				実績	55	52	62					
	<指標の計算方法>		中尾町内会に委託している葛城高原環境保全活動が年間に実施された日数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	16,948			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
					8,300		603	8,045				
事業の実績	①葛城山公衆トイレ施設管理			等の清掃管理を実施した。								
	②龍門山ハイキングコース施設管理 ・和海紀森林組合に委託し、龍門山頂周辺及びハイキングコースの雑草除去を実施した。			・林道重谷線 (L=3,365m W=4.0m) の維持管理を実施した。								
③ハイランドパーク粉河管理運営委託 ・鎌垣財産区にハイランドパーク粉河の管理運営を委託した。 ・管理運営委託施設管理棟、展望台、イベント広場、野外ステージ、トイレ、キャンプ場、バーベキュー場、遊歩道、遊具 ・年間利用者数 13,323人			⑤和泉葛城山保全活用対策協議会負担金 ・国の天然記念物であるブナ林及びその周辺の豊かな自然環境を保護・保全するため、和泉葛城山を管轄する府・県・市で構成された協議会に負担金を支出した。									
④葛城高原環境保全委託 ・中尾町内会に委託し、葛城山周辺施設の環境保全(清掃)を実施した。 ・葛城山頂周辺、公衆便所、駐車場、展望台			⑥自然公園管理 ・自然保護監視員として、所管する地域の県自然環境保全地域(金剛生駒紀泉国定公園、龍門山県立自然公園)を巡視等により状況把握に努めた。									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・葛城山、龍門山はそれぞれ国定公園、県立自然公園の指定地となっており、自然環境保全の観点から市が関与することは妥当であるといえる。 ・ハイランドパーク粉河は、森林に関する知識の普及及び自然保護の意識高揚を図ることを主な目的として設置している施設であり、その維持管理については市が実施することが妥当な施設である。施設運営に関しては、指定管理による運営を行ってきたが、令和4年度から施設管理として鎌垣財産区に委託した。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・葛城山と龍門山は、自治会や森林組合を通じて必要な維持管理を実施しており、自然環境の保全は図られていると考えている。 ・ハイランドパーク粉河は、利用者数が伸び悩んでいることから、新たな視点での集客策や活性化策等を模索していく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		・葛城山と龍門山周辺の維持管理については、地元の自治会や森林組合に委託しており、管理面では効率的な運用が行っている。 ・ハイランドパーク粉河は、令和4年度から施設管理業務に関して鎌垣財産区に委託しているが、建設から年数が経過し老朽化による修繕等が発生しており、その対応に要する業務量が増加傾向にあり、対応策を検討していく必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	治山林道管理事業			担当課	林務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	728	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2 林業費				施策目標	3	自然環境			
		目	3 林業施設費				基本施策	1	豊かな自然環境の保全			
事業概要	市民、林業従事者等が森林へのアクセス道路を安全に走行できるように、林道のパトロールを強化し、林業施設の異変を早急に発見し、現状復旧を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	治山林道管理事業			⑤				⑨			
	②	林道施設整備事業補助金			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	パトロール活動	目標	60	60	60	60	60	パトロールを行うことで、林道施設の異変を早期発見、対処することができた。令和5年度は、暖冬のため積雪による通行止めは無く、通行者に対する路面凍結注意喚起や、路面凍結融解のため凍結防止剤の配布及び散布を行うのみとなった。			
			実績	75	80	24						
	<指標の計算方法>		林道パトロールを行った回数									
	成果指標	事故報告件数	目標	0	0	0	0	0	対人事故・対物事故は発生しなかった。			
			実績	0	1	0						
	<指標の計算方法>		事故の報告があった件数。パトロールを強化し年間を通じてゼロを目指す。									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	9,718			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	9,718		
事業の実績	①治山林道管理事業 【雑草除去】 ・林道紀泉高原線 雑草除去11,000㎡ ・林道粉河中央線 雑草除去8,000㎡ ・林道真国野田原線 雑草除去3,500㎡ 【水路清掃】 ・林道粉河中央線 側溝清掃 5,829㎡、112.2㎡ 横断側溝 0.81㎡ ・林道紀泉高原線 側溝清掃 10,569㎡、104.25㎡ 横断側溝 1.905㎡ ・林道重谷線 側溝清掃 3,365㎡ 横断側溝 1.44㎡ ・林道真国野田原			側溝清掃 90.0㎡ 【林道凍結防止融解作業】 林道紀泉高原線・林道粉河中央線・林道重谷線 凍結防止融解作業 作業回数：3回 人数：2名 時間：12時間 【維持管理委託】 ・林道勝神線 維持管理委託 1,655m 【林道維持管理・補修】 ・林道紀泉高原線・林道粉河中央線・林道重谷線 危険木伐採作業 伐採本数：197本			【工事】 ・災害対応を優先したため、実施せず。 ②林道施設整備事業補助金 ・補助金交付件数 3件 整備実績 林道彦谷線・榎本土屋線 崩土・倒木除去 作業距離 650m 林道鎌垣線 崩土・倒木除去 作業距離 150m 林道米の郷線 側溝整備 作業距離 650m					
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・林道を安全かつ快適に通行できるように維持管理が必要である。								
有効性		評価結果	改善の余地がない ・林道パトロールを定期的に行うことにより、道路施設、道路周辺の状況を確認することができ、側溝の土砂の堆積、枝打ち箇所など維持修繕箇所を早期発見することで、林道の安全性を高め未然に災害防止に繋がっている。									
効率性		評価結果	改善の余地がややある ・林道を維持管理するにあたり、草刈り、崩土除去、道路清掃に費用がかかっているが、林道を通行する人が増え、安全かつ快適に利用されている。 ・生活環境課の不法投棄パトロール時に道路施設の確認、道路周辺の状況確認を行ってもらうことで効率よく、施設の状態を把握できている。 ・パトロールに時間を要するため人員配置に考慮する必要がある。									

事務事業の概要	事務事業名	消費者安全対策事業			担当課	商工労働課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	727	
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 商工費				施策目標	1 防災・防犯				
		目	1 商工総務費				基本施策	4 防犯・交通安全対策の推進				
取組方針	5		消費者の安全対策の推進									
事業概要	市民が消費者被害にあわないように、啓発や相談窓口を開設する事業											
事務事業を構成する細事業	①	消費者問題啓発事業			⑤			⑨				
	②	消費者問題相談事業			⑥			⑩				
	③	県都市消費生活対策連絡協議会負担金			⑦			⑪				
	④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	消費者問題相談件数	件	目標	90	90	90	110	110	岩出市184件 橋本市427件 各市ともインターネット通販に関する相談が増えている。		
			実績	148	180	104						
	<指標の計算方法>		市の消費相談窓口で受付した年間の相談件数									
	成果指標	消費者問題相談解決率	%	目標	80	80	80	80	80	全体の解決率が向上している一方で、インターネット通販は、販売者の特定が困難である場合やクーリングオフが適用されないため市の相談窓口では解決に至らない傾向がある。		
			実績	75	84	86						
	<指標の計算方法>		相談を受付した件数のうち、問題解決に至った件数の割合									
活動指標	啓発活動回数	回	目標	12	12	12	12	12	岩出市39件 橋本市126件 概ね計画どおり啓発活動を行えた。			
		実績	10	12	14							
<指標の計算方法>		年間に実施した消費問題に関する啓発活動の回数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,089			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	繰入金	繰入金	繰入金	繰入金	繰入金
			295								794	
事業の実績	①消費者問題啓発事業 ・啓発活動を14回実施した。 4月1日 桃山まつり 5月13日 消費者月間街頭啓発 5月24日 立地企業総会 5月31日 田中小学校職場見学 6月1日 シルバー人材センター会員向けDM 7月28日 紀の川市役所職場体験 10月1日 食品ロス削減月間(広報折込) 10月11日 いきいき元気塾 11月26日 産業まつり 11月28日 立地企業役員会 12月2日 ATTO KINOKAWA MARCHE 1月8日 はたちのつどい 3月8日 合同企業説明会 3月10日 ママジョブマルシェ ・出前講座を3回実施した。 11月30日 初めてのキャッシュレス決済 41人 2月2日 悪徳商法にご注意を 33人			2月8日 初めてのキャッシュレス決済 40人			②消費者問題相談事業 ・相談窓口を開設した。 年46回 専門相談員(毎週月曜日) 相談件数 104件 解決率 85.6% 主な相談内訳 訪問販売 7件(内6件解決) インターネット通販 42件(内36件解決) 架空請求 4件(内4件解決) クーリングオフ 3件(内3件解決) ・消費者教育パンフレットを配付した。 部数 1,500部(市内中学生) ・スキルアップ研修に7回参加した。 4月17日 消費生活相談等初任者研修 6月29日 消費生活相談実地研修(1回目) 9月26日 消費生活相談実地研修(2回目)			11月20日 市町村職員等研修 11月20日 消費教育推進のための研修 ～21日 12月18日 地域の見守りネットワーク推進のための講座 1月29日 市町村職員等研修 ③県都市消費生活対策連絡協議会負担金 7月14日 総会(書面決議)前年度事業・決算報告・本年度予算・事業計画 10月13日 第1回定例会 2月20日 第2回定例会		
	事業の事後評価	妥当性	評価結果 改善の余地がない ・消費者基本法や消費者安全法に定める基本理念に則り、自治体は消費者安全の確保に関する施策を推進する責務があるため、消費者庁をはじめ県消費生活センターと緊密に連携を保ちながら消費者行政全般に対して、市が関与することが妥当である。									
有効性		評価結果 改善の余地がややある ・消費者問題相談解決率は年々高まっている。 ・岩出市のセンター化計画により、相互乗入協定に基づく相談体制を見直しせざるを得ない状況の中で、現在と同水準以上の相談体制を市単独で整備する必要がある。										
効率性		評価結果 改善の余地がややある ・中学校へ配布している啓発物資をデータ化し、モバイルデバイスでの閲覧を導入することによってコスト削減を図る必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	商工振興事業		担当課	商工労働課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1016		
	予算科目	款	7 商工費		長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流				
		項	1 商工費			施策目標	1	農業振興・産業振興				
		目	2 商工振興費			基本施策	3	商工業の振興				
事業概要	商工業者の経営安定化につなげるために、運営、事業に対する支援や補助を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	中小企業支援対策(セーフティネット)			⑤	子ども未来応援デジタル商品券事業			⑨	貨物・旅客業等事業者燃料費高騰対策事業		
	②	商工会補助金			⑥	小規模事業者経営資金利子補給金			⑩			
	③	商工会商品券補助金			⑦	DX導入支援事業			⑪			
	④	プレミアム付デジタル商品券事業			⑧	商工業者原油価格・物価高騰対策事業			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	商工会会員数	人	目標	1,246	1,250	1,243	1,245	1,245	岩出市680人 会員の高齢化が進み廃業する事業者が増加した。		
				実績	1,243	1,245	1,231					
	<指標の計算方法>		毎年度4月1日時点の紀の川市商工会及び那賀町商工会の会員数									
	活動指標	経営改善相談・指導件数	件	目標	5,500	5,500	8,000	7,000	7,000	新型コロナウイルス感染症対策関連の補助事業が終了し相談件数が減少した。		
				実績	8,190	7,781	6,489					
	<指標の計算方法>		各商工会が実施した年間の経営改善相談及び指導件数の合計									
	活動指標	後継者の育っている事業所数	人	目標	58	60	40	42	42	岩出市31人 若年層の新規会員の加入に対し年齢に伴う青年部からの異動が多かった。		
				実績	36	31	30					
	<指標の計算方法>		毎年度4月1日時点の各商工会青年部会員数									
成果指標	商工会商品券利用率	%	目標	100	100	100	100	100	高い利用率を保持しているため市内の消費喚起につながっている。			
			実績	99.5	99.4	99.4						
<指標の計算方法>		各商工会が発行したプレミアム商品券のうち、利用(換金)された割合										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位:千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
417,700			300,175				10,000	2,504	105,021			
事業の実績	①中小企業支援対策(セーフティネット)			加盟店舗数	399店舗		利用額	740,000円				
	・書類審査 68件 4号26件 5号42件			利用枚数	89,970枚		利用額合計	158,499,379円				
②商工会補助金	・紀の川市商工会			④プレミアム付デジタル商品券事業	プレミアム率	40%		⑥小規模事業者経営資金利子補給金				
	補助金額 26,580,000円 会員数1,031人(内青年部会員数26人) 職員16人(局長1人/職員9人/嘱託6人) 経営改善相談並びに指導相談件数6,094件			販売額	174,678,000円 (24,954口×7,000円)		申請件数	124件/利子補給額 2,708,400円				
・那賀町商工会	補助金額 5,000,000円 会員数 200人(内青年部会員数 4人) 職員 4人(職員3人/嘱託1人) 経営改善相談並びに指導相談件数 395件			⑤子ども未来応援デジタル商品券事業	対象者1人につき20,000円分のさのかわPayポイント付与	対象者	8,067人		⑦DX導入支援事業			
	③商工会商品券補助金			加盟店舗数	354店舗		申請者	7,948人		⑧(繰)商工業者原油価格・物価高騰対策事業		
補助額 11,599,600円 プレミアム率 10% 当選者数 2,867人(当選率 67.9%) 予約申込口数 11,756口 当選口数 7,973口(当選率 67.8%)			デジタル商品券	申請者	7,948人		利用額	157,759,379円		⑨(繰)貨物・旅客業等事業者燃料費高騰対策事業		
			非デジタル商品券申請者	37人		交付決定額	28,900,000円					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・市内商工業者の経営基盤の安定化と持続化を図り、地域経済を活性化させることが目的であるため、市が関与することが妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・事業が次世代に引き継がれていない背景から、若い後継者が育っている事業所が減少した。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		・各種申請のオンライン化を進め、業務の効率化を図り生産性を高める必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	創業支援事業		担当課	商工労働課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	
	予算科目	款	7 商工費	長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
	項目	1	商工費		施策目標	1	農業振興・産業振興			
	目	2	商工振興費		基本施策	3	商工業の振興			
			取組方針		3	創業・事業承継の支援				
事業概要	<p>創業者の経営の安定化を図り商工業を活性化させるため、創業に必要な知識を得るためのセミナーの開催や、創業に伴う必要経費等に対する支援を行う事業</p>									
事務事業を構成する細事業	①	創業セミナー開催補助金	⑤				⑨			
	②	創業支援補助金	⑥				⑩			
	③	インキュベーター教育導入事業	⑦				⑪			
	④		⑧				⑫			
指標の実績	指標名	単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	創業セミナー参加者数	人	目標	10	10	10	40	40	岩出市 12人 橋本市 21人 市公式LINEによる周知やウェブ実施により大幅に増加した。(R6よりオンデマンド参加可能)
			実績	18	19	36				
	<指標の計算方法>	創業セミナーへの年間参加者								
	成果指標	創業支援補助金交付決定数	件	目標	3	3	6	6	6	岩出市 制度なし 橋本市 11件 セミナー受講者の増加や移住者者創業の増加による。
実績			6	7	8					
<指標の計算方法>	創業支援補助金交付要綱に基づき補助金を交付した件数									
			目標							
			実績							
	<指標の計算方法>									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
	4,658			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
						4,000		658		
事業の実績	①創業セミナー開催補助金 ・運営先 紀の川市商工会 ・補助金額 500,000円 ・開催内容 講師 中小企業診断士 濱田智司氏 第1回6月15日 経営① 第2回6月20日 経営② 第3回6月27日 財務① 第4回7月 6日 財務② 第5回7月11日 販路開拓① 第6回7月18日 販路開拓② 第7回7月25日 人材育成① 第8回8月 1日 人材育成② ・申込者数 36名			・打田地内 士業 46才 男性 147千円 ・桃山地内 小売業 53才 女性 361千円 ・桃山地内 サービス業 44才 男性 750千円 ・粉河地内 製造業 34才 女性 750千円 ・粉河地内 飲食業 51才 女性 500千円			講師 関西ニュービジネス協議会 理事 角濱功治氏 参加者数 生徒36人 教員 1人			
	②創業支援補助金 交付決定数 8名(年齢は交付申請時を基準) ・打田地内 飲食業 36才 女性 500千円 ・打田地内 飲食業 31才 女性 500千円 ・那賀地内 飲食業 53才 女性 500千円			③インキュベーター教育導入事業 市内高校生を対象に、思い描く将来設計の中に、「起業」という選択肢も加えてもらうことを目的に特別授業を開催した。 ・貴志川高校2年生 日時 2月27日 10:45～12:20 講師 関西ニュービジネス協議会 副会長 谷岡 樹氏 参加者数 生徒25人 教員 3人			・粉河高校2年生 日時 3月7日 9:50～10:35			
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
			・創業支援等事業計画に基づき、経済産業省ならびに県と連動した創業支援策は、持続可能な市内商業の基盤形成につながるため、市が関与することが妥当である。							
	有効性	評価結果	改善の余地がややある							
		・域外からの創業セミナー受講者を積極的に募り、域内での創業を促進する必要がある。								
効率性	評価結果	改善の余地がややある								
		・創業セミナーの受講に関して、同額予算で多くのセミナー受講者を受け入れる体制を整備する必要がある。								

事務事業の概要	事務事業名	企業誘致促進事業			担当課	商工労働課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	387	
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 商工費				施策目標	2	雇用・就労			
目	2 商工振興費			基本施策	1		就労支援の充実と雇用創出の振興					
目				取組方針	1		企業誘致の促進による新たな雇用創出					
事業概要	市民の雇用創出や市の税収拡大を図るために、進出を希望する企業に誘致活動を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	企業用地調査・情報提供			⑤	企業誘致関連法事務		⑨				
	②	県企業立地連絡協議会負担金			⑥	企業誘致活動		⑩				
	③	企業立地促進助成金			⑦	地域好循環型ビジネスモデル構築事業		⑪				
	④	宿泊施設誘致奨励金			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	フォローアップ訪問社数	社	目標	15	15	15	15	15	年度計画どおり各企業に対し、各種助成金といった支援制度の周知や懸案事項に関する相談、解決等のフォローアップを実施した。		
			実績	27	22	21						
	<指標の計算方法>		誘致後のフォローアップのために誘致企業を訪問した回数									
	活動指標	助成金支出企業数	社	目標	5	6	5	2	2	年度計画のとおり奨励金の支援対象としていた進出企業に対し、助成金を交付した。		
			実績	5	6	5						
	<指標の計算方法>		企業立地促進条例及び宿泊施設の誘致等に関する条例に基づき助成金を交付した企業件数									
	成果指標	誘致企業地元雇用者数(全体)	人	目標	0	0	740	745	745	ホテルルートイン紀の川など複数の新規企業が操業開始したため、主にパート契約の新規雇用が大幅に増加した。※第2次長期総合計画(後期計画)の策定により成果指標を雇用率から雇用数に変更		
			実績	712	741	821						
	<指標の計算方法>		誘致企業対象に実施するアンケート調査(毎年4月1日時点) ※R5より雇用率から雇用人数に変更(第2次後期計画による)									
成果指標	誘致企業地元雇用者数(正社員)	人	目標	0	0	500	510	520	団塊世代の定年退職などにより令和4年度は大幅に減少したが、新規企業の操業開始により令和4年度水準を維持している。※第2次長期総合計画(後期計画)の策定により成果指標を雇用率から雇用数に変更			
		実績	570	494	496							
<指標の計算方法>		誘致企業対象に実施するアンケート調査(毎年4月1日時点) ※R5より雇用率から雇用人数に変更(第2次後期計画による)										
コストの実績	R 5年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
	31,375			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	31,375		
事業の実績	①企業用地調査・情報提供 民間所有の企業用空き用地の調査を行い、所有者が希望する用地についてはデータベース化しホームページで情報提供した。			④宿泊施設誘致奨励金 新規誘致宿泊施設の開業により、条例に基づく奨励金を交付した。 ・ルートインジャパン(株) (ホテルルートイン紀の川) 雇用促進奨励金 750千円 地域資源活用奨励金 300千円 合計 1,050千円			械組立・電気設計) ⑦地域好循環型ビジネスモデル構築事業 農産物加工業者進出動向調査及び誘致対象企業訪問調査を行い、市内への進出に関心が高い企業に対し、誘致活動を行った。 ・誘致活動を行った企業 5社 大三島果汁工業株(愛媛県) コーケンフード&フレーバー(株)(神奈川県) デリーフーズ(株)(東京都) (株)柚子屋本店(山口県) 太陽食品(株)(長崎県) ・市内企業と取引を行った企業 1社 大三島果汁工業株(愛媛県) 取引農産物 紀の川はっさく ・市内へ進出した企業 0社					
	②県企業立地連絡協議会負担金 県企業立地連絡協議会において情報交換を行い、協議会負担金を負担した。			⑤企業誘致関連法事務 工場立地法による工場の新設及び増設の届出に対し、協議、指導し計画を受理した。 ・工場立地法届出の受理 4社 (変更3件・変更継承1件)								
	③企業立地促進助成金 条例に基づく協定企業の生産設備に関する新設及び増設に対し助成金を交付した。 ・(株)共栄テック(増設助成3年目) 7,583千円 ・(株)平和エンジニアリング(新設助成3年目) 6,153千円 ・ハバジツト日本(株)(増設助成2年目) 3,801千円 ・津田工業(株)(新設助成3年目) 9,999千円			⑥企業誘致活動 新工場増設による進出協定を締結した。 ・ハマコー機械(株)(増設) (自動装置の機械設計・部品加工・精密機								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
		・市外からの企業誘致は、自主財源の確保や住民の雇用機会の創出、地域経済の発展、人口流出防止策として最も即効性のある施策であるため、市独自の企業誘致活動を行政が行うことは妥当であるが、民間資金を活用した手法等、新たな手法による企業誘致の検討の余地があると考えられる。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・企業立地に伴う直接的な地元雇用の拡大、地域経済への波及効果の面からも有効性は高いと考える。 ・現在市が管理する企業団地に用地の空きがなく、進出を検討している企業を誘致できていない状況である。 ・条例の改定により市内の既存企業も助成対象となるよう事業要件を拡充したため、増設を計画する企業も現れてきたが、事業周知が十分でないため継続して広報していく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・市が、市及び市民を受益者として行う事業であり、地元雇用及び地域経済発展の面からも市が企業誘致を行うことは有効と考える。 ・即時対応可能な事業用地に空きがないため、新たに確保、整備する必要がある。 ・民間による市内進出を促進するため、空き用地、空き倉庫等の情報を収集する必要がある。 ・誘致する企業の業種について、市の産学の特徴や市民のニーズを含めて検討する必要がある。 ・市内産のフルーツを活用し、生産から加工、販売そして消費までの経済的循環を目指す中で、加工、販売の分野で進出意欲のある企業に対し誘致を行う必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	立地企業連携事業			担当課	商工労働課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	483
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 商工費				施策目標	1 農業振興・産業振興			
		目	2 商工振興費				基本施策	3 商工業の振興			
事業概要	立地企業連絡協議会会員企業の新製品や新技術の開発を促進するために、企業間交流や研修会の開催を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	立地企業連絡協議会運営			⑤			⑨			
	②	企業間交流促進業務			⑥			⑩			
	③	雇用促進・就業支援体制整備			⑦			⑪			
	④	立地企業連絡協議会補助金			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	先進技術や産業振興に必要な制度等の研修会	目標	3	2	2	2	2	総会により年度計画を定め年1回の研修会を予定していたが、調整の結果最終的に2回の研修会を開催した。		
			実績	1	3	2					
	<指標の計算方法>		立地企業連絡協議会が主催する会員企業対象の研修会回数								
	活動指標	経営層だけでなく従業員も含めた活発な意見交換交流会	目標	1	1	1	1	1	会員対象に防災研修後、交流会を開催し、県市担当者を交えて意見交換を行った。		
			実績	0	0	1					
	<指標の計算方法>		立地企業連絡協議会が主催する交流会の回数								
	活動指標	会員企業連携による新製品や新技術開発検討会議	目標	1	1	1	1	1	協議会員による産官学連携による新商品、新技術開発協議はなかった。		
			実績	0	0	0					
	<指標の計算方法>		立地企業連絡協議会会員企業が連携し、新たに産出する商品開発検討会議の回数								
成果指標	業務提携件数	目標	2	3	3	3	3	令和5年度は新たな提携事例はなかった。			
		実績	2	2	0						
<指標の計算方法>		立地企業連絡協議会会員企業が提携し実施した業務件数（累計）									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
	63								63		
事業の実績	①立地企業連絡協議会運営 企業と地域の結びつきの促進、会員企業相互の連携と情報の収集・提供を目的とし、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで下記の通り活動した。			・ママジョブマルシェ 子育て世代の母親の就職活動を支援するためのカジュアルな企業説明会			」と「きのかわで働くダイジェスト版」を就職希望者に見てもらえるように県内高校、専門学校、大学等に送付するなどの就職支援を行った。				
	・加入企業等 32企業 1大学 総会 1回 役員会 2回 研修会 2回（人権研修・防災研修） その他実施事業 ・キャリア教育授業 粉河中学校の2年生 那賀・荒川中学校の1年生を対象 ・企業見学バスツアー 就職を希望する市内高校2年生を対象とした企業見学会			・紀の川市合同企業説明会 わかやま新卒応援ハローワークと合同主催した就職説明会 ・きのくに人材Uターンフェア 和歌山県経営者協会主催の就職説明会に協議会のブースを展覧			・ガイドブック送付学校数 42校 ・H17.4.2～H18.4.1生まれの紀の川市民512人 将来の職業等についての参考、また市内企業の周知のため「立地企業ガイドブック」と「きのかわで働くダイジェスト版」のQRコードを案内した。 ・市内中学生 1,351人				
事業の事後評価	評価結果			改善の余地がない							
	妥当性			・産官学連携、農商工連携、異業種連携等新たな取組への投資、新商品の開発は、企業の投下固定資産の増加と新たな雇用の創出を期待することができる。このような取組が地域社会への貢献につながることから、市が関わることは妥当と考える。							
	有効性			評価結果 改善の余地が大きい ・新型コロナウイルス感染症の5類移行後、積極的に異業種への進出を検討している企業が見受けられ、このような企業には、市として有益な情報を提供し、協議会としても情報共有しサポートしていく必要がある。 ・全国的な人手不足の影響で新規雇用を課題としている企業も多いため、協議会として雇用対策を検討する必要がある。							
	効率性			評価結果 改善の余地がややある ・協議会の会計収入のほとんどが会員からの会費で占められており、市の補助額は少額であるため費用対効果は高く事業の効率性は高いが、今後実施する各研修会・交流会に関し異業種連携等に関する内容をさらに吟味し、限られた研修会・交流会に盛り込めるよう、事業計画を調整する必要がある。							

事務事業の概要	事務事業名	工業団地維持管理事業			担当課	商工労働課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	484	
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 商工費				施策目標	2 雇用・就労				
		目	2 商工振興費				基本施策	1 就労支援の充実と雇用創出の振興				
事業概要	立地企業が安全、安心に操業できるようにするために、工業団地の施設の適切な維持管理と用地の有効活用を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	工業団地管理（草刈・水路管理）			⑤			⑨				
	②	用地貸付（歳入）			⑥			⑩				
	③	工業団地専用排水管内調査業務			⑦			⑪				
	④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	維持管理面積	㎡	目標	19,105	18,276	18,635	18,597	18,597	維持管理の実施に当たり管理区域の見直しを行い、当初計画に対し管理実施面積が微減した。		
				実績	18,276	18,635	18,597					
	<指標の計算方法>		草刈り等、維持管理している面積									
	活動指標	維持管理箇所数	箇所	目標	6	6	6	6	6	当初予定していた工業団地について維持管理を実施することができた。		
				実績	6	6	6					
<指標の計算方法>		草刈り等、維持管理を実施した工業団地箇所数										
活動指標	工業団地専用排水管内調査業務	m	目標			2,815			当初予定していた桃山第1工業団地専用排水管路の内部調査を実施することができた。			
			実績			2,815						
<指標の計算方法>		調査対象の桃山第1工業団地の専用排水管路の延長										
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	15,098			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		15,098	
事業の実績	①工業団地管理（草刈・水路管理）			目的：携帯電話基地局用地として 住所：紀の川市桃山町調月713-3・713-27 (桃山第3工業団地敷地内) 面積：200㎡								
	市内6箇所の工業団地の市管理地において雑草除去、雑木伐採等の維持管理について業務委託にて実施した。 ・雑草除去業務委託 8件 18,597㎡ ・雑木伐採業務委託 1件 一式 ・支障木伐採委託 1件 一式 維持管理総計 6団地 10件 18,597㎡ ※雑草除去業務は基本的に年2回とも業務委託（管理面積は2回目を計上しない実数）			③工業団地専用排水管内調査業務 桃山第1工業団地の専用配水管路が供用後近接施設からの排水も接続されていることに加え老朽化が懸念されていることから、管路の健全度調査を行った。 ・延長L=2,815m 人孔N=80箇所								
事業の実績	②用地貸付（歳入）			調査の結果緊急を要する修繕箇所は見当たらなかったが、軽度の損傷が10箇所確認されたため、計画的な修繕を行い施設の長寿命化を図る必要がある。								
	平成19年度から賃貸借契約を締結している桃山第3工業団地の市管理地について、令和5年度も継続して貸付を行った。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・基本的に市有地に対する事業であるため、市による維持管理を行う必要がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・草刈・水路管理等の維持管理を行うことで、立地企業の景観が維持できており、有効性がある。 ・既存施設の老朽化が進行しており、今後計画的な更新、長寿命化対策が必要である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・調整池の管理道は未舗装な箇所が存在し、雑草が繁茂するため管理道を舗装することにより委託面積を減じることができ、委託費用の軽減につながるため防草対策工事を検討する余地がある。 ・緩傾斜地の草刈業務はシルバー人材センターを活用し高齢者に働く機会を提供することに努め、急傾斜地で重労働を伴う業務は、地元土木業者や造園業者、森林組合を選定している。 ・老朽化が進行した施設の現状調査結果に基づく対策を講じる必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	北勢田工業団地専用排水管移設事業			担当課	商工労働課		事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R3～R7)	事業番号	1162	
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 商工費				施策目標	2 雇用・就労			
		目	2 商工振興費				基本施策	1 就労支援の充実と雇用創出の振興			
事業概要	県道泉佐野打田線の4車線化拡幅工事に伴い、工事の支障となる北勢田工業団地からの専用排水管を移設することで県道工事後の専用排水管の安定的運用を確保する事業										
事務事業を構成する細事業	①	測量設計業務			⑤			⑨			
	②	排水管路移設替工事			⑥			⑩			
	③				⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	測量設計実施延長	m	目標	2,100	200	0	480	0	県の事業進捗に遅れが生じたため、令和5年度の実績は無し。事業進捗の遅れのため事業期間延長の可能性が高い。	
				実績	210	212	0				
	<指標の計算方法>		測量設計業務を実施した延長								
	成果指標	移設工事実施延長	m	目標	200	0	228	230	0		県の事業進捗に遅れが生じたため、令和5年度の実績は無し。事業進捗の遅れのため事業期間延長の可能性が高い。
				実績	210	182	0				
<指標の計算方法>		移設工事を実施した延長									
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①測量設計業務 県道拡幅計画に合せた北勢田工業団地専用排水管の移設計画の検討を行い、業務委託にて現地測量および実施設計を行うものである。 ・実施設計業務 ※県の事業進捗に遅れが生じたため、本年度実績は無し。										
	②排水管路移設替工事 ・排水管移設工事 ※県の事業進捗に遅れが生じたため、本年度実績は無し。										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・移設工事の対象となる排水管は県の施行により造成されたが現在市へ財産移管されており、県道に対する占用物となるため市による事業実施は妥当と考える。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・事業の性質上、県道拡幅工事計画に応じた排水管移設計画を検討する必要があるが、県工事の進捗状況が遅れたことにより市の事業実施も遅れている現状は致し方ないと考え。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
・対象施設は市の占用物であるが、県道拡幅工事の支障となる一部区間の移設工事については公共補償に伴う受託事業であり、測量設計費及び仮設工事費は全額、移設工事費は既設施設の供用年数に応じた減耗額を差引いた工事額が公共補償対象のため、経費の面からも最も効果的と思われる。											

事務事業の概要	事務事業名	紀の川はっさくプロジェクト推進事業			担当課	商工労働課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R3～R5)	事業番号	1171	
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 商工費				施策目標	1 農業振興・産業振興			
		目	2 商工振興費				基本施策	3 商工業の振興			
事業概要	「地域産業創出に向けた連携協定」に基づき、はっさく果皮含有成分による商品開発等を推進するとともに、「紀の川はっさく」のブランド化による地域経済の活性化を図る事業										
事務事業を構成する細事業	①	紀の川はっさく普及推進事業			⑤			⑨			
	②	紀の川はっさくプロジェクト推進事業			⑥			⑩			
	③				⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の分析		
	活動指標	紀の川はっさくのロゴ使用申請数	申請	目標	5	10	15	15	0	市内でプロジェクトに対する理解度が高まり、ロゴを印字したシールの貼付に取り組む個人農家や卸売店が一定数ある。	
			実績		3	11	17				
	<指標の計算方法>		ロゴの使用に対し許認可した件数								
	活動指標	開発した商品及び試供品の種類	商品	目標	0	1	2	3	0	セブンイレブンジャパンと共同で商品開発を行い県下で販売した。	
実績				0	3	3					
<指標の計算方法>		開発した商品及び試供品の種類									
成果指標	含有成分の効能を表記した商品数	商品	目標	0	1	1	1	0	事業を自走するためにも収益性が望める商品化を実現する必要がある。		
		実績		0	0	0					
<指標の計算方法>		含有成分の効能を表記した商品数									
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	9,221			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	5,000 4,221	
事業の実績	①紀の川はっさく普及推進事業 はっさくの出荷箱や出荷袋に貼付するシール等を製作し、生産地の認知度向上を図った。 丸型シール 800,000枚			【那賀】岡本商店 (財)青洲の里 【貴志川】産直市場よってって貴志川店 矢田貞三商店 紀の川市観光交流拠点「紀楽里」			(2)熱中症予防成分効率的抽出技術研究及び知財化 (3)安全性確認試験 (4)展示会出展と試作品のアンケート調査				
	はっさくを原材料にしたクラフトビールを醸造し市内で販売した。 ・商品名 紀の川はっさくユール ・発売日 令和6年2月21日 ・販売価格 550円/本(税込) ・販売本数 2,724本 ・内容量 330mmℓ/本 ・取扱店舗 11店舗 【打田】岩田酒店 酒の紀の川 めっけもん広場 神通温泉 【粉河】(有)楠酒販 さしと貴志酒店			開発商品 (1)はっさく大福 セブンイレブンと共同 (2)はっさくケーキ セブンイレブンと共同 (3)839大福 八旗農園・山崎屋 ※(3)の商品は八旗農園・山崎屋が市内事業者間連携のもと「839大福」を製造販売。その後、約4,800個の「839大福」を市内小中学校の給食で提供。			②紀の川はっさくプロジェクト推進事業 ・対象者 (株)和環 ・補助額 2,280,000円 ・内容 (1)試作品の開発及び検証				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・紀の川はっさくに対する付加価値を高め、地域経済の好循環を目指している事から、市が関与することが妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地が大きい								
・紀の川はっさくを原料とした試作品の開発や、ロゴシールの配布等、認知度の向上には一定の成果があったと考えられるが、収益性が望める商品化の実現には至っておらず、改善の余地がある。 ・含有成分の効能を表記した商品化と販売までのスケジュールを明確化する必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・商品開発は公共の技術機関や他の支援制度を活用することにより費用を圧縮しているが、普及推進のシール等の製作は受益者負担への移行を検討していく必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	新事業用団地造成事業			担当課	商工労働課		事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R3～R7)		事業番号	1161
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 商工費				施策目標	2 雇用・就労			
		目	2 商工振興費				基本施策	1 就労支援の充実と雇用創出の振興			
事業概要	新事業用団地計画地区である曾山地区について、誘致企業の新設、及び既存企業の増設用地として整備することで市内に新たな産業を導入し、また、既存企業の増設等の事業拡大を促すことで、市民の雇用機会の創出、市内産業の活性化及び市の自主財源を確保する事業										
事務事業を構成する細事業	①	用地等補償契約			⑤			⑨			
	②	測量設計業務			⑥			⑩			
	③				⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の分析		
	成果指標	対象となる事業計画面積	ha	目標	9.7	9.7	9.7	7.8	7.8	令和4年度に実施した用地調査に基づき事業計画の検討を進める中で、事業計画対象面積が減少した。	
			実績	9.7	9.7	9.7					
	<指標の計算方法>		事業計画面積								
	成果指標	用地補償等契約面積	ha	目標		3.1	7.5	3.1		令和5年度中に用地等補償契約を締結する予定であったが、権利者の死亡による相続や所有権以外の登記(抵当権・差押)等の処理に時間を要する事情があったため、契約予定面積に達しなかった。	
			実績		1.5	2.3					
	<指標の計算方法>		用地等補償契約を締結した面積								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	100,590			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	82,790 17,800	
事業の実績	①用地等補償契約 事業用地の取得のため計画区域内の用地等補償契約を締結した。 ・用地等補償契約件数 9件 22,759㎡										
	②測量設計業務 過年度業務を基礎資料とし造成に必要な現地測量、地質調査、及び造成詳細設計を業務委託した。 業務委託件数 1件 一式										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・基本的に事業用団地を新規に造成する事業であるため、その造成に際し民間資金や技術力を活用するいわゆるPFI手法を検討する余地があるが、事業計画の規模、期間を考慮すると小規模、短期間という点や事業目的を考慮すると、市が実施することは妥当と考える。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・現在の進捗としては計画に沿っていると考えているが、事業効果の早期発現のため効率的な造成工事や工事施工を検討する必要があると考える。 ・本計画地域は、「紀の川インターチェンジ周辺土地利用構想」に基づく先行開発地との位置づけであるため、構想に則した造成計画を検討する必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・事業計画の規模、期間を考慮すると小規模、短期間という点や事業目的を考慮すると、費用対効果を常に検討しつつ市が事業を実施することが最も効率が低いと考える。										

事務事業の概要	事務事業名	観光振興事業			担当課	観光振興課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	720	
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 商工費				施策目標	3 観光・交流				
		目	3 観光振興費				基本施策	1 観光資源を発掘・活用した観光振興				
取組方針	1 誘客・周遊化の促進											
事業概要	市に訪れる観光客数の増加につなげるために、観光客への情報の発信（PR）や各観光団体への取組支援や運営への参画を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 観光振興事業			⑤ スカイグランプリ補助金			⑨					
	② 和みわかやまキャンペーン推進協議会負担金			⑥ 観光協会補助金			⑩					
	③ 紀の川エリア観光サイクリング推進協議会負担金			⑦ 春旅キャンペーン事業			⑪					
	④ メイヤーズカップ補助金			⑧ 団体旅行誘致促進事業			⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	観光PR件数	件	目標	15	15	15	15	23	各種イベントでの誘客促進や特産品の販売、またテレビ出演などによる観光PR活動を実施した。なお、観光PR件数については、令和4年度と比較して増加した。		
			実績	6	11	15						
	<指標の計算方法>		観光キャンペーンスタッフの参加イベント数（複数日あるイベントも1件とする）									
	成果指標	観光協会会員数	名	目標	135	135	135	135	135	新規会員を勧誘し会員の増加に努めた結果、微増ではあるが、会員が増加した。		
			実績	124	124	127						
	<指標の計算方法>		年度末時点の紀の川市観光協会会員数（特別会員含む）									
成果指標	特産品推奨制度新規登録商品数	品	目標	10	10	10	10	10	食品関係の新規登録商品が4件あった。			
		実績	4	6	4							
<指標の計算方法>		特産品推奨制度への新規登録商品数（変更・更新は除く）										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
	16,367			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		16,367	
事業の実績	①観光振興事業 ・令和5年度において、「紀の川市観光振興基本戦略」及び、「紀の川市観光アクションプラン」を策定した。 ・情報発信・広報のDX化促進の一環として、観光施設等4か所にデジタルサイネージの設置を行った。 ・プロモーション・営業強化の一環として、旅行者に対する商談会への参加、ブース出展によるPRを行った。 ・「楠見薫」氏に紀の川市フルーツ大使を委嘱し青洲まつり、ディアモール大阪へのイベント参加に加え、「フルーツクラフトコーラ（はっさく）」等を関係者に配布いただくことにより紀の川市のPRを行っていただいた。 ・観光ガイドブック増刷（20,000部） ・観光カード増刷（12,000部）			②和みわかやまキャンペーン推進協議会負担金 県全域で「継続可能な観光地づくり」を推進する事業への支援を行った。 ③紀の川エリア観光サイクリング推進協議会負担金 紀の川エリアへのサイクリスト等の誘客促進のための走行イベントなどの事業や、レンタサイクル事業を行うための支援を行った。 ④メイヤーズカップ補助金 フライトイン紀の川実行委員会が主催したパラグライダー大会への支援を行った。 ・令和5年11月18日～19日開催 参加者35名 スカイグランプリ補助金 ハンググライディング紀の川スカイグランプリ2023実行委員会が主催したハンググライダー大会への支援を行った。 ・令和5年11月23日～26日開催 参加者62名			⑥観光協会補助金 観光PR事業の実施 ・特産品の販売と観光PRイベントへの参加 ・ホームページの更新、広報紙発刊 ・フェイスブック等を活用した情報発信 特産品推奨事業の実施 ・新規4商品3業者（計：74商品、28業者） ・推奨特産品パンフレット増刷（4,000部） ⑦春旅キャンペーン事業 ・応募件数2,956件 ・当選人数80組（うち宿泊者：65組） ⑧団体旅行誘致促進事業 紀の川市内にバスで訪れて宿泊し、市内周遊を1か所以上旅程に取り入れた旅行者や団体等に対して補助を行った。 ・バス1台につき10名以上 50,000円0件 ・バス1台につき15名以上 75,000円4件 ・バス1台につき20名以上 100,000円9件 ・バス2台以上かつ40名以上 200,000円1件					
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・関係人口、交流人口を増やすことで、市の認知度を高める効果が期待できるため、市が観光振興に取り組むことについては妥当性がある。また、各補助団体における補助事業についても地域経済の発展や活性化に必要な事業であることから、支援を行うことは妥当である。								
有効性		評価結果	改善の余地がややある ・積極的に観光PR活動や、販売活動を行うとともに、SNS等を効果的に活用したPRを実施していくことは本市の観光振興に有効である。しかし、効果的かつ継続的に事業を実施していくうえで、観光協会並びにDMO等の観光施策に携わる団体と、行政との役割を明確にする必要がある。									
効率性		評価結果	改善の余地がない ・補助金交付対象団体は、補助事業への取り組みについて常に創意工夫を重ねており、当面は現状維持の支援を行っていくことが効果的である。									

事務事業の概要	事務事業名	まつり開催支援事業			担当課	観光振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	88
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 商工費				施策目標	3 観光・交流			
		目	3 観光振興費				基本施策	1 観光資源を発掘・活用した観光振興			
事業概要	市の交流人口の拡大と活性化につなげるために、実行委員会との協働により、まつりや各種イベントの開催を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	市民まつり補助金			⑤	まつり開催支援		⑨			
	②	粉河祭補助金			⑥			⑩			
	③	青洲まつり補助金			⑦			⑪			
	④	桃山まつり補助金			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	まつり関係構成員数(実行委員、協力団体)	人	目標	208	208	208	208	208	役員改選等により、令和4年度と比較して微増した。	
			実績	198	193	197					
	<指標の計算方法>		市民まつり、粉河祭、青洲まつり、桃山まつり関係構成員数(実行委員、協力団体)								
	成果指標	まつり集客数	人	目標	113,000	113,000	113,000	130,000	130,000	4年ぶりの開催を心待ちにされていたことも要因となり、各まつりとも盛況となり、目標を上回った。	
			実績	0	0	141,000					
<指標の計算方法>		観光客動態調査報告数値									
活動指標	まつり関係会議回数	回	目標	55	55	55	55	55	全てのまつりが再開されたことにより、会議回数が増加した。		
		実績	18	25	57						
<指標の計算方法>		市民まつり、粉河祭、青洲まつり、桃山まつり開催準備等会議数									
コストの実績	R 5年度決算額(単位:千円)			財源内訳							
	25,085			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	25,085	
事業の実績	①市民まつり補助金 令和5年8月20日開催 来場者数 50,000人 実行委員会で運営 構成員数 33名			③青洲まつり補助金 令和5年10月29日開催 来場者数 12,000人 実行委員会で運営 構成員数 53名 ・青洲まつりプレイベントとして、ゲートボール大会を実施 令和5年10月14日開催 27チーム参加							
	②粉河祭補助金 令和5年7月29日・30日開催 来場者数 60,000人 粉河祭保存会で運営 構成員数 87名 ・「粉河祭写真展」の開催 昔の粉河祭の写真展示と動画を上映する「粉河祭写真展」を 令和5年7月8日～9日に開催			④桃山まつり補助金 令和5年4月1日開催 来場者数 19,000人 実行委員会で運営 構成員数 24名			⑤まつり開催支援 開催に伴う、周知・PRを行った。				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・まつりの開催にあたっては、実行委員会が自ら考え、自らの運営により魅力のあるイベントをつくりあげることでそれぞれのまつりの集客や地域の活性化につなげることが大切である。一方で実行委員会が主体となってまつりを運営できるよう組織作りをし、それぞれのまつりが安全かつ円滑に開催されるためには市の側面からのサポートが必要であることから、市がまつり運営に関与することは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・それぞれのまつりは、それぞれの地で培われた魅力、歴史、伝統を広く参加者に伝え、地域の活性化につながるものである。また、まつりは市外からの誘客のきっかけになり、交流人口の増大や市民交流につながる事業であることから有効である。 ・事故を未然に防ぎ、より安全なまつりイベントの開催に向け、きめ細やかな対策を講じる必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・まつりの会場運営に関する業務は、実行委員会が外部委託しており、効率化が図られている。 ・まつり運営に関しては、実行委員会が1年を通じて活動する方向に導くことで、協賛金や募金活動も更にスムーズに行うことができ、自主財源の確保につながるため、今後も実行委員会組織の強化に努める必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	ほたる保護事業		担当課	観光振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	722
	予算科目	款	7 商工費		長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流		
		項	1 商工費			施策目標	3	観光・交流		
		目	3 観光振興費			基本施策	1	観光資源を発掘・活用した観光振興		
事業概要	市民に環境保全の大切さについて理解を深めてもらうために、ほたる保護団体への活動支援、全国ほたるのまち交流会や観賞会等の開催を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	ほたるの館施設管理		⑤	源氏ボタルを育てる会補助金		⑨			
	②	ほたる観賞会		⑥			⑩			
	③	全国ほたるのまち交流会参加負担金		⑦			⑪			
	④	ほたる保存会補助金		⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	ほたる観賞地数	目標	5	5	4	3	3	ほたる観賞地である「鞆淵地域」から、地元小中学校の休校に伴い駐車場の確保が困難であり、また交通整理等を行う人員を確保できない旨の申し出があったため、ホテル観賞地としての周知を取りやめた。 以前のほたるサミット構成自治体で、令和5年度より規約改正し、名称を「全国ほたるのまち交流会」とした。なお、構成市町村数に増減はなかった。	
			箇所							
		実績	5	4	3					
	<指標の計算方法>		紀の川市がほたる鑑賞地として周知等を行っている箇所数							
	活動指標	全国ほたるのまち交流会構成市町村数	目標	6	6	6	6	6		
			団体							
		実績	6	6	6					
	<指標の計算方法>		全国ほたるのまち交流会規約に基づく構成市町村数							
			目標							
		実績								
<指標の計算方法>										
<指標の計算方法>										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)		財源内訳							
	4,392		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	4,392	
事業の実績	①ほたるの館施設管理 ほたるの育成環境を保全するため、ホテル池の土砂撤去、フェンス修繕工事、井戸ポンプ制御盤の修繕を行った。		④ほたる保存会補助金 「江川中ホテルを守る会」に対し、重谷川の自然に育ったほたるを保護するため生育環境保護と自然環境美化のための活動に対する補助を行った。							
	②ほたる観賞会 令和5年度「貴志川のほたる観賞会」は、大雨による貴志川の増水に伴い、中止となった。		⑤源氏ボタルを育てる会補助金 「貴志川ゲンジボタルを育てる会」に対し、源氏ボタルの人工飼育による保護や自然保護と水質保全及び生物を学ぶ活動に対する補助を行った。							
	③全国ほたるのまち交流会参加負担金 「全国ほたるのまち交流会」は、豊かな自然環境を生かしたホテルのまちづくりに取り組む、愛知県阿久比町、滋賀県米原市、岡山県真庭市、山口県下関市、福岡県北九州市、紀の川市の6市町が参加している。令和5年度は、「次世代へつなぐ共生の歴史 ～ほたるの光を未来へ～」をテーマにオンライン形式で開催した。 (主催：米原市)									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
			<ul style="list-style-type: none"> 市内のほたる保護団体に、ほたる保護活動を行ってもらうことで、市内外の住民に対し広く自然環境保護のメッセージを発信していくことに繋がるため、市が関与することは妥当である。 ほたる保護活動を通じて自然環境保護の重要性を広く市内外に広めていくことは、次世代へ美しい郷土を引き継いでいくという目的達成への貢献度が高いと考える。 							
	有効性	評価結果	改善の余地がない							
			<ul style="list-style-type: none"> 全国ほたるのまち交流会に参加することで広く全国にアピールできている。 ほたるの観賞地は、飛翔時期には観光資源の一つとなる。なお、観賞地の案内や駐車場警備などは地元が中心となって、安全の確保を行っており、交流人口の増加や市の知名度アップに貢献している。 							
効率性	評価結果	改善の余地がややある								
			<ul style="list-style-type: none"> ほたる保護活動については、各保護団体において人工飼育・自然飼育という活動方針に違いがあるものの効率的かつ自主的に活動している。 保護団体の会員の高齢化が進んでいるため、新たな会員の確保と継承者の育成が課題である。 							

事務事業の概要	事務事業名	地域おこし促進事業			担当課	観光振興課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	991	
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 商工費				施策目標	3 観光・交流				
目	3 観光振興費			基本施策	1 観光資源を発掘・活用した観光振興							
目				取組方針	3 観光振興体制の整備							
事業概要	「フルーツのまち 紀の川市」の魅力を内外に広め、紀の川市への定住・定着を図るために、地域おこしの支援や地域活動を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	地域おこし協力隊募集			⑤			⑨				
	②	活動支援			⑥			⑩				
	③	定住・定着のための情報収集・技術取得			⑦			⑪				
	④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	地域おこし協力隊員数	名	目標	2	2	2	2	2	地域おこし協力隊2名のうち1名は育児休暇を取得中であり、1名は令和6年1月末で退任した。		
			実績	2	2	2						
	<指標の計算方法>		各年度に地域おこし協力隊として任用した隊員数									
	成果指標	定住・定着者数	名	目標	0	1	1	0	0	令和5年度途中（令和6年1月末）で地域おこし協力隊を退任した1名については定住に至らなかった。また、任用中の地域おこし協力隊1名については、令和7年度まで任用予定であるため、目標値を変更した。		
			実績	0	1	0						
	<指標の計算方法>		任用期間終了後、紀の川市に定住した地域おこし協力隊員数									
活動指標	地域おこし活動件数	件	目標	60	60	20	20	20	育児休暇の取得や年度途中での退任により、目標を達成することが出来なかった。また、活動できる人数が減少したため、目標値を変更した。			
		実績	7	14	7							
<指標の計算方法>		地域おこし協力隊が行った地域おこし活動件数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
	5,188									5,188		
事業の実績	①地域おこし協力隊募集 新たな地域おこし協力隊の募集を行ったが、応募者はなかった。 ・地域おこし協力隊員数：1名（令和5年度末時点） ・宮崎県出身 女性 令和5年4月～令和6年5月（育児休暇） ※令和6年5月より復帰予定 ・千葉県出身 女性 令和6年1月末 退任			②活動支援 ・社会福祉法人一麦会 麦の郷が運営している「創-HAJIME cafe-」が行われている粉河駅前約築100年となる古民家の「山崎邸」において運営の支援や、庭園等の清掃活動を行うことにより地域や、関係団体との交流を図った。 また、同じく「社会福祉法人一麦会 麦の郷」が運営する子ども食堂（「みんなの食堂@WhEat（ウィー）」）の手伝いなどを行った。 ・粉河地域の活性化等について、「NPO法人紀州粉河まちづくり塾」が実施する、環境啓発活動や各種講演活動に協力することによる活動支援を行った。 また、新たな特産品の開発についても、粉河まちづくり塾と検討を行った。			・耕作放棄地での「小麦の無農薬栽培」に取り組むとともに、桃山地域の耕作放棄地について、観光や、農業体験などの可能性について検討を行ったが、実現には至らなかった。 ③定住・定着のための情報収集・技術取得 ・地域通訳案内士スキルアップ研修受講					
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・地域おこし協力隊は、「フルーツのまち紀の川市」の情報発信や地域の魅力を生かしたまちの活性化を担う人材であり、観光振興事業を通じて、協力隊個人の生きがいづくりや生業の発見をしてもらい、任期満了時には紀の川市への移住や起業を支援することから、市が関与することは妥当である。								
		有効性	評価結果	改善の余地がややある ・地域おこし協力隊は日常的に行政が携わりにくい地域の活動に直接参加することで、地域の課題解決や地域住民とつながっており、若年層が地域に移住し、課題に取り組むことは高く評価されており有効な事業である。 ・地域おこし協力隊は、全国的に募集が行われており、紀の川市への応募者数が低調な傾向にある。								
効率性	評価結果	改善の余地がない ・地域おこし協力隊は国の制度であり、市において地域の活性化事業に取り組む際、地域おこし協力隊制度を活用することで、事業費の大部分について特別交付税措置の対象となるため効率性が高い事業である。										

事務事業の概要	事務事業名	観光交流創造事業			担当課	観光振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1014
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 商工費				施策目標	3 観光・交流			
		目	3 観光振興費				基本施策	1 観光資源を発掘・活用した観光振興			
事業概要	観光客、市民がフルーツのまちとしての魅力・イメージアップにつなげるために、地域資源であるフルーツと他の魅力ある地域資源を結びつける取組を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	フルーツのまち人材育成プログラム			⑤				⑨		
	②	紀の川フルーツ・ツーリズム補助金			⑥				⑩		
	③	DMO運営支援			⑦				⑪		
	④	観光交流拠点の運営			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	体験交流人口	人	目標	8,600	9,300	9,300	9,300	9,300	県事業であるほんまもん体験イベントの参加者が47人減少し、ふる博への参加者が292人増加した。ほんまもん体験イベント1,084人ふる博8 1,676人	
				実績	2,933	2,515	2,760				
	<指標の計算方法>		ほんまもん体験及び、市内体験交流催しの参加者数の合算(観光客動態調査(暦年調査)による)								
	成果指標	年間外国人観光客数	人	目標	140,000	150,000	150,000	150,000	150,000	新型コロナウイルス感染症の水際対策の緩和などにより、外国人観光客数が大きく増加した。紀の川市内への年間外国人観光客数のうち、観光交流拠点への外国人観光客数は、10,403人となっている。	
実績				323	6,791	25,662					
<指標の計算方法>		各観光施設等への調査(観光客動態調査(暦年調査)による)									
成果指標	ふる博参加人数	人	目標			1,800	1,800	1,800	ふる博8については、ふる博7と比較して、体験催しが2種類増加し、参加者数も292人増加した。		
			実績	1,321	1,384	1,676					
<指標の計算方法>		ふる博において体験催しに参加した人数									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額(単位:千円)			財源内訳							
	30,345			国庫支出金	3,591	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	26,754
事業の実績	①フルーツのまち人材育成プログラム「まちづくりカレッジ」として7月に募集し、3名の申し込みがあったため、セミナー、ワークショップ、フィールドワーク、販売体験および、ふる博の企画・実施など全8回開催した。										
	②紀の川フルーツ・ツーリズム補助金「フルーツのまち紀の川市」をPRする市民団体である(一社)紀の川フルーツ・ツーリズムが開催する「紀の川フルーツ体験!ふるふる博覧会」への支援を行った。 ・ふる博8 令和6年2月25日から開催(体験催し45種類、参加者数1,676人)										
	③DMO運営支援 まちづくりに関係する11の構成団体による、「(一社)紀の川フルーツ観光局」を支援。観光を用いたまちづくりを推進していく取組を支援した。 ・理事会(3回) ・総会(1回) ・モデルルート等受入実施(5回、計30名) ・視察・研修受け入れ(5回、計54名) ・販促PR出張(5回) ・マーケティング調査の実施・公表 ・「ぶらり和歌山さんぽ」への出展 阪神梅田百貨店において、紀の川市特産品販売及びPR ・「紀の川フルーツフェア」への出展 和歌山近鉄百貨店においてフルーツ羊羹等の紀の川市特産品販売及びPR										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市民と協働して地域のブランド化や、新たな観光資源を創出する取組であるため、市が関与することが妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・DMOについては、市民団体、民間企業及び大学等、観光まちづくりに携わる関係団体が多種多様であるため、それぞれの役割を明確にして、それぞれの事業を円滑に進めていく必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・DMOに対しては、専門人材の派遣を行うなど事業の効率化を行っているが、今後は、観光客の回復を見込んだ継続的な誘客のため、物販を拡充するなど収益面において市の補助金に頼らない運営を進めていく必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	観光施設管理運営事業			担当課	観光振興課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	89	
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 商工費				施策目標	3 観光・交流				
		目	4 観光施設費				基本施策	1 観光資源を発掘・活用した観光振興				
事業概要	観光客、市民が観光施設を安全で快適に利用できるように、適切な維持管理や改修を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 観光施設管理（トイレ等諸施設）		⑤ 市営大門橋前駐車場施設管理		⑨							
	② 百合山緑化施設管理		⑥ 貴志川観光物産センター施設管理		⑩							
	③ 細野溪流キャンプ場施設管理		⑦ 桃山産業振興館施設管理		⑪							
	④ きしべの里施設管理		⑧		⑫							
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	細野溪流キャンプ場入場者数	人	目標	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	6月初旬の大雨や台風等、天候不良の影響により、入場者数が減少した。		
			実績	7,115	9,937	8,125						
	<指標の計算方法>		実績報告による（キャンプ場の入場者数）									
	成果指標	市営大門橋前駐車場駐車台数	台	目標	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、観光客が各地へ分散した影響により、減少したと考えられる。		
			実績	891	964	922						
	<指標の計算方法>		実績報告による（普通車・マイクロバス・大型バスの駐車台数合計）									
	成果指標	桃山産業振興館利用者数	人	目標	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	桃の直売所等が近隣に多く営業していることもあり、利用者数が減少したと考えられる。		
			実績	23,563	24,212	22,385						
	<指標の計算方法>		実績報告による（レジ通過人数）									
成果指標	貴志川観光物産センター利用者数	人	目標	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	近隣の大型直売所、スーパー等と競合しているが、利用者数は微増した。			
		実績	52,881	53,247	53,814							
<指標の計算方法>		実績報告による（レジ通過人数）										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	8,168			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	895 7,273		
事業の実績	① 観光施設管理（トイレ等諸施設） 窪ちびっこ広場 施設清掃委託 山田ダム公衆便所 施設清掃委託 大池遊園公衆便所 施設清掃委託			⑤ 市営大門橋前駐車場施設管理 施設管理委託 利用台数 922台								
	② 百合山緑化施設管理 施設管理・仮設トイレ清掃管理・樹木等維持管理・散水委託			⑥ 貴志川観光物産センター施設管理 施設管理運営 利用者数 53,814人								
	③ 細野溪流キャンプ場施設管理 指定管理 入場者数 8,125人			⑦ 桃山産業振興館施設管理 施設管理運営 利用者数 22,385人								
	④ きしべの里施設管理 施設管理・清掃管理・雑草処理・植木保守委託											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市が管理する観光施設を快適に利用していただくために維持管理を行う事業であるため、市の事業実施は妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・施設利用者から施設利用における事故や怪我等の報告もなく、安全に利用されていることから事業は有効に実施できている。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・観光施設の老朽化による修繕費用を軽減させるため、定期点検と随時修理を行い施設の長寿命化に取り組んでいる。 ・観光看板の設置箇所、有効性について精査し、効率的に管理していく必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	土木管理事業			担当課	建設総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	717	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	1	土木管理費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	土木総務費		基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備				
取組方針	9	その他										
事業概要	土木一般事務並びに法定外公共物を適正に管理する事業											
事務事業を構成する細事業	①	土木総務管理			⑤					⑨		
	②	地形図整備・管理・販売			⑥					⑩		
	③	法定外公共物管理			⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	法定外公共物許認可件数	件	目標							<ul style="list-style-type: none"> ・法定外公共物施行承認件数 ・同占用許可申請 ・同用途廃止件数 ・公有財産使用（借用）件数 	
				実績	73	60	70					
	<指標の計算方法>		法定外公共物許認可件数									
	活動指標	白地図販売枚数	枚	目標							<ul style="list-style-type: none"> ・紀の川市管内図販売数 	
				実績	89	71	64					
	<指標の計算方法>		枚数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	526			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①土木総務管理 ・土木管理事業に関する総務 ・管理に関する住民相談等											
	②地形図整備・管理・販売 ・白地図販売枚数 64枚											
	③法定外公共物管理 ・施行承認件数 31件 ・占用許可件数 19件 ・用途廃止件数 8件 ・公有財産使用(借用)許可件数 12件											
	開発や個人住宅建築また電気通信線路維持に伴う法定許認可事務を行った。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・法定外公共物の管理については、機能管理及び財産管理であるため妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・法定外公共物の管理については、機能管理及び財産管理であるため有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・法定外公共物の管理については、機能管理及び財産管理であるため効率的である。											

事務事業の概要	事務事業名	道路管理事業			担当課	建設総務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1047	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	1	土木管理費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	土木総務費		基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備				
取組方針	1	道路・橋梁の適正な維持管理										
事業概要	市の道路が適正に機能するように、道路の認定・廃止に基づく道路台帳の整備や道路の占用管理等を行う、また市民による清掃活動を実施し、道路の愛護活動を通じて、道路の役割や重要性を改めて認識してもらう事業											
事務事業を構成する細事業	①	許認可（占用管理・通行規制）			⑤	道路施設管理			⑨			
	②	市道認定・廃止			⑥	訴訟・事故・苦情対応			⑩			
	③	道路美化・愛護			⑦				⑪			
	④	道路台帳整備			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	許認可件数	件	目標						道路法等、法令に基づき適正に処理する。		
				実績	253	314	286					
	<指標の計算方法>		許認可件数									
	活動指標	市道認定路線数	路線	目標						市道認定基準に基づき議会の議決を得る。		
				実績	20	17	11					
	<指標の計算方法>		市道認定路線数									
	活動指標	道路一斉清掃参加人数	人	目標						国の示す道路愛護月間に管内一斉清掃を市民ボランティアと例年実施しているが、熱中症対策により中止した。		
				実績								
	<指標の計算方法>		道路一斉清掃参加人数									
活動指標	事故対応件数	件	目標	0	0	0	0	0	迅速かつ適正な判断のもと対応する。			
			実績	1	3	4						
<指標の計算方法>		市道における事故対応件数（保険対応分）										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	13,846			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		13,846	
事業の実績	①許認可（占用管理・通行規制） ・占用許可件数 66件 ・掘削許可件数 129件 ・施行承認件数 81件 ・幅員証明・通行協議 10件 許認可件数 合計 286件 (通行手続き) ・特殊車両通行協議 258件 開発や個人住宅建築また電気通信路線維持に伴う法定許認可事務を行った。				④道路台帳整備 ・紀の川市道路台帳整備業務 6,050,000円 新設及び改良等により区域変更された道路について台帳整備並びにシステム更新を行った。							
	②市道認定・廃止 ・市道認定 11路線 ・延長 1,037km 路線数 2,905路線 ③道路美化・愛護 ・道路清掃参加人数 和歌山県に熱中症警戒アラートが発令により中止				⑤道路施設管理 ・道路パトロール(幹線道路) 月2回実施 主に2車線の主要幹線道路を定期パトロールし、道路を安全に通行できるように管理・保全に努めた。 ⑥訴訟・事故・苦情対応 ・被害対応 11件・加害対応 4件 市道敷における事故対応や、市道敷に張り出している樹木の伐採等の依頼を行った。							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・道路行政事務を行う上で妥当である。									
		有効性	評価結果	改善の余地がない ・道路行政事務を行う上で有効である。								
		効率性	評価結果	改善の余地がない ・道路行政事務を行う上で効率的である。								

事務事業の概要	事務事業名	地籍調査事業			担当課	建設総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (H30～R5)	事業番号	716		
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	1	土木管理費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	2	地籍調査費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	9	その他										
事業概要	市民（地権者）が正確な土地情報を把握し、土地の活用ができるように、市内の土地について調査・測量・閲覧を行い、地籍図及び地籍簿の作成を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	調査			⑤	近畿ブロック国土調査推進連絡協議会負担金			⑨			
	②	推進委員会運営			⑥	県地籍調査協議会負担金			⑩			
	③	閲覧・成果データ管理			⑦				⑪			
	④	全国国土調査協会負担金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	閲覧地区数	地区	目標	8	4	1	0	0	最後の調査地区である閲覧業務を滞りなく進めることができた。		
			実績	8	5	1						
	<指標の計算方法>		閲覧業務開催地区数									
	活動指標	調査面積	km ²	目標	216.72	220.97	221.47			当該年度未完了面積をもって紀の川市の調査対象面積をすべて完了することができた。		
			実績	213.24	217.75	221.47						
	<指標の計算方法>		前年度未実施累計面積 + 当該年度実施済面積（地積測定確定後） + 19条5項指定済面積									
成果指標	調査面積に対する地籍調査の進捗率	%	目標	97.7	99.7	100			上記理由と同じ。			
		実績	96.2	99	100							
<指標の計算方法>		当該年度未完了済面積 ÷ 調査対象面積221.61km ²										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	27,538			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	11,851		
事業の実績	①調査 ・閲覧実施地区 1地区			・0円								
	②推進委員会運営 ・書面開催 内容：地籍調査の実施状況 ：紀の川市地籍調査推進協議会の解散について			⑥県地籍調査協議会負担金 ・10,000円								
	③閲覧・成果データ管理 ・法務局からの土地の分・合筆の異動に伴う地籍情報管理システムへの反映（随時） ・調査完了地区（登記完了）の地籍情報管理システムへ反映（9地区）											
	④全国国土調査協会負担金 ・26,400円											
	⑤近畿ブロック国土調査推進連絡協議会負担金											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・所有者、利害関係人及びこれらの代理人の確認を得て調査すること、また調査に必要な個人情報を取り扱うことから、市が実施していくことが妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・順調に地籍調査が推移し、成果の利用ができています。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・外注方式により効率的に調査を実施した。											

事務事業の概要	事務事業名	登記事業		担当課	建設総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	415	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1	土木管理費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
目		3	土地登記費	基本施策		1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	9	その他									
事業概要	市が取得した土地を市有名義として登記するために、所有権移転の手続きを行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	登記	⑤					⑨			
	②	相続調査	⑥					⑩			
	③		⑦					⑪			
	④		⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	地籍調査事業に基づく登記筆数	筆	目標						地籍調査により境界が明確化し、所有権移転が円滑に実施でき、公の市道や水路として機能管理することができた。	
				実績	174	229	258				
	<指標の計算方法>		地籍調査完了地区における、道路・水路敷の所有権を市名義に移転登記した筆数								
	活動指標	道路改良事業等に伴う登記筆数	筆	目標						道路等の整備が進み地域住民の利便性の向上に寄与することができた。	
				実績	382	320	228				
	<指標の計算方法>		道路事業等で所有権を市名義に移転登記した筆数								
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	12,305			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	12,305	
事業の実績	①登記 ・地籍調査事業に基づく登記筆数：258筆 ・道路改良事業に伴う登記筆数：228筆 ②相続調査 ・道路改良事業に伴う所有者死亡による相続調査 地籍調査事業における相続調査 空き家対策事業における相続調査 (随時)										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・登記業務に関して、統一的な事務手続きを行なうことができる。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・本業務は他部署からの登記依頼もあり、市の土地に関する事務事業において必要不可欠である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
・地籍調査完了地区の道路や水路等の所有権移転登記業務を外注すれば、件数も相当数あり多額の費用が掛かるため、市が登記業務を行なうことにより費用を抑制することができる。											

事務事業の概要	事務事業名	道路行政推進事業			担当課	建設総務課			事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1048			
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境						
		項	2	道路橋りょう費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通						
		目	1	道路橋りょう総務費		基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備						
取組方針	3	国道・県道の整備促進												
事業概要	市の計画的な道路行政の推進を図るために、関連団体の活動に参画する事業													
事務事業を構成する細事業	① 日本道路協会負担金			⑤ 県国道連絡会負担金			⑨							
	② 県高規格幹線道路建設促進委員会負担金			⑥ 県用地対策連絡協議会負担金			⑩							
	③ 県道路協会負担金			⑦ 県建設技術協会負担金			⑪							
	④ 県市町村道路整備促進期成同盟会負担金			⑧ 無電柱化を推進する市区町村長の会負担金			⑫							
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析					
	活動指標	総会参加回数	目標	5	5	5	5	5	幹線道路等の整備促進のためには、各団体への活動及び総会への参画は必要である。					
			実績	5	5	5								
	<指標の計算方法>		総会参加回数											
		目標												
		実績												
	<指標の計算方法>													
		目標												
		実績												
	<指標の計算方法>													
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	522			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	522				
事業の実績	①日本道路協会負担金 ・30,000円 国内外の道路の果たす多様な役割を通じて、国民生活に不可欠な道路政策のあり方を研究し、道路に関する知識の普及啓発に努め、道路及び交通の発達を推進し、もって公共の福祉の増進に寄与することを目的とする。			和歌山県の道路利用者の総意に基づき、道路整備を促進するとともに、道路交通の発展に寄与することを目的とする。			整及び損失補償に関する調査研究等を行い、もって公共用地取得の適正化とその円滑な推進に寄与することを目的とする。							
	②県高規格幹線道路建設促進委員会負担金 ・20,000円 近畿自動車道紀勢線、京奈和自動車道、東海南海自動車道、紀伊半島縦貫道等の早期整備を図るため、国等への要望活動を実施し、事業促進に必要な啓発等、目的達成に必要な事業を行い、もって本県産業経済の発展に寄与することを目的とする。			④県市町村道路整備促進期成同盟会負担金 ・12,000円 和歌山県内の市町村道の整備を推進するため、道路財源の確保、道路予算の拡大について活動を行うことを目的とする。			⑦県建設技術協会負担金 ・52,800円 建設関係施策の確立を促進するため、建設技術関係者の技術水準の向上とその処遇改善を図り、もって建設技術の向上発展に資することを目的とする。							
	③県道路協会負担金 ・358,700円 (管内県道等整備による事業費割)			⑤県国道連絡会負担金 ・23,000円 和歌山県内の地方道路の整備促進及びその適切な維持管理を支援することにより、快適な道路環境を実現し、住民の安全の確保、生活の安定向上を図ることを目的とする。			⑧無電柱化を推進する市区町村長の会負担金 ・3,000円 政府や民間等との連携・協力を図り、無電柱化のより一層の推進を進めることを目的とする。							
				⑥県用地対策連絡協議会負担金 ・22,500円 公共用地の取得に関し、会員相互間の連絡調										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・幹線道路の整備促進についての要望活動及び総会への参画は妥当である。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
・幹線道路の整備促進についての要望活動及び総会への参画は有効である。														
効率性	評価結果	改善の余地がない												
	・幹線道路の整備促進についての要望活動及び総会への参画は効率的である。													

事務事業の概要	事務事業名		国・県道整備促進事業			担当課	建設総務課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	714
	予算科目	款	8 土木費			長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境				
		項	2 道路橋りょう費				施策目標	1 都市基盤整備・公共交通				
		目	1 道路橋りょう総務費				基本施策	2 道路や橋梁などまちの基盤整備				
事業概要		市が国道・県道の整備を促進するために、関連団体への整備要望や活動に参画する事業										
事務事業を構成する細事業	① 整備促進・要望活動		⑤				⑨					
	② 県京奈和自動車道建設促進協議会負担金		⑥				⑩					
	③ 県道整備期成同盟会補助金		⑦				⑪					
	④		⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	整備促進・要望活動回数	目標	3	3	3	3	3	・国道・県道の整備促進のためには、各団体への要望活動及び総会への参画は必要不可欠である。			
			実績	3	3	3						
	<指標の計算方法>		整備促進・要望活動回数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,433			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			3,433									
事業の実績	①整備促進・要望活動 京奈和自動車道、県道関係事業に関する要望活動の実施											
	②県京奈和自動車道建設促進協議会負担金 ・49,000円 京奈和自動車道の延伸及び4車線化を目指す団体。											
	③県道整備期成同盟会補助金 地域の福祉を増進するために、生活の根幹である県道の整備要望活動及び改修協力に対する補助金。 ・100,000円 県道かつらぎ桃山線大改修期成同盟会											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・国・県道整備については、周辺自治体との連携が必要であり総会等への参画は妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・国・県道整備については、周辺自治体との連携が必要であり総会等への参画は有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・国・県道整備については、周辺自治体との連携が必要であり総会等への効率的である。											

事務事業の概要	事務事業名	京奈和関空連絡道路整備促進事業			担当課	京奈和関空連絡道路推進室		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	713
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2	道路橋りょう費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
		目	1	道路橋りょう総務費		基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備			
事業概要	市が京奈和関空連絡道路の早期事業化を目指すために、関係団体への要望活動及び事業認定を受けるための活動を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	整備促進・要望活動			⑤					⑨	
	②	京奈和関空連絡道路建設促進期成同盟会負担金			⑥					⑩	
	③	京奈和関空連絡道路調査業務委託			⑦					⑪	
	④	ホームページ作成業務			⑧					⑫	
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	要望活動回数	目標	回	3	4	4	4	4	府県間を繋ぐ高規格道路である本道路の整備促進のためには、関係機関への要望活動は必要不可欠である。	
			実績		0	4	4				
	<指標の計算方法>		要望活動回数								
	活動指標	総会開催回数	目標	回	1	1	1	1	1	同盟会規則に基づき会員市町村首長並びに議長出席による総会を年1回開催する。副会長の交代に伴う臨時総会を開催したため2回となった。	
			実績		1	1	2				
	<指標の計算方法>		総会開催回数								
	活動指標	検討会開催回数	目標	回	1	1	1	1	1	本道路の整備効果を検証する検討会を年1回開催した。	
			実績		1	1	1				
	<指標の計算方法>		検討会開催回数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	3,708			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,708	
事業の実績	①整備促進・要望活動 ・国会議員、国土交通省、和歌山県への要望活動を行った。			加盟22市町の商工会議所並びに商工会が賛助会員として加盟した。							
	②京奈和関空連絡道路建設促進期成同盟会負担金 ・負担金 149,875円 ・総会（通常総会・書面表決） ・啓発用物品作製（ポケットティッシュ作製） ・京奈和関空連絡道路の集いin泉佐野市へ参加した。			④ホームページ作成委託 ・事業の活動報告等を発信するためホームページを作成した。							
③京奈和関空連絡道路調査業務委託 ・調査業務委託費 本市負担金 1,568,325円 調査業務内容について、大阪府・和歌山県・泉佐野市・紀の川市にて、担当者会議を開催した。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・本道路構想実現に向けた要望活動は妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・本道路構想実現に向けた要望活動は有効である。 ・本道路構想実現に向けて、更なる広報活動を実施する必要がある。 ・本道路の整備効果検証を実施するには、専門知識を有するコンサルタントに委託することが適当である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・本道路構想実現に向けた要望活動は効率的である。										

事務事業の概要	事務事業名	市道等維持修繕事業			担当課	道路河川課		事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	92	
	予算科目	款	8 土木費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2 道路橋りょう費				施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
		目	2 道路橋りょう維持費				基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備			
事業概要	市道利用者が安全快適に利用できるように、市道の適切な維持管理や修繕を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	市道維持修繕			⑤	道路付属施設管理			⑨			
	②	融解作業委託			⑥				⑩			
	③	道路管理清掃委託			⑦				⑪			
	④	舗装メンテナンス			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	草刈清掃業務路線数	路線	目標						草刈業務については、継続的に実施している。		
				実績	52	50	52					
	<指標の計算方法>		年間草刈業務及び清掃委託路線数									
	活動指標	要望による道路修繕箇所数	箇所	目標						緊急性の高いところから修繕を優先的に実施している。		
				実績	102	125	50					
	<指標の計算方法>		地元要望による道路維持修繕箇所数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)				財源内訳							
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
221,339				35,490		65,000		5,359	115,490			
事業の実績	①市道維持修繕											
	・【R4線】											
	道路冠水警報装置											
	5箇所 19,987,600円											
	・【R5】											
道路修繕 50箇所 59,700,960円												
維持修繕 29箇所 8,032,381円												
②融解作業委託												
・融解作業												
8件32路線 3,963,867円												
③道路管理清掃委託												
・草刈清掃業務												
31件52路線 25,202,310円												
④舗装メンテナンス												
・【R4線】												
工事(2路線) 30,971,600円												
・【R5】												
工事(3路線) 39,355,800円												
⑤道路付属施設管理												
・道路灯修繕 15件 648,576円												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・委託と直営施工により市道の維持管理や修繕を行い、利用者が安全、快適に利用できるよう市が主体となり実施することは妥当といえる。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・市道の維持管理及び修繕をすることは、道路の安全性を高めるには有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・維持管理や簡易修繕は会計年度任用職員で直営施工し、また発注する修繕については、工法選定によりコスト削減に努めることは効果的である。 ・簡易的な修繕については、各支所に対応可能な範囲でお願いし作業効率の向上を図る必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	橋りょう維持修繕事業			担当課	道路河川課			事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	706		
	予算科目	款	8 土木費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	2 道路橋りょう費				施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	2 道路橋りょう維持費				基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備				
事業概要	橋りょう利用者が橋りょうを安全に利用できるように、5年毎に点検を行い、その結果を基に修繕を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	橋りょう維持修繕			⑤				⑨				
	②	調査業務			⑥				⑩				
	③				⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	橋りょう点検箇所数	橋	目標	129	239	239	86	122	目標通り点検を実施している。他事業で整備され点検の対象外となった橋梁もあり管理橋梁は、807橋となっている。定期点検(回/5年)は、平成30年で一巡し令和5年度で二巡目の点検が完了している。			
				実績	129	235	235						
	<指標の計算方法>		計画による橋りょう点検箇所数										
	活動指標	橋りょう点検進捗率	%	目標	41	71	100	11	26			目標通り点検を実施している。他事業で整備され点検の対象外となった橋梁もあり管理橋梁は、807橋となっている。定期点検(回/5年)は、平成30年で一巡し令和5年度で二巡目の点検が完了している。	
				実績	41	71	100						
	<指標の計算方法>		橋りょう点検に対する進捗率										
活動指標	橋りょう修繕件数	橋	目標	3	3	2	2	2	橋梁点検により早期の対応が必要な橋梁から補修を実施している。中津川橋・八幡橋については、関係機関との協議に時間を要したため工事を繰越した。				
			実績	5	5	1							
<指標の計算方法>		橋りょう点検に伴う修繕済み件数											
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
85,916			26,228			26,300				33,388			
事業の実績	①橋りょう維持修繕 ・設計業務(6橋) 30,163,100円 (海神橋・新池橋・北佐川橋・名手川橋・中池橋・桃山大橋) ・補修工事(3橋) 37,196,800円 (桃山大橋・中津川橋・八幡橋)												
	②調査業務 ・橋梁定期点検(235橋) 17,393,200円												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・橋梁個別施設計画に基づき橋梁の点検と修繕を計画的に進めることで橋梁を安全に利用できるよう市が実施することは妥当といえる。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・橋梁個別施設計画に基づき橋梁の点検と修繕計画を計画的に進めることは有効である。													
効率性	評価結果	改善の余地がややある											
	・橋梁の損傷を早期に発見し従来の対症療法的な維持管理から損傷が軽微な段階で予防的に対策を講じる予防保全型の維持管理を行うことで安全、安心を確保しつつライフサイクルコスト及び工法の検討によるコスト削減を図る。												

事務事業の概要	事務事業名	市道等改良事業			担当課	道路河川課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	689	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	2	道路橋りょう費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	3	道路橋りょう新設改良費		基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備				
取組方針	2	市道の整備・充実										
事業概要	市道利用者の利便性、安全性の向上を図るために、市道の改良工事を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	市道改良			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	市道改良箇所数		箇所	目標						継続的に事業実施されている。	
				実績		53	43	12				
	<指標の計算方法>		道路改良箇所数									
				目標								
				実績								
<指標の計算方法>												
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			105,326		1,666	46,900				56,760		
事業の実績	①市道改良											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・生活道路的な市道を地元からの要望を基に事業を行っていることから、真に危険な箇所、不便な箇所は、利便性の向上を図る必要があり、市が事業主体になることは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・生活道路的な市道を地元からの要望を基に事業を行っていることから、真に危険な箇所、不便な箇所を改良することにより、利便性の向上を図っており有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・使用部材、工法選定を検討しコスト削減に努め、より多くの工事に対応し少しでも道路の安全性、通行性を向上させる。											

事務事業の概要	事務事業名	道路整備等補助事業			担当課	道路河川課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	694	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	2	道路橋りょう費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	3	道路橋りょう新設改良費		基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備				
取組方針	2	市道の整備・充実										
事業概要	市民の住生活の改善を図るために、自治区の集落道や排水路の改修への補助を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	道路整備等事業補助金			⑤				⑨			
	②	生活環境施設整備事業補助金			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	補助金交付指令件数	件	目標						地元要望により毎年増減がある。		
				実績	14	20	12					
	<指標の計算方法>		地元要望に対する補助金件数									
	活動指標	整備率	%	目標	100	100	100			要望に伴う整備工事については、目標通り実施、完成している。		
				実績	100	100	100					
	<指標の計算方法>		補助金交付に対する整備率									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
2,260									2,260			
事業の実績	①道路整備等事業補助金 ・補助金(50%) 8件 1,641,000円											
	②生活環境施設整備事業補助金 ・補助金(50%) 4件 619,500円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市道以外の集落道路、集落排水については、地元(受益者)において機能管理しており住生活環境の向上を図る。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・自治区が事業主体で、毎年度申請があることもあり住生活環境の向上には有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・自治区が事業主体であり、コスト縮減に努め事業を効率的に進めるよう協議を行っている。											

事務事業の概要	事務事業名	主要幹線道路整備事業		担当課	道路河川課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	696	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2	道路橋りょう費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
		目	3	道路橋りょう新設改良費		基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備			
取組方針	2	市道の整備・充実									
事業概要	市道利用者の利便性の向上を図るために、市道（主要幹線道路）の整備、改良を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	市道東国分赤尾線			⑤					⑨	
	②	市道西野山平山線			⑥					⑩	
	③	市道丸85号線			⑦					⑪	
	④				⑧					⑫	
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	市道東国分赤尾線道路整備率	%	目標	80	90	100	100		用地交渉に時間を要し工事発注が遅れたため工事を繰越した。	
				実績	68	89	94				
	<指標の計算方法>		整備による進捗率								
	活動指標	市道東国分赤尾線(二工区)道路整備率	%	目標						令和6年度より用地交渉に入り、令和7年度より工事着手予定である。	
				実績							
	<指標の計算方法>		整備による進捗率								
	活動指標	市道西野山平山線道路整備率	%	目標			100	100		用地交渉に時間を要し工事発注が遅れたため工事を繰越した。	
				実績			49				
	<指標の計算方法>		整備による進捗率								
	活動指標	市道丸85号線道路整備率	%	目標						令和6年度より用地交渉に入り、令和7年度より工事着手予定である。	
				実績							
<指標の計算方法>		整備による進捗率									
コストの実績	R 5年度決算額(単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
117,209			53,597		52,300		658	10,654			
事業の実績	①市道東国分赤尾線										
	・【R4線】		工事	2件	11,167,000円						
	・【R5】		工事	3件	13,483,100円						
		補償	2件	1,176,330円							
		(二工区)委託	2件	22,716,100円							
②市道西野山平山線											
・【R5】		委託	1件	631,400円							
		工事	1件	41,400,000円							
		用地	6件	10,546,498円							
		補償	4件	5,476,500円							
③市道丸85号線											
・【R5】		委託	1件	10,611,700円							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・主要幹線市道を整備することにより利用者の利便性が大きく向上することから妥当といえる。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・主要幹線市道を整備するとともに歩道整備も視野に入れ計画することで歩行者の安全性が向上するため有効である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・コスト縮減に向けた部材、工法選定の検討が必要である。 ・国の補助事業を活用し市の財政負担の軽減を図っている。										

事務事業の概要	事務事業名	交通安全施設整備事業			担当課	道路河川課		事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	94	
	予算科目	款	8 土木費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	2 道路橋りょう費				施策目標	1 防災・防犯				
		目	4 交通安全施設費				基本施策	4 防犯・交通安全対策の推進				
事業概要	市道利用者の安全確保を図るために交通安全施設の整備を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	交通安全施設整備			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	交通安全施設工事・修繕箇所数	目標							損傷の激しい箇所から随時修繕を実施している。		
			実績		147	117	134					
	<指標の計算方法>		交通安全施設の設置箇所数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
		38,469		4,457		3,000				31,012		
事業の実績	①交通安全施設整備 ・工事、修繕 37,549,589円 カーブミラー 82箇所 防護柵 11箇所 区画線 28箇所 グリーンベルト 12箇所 道路灯 1箇所											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市道利用者の安全性を図るため交通安全施設の整備を市が実施することは妥当といえる。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・日常的な業務内での道路パトロールにより、施設の老朽化、損傷を早期に発見、修繕し安全性の向上を図ることは有効である。 ・施設の損傷度、緊急度、地域性を基に整備することは有効といえる。 ・全ての施設について、状態把握出来ないことから地区からの要望を受け確認施工することは有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・ミラー取替等、簡易な施工については、会計年度任用職員で施工することによりコスト縮減にもなり早急に対応できている。 ・他の現場を確認する際に併せてパトロールを行うことにより、業務量の増大を抑制している。											

事務事業の概要	事務事業名	国・県河川行政推進事業			担当課	建設総務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	95	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	3	河川費		施策目標	1	防災・防犯				
		目	1	河川総務費		基本施策	3	災害に強いまちの形成				
事業概要	計画的な河川行政の推進を図るために、関連団体の活動に参画する事業											
事務事業を構成する細事業	①	日本河川協会負担金			⑤	河川管理事務			⑨			
	②	紀の川改修促進期成同盟会負担金			⑥				⑩			
	③	紀の川水質汚濁防止連絡協議会			⑦				⑪			
	④	河川愛護・美化保全			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	総会参加回数(和歌山県河川協会)	回	目標	1	1	1	1	1	河川整備事業の促進のためには、本団体への要望活動及び総会への参画は必要不可欠である。		
			実績	1	1	1						
	<指標の計算方法>		総会参加回数(和歌山県河川協会)									
	活動指標	総会参加回数(紀の川改修促進期成同盟会)	回	目標	1	1	1	1	1	紀の川整備事業の促進のためには、本団体への要望活動及び総会への参画は必要不可欠である。		
			実績	1	1	1						
	<指標の計算方法>		総会参加回数(紀の川改修促進期成同盟会)									
	活動指標	総会参加回数(紀の川水質汚濁防止連絡協議会)	回	目標	1	1	1	1	1	紀の川水質汚濁防止のためには、本団体総会への参画は必要不可欠である。		
			実績	1	1	1						
	<指標の計算方法>		総会参加回数(紀の川水質汚濁防止連絡協議会)									
活動指標	河川一斉清掃参加人数	人	目標						国の示す河川愛護月間に、紀の川河川敷の清掃を実施しているが、国からの通達で熱中症対策により中止した。			
		実績										
<指標の計算方法>		河川一斉清掃参加人数										
コストの実績	R 5年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
	339			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	339		
事業の実績	①日本河川協会負担金 ・161,000円 治水利水防災事業の促進を図ることを目的とする。		・(許認可事務・法令に基づく規制等) その他各種事業に関する協議・要望 ・藤崎狭窄部対策事業に関する協議・調整 ・麻生津無堤防地区に関する協議・調整 ・貴志川浚渫要望 ・海神川土砂埋め立てに関する協議・調整 ・佐川改修事業に関する協議 ・紀の川改修100周年イベント									
	②紀の川改修促進期成同盟会負担金 ・48,000円 紀の川改修の促進を期し、流域住民が洪水による災禍を永遠に被らないよう努めることを目的とする。											
	③紀の川水質汚濁防止連絡協議会 協議会内で水質汚濁による情報共有することで早期対応を目的とする。											
	④河川愛護・美化保全 ・河川一斉清掃 (国からの通達で熱中症対策により中止)											
	⑤河川管理事務											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・総会等の参画に関しては、会員市としての責務であるため妥当である。 ・河川清掃を通じ、市民の水辺環境の美化保全を考えてもらう。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・個別事業に関する要望や協議事案については、専門的知識を有する人材配置が有効である。 ・河川清掃の開催時期を河川愛護月間に合わせることで、より多く市民に携わっていただいている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・国・県においては、河川整備計画に基づき事業を実施しているため効率性がある。 ・費用的にはボランティア清掃であるため、過大費用でない事業である。											

事務事業の概要	事務事業名	砂防行政推進事業			担当課	建設総務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1050	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	3	河川費		施策目標	1	防災・防犯				
		目	1	河川総務費		基本施策	3	災害に強いまちの形成				
事業概要	砂防行政の推進を図るために、関連団体の活動に参画する事業											
事務事業を構成する細事業	①	砂防行政事業			⑤					⑨		
	②	全国治水砂防協会負担金			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	総会参加回数	回	目標	1	1	1	1	1	土砂災害から市民の生命、財産を守るため、国や県と連携して防災機能の強化を図るため、総会等に参画する。		
		実績		1	1	1						
	<指標の計算方法>		総会参加回数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	73			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		73	
事業の実績	①砂防行政事業 全国治水砂防協会総会へ参加することで、治水・砂防施設の整備促進に向け関係省庁に対して要望活動を展開。											
	②全国治水砂防協会負担金 ・73,000円 和歌山県が実施する管内砂防整備事業について負担金として負担するもの。 細野地区砂防事業地元調整											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・治水砂防事業については、市民生活の安全性が向上されると見込まれるため妥当である。									
		評価結果	改善の余地がない ・治水砂防事業に伴う協議等については、専門的知識を有する職員の配置が有効である。									
	効率性	評価結果 改善の余地がない ・治水砂防事業については、市民生活の安全性が向上されるため効率的である。										

事務事業の概要	事務事業名	県営急傾斜地崩壊対策事業			担当課	建設総務課		事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1141	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	3	河川費		施策目標	1	防災・防犯				
		目	1	河川総務費		基本施策	3	災害に強いまちの形成				
取組方針	2	土砂災害防止対策の推進										
事業概要	急傾斜地崩壊対策として和歌山県が実施する事業に対し、市が費用を負担する事業											
事務事業を構成する細事業	①	県営急傾斜地崩壊対策事業負担金			⑤					⑨		
	②	災害緊急がけ崩れ対策事業負担金			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	県営急傾斜地崩壊対策事業負担金比率(寺垣内、小松原地区)	%	目標						和歌山県急傾斜地崩壊危険地として指定された地区の事業実施に伴う負担金2.5%を担う。(公共施設避難関連かつ大規模斜面)		
				実績		5		5	2.5			
	<指標の計算方法>		全体事業費×負担率									
	活動指標	県営急傾斜地崩壊対策事業負担金比率(寺長地区)	%	目標						和歌山県急傾斜地崩壊危険地として指定された地区の事業実施に伴う負担金10%を担う。		
				実績		10		10	10			
	<指標の計算方法>		全体事業費×負担率									
	活動指標	災害緊急がけ崩れ対策事業負担金比率	%	目標						和歌山県災害緊急がけ崩れ危険地として指定された箇所の実施に伴う負担金10%を担う。		
				実績					10			
	<指標の計算方法>		全体事業費×負担率									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額(単位:千円)				財源内訳							
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
22,984						22,400				584		
事業の実績	①県営急傾斜地崩壊対策事業負担金											
	<ul style="list-style-type: none"> 寺垣内地区(法面工) <ul style="list-style-type: none"> 事業費 26,900,000円 負担金 672,000円(2.5%) 小松原地区(法面工) <ul style="list-style-type: none"> 事業費 26,900,000円 負担金 672,000円(2.5%) 寺長地区(法面工) <ul style="list-style-type: none"> 事業費 63,900,000円 負担金 6,390,000円(10%) 											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・和歌山県が急傾斜地崩壊危険地区及び災害緊急がけ崩れ危険箇所として指定した地区について、対策事業に対する負担金であり妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・和歌山県が急傾斜地崩壊危険地区及び災害緊急がけ崩れ危険箇所として指定した地区について、対策事業に対する負担金であり有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・和歌山県が急傾斜地崩壊危険地区及び災害緊急がけ崩れ危険箇所として指定した地区について、対策事業に対する負担金であり効率的である。											

事務事業の概要	事務事業名	県営小規模土砂災害対策事業			担当課	建設総務課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1142	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	3	河川費		施策目標	1	防災・防犯				
		目	1	河川総務費		基本施策	3	災害に強いまちの形成				
事業概要	小規模土砂災害対策として和歌山県が実施する事業に対し、随行や地元調整を行う。											
事務事業を構成する細事業	①	県営小規模土砂災害対策事業負担金			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	県営小規模土砂災害対策事業負担金比率	%	目標						和歌山県小規模土砂災害危険地として指定された箇所の実施に伴う負担金10%を担う。		
				実績	10	10	10					
	<指標の計算方法>		全体事業費×負担率									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	550			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			550									
事業の実績	①県営小規模土砂災害対策事業負担金											
	<ul style="list-style-type: none"> 北山地区（法面工） <ul style="list-style-type: none"> 事業費 5,500,000円 負担金 550,000円(10%) 											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・和歌山県が小規模土砂災害危険地として指定された箇所について、対策事業に対する負担金であり妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・和歌山県が小規模土砂災害危険地として指定された箇所について、対策事業に対する負担金であり有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・和歌山県が小規模土砂災害危険地として指定された箇所について、対策事業に対する負担金であり効率的である。											

事務事業の概要	事務事業名	河川管理保全事業			担当課	道路河川課		事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	687	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	3	河川費		施策目標	1	防災・防犯				
		目	2	河川管理費		基本施策	3	災害に強いまちの形成				
事業概要	市が治水機能の維持と水辺環境の美化保全を図るために、河川、河川公園の維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	河川公園管理			⑤				⑨			
	②	河川管理保全			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名	単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	河川維持管理件数	件	目標						2箇所の浚渫工事を実施した。		
				実績	9	6	2					
	<指標の計算方法>		河川維持管理件数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	963			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			963									
事業の実績	①河川公園管理 (3河川公園) ・草刈清掃											
	②河川管理保全 ・準用河川 浚渫 (2河川) 962,500円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・準用河川、普通河川を維持管理することは、河川の氾濫、浸水被害を未然に防ぐ目的から妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・堆積土の浚渫や河川構造物の修繕をすることは、治水上有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・市内の全河川は、国県の管理河川に流れ込んでいることから、国県の河川維持管理が必要である。 ・計画的に河川の浚渫や護岸補修を進める事で効率が向上する。											

事務事業の概要	事務事業名	急傾斜地崩壊対策事業			担当課	道路河川課		事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	682	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	3	河川費		施策目標	1	防災・防犯				
		目	2	河川管理費		基本施策	3	災害に強いまちの形成				
事業概要	市民の安全性を確保するために、急傾斜対策を行った施設の維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	急傾斜地管理（調月北部）			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	急傾斜地の維持管理箇所数	箇所	目標	1	1	1	1	1	調月北部の急傾斜対策済箇所について維持管理を行っている。		
				実績	1	1	1					
	<指標の計算方法>		急傾斜地の維持管理箇所数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,311			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		1,311	
事業の実績	①急傾斜地管理（調月北部） ・草刈業務 1,311,200円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・急傾斜対策済箇所の維持管理を市が実施することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・急傾斜対策済箇所の除草をすることで法面の状態を把握するには有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・急傾斜対策済箇所の除草をすることで法面を適正に管理されている。											

事務事業の概要	事務事業名	都市計画推進事業			担当課	都市計画課		事業区分	ソフト事業					
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	681			
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境						
		項	4	都市計画費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通						
		目	1	都市計画総務費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備						
取組方針	1	「都市計画マスタープラン」に基づくまちづくりの推進												
事業概要	市の計画的な都市計画行政の推進を図るために、関連団体の運営や活動に参画する事業													
事務事業を構成する細事業	①	都市計画審議会運営			⑤	屋外広告物管理			⑨					
	②	全国都市計画協会負担金			⑥				⑩					
	③	全国都市計画街路事業促進協議会負担金			⑦				⑪					
	④	県都市計画協会負担金			⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析					
	活動指標	都市計画審議会開催件数	目標	1	1	1	1	1	都市計画審議会開催件数は、計画案件の有無により変動する。					
			実績	2	1	1								
	<指標の計算方法>		都市計画審議会開催件数											
	成果指標	屋外広告物の更新率	目標	80	80	80	80	80				郵送で更新依頼し申請が来なかった者に対して、電話等で再度更新手続きをお願いし更新率の向上につなげた。		
			実績	88	100	94.4								
	<指標の計算方法>		更新した件数÷更新予定件数（除却件数は除く）											
		目標												
		実績												
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	949			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	780 169				
事業の実績	①都市計画審議会運営 ・令和5年10月31日任期満了に伴う委員改選 (任期：令和5年11月1日～令和8年10月31日) ②全国都市計画協会負担金 ・全国都市計画協会事業費を負担した。 ③全国都市計画街路事業促進協議会負担金 ・全国都市計画街路事業促進協議会事業費を負担した。 ④県都市計画協会負担金 ・和歌山県都市計画協会事業費を負担した。 ⑤屋外広告物管理 ・屋外広告物の各種届出を審査し、許認可事務を行った。 ・違反広告物の簡易除却、パトロールを実施した。													
	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・住み良い都市環境の整備をするには、市以外が実施主体になりえない事務事業であるため妥当性がある。 ・違反広告物の減少により、良好な景観を形成している。(屋外広告物)												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
		・都市計画の案件に対して、都市計画審議会を開催し、審議会委員の意見を聴取することは有効性がある。 ・屋外広告物の許可申請書の審査や違反広告物のパトロールを行うことにより、良好な景観を守ることが有効性がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない												
	・都市計画審議会の審議により、都市計画行政をすすめることは、効率性がある。 ・屋外広告物の許可の更新依頼を郵送で行うことにより、問合せや相談に要する時間が短縮できている。													

事務事業の概要	事務事業名	開発指導事業			担当課	都市計画課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	677	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	4	都市計画費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	都市計画総務費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
事業概要	市民に住みよいまちを提供するために、開発事業者に適正な開発指導を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	開発計画審議会運営			⑤				⑨			
	②	開発指導			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	無届開発摘発件数	件	目標	0	0	0	0	0	令和5年度も特に摘発するものがなかった。		
				実績	0	0	0					
	<指標の計算方法>		無届開発摘発件数									
	活動指標	開発審議会開催件数	件	目標	2	2	2	2	2	令和5年度は、2回の開催だった。		
				実績	1	2	2					
	<指標の計算方法>		開発審議会開催件数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	230			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
								217	13			
事業の実績	①開発計画審議会運営 ・審議会の運営を実施した。											
	②開発指導 ・紀の川市開発指導要綱及び宅地造成等規制法に基づく技術的指針を遵守し、適正な住宅地等の開発指導を行った。 令和5年度 開発許可 2件 開発協議 17件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・無秩序な開発事業を防止し、適正な住宅地等の開発の指導を行うことは、妥当性がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・開発許可申請に対して、開発審議会を開催し、審議会委員の意見を聴取することは有効性がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・秩序あるまちづくりの形成のためには、事業者に対して開発指導を行うことは効率性がある。											

事務事業の概要	事務事業名	都市施設管理運営事業			担当課	都市計画課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	680	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	4	都市計画費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	都市計画総務費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
事業概要	市民が都市施設を安全で快適に利用できるように、維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	JR粉河駅周辺都市施設管理			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	管理不十分による問い合わせ件数	件	目標	0	0	0	0	0	適正な管理が行われているので、問い合わせがなかった。		
				実績	0	0	0					
	<指標の計算方法>		問い合わせ件数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	2,094			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,094		
事業の実績	①JR粉河駅周辺都市施設管理 ・植栽の手入れを適切な時期に行った。 ・トイレの日常管理を行った。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市民が安全・安心に暮らすためには、必要な事業であり、植栽の管理は、メンテナンスが必要な観点から継続して行う必要があるため妥当性がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・JR粉河駅周辺都市施設を管理することにより、市民が通行する際の安全面を確保することができ、有効性がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・粉河駅南の植栽管理や、トイレの日常管理を民間委託しているため効率性がある。											

事務事業の概要	事務事業名	被災建築物・宅地危険度判定事業			担当課	都市計画課			事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	新規	事業期間	単年度繰返し		事業番号	676			
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境						
		項	4	都市計画費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通						
		目	1	都市計画総務費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備						
取組方針	9	その他												
事業概要	迅速な災害復旧を図るとともに、市民に被災後の安全・安心に暮らしを提供するため、被災建築物や被災宅地の危険度判断を円滑に行う事業													
事務事業を構成する細事業	①	判定士研修・育成			⑤						⑨			
	②				⑥						⑩			
	③				⑦						⑪			
	④				⑧						⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析				
	活動指標	地震被災建築物応急危険度判定士新規登録	人	目標			2	2	2	2名予定していたが、都合により1名欠席。				
				実績			1							
	<指標の計算方法>													
	活動指標	被災宅地危険度判定士新規登録	人	目標			2	2	2			資格要件を満たした者から順次依頼しているが、令和5年度は、該当者無し。		
				実績			0							
	<指標の計算方法>													
				目標										
				実績										
	<指標の計算方法>													
			目標											
			実績											
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	80			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	80				
事業の実績	①判定士研修・育成 地震被災建築物応急危険度判定士 令和6年1月22日（和歌山市） 認定講習会に1名参加。													
	被災宅地危険度判定士養成講習会 令和5年11月21日（和歌山市） 資格要件を満たしている者が無いため参加者無し。													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・判定士の新規登録者数を増やすことは、有事の際、市民の安全確保のため、迅速な判定活動を行うことにつながるため、妥当である。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
・判定士の育成のための講習会等は、県が主体となって行われるため、改善の余地ない。														
効率性	評価結果	改善の余地がない												
		・判定士の育成のための講習会等は、県が主体となって行われるため、改善の余地ない。												

事務事業の概要	事務事業名	都市公園管理運営事業			担当課	都市計画課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	101	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	4	都市計画費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	2	都市公園費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	9	その他										
事業概要	市民が都市公園を安全で快適に利用できるように、都市公園の適切な維持管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	西井阪公園（南児童公園）施設管理			⑤	王子公園施設管理			⑨			
	②	東国分公園（中児童公園）施設管理			⑥	名手公園施設管理			⑩			
	③	古和田公園（北児童公園）施設管理			⑦	粉河河南緑地公園施設管理			⑪			
	④	秋葉山公園施設管理			⑧	平池緑地公園施設管理			⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	管理不足での事故件数	件	目標	0	0	0	0	0	遊具の安全点検等安全面を重視した管理を行った結果、事故なく管理ができた。		
				実績	0	0	0					
	<指標の計算方法>		事故件数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	25,171			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	9 25,162		
事業の実績	①～⑧各公園施設管理 ・施設、器具の修繕をした。 ・植木、トイレ等の日常管理を適切に行った。 【上記以外の実績】 ④・⑧の施設管理について、木が生い茂り、近隣の住民に支障をきたす恐れがあるため、高木の剪定及び伐採をした。 ⑤の施設管理について、遊具の修繕を行った。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・自治会や地域の人々に、維持管理を委託することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・自治会や地域の人々に、維持管理を委託することによって、より住民ニーズに合った事業内容にすることができている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・自治会や地域の人々に、維持管理を業務委託することによって、コスト効率性は高いと考える。											

事務事業の概要	事務事業名	都市公園活性化事業			担当課	都市計画課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	837		
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境					
		項	4	都市計画費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通					
		目	2	都市公園費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備					
取組方針	1	「都市計画マスタープラン」に基づくまちづくりの推進											
事業概要	市民の都市公園利用の促進を図るために、都市公園でイベント開催等を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	貴志川イルミネーション実行委員会			⑤				⑨				
	②	大賀ハス観蓮会実行委員会			⑥				⑩				
	③				⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	イベント開催回数	回	目標	2	2	2	2	2	令和5年度は、観蓮会については台風2号の被災状況を考慮し中止となった。貴志川イルミネーションは、開催した。(ただし、式典は中止。)			
		実績	0	1	1								
	<指標の計算方法>		イベント開催回数										
		目標											
		実績											
	<指標の計算方法>												
	目標												
	実績												
<指標の計算方法>													
	目標												
	実績												
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	576			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	576			
事業の実績	①貴志川イルミネーション実行委員会 ・実行委員会を軸に貴志川イルミネーションを実施した。 ②大賀ハス観蓮会実行委員会 ・実行委員会を軸に大賀ハス観蓮会の開催を予定していたが、台風2号による被災状況を考慮して中止となった。												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・実行委員会に運営の主体において、行政側がサポートすることは、イベントの本質から鑑み妥当性がある。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・都市公園でイベントを開催することにより、幅広い年齢層の人々が都市公園に関心を示し、来場されることで紀の川市の魅力、関心が高まることは有効である。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・実行委員会に運営の主体において、行政側がサポートすることは、イベントの本質から鑑み効率性がある。												

事務事業の概要	事務事業名	運動公園管理運営事業			担当課	生涯スポーツ課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	873	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	4	都市計画費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ				
		目	3	運動公園費		基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実				
取組方針	3	スポーツ施設の充実と適切な管理										
事業概要	市民が運動公園施設を安全で快適に利用できるように、維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	桃源郷運動公園陸上競技場施設管理			⑤	市民公園(打田若もの広場)施設管理			⑨	市民公園(トレーニングルーム)施設管理		
	②	愛宕池公園施設管理			⑥	市民公園(市民プール)施設管理			⑩			
	③	粉河運動場施設管理			⑦	市民公園(テニスコート)施設管理			⑪			
	④	市民公園(市民体育館)施設管理			⑧	市民公園(ゲートボール場)施設管理			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	年間利用者数	人	目標	195,000	198,000	198,000	198,000	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行となり、市民等がスポーツに触れる機会や活動の場が増加したこと、また、各種イベント等が開催されるようになったことにより利用者数が増加している。			
				実績	147,179	159,176	223,664					
	<指標の計算方法>		運動公園施設全体の年間利用者数									
	活動指標	施設使用料	円	目標	9,952,000	3,452,000	3,500,000	3,500,000	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行となり、施設使用の機会が増えたことにより、施設使用料収入が増加している。なお、指定管理分の使用料収入(「事業の実績」参照)は、令和4年度より実績には含まれていません。			
				実績	5,787,900	2,717,020	3,054,335					
	<指標の計算方法>		運動公園施設の使用料									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	180,208			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
						23,700		3,054		153,454		
事業の実績	施設利用状況			⑤市民公園(打田若もの広場)施設管理								
	①桃源郷運動公園陸上競技場施設管理 ・サッカー 109件 12,137人 ・陸上 116件 4,400人 ・その他 7件 375人			463件 66,380人								
②愛宕池公園施設管理 ・多目的グラウンド 98件 3,447人 ・テニスコート 2件 6人 ・ゲートボール場 0件 0人			⑥市民公園(市民プール)施設管理 7,776人									
③粉河運動場施設管理 ・野球場 74件 3,593人 ・ソフトボール場 70件 3,357人 ・多目的広場 150件 4,956人 ・テニスコート 293件 2,345人			⑦市民公園(テニスコート)施設管理 2,251件 22,402人									
④市民公園(市民体育館)施設管理 2,395件 71,644人			⑧市民公園(ゲートボール場)施設管理 42件 387人									
			⑨市民公園(トレーニングルーム)施設管理 20,459人									
			※④～⑨はR4.4.1から指定管理者による施設の管理・運営を実施 指定管理分利用者数：189,048人 指定管理分使用料収入：12,159,310円									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
		・市民が利用する施設であるため、備品や設備等の充実を図るなど環境を整えた上で適正な管理が必要である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・安全で快適に利用できる施設を目指し、市民ニーズを適確に把握していく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・市民公園施設を指定管理者による管理運営を実施している。他の施設についても、利用者数の増加と運営効率の観点から、民間活力の導入を検討していく必要がある。 ・受益者負担の公平性の観点から、施設使用料の在り方について引き続き検討していく。											

事務事業の概要	事務事業名	市営住宅施設管理事業			担当課	住宅政策課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	655	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	5	住宅費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	住宅費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	9	その他										
事業概要	市営住宅入居者が快適に市営住宅を利用できるように、施設管理や入居者管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	市営住宅施設管理			⑤						⑨	
	②	入居者管理			⑥						⑩	
	③				⑦						⑪	
	④				⑧						⑫	
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	修繕戸数	戸	目標						適正な施設の維持管理が行えている。受動的な業務が多く目標設定することにはそぐわない。		
				実績	90	104	116					
	<指標の計算方法>		修繕戸数									
	活動指標	公募戸数	戸	目標	3	9	7	6	7戸を公募し、4戸に入居者が入った。令和4年度実績と比較し少ない結果となった。			
				実績	3	9	4					
	<指標の計算方法>		公募戸数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	42,410			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①市営住宅施設管理 ・適正な施設の維持管理を行い、不具合等については修繕対応を行った。修繕箇所数は増加傾向にあり、規模の大きな修繕が増え、全体的な老朽化が見受けられる。 修繕箇所 111件実施 公募用住宅の修繕 3件実施											
	②入居者管理 ・7戸の公募を行った。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市営住宅に対するニーズは少なからずある。住宅に困窮している低額所得者のためのものであり、修繕していくことは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・一定数の公募をする必要があると思うが、住宅に困窮している低額所得者のための住宅確保が目的であるため、必ずしも入居者数が増えることが有効性を示すものではない。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・施設管理の一部に関して、業務分担や委託をするなど検討の余地はある。											

事務事業の概要	事務事業名	市営住宅改修事業			担当課	住宅政策課			事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	654		
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境					
		項	5	住宅費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通					
		目	1	住宅費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備					
取組方針	9	その他											
事業概要	市営住宅入居者が市営住宅で安全、安心に生活できるように、耐震診断や改修を行う事業 社会資本整備総合交付金対象事業（国庫補助事業）である。												
事務事業を構成する細事業	①	改修			⑤						⑨		
	②				⑥						⑩		
	③				⑦						⑪		
	④				⑧						⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	長寿命化改修		棟	目標	0	0	10	8	2	長寿命化計画を基に、中野井改良住宅8棟16戸について、屋根、ベランダ等の防水改修。 また、下野井公営住宅2棟11戸について、屋根、ベランダ等の防水改修及び外壁改修。		
		<指標の計算方法>			実績	0	0	10					
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>		改修棟数										
			目標										
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
	91,569			46,376						45,193			
事業の実績	①改修 ・中野井改良住宅8棟16戸分の屋根、ベランダ等の防水改修を行いました。 ・下野井公営住宅2棟11戸分の屋根、ベランダ等の防水改修及び外壁改修を行いました。												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・市営住宅の長寿命化を図る事業であり、市が実施主体となり継続的に進めることが妥当である。										
		評価結果	改善の余地がややある ・市営住宅の改修や修繕について、建築の知識などを有する職員を配置することや専門部署からの助言・応援体制により正確且つ迅速に対応できるので有効である。										
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・市営住宅の整備は一定水準以上の品質を有する必要があるため、設計監理及び工事請負ともに入札によるものでコスト削減の余地はない。										

事務事業の概要	事務事業名		市営住宅解体整備事業			担当課	住宅政策課			事業区分	ハード事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	1046
	予算科目	款	8	土木費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	5	住宅費				施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
		目	1	住宅費				基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備			
事業概要		市民が市営住宅を今後も利用できるように、解体整備を計画的に行う事業											
事務事業を構成する細事業		①	応神公営住宅解体			⑤					⑨		
		②				⑥					⑩		
		③				⑦					⑪		
		④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析				
	活動指標	市営住宅解体	棟	目標	0	3	2	2	0	応神公営住宅2棟の解体を実施。			
				実績	0	3	2	2					
	<指標の計算方法>		解体棟数										
				目標									
				実績									
	<指標の計算方法>												
				目標									
				実績									
	<指標の計算方法>												
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	10,273			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
					9,700				573				
事業の実績	①応神公営住宅解体 ・2棟4戸分の解体工事を行い、跡地を整備した。												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・老朽化し使用されていない市営住宅については、解体、整地を行っていく必要があり妥当である。										
		評価結果	改善の余地がない ・建築分野の知識を持った職員を配置し、適正な解体業務を行っている。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない ・老朽化及び耐震性能の不足による解体のため、コスト削減は難しいと考える。										
効率性													

事務事業の概要	事務事業名	市営住宅整備事業			担当課	住宅政策課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R3～R7)	事業番号	1165		
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	5	住宅費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	住宅費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
事業概要	耐用年数が過ぎ、耐震基準に適合していない市営住宅については、入居者の安全性が確保できないため市営住宅の建替えを行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	市営住宅整備			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			

指標の実績	指標名		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	指標の分析		
	活動指標	市営住宅建設設計業務契約件数	件	目標			1			市営住宅建設 令和5年度 設計 令和6年度 工事着工 令和7年度 工事完了	
			実績			1					
	<指標の計算方法>		市営住宅建設設計業務契約件数								
	活動指標	市営住宅建設工事の進捗率	%	目標				10	100	工期スケジュールどおり工事が進み、予定進捗率を達成する。	
			実績								
	<指標の計算方法>		市営住宅建設工事の出来高率								
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R5年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	58,841	39,400						19,441

事業の実績	①市営住宅整備 ・市営住宅建設工事設計業務委託 契約金額：61,488,900円					

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・市営住宅建設は、耐震性のない住宅の建替えであり、入居者の安全性を確保することは妥当である。
	有効性	評価結果	改善の余地がややある ・建築の知識などがある専門職員の配置して耐震性のない住宅を集約し整備することにより、維持管理の効率化等を図ることが出来ることから有効である。
	効率性	評価結果	改善の余地がややある ・市営住宅を集約することにより維持管理業務の効率化及び建築の知識などがある専門職員の配置して経費削減を図ることができる。

事務事業の概要	事務事業名	住宅用地管理運営事業			担当課	住宅政策課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	419	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	5	住宅費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	住宅費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	9	その他										
事業概要	旧町において販売した住宅用地にかかる債権の管理・徴収を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	住宅用地管理			⑤				⑨			
	②	徴収			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	売買金の徴収金額	円	目標	1,730,000	1,730,000	1,030,000	730,000	730,000	目標を達成するために、返済に滞りがないう随時交渉を進めている。		
				実績	1,916,000	1,680,000	980,000					
	<指標の計算方法>		個別の徴収金額の積上げ									
	成果指標	売買金の残額	円	目標	15,717,000	13,801,000	12,821,000	12,141,000	11,411,000	毎月契約者を訪問し、納付指導している。		
				実績	15,531,000	13,851,000	12,871,000					
	<指標の計算方法>		個別の残額の積上げ									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①住宅用地管理 ・契約金額完済の該当がありませんでした。											
	②徴収 ・契約金未納7件の内、5名から集金しました 1. 60,000円 2. 550,000円 3. 100,000円 4. 240,000円 5. 30,000円 計 980,000円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・同和対策事業に関連して立ち退き等を余儀なくされた地権者への土地販売であることから妥当である。									
		評価結果	改善の余地がややある ・契約者の死亡など解決困難な懸案が残っているが、適正な解決・事業終了を図るべき方策を立てることが有効である。									
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・費用の大半が人件費となっているので、早期に事業を終了させることが一番の費用削減になるが内部事情に精通している人員を配置することは適正である。									

事務事業の概要	事務事業名	市営住宅使用料等徴収事業			担当課	住宅政策課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	657	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	5	住宅費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	住宅費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	2	市営住宅の長寿化の推進										
事業概要	市営住宅入居者の公平性を確保し、市営住宅の適正管理を行うために、住宅使用料の適正な徴収を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	住宅管理指導員設置			⑤				⑨			
	②	徴収			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	市営住宅 (現年) 収納金額	千円	目標	4,589	3,644	3,644	3,644	3,644	新たな滞納をつくらないように指導する。		
				実績	4,000	3,489	3,498					
	<指標の計算方法>		実績を元に計算									
	活動指標	市営住宅 (過年) 収納金額	千円	目標	303	157	156	156	156	新たな滞納をつくらないように指導し、滞納額は分納計画などにより納付してもらう。		
				実績	106	162	173					
	<指標の計算方法>		実績を元に計算									
	活動指標	改良住宅 (現年) 収納金額	千円	目標	25,097	23,532	23,532	23,532	23,532	新たな滞納をつくらないように指導する。		
				実績	22,503	23,497	23,428					
	<指標の計算方法>		実績を元に計算									
	活動指標	改良住宅 (過年) 収納金額	千円	目標	1,084	1,946	1,930	1,930	1,930	新たな滞納をつくらないように指導し、滞納額は分納計画などにより納付してもらっているが、実績が目標を下回っている。		
				実績	1,852	516	1,239					
<指標の計算方法>		実績を元に計算										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位:千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
3,625										3,625		
事業の実績	①住宅管理指導員設置 ・住宅管理指導員1名を配置して、助言をもたらした。											
	②徴収 ・駐車場使用料 1,642,980円 ・市営住宅使用料 3,671,920円 ・改良住宅使用料 24,667,900円 を徴収しました。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・住宅に困窮している低所得者に住宅を提供しているため妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・他の料金を徴収している部課があるので、連携することも可能である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・入居者の大半が低所得者で、収納状況の変化による家賃納付の相談が多いことから、コストを最小限に抑えて運営しており、市が実施することが適正である。											

事務事業の概要	事務事業名	建築指導事業			担当課	住宅政策課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	1070
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	5	住宅費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	住宅費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	1	「都市計画マスタープラン」に基づくまちづくりの推進										
事業概要	市民に無秩序な建築等が防止された住みよいまちに居住してもらうために、市民（施工事業者）からの建築確認申請等の審査や受付を行なう事業											
事務事業を構成する細事業	①	建築確認審査			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	建築確認申請経由進達	件	目標						建築確認申請の審査を的確に行うことで、速やかに経由進達が出来た。民間検査機関へ申請が普及してきたため、本市への経由進達数は減少しているとともに、受動的な業務であるため、目標を設定することはそぐわない。		
				実績	123	42	23					
	<指標の計算方法>		経由進達件数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	2,766			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,766		
事業の実績	①建築確認審査 ・建築確認申請等が紀の川市の各種規制に適合しているか審査して、建築主事に経由進達した。											
	経由進達数23件											
	また、進達と同等事務内容の民間検査機関からの照会書についても本市の各種規制に適合しているか審査して回答した。 照会書回答251件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・建築確認申請内容が、紀の川市各種規制に適合しているか審査し、建築主事に進達する事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・建築主事を補うため、市内各種規制の情報を提供している。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・建築主事を補うため、市内各種規制の情報を提供している。											

事務事業の概要	事務事業名		住宅耐震化促進事業				担当課	住宅政策課		事業区分	ソフト事業	
	新規・継続		継続		事業期間	単年度繰返し		事業番号		673		
	会計		一般会計				長期総合計画体系	政策目標	1		安全・安心	
	予算科目	款	8 土木費					施策目標	1		防災・防犯	
		項	5 住宅費					基本施策	3		災害に強いまちの形成	
目		1 住宅費				取組方針		4		住宅耐震化の促進		
事業概要		市民が耐震基準の満たされた住宅に居住できるように、耐震基準を満たさない民間住宅の耐震化の促進と診断、改修に対する補助を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①		木造住宅耐震診断事業				⑤			⑨		
	②		住宅耐震改修事業補助金交付事業				⑥			⑩		
	③		耐震化促進啓発				⑦			⑪		
	④						⑧			⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	木造住宅耐震診断件数	目標	60	60	60	60	60	国、県の補助事業等を活用し、県建築士会に業務委託して耐震診断実施が39件あったが、令和4年度の実績数より少なかった。			
			実績	54	46	39						
	<指標の計算方法>		件数									
	成果指標	住宅耐震改修事業費補助	目標	20	20	20	20	20	国、県の補助金等を活用して、耐震補強設計と耐震改修工事の総合的な実施が10件あったが、令和4年度の実績数より少なかった。			
			実績	21	12	10						
	<指標の計算方法>		補助件数									
活動指標	戸別訪問	目標	350	350	350	350	350	県、建築士会と協力して、耐震化について啓発し、補助制度を利用した耐震化促進に繋げている。令和5年度の実績件数は、令和4年度よりも多く訪問できている。				
		実績	91	80	110							
<指標の計算方法>		訪問戸数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	13,311			国庫支出金	2,982	県支出金	3,798	地方債	繰入金	その他	一般財源	6,531
事業の実績	<p>①木造住宅耐震診断事業 ・県建築士会への委託により、診断士を派遣して、申請者に診断結果を報告した。</p> <p>②住宅耐震改修事業補助金交付事業 ・耐震補強設計、耐震改修工事の補助金を交付した。</p> <p>③耐震化促進啓発 ・県、県建築士会の協力のもと戸別訪問、及び広報による啓発を実施した。</p>											
	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		<ul style="list-style-type: none"> 国、県の交付金や補助金を活用しての事業実施であり、市が実施主体となり継続的に進めることが妥当である。 危険度判定士の講習会等は、県が主体となって行われるため、改善の余地がない。 										
有効性	評価結果	改善の余地がない										
	<ul style="list-style-type: none"> 補助制度を活用した耐震診断、耐震改修を行うことで、耐震化が図られている。 											
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	<ul style="list-style-type: none"> 会計年度任用職員による訪問啓発、技術職員による検査対応ができています。 											

事務事業の概要	事務事業名	空家等対策事業			担当課	住宅政策課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	678	
	予算科目	款	8 土木費			長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境					
		項	5 住宅費				施策目標	1 都市基盤整備・公共交通					
		目	1 住宅費				基本施策	1 土地の有効利用と住みよい都市環境の整備					
取組方針	3 空き家対策の推進												
事業概要	空家の倒壊による事故を防ぎ、景観、環境面の保全を図るために、空家所有者に空家の適正管理等を促す事業												
事務事業を構成する細事業	①	空家等対策協議会運営			⑤					⑨			
	②	空家等指導			⑥					⑩			
	③	特別措置法に基づく措置			⑦					⑪			
	④				⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	空家除却件数	戸	目標	1	1	1	1	1	除却に限らず、適正な管理に務める助言・指導を行う。建材の飛散防止などの対応がされている場合もある。助言・指導により2件除却			
				実績	0	0	2						
	<指標の計算方法>		危険性の高い空家等の除却件数										
	活動指標	特別措置法に基づく指導件数	件	目標	5	5	5	3	3		特定空家の所有者に対して、特別措置法に基づく段階的な指導を行う。助言・指導5件		
				実績	5	5	5						
	<指標の計算方法>		指導等の件数										
				目標									
				実績									
	<指標の計算方法>												
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他		一般財源			
	260									260			
事業の実績	①空家等対策協議会運営 ・協議会において、法に基づく段階的な措置の実施について協議した。 ・令和6年度から始まる不良空家等除却補助金交付事業について協議した。												
	②空家等指導 ・空家等の所有者等に対し、対策や除却などの対応をとるよう助言・指導を行った。除却2件												
	③特別措置法に基づく措置 ・特定空家の所有者等に対して、法に基づく「助言・指導」を行った。												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・特別措置法に基づく措置等、市が実施主体になることが妥当である。											
		評価結果	改善の余地がない										
	有効性	・市からの助言で対応に至ることもあるので、行政からの助言・指導は有効的な手段である。											
		評価結果	改善の余地がない										
		・コスト削減の余地がない											
	効率性												

事務事業の概要	事務事業名	住宅新築資金等貸付事業		担当課	住宅政策課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1217		
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	5	住宅費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	住宅費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	9	その他										
事業概要	歴史的・社会的理由によって、生活環境等の安定向上が阻害されている地域の住環境改善対策の一環として、住宅の改修や住宅新築促進のため、国の施策に基づき市が貸し付けた資金の収納事務を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	住宅新築資金等貸付			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	住宅新築資金等貸付収納率	%	目標			3	3	3	3	残債については債務者の事情により納付が困難な事案への対応が大半を占めている状態である。	
				実績		2.53	2.45					
	<指標の計算方法>		収納額÷調定額×100									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,838			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,433		
事業の実績	①住宅新築資金等貸付 ※令和3年度まで住宅新築資金等貸付事業特別会計で実施してきた事業であるが、令和4年度より一般会計で事業を実施している。											
	【内訳】											
	住宅新築資金（国費）収納率 2.67%											
	住宅新築資金（県費）収納率 0.57%											
	宅地取得資金（国費）収納率 2.97%											
住宅改修資金（国費）収納率 0.16%												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・当該事業は、市町村の負担を軽減し貸付事業の円滑な実施を目的として国と県が財政的な助成を行う制度として昭和42年度から住宅改修資金貸付事業、昭和48年度に宅地取得事業、昭和49年度に住宅新築資金貸付事業が創設され、旧町（那賀町・桃山町・打田町）での貸付事業が運営されて個人への貸付償還事務がされていた。平成17年度の市町村合併後、引続き償還残額が残されている個人に対して回収が続いており、事業を引続き実施することは妥当性がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・適正に債権を管理・回収していく必要があるため、本事業の有効性は高いが、債権回収にかかる事務には非常に高い知識などが必要であるため、会計年度任用職員を含めた職員のスキルアップなどにより有効性を高める必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・実務経験が豊富な会計年度任用職員の派遣を行うことで、円滑な納付交渉が実現している。 ・債権回収にかかる事務には非常に高い知識などが必要であり、会計年度任用職員を含めた職員のスキルアップなどにより効率性を高める必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	危機管理対策事業			担当課	危機管理消防課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	946		
	予算科目	款	9 消防費			長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1 消防費				施策目標	1	防災・防犯			
		目	1 消防総務費				基本施策	1	地域防災力の向上			
取組方針				3	行政の防災対応力の強化							
事業概要	市の危機発生時における防災力の強化につなげるために、市民、職員、協力機関が災害に備えて防災体制の整備を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 防災会議運営			⑤ 災害時応援協定			⑨ 災害対策費用保険					
	② 国民保護協議会運営			⑥ 職員防災力強化			⑩					
	③ 災害対策本部運営			⑦ 県総合防災情報システム運営負担金			⑪					
	④ 地域防災計画・ハザードマップ管理			⑧ 県防災ヘリコプター運航連絡協議会負担金			⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	職員避難所開設等訓練	目標	3	3	3	3	3	R5. 5. 24 新規採用職員訓練 R5. 11. 1 紀の川市防災総合訓練(現地事前説明会) R5. 11. 12 紀の川市防災総合訓練			
			実績	2	2	3						
	<指標の計算方法>		避難所の開設数(実災害を除く)									
	成果指標	災害協定締結件数	目標	40	45	50	61	63	各種団体と災害協定を順次締結しており、年々協定数は増加している。			
			実績	43	48	59						
	<指標の計算方法>		協定件数(累計)									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
	36,587			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	36,587		
事業の実績	①防災会議運営 ・3月4日実施(委員28人出席)			⑥職員防災力強化 ・国:Jアラートテスト実行6回、Jアラート情報伝達訓練4回、Jアラート緊急地震速報訓練2回、Lアラート伝達訓練1回、大滝ダム管理演習1回 ・県:物資調達・輸送調整等支援システム訓練2回、孤立集落通信訓練1回、非常通信訓練(那賀振興局)1回、防災相互通信訓練1回 ・市:防災総合訓練1回、新規採用職員・安全推進監防災研修・訓練1回、情報伝達訓練1回 ・その他:無線訓練(岩出警察署)1回			⑨災害対策費用保険 ・避難指示等を発令した場合の災害対応にかかる避難所の開設運営費用や救助費用職員の手当等を対象に保険金が支払われる。 5,000,000円(6/2梅雨前線による大雨及び台風2号対応分) 1,407,175円(8/14台風7号対応分)					
	②国民保護協議会運営 ・3月4日実施(委員25人出席) ・国民保護法に基づき国が定める「国民の保護に関する基本指針」等の改正に伴い市国民保護計画を修正し協議会に諮った			⑦県総合防災情報システム運営負担金 ・県防災システム(震度情報ネットワークシステム含む) 322,669円 ・きのくにe-ねっと 307,824円			⑧県防災ヘリコプター運航連絡協議会負担金 6,600,031円					
	③災害対策本部運営 ・6月2日災害対策本部設置 配備体制1号 1回 ・新型コロナウイルス対策本部の開催 2回											
	④地域防災計画・ハザードマップ管理 ・災害対策基本法、水防法等の改正に伴い市地域防災計画にも反映											
	⑤災害時応援協定 ・災害発生時の各種協定の締結 締結により11団体増加											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・防災の観点から必要不可欠な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・災害が発生した場合に効果は検証出来るが、他の事業と比べて非常に検証しづらい。												
効率性	評価結果	改善の余地が大きい										
	・災害対策本部運営について、今後システムの導入、研修等の実施を行い効率化を図る必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	地域防災力強化事業		担当課	危機管理消防課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	
	予算科目	款	9 消防費		長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心		
		項	1 消防費			施策目標	1	防災・防犯		
		目	1 消防総務費			基本施策	1	地域防災力の向上		
事業概要	市民、自治区の防災意識の向上と地域防災力の向上につなげるために、防災に関する啓発や訓練の支援、または、資機材整備の補助を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	防災総合訓練		⑤	防災ボランティア活動負担金		⑨			
	②	小学生防災教室		⑥	防災ボランティア活動補助金		⑩			
	③	防災啓発研修会		⑦	自主防災組織育成事業補助金		⑪			
	④	防災リーダー会		⑧	自主防災組織の研修及び訓練		⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	自主防災組織率（世帯割）	目標	100	100	100	100	100	自主防災組織設立自治区は増加しなかったが、全体世帯数の減により組織率は微増している。	
			実績	88.1	88.2	88.3				
	<指標の計算方法>		自主防災組織設立自治区世帯数÷全自治区世帯数×100							
	成果指標	市や地域での防災訓練への参加者数	目標	4,500	5,000	5,000	5,000	5,000	防災総合訓練参加者数は令和4年度よりも増加した。3年ぶりに実動的な防災総合訓練が実施されたことに伴い、参加者が増加傾向にある。	
実績			707	1,148	1,372					
<指標の計算方法>		防災訓練への参加者数								
成果指標	自主防災組織の活動に参加している市民の割合	目標	50	50	50	50	50	令和5年度は防災訓練が実施されたことに加え、地域の研修なども多く実施されたことに伴い地域の防災意識が向上されていることが分かる。		
		実績	9.4	9.6	11.1					
<指標の計算方法>		市民意識調査でお住まいの地域における防災研修や防災訓練に「参加している」と回答した市民の割合								
成果指標	水や食料などを備蓄している市民の割合	目標	70	70	70	70	70	令和4年度に比べ数字が減少しているが、指標③では地域での防災意識が向上しているため、今後は備蓄啓発にも積極的に取り組む必要がある。		
		実績	46.8	52.4	45					
<指標の計算方法>		市民意識調査で「一週間分以上の備蓄をしている」「3日分程度の備蓄をしている」と回答した市民の割合								
コストの実績	R 5年度決算額（単位：千円）			財源内訳						
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
			2,366		71				2,295	
事業の実績	①防災総合訓練 令和5年度(第13回)紀の川市防災総合訓練の実施…1,372名参加 内訳:自主防災組織・自治区(473名)、消防団(667名)、防災リーダー会(22名)、市職員関係(210名)			④防災リーダー会 総会1回・役員会…5回 研修…2回 県外研修…0回 補助金…28,000円			⑧自主防災組織の研修及び訓練 研修回数…2回、参加者数 73名 訓練回数…7回、参加者数 237名 合計 …9回、参加者数 310名			
	②小学生防災教室 市内6校(4～6年生児童)…768名参加 各小学校単位で家庭や地域の防災につなげることを目的として、対象校の体育館等において、6つのコーナーを設け防災啓発を行った。実施後は、参加者及び関係教職員に対しアンケートを実施した。			⑤防災ボランティア活動負担金 3団体(82名)の防災ボランティア活動 保険加入			⑥防災ボランティア活動補助金 打田福祉防災ボランティア会… 77,000円 粉河福祉防災ボランティア会… 75,000円 那賀福祉防災ボランティア会… 79,000円 桃山福祉防災ボランティア会… 116,000円 貴志川福祉防災ボランティア会…80,000円			
	③防災啓発研修会 研修回数… 11回、参加者 521名 訓練回数… 1回、参加者 4名 合計 … 12回、参加者 525名			⑦自主防災組織育成事業補助金 18組織…1,380,900円						
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある							
		・全市民が避難所の開け方や設営等を習得できるよう自治区の訓練研修で防災の啓発推進を今後も行う必要がある。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある							
・地域における防災訓練の際に専門性のある那賀消防組合等の積極的な参画を図る。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある								
	・自主防災組織等関係団体の訓練を同時開催するなど、地域の連携を強化し効率的に防災意識の向上を図る。									

事務事業の概要	事務事業名	家具転倒防止対策促進事業			担当課	危機管理消防課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1005	
	予算科目	款	9 消 防 費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 消 防 費				施策目標	1 防災・防犯				
		目	1 消防総務費				基本施策	1 地域防災力の向上				
取組方針	1		防災意識の啓発、普及									
事業概要	市民の災害発生時の被害を軽減するために、家具転倒防止対策に支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	金具取付委託			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	家具転倒防止金具取付支援事業	件	目標	30	30	45	45	45	市公式LINEを活用した周知及び自主防災組織等の研修・訓練が増えたことで、推進や周知する機会も増え、実績値が目標を上回った。		
				実績	30	31	47					
	<指標の計算方法>		申請件数									
	成果指標	家具固定を行っている市民の割合	%	目標	50	50	50	50	50	高齢者の家具を固定していない割合は依然として高いが、支援事業への申請件数の増加などから、意識の向上につながってきていると考えられる。		
				実績	24.1	29.6	28.4					
	<指標の計算方法>		市民意識調査で「固定している」「固定が必要な家具類がない」と回答した市民の割合									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			2,929		1,460					1,469		
事業の実績	①金具取付委託 ・1申請あたり3台の家具を上限に金具取付 ・47世帯実施											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・家具転倒防止については、個人や各家庭で出来る有効な防災対策ではあるが、高齢者世帯や要配慮者のいる世帯では、個人による対策が難しい状況があると思われるため、市が支援を行う必要がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、自主防災組織やその他団体等の防災訓練や研修が増え、それと同時に啓発を行う機会も増えたことで、家具固定の有効性は理解してもらっているが、依然として啓発機会が少ない。 ・今後も継続して、市公式LINEを活用した周知を行い、家具転倒防止金具取付支援事業申請者の増加や、防災意識の向上に努める必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・取付業者と申請者間での取付日程の調整等で、取付完了まで時間を要する場合がある。迅速な工事対応ができるよう働きかける。											

事務事業の概要	事務事業名	消防防火対策事業			担当課	危機管理消防課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	647	
	予算科目	款	9 消防費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 消防費				施策目標	1 防災・防犯				
		目	1 消防総務費				基本施策	2 効率的で効果的な消防体制の整備				
事業概要	市民の防火意識の向上と防火体制の強化を図るために、協力機関・団体へ補助等の支援や運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	消防防火対策業務			⑤				⑨			
	②	阪和林野消防協議会負担金			⑥				⑩			
	③	消防協会負担金			⑦				⑪			
	④	女性防火クラブ補助金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	地区研修等活動数	回	目標	30	30	30	30	30	新型コロナウイルス感染症の5類移行後、活動数は増加傾向にあるが、自粛期間が長かったこともあり活動再開できていない地区もあることで目標の回数を達成できなかった。		
			実績	11	8	23						
	<指標の計算方法>		年間活動数									
	活動指標	市主催行事開催数	回	目標	4	4	4	4	4	新型コロナウイルス感染症の5類移行後、行事開催数は増加傾向にあるが、自粛期間が長かったこともあり再開できていない行事もあることで、目標の回数を達成できなかった。		
			実績	1	1	3						
	<指標の計算方法>		年間開催数									
	活動指標	女性防火クラブ活動補助金申請地区数	地区	目標	36	35	35	34	34	新型コロナウイルス感染症の5類移行後、申請地区数は増加傾向にあるが、自粛期間が長かったこともあり活動を再開できていない地区もあることで、目標の地区数を達成できなかった。		
			実績	15	12	16						
	<指標の計算方法>		申請地区数									
成果指標	活動への参加者数	人	目標	800	800	800	800	800	新型コロナウイルス感染症の5類移行後、地区研修等の参加者数は戻りつつあるが、活動自粛期間が長かったこともあり活動を再開できていない地区もあることで、目標の人数を達成できなかった。			
		実績	183	219	327							
<指標の計算方法>		参加者数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,426			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	600 826		
事業の実績	①消防防火対策業務 ・無線従事者講習会受講 1名 ・緊急自動車ドライバー安全運転研修受講1名 ・消防大学校 消防団活性化推進コース受講1名 ・防火防災訓練用資機材整備 520,300円 ②阪和林野消防協議会負担金 15,000円 ③消防協会負担金 366,792円 ④女性防火クラブ補助金 16地区 165,300円			・1/13 那賀消防組合出初式(啓発活動)計3回 <活動への参加者数> ◆地区活動参加数 292人 ◆協議会活動参加数 35人 計327人								
	<女性防火クラブ地区研修訓練> ・地区研修訓練回数(23回) <女性防火クラブ活動実績> 【市主催行事】 ・8/7 令和5年度紀の川市女性防火クラブ連絡協議会総会開催 ・8/20 紀の川市民まつり(啓発活動)											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・女性防火クラブには、公的な法令はないが、家庭の防火をはじめ、防火・防災のため幅広い実践活動や、災害時の後方支援活動等を行うことができ、地域住民の生命・身体及び財産を守るための事業であることから、市が実施することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・新型コロナウイルス感染症の5類移行後、防火・防災訓練及び研修、救命講習等は定期的実施できる体制に戻りつつある。専門知識や技能を持った那賀消防組合と連携を図り充実した研修等になるよう計画していくことが必要と考える。また、クラブ員の高齢化もあるため、隣接組織との合同活動や組織統合も検討する。また、自主防災組織等との連携や働きかけにより、活動を市内全域に広げられるような仕組みの検討を行う必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・高齢化、人口減少に伴い、会員確保や地域単位のクラブの結成やクラブを統合するなど、紀の川市全体としての女性防火クラブ運営ができるように検討する必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	那賀消防組合事業			担当課	危機管理消防課			事業区分	一部事務組合				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	106			
	予算科目	款	9 消防費			長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心					
		項	1 消防費				施策目標	1	防災・防犯					
		目	2 常備消防費				基本施策	2	効率的で効果的な消防体制の整備					
事業概要	市民に安全、安心な消防、救急体制を提供するために、那賀消防組合の運営に参画する事業													
事務事業を構成する細事業	①	消防指令車等更新			⑤				⑨					
	②	消防組合職員確保			⑥				⑩					
	③				⑦				⑪					
	④				⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析				
	活動指標	消防指令車等更新	台	目標	2	1	2	4	4	緊急自動車購入計画に従い、令和5年度は4台の更新を行うことができた。				
		実績		0	1	4								
	<指標の計算方法>		更新台数											
	活動指標	消防組合職員確保	人	目標	128	128	128	129	130			令和5年度は、新規3名を採用したが、退職者が4名いたため、目標値に達成できなかった。		
		実績		130	128	127								
	<指標の計算方法>		職員人数											
成果指標	消防、救急体制に対して満足と感じている市民の割合	%	目標	70	70	70	70	70	地域の消防訓練指導や、火災想定訓練等を実施・啓発したが、令和4年度より実績が下がった。					
	実績		44.5	45	37.2									
<指標の計算方法>		市民意識調査で「満足」「まあ満足」と回答した市民の割合												
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	733,527			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	709,127				
事業の実績	①消防指令車等更新 ・緊急車両 4台 (参考) 保有車両台数 43台													
	②消防組合職員確保 職員数 127名 (うち新規採用3名) (参考) 出動回数 火災 36回 救助 128回 警戒等 398回 救急 6,057回													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・市民の生命財産を災害等から守るために、一部事務組合への負担金を負担し、事業経営に参画することは妥当である。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
・一部事務組合への負担金を負担し、一部事務組合において車両の更新や職員数を計画的に確保することは、多様化する災害に迅速・的確に対応ができ、市民の生命財産を守ることに直結する。														
効率性	評価結果	改善の余地がない												
	・広域的に紀の川市と岩出市が連携し、一部事務組合を運営することは効率的である。													

事務事業の概要	事務事業名	消防団運営事業			担当課	危機管理消防課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	107	
	予算科目	款	9 消防費			長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1 消防費				施策目標	1	防災・防犯			
		目	3 非常備消防費				基本施策	2	効率的で効果的な消防体制の整備			
事業概要	消防団員の消防力を強化するために、消防団員に研修や訓練の実施、装備品の充実、福利厚生を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	消防委員会運営			⑤	消防団員報酬・福利厚生			⑨			
	②	消防団活動			⑥	消防団活動補助金			⑩			
	③	消防団出初式・訓練			⑦				⑪			
	④	ポンプ操法大会参加			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	消防団員数	人	目標	220	220	220	220	220	市の人口が減少、消防団員数も減少傾向にあるが、全国の減少率と比較して現状維持できている。		
			実績	221	221	222						
	<指標の計算方法>		紀の川市の人口1万人あたりの消防団員数（全国と比較）									
	活動指標	消防団活動回数	回	目標	50	50	50	50	50	新型コロナウイルス感染症の5類移行後、会議及び訓練を実施したことで、目標値を達成できた。		
		実績	56	82	57							
<指標の計算方法>		訓練、会議等の回数										
活動指標	女性分団活動回数	回	目標	60	30	30	30	30	新型コロナウイルス感染症の5類移行後、応急手当普及員として消防団への指導や、防火広報活動を実施できた。			
		実績	11	32	69							
<指標の計算方法>		訓練及び指導、会議等の回数										
成果指標	消防団活動が地域の防災力向上に貢献していると感じている市民の割合	%	目標	100	100	100	100	100	市民意識調査で地域防災力に貢献していると感じている市民の割合は65%前後を維持しており、消防団活動への理解が深まっている。			
		実績	66.8	66.6	69.1							
<指標の計算方法>		市民意識調査で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した市民の割合										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	143,511			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	22,987 120,524		
事業の実績	①消防委員会運営 消防委員会開催 4/21,12/19 消防委員会委員報酬 (161,000円)			(50,237,660円) ※年額報酬の改定 副分団長 43,000円→45,500円 部長 34,000円→40,500円 班長 29,500円→37,500円 団員 27,500円→36,500円				⑥消防団活動補助金 (11,745,100円) 本部、方面隊 (5)、分団 (24) 捜索活動・消防学校入校補助等				
	②消防団活動 訓練、会議等の回数 57回			・消防団員退職報償金 (22,987,000円)				【福利厚生】 ・消防団応援の店事業委託料 (1,553,847円) ・消防団員公務災害補償掛金負担金 (2,673,300円)				
	③消防団出初式・訓練 年末特別警戒12/28~30 消防団出初式1/7 火災・風雪水害・捜索活動 その他会議・各方面隊訓練			・消防団員退職報償金掛金負担金 (27,014,400円) ・消防団員等福祉共済掛金負担金 (4,221,000円) ・消防作業従事者掛金 (117,632円)								
	④ポンプ操法大会参加 第30回和歌山県消防操法大会参加に伴う訓練開始 (R6.3~)											
	⑤消防団員報酬・福利厚生 【報酬】 ・消防団員報酬											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・消防組織法に基づき消防団を設置し、住民の身体及び財産を守るための事業であり、市が実施することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・定期的に訓練を実施し、消防力向上を図る。 ・専門性を持った人材確保及び職員の知識向上を図る。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・業務分担及び委託等検討し、現状の消防団活動を維持し、防災力強化の取組みも導入できる体制を整える。											

事務事業の概要	事務事業名	消防施設管理事業			担当課	危機管理消防課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	637	
	予算科目	款	9 消 防 費			長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1 消 防 費				施策目標	1	防災・防犯			
		目	4 消防施設費				基本施策	2	効率的で効果的な消防体制の整備			
事業概要	消防団、那賀消防組合が円滑に消火活動を行えるように、消防施設の維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	消防器具庫管理			⑤				⑨			
	②	防火水槽管理			⑥				⑩			
	③	小型動力ポンプ付積載車管理			⑦				⑪			
	④	消火栓管理			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	消防器具庫修繕箇所	目標	1	1	1	2	2	消防器具庫の修繕を計画通り実施出来ている。			
			実績	1	1	1						
	<指標の計算方法>		修繕箇所数									
	活動指標	防火水槽修繕箇所	目標	3	3	3	3	3	修繕が必要な箇所を区長要望にて集約し修繕することができ、R5年度は目標を大きく上回った。			
			実績	2	2	7						
	<指標の計算方法>		修繕箇所数									
	活動指標	小型動力ポンプ積載車点検修繕台数	目標	124	124	124	123	123	小型動力ポンプ積載車124台が法定点検と車両検査を実施し、必要に応じて修繕する事が出来ている。			
			実績	124	124	124						
	<指標の計算方法>		必要台数									
活動指標	消火栓修繕箇所	目標	1	1	4	4	4	消火栓の漏水やボックスの老朽化に伴う修繕の必要数が増加傾向となっており、緊急性のある案件については、修繕をすることが出来ている。				
		実績	5	8	4							
<指標の計算方法>		修繕箇所数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	28,659			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	25,459		
事業の実績	①消防器具庫管理			漏水修繕 2箇所 (下井阪・古和田) 消火栓ボックス修繕 2箇所 (桃山町調月・貴志川町長原)								
	・整備(修繕) 1箇所 (江川中) ・撤去 2箇所 (荒見・桃山町小林)											
	○警鐘台撤去 4箇所 (西脇・横谷・東川原・桃山町段)											
	②防火水槽管理			整備(修繕) 7箇所 (王子・赤沼田・下鞆淵・南勢田2・高野・貴志川町北) 撤去 3箇所 (上鞆淵・打田駅前・豊田)								
③小型動力ポンプ付積載車管理			124台									
④消火栓管理												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・地域の消防団、那賀消防組合が円滑に消火活動ができるように、市として消防施設の維持管理を行い、常時使用可能にしておく必要がある。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
			・火災等突如の災害時に消防施設を使用可能な状態に施設管理できている。									
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		・必要に応じた施設の修繕工事や車両修繕があり、火災・災害に必要な施設で専門知識を持った人材を配置することで効率良く修繕を行う必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	消防施設整備事業			担当課	危機管理消防課		事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	108
	予算科目	款	9 消 防 費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 消 防 費				施策目標	1 防災・防犯			
		目	4 消防施設費				基本施策	2 効率的で効果的な消防体制の整備			
事業概要	消防団、那賀消防組合が円滑に消火活動を行えるように、消防施設の整備を計画的に行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	消防器具庫整備			⑤				⑨		
	②	防火水槽整備			⑥				⑩		
	③	小型動力ポンプ付積載車整備			⑦				⑪		
	④	消火栓整備			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	消防器具庫新築件数	棟	目標	3	2	1	2	2	消防器具庫建築は、計画どおり実施できている。	
				実績	3	2	1				
		<指標の計算方法>		新築件数							
	活動指標	防火水槽新設基数	基	目標	2	3	2	2	2	防火水槽建設は、2基の建設を予定していたが、県道拡幅工事の遅延により、1基の建設が、防火水槽設置工事が可能となる令和7年度に施工することとなっている。	
				実績	3	2	1				
		<指標の計算方法>		新設基数							
	活動指標	積載車購入台数	台	目標	5	5	5	5	5	小型動力ポンプ付積載車は、計画通り更新できている。	
				実績	5	5	5				
		<指標の計算方法>		購入台数							
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	75,118			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	19,834	
事業の実績	①消防器具庫整備 切畑消防器具庫 ※栄町消防器具庫周辺整備										
	②防火水槽整備 桃山町垣内防火水槽										
	③小型動力ポンプ付積載車整備 小型動力ポンプ付積載車 5台										
	④消火栓整備 桃山町市場地区消火栓										
	○消防団用ジェットシューター整備 ○ドローン整備										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・火災、災害時等による被害を最小限にとどめ、活動の拠点となる施設を設置することで地域防災力の強化につながるため妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・地域の消防活動、災害時における活動拠点となる施設整備であるため計画的な整備が必要である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・建築工事については、技術職員の採用など、建築工事の専門知識を持った人材を用いることで効率性が高まる。										

事務事業の概要	事務事業名	防災施設管理運営事業		担当課	危機管理消防課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	639	
	予算科目	款	9	消 防 費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1	消 防 費		施策目標	1	防災・防犯			
		目	4	消防施設費		基本施策	1	地域防災力の向上			
取組方針	2	防災施設などの計画的な整備									
事業概要	市民の災害発生時の被害を軽減するために、防災施設の計画的な整備や適切な維持管理を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	備蓄物資管理		⑤				⑨			
	②	資機材整備管理		⑥				⑩			
	③	防災行政無線管理運営		⑦				⑪			
	④	戸別受信機設置		⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	備蓄食糧（アルファ米・パン）	目標	67	84	100	100	100	三連動地震の被災者想定4,500人。1人1日3食として3日分を計画。目標が達成しているため今後はそれぞれの期限等を確認しつつ維持する必要がある。		
			実績	71	81	100					
	<指標の計算方法>		保有数合計÷（4,500人×3食×3日分）								
	活動指標	備蓄水	目標	62	81	100	100	100	三連動地震の被災者想定4,500人。1人が1日に必要な水分30を3日分を計画。500mlペットボトルで保管。目標が達成しているため今後はそれぞれの期限等を確認しつつ維持する必要がある。		
			実績	61	76	100					
	<指標の計算方法>		保有本数合計÷（4,500人×6本×3日分）								
	活動指標	備蓄携帯トイレ	目標	100	100	100	100	100	三連動地震の被災者想定4,500人。1人1日5回の排泄として3日分。5個入りパックで保管。目標が達成しているため今後はそれぞれの期限等を確認しつつ維持する必要がある。		
			実績	100	100	100					
	<指標の計算方法>		保有数合計÷（4,500人×3日分）								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 （単位：千円）			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
59,707				575	19,900				39,232		
事業の実績	①備蓄物資管理										
	保存水		19,584本								
	アルファ米		5,800食								
	備蓄パン		4,650本								
事業の実績	②資機材整備管理										
	AED本体一式		68箇所								
	AED付属消耗品取替		5箇所								
	③防災行政無線管理運営										
保守管理 親局1局、操作卓6台、中継局2局、簡易中継局3局、再送信局14局、子局267局											
事業の実績	④戸別受信機設置										
	11台 （全て、視覚・聴覚に障害のある方への貸出）										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・防災の観点から必要不可欠な事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・指標項目については目標が達成したが、計画的に備蓄量を維持しつつ、新たな必要物資について検討し配備を進める。ただし、災害時に緊急の使用や破損等によって目標達成が困難となる場合がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・備蓄物資の保管場所が多く、品数も増えつつある中、消費期限等による物資の更新など適正に実施する為に外部委託を含め効率化を図る必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	水防事業		担当課	危機管理消防課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	109	
	予算科目	款	9 消 防 費		長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1 消 防 費			施策目標	1	防災・防犯			
		目	5 水 防 費			基本施策	3	災害に強いまちの形成			
事業概要	市民の水害による被害を抑制するために、排水機場等の維持管理や運営を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	水防計画管理		⑤	水防活動		⑨				
	②	樋門・排水機場操作委託		⑥			⑩				
	③	排水機場施設管理		⑦			⑪				
	④	水防資機材管理		⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	水防訓練・講習会	目標	4	4	4	4	4	水防訓練、講習会は継続的に実施できている。		
			実績	2	4	4					
	<指標の計算方法>		水防訓練・講習会実績								
	活動指標	排水機場保守点検実施	目標	7	7	7	8	9	保守点検については出水期前に7箇所すべて実施できている。		
			実績	7	7	7					
	<指標の計算方法>		実績箇所数								
	活動指標	樋門・排水機場修繕実施	目標	20	20	20	20	20	樋門、排水機場修繕回数が老朽化や被災によって増えているが、緊急性の高いものから随時実施できている。		
			実績	5	14	17					
	<指標の計算方法>		修繕実施回数								
成果指標	水防訓練・講習会参加者数	目標	112	112	112	112	112	参加者数は、家事都合等の欠席で減少したが、講習会（樋門操作要領・避難要領等）一斉操作訓練（開閉操作・情報伝達訓練）を年間4回行い、有事に備える事ができた。			
		実績	56	112	103						
<指標の計算方法>		水防訓練・講習会参加実績									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			67,327	18,243	444				48,640		
事業の実績	①水防計画管理 地域防災計画の基本方針の確定及び校正を行った。										
	②樋門・排水機場操作委託 委託契約を行い講習会・訓練・毎月の施設点検・河川水位上昇による出動										
	③排水機場施設管理 委託契約を行い講習会・訓練・毎月の施設点検・河川水位上昇による出動										
	④水防資機材管理 出水期に点検・管理を行う。										
	⑤水防活動 樋門操作員出動（自宅待機要請含む）回数 4回										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある								
		・水害を警戒し、被害を軽減させることで、公共の安全性を保持することを目的とし、市が水防施設を管理し、樋門操作員に施設点検、水防活動を行ってもらうことは妥当であり、併せて市の管理体制の強化が必要である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・大雨や増水による出水期は、被害が発生することがあるが、水防施設の維持管理及び水防出動により被害を防止または軽減できている。 ・雨水量が想定以上の場合に備え、浸水被害の軽減・抑制につながる対策が必要である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・随時修繕を行い、また保守点検による不具合箇所の改善を行っている。機械が老朽化しているので、設備の改修や人替等の対策が必要である。										

事務事業の概要	事務事業名	教育委員会運営事業			担当課	教育総務課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	110	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	99	*****			
		項	1 教育総務費				施策目標	99	*****			
		目	1 教育委員会費				基本施策	99	*****			
事業概要	教育委員会が効率的、効果的な教育行政を進めるために、教育委員、市長、関係者が教育行政における重要課題や方針について、検討や協議を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	教育委員会運営	⑤					⑨				
	②	総合教育会議運営	⑥					⑩				
	③	外部評価	⑦					⑪				
	④	市町村教育委員会連絡協議会負担金	⑧					⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	教育委員会定例会・臨時会への上程議案・報告事項・その他件数	目標							教育委員会定例会・臨時会において審議及び協議された件数 議案30件、報告事項31件、その他19件		
			実績	94	83	80						
	<指標の計算方法>		教育委員会定例会・臨時会への上程議案・報告事項・その他件数									
	活動指標	学校訪問・かけはし訪問の日数	目標							教育委員の学校訪問・かけはし訪問日数 学校訪問21日、かけはし訪問21日		
			実績	42	44	42						
	<指標の計算方法>		学校訪問・かけはし訪問の日数									
	活動指標	教育委員会定例会・臨時会議決案件数	目標							定例会29件、臨時会1件		
			実績	55	41	30						
	<指標の計算方法>		教育委員会定例会・臨時会での議決案件数									
活動指標	総合教育会議の議題件数	目標							市長と教育委員会が連携を図りつつ、より一層教育行政を推進していくため開催			
		実績		2	1							
<指標の計算方法>		総合教育会議の議題件数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	2,696			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,696		
事業の実績	①教育委員会運営 ・定例会12回、臨時会1回			1市町村ごとに 45,000円								
	②総合教育会議運営 ・紀の川市立学校適正規模適正配置 第1次実施計画(案)について (上記1件の議題について協議)											
	③外部評価 ・令和4年度予算編成事業ごとに事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行うため外部評価委員会に評価を依頼 (年3回開催)											
	④市町村教育委員会連絡協議会負担金 89,000円(当初) (人口割) 57,271人×0.5円 29,000円 (教育委員会数割) 1市町村の教育委員会ごとに15,000円 (市町村割)											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・教育委員会は地域における学校教育・社会教育・文化・スポーツ等に関する事務を担当する行政機関である。 ・教育長を含む5名で構成された教育委員会が、教育行政や学校運営における具体的な施策を客観的に審議し総括して推進を図る事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・教育委員会定例会において、教育の基本方針や教育・文化・スポーツの振興など教育全般についての諸問題や検討課題及び計画等の審議を行い、目標どおり事業を進めている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
		・教育委員会定例会等の各種会議の議事録作成についてはかなりの時間を要していたが、令和5年度より業者委託をしたことにより、大幅に事務作業時間を短縮できた。										

事務事業の概要	事務事業名	教育委員会事務局運営事業			担当課	教育総務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	630	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	99	*****			
		項	1 教育総務費				施策目標	99	*****			
		目	2 事務局費				基本施策	99	*****			
目				取組方針	9		その他					
事業概要	教育委員会が円滑な運営を行えるように、教育長、教育委員の活動に支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	教育委員会事務局運営事業			⑤	近畿都市教育長協議会負担金			⑨			
	②	栄典・表彰業務（教育功労）			⑥	県都市教育長会負担金			⑩			
	③	教育長秘書			⑦	県公立学校施設整備期成会負担金			⑪			
	④	全国都市教育長会負担金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	後援名義許可件数	目標						教育総務課21件、生涯学習課15件、生涯スポーツ課13件			
			実績	40	30	49						
	<指標の計算方法>		後援名義許可件数									
	活動指標	叙位・叙勲・栄典等受章件数	目標						秋の生存者叙勲として推薦したが、内閣府における人数制限の都合により、令和5年度の受章は見送りになった。			
			実績	1	3							
	<指標の計算方法>		叙位・叙勲・栄典等受章件数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,199			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		1,199	
事業の実績	①教育委員会事務局運営事業 ・教育や文化の向上振興に寄与する事業への「紀の川市教育委員会」の後援名義の許可			補助金割	6,884,000円×0.03%	2,065円						
				学校数割	300円×24校	7,200円						
				へき地校割	1,000円×1校	1,000円						
	②栄典・表彰業務（教育功労） ・永年に亘って教育の振興に貢献された教育関係者の栄典授与に関する事務を行う。											
	③教育長秘書 ・教育長の公務の日程調整や教育部内の行事予定のとりまとめ											
	④全国都市教育長会負担金 21,000円											
	⑤近畿都市教育長協議会負担金 18,000円											
⑥県都市教育長会負担金 20,000円												
⑦県公立学校施設整備期成会負担金 10,300円												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・教育委員会の権限に属する事務であり、市が主体となり実施すべき事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・「紀の川市教育委員会」の後援名義の許可審査や教育の振興に貢献された方の功績の確認など、適切に事務処理を行い、事業目的を達成している。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・許可審査など判断が必要な事務に職員が従事することで円滑に実施できている。外部委託できる業務はない。											

事務事業の概要	事務事業名	学校教育総務管理事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1084	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	1 教育総務費				施策目標	2 学校教育				
		目	3 教育諸費				基本施策	2 子供の力をのばす教育				
事業概要	児童、生徒が安全で円滑な学校生活が行えるように、安全面及び学校運営に係る必要な支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	学校安全対策協議会負担金			⑤				⑨			
	②	那賀地方教育研究会補助金			⑥				⑩			
	③	学校安全対策・通学路安全対策			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	スクールサポーター登録者数	人	目標	450	450	450	450	450	高齢化による脱退等があり令和3年度並みに減少した。		
				実績	399	466	414					
	<指標の計算方法>		スクールサポーター登録者数									
	活動指標	通学路安全対策実施箇所	箇所	目標	15	15	4	5	10	国・県・警察等の関係機関と連携し、年次的に対策を講じている。		
				実績	15	15	4					
	<指標の計算方法>		学校から危険箇所の報告があったもののうち、対策を講じた件数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	12,040			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			12,040									
事業の実績	①学校安全対策協議会負担金 923,000円 学校安全対策協議会の設置 ・市内在住の児童及び生徒の安全確保を図るため、学校長やPTA、青少年健全育成推進員、民生委員児童委員連絡協議会委員等の代表で組織し、協議した。(令和5年度は書面決議) ・スクールサポーターの保険加入や活動費の補助、通学路に設置する看板の購入などを行った。											
	②那賀地方教育研究会補助金 紀の川市、岩出市管内小中学校の教科別研究会に対し、岩出市とともに補助を行い、研究活動を支援した。											
	③学校安全対策・通学路安全対策 通学路交通安全点検プログラム等により、危険箇所の改修を行った。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・通学路における児童生徒の安全確保を図るとともに、円滑な学校生活が行えるよう学校運営に関する支援を行っており継続する事が妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・学校から通学路等の危険箇所改修の要望を県や警察等の関係機関と連携して点検や改修を行っており、児童生徒の安全確保に大変有効である。 ・スクールサポーターの高齢化に伴い、今後十分に協力を得ることが難しい可能性がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・県や警察と連携していることで危険箇所の情報共有を図ることができ、改修までの対応がスムーズであり、効率的な事業である。											

事務事業の概要	事務事業名	学校教育推進事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	615	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	1 教育総務費				施策目標	2	学校教育			
		目	3 教育諸費				基本施策	2	子供の力をのばす教育			
事業概要	児童、生徒の力をのばすために、学力・体力の向上につながる取組を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 教職員研修	⑤ 教職員研修費等補助金			⑨							
	② 英語教育	⑥ 研究指定校補助金			⑩							
	③ 学力調査	⑦			⑪							
	④ 学力向上	⑧			⑫							
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	市主催の研修を実施した回数	回	目標	4	4	4	4	0	目標通りに実施できている。		
			実績	4	4	4						
	<指標の計算方法>		研修開催回数（講師等謝礼支出分のみ対象）									
	成果指標	外国語指導員と担任によるTT授業時数	時間	目標	70	70	70	70	0	目標通りに実施できている。		
			実績	70	70	70						
<指標の計算方法>		TT（ティー・ティーング）：複数教員で行う授業）授業を実施した5,6年生の1学級あたり時間数の平均										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	22,247			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		22,247	
事業の実績	①教職員研修 紀の川市立学校の教職員の資質向上を図るため、教職員研修を実施し、73人が参加しました。											
	②英語教育 ・ALT(外国語指導助手)を2名配置し、児童生徒のコミュニケーション活動を充実させた。 ・小学校教諭の外国語(活動)に係る授業力の向上を図るため、外国語指導員5名と県配置の英語専科教員2名の合計7名を配置した。											
	③学力調査 4月18日に全国学力・学習状況調査を実施し、市として結果分析を行った。											
	④学力向上 ・小学校4年生、中学校1年生の理科担当教員を対象に、授業力向上を図るため、年間6回研修を実施し、作成した指導案をもとに公開授業を実施した。 ・中学校の外国語担当教員を対象に、授業力の向上を図るため、年間5回の研修を実施した。 ・中学校の国語・数学・外国語担当教員を対象に実践交流会と公開授業を実施した。											
⑤教職員研修費等補助金 学校現場での喫緊の課題である、「ミドルリーダーの育成」を図るため、全国規模の研究大会への参加旅費等を補助した。												
⑥研究指定校補助金 ・瞳きらめく学校推進事業 教育の質の向上を図り、創意と活力に満ちた学校づくりに資する実践研究を行う2校に対し補助を行った。												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・教職員の資質向上を目指した各種研修会や外国語指導員の配置・ALT(外国語指導助手)の派遣等、児童生徒の学力向上につながる事業であるため、継続することが妥当な事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない ・教職員の資質向上を目指した各種研修会や外国語指導員の配置・ALT(外国語指導助手)の派遣等、児童生徒の学力向上につながる有効な事業である。									
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・ALT(外国語指導助手)派遣については、プロポーザル方式により業者を選定しており、実施内容や費用等を総合的に判断し、効率的に実施できている。 ・中学校英語科のOBを外国語指導員として小学校に配置したことにより、小学校教員の英語の授業力のスキルアップにつなげることができている。									

事務事業の概要	事務事業名	学校図書館教育推進事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1132	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	1 教育総務費				施策目標	2	学校教育			
		目	3 教育諸費				基本施策	2	子供の力をのばす教育			
事業概要	子供や教員が活用しやすい環境づくりと教員の授業支援を進めるため、学校図書館の環境整備と学校司書を配置する事業											
事務事業を構成する細事業	①	学校司書配置			⑤				⑨			
	②	学校図書館のICT化			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	授業での年間図書館活用回数	目標	44	45	45	45	45	令和4年度と比較して、図書館の活用が増加している。			
			実績	30	27	31						
	<指標の計算方法>		各学校での活用回数の平均									
	成果指標	1ヶ月あたりの児童生徒の図書貸出冊数	目標	2.8	3	3.2	3.4	3.6	図書館の活用の増加に伴い、貸出冊数も増加した。			
			実績	2.8	3.1	3.3						
	<指標の計算方法>		1ヶ月の貸出冊数の平均									
成果指標		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
成果指標		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	28,717			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	16,217		
事業の実績	<p>①学校司書配置 全ての小中学校に学校司書を配置できたことで、古い本や傷んだ本の整理を行なっていることで蔵書数は増えにくい状況である。教員や児童生徒の意見を参考に新しく図書を購入しているため貸出冊数を増やすことができています。</p> <p>②学校図書館のICT化 ICT化したことにより蔵書検索もできるようになった他、児童生徒の貸出履歴も把握できることから、児童生徒のニーズに合った図書の購入もできるようになった。</p>											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」により、学校図書館が果たす役割が重要視され、継続する必要がある事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・学校図書館の整備とICT化により、児童生徒及び教員の学校図書館の活用が広がり、学びの質を高めることができています。 ・学校図書館を活用した授業を推進するためにも、公立図書館とのシステム連携が今後必要と思われる。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・学校司書の配置により、月1回の学校司書定例会で選書情報を共有し、できるだけ重複しないよう、図書を購入することができた。											

事務事業の概要	事務事業名	教育相談事業		担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業	
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	619
	予算科目	款	10 教育費		長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育		
		項	1 教育総務費			施策目標	2	学校教育		
		目	3 教育諸費			基本施策	1	学校教育環境の充実		
事業概要	児童、生徒、保護者が不登校、いじめ等の問題解決を図り、教育に対する不安を解消できるように、相談の実施や適応指導教室の運営を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	教育相談		⑤				⑨		
	②	適応指導教室運営		⑥				⑩		
	③			⑦				⑪		
	④			⑧				⑫		

指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	適応指導教室指導員数	人	目標	9	9	9	9	9	目標どおり配置することができた。
			実績	8	8	9				
	<指標の計算方法>		配置人数							
	成果指標	教育相談員配置事業相談指導者数	人	目標	5	5	5	8	8	目標どおり配置することができた。
			実績	5	5	6				
	<指標の計算方法>		市費の教育相談員と県費のスクールソーシャルワーカーの合計配置人数							
	成果指標	適応指導教室在籍児童生徒数	人	目標						毎年一定数の児童生徒が在籍している。
			実績	15	17	16				
	<指標の計算方法>		年度内での実在籍者数							
成果指標	教育相談員相談指導件数	件	目標						不登校児童生徒数の増加とともに、相談件数が令和4年度より増えた。 <不登校児童生徒数> R4 109名 (小学生37名 中学生72名) R5 123名 (小学生39名 中学生84名)	
		実績	1,124	1,757	2,299					
<指標の計算方法>		相談員の延べ相談指導件数の合計								

コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
	15,102		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
								15,102

事業の実績	①教育相談		<ul style="list-style-type: none"> 市費の教育相談員3人と県費のSSW (スクールソーシャルワーカー) 3人を配置し、児童生徒の不登校や就学指導等の問題解決にあたりました。 相談、指導件数：2,299件 (延べ件数) 保護者・児童生徒：1,609件 学校関係等：690件 スクールソーシャルワーカー 相談件数：1,966件 (延べ件数) 						
	②適応指導教室運営		<ul style="list-style-type: none"> 主に不登校児童生徒を対象に貴志川生涯学習センター (火～金)、貴志川支所 (月) 及び旧粉河中学校校舎内に設置し、午前9時から午後3時まで開室しました。 貴志川教室：6人、粉河教室：10人 うち高校進学：4人、学校復帰：5人 						

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない		<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒や保護者、教職員が持つ様々な悩みや問題の解決を図るため教育相談を実施している。 不登校児童生徒の集団生活への適応や基礎学力の補充等の指導を行い、学校への復帰や進学に関する支援を行う適応指導教室を開設している。 				
	有効性	評価結果	改善の余地がややある		<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の悩みや問題の解決を図る。 不登校児童生徒に支援を行うことで、学校への復帰や進学につながる有効な事業である。 適応指導教室指導員の人員確保について、指導できる人材を1名見つけることができ、設定した目標を達成することができた。 不登校児童生徒の増加により、子どもたちを支援する教育相談員が不足しており、増員する必要がある。 				
	効率性	評価結果	改善の余地がない		<ul style="list-style-type: none"> 県費のスクールソーシャルワーカーを含め、児童生徒やその保護者、教職員が抱える悩みや問題の解決に向け、相談体制が構築されて機能している。 適応指導教室については、粉河、貴志川どちらの教室も毎日運営することができている。 				

事務事業の概要	事務事業名	特別支援教育推進事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	937	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	1 教育総務費				施策目標	2	学校教育			
		目	3 教育諸費				基本施策	2	子供の力をのばす教育			
事業概要	教育上配慮が必要な児童、生徒が安心して学校に通えるように相談の実施、特別支援教育支援員等の配置を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	学齢期発達相談			⑤				⑨			
	②	早期支援コーディネーター設置			⑥				⑩			
	③	就学相談			⑦				⑪			
	④	特別支援教育支援員・看護師設置			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	保護者に特別支援教育の理解啓発を行った小学校数	校	目標	16	15	15	15	15	全ての学校において行っている。		
			実績	15	15	15						
	<指標の計算方法>		就学時健診で保護者に特別支援教育の理解啓発を行った小学校数									
	活動指標	就学指導対象園児の延べ観察回数	回	目標	100	100	100	100	100	1回の訪問で複数名の観察を行うなど、効率的に訪問を行うこととしたため、目標値以下となっている。		
			実績	44	50	69						
	<指標の計算方法>		保育所・幼稚園等を訪問し、対象園児を観察した延べ回数									
	成果指標	就学園児で学校教育法施行令第22条の3判断で支援学校を選択した割合	%	目標						各保護者の思いや考え方がるため、年度によってばらつきがある。		
			実績	58.3	43.8	61.5						
	<指標の計算方法>		就学園児で教育支援委員会での判断が2条の3に該当する園児のうち支援学校を選択した割合									
活動指標	早期支援コーディネーター活動回数	回	目標						新型コロナウイルス感染症により保育所等への訪問活動は制限していたが、制限がなくなったため、訪問回数は戻りつつある。			
		実績	190	193	234							
<指標の計算方法>		学校等の訪問回数や教育相談回数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	83,745			国庫支出金	814	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	82,931	
事業の実績	①学齢期発達相談 ・教員や保護者に対し、特別支援学級に在籍する児童生徒、通常学級に在籍する支援を必要とする児童生徒への日常の関わり方や発達上の課題、適切な教育環境の選択等について相談活動を実施した。 ・次年度就学予定の園児の保護者に対して、こども課が実施する発達相談に同席し就学に関する相談を受けたり、学校見学やつなぎ愛シート作成の場に同席して保護者や学校に対してアドバイスを行った。											
	②早期支援コーディネーター設置 ・支援を必要とする園児とその保護者に対し、就学前から就学後まで切れ目ない支援を行うため早期支援コーディネーター2人を配置した。 【令和5年度対象者：93人】 ・学校訪問 延べ82回（実態調査、学校見学、体験学習の同行） ・教育相談 延べ90回（未就学児の保護者） ・保育所等訪問 延べ62回（実態調査、保護者説明会） ④特別支援教育支援員・看護師設置 ・介助が必要な児童生徒のいる対象校16校に33人の特別支援教育支援員を配置した。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・早期支援コーディネーターを配置し、こども課や保育所・幼稚園等の各関係機関と連携し、未就学児童の就学に関する相談や支援を行うことで、児童や保護者が安心して就学できるようにしている。 ・丁寧な支援を必要とする児童生徒に特別支援教育支援員を配置し、安全安心な学習環境の提供を行っている。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・早期支援コーディネーターを配置し、こども課や保育所・幼稚園等の各関係機関と連携し、未就学児童の就学に関する相談や支援を行うことで、児童や保護者が安心して就学できるようにしている。 ・丁寧な支援を必要とする児童生徒に特別支援教育支援員を配置し、安全安心な学習環境の提供を行っている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・指導主事を中心に早期支援コーディネーターや各関係機関との情報共有が図れており、効率的な支援を行うことができています。											

事務事業の概要	事務事業名		遠距離通学対策事業			担当課	学校再編推進室			事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	112	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	1 教育総務費				施策目標	2	学校教育				
		目	3 教育諸費				基本施策	1	学校教育環境の充実				
事業概要		遠距離通学児童、生徒が安全に通学できるように、登下校時にスクールバスの運行を行う事業											
事務事業を構成する細事業		①	スクールバス運行			⑤				⑨			
		②	スクールバス車両管理			⑥				⑩			
		③				⑦				⑪			
		④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析				
	活動指標	巡回路線数	コース	目標	5	5	5	5	5	安楽川小学校3コース（黒川・善田）（野田原・銚子ノ口）（鞆渕）、荒川中学校2コース（黒川・善田）（野田原・銚子ノ口）の全5コースを運行している。			
			実績	5	5	5							
	<指標の計算方法>		巡回路線数										
	活動指標	運行回数	回	目標						臨時休業等もなく例年通りの運行回数であった。			
			実績	2,397	2,485	2,358							
	<指標の計算方法>		各コースの合計運行回数										
成果指標	乗車児童・生徒数	名	目標						乗車すべき児童生徒を漏れることなく乗車させることができている。				
		実績	23	24	22								
<指標の計算方法>		各コースの合計乗車実人数											
活動指標	スクールバス購入台数	台	目標	0	0	0	0	0	令和5年度については購入なし。				
		実績	0	0	0								
<指標の計算方法>		更新（買い替え）・新規購入											
コストの実績	R 5年度決算額 （単位：千円）			財源内訳									
	19,240			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,340			
事業の実績	①スクールバス運行 ・学校、委託業者とともに、授業時間・クラブ活動を考慮した効率的な運行を計画し、乗車人数を調整した。 （桃山管内小中学校22名） 安小（黒川・善田）コース 422回 安小（野田原・銚子ノ口）コース 335回 安小（鞆渕）コース 405回 荒中（黒川・善田）コース 626回 荒中（野田原・銚子ノ口）コース 570回 ・安全に運行業務を委託できる業者を選定するとともに、低価格で契約できている。 桃山・鞆渕管内委託料：15,950,000円 ・安心・安全性を高めるため、バスの位置情報をスマートフォンで確認できるサービスを導入した。 使用料及び賃借料 440,000円 機械器具費 962,500円			②スクールバス車両管理 燃料費 1,756,165円 自動車損害保険料 57,650円 公課費 73,800円									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス運行対象地区内でのニーズを的確に把握し、事業内容に適切に反映している。 ・教育環境を整えるという観点から、継続する必要性が高い事業である。 											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
<ul style="list-style-type: none"> ・乗車人数については、対象地区内で希望する児童生徒全員が乗車できている。 													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	<ul style="list-style-type: none"> ・委託業者を1社とすることにより、運行管理が一元化でき、コスト削減を意識した効率的な運行ができている。 ・スクールバス運行は社会的責務のため無償運行が望ましく、受益者負担を求めない。 												

事務事業の概要	事務事業名	教職員人事管理事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	1083
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	1 教育総務費				施策目標	2	学校教育			
		目	3 教育諸費				基本施策	2	子供の力をのばす教育			
事業概要	教職員が円滑に授業を進められるように、教職員の健康管理、人事管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	教職員検診			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		

指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	教職員健診受診率	目標	80	80	80	80	80	令和5年度から学校に勤務する市会計年度任用職員も対象となったため、受診者数が増加したが、人間ドック受診との兼ね合いもあり、教職員健診の受診率は毎年変動する。 令和3年度より低いですが、令和4年度に比べると受診率は上昇した。	
			実績	77.8	73	75.1				
	<指標の計算方法>		教職員健診の受診者数÷対象者数							
	成果指標	教職員のストレスチェック受診率	目標	100	100	100	100	100		
			実績	98.4	94.1	96.44				
<指標の計算方法>		ストレスチェック受診者数÷対象者数								
		目標								
		実績								
<指標の計算方法>										
		目標								
		実績								
<指標の計算方法>										

コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)	財源内訳					
		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	5,378						5,378

事業の実績	①教職員健診 教職員健診とストレスチェックを実施した。	
	・教職員健診 対象者数 568名 受診者数 427名	
	・ストレスチェック 対象者数 506名 受診者数 488名	
	※公立学校共済組合に加入していない非常勤職員も教職員健診の胸部X線のみ受診しているため、教職員健診とストレスチェックで対象者数が異なっている。	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない
		・学校保健安全法、労働安全衛生法で定められている健康診断およびストレスチェックを実施しており、今後も継続しなければならない事業である。	
	有効性	評価結果	改善の余地がややある
	・学校保健安全法、労働安全衛生法で定められている健康診断およびストレスチェックを実施しており、教職員が心身の健康を保持するために有効である。		
	・ストレスチェックについては、今後もその必要性を周知に努め、受診率の向上を図る。		
	効率性	評価結果	改善の余地がない
	・学校保健安全法、労働安全衛生法で定められている健康診断およびストレスチェックを実施している。		
	・効率的に受診できるよう、日程を数日確保した上、日割りを行う等、受診しやすい環境づくりを行った。		

事務事業の概要	事務事業名	学校適正規模適正配置推進事業			担当課	学校再編推進室			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1146	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	1 教育総務費				施策目標	2	学校教育			
		目	3 教育諸費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
事業概要	次代を担う子供たちのためにより良い教育環境の確保及びその向上を図ることを目的に、保護者・市民等の意見聴取を通じて、小中学校の適正規模適正配置を推進するための事業											
事務事業を構成する細事業	①	住民説明会等開催			⑤				⑨			
	②	第1次実施計画の策定			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	検討委員会開催回数	回	目標	5	5				令和5年度においては、実施無し。		
			実績	5	5							
	<指標の計算方法>		紀の川市立学校適正規模適正配置検討委員会の開催回数									
	活動指標	作業部会開催回数	回	目標	0	8	5	5	5	紀の川市立学校適正規模適正配置第1次実施計画の策定にあたり、必要に応じて学校運営協議会への説明や保護者意見交換会で出た課題等について協議を行った。		
			実績	0	8	4						
	<指標の計算方法>		紀の川市立学校適正規模適正配置検討作業部会の開催回数									
活動指標	住民説明会等開催回数	回	目標	0	0	10	10	10	紀の川市立学校適正規模適正配置第1次実施計画の策定にあたり、各小学校区で1回ずつ意見交換会を開催し保護者の意見を集約することで、子供の事を第1に考えた実施計画の策定に努めることができた。			
		実績	0	0	5							
<指標の計算方法>		児童及び就学前児童の保護者の方や地域住民の方等を対象に行った住民説明会及び意見交換会等の開催回数										
活動指標	学校運営協議会説明会等開催回数	回	目標	0	0	5	5	0	紀の川市立学校適正規模適正配置を適切に進めて行くにあたり、学校のあり方など運営について一番熟知している学校運営協議会委員の方から意見をいただいた。			
		実績	0	0	10							
<指標の計算方法>		学校再編対象校の学校運営協議会へ説明会を開催した回数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	36			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	36		
事業の実績	<p>①住民説明会等開催 第1次実施計画対象の小学校で、保護者及び就学前児童の保護者を対象とした意見交換会を各小学校区で1回ずつ開催し、計5回開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上名手小学校：令和5年8月1日 ・麻生津小学校：令和5年8月8日 ・川原小学校：令和5年8月24日 ・名手小学校：令和5年8月28日 ・粉河小学校：令和5年8月30日 <p>②第1次実施計画の策定 基本計画を基に、保護者の意見を盛り込んだ第1次実施計画を策定した。</p> <p>学校運営協議会への説明 計10回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上名手小学校：令和5年6月23日、令和5年11月2日 ・麻生津小学校：令和5年6月9日、令和5年1月24日 <ul style="list-style-type: none"> ・川原小学校：令和5年6月16日、令和5年10月17日 ・名手小学校：令和5年6月13日、令和5年11月16日 ・粉河小学校：令和5年5月24日、令和5年12月18日 <p>教育委員会における協議検討 計7回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5回教育委員会定例会後の懇談会 ・第6回教育委員会定例会 ・第7回教育委員会定例会後の懇談会 ・第9回教育委員会定例会 ・第10回教育委員会定例会の懇談会 ・第12回教育委員会定例会 ・第1回総合教育会議 											
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
・紀の川市立学校の今後の在り方について検討する事業であり、市（教育委員会）が所管し、事業を継続することは妥当である。												
有効性		評価結果	改善の余地がない									
	・全国的に少子化が進み、紀の川市においても児童生徒数が減少し、紀の川市立学校、特に小学校において学校規模に差が生じてきている現状を踏まえ、また、今後においてもさらに減少することが予測される中、学校規模による教育環境・条件に不均衡を生じさせないための対策をおこなっていくことは有効であると考えます。											
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・紀の川市立学校に通う児童生徒には、単に教科等の知識や技術を習得させるだけでなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決力などを育み、社会性や規範性を身に付け、急激な社会の変化にも対応できる力を身に付けてもらうことに重点をおいているため、学校規模による不均衡の是正や教育上の課題の改善をおこない、子供達にとってより良い教育環境を構築していくことは効率性があると考えます。											

事務事業の概要	事務事業名	小学校運営事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	606	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2 小学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	1 小学校管理費				基本施策	2	子供の力をのばす教育			
事業概要	児童が円滑に学校生活が行えるように、小学校に校務員の配置や備品の整備等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	学校運営協議会			⑤				⑨			
	②	校務員配置			⑥				⑩			
	③	ICT支援員配置			⑦				⑪			
	④	学校備品整備			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	校務員配置校数	校	目標	16	15	15	15	15	全小学校に校務員を配置している。		
			実績	16	15	15						
	<指標の計算方法>		校務員を配置している小学校数									
	活動指標	備品購入費決算額	千円	目標						令和4年度は校務用PCの入れ替えのため決算額が大きかったが、令和5年度は特殊事情が無かったため前年度決算額の68%となった。		
			実績	11,091	55,286	37,339						
	<指標の計算方法>		全小学校における備品購入費（庁用器具購入費と機械器具購入費）に係る決算額									
成果指標	ICT支援員配置数	人	目標	6	7	8	11	11	文部科学省が策定した「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画」の水準（ICT支援員は4校に1人配置）の2倍の人数を配置することができた。			
		実績	6	8	11							
<指標の計算方法>		市内全小中学校へのICT支援員配置人数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			307,865	3,937				1,101	302,827			
事業の実績	①学校運営協議会 全小学校に学校運営協議会を設置し、年間3回程度開催した。											
	②校務員設置 全小学校15校に1人ずつ配置した。											
	③ICT支援員配置 市内の小中学校全体で11名のICT支援員を配置した。											
	④学校備品整備 児童机・椅子や放送設備などの備品を購入した。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・小学校の運営に必要な経費であり、継続して行うことが妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・小学校の運営に必要な経常経費であるが、限られた予算を有効に執行できるように学校へ指導している。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・支払事務の効率化を図るため、学校への継続的な指導が必要である。 ・人材確保や労務管理の観点から校務員の外部委託の検討を行う必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	小学校施設管理事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	599	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2 小学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	1 小学校管理費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
事業概要	児童、教職員が学校施設を安全で快適に利用できるように、小学校施設の適切な維持管理や改修を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	小学校施設管理			⑤					⑨		
	②	小学校施設改修			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名	単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標 施設改修工事実施箇所数	箇所	目標	4	4	3	3	0	令和4年度に実施した学校でのヒアリングをもとに、必要に応じた改修工事を実施している。			
			実績	9	2	3						
	<指標の計算方法>		防水工事や機能改善に係る工事の実施箇所数									
	活動指標 施設管理業務委託件数	件	目標							施設を維持するうえで、専門知識や資格が必要な業務を委託し、適切な管理を行った。また、教職員の働き方改革として、敷地管理上必要な業務を外部に委託し、教職員の業務負担軽減を図った。		
			実績			128						
	<指標の計算方法>		施設管理上必要な業務の委託件数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	59,808			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
					7,100		314	52,394				
事業の実績	①小学校施設管理 ・施設管理に伴う各種業務委託 ・使用料及び賃借料（土地借り上げ、電柱共架料）の契約事務及び支払い ・施設器具修繕 ②小学校施設改修 （改修工事に伴う設計監理業務委託を含む） ・名手小学校フェンス改修工事 ・東貴志小学校職員室空調設備取替工事 ・川原小学校消火ポンプ取替工事											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・児童及び教職員が安全かつ快適に使用できるように、老朽化していく施設の維持管理に必要な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・老朽化していく施設の状況等を鑑みると修繕費を減らすことは難しいが、各校とも限られた予算の中で大きな改修に至らないよう修繕で対応できるうちに対応し、施設の維持管理に努めている。 ・施設長寿命化推進の観点から適切な維持管理に努めている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・保守点検結果や令和4年度に実施した学校でのヒアリングをもとに、緊急性や優先度を精査したうえで必要に応じた改修工事を実施し、児童・教職員に安全及び快適な学習環境を提供できている。											

事務事業の概要	事務事業名	小学校施設長寿命化事業			担当課	教育総務課		事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度(～)	事業番号	1218	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育		
		項	2 小学校費				施策目標	2	学校教育		
		目	1 小学校管理費				基本施策	1	学校教育環境の充実		
事業概要	学校施設の劣化状況や状態の変化を把握し、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び平準化を図りつつ、改修等の優先順位、改修内容、実施時期等を定め、学校施設に求められる機能・性能を確保する事業										
事務事業を構成する細事業	①	設計監理業務委託			⑤				⑨		
	②	設計業務委託			⑥				⑩		
	③	工事請負費			⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	設計及び設計監理業務実施件数	目標			6	1	4	0	学校施設等長寿命化計画に基づいて実施できている。	
			実績			6	1				
	<指標の計算方法>		工事を実施するための設計業務及び設計監理業務の実施件数								
	活動指標	工事実施件数	目標			3	5	1	3		学校施設等長寿命化計画に基づく事業を実施するとともに、令和4年度からの繰越事業(池田小学校外壁他改修工事)を適切に完了した。
			実績			2	5				
<指標の計算方法>		長寿命化工事を実施した件数									
成果指標	小学校施設の長寿命化計画に基づく工事進捗率	目標			6.5	9	9.7	15.2	個別施設ごとの実施計画は、公共施設マネジメント検討委員会において毎年度ローリングにて事業を精査しており、計画のとおり令和5年度の事業を完了した。		
		実績			5	9					
<指標の計算方法>		学校施設等長寿命化計画の対象となる施設において整備が完了した割合									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額(単位:千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			112,177	8,973		97,700		1,828	3,676		
事業の実績	①設計監理業務委託 ・池田小学校外壁他改修工事設計監理業務(繰越) ・西貴志小学校12棟屋上防水改修工事設計監理業務 ②設計業務委託 ・令和5年度なし ③工事請負費 ・池田小学校外壁他改修工事(繰越) ・西貴志小学校12棟屋上防水改修工事 ・川原小学校屋内運動場外壁他改修工事 ・名手小学校屋内運動場外壁他改修工事 ・東貴志小学校屋内運動場外壁他改修工事										
	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・児童にとって必要な学校施設の環境整備は、学校設置者として市が実施すべき事業である。									
有効性	評価結果	改善の余地がない									
	・学校施設については、施設数が多く規模や経過年数などにより既存施設の劣化状況は様々であり、抜本的な対策がない限り、年数を重ねることに保全改修箇所は増加していく。										
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・学校施設等長寿命化計画に基づき、計画的な保全を行い既存施設を効果的に活用する。 ・国庫補助金を活用し、市の財政負担の軽減及び平準化を図っている。										

事務事業の概要	事務事業名	小学校空調設備整備事業			担当課	教育総務課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	完了	事業期間	単年度繰返し			事業番号	951
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2 小学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	1 小学校管理費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
取組方針	1	安全・安心で快適な学校施設の充実										
事業概要	児童及び教職員等の学習環境の改善を図るため、空調設備を特別教室等に年次的・計画的に設置する事業											
事務事業を構成する細事業	①	空調設備設置工事			⑤						⑨	
	②	監理業務委託			⑥						⑩	
	③	設計業務委託			⑦						⑪	
	④				⑧						⑫	
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	空調設備設置工事実施件数	件	目標	2	6	3	2		計画どおり、特別教室（理科室・家庭科室）の空調設備未設置校に設置した。また、令和6年度特別支援教室増加に対応できるよう空調設備設置を行った。		
				実績	2	6	5					
	<指標の計算方法>		教室へ新たに空調設備を設置する件数									
	活動指標	空調設備設置工事設計業務実施件数	件	目標	5	3	2	0		計画どおり、特別教室（理科室・家庭科室）の空調設備未設置校に設置するための設計を実施した。また、令和6年度の特別支援教室増加に対応できるよう設計を行った。		
				実績	6	3	4					
	<指標の計算方法>		教室へ新たに空調設備を設置するための設計を実施する件数									
	成果指標	普通教室及び特別支援教室への空調設備設置を完了した学校の割合	%	目標	99	100	100	100		令和4年度より設置率が100%となっている。		
				実績	99	100	100					
	<指標の計算方法>		普通教室及び特別支援教室の室数に占める空調設備設置室数の割合									
成果指標	特別教室（理科室・家庭科室）への空調設備設置を完了した学校の割合	%	目標	32	67	87	100		計画どおり、特別教室（理科室・家庭科室）の空調設備未設置校に設置し、令和5年度の目標値は達成した。			
			実績	32	67	87						
<指標の計算方法>		特別教室（理科室・家庭科室）の室数に占める空調設備設置室数の割合										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			39,143	4,612		20,500				14,031		
事業の実績	①空調設備設置工事 ・池田小学校特別支援教室空調設備設置工事 ・長田小学校特別教室空調設備設置工事 ・川原小学校特別教室空調設備設置工事 ・調月小学校特別教室空調設備設置工事 ・西貴志小学校特別支援教室空調設備設置工事			設置工事設計業務 ・上名手・麻生津小学校特別教室空調設備設置工事設計業務								
	②監理業務委託 ・池田小学校特別支援教室空調設備設置工事監理業務 ・長田小学校特別教室空調設備設置工事監理業務 ・川原小学校特別教室空調設備設置工事監理業務 ・調月小学校特別教室空調設備設置工事監理業務 ・西貴志小学校特別支援教室空調設備設置工事監理業務											
③設計業務委託 ・池田・西貴志小学校特別支援教室空調設備												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・児童及び教職員が安全かつ快適に学校生活を過ごせるように、熱中症対策や寒冷対策として必要な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・限られた予算の中で、特別教室（理科室・家庭科室）への空調設備未設置校に対して順次計画的に設置を進めており、設定した目標を達成できている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・空調設備設置工事の予定年度の前年度に設計業務を実施することにより、空調設備の需用が高まる時期に合わせてスムーズに施工できるよう、施工管理を工夫するように努めている。											

事務事業の概要	事務事業名	小学校教育活動事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	595	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2 小学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	2 小学校教育振興費				基本施策	2	子供の力をのばす教育			
事業概要	児童の学力向上と豊かな心や感性をはぐくむために、教材の購入や各種補助金の交付を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	教材器具・教科書整備			⑤	教員研修費等補助金			⑨			
	②	現場学習等引率費補助金			⑥	学校農園補助金			⑩			
	③	緑育推進事業補助金			⑦				⑪			
	④	宿泊体験活動推進事業補助金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	図書充足率	%	目標			83	84	年次計画的に図書の購入を行っているが、古い本の入れ替え等、蔵書整理をしているため、充足率は上がりにくい。			
			実績			82						
		<指標の計算方法>		文科省が定める学校図書館図書標準に対する充足率								
			目標									
			実績									
		<指標の計算方法>										
		目標										
		実績										
	<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	19,811			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			1,041			18,770						
事業の実績	①教材器具・教科書整備 4,329,820円			共同生活を通して豊かな心や感性を育むために行う集団宿泊体験に対し補助を行った。								
	②現場学習等引率費補助金 修学旅行や現場学習に係る教員の交通費や宿泊費などを補助した。			⑤教員研修費等補助金 研修に参加する教員の参加費や、校内研修の費用を補助した。								
③緑育推進事業補助金 森林学習や間伐体験を通し、森林の持つ様々な機能や大切さを学び、間伐材を利用した木工クラフトや本立て等を製作した。			⑥学校農園補助金 学校農園の運営に係る種苗や土、機材の費用を補助した。									
実施校及び参加人数 長田小 : 13人 215,221円 竜門小 : 15人 196,214円 上名手小 : 41人 224,859円 安楽川小 : 41人 404,419円 合計 4校 : 110人												
④宿泊体験活動推進事業補助金												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・教育活動に必要な不可欠な教材等の購入や活動に対する補助を行う事業であり、今後も継続することが妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・教育活動に必要な不可欠な教材や備品、図書などの購入にあたり、数社から見積を徴して少しでも安価に購入できるようにしている。 ・図書充足率を満たしている学校数については、年次計画に基づき図書を購入しているため、計画どおりに購入を継続していく。 ・研究授業や各種体験などに係る費用の一部を補助し、円滑に教育活動が行えるように支援できている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・次年度の予算策定にあたり、学校から要望を聴取した上で査定したり、日常的に購入事務などについて指導していることで効率的な事業及び予算の執行が行えている。											

事務事業の概要	事務事業名	児童就学援助事業		担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	589	
	予算科目	款	10 教育費		長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	2 小学校費			施策目標	2 学校教育				
		目	2 小学校教育振興費			基本施策	1 学校教育環境の充実				
取組方針	4 一人一人に応じた学びの機会の保障										
事業概要	経済的理由により就学が困難となる児童が就学できるように、保護者に学用品費用等の一部を支援する事業										
事務事業を構成する細事業	①	要保護及び準要保護児童生徒就学援助費		⑤			⑨				
	②	特別支援教育就学奨励費		⑥			⑩				
	③			⑦			⑪				
	④			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	就学援助費認定者数	人	目標						児童数は減少傾向にあり、就学援助の支援を必要とする保護者も減少した。	
			実績		373	344	327				
	<指標の計算方法>		年度内認定者数								
	活動指標	特別支援教育就学奨励費認定者数	人	目標						児童数は減少傾向であるが、特別支援学級対象児童の増加、及び医療的ケアを必要とする児童・保護者が特別支援学校ではなく、地元校への進学希望が増加傾向にある。	
			実績		131	148	153				
	<指標の計算方法>		年度内の認定者数								
成果指標	市立小学校における就学援助認定者の割合	%	目標						児童数の減少率よりも、認定者数の減少率の方が多かったため。		
		実績		13	12.1	11.9					
<指標の計算方法>		年度内認定者数÷3月1日現在児童数									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	9,943			国庫支出金	873	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	9,070
事業の実績	①要保護及び準要保護児童生徒就学援助費 ・経済的に就学が困難な児童に対し、学用品費、修学旅行費等必要な援助を行い、円滑な義務教育の推進を図った。 ・要保護及び準要保護児童生徒就学援助費認定者数 市内:15小学校 327人 市外0人 市内小学校の認定率 11.9% 支給者数 327人 ※認定者のうち要保護者1名 修学旅行費の支給を含む。 ・令和6年度に新小学1年生になる児童に対し、新入学学用品費等の入学前支給を行った。 (生活保護法第6条第2項に規定する要保護者で現に保護を受けている保護者に準ずる程度に困窮している保護者) 支給者数: 28人 ②特別支援教育就学奨励費 ・特別支援学級に就学する児童の保護者の経済的負担を軽減し、特別支援教育の普及奨励を図った。 ・特別支援教育就学奨励費認定者数 市内14小学校 153人 支給者数 153人										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・就学援助費は、経済的に就学が困難な家庭の児童を就学させるために必要な事業である。 ・特別支援教育就学奨励費は、特別支援学級に在籍している児童の保護者のうち、世帯所得が一定の額より低い保護者に支給しており、保護者負担の軽減に必要な事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・就学援助・特別支援教育就学奨励費ともに就学にかかる保護者の経済的負担が軽減されており、児童の適正な就学に有効な事業である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・就学援助システム導入により効率化が図られているが、一部システムで対応出来ない項目がありエクセル管理と二重管理になっている。 ・学校からの周知に加え、市広報紙やホームページにおいても制度周知を行なっている。										

事務事業の概要	事務事業名	田中小学校改築事業			担当課	教育総務課		事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	新規	事業期間	期間限定複数年度 (R5～R9)		事業番号	1229
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育		
		項	2 小学校費				施策目標	2	学校教育		
		目	3 学校建設費				基本施策	1	学校教育環境の充実		
事業概要	児童、教職員が校舎を安全で快適に利用できるように、田中小学校の校舎等の改築を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	設計業務			⑤					⑨	
	②	田中小学校改築工事			⑥					⑩	
	③				⑦					⑪	
	④				⑧					⑫	
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	設計業務進捗率	%	目標			100			目標どおり完成した。	
				実績			100				
		<指標の計算方法>		設計業務進捗率							
	成果指標	1期工事進捗率	%	目標			0	100	0	令和6年度からの指標である。	
				実績			0				
		<指標の計算方法>		1期工事進捗率							
	成果指標	2期工事進捗率	%	目標			0	30	60	令和6年度からの指標である。	
				実績			0				
		<指標の計算方法>		2期工事進捗率							
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
	113,778					78,200				35,578	
事業の実績	①設計業務 (令和5年3月20日田中小学校改築工事設計業務に係るプロポーザル実施 特定者：株式会社 東畑建築事務所 本社オフィス大阪) ・基本設計 ・測量業務、地質調査 ・実施設計 ・教職員ワークショップ 2回開催 ・田中小学校改築事業推進委員会 2回開催 ②田中小学校改築工事 令和6年度から工事实施										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・学校施設は、児童や教職員が一日の大半を過ごす活動の場であり、安全で安心して学校生活を送ることは重要である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・学校施設の充実や、児童、教職員、地域住民の安全確保を図る上で有効な事業である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・一時的なコストはかかるものの、改築後40年以上の使用を見込むため効率的な利用につながる事業である。 ・設計時に、コストや工事期間に無駄が発生しないように配慮した。										

事務事業の概要	事務事業名	中学校運営事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	583	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	3 中学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	1 中学校管理費				基本施策	2	子供の力をのばす教育			
事業概要	生徒が円滑に学校生活が行えるように、中学校に校務員の配置や備品の整備等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	学校運営協議会			⑤				⑨			
	②	校務員配置			⑥				⑩			
	③	ICT支援員配置			⑦				⑪			
	④	学校備品整備			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	校務員配置校数	校	目標	5	6	5	5		全中学校に校務員を配置している。		
				実績	5	6	5					
	<指標の計算方法>		校務員を配置している中学校数									
	活動指標	備品購入費決算額	千円	目標							令和4年度は校務用PCの入れ替えのため決算額が大きかったが、令和5年度は特殊事情が無かったため令和4年度決算額の43%となった。	
				実績	4,908	25,461	10,886					
<指標の計算方法>		全中学校における備品購入費（庁用器具購入費と機械器具購入費）に係る決算額										
成果指標	ICT支援員配置数	人	目標	6	7	8	11		文部科学省が策定した「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画」の水準（ICT支援員は4校に1人配置）の2倍の人数を配置することができた。			
			実績	6	8	11						
<指標の計算方法>		市内全小中学校へのICT支援員配置人数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
	130,190			1,575	1,196			526	126,893			
事業の実績	①学校運営協議会 全中学校に学校運営協議会を設置し、年間3回程度開催した。											
	②校務員配置 中学校5校（打田中学校仙溪分校除く）に校務員を配置した。											
	③ICT支援員配置 市内の小中学校全体で11名のICT支援員を配置した。											
	④学校備品整備 プロジェクターや簡易大型テントなどの備品を購入した。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・中学校の運営に必要な経常経費であり、継続して行うことが妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・中学校の運営に必要な経常経費であるが、限られた予算を有効に執行できるように学校へ指導をしている。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・支払い事務の効率化を図るため、学校への継続的な指導が必要である。 ・校務員の外部委託の検討を行う必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	中学校施設管理事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	580		
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	3 中学校費				施策目標	2	学校教育				
		目	1 中学校管理費				基本施策	1	学校教育環境の充実				
事業概要	生徒、教職員が学校施設を安全で快適に利用できるように、中学校施設の適切な維持管理や改修を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	中学校施設管理			⑤					⑨			
	②	中学校施設改修			⑥					⑩			
	③				⑦					⑪			
	④				⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	屋内運動場及び格技場照明のLED化工事実施校数	校	目標	2	1	2	0	0	屋内運動場及び格技場のLED化未実施校のうち、粉河中学校屋内運動場及び貴志川中学校格技場において照明のLED化を実施した。(貴志川中学校格技場LED化については中学校長寿命化事業にて実施)			
				実績	2	1	2						
	<指標の計算方法>		屋内運動場及び格技場照明を新たにLED化する学校数										
	成果指標	屋内運動場及び格技場照明のLED化を完了した学校数の割合	%	目標	70	80	100					新たに1校の屋内運動場と1校の格技場のLED化を実施したため、LED化率100%に増加。(20%増)全中学校の屋内運動場及び格技場照明のLED化が完了した。	
				実績	70	80	100						
	<指標の計算方法>		屋内運動場及び格技場照明に占めるLED化が完了した学校数の割合										
成果指標	施設改修工事実施箇所数	箇所	目標	3	3	1	2	令和4年度に実施した学校でのヒアリングをもとに、必要に応じた改修工事を実施している。					
			実績	5	2	2							
<指標の計算方法>		防水工事や機能改善等に係る工事の実施箇所数											
活動指標	施設管理業務委託件数	件	目標								施設を維持するうえで、専門知識や資格が必要な業務を委託し、適切な管理を行った。また、教職員の働き方改革として、敷地管理上必要な業務を外部に委託し、教職員の業務負担軽減を図った。		
			実績			55							
<指標の計算方法>		施設管理上必要な業務の委託件数											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)				財源内訳								
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
	37,102						10,300		214	26,588			
事業の実績	①中学校施設管理 ・施設管理に伴う各種業務委託 ・使用料及び賃借料(土地借上げ、電柱共架料)の契約事務及び支払 ・施設器具修繕 ②中学校施設改修 (改修工事に伴う設計監理業務委託を含む) ・打田中学校管理系統空調設備更新工事 ・打田中学校テレビ電波障害対策設備工事 ・粉河中学校屋内運動場照明器具改修工事												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・生徒及び教職員が安全かつ快適に使用できるように、老朽化していく施設の維持管理に必要な事業である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・老朽化していく施設の状況等を鑑みると修繕費を減らすことは難しいが、各校とも限られた予算の中で大きな改修に至らないよう修繕で対応できるうちに対応し、施設の維持管理に努めている。 ・施設長寿命化推進の観点から適切な維持管理に努めている。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
・保守点検結果や令和4年度に実施した学校でのヒアリングをもとに、緊急性や優先度を精査したうえで必要に応じた改修工事を実施し、生徒・教職員に安全及び快適な学習環境を提供できている。													

事務事業の概要	事務事業名	中学校施設長寿命化事業			担当課	教育総務課		事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度(～)	事業番号	1219		
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	3 中学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	1 中学校管理費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
取組方針	1	安全・安心で快適な学校施設の充実										
事業概要	学校施設の劣化状況や状態の変化を把握し、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び平準化を図りつつ、改修等の優先順位、改修内容、実施時期等を定め、学校施設に求められる機能・性能を確保する事業											
事務事業を構成する細事業	①	設計監理業務委託			⑤				⑨			
	②	設計業務委託			⑥				⑩			
	③	工事請負費			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	設計及び設計監理業務実施件数	件	目標			3	1	0	3	学校施設等長寿命化計画に基づき実施できている。	
				実績			3	1				
	<指標の計算方法>		工事を実施するための設計業務及び設計監理業務の実施件数									
	活動指標	工事実施件数	件	目標			0	4	1	0		学校施設等長寿命化計画に基づき実施できている。
				実績			0	4				
	<指標の計算方法>		工事を実施した件数									
成果指標	学校施設の長寿命化計画に基づく工事進捗率	%	目標			0	13.4	15.3	15.3	個別施設ごとの実施計画は、公共施設マネジメント検討委員会において毎年度ローリングにて事業を精査しており、計画のとおり令和5年度の事業を完了した。		
			実績			0	13.4					
<指標の計算方法>		学校施設等長寿命化計画の対象となる施設において整備が完了した割合										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			293,097	39,323		181,400		60,181	12,193			
事業の実績	①設計監理業務委託 ・令和5年度なし											
	②設計業務委託 ・打田中学校屋内運動場大規模改造工事設計業務											
	③工事請負費 ・打田中学校格技場大規模改造工事 ・荒川中学校屋内運動場外壁他改修工事 ・貴志川中学校外壁他改修工事 ・貴志川中学校照明器具改修工事											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・生徒にとって必要な学校施設の環境整備は、学校設置者として市が実施すべき事業である。									
		評価結果	改善の余地がない ・学校施設については、施設数が多く規模や経過年数などにより既存施設の劣化状況は様々であり、抜本的な対策がない限り、年数を重ねることに保全改修箇所は増加していく。									
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・学校施設等長寿命化計画に基づき、計画的な保全を行い既存施設を効果的に活用する。 ・国庫補助金を活用し、市の財政負担の軽減及び平準化を図っている。									

事務事業の概要	事務事業名	中学校教育活動事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	576	
	予算科目	款	10	教育費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
	項目	3	中学校費			施策目標	2	学校教育				
	目	2	中学校教育振興費			基本施策	2	子供の力をのばす教育				
事業概要	生徒の学力向上と豊かな心や感性をはぐくむために、教材の購入や各種補助金の交付を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	教材器具・教科書整備			⑤				⑨			
	②	生徒派遣費補助金			⑥				⑩			
	③	教職員研修費等補助金			⑦				⑪			
	④	現場学習等引率費補助金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名	単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	図書充足率	%	目標				78	79	年次計画的に図書の購入を行っているが、古い本の入れ替え等、蔵書整理をしているため、充足率は上がりにくい。			
			実績			77						
	<指標の計算方法>		文科省が定める学校図書館図書標準に対する充足率									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	23,150			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	22,672		
事業の実績	①教材器具・教科書整備 3,562,130円			々な機能や大切さを学び、間伐材を利用した木工クラフトや本立て等を製作した。								
	②生徒派遣費補助金 体育の振興及び文化の向上を図るため、市立中学校がクラブ活動において全国大会を始めとする各種大会に選手を派遣する際の交通費、宿泊費等の経費について補助した。			実施校及び参加人数 荒川中 : 47人 478,598円 合計 1校 : 47人								
	③教職員研修費等補助金 研修に参加する教員の参加費や、校内研修の費用を補助した。											
	④現場学習等引率費補助金 修学旅行や現場学習に係る教員の交通費や宿泊費などを補助した。											
	⑤緑育推進事業補助金 森林学習や間伐体験を通し、森林の持つ様											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・教育活動に必要な不可欠な教材等の購入や活動に対する補助を行う事業であり、今後も継続することが妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・教育活動に必要な不可欠な教材や備品、図書などの購入にあたり、数社から見積を徴して少しでも安価に購入できるようにしている。 ・研究授業や各種体験などに係る費用の一部を補助し、円滑に教育活動が行えるように支援できている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・次年度の予算策定にあたり、学校から要望を聴取したうえで査定し、日常的に購入事務などについて指導していることで効率的な事業及び予算の執行が行えている。											

事務事業の概要	事務事業名	生徒就学援助事業		担当課	教育総務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	571	
	予算科目	款	10 教育費		長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	3 中学校費			施策目標	2 学校教育				
		目	2 中学校教育振興費			基本施策	1 学校教育環境の充実				
事業概要	経済的理由により就学が困難となる生徒が就学できるように、保護者に学用品費用等の一部を支援する事業										
事務事業を構成する細事業	①	要保護及び準要保護児童生徒就学援助費		⑤			⑨				
	②	特別支援教育就学奨励費		⑥			⑩				
	③			⑦			⑪				
	④			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	就学援助費認定者数	目標						生徒数は減少傾向にあり、就学援助の支援を必要とする保護者も減少した。		
			実績	192	214	195					
	<指標の計算方法>		年度内認定者数								
	活動指標	特別支援教育就学奨励費認定者数	目標						特別支援学級対象の生徒の増加及び医療的ケアを必要とする生徒・保護者が特別支援学校ではなく地元校への進学希望が増加傾向にある。		
実績			50	53	56						
<指標の計算方法>		年度内認定者数									
成果指標	市立中学校における就学援助認定者の割合	目標						生徒数の減少率よりも認定者数の減少率の方が多かったため。			
		実績	13.5	15.2	14.3						
<指標の計算方法>		年度内認定者数÷3月1日現在生徒数									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)		財源内訳								
	14,199		国庫支出金	911	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	13,288	
事業の実績	①要保護及び準要保護児童生徒就学援助費		・経済的に就学が困難な生徒に対し、学用品費、修学旅行費等必要な援助を行い、円滑な義務教育の推進を図った。		・特別支援教育就学奨励費認定者数 市内5中学校 56人 支給者数 56人						
	②特別支援教育就学奨励費		・要保護及び準要保護児童生徒就学援助費認定者数：市内5中学校 190人、市外3中学校5人 支給者数 195人（うち市外5人）中学校の認定率 14.3%		・令和6年度に新中学1年生になる生徒に対し新入学学用品費等の入学前支給を行った。（生活保護法第6条第2項に規定する要保護者で現に保護を受けている保護者に準ずる程度に困窮している保護者）支給者数：56人						
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・就学援助費は経済的に就学が困難な家庭の生徒を就学させるために必要な事業である。 ・特別支援教育就学奨励費は、特別支援学級に入級している児童の保護者のうち、世帯所得が一定の額より低い保護者に支給しており、保護者負担の軽減に必要な事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・就学援助・特別支援教育就学奨励費ともに就学にかかる保護者の経済的負担が軽減されており、生徒の適正な就学に有効な事業である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・就学援助システム導入により効率化が図られているが、一部システムで対応出来ない項目があり、別で管理する必要がある。 ・学校からの周知に加え、市広報紙やホームページにおいても制度周知を行なっている。										

事務事業の概要	事務事業名	私立幼稚園運営支援事業			担当課	教育総務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	119	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	4 幼稚園費				施策目標	2 学校教育				
		目	1 幼稚園費				基本施策	2 子供の力をのばす教育				
事業概要	幼児が適正に就園できるように、保護者に施設利用費等の支給を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	私立幼稚園運営補助金			⑤				⑨			
	②	私立幼稚園第二子以降無料化事業補助金			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	第2子以降保育料無料化事業費補助金支給園児数	人	目標							令和元年度の下半期より幼児教育・保育の無償化事業が開始されたことに伴い利用者数は少なく、令和5年度の実績は5名となった。	
				実績		1	5					
	<指標の計算方法>		第2子以降保育料無料化事業費補助金支給園児数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	350			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	323		
事業の実績	①私立幼稚園運営補助金 ・紀の川市内私立幼稚園の運営を助成し、幼児教育の推進を図った。											
	②私立幼稚園第二子以降無料化事業補助金 ・補助申請実績は5名となった。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・運営補助金について、子ども・子育て支援制度に移行していない幼稚園のみを対象として支出しているが、令和4年度から支出額を段階的に引き下げ、令和5年度で終了した。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・保護者の経済的負担を軽減することで子育て支援策の充実を図ることができている。 ・私立幼稚園の運営を補助することで教育環境の充実を図っている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・幼児教育・保育の無償化事務は、私立幼稚園就園奨励補助事務の名残で現在本市での事務はこども課と教育総務課の2課にまたがって実施しているが、幼児教育保育の無償化事業は子ども・子育て支援法により実施されることとなったため、利用者にも担当部署を分かりやすくするために令和5年度には窓口を保育課へ一本化した。											

事務事業の概要	事務事業名	社会教育推進事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	567	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	5 社会教育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	1 社会教育総務費				基本施策	1	生涯学習の推進			
事業概要	市が適切に社会教育施策を推進するために、関係機関との連携、協力や支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 社会教育委員会運営			⑤ 社会教育主事育成・研修			⑨					
	② 社会教育指導員設置			⑥ 社会教育推進事務			⑩					
	③ 県社会教育委員連絡協議会負担金			⑦			⑪					
	④ 県社会教育主事等連絡協議会負担金			⑧			⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	社会教育委員会及び研修会の開催回数	回	目標	6	6	6	6	6	社会教育委員会は計3回、第3次紀の川市生涯学習推進計画策定に係る作業部会を2回、社会教育委員研修会を1回実施し、目標値である計6回を実施した。		
			実績	4	5	6						
	<指標の計算方法>		社会教育委員会及び研修会の開催回数									
	活動指標	社会教育指導員連絡会の開催回数	回	目標	6	6	6	6	6	社会教育指導員連絡会は書面による1回を含む目標値である計6回を実施した。		
			実績	6	6	6						
	<指標の計算方法>		社会教育指導員連絡会の開催回数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	11,422			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			11,422									
事業の実績	① 社会教育委員会運営 第1回 6月1日 第2回 10月3日 第3回 12月14日 第3次紀の川市生涯学習推進計画策定に係る作業部会 第1回 7月24日 第2回 7月25日 社会教育委員研修会（岩出市と合同開催） 12月14日 障害のある人の生涯学習について （社会教育委員による講演）			④ 県社会教育主事等連絡協議会負担金 0円			⑤ 社会教育主事育成・研修 社会教育主事講習受講0名			⑥ 社会教育推進事務		
	② 社会教育指導員設置 指導員数 5人											
	③ 県社会教育委員連絡協議会負担金 29,000円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・社会教育法に基づき委員を委嘱しており、社会教育に関する調査研究、諸計画の立案や提言など社会教育を推進する上で重要な役割を担っている。 ・社会教育指導員は、各地区公民館において各地域における社会教育についての直接指導、学習相談、社会教育団体の育成、また社会教育を推進するための具体策を企画提案しており、各指導員の連携により市全体の社会教育の推進を図っている。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・社会教育委員の立案や提言を求めながら市の社会教育のあるべき姿をモデル化し、各種計画を策定する実施方法は有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・社会教育法に基づき社会教育委員を委嘱している。 ・社会教育指導員については、学識経験者を各地区公民館に会計年度任用職員として配置しているため、現状の実施方法は効率的である。											

事務事業の概要	事務事業名	文化振興事業		担当課	生涯学習課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	565	
	予算科目	款	10 教育費		長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	5 社会教育費			施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	1 社会教育総務費			基本施策	1	生涯学習の推進			
事業概要	市民の芸術文化への関心を高めるために、関連団体への支援やイベント、啓発を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	文化協会運営補助金		⑤				⑨			
	②	自主文化事業（粉河ふるさとセンター）		⑥				⑩			
	③	自主文化事業（貴志川生涯学習センター）		⑦				⑪			
	④	劇団運営補助金		⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	自主文化事業開催回数	回	目標	8	8	8	8	8	令和4年度に比べ実施回数が増加したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、自主文化事業開催回数の目標値を下回った。	
			実績	2	2	6					
	<指標の計算方法>		自主文化事業開催回数								
	成果指標	自主文化事業入場者数	人	目標	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	自主文化事業開催回数が令和4年度より増加したため、自主文化事業入場者数が増加し、目標値を上回った。	
			実績	296	665	3,092					
	<指標の計算方法>		自主文化事業入場者数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	12,288			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,876	10,412
事業の実績	①文化協会運営補助金 加盟団体 111団体 (打田支部 27団体、粉河支部 32団体、 那賀支部 10団体、桃山支部 12団体、 貴志川支部 30団体)			「NHKのど自慢」 入場者数580人			④劇団運営補助金 ・令和5年度は申請なし。				
	文化祭の開催 ・10月28日(土)～29日(日) 粉河支部・桃山支部・貴志川支部 ・11月4日(土)～5日(日) 打田支部・那賀支部			・1月20日(土) 「天童よしみコンサート」 入場者数1,042人 ・3月10日(日) 「スーパーJAZZコンサート」 入場者数532人			③自主文化事業（貴志川生涯学習センター） ・8月20日(日) 「クラシックで笑顔を創ろう！スゲテツ ファミリーコンサート」 入場者数103人 ・1月21日(日) 「新垣隆&奥村愛 デュオ・リサイタル」 入場者数271人				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・文化協会各支部の様々な文化芸術活動や文化祭の開催、また地域の子供への文化芸術に関する指導を通じた交流活動に対して、市が支援するのは妥当である。 ・あらゆる世代の市民が、心豊かな生活が送れるように、市が音楽や演劇ほか幅広く優れた文化芸術に触れられる機会を提供することは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・自主文化事業については、一般職の職員が催事企画を行っており、市民の芸術文化に関する関心を高めるためにも、市民のニーズや時代のニーズを捉えた魅力的な事業を行っていく必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・文化協会会員の高齢化、会員数の減少が顕著である。市の補助だけではなく、今後も文化協会の活性化に向けての取組を進めていく必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	家庭教育推進事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	562	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	5 社会教育費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	1 社会教育総務費				基本施策	3 家庭と地域による子供の健全育成の推進				
取組方針				4 家庭教育支援の推進								
事業概要	市民（保護者）に家庭教育の大切さを理解してもらうために、家庭教育の重要性の啓発を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	子供読書活動推進			⑤			⑨				
	②	PTA連絡協議会補助金			⑥			⑩				
	③	家庭教育講座			⑦			⑪				
	④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	読み聞かせ回数	回	目標	50	50	50	50	50	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため回数を制限していたが、令和5年から制限を解除したため回数が増加した。		
			実績	26	25	46						
	<指標の計算方法>		河北・河南図書館での開催回数 定例（月2回程度）+夏休み期間中分									
	成果指標	読み聞かせ参加者数	人	目標	900	900	900	900	900	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため回数を制限していたが、令和5年から制限を解除したため参加者数が増加した。		
			実績	238	203	408						
	<指標の計算方法>		河北・河南図書館での参加人数 定例（月2回程度）+夏休み期間中分									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	561			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		561	
事業の実績	①子供読書活動推進 ・学校司書との連携、学校図書館訪問 ・読み聞かせ 〔河北図書館〕 〔河南図書館〕			③家庭教育講座 一歳児健康相談時家庭教育講座 14回 287人								
	4月	2回	10人	3回	30人							
5月	2回	11人	1回	16人								
6月	2回	7人	3回	29人								
7月	3回	15人	1回	25人								
8月	2回	11人	3回	29人								
9月	0回	0人	1回	16人								
10月	0回	0人	3回	25人								
11月	2回	27人	2回	19人								
12月	1回	7人	3回	20人								
1月	3回	25人	2回	18人								
2月	2回	15人	2回	25人								
3月	2回	12人	1回	16人								
計		21回	140人	25回	268人							
②PTA連絡協議会補助金		150,000円										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・子供読書活動推進は、未来を担う子供たちが読書を通して自ら学び、自ら考え、自らの力で成長するための礎を作ることにつながるため、市が実施することは妥当である。 ・PTA連絡協議会の活動は、単位PTAとの緊密な連絡と相互の協力によって、市全体の児童生徒の福祉の増進と教育力の向上に寄与する活動であるため、市が支援することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・子供読書活動の推進や家庭教育講座は、乳幼児期から学齢期の重要な時期に、親子の基本的信頼関係と愛着形成を育み、保護者同士の交流につながる事業であるため、より多くの方に参加していただけるよう事業の拡充を検討していく必要がある。 ・講座の開催による成果が見えにくい。要支援家庭を支援ネットワークに繋ぐ確実性を高めるため、参加対象の年齢を追加するなど切れ目のない支援へと広げる余地がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・読み聞かせについては図書館ボランティアの協力で事業を実施していることから、効率的でコスト削減の余地はない。											

事務事業の概要	事務事業名	生涯学習推進事業		担当課	生涯学習課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	848		
	予算科目	款	10	教育費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	5	社会教育費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ				
		目	1	社会教育総務費		基本施策	1	生涯学習の推進				
目	1	社会教育総務費	取組方針	1		生涯学習機会の提供						
事業概要	市民に生涯学習の推進をするために、生涯学習活動に支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	はたちのつどい実行委員会運営			⑤				⑨			
	②	はたちのつどい開催			⑥				⑩			
	③	ユネスコ連絡協議会補助金			⑦				⑪			
	④	婦人会補助金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	はたちのつどい実行委員会委員数	人	目標	12	12	12	12	12	令和5年度はたちのつどい実行委員会について、地域の協力を得ながら募集を行ったが令和4年度より減少した。		
				実績	20	8	7					
	<指標の計算方法>		はたちのつどい実行委員会委員数									
	成果指標	はたちのつどい出席率	%	目標	80	80	80	80	80	新型コロナウイルス感染症の収束及び芸能イベントが復活した結果、令和4年度より4.63%増加した。		
				実績	76.43	73.78	78.41					
	<指標の計算方法>		当日の出席者を対象者（住登外で出席申込希望者含）で除した割合									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,844			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,844		
事業の実績	①はたちのつどい実行委員会運営 第1回 7月7日 第2回 8月16日 第3回 9月6日 第4回 10月18日 第5回 11月15日 第6回 12月20日 第7回 2月29日			④婦人会補助金 100,000円								
	②はたちのつどい開催 1月7日 ・開会式典 ・自主イベント 1. スライドショー上映 (実行委員制作) 2. お見送り芸人しんいちと あぁ～しらきによる爆笑ライブ (芸能イベント)											
	③ユネスコ連絡協議会補助金 90,000円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市としての生涯学習を推進し、支援することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・例年募集している「はたちのつどい実行委員会」は、はたちのつどい式典の進行及びイベントの企画・運営を行うことにより、社会の一員として活動する意識や責任感、達成感を得ることができ有効性が高い。 ・「はたちのつどい実行委員」の人数については、毎年増減があるが、あらゆる知り合いを通じての人伝が有効であるとの調査結果に基づいた広報活動及び募集活動が必要である。 ・ユネスコ連絡協議会及び婦人会の活動については、自主運営ができており事業の有効性が高い。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・事業内容を精査し、適正な補助額で事業を展開しており、効率性は高い。											

事務事業の概要	事務事業名	公民館活動推進事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	564	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	5 社会教育費				施策目標	3 生涯学習・生涯スポーツ				
		目	2 公民館費				基本施策	1 生涯学習の推進				
取組方針	1 生涯学習機会の提供											
事業概要	市民の交流機会の創出や教養を高めてもらうために、公民館でのイベントや講座の開催を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	公民館講座・各種教室開催			⑤	公民館へいこらフェア		⑨				
	②	公民館主事設置			⑥	県公民館連絡協議会負担金		⑩				
	③	公民館活動・運営委託			⑦			⑪				
	④	公民館運営審議会			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	公民館講座教室数	教室	目標	45	45	45	45	45	公民館講座教室数は、目標値を超えることができました。		
				実績	44	54	60					
	<指標の計算方法>		各地区公民館及びコミセンで開催の講座教室数									
	成果指標	公民館講座出席率	%	目標	80	80	80	80	80	各地区公民館及びコミュニティセンター開催の講座申込者の平均出席率は令和4年度比微減。		
				実績	80.1	76.7	75.2					
	<指標の計算方法>		各地区公民館及びコミセンで開催の講座教室申込者の平均出席率									
	活動指標	公民館へ行こらフェア開催日数	日	目標	15	15	15	15	15	公民館へ行こらフェアの開催日数は、目標値を超えることができました。		
実績				16	17	23						
<指標の計算方法>		公民館へ行こらフェア開催日数										
成果指標	公民館へ行こらフェア参加人数	人	目標	750	500	500	500	500	公民館へ行こらフェアの参加人数は、目標値を超えることができました。			
			実績	367	466	744						
<指標の計算方法>		公民館へ行こらフェア参加人数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	30,084			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	983	一般財源	29,101	
事業の実績	①公民館講座・各種教室開催 公民館講座(人数は延べ数) 打田地区公民館 13講座 1,346人 粉河地区公民館 8講座 1,074人 那賀地区公民館 9講座 1,159人 桃山地区公民館 5講座 675人 桃山1コミセン 3講座 212人 貴志川地区公民館 10講座 1,215人 貴志川4コミセン 12講座 2,045人 各種教室(女性学級)(人数は延べ数) 打田地区公民館 10講座 151人 各種教室(高齢者教室)(人数は延べ数) 打田地区公民館 10講座 146人 桃山地区公民館 4講座 161人 貴志川地区公民館 9講座 382人			粉河地区5分館 1,925,000円 那賀地区5分館 2,200,000円 貴志川地区4コミセン 652,000円			④公民館運営審議会 5回開催 ⑤公民館へいこらフェア 打田地区公民館 コアチューニング体験教室(25人) 己書体験教室(46人) 入門「小倉百人一首」に挑戦!(5人) 打田中学校吹奏楽部による クリスマスコンサート(97人) 絵手紙体験教室(31人) ハウスキーピング講座1回目(64人) ハウスキーピング講座2回目(69人) パステルアート体験教室(20人)			太極拳&練功十八法(7人) 押し花体験教室(19人) 書道アート教室(16人) 地元出身の元気なデュオ「くう」と共に 皆さんご存じの曲を楽しみましょう(20人) 桃山地区公民館 手話deほっとタイム(14人) やさしい健康体操～練功十八法と太極拳～(9人) ベリーダンスエクササイズ(17人) クリスマスコンサート(96人) 貴志川地区公民館 美容と健康のインド式ヨガ体験(15人) Colorsによるいろどり コンサート(69人) 季節の花のミニ寄せ植え(24人) 食品サンプルを作ろう(26人)		
	②公民館(コミセン)主事設置 貴志川地区公民館 1名 桃山1コミセン 1名 貴志川4コミセン 4名			粉河地区公民館 プラモデル体験教室(12人) 体質改善ヨガ体験教室(20人) お菓子作り体験教室(23人)			⑥県公民館連絡協議会負担金 30,000円					
	③公民館活動・運営委託			那賀地区公民館								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・社会情勢や市民ニーズに合わせて公民館活動の推進を図る必要があり、地域の要望・課題に対応する講座や公民館へ来館するきっかけとなるイベント開催は、社会教育が担う部分が多く、市が公民館活動を推進することは妥当である										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・公民館の利用は、各種団体に加盟している高齢者の割合が多く、高齢者以外の子育て世代など若年層の利用が少ない傾向があり、誰もが気軽に立ち寄ることができる公民館づくりを進める必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・公民館講座及び公民館へ行こらフェア等の参加者には受講料及び材料費等を受講者より徴収していることから効率性は高い。											

事務事業の概要	事務事業名	公民館管理運営事業			担当課	生涯学習課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	121	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	5 社会教育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	2 公民館費				基本施策	1	生涯学習の推進			
事業概要	市民が公民館を安全で快適に利用できるように、公民館の適切な維持管理や改修を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 中貴志コミュニティセンター施設管理		⑤ ふれあいコミュニティセンター施設管理		⑨							
	② 東貴志コミュニティセンター施設管理		⑥ 粉河5分館(川原、竜門、粉河、長田、鞆瀬)施設管理		⑩							
	③ 西貴志コミュニティセンター施設管理		⑦ 那賀5分館(麻生津、名手、那賀、上名手、王子)		⑪							
	④ 丸栖コミュニティセンター施設管理		⑧		⑫							
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	コミュニティセンター利用団体数	団体	目標	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	コミュニティ施設及び公民館分館施設の利用団体で新型コロナウイルス感染症が収束したことに伴い増加。		
				実績	1,298	1,549	1,920					
	<指標の計算方法>		コミュニティセンター利用団体数									
	成果指標	コミュニティセンター利用人数	人	目標	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	コミュニティ施設及び公民館分館施設の利用人数で新型コロナウイルス感染症が収束したことに伴い増加。		
				実績	53,573	58,198	67,651					
	<指標の計算方法>		コミュニティセンター利用人数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	58,815			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	9,300 392 49,123		
事業の実績	①中貴志コミュニティセンター施設管理 〔修繕〕 玄関ポーチシーリング修繕 玄関内装修繕 調理実習室調理台修繕			〔工事〕 非常放送設備改修 事務室エアコン取替工事								
	②東貴志コミュニティセンター施設管理 〔修繕〕 浄化槽漏水修繕 大集会室空調修繕			⑤ふれあいコミュニティセンター施設管理 〔修繕〕 ブラインド及びクロス張替修繕 消防設備修繕 誘導灯修繕 エレベーター修繕 〔工事〕 空調設備改修工事								
	③西貴志コミュニティセンター施設管理 〔修繕〕 事務室上シーリング修繕 ヘルストロン室換気扇修繕 和室カーテン取替修繕 多目的トイレ修繕 調理実習室ガスコンロ改修 調理実習室ガス給湯器改修 屋根雨漏り修繕			⑥粉河5分館(川原、竜門、粉河、長田、鞆瀬)施設管理			⑦那賀5分館(麻生津、名手、那賀、上名手、王子) 〔工事〕 麻生津分館倉庫アスベスト対策工事					
	④丸栖コミュニティセンター施設管理 〔修繕〕 内壁タイル修繕											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・地域と密接に関わるコミュニティセンターや地区公民館分館の施設は、地域の生涯学習の拠点であるが、市全体としては市計画(公共施設マネジメント計画、個別施設計画)に基づき維持管理や集約化等を市が責任をもって進めていく必要があり、市が関与することは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・各施設とも老朽化が進んでいるため修繕工事等が多いが、これからも誰もが利用しやすい施設となるよう維持管理に努める必要がある。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		・受益者負担の公平性の観点から、施設使用料の在り方について引き続き検討していく必要がある。 ・市計画(公共施設マネジメント計画、個別施設計画)に基づき、稼働率が低く老朽化が著しい施設は、地元や施設利用者に理解を求め集約化等を進める必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	人権教育推進事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	561	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	5 社会教育費				施策目標	1	人権尊重			
		目	3 人権教育費				基本施策	1	人権が尊重された差別のない社会の実現			
取組方針				2	人権啓発・教育の推進							
事業概要	市民の人権意識の高揚を図るために、講座の開催や啓発、関係機関の補助を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	人権学習講座開催			⑤				⑨			
	②	保護者学級補助金			⑥				⑩			
	③	識字学級を支援			⑦				⑪			
	④	人権ポスター・カレンダー・標語作成			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	じんけん学習講座開催回数	回	目標	5	5	5	5	5	年間5地区公民館で開催する講座回数。全5回予定通り開講することができた。		
				実績	3	5	5					
	<指標の計算方法>		じんけん学習講座開催回数									
	成果指標	じんけん学習講座参加者数	人	目標	200	200	200	200	200	第1回じんけん学習講座で子供を対象にしたアニメーションの人権映画会を開催。学校あてに通知し、参加者数が増加した。		
				実績	57	124	168					
	<指標の計算方法>		じんけん学習講座参加者数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	4,152			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,727		
事業の実績	①人権学習講座開催 5地区公民館で開催 参加者168名											
	②保護者学級補助金 小学校に在籍する児童の保護者の人権意識を高めるため、様々な人権について学ぶ保護者学級の運営補助を行った。											
	③識字学級を支援 定例学級開催、交流会や研修会への参加を支援した。											
	④人権ポスター・カレンダー・標語作成 啓発物資・啓発資料作成 除菌ウェットティッシュ 5,000個 人権啓発カレンダー 400冊 ※標語は3年に1回作成のため、令和5年度は実績なし。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・本事業の人権教育推進に関する様々な取組は、児童生徒をはじめ広く市民の人権意識の高揚を図る効果があることから市が実施することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・公民館にて入賞作品以外の人権啓発ポスター応募作品の展示会を行い多くの来場者が見られたため、人権意識の向上に有効であった。 ・じんけん学習講座については、若年層の参加者数が少ないことから子供を対象にアニメーションでの人権映画会を開催したが、子供の参加者数が見込みより少なく、小学生にも分かりやすく人気のある作品で人権について考えてもらえるよう工夫する必要がある。 ・じんけん学習講座の講師料が年々上がってきており、知名度があり集客が見込めるような講師を呼ぶのは難しい現状である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・県からの補助金もあり、費用面での効率性は高いと考えられる。											

事務事業の概要	事務事業名	文化財保護事業		担当課	生涯学習課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	558		
	予算科目	款	10	教育費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	5	社会教育費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ				
		目	4	文化財保護費		基本施策	2	歴史資産の保護・活用				
取組方針	1	歴史文化の保存・継承										
事業概要	市内の文化財を後世に残すために、文化財の保護や活用を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	文化財保護審議会運営			⑤	全国史跡整備市町村協議会負担金			⑨	文化財保存活用地域計画協議会運営		
	②	発掘調査・研究			⑥	文化財等保存整備事業補助金			⑩			
	③	文化財保護管理委託			⑦	指定文化財管理費補助金			⑪			
	④	活用事業（講演・企画展等）・啓発			⑧	無形民俗文化財等保存団体補助金			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	歴史体験教室・企画展等の参加者数	人	目標	600	600	600	600	600	企画展等多くの事業を開催したことにより参加者数が増加し目標を達成することができた。		
			実績	617	473	958						
	<指標の計算方法>		参加者名簿から算出									
	活動指標	歴史体験教室・企画展等の開催数	回	目標	6	5	5	5	5	企画展、歴史体験教室、講演会等多くの事業を開催し目標を達成することができた。		
			実績	2	3	6						
	<指標の計算方法>		歴史体験教室・企画展等の開催数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
21,344			1,100	110				1	20,133			
事業の実績	①文化財保護審議会運営 ・第1回（審議会）6月6日 ・第2回（審議会）8月30日 ・視察 1月22日 ・第3回（審議会）3月1日			1月17日～2月18日 期間中来館者352人（講演会1月21日 参加者44人）（古墳ウォーキング1月28日 参加者35人）			・補助事業について国への要望に関する事務を行った。			⑥文化財等保存整備事業補助金 ・百合山の自然と遺跡を生かす会の活動、東田中神社境内社旧竹房神社本殿保存修理、西田中神社羊宮神社本殿・八幡神社本殿保存修理、鞆洲八幡神社消防設備修繕、鞆洲八幡神社消火栓設備修繕、粉河寺庭園保存修理に補助を行った。		
	②発掘調査・研究 ・開発事業に伴う発掘調査37件、史跡整備等に伴う内容確認調査1件を実施。 ・昨年の調査内容をまとめた市内遺跡発掘調査概要報告書及び継続して実施してきた荒見廃寺の発掘調査報告書を各300部作成。			・旧南丘家住宅 特別開館5月3日～5日、9月16日～18日、2月17日～3月10日の土日 来館者は52人「ちよっぴりこわい昔ばなし」8月28日 参加者32人			⑦指定文化財管理費補助金 ・対象 粉河寺、鞆洲八幡神社、三船神社			⑨文化財保存活用地域計画協議会運営 ・第1回（協議会）8月2日 ・第2回（協議会）2月14日		
③文化財保護管理委託 ・指定文化財の内、8件について所有者に保護管理委託を行った。			・道の駅青洲の里 講演会「明治初期、華岡青洲を欧米に紹介したホイットニー著『日本医学沿革史』について」9月30日 参加者43人			⑧無形民俗文化財等保存団体補助金 ・対象 2保存団体						
④活用事業（講演・企画展等）・啓発 ・歴史民俗資料館 企画展「戦前・戦中の記録」 7月19日～8月20日 期間中来館者215人（展示解説7月29日・8月5日 参加者25人） 企画展「紀の川市の古墳」			・中津川地区 歴史体験教室 ワクワクれきし体験『わらじで歩こう行者道』10月21日 参加者 小学生10人			⑨文化財保存活用地域計画協議会運営 ・第1回（協議会）8月2日 ・第2回（協議会）2月14日						
			・岩出市 旧和歌山県議会議事堂（一乗閣） 「日本遺産構成自治体3市1町合同葛城修験公開講座」11月18日参加者150人									
			⑤全国史跡整備市町村協議会負担金									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・文化財は市の財産であり、後世に文化財を残すためには継続的に保護・活用を行い、市民にその価値を伝えていくことが重要である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
			・企画展や講演会を多く実施したことで、目標としていた指標は達成できたが、少子高齢化等のため文化財の保護が困難となってきた。地域の文化財を地域住民を含めた市全体で守っていく必要があり、文化財を学校教育や観光の資源として活用した事業を通じて、市民の文化財への関心を高めることは重要である。									
効率性	評価結果	改善の余地がない										
		・企画展や講演会は、専門の有識者の協力を得て開催を行った。資料を職員で作成しコストを削減している。また歴史体験教室や文化財の説明を紀の川市文化財サポーターの会との協働で行っており、効率よく実施できている。										

事務事業の概要	事務事業名	文化財施設管理運営事業			担当課	生涯学習課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	553	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	5 社会教育費				施策目標	3 生涯学習・生涯スポーツ				
		目	4 文化財保護費				基本施策	2 歴史資産の保護・活用				
取組方針				1 歴史文化の保存・継承								
事業概要	市民が文化財施設を快適に利用できるように、適切な維持管理や改修を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	歴史民俗資料館・体験館施設管理			⑤	旧南丘家住宅管理			⑨			
	②	紀伊国分寺公園管理			⑥	藤崎弁天管理			⑩			
	③	西行法師像モニュメント管理			⑦				⑪			
	④	旧名手本陣管理			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	旧名手宿本陣利用者数	人	目標	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	整備が進み、学校教育に利用されるなど令和4年度と比較すると利用者は増加しており、新型コロナウイルス感染症の影響前に戻りつつある。		
				実績	1,557	1,747	3,538					
	<指標の計算方法>		芳名録へ記載されている人数									
	成果指標	歴史民俗資料館利用者数	人	目標	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	企画展や講演会を多く実施することができたことで令和4年度と比較すると利用者は増加しており、新型コロナウイルス感染症の影響前に戻りつつある。		
				実績	1,531	1,083	2,022					
	<指標の計算方法>		芳名録へ記載されている人数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	25,625			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	15,525		
事業の実績	①歴史民俗資料館・体験館施設管理 自動火災報知設備修繕 多目的トイレベビーシート取付 防犯カメラ修繕 消防用設備修繕 施設の管理を委託			⑥藤崎弁天管理 弁天堂周辺ブロック塀撤去及び改修等工事 名勝範囲内の雑木伐採 アスベスト調査								
	②紀伊国分寺公園管理 金堂南面基壇修繕 本堂自動火災報知設備修繕 案内看板修繕 トイレ修繕(洋式化等) 多目的トイレベビーシート取付 外灯修繕											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・重要文化財や市指定文化財などの歴史的な建造物を含む文化財施設は、市民の文化財に対する保護意識や愛着を醸成するために不可欠な施設である。適切に管理し、後世に受け継ぐべきものである。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・資料館で企画展や講演会を開催し、他の施設でも活用事業を開催することで、来館者の増加に努めた。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・一部の施設管理や国分寺公園の草刈りを個人に委託し経費を抑えている。国分寺公園や歴史民俗資料館等の設備が老朽化等により修繕が多くなってきている。施設の状況を把握し、計画的に改修等を進める必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名		旧名手宿本陣整備事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ハード事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	552
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	5 社会教育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	4 文化財保護費				基本施策	2	歴史資産の保護・活用			
事業概要		旧名手宿本陣を後世に残すために、整備や活用を行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	紀の川市名手本陣保存整備委員会運営			⑤				⑨		
		②	保存整備計画進捗管理			⑥				⑩		
		③	保存整備・保存修理			⑦				⑪		
		④	史跡旧名手宿本陣第2期整備基本計画策定			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	旧名手宿本陣利用者数	人	目標	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	整備が進み、学校教育に利用されるなど令和4年度と比較すると利用者は増加しており、新型コロナウイルス感染症の影響前に戻りつつある。		
			実績	1,557	1,747	3,538						
	<指標の計算方法>		芳名録へ記載されている人数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,461			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			1,461									
事業の実績	①紀の川市名手本陣保存整備委員会運営 第1回 9月13日、第2回 2月7日											
	②保存整備計画進捗管理 文化庁・保存整備委員会・県に指導助言をもらい計画の進捗管理を実施。											
	③保存整備・保存修理 令和4年度で完了した第1期整備の報告書の一部を作成。令和6年度に整備を進める資料を得るため発掘調査を実施。											
	④史跡旧名手宿本陣第2期整備基本計画策定 文化庁・保存整備委員会・県に指導助言をもらい第2期整備基本計画を策定。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・旧名手宿本陣は市所有の文化財であり、敷地は国指定史跡、建物3棟は重要文化財である。後世に受け継がなければならない重要な歴史資産である。国や県、保存整備委員の指導や助言を得て適宜整備計画を見直し、計画的に事業を実施している。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・関係機関や有識者の指導や助言をもらいながら整備事業を実施している。新型コロナウイルス感染症の影響が弱まり、地元の小中学校の授業に活用されるなど、来館者数は徐々に回復している。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・整備事業は国や県の補助を受け所有者である市が実施している。施設管理は地元の個人に委託しコストを抑えている。											

事務事業の概要	事務事業名	青少年健全育成事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	551	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	5 社会教育費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	5 青少年育成費				基本施策	3 家庭と地域による子供の健全育成の推進				
取組方針	3 地域との交流・活動の推進											
事業概要	青少年の健全育成を図るために、関係団体への活動支援や啓発活動を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	青少年育成市民会議活動			⑤			⑨				
	②	青少年健全育成事業			⑥			⑩				
	③	ガールスカウト補助金			⑦			⑪				
	④	少年少女発明クラブ補助金			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	紀の川市少年メッセージ参加者数	人	目標	340	340	340	340	340	台風2号の影響による大雨で、市内に甚大な被害が発生していたことに鑑み、市民の生命や財産を守る災害対応を最優先するため中止を決定した。		
			実績	0	0	0						
	<指標の計算方法>		紀の川市少年メッセージ参加者数（主催者、来賓、発表者、スタッフ含む）									
	活動指標	紀の川市青少年健全育成推進員人数	人	目標	100	100	100	100	100	紀の川市青少年健全育成推進員数は、ほぼ現状維持している。		
			実績	102	101	98						
	<指標の計算方法>		紀の川市青少年健全育成推進員総数									
	活動指標	紀の川市少年少女発明クラブ開催日数	日	目標	12	12	12	12	12	紀の川市少年少女発明クラブの開催日数は、予定通り12日開催でき、目標を達成できた。		
			実績	4	11	12						
	<指標の計算方法>		紀の川市少年少女発明クラブ開催日数									
成果指標	紀の川市少年少女発明クラブ参加人数	人	目標	330	330	330	330	330	紀の川市少年少女発明クラブの参加人数は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、定員数削減となり目標達成できなかった。			
		実績	88	228	241							
<指標の計算方法>		紀の川市少年少女発明クラブ参加人数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,549			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,549		
事業の実績	①青少年育成市民会議活動 「紀の川市少年メッセージ2023」 内容：市内の5中学校より提出のあった作文1,227作品を2度の審査会にて最優秀賞（1点）、優秀賞（2点）、佳作（6点）及び入選（34点）として表彰を行った。 記念冊子配布部数：283冊			し、自由な環境の下で創造活動を行った。紀の川市内の小学4年生から6年生の児童が対象で、令和5年度は定員以上の応募があり、抽選により選ばれた24人がクラブ員として活動を行った。 開催日数：12回								
	②青少年健全育成事業 紀の川市青少年健全育成推進員を中心に、地域・学校・家庭と連携し、各地区での地区事業を実施した。											
	③ガールスカウト補助金 ガールスカウト 粉河・貴志川 2団体											
	④少年少女発明クラブ補助金 創造性豊かな少年少女を育成するために、科学的な興味・関心を追究する場を提供											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市内のあらゆる団体から構成されている青少年育成市民会議と、市内各地域の推進員の方々で構成されている青少年健全育成推進協議会は、それぞれの役割を果たしているが、次代を担う青少年の健全な育成を目的とした活動であるため、市が事業を委託して実施することは妥当である。 ・青少年健全育成団体であるガールスカウト及び紀の川市少年少女発明クラブに対し補助金を交付することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・青少年健全育成事業は、青少年が地域において様々な学習体験を行うことができ、有効性が高い。 ・地域に根ざした青少年健全育成事業を市内各地で開催することは、市内全ての子どもたちに学習の機会を与えるため有効性は高いが、地域独自の活動が多いため市内全ての子どもたちが市内のどこに住んでいるにも各地域の事業を平等に体験し、学ぶ機会を得るためには地域相互の情報共有や意見交換等の連携強化、或いは協力体制の構築を図ることが必要である。 ・青少年健全育成団体の支援と育成のために補助金を交付することは、様々な学習体験の企画につながり有効性が高い。 ・市民に青少年健全育成の理解を深め、次世代の育成を図る機運を高めてもらうために、青少年育成市民会議活動の啓発を推進し、加盟団体や会員の増加を図ることで、更なる効果を期待できる。										
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・青少年育成市民会議と青少年健全育成推進協議会の活動形態は全域的な活動と地域に密着した活動に分かれていて、それぞれの団体に事業委託しているため、効率性が高い。 ・事業委託団体の節減努力により事業費については必要最小限で実施しており、効率性は非常に高い。											

事務事業の概要	事務事業名	地域子ども会活動支援事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	124	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	5 社会教育費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	5 青少年育成費				基本施策	3 家庭と地域による子供の健全育成の推進				
取組方針	3		地域との交流・活動の推進									
事業概要	生徒・児童・幼児の健全育成を図るために、子ども会への活動支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	子ども会活動支援			⑤			⑨				
	②	地域子ども会活動支援事業補助金			⑥			⑩				
	③				⑦			⑪				
	④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	紀の川市地域活動連絡協議会加盟子ども会数	団体	目標	30	30	30	30	30	少子化により、子ども会数は減少している。		
				実績	30	30	28					
	<指標の計算方法>		紀の川市地域活動連絡協議会加盟子ども会数									
	成果指標	公益社団法人全国子ども会連合会全国子ども会安全共済会加入者数	人	目標	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	少子化および新型コロナウイルス感染症によるイベントの減少により、安全共済会の入会者数は減少している。		
				実績	1,082	1,055	925					
	<指標の計算方法>		公益社団法人全国子ども会連合会全国子ども会安全共済会加入者数（当初加入者人数）									
成果指標	子ども会活動支援参加者数	人	目標				120	120	ソフトドッジボール大会及び指導者研修会参加者数。			
			実績			121						
<指標の計算方法>		子ども会活動支援参加者数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,161			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	684		
事業の実績	①子ども会活動支援 紀の川市ソフトドッジボール大会開催 開催日：令和5年7月1日（土） 参加チーム：6チーム 参加者：106人 指導者研修会 開催日：令和5年7月8日（土） 参加者：15人			会員数15人以上、活動日数6日以上 補助金額 53,000円 補助子ども会数：3団体			地域活動事業補助金（B）：市単独補助金 会員数10人以上、活動日数3日以上 補助金額 26,000円 補助子ども会数：0団体					
	②地域子ども会活動支援事業補助金 (地域総合活動)：市および県補助金 会員数40人以上、活動日数50日以上 補助金額 212,000円 補助子ども会数：1団体 地域子ども会活動支援事業補助金 (地域集団活動)：市および県補助金 会員数20人以上、活動日数12日以上 補助金額 106,000円 補助子ども会数：7団体 地域活動事業補助金（A）：市単独補助金											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・少子化の影響により、単位子ども会及び加入人数は減少傾向にあるが、各子ども会活動は各地域で子供が健やかに成長できる地域ぐるみで見守り育てる活動であるため、市が支援することは妥当である。 ・よりよい環境の中で子どもたちが健やかに成長できる地域社会の実現を図るため、市が支援していくことは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・子ども会活動は、生徒、児童及び幼児だけでなく、保護者及び指導者を含めた地域活動の場を提供している。 ・保護者及び指導者が生徒、児童及び幼児に様々な体験をさせ、子供たちが成長していく上で地域ともつながることができる本事業は有効である。 ・少子化による子供の減少や地域社会のつながりの希薄化が要因となり、単位子ども会及び加入人数、市地域活動連絡協議会への加入子ども会数は減少傾向にある。 ・地域活動連絡協議会に加盟する単位子ども会が少ないのは、主に少子化が原因であるが、これ以外に子ども会指導者の単年での役員交代や、共働き家庭の増加、また本協議会事業への参加を厭う指導者が多いことも理由となっている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・県からの補助金があるため、費用面での効率性は高いと考える。											

事務事業の概要	事務事業名	共育コミュニティ推進事業			担当課	生涯学習課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	549	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	5 社会教育費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	5 青少年育成費				基本施策	3 家庭と地域による子供の健全育成の推進				
取組方針	1 共育コミュニティの推進											
事業概要	地域社会の活性化と学校を核とした地域づくりを図るために、地域と協働し、子供たちの成長を支える活動を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	子どもの居場所づくり推進事業			⑤				⑨			
	②	共育コミュニティ推進			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	居場所づくり事業開催日数	日	目標	119	119	119	119	119	開催日数はここ数年横這いである。		
				実績	132	131	130					
	<指標の計算方法>		居場所づくり事業年間の開催日数									
	成果指標	居場所づくり事業参加人数	人	目標	2,380	2,380	2,000	2,000	2,000	年間の参加人数はここ数年横這いである。		
				実績	1,561	1,461	1,499					
	<指標の計算方法>		年間の参加人数									
	活動指標	共育コミュニティ事業実施回数	回	目標	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	学校との連携による事業実施回数には増減がある。		
				実績	2,016	2,311	2,307					
	<指標の計算方法>		年間の実施日数									
成果指標	共育コミュニティボランティア活動人数	人	目標	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	学校との連携による実施日数及び事業内容により、必要ボランティア人数に増減がある。			
			実績	12,039	9,587	10,549						
<指標の計算方法>		年間の延べ活動人数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)				財源内訳							
	1,709				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	812	
事業の実績	<p>①子どもの居場所づくり推進事業 放課後等、公民館施設などで、安全・安心な子供達の居場所を設け、地域の人々の協力を得て、一緒に過ごすことでコミュニケーション力の向上や学習習慣を身につけられるよう支援している。</p> <p>・みんなの家 (NPO法人 ロッツ) 活動日数 平日93日 土曜日等休日13日 計106日 参加人数 延べ1,315人</p> <p>・こ・はうすきしがわ 活動日数 平日11日 土曜日等休日13日 計24日 参加人数 延べ184人</p> <p>②共育コミュニティ推進 打田地区 実施回数 974回 ボランティア延べ人数 3,398人 粉河地区 実施回数 464回</p>											
	<p>ボランティア延べ人数 1,552人 実施回数 169回 那賀地区 ボランティア延べ人数 649人 桃山地区 実施回数 314回 ボランティア延べ人数 2,438人 貴志川地区 実施回数 386回 ボランティア延べ人数 2,512人</p>											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、相互の連携・協働のもと学校づくりと地域づくりを進め、一体となって子供たちの成長を支えることを市が支援することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・地域創成の観点からも必要な事業であり、短期的な結果を求めるのではなく、引き続き事業を展開していくことが大切である。本事業によって地域のつながりも深まっていると思われる。 ・コミュニティ・スクールと連携を図り、学校や地域の課題を協働で取り組み解決に導くための事業を推進する必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・共育コミュニティボランティアについては無償であるため、コスト面においては改善の余地がない。 ・ボランティア、指導員及びコーディネーターの負担軽減や、次の担い手と人材発掘及び育成が当面の課題である。 ・令和元年度から市内全小中学校に導入されたコミュニティ・スクールとの一体的な推進を図ることで、さらに事業の効率性が向上するものである。											

事務事業の概要	事務事業名	青少年センター運営事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	550
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育			
		項	5 社会教育費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス			
		目	5 青少年育成費				基本施策	3 家庭と地域による子供の健全育成の推進			
事業概要	青少年の非行防止及び健全育成を図るために、青少年センターの円滑な運営を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	青少年センター運営			⑤	関係機関との連携業務		⑨			
	②	青少年センター施設管理			⑥			⑩			
	③	啓発・広報・補導活動			⑦			⑪			
	④	青少年防犯業務			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	街頭補導事業実施回数	目標	320	320	320	320	320	街頭補導事業実施回数は、目標値を達成することが出来た。		
			実績	337	337	346					
	<指標の計算方法>		街頭補導事業年間実施回数								
	活動指標	広報啓発事業実施回数	目標	90	90	90	90	90		広報啓発実施回数は、目標を達成することが出来た。	
			実績	92	91	106					
	<指標の計算方法>		街頭啓発、各種教室開催回数及びチラシ配布回数の合計								
活動指標	環境浄化事業実施回数	目標	140	140	140	140	140	環境浄化事業回数は、目標値を下回った。			
		実績	136	136	117						
<指標の計算方法>		書店等立入回数及び自販機調査数の合計									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	14,603			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	14,549	
事業の実績	①青少年センター運営										
	②青少年センター施設管理										
	③啓発・広報・補導活動 青少年の健全育成を目的とし、非行防止・事故防止のため、広報活動や補導活動を実施した。										
	④青少年防犯業務 年間を通じ地域・学校・警察・関係施設などと連携協力し、不審者情報等の共有に努めた。										
	⑤関係機関との連携業務 年間を通じ地域・学校・警察・関係施設などと連携協力し、青少年の健全育成に努めた。										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・青少年防犯業務及び啓発・広報・補導活動について一部民間団体とも連携をとっているが、触法少年の個人情報や不審者の判断をも扱う業務であるため、行政において実施するのが妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・青少年に関する問題は常に社会情勢の変化に伴い多様化・複雑化してきており、事業実施の有効性が高い。 ・今後も社会情勢の変化に沿って、青少年問題について取り組む必要がある、より専門性を持った人材及び関係機関の協力を得ながら取り組む必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・青少年センター運営事業は委託事業に適さないが、現在4名の会計年度任用職員を専任で配置しているため費用面での効率性は高いと考える。										

事務事業の概要	事務事業名	図書館運営事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	546	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	5 社会教育費				施策目標	3 生涯学習・生涯スポーツ				
		目	6 図書館費				基本施策	1 生涯学習の推進				
目				取組方針	4 図書館の充実							
事業概要	市民に文化や教養を高めてもらうために、図書館の蔵書購入やイベントの開催等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 図書館運営			⑤ 読書活動推進			⑨					
	② 利用促進（講演会・イベント開催）			⑥ 移動図書館事業			⑩					
	③ 図書・雑誌購入			⑦			⑪					
	④ システム・図書データ管理			⑧			⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	図書館利用者登録率（人口比）	目標	43	44	48	49	50	利用登録の推進を図ることにより利用登録者数は増加し、令和5年度は目標を達成した。			
			実績	46	47	48						
	<指標の計算方法>		図書館利用者登録率（人口比）									
	成果指標	図書館貸出冊数（年間）	目標	330,000	330,000	300,000	300,000	300,000	令和4年度と比較して貸出冊数は大きく増加しているが、目標値にはまだ達していない。			
			実績	217,363	244,000	255,853						
	<指標の計算方法>		図書館貸出冊数（年間）									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
	65,092			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	1	一般財源	65,091	
事業の実績	① 図書館運営		河北図書館 290日	河南図書館 89,013冊		河北図書館 3回		河南図書館 3回				
	・開館日数		河南図書館 290日	・購入雑誌種数 河北図書館 74種		河南図書館 72種						
	・来館者数		河北図書館 79,021人	・購入新聞種数 河北図書館 9種		河南図書館 9種		⑥ 移動図書館事業				
	・貸出者数		河南図書館 96,134人	河南図書館 9種				・来館者数 3,440人				
・貸出冊数		66,242人	④ システム・図書データ管理				・貸出者数 1,280人					
・1日当たり貸出者数		河北図書館 106人	・図書館システム管理に係る契約件数 8件				・貸出冊数 4,899冊					
・1日当たり貸出冊数		河南図書館 109人	・資料購入契約件数 5件									
		河北図書館 419冊	・移動図書館運営管理に係る契約件数 1件									
		河南図書館 432冊	⑤ 読書活動推進									
② 利用促進（講演会・イベント開催）		河北図書館 22回	・紀の川市中高生ビブリオバトル大会開催									
・イベント実施回数		河南図書館 19回	・市内小中学校司書との連携・協働									
・イベント参加人数		河北図書館 1,736人	・市内小中学校図書館支援									
		河南図書館 1,630人	・おはなし会の実施 河北図書館21回									
			参加人数 150人									
			河南図書館25回									
			参加人数 268人									
③ 図書・雑誌購入		河北図書館 105,224冊	・読書推進に係るイベントの実施									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・図書館運営事業については、公的サービス事業として現在の方法で実施することが妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・事業の成果を向上させるためには、図書館職員の能力や専門性の向上が不可欠であり、人材の育成および活用が必要となる。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・効率性を高めるためには、図書館職員の能力向上が必要である。											

事務事業の概要	事務事業名	図書館施設管理事業			担当課	生涯学習課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	987	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	5 社会教育費				政策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ				
		目	6 図書館費				基本施策	1	生涯学習の推進				
事業概要	市民が図書館を安全で快適に利用できるように、維持管理を適正に行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	河北図書館施設管理			⑤						⑨		
	②	河南図書館施設管理			⑥						⑩		
	③	蔵書拠点管理			⑦						⑪		
	④	移動図書館管理			⑧						⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析				
	活動指標	図書館施設管理業務	目標	14	14	14	14	14	施設の適正な維持管理に伴う業務の委託に加え、緊急の修繕案件にも迅速に対応できた。また、河北図書館改修工事についても適切に対応できた。				
			実績	16	20	16							
	<指標の計算方法>		施設維持管理に必要な業務委託・修繕等の件数										
	成果指標	図書館利用者数	目標	75,000	75,000	80,000	85,000	85,000	令和4年度と比較すると、新型コロナウイルス感染症の影響が減ったこと、イベントの開催が増えたこと等により、大幅に増加した。				
			実績	46,958	57,156	66,242							
	<指標の計算方法>		図書館利用者数										
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	11,582			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
									11,582				
事業の実績	①河北図書館施設管理業務委託実績なし。ただし、河北図書館に係る施設維持管理業務および大規模修繕は打田生涯学習センター維持管理業務に含まれる。			・2F男子トイレ小便器修繕 ・警備センサー取付修繕 ・西通用ロドア修繕 ・1F男子トイレ照明取替 ・3F空調機修繕 ・南側開架壁クロス修繕 ・浄化槽プロワーベルト取替									
	②河南図書館施設管理業務委託 ・清掃業務（日常清掃） ・貯水槽清掃業務 ・機械警備業務 ・電気保安管理業務 ・空調設備保守点検業務 ・エレベーター保守点検業務 ・消防設備保守点検業務 ・浄化槽保守点検業務 ・植木管理業務			③蔵書拠点管理委託、修繕等実績なし。 ④移動図書館管理修繕 ・タイヤ劣化取替修繕									
修繕 ・学習コーナーサイドスクリーン修繕													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・図書館運営事業と連動させながら施設管理をする必要があるため、現在の事業実施方法が妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がややある										
・令和5年度は新型コロナウイルス感染症対策が緩和され、より利用者のニーズに基づいた施設管理を行うことができた。 ・今後も利用者のニーズを把握し、厳しい意見であっても改善点を模索し、さらなる利便性の向上に努める必要がある。													
効率性	評価結果	改善の余地がややある											
	・施設管理に係る専門的な知識が必要となり、他部署の助言をいただきながら効率的に実施する必要がある。												

事務事業の概要	事務事業名	生涯学習施設管理運営事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	543	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	5 社会教育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	7 生涯学習施設費				基本施策	1	生涯学習の推進			
目				取組方針	3		生涯学習施設の適切な管理					
事業概要	市民が生涯学習施設を安全で快適に利用できるように、適切な維持管理や改修を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	打田生涯学習センター施設管理			⑤	粉河ふるさとセンター施設管理			⑨	貴志川生涯学習センター施設管理		
	②	東大井教育集会所施設管理			⑥	那賀総合センター施設管理			⑩			
	③	東国分教育集会所施設管理			⑦	西元町教育集会所施設管理			⑪			
	④	古和田教育集会所施設管理			⑧	桃山会館施設管理			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	生涯学習施設使用団体数	団体	目標	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	生涯学習施設及び教育集会所施設の利用団体数で新型コロナウイルス感染症が収束したものの減少している。利用団体については行事内容等により大幅な増減がある。		
			実績		2,135	3,108	2,494					
	<指標の計算方法>		生涯学習施設使用団体数									
	成果指標	生涯学習施設利用人数	人	目標	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	生涯学習施設及び教育集会所施設の利用人数で新型コロナウイルス感染症が収束したことに伴い増加。		
			実績		76,414	103,811	121,354					
	<指標の計算方法>		生涯学習施設利用人数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	386,363			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①打田生涯学習センター施設管理 〔修繕〕 浄化槽設備機器修繕 空調設備ろ過材取替修繕 和式男子トイレセンサー修繕 ガラスフィルム張替修繕 排煙窓修繕 ウッドデッキ・壁修繕 〔工事〕 大規模改修(設備・屋根防水他)工事 自動ドア改修工事 プロジェクター設置工事			〔修繕〕 誘導灯取替修繕 エントランス入口マンホール修繕 大・小ホール防音扉調整修繕 和室・茶室カーテン取替修繕 楽屋空調設備修繕 〔工事〕 地下女子トイレ改修工事 料理室他照明LED化改修工事			〔工事〕 入口案内用自立看板取替修繕 児童クラブ室エアコン取替修繕 屋外遊具修繕 誘導灯取替修繕 浄化槽蓋取替修繕 外壁改修工事 大会議室・会議室他床張替工事 和室空調設備取替工事					
	②東大井教育集会所施設管理			⑥那賀総合センター施設管理 〔修繕〕 1階トイレ扉取替修繕 消防設備修繕 エントランス改修工事			⑨貴志川生涯学習センター施設管理 〔修繕〕 発電設備修繕 駐車場陥没舗装修繕 浄化槽ブロワー修繕 インターロッキング修繕					
	③東国分教育集会所施設管理 〔修繕〕 玄関ドア修繕 ベランダ防水修繕			⑦西元町教育集会所施設管理 〔修繕〕 屋外遊具修繕								
	④古和田教育集会所施設管理			⑧桃山会館施設管理 〔修繕〕 正面入口ドア取替修繕 図書室・会議室空調設備改修 キュービクル式高圧受変電設備改修								
	⑤粉河ふるさとセンター施設管理											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・社会教育、生涯学習の拠点として、市計画(公共施設マネジメント計画、個別施設計画)に基づき維持管理していく必要があり、市が関与することは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・各施設とも老朽化が進んでいるため修繕・改修工事が多いが、これからも誰もが利用しやすい施設となるよう維持管理に努める必要がある。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		・受益者負担の公平性の観点から、施設使用料の在り方について引き続き検討していく必要がある。 ・市計画(公共施設マネジメント計画、個別施設計画)に基づき、稼働率が低く老朽化が著しい施設は、地元や施設利用者に理解を求め集約化等を進める必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	スポーツ推進委員協議会運営事業			担当課	生涯スポーツ課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	542	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	6 保健体育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	1 保健体育総務費				基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実			
事業概要	市民にスポーツを通じて心身ともに健康的な生活を送ってもらうために、スポーツ推進委員に行政と地域住民のパイプ役となってもらうための支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	スポーツ推進委員協議会運営			⑤				⑨			
	②	全国スポーツ推進委員連合会負担金			⑥				⑩			
	③	県スポーツ推進委員協議会負担金			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	研修等参加回数	回	目標	3	3	3	3	3	県、近畿、国のスポーツ推進委員研究協議会、及び県の新任研修に参加した。		
			実績	2	4	4						
	<指標の計算方法>		スポーツ推進委員関係の研修等への参加回数									
	成果指標	研修等参加人数	人	目標	50	50	30	30	30	令和4年度は県の研究協議会を那賀地方で担当し、スタッフを兼ねて参加者が多かったが、令和5年度は伊都地方で開催され参加者が減少した結果、令和4年度に比べて全体の参加者が減少した。		
実績			10	16	8							
<指標の計算方法>		スポーツ推進委員関係の研修等への参加人数										
成果指標	スポーツ推進委員数	人	目標	43	43	43	43	43	定員が43名。スポーツ推進委員に相応しい人物を探しているが、就任に結びついていない。大学との連携についても検討している。			
		実績	39	39	36							
<指標の計算方法>		スポーツ推進委員の人数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,253			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,253		
事業の実績	①スポーツ推進委員協議会運営 ・スポーツ推進委員 36人 ・スポーツ推進委員研修等参加人数 国 1人 近畿 3人 県 3人 県新任 1人											
	②全国スポーツ推進委員連合会負担金 37人 18,500円											
	③県スポーツ推進委員協議会負担金 37人 37,000円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・スポーツ基本法により市教育委員会が委嘱することとなっているため、市が実施することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・県の研究協議会への参加者が減少したため、全体の研修参加者が減少した。スポーツ推進委員の資質向上のため研修会への参加者数が増加するよう働きかけていきたい。 ・女性委員や若年齢の委員が少ないので、これらの層の加入を、促していきたい。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・スポーツ推進委員を各ブロックに配置していることで、ニュースポーツ教室、障害者スポーツ教室、親子体操教室、インボディ（体成分分析）測定会など、地域に密着した教室を開催し、スポーツの振興に努めている。											

事務事業の概要	事務事業名	生涯スポーツ振興事業		担当課	生涯スポーツ課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	
	予算科目	款	10 教育費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
	目	項	6 保健体育費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
目	目	2 生涯スポーツ振興費	基本施策		3	スポーツの振興と環境の充実				
事業概要	市民にスポーツを通じて心身ともに健康的な生活を送ってもらうために、関係機関等への運営の参画や補助金の交付等の支援を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	スポーツ振興・啓発		⑤	県体育施設協会負担金		⑨	総合型地域スポーツクラブ事業補助金		
	②	スポーツ賞表彰		⑥	県レクリエーション協会負担金		⑩	スポーツ大会派遣費補助金		
	③	スポーツインストラクター派遣委託料		⑦	県B&G地域海洋センター連絡協議会負担金		⑪	スポーツキャンプサポート実行委員会負担金		
	④	近畿ブロック地域海洋センター連絡協議会負担金		⑧	体育協会補助金		⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	事業実施数	事業	目標	88	88	88	88		88
			実績	30	38	47				
	<指標の計算方法>		体育協会加盟団体が実施した事業数（年間）							
	活動指標	加盟団体数	団体	目標	34	34	34	34	34	1団体が退会したが、1団体が新規に加盟したため、団体数の増減はなく、令和4年度と同数となっている。
			実績	32	32	32				
	<指標の計算方法>		体育協会に加盟している団体数（競技種目別連盟等）							
	活動指標	登録人数	人	目標	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	加盟団体数の増減は無いが、構成メンバーの入れ替わりや登録チーム数の減少により、登録人数が減っている。
			実績	2,954	2,948	2,842				
	<指標の計算方法>		体育協会の加盟団体（競技種目別連盟等）に加入している人数							
		目標								
		実績								
<指標の計算方法>										
コストの実績	R 5年度決算額 （単位：千円）			財源内訳						
	9,151			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
			9,151							
事業の実績	①スポーツ振興・啓発 ・市広報、市ホームページを活用し、イベントや各種教室等の周知を行う			④近畿ブロック地域海洋センター連絡協議会負担金 ・負担金 10,000円			⑨総合型地域スポーツクラブ事業補助金 ・補助金 60,000円 桃山体育王国スポーツクラブ			
	②スポーツ賞表彰 ・表彰式開催日 11月11日 ・推薦依頼件数 413件 ・推薦件数 個人 20件、団体 3件 ・選考委員会開催数 1回（9月20日） ・スポーツ賞受賞者 個人：スポーツ顕賞 4人 スポーツ賞 4人 スポーツ奨励賞 11人 団体：スポーツ顕賞 2団体 スポーツ特別賞 1団体			⑤県体育施設協会負担金 ・負担金 15,000円			⑩スポーツ大会派遣費補助金 ・補助金 323,280円 スポーツ少年団加盟団体 7団体 体育協会加盟団体 2団体 その他 2団体			
	③スポーツインストラクター派遣委託料 ・委託料 777,600円 貴志川トレーニングプラザ (24回) 那賀体育館トレーニングルーム (24回)			⑥県レクリエーション協会負担金 ・負担金 3,000円			⑪スポーツキャンプサポート実行委員会負担金 ・負担金 1,470,680円 ハンドボール女子日本代表チーム「おりひめジャパン」の強化合宿を誘致 日程 6月15日～6月20日 指導者講習会参加者：33名 小・中学生講習会参加者：100名 学校訪問：1校、対象者67名			
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
		内容	・各種団体が自主運営できる部分もあるが、市のスポーツ振興を行う団体や個人等の育成及び発掘を行っていくため、市が実施することが妥当といえる。							
	有効性	評価結果	改善の余地がややある							
内容		・市民ニーズに合わせた幅広い年齢層を対象とし、初心者でも気軽に行うことができるスポーツ教室等を開催していくため、各種団体の専門性を活用していく必要がある。								
効率性	評価結果	改善の余地がややある								
	内容	・各種団体の自主運営方法を見直し各種団体の専門知識やノウハウを活用することで、不要な業務を排除して、最小の経費で内容の充実を図ることにつながる。また補助金の内容について見直しを行う事で、適切な運用につながる。								

事務事業の概要	事務事業名	スポーツイベント開催事業			担当課	生涯スポーツ課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	539	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	6 保健体育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	2 生涯スポーツ振興費				基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実			
事業概要	市民（大会参加者）にスポーツを通じて心身ともに健康的な生活を送ってもらうために、スポーツ教室やイベント等の開催を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	スポーツフェスティバル開催			⑤	桃源郷マラソン大会補助金			⑨			
	②	市町村対抗ジュニア駅伝参加支援			⑥	教室開催（B&G事業）			⑩			
	③	スポーツ教室開催			⑦				⑪			
	④	市町村対抗ジュニア駅伝参加補助金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	スポーツ教室・大会等事業数	目標	10	10	10	10	10	新型コロナウイルス感染症予防のため、桃源郷ハーフマラソンは中止となったが、スポーツフェスティバルは開催できた。事業数は令和4年度から増加しているが、目標値は下回っている。			
			実績	3	5	7						
	<指標の計算方法>		実施したスポーツ教室・大会等の事業数の合計									
	成果指標	スポーツ教室・大会等事業参加人数	目標	4,450	4,450	4,450	4,450	4,450	新型コロナウイルス感染症予防のため、桃源郷ハーフマラソンは中止となった。スポーツフェスティバルは開催ができるなど、参加人数は増加しているが、目標値は下回っている。			
			実績	916	866	1,971						
	<指標の計算方法>		実施したスポーツ教室・大会等の参加人数の合計									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,731			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	21 1,705		
事業の実績	①スポーツフェスティバル開催 ・10月8日実施（参加者：1,072人） ・実施内容 ウォークラリー、体力テスト、ニュースポーツ体験、同日開催イベント（6事業）			2月16日実施（参加者30人） ・夏休みスイミング教室（参加者22人）								
	②市町村対抗ジュニア駅伝参加支援 ・選考会 11月25日・12月2日 ・練習 12月13日～2月10日（27回） ・大会当日2月11日 結果29チーム中5位			④市町村対抗ジュニア駅伝参加補助金 ・補助金735,506円 選手18名 指導者4名								
③スポーツ教室開催 ・スポーツ教室 4月～3月実施 実施内容 健康体操、親子体操、キッズ体操、ジュニア体操、卓球、スポーツウエルネス吹矢、フラダンス（参加者 延775人） ・ディスコン 2月17日実施（参加者 21チーム 42人） ・障害者スポーツ教室			⑤桃源郷マラソン大会補助金 ・第16回紀の川市桃源郷ハーフマラソン 開催日：令和5年4月2日（新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止とし、令和6年度に開催予定）									
			⑥教室開催（B&G事業） ・アクアピクス教室（参加者8人）									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市民ニーズの把握等、民間や各種団体を活かすために、市が積極的に関与していく必要があり、市が実施することは妥当と言える。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、イベントの開催が回復しつつあるが、参加人数は目標値を下回っているため、市民が気軽に参加できるプログラムを企画する必要がある。 なお、新型コロナウイルス感染症の影響で中止していたイベントを再開する際に、規模を縮小した事例は有るが、目的にあった事業を行っており有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・専門知識やノウハウを持った講師や他団体を活用して事業の幅を広げていく必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	スポーツ交流事業			担当課	生涯スポーツ課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	983	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	6 保健体育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	2 生涯スポーツ振興費				基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実			
事業概要	市民のスポーツ振興と健康づくりを図るために、関係機関と相互協定に基づく交流を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	児童派遣			⑤				⑨			
	②	体育・スポーツ推進協議会運営			⑥				⑩			
	③	指導講師招へい			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	紀の川市体育・スポーツ推進協議会開催数	回	目標	2	2	2	2	2	書面議決1回を含め、2回の審議について協議した。		
				実績	2	2	2					
	<指標の計算方法>		年間協議会開催数									
	成果指標	児童派遣人数	人	目標	30	30	30	30	30	新型コロナウイルス感染症が5類に移行したため、感染予防に気を付けながら、児童派遣を再開し、市内小学6年生30人を派遣することができた。		
				実績	0	0	30					
	<指標の計算方法>		日体大への児童派遣人数									
	成果指標	講師招へい・講座開催数	回	目標	1	1	1	1	1	小中学校教職員、スポーツ推進委員、体育協会やスポーツ少年団の指導者を対象とし、部活動地域移行や指導者の心構えについて学ぶための講習会を開催した。		
				実績	0	0	1					
	<指標の計算方法>		日体大からの講師招へいによる講座開催回数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,807			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	1,000	その他	193	一般財源	614
事業の実績	①児童派遣 ・日体大への児童派遣(市内小学6年生30人) ・8月3日～4日 ②体育・スポーツ推進協議会運営 ・1回目は書面議決(6月) ・2回目は通常開催(3月) ・日体大主催事業(NITTAIDA I×自治体フォーラム2022)事務局2名参加(11月17日) ③指導講師招へい ・3月3日、日体大から講師を招へいし、「部活動地域移行ってなに？」の講習会を実施 ・教員やスポーツ少年団・体育協会の指導者など、41人が参加											
	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・日本体育大学と市の協定に基づく事業のため、市が実施することは妥当である。										
有効性	評価結果	改善の余地がない										
	・新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、児童派遣事業を実施することができた。また、講師招へい事業により講座を開催することができた。 ・日本体育大学の専門性を活用し、事業を効果的に継続できており、今後も日本体育大学との調整を行い充実した内容にしていく。											
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・効果を出すために現状を踏まえながら、実施内容等を協議により決定している。 ・コストは削減の余地がないもの(旅費)が大半を占めるので、現状が適切である。											

事務事業の概要	事務事業名	体育施設管理運営事業			担当課	生涯スポーツ課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	131	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	6 保健体育費				施策目標	3 生涯学習・生涯スポーツ				
		目	3 体育施設費				基本施策	3 スポーツの振興と環境の充実				
事業概要	市民が体育施設を安全で快適に利用できるように、維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 体育館施設管理			⑤ 夜間照明施設管理			⑨ 貴志川スポーツ公園施設管理					
	② 粉河武道館施設管理			⑥ 粉河西部・中部運動場施設管理			⑩ 那賀B&G海洋センター施設管理					
	③ パークゴルフ場施設管理			⑦ 奥安楽川広場施設管理			⑪					
	④ トレーニング施設管理			⑧ 長山ふれあい公園(多目的広場)施設管理			⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	年間利用者数	人	目標	230,000	232,000	232,000	232,000	232,000	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行となり、市民等がスポーツに触れる機会や活動の場が増加したことにより利用者数が増加している。		
				実績	148,281	167,091	193,683					
	<指標の計算方法>		社会体育施設全体の年間利用者数									
	活動指標	施設使用料	円	目標	14,006,000	14,006,000	14,006,000	14,006,000	14,006,000	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行となり、利用者数が増加したこともあり施設使用料収入が増加している。		
				実績	9,801,960	11,600,655	12,078,745					
	<指標の計算方法>		社会体育施設全体の使用料									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	99,901			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	施設利用状況			西部運動場	10件	163人						
				中部運動場	175件	4,616人						
	① 体育館施設管理			・那賀中学校・調月小学校夜間照明施設管理			⑨ 貴志川スポーツ公園施設管理					
	・粉河体育館 776件 16,846人			・那賀中学校 24件 372人			・野球場 148件 6,117人					
	・那賀体育館 852件 21,292人			調月小学校 51件 969人			・ソフトボール場 293件 10,728人					
	・桃山勤労者体育館 880件 18,379人						・テニスコート 1,250件 25,484人					
・貴志川体育館 1,005件 26,389人			・貴志川スポーツ公園夜間照明施設管理			⑩ 那賀B&G海洋センター施設管理						
② 粉河武道館施設管理			ソフトボール場 83件 2,066人			2,289人						
333件 3,322人			テニスコート 205件 1,893人									
③ パークゴルフ場施設管理			⑥ 粉河西部・中部運動場施設管理									
2,787組 15,536人			・西部運動場 117件 2,340人									
④ トレーニング施設管理			・中部運動場 136件 2,916人									
・那賀体育館トレーニングルーム 4,695人			⑦ 奥安楽川広場施設管理									
・貴志川トレーニングプラザ 12,615人			18件 886人									
⑤ 夜間照明施設管理			⑧ 長山ふれあい公園(多目的広場)施設管理									
・粉河西部・中部運動場夜間照明施設管理			375件 13,770人									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
		・市民が利用し、市が管理運営する施設であるため、備品や設備等の充実を図るなど環境を整えた上で適正な管理が必要である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・安全で快適に利用できる施設を目指し、市民のニーズを的確に把握していく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・利用者数の増加と運営効率の観点から、指定管理者制度等の民間活力の導入も検討していく必要がある。 ・受益者負担の公平性の観点から、施設使用料の在り方について引き続き検討していく。											

事務事業の概要	事務事業名	学校給食運営事業			担当課	教育総務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	533	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	6 保健体育費				施策目標	2 学校教育				
		目	4 学校給食費				基本施策	1 学校教育環境の充実				
取組方針				取組方針	5 学校給食の充実							
事業概要	児童、生徒に安全、安心な給食を提供するために、調理配送委託先への指導監督や給食の管理運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 学校給食運営・安全対策				⑤ 県学校栄養士研究会負担金			⑨				
	② 学校給食委託				⑥ 栄養教諭設置期成会負担金			⑩				
	③ 給食配送車管理				⑦			⑪				
	④ 全国学校栄養士協議会負担金				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	年間給食実施日数	日	目標	201	197	202	202	202	粉河学校給食センターが粉河、那賀管内7小学校及び2中学校。河南学校給食センターが打田、桃山、貴志川管内8小学校及び3中学校に給食を調理、配送。新型コロナウイルス感染症対策等の臨時休校は無かった。 安全・安心な学校給食を粉河学校給食センターが1日約1,200食。河南学校給食センターが1日約3,400食を調理し提供した。 学校給食に紀の川市産フルーツを食材として使用し、食育の一環として活用する。令和5年度のフルーツ給食実施回数は年間を通じて粉河学校給食センターで19回、河南学校給食センターで21回の合計40回実施した。 地産地消を推進し、児童・生徒に郷土の産業について理解を深めてもらう。実施回数に比例して実食数も増加した。		
				実績	191	201	201					
	<指標の計算方法>		粉河学校給食センターと河南学校給食センターの給食実施日数の平均									
	成果指標	年間給食実食数	食	目標	900,000	900,000	900,000	900,000	900,000			
				実績	874,443	880,201	869,323					
	<指標の計算方法>		粉河学校給食センターと河南学校給食センターの給食実食数の合計									
	活動指標	フルーツ給食の実施回数	回	目標	34	34	34	34	34			
				実績	34	32	40					
	<指標の計算方法>		粉河学校給食センターと河南学校給食センターでフルーツ給食を提供した回数									
成果指標	年間フルーツ給食の実食数	食	目標	67,000	67,000	67,000	67,000	67,000				
			実績	73,521	69,340	85,476						
<指標の計算方法>		粉河学校給食センターと河南学校給食センターでフルーツ給食を提供した実食数										
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	487,036			国庫支出金	16,263	県支出金	地方債	繰入金	25,460	一般財源	445,313	
事業の実績	①学校給食運営・安全対策			配送車：2t車 3台、軽貨物車1台 ・河南学校給食センター 配送車：2t車 5台			1,501食～6,000食 2名 (河南)					
	・学校給食食材費 粉河学校給食センター 62,391,451円 河南学校給食センター 168,710,556円			④全国学校栄養士協議会負担金 ・@7,000×3名分 (粉河1名、河南2名) 21,000円								
学校給食に紀の川市産のフルーツを食材として使用し、食育の一環として活用した。			⑤県学校栄養士研究会負担金 ・一律5,000円 ・@2,000円×3名分 (粉河1名、河南2名) 6,000円									
・フルーツ給食食材費 粉河学校給食センター 664,815円 河南学校給食センター 2,052,260円			⑥栄養教諭設置期成会負担金 ・@5,000円×3名分 (粉河1名、河南2名)									
②学校給食委託 ・粉河、河南学校給食センター (給食調理・配送・施設管理) 165,854,700円			※参考 (④～⑥について) 共同調理場における栄養士の配置人数 (文部科学省教職員定数より) 1,500食以下 1名 (粉河)									
③給食配送車管理 ・粉河学校給食センター												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・安全安心な学校給食を提供するために今後も市が実施していくことが妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・地産地消を積極的に推進するとともに、地元産物を使用したフルーツ給食の提供など、安全安心な給食の提供及び食育の観点からも大変有意義な事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・学校給食の調理、配送、施設の保守及び衛生管理業務を委託しており、効率化が図られている。											

事務事業の概要	事務事業名	学校給食センター管理事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1087	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	6 保健体育費				施策目標	2	学校教育			
		目	4 学校給食費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
事業概要	児童、生徒に安全な給食を滞りなく提供するために、学校給食センター維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	粉河学校給食センター施設管理			⑤				⑨			
	②	河南学校給食センター施設管理			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	施設設備の点検、メンテナンス、改良工事件数	件	目標	15	15	15	15	15	定期的なメンテナンス修繕や法定検査を実施することにより、施設の不備による原因で学校給食を提供できなくなる事態を防ぐ。		
				実績	8	17	12					
	<指標の計算方法>		粉河学校給食センターと河南学校給食センターの施設設備(厨房設備除く)のメンテナンス修繕件数、法定検査、委託点検、改良工事の合計件数(予算計上分)									
	活動指標	施設設備の緊急を要する修繕・工事件数	件	目標	5	5	25	25	25	施設の経年劣化により年々増加する突発的な修繕等について、随時適正に対応することにより、学校給食が提供できなくなる事態を防ぐ。		
				実績	15	25	32					
<指標の計算方法>		粉河学校給食センターと河南学校給食センターの施設設備(厨房設備除く)の予定していない修繕と工事の合計件数(予算計上していないもの)										
成果指標	施設設備の不具合で給食が提供できなかった日数	日	目標	0	0	0	0	0	令和5年度において、突発的な事故や故障等による給食の停止は無かった。			
			実績	0	0	0						
<指標の計算方法>		施設設備の不具合で給食が提供できなかった日数										
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
	12,197			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			12,197									
事業の実績	①粉河学校給食センター施設管理											
	<ul style="list-style-type: none"> ・法定及び定期検査 4件 544,300円 ・メンテナンス修繕 2件 165,440円 ・緊急修繕 19件 1,018,435円 											
②河南学校給食センター施設管理												
<ul style="list-style-type: none"> ・法定及び定期検査 2件 1,584,000円 ・メンテナンス修繕 4件 3,416,600円 ・緊急修繕 13件 2,198,669円 												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・学校給食センターの施設、設備等の保守及び管理を行う業務であり、市が継続していくことが妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・施設や設備等の老朽化及び経年劣化による修繕等が発生する中、定期的なメンテナンスや修繕を行うことで、設備の不備に起因する学校給食の提供中止の事態を避けることができる。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・施設管理に特化した事業であり、メンテナンスについては学校の長期休業中に計画的に実施している。											

事務事業の概要	事務事業名		農地災害復旧事業			担当課	農地整備課		事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	134	
	予算科目	款	11 災害復旧費			長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1 農林施設災害復旧費				施策目標	1	防災・防犯			
		目	1 農地災害復旧費				基本施策	3	災害に強いまちの形成			
取組方針	3	農地・農業用施設の災害対策の推進										
事業概要	農業従事者等が地域の農業の維持を図り、併せてその経営の安定に寄与できるように、災害により被災した農地を農業経営が維持できるように復旧する事業											
事務事業を構成する細事業	①	農地災害復旧			⑤					⑨		
	②	県土地改良事業団体連合会負担金			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	災害復旧	箇所	目標						農地災害復旧工事12件のうち6件が令和5年度に完成し、6件を令和6年度に繰越した。		
				実績			6					
	<指標の計算方法>		復旧箇所									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	22,545			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
				10,710				519	11,316			
事業の実績	①農地災害復旧 ・令和5年6月豪雨に伴う災害が発生 災害復旧測量設計3件 災害復旧工事6件											
	②県土地改良事業団体連合会負担金 事業費に応じた負担金を支出した											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市が実施主体となる国庫補助事業を活用し、緊急性に対応しつつ、厳格なルールの中で最適な災害復旧を行うことは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・激甚指定を受けたことによる国庫補助率の増高申請を行うことで地元負担金の軽減を図る等、専門性を用いた対策で災害復旧に取り組むことが出来ている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・膨大な数の問合せや現地確認について、業務分担に関わらず非常勤職員も動員し課全体で対応することで、事業対象の振り分けや災害査定、地元調整等を行うことが出来た。											

事務事業の概要	事務事業名	農業用施設災害復旧事業		担当課	農地整備課		事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	135	
	予算科目	款	11 災害復旧費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
	項目	1	農林施設災害復旧費		施策目標	1	防災・防犯				
	目	2	農業用施設災害復旧費		基本施策	3	災害に強いまちの形成				
事業概要	農業従事者等が地域の農業の維持を図り、併せてその経営の安定に寄与できるように、災害により被災した農業用施設を農業経営が維持できるように復旧する事業										
事務事業を構成する細事業	①	農業施設災害復旧	⑤				⑨				
	②	県土地改良事業団体連合会負担金	⑥				⑩				
	③	農業用施設災害復旧事業補助金	⑦				⑪				
	④	補償費	⑧				⑫				
指標の実績	指標名	単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	災害復旧	目標							農業用施設災害復旧工事12件のうち令和5年度に5件が完成し、7件を令和6年度に繰越した。	
			箇所								
			実績	1			5				
			<指標の計算方法>	復旧箇所							
	成果指標	災害現場復旧補助金交付	目標							農業用施設災害復旧補助金において自治区申請で170件、個人農地申請で223件を交付した。	
			箇所								
		実績				393					
		<指標の計算方法>	交付箇所								
		目標									
		実績									
		<指標の計算方法>									
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)		財源内訳								
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
		121,707		3,663				110	117,934		
事業の実績	①農業施設災害復旧 ・令和5年6月豪雨に伴う災害が発生 農業施設災害復旧工事5件 測量設計委託5件（土砂撤去、ポンプ設置、建物調査含む）		・物件補償 一式								
	②県土地改良事業団体連合会負担金 ・事業費に応じた負担金を支出した。										
事業の実績	③農業用施設災害復旧補助金 5年度交付実績 ・自治区170件 農道 67件 2,978m 水路 83件 3,925m ため池 19件 施設 1件 ・個人農地223件										
	④補償費 ・水道補償 一式										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・市が実施主体となる国庫補助事業を活用し、緊急性に対応しつつ、厳格なルールの中で最適な災害復旧を行うことは妥当であるといえる。 ・災害復旧補助金交付事業については、従来からの区長申請によるものに加えて、個人農地に対する補助を拡大適応することとしたが、多くの申請を集めることとなり妥当であるといえる。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
		・激甚指定を受けたことによる国庫補助率の増高申請を行うことで地元負担金の軽減を図る等、専門性を用いた対策で災害復旧に取り組むことが出来たといえる。 ・補助金交付についても申請数の多さから有効であったといえる。									
効率性	評価結果	改善の余地がない									
		・膨大な数の問合せや現地確認について、業務分担に関わらず非常勤職員も動員し課全体で対応することで、事業対象の振り分けや災害査定、地元調整等を行うことが出来た。									

事務事業の概要	事務事業名	林業施設災害復旧事業			担当課	林務課			事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	136		
	予算科目	款	11 災害復旧費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	1 農林施設災害復旧費				施策目標	3	自然環境				
		目	3 林業施設災害復旧費				基本施策	1	豊かな自然環境の保全				
事業概要	林業従事者等が森林の保全や管理ができるように、災害により被災した林業用施設を森林の保全や管理を行えるように復旧する事業												
事務事業を構成する細事業	①	林業施設災害復旧			⑤				⑨				
	②				⑥				⑩				
	③				⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	災害復旧	件	目標							令和5年度は6箇所の災害復旧事業を行った。		
		実績					6						
	<指標の計算方法>		被災箇所の復旧件数										
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	17,140			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	4,035			
事業の実績	①林業施設災害復旧 ・林道真国野田原線災害復旧 路面崩壊 L=28.0m ・林道彦谷線流木等除去 ・林道粉河中央線崩土等除去 ・林道紀泉高原線崩土除去 ・丸瀬上水タンク進入路路面復旧 ・粉河地区治山災害復旧 (県土防災対策治山事業 粉河高校東側)												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・災害発生時に実施する事業であり、規模により補助金が交付される事業である。											
	有効性	評価結果	改善の余地が大きい										
・災害発生時に実施する事業であり、規模により補助金が交付される事業である。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・災害発生時に実施する事業であり、規模により補助金が交付される事業である。												

事務事業の概要	事務事業名	土木施設災害復旧事業			担当課	道路河川課		事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	137	
	予算科目	款	11 災害復旧費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	2 公共土木施設災害復旧費				施策目標	1 防災・防犯				
		目	1 道路橋りょう災害復旧費				基本施策	3 災害に強いまちの形成				
事業概要	市民の安全性を確保するために、被災箇所の復旧工事を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	土木施設災害復旧			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	災害復旧箇所数	箇所	目標							梅雨前線豪雨により甚大な被害が発生し災害査定事務に時間を要したため工事の発注が遅れ適正な工期が確保できないため、工事を繰越した。	
				実績		4		42				
	<指標の計算方法>		被災箇所の復旧箇所数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
	518,528			191,578		201,000				125,950		
	事業の実績	①土木施設災害復旧										
		・委託										
		測量設計		24件	221,585,100円							
雑草等刈取		1件	275,000円									
崩土除去		123箇所	92,864,035円									
調査業務		5件	16,208,700円									
・工事												
42箇所完成		179,361,300円										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・被災した公共土木施設（市道・河川）の復旧を市が行うことは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法に基づき申請し、国の負担金、補助事業を活用し被災箇所の復旧を行うことは有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法に基づき申請し、国の負担金、補助事業を活用し早期に復旧する事で二次被害防止につながり効率的である。											

事務事業の概要	事務事業名		体育施設災害復旧事業			担当課	生涯スポーツ課		事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	新規	事業期間	期間限定複数年度 (R5～R6)		事業番号	1101	
	予算科目	款	11 災害復旧費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	3 文教施設災害復旧費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	1 保健体育施設災害復旧費				基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実			
事業概要		災害により被災した社会体育施設の復旧を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	奥安楽川広場施設管理			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	復旧工事件数	件	目標						施設の復旧を行った。		
		実績					1					
	<指標の計算方法>											
		目標										
実績												
<指標の計算方法>												
	目標											
	実績											
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,235			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	35		
事業の実績	<p>①奥安楽川広場施設管理 奥安楽川広場復旧工事 大雨により斜面崩壊した奥安楽川広場の復旧をおこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計委託料 1,078,000円 ・倒木伐採等手数料 357,500円 ・工事請負費 1,800,000円 <p>現状復旧のために法面に張芝を施工したが、検査前において2回に渡り法面裏側から水が出てきて、法面の一部が崩落した。別の工法(テラセル)で復旧するため、契約変更(工期延長・金額変更)を行い事故繰越により次年度に繰越した。</p>											
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・市が直営で管理する施設であり、妥当性がある。								
有効性		評価結果	改善の余地がない ・被害を受けた施設を原状回復するための復旧工事であり、有効性がある。									
効率性		評価結果	改善の余地がない ・専門的な知識を持つ職員の対応により、アクシデントにも最小限の被害で済んだ。									

10. 特別会計主要施策の成果

国民健康保険事業勘定特別会計

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																																																
1-1-1 一般被保険者保険税	国保年金課	1,263,700,000	1,316,513,606	◎一般被保険者分保険税 現年課税分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和5年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>952,410,150</td> <td>922,874,880</td> <td>96.9%</td> <td rowspan="4">—</td> <td rowspan="4">—</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>301,191,050</td> <td>291,834,183</td> <td>96.9%</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>106,458,100</td> <td>101,804,543</td> <td>95.6%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,360,059,300</td> <td>1,316,513,606</td> <td>96.8%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和4年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>924,677,500</td> <td>898,423,325</td> <td>97.2%</td> <td rowspan="4">—</td> <td rowspan="4">—</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>277,539,500</td> <td>269,588,635</td> <td>97.1%</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>101,191,400</td> <td>96,928,684</td> <td>95.8%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,303,408,400</td> <td>1,264,940,644</td> <td>97.0%</td> </tr> </tbody> </table> 【新型コロナウイルス感染症の影響による減免】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>対象年度</th> <th>件数</th> <th>減免税額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>令和4年度分</td> <td>2件</td> <td>149,400</td> </tr> </tbody> </table>	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	952,410,150	922,874,880	96.9%	—	—	後期支援分	301,191,050	291,834,183	96.9%	介護納付分	106,458,100	101,804,543	95.6%	合 計	1,360,059,300	1,316,513,606	96.8%	令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	924,677,500	898,423,325	97.2%	—	—	後期支援分	277,539,500	269,588,635	97.1%	介護納付分	101,191,400	96,928,684	95.8%	合 計	1,303,408,400	1,264,940,644	97.0%	年度	対象年度	件数	減免税額	令和5年度	—	—	—	令和4年度	令和4年度分	2件	149,400
	令和5年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																																																											
額					件数																																																															
医療給付分	952,410,150	922,874,880	96.9%	—	—																																																															
後期支援分	301,191,050	291,834,183	96.9%																																																																	
介護納付分	106,458,100	101,804,543	95.6%																																																																	
合 計	1,360,059,300	1,316,513,606	96.8%																																																																	
令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																
				額	件数																																																															
医療給付分	924,677,500	898,423,325	97.2%	—	—																																																															
後期支援分	277,539,500	269,588,635	97.1%																																																																	
介護納付分	101,191,400	96,928,684	95.8%																																																																	
合 計	1,303,408,400	1,264,940,644	97.0%																																																																	
年度	対象年度	件数	減免税額																																																																	
令和5年度	—	—	—																																																																	
令和4年度	令和4年度分	2件	149,400																																																																	
	収納対策課	48,100,000	41,458,559	◎一般被保険者分保険税 滞納繰越分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和5年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>112,284,349</td> <td>28,304,862</td> <td>25.2%</td> <td rowspan="4">8,034,565</td> <td rowspan="4">674件</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>29,011,436</td> <td>8,268,169</td> <td>28.5%</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>18,624,756</td> <td>4,885,528</td> <td>26.2%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>159,920,541</td> <td>41,458,559</td> <td>25.9%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和4年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>127,991,058</td> <td>35,889,528</td> <td>28.0%</td> <td rowspan="4">6,560,641</td> <td rowspan="4">747件</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>32,859,580</td> <td>10,427,360</td> <td>31.7%</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>21,507,692</td> <td>6,294,728</td> <td>29.3%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>182,358,330</td> <td>52,611,616</td> <td>28.9%</td> </tr> </tbody> </table>	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	112,284,349	28,304,862	25.2%	8,034,565	674件	後期支援分	29,011,436	8,268,169	28.5%	介護納付分	18,624,756	4,885,528	26.2%	合 計	159,920,541	41,458,559	25.9%	令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	127,991,058	35,889,528	28.0%	6,560,641	747件	後期支援分	32,859,580	10,427,360	31.7%	介護納付分	21,507,692	6,294,728	29.3%	合 計	182,358,330	52,611,616	28.9%												
令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																
				額	件数																																																															
医療給付分	112,284,349	28,304,862	25.2%	8,034,565	674件																																																															
後期支援分	29,011,436	8,268,169	28.5%																																																																	
介護納付分	18,624,756	4,885,528	26.2%																																																																	
合 計	159,920,541	41,458,559	25.9%																																																																	
令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																
				額	件数																																																															
医療給付分	127,991,058	35,889,528	28.0%	6,560,641	747件																																																															
後期支援分	32,859,580	10,427,360	31.7%																																																																	
介護納付分	21,507,692	6,294,728	29.3%																																																																	
合 計	182,358,330	52,611,616	28.9%																																																																	
1-1-2 退職被保険者等保険税	国保年金課	3,000	0	◎退職被保険者分保険税 現年課税分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和5年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>—</td> <td rowspan="4">—</td> <td rowspan="4">—</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和4年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>—</td> <td rowspan="4">—</td> <td rowspan="4">—</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> 【新型コロナウイルス感染症の影響による減免】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>対象年度</th> <th>件数</th> <th>減免税額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	0	0	—	—	—	後期支援分	0	0	—	介護納付分	0	0	—	合 計	0	0	—	令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	0	0	—	—	—	後期支援分	0	0	—	介護納付分	0	0	—	合 計	0	0	—	年度	対象年度	件数	減免税額	令和5年度	—	—	—	令和4年度	—	—	—
	令和5年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																																																											
額					件数																																																															
医療給付分	0	0	—	—	—																																																															
後期支援分	0	0	—																																																																	
介護納付分	0	0	—																																																																	
合 計	0	0	—																																																																	
令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																
				額	件数																																																															
医療給付分	0	0	—	—	—																																																															
後期支援分	0	0	—																																																																	
介護納付分	0	0	—																																																																	
合 計	0	0	—																																																																	
年度	対象年度	件数	減免税額																																																																	
令和5年度	—	—	—																																																																	
令和4年度	—	—	—																																																																	
	収納対策課	500,000	64,460	◎退職被保険者分保険税 滞納繰越分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和5年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>1,867,042</td> <td>44,647</td> <td>2.4%</td> <td rowspan="4">—</td> <td rowspan="4">—</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>365,648</td> <td>8,077</td> <td>2.2%</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>372,454</td> <td>11,736</td> <td>3.2%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>2,605,144</td> <td>64,460</td> <td>2.5%</td> </tr> </tbody> </table>	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	1,867,042	44,647	2.4%	—	—	後期支援分	365,648	8,077	2.2%	介護納付分	372,454	11,736	3.2%	合 計	2,605,144	64,460	2.5%																																						
令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																
				額	件数																																																															
医療給付分	1,867,042	44,647	2.4%	—	—																																																															
後期支援分	365,648	8,077	2.2%																																																																	
介護納付分	372,454	11,736	3.2%																																																																	
合 計	2,605,144	64,460	2.5%																																																																	

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																															
				<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和4年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>2,459,598</td> <td>72,403</td> <td>2.9%</td> <td rowspan="3">713,281</td> <td rowspan="3">28件</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>440,927</td> <td>20,042</td> <td>4.5%</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>532,296</td> <td>21,951</td> <td>4.1%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>3,432,821</td> <td>114,396</td> <td>3.3%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	2,459,598	72,403	2.9%	713,281	28件	後期支援分	440,927	20,042	4.5%	介護納付分	532,296	21,951	4.1%	合 計	3,432,821	114,396	3.3%																		
令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																															
				額	件数																																														
医療給付分	2,459,598	72,403	2.9%	713,281	28件																																														
後期支援分	440,927	20,042	4.5%																																																
介護納付分	532,296	21,951	4.1%																																																
合 計	3,432,821	114,396	3.3%																																																
				<p>◎軽減世帯数および軽減被保険者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">被保険者別</th> <th colspan="4">世帯数</th> <th colspan="4">被保険者数</th> </tr> <tr> <th>7割</th> <th>5割</th> <th>2割</th> <th>計</th> <th>7割</th> <th>5割</th> <th>2割</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般被保険者</td> <td>2,749</td> <td>1,498</td> <td>1,103</td> <td>5,350</td> <td>3,778</td> <td>2,773</td> <td>2,033</td> <td>8,584</td> </tr> <tr> <td>退職被保険者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>2,749</td> <td>1,498</td> <td>1,103</td> <td>5,350</td> <td>3,778</td> <td>2,773</td> <td>2,033</td> <td>8,584</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 同一世帯内に一般被保険者と退職被保険者が混在する場合は、一般被保険者の世帯数として計上</p>				被保険者別	世帯数				被保険者数				7割	5割	2割	計	7割	5割	2割	計	一般被保険者	2,749	1,498	1,103	5,350	3,778	2,773	2,033	8,584	退職被保険者	0	0	0	0	0	0	0	0	合 計	2,749	1,498	1,103	5,350	3,778	2,773	2,033	8,584
被保険者別	世帯数				被保険者数																																														
	7割	5割	2割	計	7割	5割	2割	計																																											
一般被保険者	2,749	1,498	1,103	5,350	3,778	2,773	2,033	8,584																																											
退職被保険者	0	0	0	0	0	0	0	0																																											
合 計	2,749	1,498	1,103	5,350	3,778	2,773	2,033	8,584																																											
				<p>◎未就学児均等割保険料軽減</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">被保険者別</th> <th colspan="2">医療給付分</th> <th colspan="2">後期支援分</th> </tr> <tr> <th>被保険者数</th> <th>軽減税額</th> <th>被保険者数</th> <th>軽減税額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般被保険者</td> <td>345</td> <td>2,667,219</td> <td>345</td> <td>857,314</td> </tr> <tr> <td>退職被保険者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>345</td> <td>2,667,219</td> <td>345</td> <td>857,314</td> </tr> </tbody> </table>				被保険者別	医療給付分		後期支援分		被保険者数	軽減税額	被保険者数	軽減税額	一般被保険者	345	2,667,219	345	857,314	退職被保険者	0	0	0	0	合 計	345	2,667,219	345	857,314																				
被保険者別	医療給付分		後期支援分																																																
	被保険者数	軽減税額	被保険者数	軽減税額																																															
一般被保険者	345	2,667,219	345	857,314																																															
退職被保険者	0	0	0	0																																															
合 計	345	2,667,219	345	857,314																																															
				<p>◎産前産後保険料軽減</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">被保険者別</th> <th colspan="2">医療給付分</th> <th colspan="2">後期支援分</th> <th colspan="2">介護納付分</th> </tr> <tr> <th>被保険者数</th> <th>軽減税額</th> <th>被保険者数</th> <th>軽減税額</th> <th>被保険者数</th> <th>軽減税額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般被保険者</td> <td>18</td> <td>43,016</td> <td>18</td> <td>13,662</td> <td>1</td> <td>2,741</td> </tr> <tr> <td>退職被保険者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>18</td> <td>43,016</td> <td>18</td> <td>13,662</td> <td>1</td> <td>2,741</td> </tr> </tbody> </table>				被保険者別	医療給付分		後期支援分		介護納付分		被保険者数	軽減税額	被保険者数	軽減税額	被保険者数	軽減税額	一般被保険者	18	43,016	18	13,662	1	2,741	退職被保険者	0	0	0	0	0	0	合 計	18	43,016	18	13,662	1	2,741										
被保険者別	医療給付分		後期支援分		介護納付分																																														
	被保険者数	軽減税額	被保険者数	軽減税額	被保険者数	軽減税額																																													
一般被保険者	18	43,016	18	13,662	1	2,741																																													
退職被保険者	0	0	0	0	0	0																																													
合 計	18	43,016	18	13,662	1	2,741																																													
				<p>◎賦課割合 (被保険者全体)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">賦 課 区 分</th> <th colspan="3">応 能 割</th> <th colspan="3">応 益 割</th> </tr> <tr> <th></th> <th>所得割</th> <th>資産割</th> <th></th> <th>均等割</th> <th>平等割</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>49.37%</td> <td>49.37%</td> <td>0.00%</td> <td>50.63%</td> <td>35.60%</td> <td>15.03%</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>48.70%</td> <td>48.70%</td> <td>0.00%</td> <td>51.30%</td> <td>36.21%</td> <td>15.09%</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>47.70%</td> <td>47.70%</td> <td>0.00%</td> <td>52.30%</td> <td>37.12%</td> <td>15.18%</td> </tr> <tr> <td>区 分 全 体</td> <td>48.59%</td> <td>48.59%</td> <td>0.00%</td> <td>51.41%</td> <td>36.31%</td> <td>15.10%</td> </tr> </tbody> </table>				賦 課 区 分	応 能 割			応 益 割				所得割	資産割		均等割	平等割	医療給付分	49.37%	49.37%	0.00%	50.63%	35.60%	15.03%	後期支援分	48.70%	48.70%	0.00%	51.30%	36.21%	15.09%	介護納付分	47.70%	47.70%	0.00%	52.30%	37.12%	15.18%	区 分 全 体	48.59%	48.59%	0.00%	51.41%	36.31%	15.10%			
賦 課 区 分	応 能 割			応 益 割																																															
		所得割	資産割		均等割	平等割																																													
医療給付分	49.37%	49.37%	0.00%	50.63%	35.60%	15.03%																																													
後期支援分	48.70%	48.70%	0.00%	51.30%	36.21%	15.09%																																													
介護納付分	47.70%	47.70%	0.00%	52.30%	37.12%	15.18%																																													
区 分 全 体	48.59%	48.59%	0.00%	51.41%	36.31%	15.10%																																													

[歳出]

事務事業の概要	事務事業名	総務費（国保）			担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業			
	会計	国民健康保険事業勘定特別会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	7001	
	予算科目	款	1	総務費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
	項目					施策目標	2	健康・医療				
	目					基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実				
事業概要	国民健康保険制度に基づき被保険者が医療保険を利用できるよう管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	総務管理費			⑤					⑨		
	②	徴税费			⑥					⑩		
	③	運営協議会費			⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	国民健康保険税（現年課税分）の収納率	%	目標	95.3	96	97	97	97	収納率は高水準を維持している。		
				実績	96.8	97	96.8					
	<指標の計算方法>		現年分収納済み額÷現年度調定額									
	活動指標	被保険者証の交付（年度更新）	枚	目標							後期高齢者医療制度への移行、被用者保険の適用拡大により被保険者数は減少傾向にある。	
				実績	15,493	14,935	14,210					
	<指標の計算方法>		被保険者証の一斉更新対象の被保険者数									
活動指標	国民健康保険事業の運営に関する協議会の開催	回	目標	4	4	4	4	4	税率改正などの協議を定年通りスムーズに行い、令和4年度と同様に開催した。			
			実績	3	3	3						
<指標の計算方法>		実施回数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
	43,045			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①総務管理費 【被保険者の状況（年度平均）】 世帯数 8,934世帯 被保険者数（全体） 14,544人 （内訳）一般被保険者 14,544人 退職被保険者 0人 （再掲）介護保険第2号被保険者 4,785人 ◎紀の川市国民健康保険運営 ・被保険者証の更新 ・保険者事務電算共同処理委託 ・事務システムの保守・開発 ・各種受給者証等の作成 ・県国民健康保険団体連合会負担金 会員負担金 保険者均等割 380,000円 被保険者割 3,995,824円 ※当該年度の4月末現在の被保険者数に応じて算出 （R5.4月末 14,872人）			②徴税费 ◎国民健康保険税賦課徴収 ・納税通知書等作成・送付 ・口座振替手数料費用 239,455円（単価：10円【税別】） ・コンビニ収納手数料費用 1,485,726円（単価：60円【税別】） ・収納率向上のための徴収員（収納対策課配属）の雇用			③運営協議会費 ◎紀の川市の国民健康保険事業の運営に関する協議会（委員数17名） ・開催回数 3回 第1回 令和5年8月17日 第2回 令和6年1月18日 第3回 令和6年2月22日					
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・保険者として国民健康保険法、地方税法に基づき実施する事務である。								
有効性		評価結果	改善の余地がない ・保険者として国民健康保険法、地方税法に基づき実施する事務である。									
効率性		評価結果	改善の余地がない ・大量印刷物（被保険者証、納税通知等）の印刷、封入などを外部委託しており、事務効率の改善については、余地がない状況である。									

事務事業の概要	事務事業名	保険給付費（国保）		担当課	国保年金課			事業区分	ソフト事業		
	会計	国民健康保険事業勘定特別会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	7002	
	予算科目	款	項	目	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
						施策目標	2	健康・医療			
						基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実			
取組方針	5	国民健康保険制度の安定的運営									
事業概要	国民健康保険制度に基づき被保険者が医療保険を利用できるよう運営を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	療養諸費			⑤	移送費			⑨		
	②	高額療養費			⑥	傷病諸費			⑩		
	③	出産育児諸費			⑦				⑪		
	④	葬祭諸費			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	出産育児一時金支給件数	件	目標	42	36	35	35	35		被保険者数は減少傾向にあり、支給件数は令和4年度と比較して11件の減少となった。少子化が進んでいることが窺える。
				実績	35	41	30				
	<指標の計算方法>		支給実績件数								
	活動指標	葬祭費支給件数	件	目標	104	95	95	95	95	被保険者数は減少傾向にあるが、支給件数は令和4年度と比較して同値となった。	
				実績	98	102	102				
	<指標の計算方法>		支給実績件数								
	活動指標	1人あたり費用額	円	目標						1人あたり費用額は、増加傾向にある。要因としては、医療技術の高度化及び医療施設の充実による診療機会の増加などが考えられる。	
				実績	406,393	419,396	437,088				
	<指標の計算方法>		療養給付費・療養費の費用額（一般・退職）÷平均被保険者数								
活動指標	1人あたり保険者負担額	円	目標						1人あたり保険者負担額は、増加傾向にある。要因としては、医療技術の高度化及び医療施設の充実による診療機会の増加などが考えられる。		
			実績	298,235	307,932	320,752					
<指標の計算方法>		療養給付費・療養費の保険者負担額（一般・退職）÷平均被保険者数									
コストの実績	R 5年度決算額 （単位：千円）			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
5,412,511				5,379,776					32,735		
事業の実績	①療養諸費		◎給付件数（療養給付費）		◎支給件数						
	・一般被保険者 271,154件		・退職被保険者 0件		・500,000円 30件						
	・一般被保険者 11,723件		・退職被保険者 0件		・488,000円 0件						
	◎給付件数（療養費）		◎給付件数（療養費）		④葬祭諸費						
・一般被保険者 283,007件		・退職被保険者 0件		◎支給件数 102件							
◎審査支払件数		◎審査支払件数		⑤移送費							
・一般被保険者 283,007件		・退職被保険者 0件		◎支給件数 1件							
②高額療養費		◎給付件数（高額療養費）		⑥傷病諸費							
・一般被保険者 11,403件		・退職被保険者 0件		◎相談件数 4件							
◎給付件数（高額介護合算療養費）		◎給付件数（高額介護合算療養費）		◎申請件数 2件							
・一般被保険者 18件		・退職被保険者 0件		◎支給件数 2件							
③出産育児諸費											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・保険者として健康保険法等に基づき法定給付（療養の給付、療養費、高額療養費、出産育児一時金及び葬祭費の支給等）を実施する事務である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
		・保険者として健康保険法等に基づき法定給付（療養の給付、療養費、高額療養費、出産育児一時金及び葬祭費の支給等）を実施する事務である。									
効率性	評価結果	改善の余地がない									
		・保険者として健康保険法等に基づき法定給付（療養の給付、療養費、高額療養費、出産育児一時金及び葬祭費の支給等）を実施する事務である。									

事務事業の概要	事務事業名	保健事業（国保）			担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業				
	会計	国民健康保険事業勘定特別会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	7006		
	予算科目	款	5 保健事業費			長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項					施策目標	2	健康・医療				
		目					基本施策	1	健康づくりと疾病予防				
取組方針	5	特定健診・特定保健指導の充実											
事業概要	特定健康診査等事業や保健事業を通して、被保険者の健康寿命を延伸できるようにする事業												
事務事業を構成する細事業	①	特定健康診査等事業			⑤				⑨				
	②	保健事業			⑥				⑩				
	③				⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	特定健診受診率	%	目標	34	35.9	42	43.2	45.7	特定健診未受診者に対し、電話やハガキ等による受診勧奨を実施したことにより、受診率が向上した。			
				実績	35.9	38.2	40.7						
	<指標の計算方法>		特定健診受診者数÷特定健診対象者数										
	成果指標	特定保健指導率	%	目標	21.3	32.9	36.1	38	40			集団健診会場での特定保健指導の利用者が減少したが、個別特定健診受診者で特定保健指導の対象者を中心に訪問指導を行ったことで、保健指導利用者が増加し、全体としての指導率は維持できた。	
				実績	32.9	36.1	36						
	<指標の計算方法>		特定保健指導終了者数÷特定保健指導対象者数										
成果指標	未受療者受療勧奨による受療率	%	目標	63.3	63.3	70	71.5	72	受療勧奨対象者に対し、勧奨通知に加え電話や訪問による勧奨を行った結果、受療率は目標値を達成することができた。引き続き医療機関と連携することで、受療率を向上させる必要がある。予定通り実施することができた。				
			実績	63.3	69.7	71							
<指標の計算方法>		受療者数÷対象者数（糖尿病性腎症重症化予防事業）											
活動指標	医療費通知の通知回数	回	目標	6	6	6	6	6					
			実績	6	6	6							
<指標の計算方法>		医療費通知の通知回数											
コストの実績	R 5年度決算額 （単位：千円）			財源内訳									
	112,731			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	39,466			
事業の実績	①特定健康診査等事業 ②特定健康診査 ・対象者:11,739人 受診者:4,774人 受診率:40.7% （特定健診受診者内訳） 集団健診受診者:1,191人 個別健診受診者:3,292人 脳ドック検診の特定健診受診者:291人			③糖尿病性腎症重症化予防事業 ・受療勧奨 対象者:93人 受療者:66人(71.0%) ・保健指導 対象者:262人 利用者:31人(11.8%)			④生活習慣病重症化予防(高血糖かつ中性脂肪高値)の健康相談 対象者:302人 利用者:20人(6.6%)						
	⑤特定保健指導 ・対象者:408人 利用者:147人 利用率:36.0% （保健指導内訳） 動機付け支援:対象者313人 利用者105人(33.5%) 積極的支援 :対象者95人 利用者42人(44.2%)			⑥重複・多剤対策事業 対象者:620人 多剤解消者:129人 重複解消者:31人			⑦スマホドック事業 対象者:894人 申込者:151人 受診者:134人(15.0%)						
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・特定健康診査及び特定保健指導は、高齢者の医療の確保に関する法律に基づいて実施している。また、その他の保健事業についても、被保険者の健康を保持増進することが目的のため、妥当な事業である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・特定健康診査及び特定保健指導は、高齢者の医療の確保に関する法律に基づいて実施している。また、その他の保健事業についても、被保険者の健康を保持増進することが目的のため、有効な事業である。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・個別特定健康診査受診券印刷業務や令和6年度各種検診希望調査票通知作成業務を委託することにより、引き続き事務の効率化を図っている。												

国民健康保険直営診療施設勘定特別会計

[歳出]

事務事業の概要	事務事業名	一般管理事業（直診）			担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業		
	会計	国民健康保険直営診療施設勘定特別会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	186
	予算科目	款	1	施設費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1	施設管理費		施策目標	2	健康・医療			
		目	1	一般管理費		基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実			
事業概要	国民健康保険直営診療施設において適切な医療が提供できるよう、管理運営を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	一般管理事業			⑤					⑨	
	②				⑥					⑩	
	③				⑦					⑪	
	④				⑧					⑫	

指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	活動指標	診療日数	日	目標						利用実績から令和5年度から木曜日を診療を休診したため、診療日数は減少した。
			実績		243	241	185			
	<指標の計算方法>		診療日数							
	成果指標	受診者数	人	目標					地域住民の人口減少に伴い、年間延べ受診者数は減少傾向にある。	
			実績		1,532	1,336	1,123			
<指標の計算方法>		延べ受診者数								
成果指標	レセプト請求件数	件	目標					受診者数の減少のため、レセプト請求件数も減少傾向にある。		
		実績		1,370	1,206	1,062				
<指標の計算方法>		レセプト請求件数								
			目標							
			実績							
<指標の計算方法>										

コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
		20,318	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源

事業の実績	①一般管理事業 ・直営診療施設受診者数 1,028名（鞆淵診療所） 95名（細野診療所） ・レセプト請求件数 967件（鞆淵診療所） 95件（細野診療所） ・診療所通院バス運転委託料 高齢者などの交通弱者が鞆淵診療所へ来院できるように通院バスの運行を行う。（午前中最大4便運行） 【利用状況】 運行回数 453回 乗降人数 250人 ・管理運営委託料 鞆淵診療所指定管理事業者への管理運営委託料 17,285千円									

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・周辺に医療機関がない山間地（へき地）であり、民間の医療機関の参入・進出が見込めない地域であるため、直営診療施設での医療行為の提供は、妥当な事業である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない ・周辺に医療機関がない山間地（へき地）であり、民間の医療機関の参入・進出が見込めない地域であるため、直営診療施設での医療行為の提供は、有効な事業である。								
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・令和元年度から指定管理者制度を実施しており、運営の効率化及びコスト削減に取り組んでいる。								

事務事業の概要	事務事業名	診療施設再編事業（直診）			担当課	国保年金課		事業区分	ハード事業				
	会計	国民健康保険直営診療施設勘定特別会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度（R1～R7）		事業番号	1138		
	予算科目	款	1	施設費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心					
		項	1	施設管理費		政策目標	2	健康・医療					
		目	1	一般管理費		基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実					
取組方針	4	へき地医療体制の充実											
事業概要	機能性及び利便性が向上した診療所（施設）において、適切な医療が受診できるよう、鞆渕地区の公共施設（鞆渕出張所・鞆渕診療所・消防詰所）を複合施設などに再編する事業												
事務事業を構成する細事業	①	診療施設再編事業			⑤					⑨			
	②				⑥					⑩			
	③				⑦					⑪			
	④				⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	再編する診療施設数	施設	目標	1	1	1	1	1	出張所、診療所、消防器具庫の機能集約を目指す。令和7年度に事業を完了させるため、令和4年度から5年度にかけ造成工事を実施し、完了した。			
				実績	0	0	0						
	<指標の計算方法>		再編を行った診療施設数										
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 5年度決算額 （単位：千円）			財源内訳									
	18,629			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	29			
事業の実績	①診療施設再編事業 ・鞆渕地区複合施設建設造成工事 工事金額 18,628,860円 （面積比 出張所5、消防施設2、診療施設3）												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
			・鞆渕地区の公共施設で老朽化している出張所、消防施設及び診療施設を集約し再編することは、市民の利便性等を含めて妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
		・鞆渕地区の公共施設で老朽化している出張所、消防施設及び診療施設を集約し再編することは、市民の利便性等を含めて有効な事業である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない											
		・鞆渕地区の公共施設で老朽化している出張所、消防施設及び診療施設を集約し再編することは、施設管理のコスト削減に繋がる。											

後期高齢者医療特別会計

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																																																																								
1 - 1 - 1 後期高齢者医療保険料	国保年金課	736,125,000	729,350,365	◎後期高齢者医療保険料 現年度分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和5年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別徴収分</td> <td>444,931,100</td> <td>444,931,100</td> <td>100.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>普通徴収分</td> <td>286,778,600</td> <td>284,419,265</td> <td>99.2%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>731,709,700</td> <td>729,350,365</td> <td>99.7%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和4年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別徴収分</td> <td>430,597,500</td> <td>430,597,500</td> <td>100.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>普通徴収分</td> <td>264,322,300</td> <td>262,400,700</td> <td>99.3%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>694,919,800</td> <td>692,998,200</td> <td>99.7%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> ◎軽減被保険者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">被保険者別</th> <th colspan="4">被保険者数</th> </tr> <tr> <th>7割</th> <th>5割</th> <th>2割</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般</td> <td>4,805</td> <td>1,557</td> <td>1,340</td> <td>7,702</td> </tr> <tr> <td>元被扶養者</td> <td>683</td> <td>45</td> <td>56</td> <td>784</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>5,488</td> <td>1,602</td> <td>1,396</td> <td>8,486</td> </tr> </tbody> </table> 【新型コロナウイルス感染症の影響による減免】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>対象年度</th> <th>件数</th> <th>減免税額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>令和4年度分</td> <td>1件</td> <td>40,200</td> </tr> </tbody> </table>	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	特別徴収分	444,931,100	444,931,100	100.0%	—	—	普通徴収分	286,778,600	284,419,265	99.2%	—	—	合 計	731,709,700	729,350,365	99.7%	—	—	令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	特別徴収分	430,597,500	430,597,500	100.0%	—	—	普通徴収分	264,322,300	262,400,700	99.3%	—	—	合 計	694,919,800	692,998,200	99.7%	—	—	被保険者別	被保険者数				7割	5割	2割	計	一般	4,805	1,557	1,340	7,702	元被扶養者	683	45	56	784	合 計	5,488	1,602	1,396	8,486	年度	対象年度	件数	減免税額	令和5年度	—	—	—	令和4年度	令和4年度分	1件	40,200
		令和5年度	調定額	収入済額					収納率	不納欠損																																																																																		
額	件数																																																																																											
特別徴収分	444,931,100	444,931,100	100.0%	—	—																																																																																							
普通徴収分	286,778,600	284,419,265	99.2%	—	—																																																																																							
合 計	731,709,700	729,350,365	99.7%	—	—																																																																																							
令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																																								
				額	件数																																																																																							
特別徴収分	430,597,500	430,597,500	100.0%	—	—																																																																																							
普通徴収分	264,322,300	262,400,700	99.3%	—	—																																																																																							
合 計	694,919,800	692,998,200	99.7%	—	—																																																																																							
被保険者別	被保険者数																																																																																											
	7割	5割	2割	計																																																																																								
一般	4,805	1,557	1,340	7,702																																																																																								
元被扶養者	683	45	56	784																																																																																								
合 計	5,488	1,602	1,396	8,486																																																																																								
年度	対象年度	件数	減免税額																																																																																									
令和5年度	—	—	—																																																																																									
令和4年度	令和4年度分	1件	40,200																																																																																									
		1,740,000	2,504,032	◎後期高齢者医療保険料 滞納繰越分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>3,260,813</td> <td>2,504,032</td> <td>76.8%</td> <td>91,700</td> <td>8件</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>3,613,300</td> <td>2,319,487</td> <td>64.2%</td> <td>147,400</td> <td>18件</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和5年度	3,260,813	2,504,032	76.8%	91,700	8件	令和4年度	3,613,300	2,319,487	64.2%	147,400	18件																																																																				
年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																																								
				額	件数																																																																																							
令和5年度	3,260,813	2,504,032	76.8%	91,700	8件																																																																																							
令和4年度	3,613,300	2,319,487	64.2%	147,400	18件																																																																																							

[歳出]

事務事業の概要	事務事業名		一般管理事業（後期）			担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業		
	会計		後期高齢者医療特別会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	391
	予算科目	款	1 総務費		長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心					
		項	1 総務管理費			施策目標	2 健康・医療					
		目	1 一般管理費			基本施策	2 地域医療体制・医療保険制度の充実					
事業概要		後期高齢者医療制度に基づき、被保険者が医療保険を利用できるよう、受付等の業務を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①		一般管理事業			⑤			⑨			
	②					⑥			⑩			
	③					⑦			⑪			
	④					⑧			⑫			

指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	活動指標	被保険者数	人	目標						団塊の世代が順次75歳に到達し、被保険者数は増加している。	
			実績	10,501	10,847	11,239					
	<指標の計算方法>		紀の川市の被保険者数（年度末）								
	活動指標	被保険者証（新規）送付件数	件	目標						75歳年齢到達者の増加に伴い、被保険者証の送付件数は増加している。	
			実績	895	1,115	1,146					
<指標の計算方法>		新規取得の被保険者証送付件数									
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 5年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
	4,741		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
								4,741

事業の実績	①一般管理事業 ・後期高齢者医療の保険者は和歌山県後期高齢者医療広域連合であるが、市は被保険者証や減額証・限度証の年次更新、受付業務に係る各種通知等の発送を行っている。					
	②郵送件数					
	・被保険者証(更新)郵送	10,909通				
	・被保険者証(新規)郵送	1,146通				
	・減額証・限度証(更新)郵送	2,051通				
	・高額介護合算通知書郵送	892通				

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・高齢者の医療の確保に関する法律に規定する後期高齢者医療制度に関する事務であり、和歌山県後期高齢者医療広域連合規約及び和歌山県後期高齢者医療広域連合計画に規定のある市町村事務で、高齢者の医療を確保するために実施する事業である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
・高齢者の医療の確保に関する法律に規定する後期高齢者医療制度に関する事務であり、和歌山県後期高齢者医療広域連合規約及び和歌山県後期高齢者医療広域連合計画に規定のある市町村事務で、高齢者の医療を確保するために実施する事業である。				
効率性	評価結果	改善の余地がない		
	・被保険者証や減額証・限度証は和歌山県後期高齢者医療広域連合から封入封緘された状態で納品されており、事業効率の改善については余地がない状況である。			

事務事業の概要	事務事業名		徴収事業（後期）		担当課	国保年金課			事業区分	ソフト事業		
	会計		後期高齢者医療特別会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	392
	予算科目	款	1 総務費			長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	2 徴収費				施策目標	2	健康・医療			
目		1 徴収費			基本施策		2	地域医療体制・医療保険制度の充実				
事業概要		後期高齢者医療制度に基づき、保険料徴収等の業務を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	徴収事業			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	成果指標	現年度分保険料収納率	%	目標	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	収納率は高水準を維持している。		
				実績	99.7	99.7						
	<指標の計算方法>		現年度保険料収納率									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,771			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	2	一般財源	3,769	
事業の実績	①徴収事業 ・後期高齢者医療の保険者は和歌山県後期高齢者医療広域連合であるが、市は保険料の徴収を行っている。 ◎保険料の納付書、督促状等の発送 ・当初額決定通知書郵送 11,045通 ・督促状郵送 1,199通 ・納付済証明書郵送 3,858通 ・更正通知郵送 1,669通 ◎保険料徴収関係件数 ・口座振替手数料 8,721件 ・コンビニ収納手数料 3,718件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・高齢者の医療の確保に関する法律に規定する後期高齢者医療制度に関する事務であり、和歌山県後期高齢者医療広域連合規約及び和歌山県後期高齢者医療広域連合計画に規定のある市町村事務で、高齢者の医療を確保するために実施する事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・高齢者の医療の確保に関する法律に規定する後期高齢者医療制度に関する事務であり、和歌山県後期高齢者医療広域連合規約及び和歌山県後期高齢者医療広域連合計画に規定のある市町村事務で、高齢者の医療を確保するために実施する事業である。										
効率性	評価結果	改善の余地がない										
		・大量印刷物（当初額決定通知書等）の印刷、封入などを外部委託しており、事務効率の改善については、余地がない状況である。										

事務事業の概要	事務事業名	保健事業（後期）		担当課	国保年金課			事業区分	ソフト事業		
	会計	後期高齢者医療特別会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	428	
	予算科目	款	3	保健事業費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1	保健事業費		施策目標	2	健康・医療			
		目	1	保健事業費		基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実			
取組方針	9	その他									
事業概要	脳ドックなどの保健事業を通じて、高齢者の健康維持、疾病を早期発見し、高齢者の健康寿命を延伸するための事業										
事務事業を構成する細事業	①	保健事業			⑤				⑨		
	②				⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析	
	成果指標	脳ドック検診の受診者数	人	目標	30	50	80	90	90	令和5年度は、脳ドック検診当選者が全員受診した。なお、令和4年度から受診者数が増加した理由は、ニーズが高いことから助成の承認件数を増加したためである。	
				実績	29	49	84				
	<指標の計算方法>		脳ドック検診の受診者数								
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
3,475								1,240	2,235		
事業の実績	①保健事業 ②被保険者の脳ドック検診に要した費用の一部を助成 申込者：163人 承認者：84人 受診者：84人（100%）										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・脳ドック助成は、脳血管疾患等の発症又は進行を防止することによる高齢者の健康保持のために、妥当な事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・脳ドック助成は、脳血管疾患等の発症又は進行を防止することによる高齢者の健康保持のために、有効な事業である。 ・毎年、多数の脳ドック検診申込者があり、また今後の被保険者数の増加を考慮をして、関係医療機関との調整を図りながら助成対象者数の増加を検討する必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・脳ドック助成対象者の募集、抽選をいずれも国保被保険者分と同時に行うことで、事業を効率的に行っている。事業効率の改善については余地がない状況である。										

介護保険事業勘定特別会計

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																																																																																																
1-1-1 第1号被保険者保険料	高齢介護課	1,414,289,000	1,464,960,382	<p>◎介護保険料段階別人数（令和6年3月末現在） ・65歳以上の方の保険料は、所得段階によって分かれます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>所得段階</th> <th>被保険者数</th> <th>所得段階</th> <th>被保険者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1段階</td> <td>3,652</td> <td>第7段階</td> <td>2,767</td> </tr> <tr> <td>第2段階</td> <td>1,830</td> <td>第8段階</td> <td>1,110</td> </tr> <tr> <td>第3段階</td> <td>1,604</td> <td>第9段階</td> <td>543</td> </tr> <tr> <td>第4段階</td> <td>2,456</td> <td>第10段階</td> <td>212</td> </tr> <tr> <td>第5段階</td> <td>2,303</td> <td>第11段階</td> <td>180</td> </tr> <tr> <td>第6段階</td> <td>3,572</td> <td>合計</td> <td>20,229</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎介護保険料 現年度分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和5年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別徴収分</td> <td>1,338,177,500</td> <td>1,338,177,500</td> <td>100.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>普通徴収分</td> <td>131,481,300</td> <td>126,782,882</td> <td>96.4%</td> <td>900</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,469,658,800</td> <td>1,464,960,382</td> <td>99.7%</td> <td>900</td> <td>1件</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和4年度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和4年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別徴収分</td> <td>1,344,098,400</td> <td>1,344,098,400</td> <td>100.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>普通徴収分</td> <td>119,786,600</td> <td>113,651,438</td> <td>94.9%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,463,885,000</td> <td>1,457,749,838</td> <td>99.6%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>【新型コロナウイルス感染症の影響による減免】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>対象年度</th> <th>件数</th> <th>減免税額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>令和4年度分</td> <td>2件</td> <td>78,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎介護保険料 滞納繰越分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>9,459,862</td> <td>5,138,231</td> <td>54.3%</td> <td>1,686,436</td> <td>42件</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>13,363,364</td> <td>6,489,622</td> <td>48.6%</td> <td>3,486,042</td> <td>74件</td> </tr> </tbody> </table>	所得段階	被保険者数	所得段階	被保険者数	第1段階	3,652	第7段階	2,767	第2段階	1,830	第8段階	1,110	第3段階	1,604	第9段階	543	第4段階	2,456	第10段階	212	第5段階	2,303	第11段階	180	第6段階	3,572	合計	20,229	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	特別徴収分	1,338,177,500	1,338,177,500	100.0%	—	—	普通徴収分	131,481,300	126,782,882	96.4%	900	1件	合計	1,469,658,800	1,464,960,382	99.7%	900	1件	令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	特別徴収分	1,344,098,400	1,344,098,400	100.0%	—	—	普通徴収分	119,786,600	113,651,438	94.9%	—	—	合計	1,463,885,000	1,457,749,838	99.6%	—	—	年度	対象年度	件数	減免税額	令和5年度	—	—	—	令和4年度	令和4年度分	2件	78,000	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和5年度	9,459,862	5,138,231	54.3%	1,686,436	42件	令和4年度	13,363,364	6,489,622	48.6%	3,486,042	74件
所得段階	被保険者数	所得段階	被保険者数																																																																																																																	
第1段階	3,652	第7段階	2,767																																																																																																																	
第2段階	1,830	第8段階	1,110																																																																																																																	
第3段階	1,604	第9段階	543																																																																																																																	
第4段階	2,456	第10段階	212																																																																																																																	
第5段階	2,303	第11段階	180																																																																																																																	
第6段階	3,572	合計	20,229																																																																																																																	
令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																																																																
				額	件数																																																																																																															
特別徴収分	1,338,177,500	1,338,177,500	100.0%	—	—																																																																																																															
普通徴収分	131,481,300	126,782,882	96.4%	900	1件																																																																																																															
合計	1,469,658,800	1,464,960,382	99.7%	900	1件																																																																																																															
令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																																																																
				額	件数																																																																																																															
特別徴収分	1,344,098,400	1,344,098,400	100.0%	—	—																																																																																																															
普通徴収分	119,786,600	113,651,438	94.9%	—	—																																																																																																															
合計	1,463,885,000	1,457,749,838	99.6%	—	—																																																																																																															
年度	対象年度	件数	減免税額																																																																																																																	
令和5年度	—	—	—																																																																																																																	
令和4年度	令和4年度分	2件	78,000																																																																																																																	
年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																																																																
				額	件数																																																																																																															
令和5年度	9,459,862	5,138,231	54.3%	1,686,436	42件																																																																																																															
令和4年度	13,363,364	6,489,622	48.6%	3,486,042	74件																																																																																																															
		4,500,000	5,138,231																																																																																																																	

[歳出]

事務事業の概要	事務事業名	総務費（介護）		担当課	高齢介護課			事業区分	ソフト事業		
	会計	介護保険事業勘定特別会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	8001	
	予算科目	款	1	総務費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
						施策目標	3	福祉			
						基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進			
取組方針	4	介護保険制度の持続可能性の確保									
事業概要	介護保険制度に基づき、被保険者が介護保険サービスを利用できるよう管理運営を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	一般管理事業			⑤	介護保険事業計画策定事業			⑨		
	②	賦課徴収事業			⑥				⑩		
	③	介護認定審査会運営事業			⑦				⑪		
	④	認定調査事業			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析		
	成果指標	介護保険料収納率	目標	96.8	96.8	96.8	98.8	98.8	保険料収納率は計画値に比べて増加した。口座振替の推奨、コンビニ納付やバーコード決済への対応、適正な督促状の発送、滞納処分強化等により収納率が増加した。		
			実績	98.9	99.1	99.4					
	<指標の計算方法>		特別徴収・普通徴収・滞納繰越分の合計収納率								
	活動指標	要介護認定者数	目標	5,135	4,660	4,703	4,488	4,510	要介護認定者数は、目標値と比べて93.9%とほぼ目標値どおりであった。被保険者数・認定者数共にここ数年減少傾向にあり、認定率も低下傾向である。県平均とほぼ同じであるが、全国平均よりは高い。なお、新型コロナウイルス感染症の流行以降、要介護度は重篤化傾向にある。		
			実績	4,507	4,436	4,354					
	<指標の計算方法>		各年度末認定者数								
	活動指標	介護認定審査会	目標	190	190	190	190	190	「新型コロナウイルス感染症に係る要介護認定の臨時的な取扱い」を終了したことに伴い、通常の取扱いによる更新申請者が増加し、介護認定審査会の開催回数が増加した。今後も団塊世代の高齢化に伴い、認定申請数の増加が予測される。		
			実績	118	108	149					
	<指標の計算方法>		認定審査会の開催回数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 5年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	107,421			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			107,421								
事業の実績	①一般管理事業 被保険者の状況（令和6年3月末現在） 65歳以上75歳未満 9,016人 75歳以上85歳未満 7,441人 85歳以上 3,772人 うち外国人被保険者 36人 うち住所地特例被保険者 126人 合計 20,229人			<ul style="list-style-type: none"> 要介護（要支援）認定者数 <ul style="list-style-type: none"> 第1号被保険者 第2号被保険者 要支援1 562人 6人 要支援2 722人 8人 要介護1 744人 6人 要介護2 664人 7人 要介護3 640人 14人 要介護4 602人 6人 要介護5 358人 15人 小計 4,292人 62人 合計 4,354人 ④認定調査事業 認定調査件数 4,247件 ⑤介護保険事業計画策定事業 第9期介護保険事業計画（令和6～8年度） <ul style="list-style-type: none"> 策定委員数 16人 策定委員会実施回数 2回 策定委員会協議等内容 計画素案、サービス見込、保険料設定等 							
	②賦課徴収事業 ・介護保険料の過誤納による還付金 還付件数 264件										
	・介護保険料の過誤納による還付加算金 加算件数 20件										
	③介護認定審査会運営事業 ・介護認定審査会の開催 審査回数 149回 審査件数 4,558件										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・介護保険法等により市に義務付けられた事業であり、妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・指標の性質上、目標値は介護保険事業計画における計画値である。 ・介護保険財源を適切に確保し、公正な要介護認定を行い、介護保険制度の円滑かつ適正な運営を図ることで、適正な介護サービスを提供する事業である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	<ul style="list-style-type: none"> 認定業務の一部を委託し効率化を図っている。また年度により事務量の増減が発生する業務については会計年度任用職員を活用している。 DX等の活用や事務見直しを行いながら、事務効率化を図っていく必要がある。 										

事務事業の概要	事務事業名	保険給付費（介護）		担当課	高齢介護課			事業区分	ソフト事業			
	会計	介護保険事業勘定特別会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	8002		
	予算科目	款	項	目	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
						施策目標	3	福祉				
						基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進				
取組方針	4	介護保険制度の持続可能性の確保										
事業概要	介護保険制度に基づき、被保険者が介護保険サービスを利用できるよう管理運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	居宅介護（予防）サービス等給付事業			⑤	特定入所者介護（予防）サービス等事業			⑨			
	②	地域密着型介護（予防）サービス給付事業			⑥				⑩			
	③	施設介護サービス給付事業			⑦				⑪			
	④	高額介護（予防）サービス等事業			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	第1号被保険者数	人	目標	19,992	19,998	20,023	20,229	20,192	第1号被保険者は、年度により増減はあるが20,200人前後で推移している。今後、減少に転じ、令和17（2035）年には20,000人を下回ると推計している。なお、令和5年度は社会要因・自然要因ともに増となり、全体として増加であった。		
				実績	20,242	20,135	20,229					
	<指標の計算方法>		65歳以上・住所地特例者含む（目標値は計画値）									
	活動指標	居宅介護（介護予防）サービス受給者数	人	目標	31,775	28,260	27,852	28,188	28,152			令和4年度と比較し、訪問看護や短期入所療養介護が増加し、全体として大きく増加した。新型コロナウイルス感染症により、介護予防が停滞し、介護度が重度化したことが要因と考えているが、介護が必要な人が適正な介護を受けていると分析している。
				実績	28,782	28,798	28,663					
	<指標の計算方法>		第1号・第2号被保険者合計（目標値は計画数値）									
	活動指標	施設介護サービス受給者数	件	目標	8,135	8,164	8,364	8,400	8,400	令和4年度と比較し、介護療養型医療施設を除き、全ての施設で増加となった。新型コロナウイルス感染症により、介護度が重度化し、在宅での生活が困難となったことが要因と考えているが、介護が必要な人が適正な介護を受けられていると分析している。		
				実績	8,133	8,160	8,460					
	<指標の計算方法>		第1号・第2号被保険者合計（目標値は計画数値）									
	活動指標	地域密着型介護（介護予防）サービス受給者数	件	目標	4,664	4,543	4,428	4,740	5,028			令和4年度と比較し、地域密着型通所介護等で減少し、全体としても減少となった。新型コロナウイルス感染症により、在宅生活者が減少したことや感染を恐れ、通所介護サービス等の利用控えがあったことが要因と考えている。
				実績	4,659	4,536	4,380					
<指標の計算方法>		第1号・第2号被保険者合計（目標値は計画数値）										
コストの実績	R 5年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
	6,672,824			1,629,153	967,153			1,781,587	2,294,931			
事業の実績	①居宅介護（予防）サービス等給付事業 訪問介護サービスや通所介護サービスなど居宅において利用するサービスへの給付を行う 要支援者 4,747人 要介護者 23,916人 合計 28,663人			③施設介護サービス給付事業 介護保険施設において利用するサービスへの給付を行う 介護老人福祉施設 5,828人 介護老人保健施設 2,132人 介護療養型医療施設 17人 介護医療院 489人			⑤特定入所者介護（予防）サービス等事業 低所得者が施設利用したときに食費・居住費等の利用負担が限度額を超えた分への給付を行う 【食費】 介護老人福祉施設 3,689件 介護老人保健施設 1,063件 介護療養型医療施設 0件 介護医療院 247件 地域密着型介護老人福祉施設 198件 短期入所生活・療養介護 1,112件 【居住費】 介護老人福祉施設 3,748件 介護老人保健施設 1,069件 介護療養型医療施設 0件 介護医療院 265件 地域密着型介護老人福祉施設 199件 短期入所生活・療養介護 1,147件					
	②地域密着型介護（予防）サービス給付事業 地域密着型事業所等を利用するサービスへの給付を行う 要支援者 5人 要介護者 4,375人 合計 4,380人			④高額介護（予防）サービス等事業 利用した介護サービス費用が基準を超えた分について利用者に給付を行う 高額介護（予防）サービス 13,221件 高額医療合算介護（予防）サービス 736件								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・介護保険法第3条の規定により、市が行う事業であり妥当である。 ・介護保険法の各規定に基づき、介護（予防）給付の対象者及びサービス給付費等は全国で同じである。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・介護保険法等により市に義務付けられた各事業であり、適正に実施している。 ・高齢者人口は微増であり、介護サービスの受給者や給付費は増加傾向である。今後も制度の持続性を図るため、介護サービスの質の向上に加え、介護給付費の適正化が求められている。 ・介護サービスを利用することで、利用者可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができる。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・介護保険法等関係法令に基づき市に実施を義務付けられた事業であり、給付に関する事務等について効率化を図り実施している。 ・制度の趣旨の普及やケアプラン点検等の介護給付費適正化事業を継続的に実施していく。											

事務事業の概要	事務事業名	地域支援事業費（介護）			担当課	高齢介護課		事業区分	ソフト事業			
	会計	介護保険事業勘定特別会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	8004	
	予算科目	款	項	目	長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心					
						施策目標	3 福祉					
						基本施策	2 高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進					
取組方針	4 介護保険制度の持続可能性の確保											
事業概要	被保険者が、要介護状態等になることを予防し、社会に参加しつつ、地域において自立した日常生活を営むことができるよう支援する事業											
事務事業を構成する細事業	① 介護予防・生活支援サービス事業			⑤ 地域リハビリテーション活動支援事業			⑨					
	② 介護予防ケアマネジメント事業			⑥ 介護予防把握事業			⑩					
	③ 介護予防普及啓発事業			⑦ 包括的支援事業			⑪					
	④ 地域介護予防活動支援事業			⑧ 任意事業			⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	指標の分析			
	活動指標	要介護（要支援）認定率	目標	23	23	23	23	23	新型コロナウイルス感染症に係る要介護認定の臨時的な取扱いが終了したが、認定率は低下傾向にある。			
			実績	21.9	21.7	21.2						
	<指標の計算方法>		要介護（要支援）認定者÷第1号被保険者数（65歳以上）									
	活動指標	紀の川歩（てくてく）体操活動拠点数	目標	105	115	120	120	120	新型コロナウイルス感染症拡大防止により活動を休止していた体操拠点が活動再開できず廃止となった。			
			実績	93	91	86						
<指標の計算方法>		紀の川歩（てくてく）体操活動拠点数										
活動指標	フレイルチェック実施回数	目標	125	135	145	60	60	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りながら、体操活動拠点やイベントでの実施を再開した。				
		実績	0	23	53							
<指標の計算方法>		紀の川歩（てくてく）体操活動拠点等においてフレイルチェックを実施した回数										
活動指標	認知症サポーター数	目標	4,700	5,200	5,700	6,200	6,700	市民や市内中学校・団体など幅広い年代の講座を実施し、サポーター数を増やすことが出来た。				
		実績	4,669	5,497	6,193							
<指標の計算方法>		認知症サポーター養成講座参加者累計人数										
コストの実績	R 5年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
	312,743			国庫支出金	114,728	県支出金	50,229	地方債	繰入金	61,756	その他	86,030
事業の実績	①介護予防・生活支援サービス事業			⑤地域リハビリテーション活動支援事業				⑧任意事業				
	・訪問型サービス給付…1,821件			・てくてく体操延べ参加者…2,648人				紙おむつ購入助成事業の実施				
	・通所型サービス給付…3,347件			・専門職（PT等）派遣回数…322回				・交付数（要介護1・2）…226人				
	・高額介護予防サービス費給付…102件			・フレイルサポーター登録者数…82人				・交付数（要介護3・4・5）…378人				
・事業対象者数（年度末）…75人							家族介護交流事業の実施					
②介護予防ケアマネジメント事業…2,295件			⑥介護予防把握事業				・実施回数…37回/参加人数…44人					
			・隔年につき実施なし				徘徊高齢者対策事業の実施					
③介護予防普及啓発事業			⑦包括的支援事業				・高齢者徘徊早期発見ネットワーク登録者数…85人					
・予防教室等開催数…219回			地域包括支援センターの運営				・GPS利用者数…15人					
・予防教室等延べ参加人数…3,036人			・総合相談支援事業…5,138件				高齢者見守り事業の実施					
・通所型予防教室開催数、延べ参加人数…4箇所/年39回開催、432人			・権利擁護事業…1,250件				・利用者…月平均109人（延回数10,611回）					
④地域介護予防活動支援事業			・包括・継続的ケアマネジメント支援事業…272件				家族介護慰労事業の実施					
・介護予防自主活動支援…32箇所/89回/延べ829人			・介護予防ケアマネジメント事業…6,818件				・慰労金支給人数…0人					
・フォローアップ教室開催数、実参加人数…5箇所/年5回開催、100人			認知症施策推進事業の実施				介護給付費適正化事業の実施					
			医療と介護の連携推進事業の実施				成年後見人制度利用支援事業の実施					
			自立支援、重度化防止推進事業の実施				・市長申立…1件					
							・後見人報酬助成…4人					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・介護保険法等により市に義務付けられた事業であるため妥当である。 ・令和6年1月認知症基本法施行による、認知症に関する正しい知識及び認知症の人に関する正しい理解を深めることができるよう認知症サポーター育成は妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・介護保険法等により市に義務付けられた事業であるため適正に実施している。 ・リハビリ専門職と連携し考案した「紀の川歩（てくてく）体操」を市内各活動拠点で実施し、自主的活動への拠点創設・継続に対する支援を行っている。また活動により要介護状態への移行を遅らせることで、自立支援・重度化防止に有効であり、自立状態を継続できる地域資源として周知し、活用を促進している。 ・高齢者等の身体活動等の低下を防ぐため、広報等により自発的なフレイル予防を中心に積極的な情報発信を行い、有効性を高めた。 ・認知症基本法施行において基本的施策である認知症の人に関する理解の増進として、認知症サポーター養成講座は有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・介護保険法等により市に義務付けられた事業であるため適正に実施している。 ・要介護（要支援）認定率の低下と介護保険給付費の抑制を目指し、地域ボランティア（フレイルサポーター等）を育成することで、ボランティアを中心に市民自ら主体となり、積極的に介護予防、健康づくり活動を実践しているため効率性は高い。											

財産区特別会計

[歳入・歳出]

(単位：円)

財産区名	担当課	歳入総額	歳出総額	事業等実施内容																
池田財産区	林務課	9,864,142	4,776,951	<p>◎ 歳入の主なものとは土地賃貸料及び採掘権収入。歳出では財産区台帳整理のための一般会計への繰出金、地域活動事業補助金及び災害復旧のための委託料です。主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人（ほか取締役1人、看守人1人）</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数（その他活動数）</td> <td>4回管理会開催（巡視2回）</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>387件</td> </tr> <tr> <td>保有面積（ha）</td> <td>867.9</td> </tr> <tr> <td>地域活動事業補助金</td> <td>神通集会所軒天・雨戸修繕工事、東三谷集会所トイレ改修工事、二ノ谷水路災害応急工事、東・西宝入池浚渫工事への補助金</td> </tr> <tr> <td>有害鳥獣防除補助金</td> <td>猟友会紀の川市総合分会打田分会への補助金</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人（ほか取締役1人、看守人1人）	管理会開催数（その他活動数）	4回管理会開催（巡視2回）	財産貸付件数	387件	保有面積（ha）	867.9	地域活動事業補助金	神通集会所軒天・雨戸修繕工事、東三谷集会所トイレ改修工事、二ノ谷水路災害応急工事、東・西宝入池浚渫工事への補助金	有害鳥獣防除補助金	猟友会紀の川市総合分会打田分会への補助金		
事業等	内 容																			
管理会委員数	7人（ほか取締役1人、看守人1人）																			
管理会開催数（その他活動数）	4回管理会開催（巡視2回）																			
財産貸付件数	387件																			
保有面積（ha）	867.9																			
地域活動事業補助金	神通集会所軒天・雨戸修繕工事、東三谷集会所トイレ改修工事、二ノ谷水路災害応急工事、東・西宝入池浚渫工事への補助金																			
有害鳥獣防除補助金	猟友会紀の川市総合分会打田分会への補助金																			
田中財産区	林務課	4,428,324	2,220,597	<p>◎ 歳入の主なものとは土地賃貸料。歳出では財産区台帳整理のための一般会計への繰出金、森林保育委託費及び災害復旧のための委託料です。主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人（ほか取締役1人、看守人1人）</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数（その他活動数）</td> <td>3回管理会開催（巡視2回）</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>82件</td> </tr> <tr> <td>保有面積（ha）</td> <td>250.0</td> </tr> <tr> <td>森林保育委託事業</td> <td>伐採・下刈り業務</td> </tr> <tr> <td>地域活動事業補助金</td> <td>小田集会所耐震診断・外壁等改修工事、赤尾集会所床等改修工事、地区集会所「駅前会館」集会室天井張替工事への補助金</td> </tr> <tr> <td>有害鳥獣防除補助金</td> <td>猟友会紀の川市総合分会打田分会への補助金</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人（ほか取締役1人、看守人1人）	管理会開催数（その他活動数）	3回管理会開催（巡視2回）	財産貸付件数	82件	保有面積（ha）	250.0	森林保育委託事業	伐採・下刈り業務	地域活動事業補助金	小田集会所耐震診断・外壁等改修工事、赤尾集会所床等改修工事、地区集会所「駅前会館」集会室天井張替工事への補助金	有害鳥獣防除補助金	猟友会紀の川市総合分会打田分会への補助金
事業等	内 容																			
管理会委員数	7人（ほか取締役1人、看守人1人）																			
管理会開催数（その他活動数）	3回管理会開催（巡視2回）																			
財産貸付件数	82件																			
保有面積（ha）	250.0																			
森林保育委託事業	伐採・下刈り業務																			
地域活動事業補助金	小田集会所耐震診断・外壁等改修工事、赤尾集会所床等改修工事、地区集会所「駅前会館」集会室天井張替工事への補助金																			
有害鳥獣防除補助金	猟友会紀の川市総合分会打田分会への補助金																			
長田竜門財産区	林務課	864,575	705,577	<p>◎ 歳入の主なものとは土地賃貸料。歳出では地域活動事業補助金です。主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数（その他活動数）</td> <td>2回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>35件</td> </tr> <tr> <td>保有面積（ha）</td> <td>114.7</td> </tr> <tr> <td>地域活動事業補助金</td> <td>長田竜門6ヶ字区有山管理事業への補助金</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	6人	管理会開催数（その他活動数）	2回管理会開催	財産貸付件数	35件	保有面積（ha）	114.7	地域活動事業補助金	長田竜門6ヶ字区有山管理事業への補助金				
事業等	内 容																			
管理会委員数	6人																			
管理会開催数（その他活動数）	2回管理会開催																			
財産貸付件数	35件																			
保有面積（ha）	114.7																			
地域活動事業補助金	長田竜門6ヶ字区有山管理事業への補助金																			
竜門財産区	林務課	95,183	30,332	<p>◎ 主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数（その他活動数）</td> <td>2回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>6件</td> </tr> <tr> <td>保有面積（ha）</td> <td>192.2</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数（その他活動数）	2回管理会開催	財産貸付件数	6件	保有面積（ha）	192.2						
事業等	内 容																			
管理会委員数	7人																			
管理会開催数（その他活動数）	2回管理会開催																			
財産貸付件数	6件																			
保有面積（ha）	192.2																			
南北志野財産区	林務課	391,144	29,066	<p>◎ 主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数（その他活動数）</td> <td>2回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>27件</td> </tr> <tr> <td>保有面積（ha）</td> <td>61.8</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数（その他活動数）	2回管理会開催	財産貸付件数	27件	保有面積（ha）	61.8						
事業等	内 容																			
管理会委員数	7人																			
管理会開催数（その他活動数）	2回管理会開催																			
財産貸付件数	27件																			
保有面積（ha）	61.8																			
飯盛財産区	林務課	820,266	303,318	<p>◎ 歳入の主なものとは財政調整基金繰入金及び立木等伐採料。歳出では地域活動事業補助金です。主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数（その他活動数）</td> <td>2回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>保有面積（ha）</td> <td>163.5</td> </tr> <tr> <td>雑草等刈取業務</td> <td>麻生津中草刈業務</td> </tr> <tr> <td>地域活動事業補助金</td> <td>飯盛山ハイキングコース案内看板設置への補助金</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	6人	管理会開催数（その他活動数）	2回管理会開催	財産貸付件数	2件	保有面積（ha）	163.5	雑草等刈取業務	麻生津中草刈業務	地域活動事業補助金	飯盛山ハイキングコース案内看板設置への補助金		
事業等	内 容																			
管理会委員数	6人																			
管理会開催数（その他活動数）	2回管理会開催																			
財産貸付件数	2件																			
保有面積（ha）	163.5																			
雑草等刈取業務	麻生津中草刈業務																			
地域活動事業補助金	飯盛山ハイキングコース案内看板設置への補助金																			
静川財産区	林務課	357,663	74,388	<p>◎ 主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数（その他活動数）</td> <td>3回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>8件</td> </tr> <tr> <td>保有面積（ha）</td> <td>45.0</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数（その他活動数）	3回管理会開催	財産貸付件数	8件	保有面積（ha）	45.0						
事業等	内 容																			
管理会委員数	7人																			
管理会開催数（その他活動数）	3回管理会開催																			
財産貸付件数	8件																			
保有面積（ha）	45.0																			

財産区名	担当課	歳入総額	歳出総額	事業等実施内容														
最上、神田、市場、元財産区	林務課	3,945,741	1,351,695	<p>◎歳入の主なものは財政調整基金繰入金。歳出の主なものは地域活動事業補助金です。主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数(その他活動数)</td> <td>2回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>保有面積(ha)</td> <td>187.5</td> </tr> <tr> <td>地域活動事業補助金</td> <td>三和公民館屋根外壁改修工事、鷹巣尾集落センター屋根外壁塗装工事への補助金</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数(その他活動数)	2回管理会開催	保有面積(ha)	187.5	地域活動事業補助金	三和公民館屋根外壁改修工事、鷹巣尾集落センター屋根外壁塗装工事への補助金				
事業等	内 容																	
管理会委員数	7人																	
管理会開催数(その他活動数)	2回管理会開催																	
保有面積(ha)	187.5																	
地域活動事業補助金	三和公民館屋根外壁改修工事、鷹巣尾集落センター屋根外壁塗装工事への補助金																	
調月財産区	林務課	844,618	330,260	<p>◎主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数(その他活動数)</td> <td>2回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>保有面積(ha)</td> <td>38.3</td> </tr> <tr> <td>地域活動事業補助金</td> <td>調月地域活性化事業への補助金</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数(その他活動数)	2回管理会開催	保有面積(ha)	38.3	地域活動事業補助金	調月地域活性化事業への補助金				
事業等	内 容																	
管理会委員数	7人																	
管理会開催数(その他活動数)	2回管理会開催																	
保有面積(ha)	38.3																	
地域活動事業補助金	調月地域活性化事業への補助金																	
丸栖財産区	林務課	930,283	557,456	<p>◎主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数(その他活動数)</td> <td>2回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>保有面積(ha)</td> <td>23.9</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数(その他活動数)	2回管理会開催	財産貸付件数	1件	保有面積(ha)	23.9				
事業等	内 容																	
管理会委員数	7人																	
管理会開催数(その他活動数)	2回管理会開催																	
財産貸付件数	1件																	
保有面積(ha)	23.9																	
平池財産区	林務課	1,298,574	863,634	<p>◎主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数(その他活動数)</td> <td>2回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>保有面積(ha)</td> <td>11.2</td> </tr> <tr> <td>雑草等刈取委託事業</td> <td>平池堤防草刈り</td> </tr> <tr> <td>神戸平池水利管理事業補助金</td> <td>平池ステンレス製電動油圧式自動点灯ゲート整備・調整、平池水路付近の廃棄物等撤去作業への補助金</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数(その他活動数)	2回管理会開催	財産貸付件数	1件	保有面積(ha)	11.2	雑草等刈取委託事業	平池堤防草刈り	神戸平池水利管理事業補助金	平池ステンレス製電動油圧式自動点灯ゲート整備・調整、平池水路付近の廃棄物等撤去作業への補助金
事業等	内 容																	
管理会委員数	7人																	
管理会開催数(その他活動数)	2回管理会開催																	
財産貸付件数	1件																	
保有面積(ha)	11.2																	
雑草等刈取委託事業	平池堤防草刈り																	
神戸平池水利管理事業補助金	平池ステンレス製電動油圧式自動点灯ゲート整備・調整、平池水路付近の廃棄物等撤去作業への補助金																	